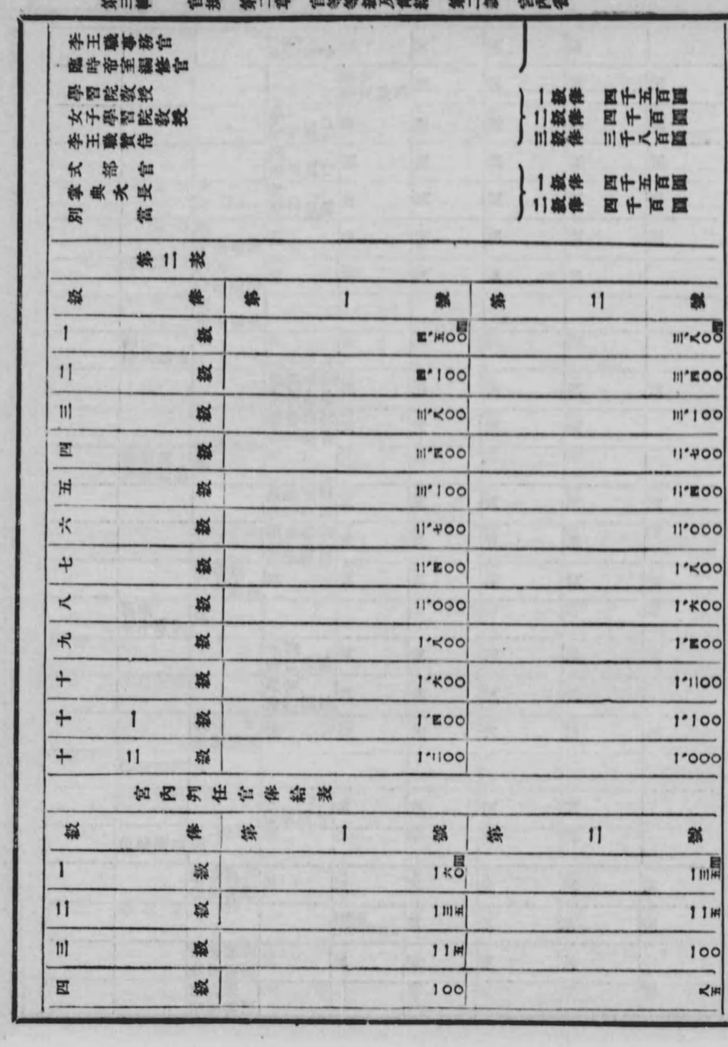

其ノ職務ヲ代理ス

第八條　會長、副會長、部長及副部長ノ任期ハ三年トス

第九條　學術研究會議ハ第一條ニ規定スル目的ヲ達スルニ必要ナル事項ヲ審議スル爲總會及部會ヲ開ク

總會ハ定期及臨時ニ之ヲ開ク

定期總會ハ毎年一回會長之ヲ招集シ臨時總會ハ會長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ會員十人以上ノ請求アリタルトキ會長之ヲ招集ス

部會ハ部長之ヲ招集シ隨時開會ス

第十條　學術研究會議ハ關係各大臣ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ開申ス

第十一條　學術研究會議ハ科學及其ノ應用ニ關スル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第十二條　學術研究會議ハ萬國學術研究會議ノ會員ト爲ル

前項ノ外學術研究會議ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於ケル學術上ノ團體ノ會員ト爲ルコトヲ得

第十三條　學術研究會議ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ會議ニ關スル規程ヲ定ム

第十四條　學術研究會議ハ毎年報告書ヲ文部大臣ニ提出スヘシ

第十五條　學術研究會議ニ主事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十六條　學術研究會議ニ書記專任二人ヲ置ク判任トス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

學術研究會議ノ成立ニ至ル迄ノ事務ハ帝國學士院之ヲ行フ

## ●教科書調査會官制

（大正九年四月二十八日勅令第百二十二號）

朕教科書調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

教科書調査會官制

第一條　教科書調査會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シテ小學校ノ教科用圖書ヲ調査ス

第二條　教科書調査會ハ會長一人、副會長一人及委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長、副會長、委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ副會長其ノ職務ヲ代理ス

會長及副會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　會長及副會長ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條　文部大臣ハ必要ニ依リ又ハ會長ノ請求アルトキハ文部省高等官其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第七條　教科書調査會ノ議事ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條　教科書調査會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ文部省高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　教科書調査會ニ書記ヲ置ク文部大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

教科用圖書調査委員會官制ハ之ヲ廢止ス

## ●臨時國語調査會官制

（大正十年六月二十五日勅令第二百八十八號）

朕臨時國語調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

臨時國語調査會官制

第一條　臨時國語調査會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ普通ニ使用スル國語ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條　臨時國語調査會ハ會長一人委員三十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長、委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理シ調査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　會長ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條　文部大臣ハ必要ニ依リ又ハ會長ノ請求アルトキハ文部省高等官其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第七條　臨時國語調査會ノ議事ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條　臨時國語調査會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ文部部内ノ高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　臨時國語調査會ニ書記ヲ置ク文部大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●宗教制度調査會官制

（大正十五年五月十三日勅令第百十六號）

朕宗教制度調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

宗教制度調査會官制

第一條　宗教制度調査會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應シテ宗教制度ニ關スル重要ノ事項ヲ調査審議ス

宗教制度調査會ハ宗教制度ニ關スル重要ノ事項ニ付文部大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條　宗教制度調査會ハ會長一人及委員四十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ統理シ會議ノ議決ヲ文部大臣ニ具申ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　會長ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條　文部大臣ハ必要ニ依リ又ハ宗教制度調査會ノ要求アルトキハ文部省高等官其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第七條　宗教制度調査會ノ議事ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條　宗教制度調査會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　宗教制度調査會ニ書記ヲ置ク文部大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●古社寺保存會規則

（明治三十年十一月六日勅令第四百六號　改正　明治四二年第一五七號　大正二年第一四八號）

朕古社寺保存會規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

古社寺保存會規則

第一條　古社寺保存會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ古社寺保存法第二條及第四條ニ關スル事項其ノ他古社寺保存ニ關スル事項ニ付文部大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　古社寺保存會ハ古社寺保存ニ關スル事項ニ付文部大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　古社寺保存會ハ會務整理ノ爲規則ヲ議定シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　古社寺保存會ハ會長一人委員二十五

人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第六條　會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

第七條　委員及臨時委員ハ官吏又ハ學識若ハ經驗アル者ノ中ニ就キ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第八條　古社寺保存會ニ幹事一人ヲ置キ文部省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第九條　會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ文部大臣ニ具申ス

第十條　會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第十一條　會長委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十二條　古社寺保存會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ハ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十三條　書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十四條　文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ委員又ハ其ノ他ノ者ヲシテ古社寺保存ニ關スル諸般ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

## ●學校衛生調査會官制

（大正十一年五月四日勅令第二百四十八號）

朕學校衛生調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

學校衛生調査會官制

第一條　學校衛生調査會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シテ學校衛生ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條　學校衛生調査會ハ會長一人及委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長、委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理シ調査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　會長ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條　文部大臣ハ必要ニ依リ又ハ會長ノ請求アルトキハ文部省高等官其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第七條　學校衛生調査會ノ議事ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條　學校衛生調査會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ文部省高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　學校衛生調査會ニ書記ヲ置ク文部大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●教員檢定委員會官制

（明治三十三年三月三十一日勅令第百三十五號　改正　明治四〇年第二八二號　大正七年第二二八號、八年第三四四號、九年第二九六號、一一年第一〇號、第二六六號、一二年第二二六號、一三年第三六一號）

朕教員檢定委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

教員檢定委員會官制

第一條　教員檢定委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ教員檢定ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條　教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　會長　一人
一　常任委員
一　臨時委員

第三條　會長、常任委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス

第四條　會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ檢定ノ成績ヲ文部大臣ニ報告ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指命シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第五條　常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第六條　削除

第七條　臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ノ事ヲ掌ル

第七條ノ二　教員檢定委員會ニ部ヲ置キ常任委員及臨時委員ヲ之ニ分屬セシム

第八條　教員檢定委員會ニ幹事三人ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ文部省高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　教員檢定委員會ニ書記專任三人ヲ置ク判任トス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●醫師試驗委員官制

（大正五年九月二十一日勅令第二百十五號　改正　大正六年第九三號、一三年第三五九號）

朕醫師試驗委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

醫師試驗委員官制

第一條　醫師試驗委員ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ醫師試驗ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條　醫師試驗委員ハ委員長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　委員長ハ文部次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　委員ノ任期ハ一年トス

高等官ニ非スシテ委員ヲ命セラレタル者ハ奏任官ノ待遇トス

第五條　委員長ハ醫師試驗ノ事務ヲ統理ス

第六條　委員ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ試驗ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　醫師試驗主事一人ヲ置キ文部大臣ノ奏請ニ依リ文部省高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ試驗ニ關スル庶務ヲ整理ス

第八條　醫師試驗書記專任二人ヲ置ク判任トス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　委員長、委員及主事ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ相當ノ手當ヲ給ス

附　則

本令ハ大正五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

醫術開業試驗委員官制ハ之ヲ廢止ス

## ●齒科醫師試驗委員官制

（大正五年九月二十一日勅令第二百十六號）

朕齒科醫師試驗委員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

齒科醫師試驗委員官制

第一條　齒科醫師試驗委員ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ齒科醫師試驗ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條　齒科醫師試驗委員ハ委員長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　委員長ハ文部次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　委員ノ任期ハ一年トス

高等官ニ非スシテ委員ヲ命セラレタル者ハ奏任官ノ待遇トス

第五條　委員長ハ齒科醫師試驗ノ事務ヲ統理ス

第六條　委員ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ試驗ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　齒科醫師試驗主事一人ヲ置キ文部大臣ノ奏請ニ依リ文部省高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ試驗ニ關スル庶務ヲ整理ス

第八條　齒科醫師試驗書記ヲ置キ文部屬又ハ醫師試驗書記ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　委員長、委員、主事及書記ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ相當ノ手當ヲ給ス

附　則

本令ハ大正五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●藥劑師試驗委員官制

（明治二十九年四月七日勅令第百十九號）
（改正 明治三二年第二一〇號、三六年第二七號 大正五年第二一七號）

朕藥劑師試驗委員官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

藥劑師試驗委員官制

第一條 藥劑師試驗委員ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ藥劑師試驗ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條 藥劑師試驗委員ハ委員長一人主事二人委員若干人ヲ以テ組織ス

藥劑師試驗委員長ハ文部次官ヲ以テ之ニ充テ主事ハ高等官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ニアラサル藥劑師試驗委員ノ待遇ハ奏任トス

第三條 藥劑師試驗主事及委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

藥劑師試驗委員ノ任期ハ四箇年トス但滿期ノ後再任セラルルコトヲ得

第四條 藥劑師試驗委員長ハ藥劑師試驗主事及委員ヲ監督シ其ノ事務ヲ掌理ス

第五條 藥劑師試驗委員長ハ藥劑師試驗委員ノ提出シタル試驗ノ成績ヲ査定シ及第シタル者ニ及第證書ヲ付與ス

及第證書ニハ藥劑師試驗委員長署名スヘシ

第六條 藥劑師試驗委員長ハ試驗了ルノ後其ノ成績及試驗事務ノ要領ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

第七條 藥劑師試驗主事ハ藥劑師試驗委員長ノ指揮ヲ承ケ試驗ニ關スル庶務ヲ整理ス

藥劑師試驗主事ハ藥劑師試驗委員長ノ命ヲ承ケ其ノ職務ヲ代理スルコトヲ得

第八條 藥劑師試驗委員ハ藥劑師試驗委員長ノ指揮ヲ承ケ學說試驗及實地試驗ヲ掌ル

第九條 藥劑師試驗委員長主事及委員ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當ヲ給ス

第十條 藥劑師試驗書記ヲ置キ文部屬若ハ醫師試驗書記ヲ以テ之ニ充ツ

藥劑師試驗書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

藥劑師試驗書記ニハ事務ノ繁簡ニ從ヒ手當ヲ給ス

附則

第十一條 從前ノ藥劑師試驗委員長及主事ハ別ニ辭令ヲ用ヰス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

第十二條 明治二十七年勅令第七十四號藥劑師試驗委員組織權限ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

## ●在外指定學校職員名稱待遇及任用解職ニ關スル件

（明治三十八年十一月七日勅令第二百三十號）
（改正 明治四三年第一八九號 大正一〇年第六一號、一三年第九七號）

朕在外指定學校職員ノ名稱待遇及任用解職ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、文部大臣副署）

第一條 在外指定學校中小學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ニハ左ノ職員ヲ置ク

學校長
訓導
准訓導

前項以外ノ在外指定學校ニハ左ノ職員ヲ置ク

學校長
教諭
助教諭
舍監
書記

在外指定學校ニ於テ必要アルトキハ職員トシテ前二項ニ掲ケタルモノ以外ノ教員ヲ置クコトヲ得

第二條 在外指定學校ノ學校長、教諭、助教諭、訓導、舍監及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但シ前條第二項ノ學校ノ學校長及教諭三名以内ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ外務大臣及文部大臣之ヲ奏薦シ内閣總理大臣之ヲ宣行シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ所管領事官之ヲ專行ス

第四條 大正六年勅令第七號ハ文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校職員ニ關シ之ヲ準用ス

第五條 本令ニ規定スルモノノ外在外指定學校職員ノ懲戒其ノ他進退ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣之ヲ定ム但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 本令中外務大臣、文部大臣及領事官ノ管掌ニ屬スル事項ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ關東長官之ヲ行フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第十四款 農林省及其所管

## ●農林省官制

（大正十四年三月三十一日勅令第三十六號）
（改正 大正一四年第三三〇號、一五年第七九號、第三四六號 昭和二年第一二三號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ農林省官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

農林省官制

第一條 農林大臣ハ農、林、水產、畜產及米穀法施行ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 農林省ニ左ノ五局ヲ置ク

農務局
山林局
水產局
畜產局
蠶絲局

第三條 農務局ニ於テハ農事、茶、副業、產業組合、產業組合中央金庫及米穀法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 山林局ニ於テハ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 水產局ニ於テハ水產ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 畜產局ニ於テハ家畜ノ改良增殖、家畜衞生其ノ他畜產ニ關スル事務及狩獵ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條ノ二 蠶絲局ニ於テハ蠶絲ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 農林大臣ハ必要ト認ムル地ニ米穀事務所ヲ設ケ米穀法施行ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

米穀事務所長ハ農林技師ヲ以テ之ニ充ツ

第七條ノ二 農林大臣ハ必要ト認ムル地ニ國營營林區事務所ヲ設ケ國營營林區ノ管理ニ關スル事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

國營營林區事務所長ハ農林技手ヲ以テ之ニ充ツ但シ農林大臣必要ト認ムルトキハ營林署長タル官吏ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第八條 農林書記官ハ專任十人ヲ以テ定員トス

第九條 農林省ニ農林事務官專任八人ヲ置ク

農林事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ農林省ノ事務ヲ掌ル

第十條 農林省ニ統計官專任二人ヲ置ク

統計官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ農林統計ヲ掌ル

第十一條 農林省ニ小作官專任三人ヲ置ク

小作官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條 農林省ニ山林事務官專任一人ヲ置ク

山林事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條 農林省ニ農林技師專任三十九人ヲ置ク

農林技師ハ奏任トス但シ内三人以内ヲ勅任ト爲スコトヲ得農林技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十四條 農林屬ハ專任九十二人ヲ以テ定員トス

第十五條 農林省ニ統計官補專任三人ヲ置ク

統計官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ農林統計ニ從事ス

第十六條 農林省ニ小作官補專任四人ヲ置ク

小作官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第十七條 農林省ニ農林技手專任五十二人ヲ置ク

農林技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●農林部内臨時職員設置制

（大正十四年三月三十一日勅令第三十九號）
（改正 大正一四年第一七九號、第三〇〇號、一五年第八〇號、第三三一號 昭和二年第一二四號）

朕農林部内臨時職員設置制ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

農林部内臨時職員設置制

第一條 農林省ニ左ノ職員ヲ置キ大臣官房ニ屬セシム

一 農林保險ノ調査ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官 專任一人
技師 專任一人
屬 專任一人

二 營繕工事ノ設計及監督ニ關スル事務ニ從事スル者
技手 專任二人

第二條 農林省ニ左ノ職員ヲ置キ農務局ニ屬セシム

一 農事ノ調査及獎勵ノ事務ニ從事スル者
事務官 專任一人
技手 專任一人

二 主要食糧農產物改良增殖ノ獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任三人
屬 專任一人
技手 專任二人

三 穀物檢査ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任一人
屬 專任一人
技手 專任一人

四 大規模開墾計畫ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任三人
屬 專任三人
技手 專任十九人

五 耕地整理及農業水利ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任十四人
屬 專任十二人
技手 專任二十八人

六 土地利用及開墾獎勵ノ事務ニ從事スル者
事務官 專任二人
技師 專任十六人
屬 專任八人
技手 專任二十七人

七 農業共同施設獎勵ノ事務ニ從事スル者
技師 專任一人
屬 專任一人
技手 專任二人

八 肥料ニ關スル調査及獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官 專任一人
技師 專任一人
屬 專任一人
技手 專任一人

九 農具ノ改良普及獎勵ノ事務ニ從事スル者
技師 專任一人
屬 專任一人
技手 專任一人

十 農用機械ノ管理及利用ニ關スル事務ニ從事スル者
技手 專任二人

十一 產業組合ノ事務ニ從事スル者
書記官 專任一人
事務官 專任一人
產業組合事務官 專任五人 奏任
屬 專任十二人

十二 副業獎勵ノ事務ニ從事スル者
事務官 專任二人
技師 專任二人
屬 專任四人
技手 專任四人

十三 米穀貯藏倉庫及附屬設備ノ建築ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任四人
屬 專任二人
技手 專任六人

第三條 農林省ニ左ノ職員ヲ置キ山林局ニ屬セシム

一 治水事業ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官 專任一人
技師 專任二人
屬 技手 專任六人

二 荒廢林地復舊事業ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任一人
屬 技手 專任三人

三 公有林野官行造林ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官 專任一人
技師 專任一人
屬 技手 專任九人

四 民有林利用改善ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任一人
技手 專任一人

五 水源涵養ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任一人
屬 技手 專任二人

第四條 農林省ニ左ノ職員ヲ置キ水產局ニ屬セシム

一 專用漁業免許處分ノ調査ニ從事スル者
事務官 專任一人
屬 專任一人

二 海外漁業調査ニ從事スル者
技師 專任三人
屬 技手 專任四人

三 膃肭獸保護ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任三人
屬 技手 專任十人

四 遠洋漁業獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任五人
屬 技手 專任六人

五 漁業組合ノ改良獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官 專任一人
屬 專任一人

六 漁港修築獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任二人
屬 技手 專任三人

七 水產冷藏獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任三人
屬 技手 專任四人

八 沿岸漁場整理ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官 專任一人
技師 專任四人
屬 技手 專任六人

九 漁業共同施設獎勵ノ事務ニ從事スル者
技師 專任一人
屬 技手 專任三人

十 漁業用發動機檢査ニ關スル事務ニ從事スル者
技手 專任四人

十一 水產增殖獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任一人
技手 專任二人

十二 漁業登錄ニ關スル事務ニ從事スル者
屬 專任四人

十三 溯河魚類ノ保護調査ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任二人
技手 專任二人

十四 遠洋漁場調査ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任一人

十五　下關漁港調査ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　専任一人
技手　専任二人

第五條　農林省ニ左ノ職員ヲ置キ畜産局ニ屬セシム
一　畜産増殖ノ事務ニ從事スル者
屬　専任一人
技手　専任二人
二　緬羊ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官　専任一人
技師　専任三人
屬　専任三人
技手　専任五人
三　畜産共同施設奬勵ノ事務ニ從事スル者
技師　専任一人
屬　専任二人
技手　専任四人
四　種牡牛馬補充及畜力利用奬勵ノ事務ニ從事スル者
技手　専任三人
五　畜産物販賣斡旋ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官　専任一人
屬　専任一人
技手　専任二人
六　鳥獸調査ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　専任一人
技手　専任三人
七　國營獵區ニ關スル事務ニ從事スル者
技手　専任一人
八　鷄卵増産奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　専任一人
屬　専任一人
技手　専任一人
九　家畜衞生思想ノ普及奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　専任一人
技手　専任一人
十　馬ノ傳染性貧血豫防ニ關スル事務ニ從事スル者

第五條ノ二　農林省ニ左ノ職員ヲ置キ蠶絲局ニ屬セシム
一　蠶絲業改良奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官　専任一人
技師　専任三人
屬　専任二人
技手　専任三人
二　繭倉庫及乾繭装置奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　専任二人
屬　専任一人
技手　専任四人

第五條ノ三　國營獵區ノ管理ニ關スル事務ニ從事セシムル爲農林省ニ左ノ職員ヲ置キ國營獵區事務所ニ屬セシム
技手　専任三人

第六條　農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク
一　主要食糧農産物ノ改良増殖ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　専任三人
技手　専任九人
二　農具ノ改良ニ關スル試驗研究ノ事務ニ從事スル者
技師　専任二人
技手　専任四人

第七條　繭ノ檢査及格付方法ノ研究ニ關スル事務ニ從事セシムル爲蠶業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク
技師　専任一人
技手　専任二人

第八條　生絲格付方法ノ調査ニ關スル事務ニ從事セシムル爲生絲檢査所ニ左ノ職員ヲ置ク
技師　専任一人
技手　専任二人

第九條　營林局ニ左ノ職員ヲ置ク
一　公有林野官行造林ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官　専任一人
技師　専任六人
屬
技手　専任五十二人
二　國有林野ノ境界測定ニ關スル圖簿ノ復舊ニ關スル事務ニ從事スル者
技手　専任四人

第十條　公有林野官行造林ニ關スル事務ニ從事セシムル爲營林署ニ左ノ職員ヲ置ク
技師　専任十人
屬
技手　専任三百二人

第十一條　治水事業ニ關スル事務ニ從事セシムル爲林業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク
技師　専任一人
屬
技手　専任十八人

附　則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
農商務部内臨時職員設置制ハ之ヲ廢止ス

## ●農事試驗場官制

（明治二十六年四月八日勅令第十八號）
改正　明治三六年第三九號、第二三五號、三八年第一〇〇號、四一年第二二七號、四二年第七五號、四三年第七八號、四四年第一〇一號、大正二年第一九七號、八年第二一二號、一〇年第一〇二號、一二年第六六號、第四三七號、一三年第三七五號、一四年第四一號

朕農事試驗場官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
（總理、農商務大臣副署）

農事試驗場官制

第一條　農事試驗場ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
一　農産ノ増殖改良ニ關スル試驗
二　土壤、肥料、農産物、農産製造品其ノ他農業上ニ關係アル物料ノ分析、鑑定及調査
三　種苗配布
四　講話

第二條　農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク
場長
技師　専任二十人　奏任（内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
技手　専任三十人　判任
屬　専任四人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス
第四條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル
第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス
第六條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

## ●蠶業試驗場官制

（大正三年六月十七日勅令第百十三號）
改正　大正五年第二六號、七年第八一號、八年第一五四號、一〇年第二七四號、一二年第三九號、第六七號、一三年第三七六號、一四年第四一號

朕蠶業試驗場官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
（總理、農商務大臣副署）

蠶業試驗場官制

第一條　蠶業試驗場ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
一　蠶絲業ニ關スル試驗及調査
二　原蠶種ノ製造及配付
三　桑ノ接穗及苗木ノ生産及配付
四　桑葉、繭、生絲、製絲用水其ノ他蠶絲業ニ關係アル物料ノ分析
五　講習及講話

第二條　蠶業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク
場長
技師　専任十九人　奏任（内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
技手　専任三十三人　判任
屬　専任七人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス
第四條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
第六條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第七條　農林大臣ハ必要ト認ムル地ニ蠶業試驗場支場又ハ其ノ出張所ヲ置キ本場ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
第八條　蠶業試驗場ノ位置竝支場及出張所ノ位置及名稱ハ農林大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
原蠶種製造所官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ原蠶種製造所技師、技手又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各蠶業試驗場技師、技手又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●生絲檢査所官制

（明治四十年五月一日勅令第百七十號）
改正　明治四三年第八一號、大正二年第二〇號、五年第九七號、六年第一八五號、七年第四五號、八年第一六八號、一〇年第二七五號、一二年第七〇號、一三年第三八五號、一四年第四一號、昭和二年第一七四號

朕生絲檢査所官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
（總理、農商務大臣副署）

生絲檢査所官制

第一條　生絲檢査所ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
一　生絲ニ關スル各種ノ檢査
二　生絲ノ檢査及貯藏ニ關スル各種ノ研究及調査
三　生絲ノ檢査及整理ニ關スル講習及講話
四　生絲ノ檢査ニ關スル器具、機械其ノ他ノ物件ノ檢査及鑑定
五　附屬生絲絹物倉庫ノ管理

第二條　生絲檢査所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長
技師　専任七人　奏任
技手　専任三十六人　判任
屬　専任六人　判任
所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ
所長タル技師ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第三條　所長ハ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
第四條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス
第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス
第六條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治二十九年勅令第一號ハ之ヲ廢止ス

## ●園藝試驗場官制

（大正十年四月十四日勅令第百三號）
改正　大正一三年第三八二號、一四年第四一號

朕園藝試驗場官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
（總理、農商務大臣副署）

園藝試驗場官制

第一條　園藝試驗場ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ園藝ニ關スル左ノ事務ヲ掌ル
一　試驗及調査
二　分析及鑑定
三　種苗及標本ノ配付
四　講習及講話

第二條　園藝試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク
場長
技師　専任三人　奏任
技手　専任六人　判任
屬　専任二人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス
第四條　技師及技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス
第五條　屬ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●茶業試驗場官制

（大正八年四月一日勅令第五十八號）
改正　大正九年第二九九號、一三年第三八〇號、一四年第四一號

朕茶業試驗場官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
（總理、農商務大臣副署）

茶業試驗場官制

第一條　茶業試驗場ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ茶業ニ關スル左ノ事務ヲ掌ル
一　試驗及調査
二　分析及鑑定
三　種苗及製茶標本ノ配付
四　講習及講話

第二條　茶業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク
場長
技師　専任三人　奏任
屬　専任二人　判任
技手　専任五人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス
第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●營林局署官制

（大正十三年十二月二十日勅令第三百六十六號）
改正　大正一四年第四一號、第二一三號、一五年第六一號、昭和二年第九〇號

朕營林局署官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム
（總理、農商務大臣副署）

營林局署官制

第一條　營林局ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ國有林野及公有林野官行造林地ノ施業計畫及土木竝國有林野ノ存廢區別、賣拂及境界查定ニ關スル事務ヲ掌リ且營林署ノ事務ヲ監督ス
營林署ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ國有林野及公有林野官行造林地ニ付前項ニ揭クルモノヲ除クノ外營林ノ實行ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　營林局ニ左ノ職員ヲ置ク
局長
事務官　専任十五人　奏任
技師　専任四十四人　奏任
山林事務官　専任五人　奏任
屬
技手　専任四百二十三人　判任
營林署ニ左ノ職員ヲ置ク
署長
技師　専任三十一人　奏任
山林事務官　専任九人　奏任
屬
技手　専任七百三十四人　判任
森林主事　専任千二百九十六人　判任
教習中ノ森林主事ハ定員外トス

第三條　局長ハ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全般ノ事務ヲ掌理ス
局長タル事務官及技師ハ通シテ二人ヲ限リ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第四條　事務官ハ局長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ掌ル
技師ハ局長又ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ技術ヲ掌ル
山林事務官ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ受ケ事務ヲ掌ル

第五條　署長ハ技師、山林事務官、屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ營林局長ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第六條　屬ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス
技手ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ營林及林野保護ノ事務ニ從事ス

第七條　營林局ノ名稱、位置及管轄區域ハ別表ニ依ル
營林署ノ名稱、位置及管轄區域ハ農林大臣之ヲ定ム
二以上ノ營林局又ハ二以上ノ營林署ニ亙リ經營スルコトヲ要スル事項ニ關シテハ營林局ニ付テハ農林大臣、營林署ニ付テハ營林局長其ノ管轄局署ヲ指定ス

第八條　特別ノ必要アルトキハ農林大臣ハ營林署ノ管掌ニ屬スル事務ノ一部ヲ營林局ヲシテ施行セシメ又ハ營林局ノ管掌ニ屬スル事務ノ一部ヲ營林署ヲシテ施行セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
林區署官制ハ之ヲ廢止ス
本令施行ノ際現ニ左ノ上欄ニ揭クル職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各其ノ相當下欄ニ揭クル官ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

| | |
|---|---|
| 大林區署山林事務官 | 營林局事務官 |

| | |
|---|---|
| 大林區署山林技師 | 營林局技師 |
| 大林區署山林副事務官 | 營林局山林事務官 |
| 大林區署山林屬 | 營林局屬 |
| 大林區署山林技手 | 營林局技手 |
| 小林區署又ハ公有林野官行造林署ノ山林技師 | 營林署技師 |
| 小林區署又ハ公有林野官行造林署ノ山林副事務官 | 營林署山林事務官 |
| 小林區署又ハ公有林野官行造林署ノ山林屬 | 營林署屬 |
| 小林區署又ハ公有林野官行造林署ノ山林技手 | 營林署技手 |
| 森林主事 | 森林主事 |

（別表）

營林局名稱位置及管轄區域表

| 名稱 | 位置 | 管轄區域 |
|---|---|---|
| 青森營林局 | 青森縣東津輕郡瀧內村 | 青森縣、岩手縣（二戸郡田山村ヲ除ク）、宮城縣（刈田郡七ケ宿村大字湯原ノ內字稲子山ヲ除ク）、秋田縣ノ內（鹿角郡七瀧村大字上向（物見澤ヲ除ク）、北秋田郡早口村大字早口字早口澤ノ內小字深川、丁簡澤、沼ノ澤、三ノ澤） |
| 秋田營林局 | 秋田縣秋田市 | 秋田縣（鹿角郡七瀧村大字上向（物見澤ヲ除ク）、北秋田郡早口村大字早口字早口澤ノ內小字深川、丁簡澤、沼ノ澤、三ノ澤ヲ除ク）、山形縣（西置賜郡小國本村、南小國村、北小國村、津川村ヲ除ク）、岩手縣ノ內（二戸郡田山村） |
| 東京營林局 | 東京府東京市 | 東京府、福島縣、栃木縣、茨城縣、千葉縣、神奈川縣、埼玉縣、群馬縣、宮城縣ノ內（刈田郡七ケ宿村大字湯原ノ內字稲子山）、山形縣ノ內（西置賜郡小國本村、南小國村、北小國村、津川村）、新潟縣、長野縣、山梨縣、靜岡縣 |
| 大阪營林局 | 大阪府大阪市 | 大阪府、富山縣、石川縣、福井縣、滋賀縣、京都府、岐阜縣、愛知縣、三重縣、奈良縣、和歌山縣、兵庫縣、岡山縣、廣島縣、山口縣、島根縣、鳥取縣 |
| 高知營林局 | 高知縣高知市 | 高知縣、德島縣、愛媛縣、香川縣 |
| 熊本營林局 | 熊本縣熊本市 | 熊本縣、福岡縣、大分縣、佐賀縣、長崎縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣 |

## ●林業試驗場官制

大正十一年三月三十一日
勅令第百五十號
改正　大正一二年第七五號、一三年第三八三號、一四年第四一號、一五年第三二九號

朕林業試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

林業試驗場官制

第一條　林業試驗場ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ林業ニ關スル左ノ事務ヲ掌ル

一　試驗及調査
二　分析及鑑定
三　種苗及標本ノ配付
四　講習及講話

第二條　林業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長
技師　專任十四人　奏任
屬　專任三人　判任
技手　專任九人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七條　農林大臣ハ必要ト認ムル地ニ林業試驗場ノ出張所ヲ置キ本場ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八條　林業試驗場ノ位置竝出張所ノ位置及名稱ハ農林大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●水產講習所官制

明治三十年三月二十五日
勅令第四十七號
改正　明治三一年第二八九號、三四年第四二號、三六年第二三六號、四〇年第一四七號、四一年第二八五號、四二年第七七號、四三年第八四號、第三五一號
大正二年第二〇四號、七年第一〇八號、八年第一三六號、九年第三三七號、一〇年第二二〇號、一一年第二四三號、第五一〇號、一二年第八八號、一三年第二二二號、第二五七號、第三六九號、一四年第四一號
昭和二年第八三號

朕水產講習所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

水產講習所官制

第一條　水產講習所ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ水產ノ傳習及試驗ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　水產講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師　專任二十人　奏任
教授　專任十四人　奏任
技手　專任十九人　判任
助教授　專任　八人　判任
屬　專任　九人　判任

第三條　所長ハ技師又ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　削除

第五條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第六條　教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第八條　助教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第九條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

## ●畜產試驗場官制

大正五年四月六日
勅令第九十一號
改正　大正八年第一一八號、九年第三〇一號、一〇年第一〇四號、一二年第七二號、一三年第三七七號、一四年第四一號

朕畜產試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

畜產試驗場官制

第一條　畜產試驗場ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　畜產ニ關スル試驗及調査
二　種畜、種禽、種卵及蜜蜂ノ配付及貸付竝種畜ノ種付
三　畜產ニ關スル分析及鑑定
四　畜產ニ關スル傳習
五　堆肥ニ關スル試驗及調査

第二條　畜產試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長
技師　專任　十人　奏任
技手　專任十二人　判任
屬　專任　四人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
種畜牧場及種牛所官制ハ之ヲ廢止ス

## ●獸疫調査所官制

大正十年四月十四日
勅令第百五號
改正　大正一一年第二一三號、一二年第七四號、一三年第三七四號、一四年第四一號、一五年第六二號、第三二〇號

朕獸疫調査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

獸疫調査所官制

第一條　獸疫調査所ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ家畜ノ疾病ニ關スル左ノ事務ヲ掌ル

一　調査及試驗
二　豫防、消毒及治療ノ方法ノ研究
三　血清類ノ製造、配付及檢定
四　講習及講話

第二條　獸疫調査所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師　專任七人　奏任
技手　專任十五人　判任
屬　專任二人　判任

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師及技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五條　屬ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●獸疫調査所ニ臨時職員增置

大正十二年六月十四日
勅令第三百九號
改正　大正一四年第四一號

朕獸疫調査所ニ臨時職員增置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、內務、農商務、大藏大臣副署）

第一條　青島ヨリ輸入スル家畜ニ付傳染病ニ關スル調査ノ事務ニ從事セシムル爲及同地ヨリ輸入スル獸肉ニ付公衆衞生ニ關スル調査ノ事務ニ從事セシムル爲獸疫調査所ニ臨時左ノ職員ヲ置キ在青島帝國總領事館附トス

技師　專任一人
技手　專任六人
屬　專任二人

第二條　獸疫調査所長ハ獸肉ニ關スル前條ノ事務ニ付テハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第三條　第一條ノ職員ニハ本俸ノ外左記年額ノ在勤手當ヲ給ス

奏任官　二千五百圓以內
判任官　千五百圓以內

奏任官ニシテ農林大臣ノ認許ヲ受ケ妻ヲ任地ニ居住セシムル者ニハ現ニ受クル在勤手當ノ額ノ十分ノ三ニ相當スル額ノ加給手當ヲ給ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●種馬牧場、種馬育成所及種馬所官制

大正十二年三月三十一日
勅令第百十九號
改正　大正一三年第三七一號、一四年第四一號、一五年第二二二號

朕種馬牧場、種馬育成所及種馬所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

種馬牧場、種馬育成所及種馬所官制

第一條　種馬牧場、種馬育成所及種馬所ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

種馬牧場
一　種馬ノ蕃殖及改良
種馬育成所
一　幼種牡馬ノ育成及調教
種馬所
一　種牡馬ノ種付及貸付
二　種付成績及產駒成績ノ調査
三　產馬ニ關スル諸般ノ調査

第二條　種馬牧場、種馬育成所及種馬所ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

技師　專任十八人　奏任
技手　專任五十人　判任
屬　專任十七人　判任

第三條　種馬牧場、種馬育成所及種馬所ニ場長又ハ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ場長又ハ所長ハ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場務又ハ所務ヲ掌理ス

第四條　技師及技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五條　屬ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　農林大臣ハ必要ト認ムル地ニ種馬所出張所ヲ置クコトヲ得

第七條　農林大臣必要ト認ムルトキハ種馬牧場ヲシテ種馬所ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第八條　種馬牧場、種馬育成所、種馬所及種馬所出張所ノ名稱及位置竝種馬所及種馬所ノ事務ヲ行フ種馬牧場ノ管轄區域ハ農林大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●種羊場官制

大正七年四月十九日
勅令第八十三號
改正　大正八年第八八號、九年第三三八號、一〇年第一〇六號、一一年第二一二號、一二年第七三號、一三年第三七〇號、一四年第四一號

朕種羊場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

種羊場官制

第一條　種羊場ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　緬羊ノ飼養管理、改良、蕃殖及育成
二　種緬羊ノ配付、貸付及種付
三　緬羊飼養ノ指導、奬勵及監督
四　緬羊生產物ノ調製及加工
五　第一號及前號ニ揭クル事項ノ傳習

第二條　種羊場ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

場長
技師　專任五人　奏任
屬　專任四人　判任
技手　專任十人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七條　種羊場ノ名稱及位置ハ農林大臣之ヲ定ム

第八條　農林大臣ハ必要ト認ムル地ニ種羊場ノ分場又ハ出張所ヲ置キ種羊場ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●小作調査會官制

大正十五年五月二十五日
勅令第百三十五號

朕小作調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農林大臣副署）

小作調査會官制

第一條　小作調査會ハ農林大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮問ニ應シテ小作ニ關スル事項ヲ調査審議ス

調査會ハ小作ニ關スル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條　調査會ハ會長一人委員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長ハ農林大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ農林大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ農林大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　調査會ニ幹事ヲ置ク農林大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　調査會ニ書記ヲ置ク農林大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●米穀委員會官制

大正十年五月十四日
勅令第二百八號
改正　大正一四年第四一號

朕米穀委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

米穀委員會官制

第一條　米穀委員會ハ農林大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シテ米穀法施行ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條　委員會ハ會長一人委員二十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長ハ農林大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ農林大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ農林大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　委員會ニ幹事ヲ置ク農林大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　委員會ニ書記ヲ置ク農林省判任官ノ中ヨリ農林大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●地方森林會規則

（明治四十年十二月二十六日勅令第三百四十七號）

改正　明治四二年第一三七號　大正四年第五二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ地方森林會規則改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御名御璽　農商務大臣副署）

地方森林會規則

第一條　地方森林會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ森林法ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ審議ス

第二條　地方森林會ハ會長一人議員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　地方森林會ノ會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ地方長官事故アルトキハ其ノ代理者之ニ代ハル

議員ハ左ニ揭クル者ニ就キ農商務大臣之ヲ命ス

一　府縣高等官　二人

二　大林區署高等官　一人

三　鑛務署高等官　一人

四　内務省土木出張所高等官　一人

五　府縣名譽職參事會員中ヨリ互選シタル者　二人

六　森林事業ニ經驗アル者

七　治水、土木、鑛山、農業又ハ水產事業ニ經驗アル者

前項ニ揭クル者ノ外御料地所在ノ府縣ニ在リテハ帝室林野管理局高等官ヲ議員ニ命スルコトヲ得

第四條　會長ハ會務ヲ統理シ會ヲ代表シ會議ノ議長ト爲ル

第五條　官吏ニシテ議員タル者ノ外議員ノ任期ハ二年トス但シ府縣名譽職參事會員ノ互選ニ係ル者ノ任期ハ府縣名譽職參事會員ノ任期ニ依ル

第五條ノ二　第三條第二項第六號又ハ第七號ニ該當スル爲議員ヲ命セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農商務大臣其ノ職ヲ免スルコトヲ得

一　禁治產又ハ準禁治產ノ宣告確定シタルトキ

二　租稅滯納處分ヲ受ケタルトキ

三　家資分散又ハ破產ノ宣告確定シタルトキ

四　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

五　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

第六條　地方森林會ニ幹事一人書記若干人ヲ置ク幹事ハ府縣高等官中ヨリ書記ハ府縣判任官中ヨリ地方長官之ヲ命ス

第七條　幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ會長又ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　地方森林會ノ審議スヘキ事項ニシテ其ノ利害關係二府縣以上ニ渉ルモノニ付關係地方長官中必要アリト認ムル者アルトキハ關係地方森林會聯合シテ開會スヘシ其ノ開會地及開會、閉會ノ期日竝其ノ召集ニ關スル事項ハ關係地方長官之ヲ協定シ審議事項ト共ニ開會前之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第九條　聯合地方森林會ハ關係地方森林會ノ議員ヲ以テ組織シ其ノ議長、幹事、書記ハ開會地ノ地方森林會ノ會長、幹事、書記ヲ以テ之ニ充テ其ノ會務規則ハ開會地地方森林會ノ規則ニ依ル

聯合地方森林會ノ決議ハ關係地方森林會ノ決議ト看做ス

第十條　議員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ事件ノ審議ニ參與スルコトヲ得ス

一　保安林ノ編入解除ニ付テハ申請者、森林法第十八條ノ通知ヲ受ケタル者及之ニ屬スル既存ノ權利ヲ承繼シタル者

二　森林法ニ依ル裁決ニ付テハ當事者、土地所有者及同法第三十八條ノ關係人

議員前項各號ノ一ニ該當スル者ノ配偶者、四親等内ノ親族、戶主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ前項各號ノ一ニ該當スル市町村ノ市町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員竝法人ノ役員ナルトキ亦前項ニ同シ

第十一條　森林法ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ申請シタル者アルトキハ會長之ヲ相手方ニ通知スヘシ

第十二條　前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ其ノ通知後二週間内ニ意見書ヲ地方森林會ニ提出スルコトヲ得

第十三條　地方森林會ハ前條ノ期間經過後ニ非サレハ裁決ノ申請ニ係ル事件ヲ審議スルコトヲ得ス

第十四條　裁決ハ其ノ當事者ノ申立テタル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條　裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ地方森林會ノ印章ヲ押捺スヘシ

第十六條　地方森林會ニ於テ裁決ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第十條ノ規定ハ前項ノ鑑定人ニ之ヲ準用ス

第十七條　地方森林會ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者又ハ利害關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽キ又ハ利害關係ヲ有セサル者ヲ呼出シ事實參考ノ爲其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第十八條　鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　會長、官吏ニシテ議員タル者、幹事及書記ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ニ充ツ

第二十條　前條ノ費用ヲ除クノ外鑑定人、事實參考人及議員ノ旅費、手當其ノ他地方森林會ノ費用ハ府縣ノ負擔トス但シ聯合地方森林會ニ付テハ議員ノ旅費、手當ヲ除クノ外開會地府縣ノ負擔トス

第二十一條　地方森林會ニ於テ裁決ニ關シ要スル費用中左ニ揭クルモノハ府縣ニ於テ起業者ヨリ之ヲ徵收ス

一　鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當

二　裁決書謄本ノ調製費

三　郵便及電信料

四　傭人料

五　其ノ他農商務大臣ノ指定シタルモノ

第二十二條　前條ノ規定ハ第二十三條ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ地方森林會ニ要スル費用ニ付之ヲ適用セス

第二十三條　地方森林會カ其ノ權限ヲ超エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル決議及裁決ハ農商務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第二十四條　地方森林會ハ會務處理ノ爲必要ナル規則ヲ議定シ農商務大臣ニ報告スヘシ

前項ノ規則ニ對シ農商務大臣ハ更正ヲ命スルコトヲ得

第二十五條　故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金又ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

第二十六條　鑑定人トシテ地方森林會ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

第二十七條　鑑定人又ハ事實參考人故ナク出頭セサルトキハ二圓以上ノ科料ニ處ス

附　則

本令ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ地方森林會議員タル者ハ本令ニ依リ各其ノ職ヲ命セラレタルモノト看做ス但シ其ノ任期ハ前後通算ス

### ●戰役中召集セラレタル林區署判任官ノ補闕ニ關スル件

（明治三十七年五月十一日勅令第百四十三號）

朕戰役中召集セラレタル林區署判任官ノ補闕ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御名御璽　農商務大臣副署）

林區署判任官ニシテ戰役中陸海軍ニ召集セラレタルカ爲闕員ヲ生シタルトキハ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用シ之ヲ補闕スルコトヲ得

## 第十五款　商工省及其所管

### ●商工省官制

（大正十四年三月三十一日勅令第三十七號）

改正　大正一五年第四四號、第八三號　昭和二年第一四〇號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ商工省官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御名御璽　農商務大臣副署）

商工省官制

第一條　商工大臣ハ商、工、鑛山及地質竝ニ度量衡及計量ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　商工省ニ左ノ三局ヲ置ク

商務局

工務局

鑛山局

第三條　商務局ニ於テハ商事ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條　工務局ニ於テハ工業竝ニ度量衡及計量ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　鑛山局ニ於テハ鑛山及地質ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條ノ二　商工省ニ保險部ヲ置キ保險ニ關スル事務ヲ掌ラシム

第六條　保險部長ハ保險事務官ヲ以テ之ニ充ツ

商工省ニ中央度量衡檢定所ヲ置キ度量衡器及計量器ノ檢定、比較檢查及試驗其ノ他度量衡及計量ニ關スル事務ヲ掌ラシム

商工大臣ハ必要ト認ムル地ニ中央度量衡檢定所ノ支所ヲ設ケ中央度量衡檢定所ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

中央度量衡檢定所長ハ商工技師、支所長ハ商工技師又ハ商工技手ヲ以テ之ニ充ツ

商工大臣ハ必要ト認ムル地ニ中央度量衡檢定所ノ出張所又ハ中央度量衡檢定所支所ノ出張所ヲ設クルコトヲ得

第七條　商工省ニ地質調查所ヲ置キ地質調查ニ關スル事項ヲ掌ラシム

地質調查所長ハ商工技師ヲ以テ之ニ充ツ

第八條　商工書記官ハ專任十一人ヲ以テ定員トス

第九條　商工省ニ商工事務官專任十六人ヲ置ク

商工事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ商工省ノ事務ヲ掌ル

第十條　商工省ニ統計官專任一人ヲ置ク

統計官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ商工統計ヲ掌ル

第十一條　商工省ニ保險事務官專任六人ヲ置ク

保險事務官ハ奏任トス但シ内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得保險事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ保險ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條　商工省ニ度量衡事務官專任一人ヲ置ク

度量衡事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ度量衡及計量ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　商工省ニ商工技師專任五十三人ヲ置ク

商工技師ハ奏任トス但シ内三人以内ヲ勅任ト爲スコトヲ得商工技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十四條　商工屬ハ專任八十六人ヲ以テ定員トス

第十五條　商工省ニ統計官補專任二人ヲ置ク

統計官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ商工統計ニ從事ス

第十六條　商工省ニ保險事務官補專任十人ヲ置ク

保險事務官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ保險ニ關スル事務ニ從事ス

第十七條　商工省ニ商工技手專任百二十七人ヲ置ク

商工技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十八條　商工省ニ取引所監督官及取引所監督官補ヲ置ク

取引所監督官ハ商工書記官、商工事務官又ハ商工技師ヲ以テ、取引所監督官補ハ商工屬又ハ商工技手ヲ以テ之ニ充ツ

取引所監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ取引所法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

取引所監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ取引所法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第十九條　商工省ニ鑛務監督官及鑛務監督官補ヲ置ク

鑛務監督官ハ商工書記官、商工事務官又ハ商工技師ヲ以テ、鑛務監督官補ハ商工屬又ハ商工技手ヲ以テ之ニ充ツ

鑛務監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ鑛業警察ニ關スル事務ヲ掌ル

鑛務監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑛業警察ニ關スル事務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●商工部内臨時職員設置制

（大正十四年三月三十一日勅令第四十號）

改正　大正一五年第一〇號、第四五號、第九九號　昭和二年第一四一號

朕商工部内臨時職員設置制ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御名御璽　農商務大臣副署）

商工部内臨時職員設置制

第一條　營繕工事ノ設計及監督ニ關スル事務ニ從事セシムル爲商工省ニ左ノ職員ヲ置キ大臣官房ニ屬セシム

技手　專任二人

第二條　商工省ニ左ノ職員ヲ置ク

一　工業品規格統一ノ調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任二人

技手　專任二人

二　鑛床水脈等ノ受託調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任一人

屬　專任一人

技手　專任一人

第二條ノ二　商工省ニ左ノ職員ヲ置キ商務局ニ屬セシム

一　貿易振興ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任二人

屬　專任二人

技手　專任一人

二　商取引改善ノ調査ニ關スル事務ニ從事スル者

事務官　專任一人

屬　專任一人

第三條　商工省ニ左ノ職員ヲ置キ工務局ニ屬セシム

一　染料製造獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者

事務官　專任一人

技師　專任五人

屬　專任一人

二　重要輸出品檢査監督ニ關スル事務ニ從事スル者

輸出品監督官　專任一人　奏任

輸出品監督官補　專任五人　判任

三　工業用ゲーヂノ檢査及度量衡原器ノ調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任一人

技手　專任一人

第四條　商工省ニ左ノ職員ヲ置キ鑛山局ニ屬セシム

一　鑛害ノ調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任二人

屬　專任一人

技手　專任一人

二　製鐵業奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者

|  |  |
|---|---|
| 事務官 | 專任一人 |
| 技師 | 專任三人 |
| 屬 | 專任二人 |
| 技手 | 專任二人 |

三　鑛物製錬研究奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者

|  |  |
|---|---|
| 技師 | 專任二人 |
| 技手 | 專任一人 |

第四條ノ二　商工省ニ左ノ職員ヲ置キ保險部ニ屬セシム

一　損害保險制度調査ニ關スル事務ニ從事スル者

|  |  |
|---|---|
| 事務官 | 專任一人 |
| 技師 | 專任一人 |
| 技手 | 專任二人 |

二　生命保險標準死亡表作成ニ關スル事務ニ從事スル者

|  |  |
|---|---|
| 技師 | 專任一人 |
| 屬 | 專任一人 |
| 技手 | 專任二人 |

第五條　特許局ニ左ノ職員ヲ置ク

一　審査資料ノ整理ニ關スル事務ニ從事スル者

|  |  |
|---|---|
| 技師 | 專任三人 |
| 屬 | 專任三人 |
| 技手 | 專任六人 |

二　特許及登錄出願ノ處分ニ關スル事務ニ從事スル者

|  |  |
|---|---|
| 技師 | 專任九人 |
| 屬 | 專任五人 |
| 技手 | 專任十二人 |

第六條　生絲格付方法ノ調査ニ關スル事務ニ從事セシムル爲絹業試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

|  |  |
|---|---|
| 技師 | 專任一人 |
| 技手 | 專任二人 |

第七條　鑛山監督局ニ左ノ職員ヲ置ク

一　石炭坑爆發豫防ニ關スル事項ノ調査ニ從事スル者

|  |  |
|---|---|
| 技師 | 專任二人 |
| 屬<br>技手 | 專任四人 |

二　礦床ノ受託調査ニ關スル事務ニ從事スル者

|  |  |
|---|---|
| 技師 | 專任四人 |
| 技手 | 專任二人 |

三　鑛區圖整理ニ關スル事務ニ從事スル者

|  |  |
|---|---|
| 技師 | 專任一人 |
| 技手 | 專任十人 |

第八條　燃料ノ受託試驗ニ關スル事務ニ從事セシムル爲燃料研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

|  |  |
|---|---|
| 技手 | 專任二人 |

附　則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●製鐵所官制

（明治四十四年七月二十四日　勅令第二百五號）

改正　大正二年第一九二號、五年第一三五號、八年第二二三號、九年第二九八號、一〇年第一六一號、第四七八號、一一年第二九號、一二年第二四七號、一三年第三六八號、一四年第四一號、第三一五號、一五年第三五三號
昭和二年第七六號

朕製鐵所官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

製鐵所官制

第一條　製鐵所ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵ノ製造及販賣ノ事ヲ掌ル

第二條　製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク

|  |  |  |
|---|---|---|
| 長官 |  | 勅任 |
| 技監 | 一人 | 勅任 |
| 理事 | 專任三人 | 勅任又ハ奏任 |
| 參事 | 專任五人 | 奏任 |
| 副參事 | 專任十人 | 奏任 |
| 技師 | 專任八十八人 | 奏任（内四人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 醫官 | 專任十五人 | 奏任（内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 書記 | 專任百十八人 | 判任 |
| 技手 | 專任三百六人 | 判任 |
| 醫員 | 專任六人 | 判任 |

前項職員ノ外製鐵所ニ製鐵手ヲ置ク判任官ノ待遇トス其ノ定員ハ商工大臣之ヲ定ム

第三條　長官ハ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ總理ス

第四條　長官ハ部下ノ職員ヲ指揮監督シ奏任官ノ進退ハ之ヲ商工大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第五條　長官事故アルトキハ總務部長タル理事其ノ職務ヲ代理ス

第五條ノ二　技監ハ技術ヲ統理ス

第六條　理事參事及副參事ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第七條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第七條ノ二　醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ醫務ヲ掌ル

第八條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九條ノ二　醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

第九條ノ三　製鐵手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務又ハ技術ニ從事ス

第十條　製鐵所ニ研究所ノ外左ノ十三部ヲ置ク

總務部
監理部
勞務部
銑鐵部
製鋼部
條鋼部
鋼板部
化工部
動力部
土木部
工作部
販賣部
醫務部

第十一條　總務部ニ於テハ機密、人事、庶務、豫算、決算、諸會計及鑛山ニ關スル事項竝他ノ部所ノ主掌ニ屬セサル事項ヲ掌ル

監理部ニ於テハ各部間ノ技術上ノ連絡統制竝原料、納品、製品、機械、諸裝置及諸工事ノ檢査ニ關スル事項ヲ掌ル

勞務部ニ於テハ所內取締、從業員ノ福利施設、共濟組合、健康保險組合、職工教育其ノ他一般勞務ニ關スル事項ヲ掌ル

銑鐵部ニ於テハ銑鐵ノ製造ニ關スル事項ヲ掌ル

製鋼部ニ於テハ鋼及鐵合金ノ製造ニ關スル事項ヲ掌ル

條鋼部ニ於テハ條鋼ノ製造及鍛鋼ニ關スル事項ヲ掌ル

鋼板部ニ於テハ鋼板ノ製造ニ關スル事項ヲ掌ル

化工部ニ於テハ骸炭及爐材ノ製造竝副生物ノ收集加工ニ關スル事項ヲ掌ル

動力部ニ於テハ原動力、電燈及電話ニ關スル事項ヲ掌ル

土木部ニ於テハ土木工事及建築工事ニ關スル事項ヲ掌ル

工作部ニ於テハ機械其ノ他ノ諸裝置ノ工作ニ關スル事項ヲ掌ル

販賣部ニ於テハ製品ノ販賣ニ關スル事項ヲ掌ル

醫務部ニ於テハ醫療及衞生ニ關スル事項ヲ掌ル

研究所ニ於テハ技術上ノ研究ニ關スル事項ヲ掌ル

第十二條　部所ニ長ヲ置ク總務部長ハ理事ヲ以テ、其ノ他ノ部所ノ長ハ理事、參事、技師又ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ

部所ノ長ハ上官ノ命ヲ承ケ所屬ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十三條　商工大臣ハ事業上ノ須要ニ依リ製鐵所ニ商議委員ヲ設クルコトヲ得

第十四條　商工大臣ハ製鐵所出張所ヲ設クルコトヲ得

出張所所管ノ事務ハ商工大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●特許局官制

（大正十一年一月十日　勅令第二號）

改正　大正一二年第六三號、一三年第三六五號、一四年第四一號
昭和二年第一一八號

朕特許局官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

特許局官制

第一條　特許局ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ發明、實用新案、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　特許局ニ左ノ職員ヲ置ク

|  |  |  |
|---|---|---|
| 長官 |  | 勅任 |
| 事務官 | 專任二十四人 | 奏任（内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 技師 | 專任六十七人 | 奏任（内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 屬 | 專任六十人 | 判任 |
| 技手 | 專任八十三人 | 判任 |

第三條　特許局ニ左ノ部ヲ置ク

總務部
審判部
機械部
化學電氣部
意匠商標部

總務部ニ於テハ出願、登錄、調査、公報及會計ニ關スル事務竝他ノ主掌ニ屬セサル事務ヲ掌ル

審判部ニ於テハ抗告審判及審判ヲ掌ル

機械部ニ於テハ機械工業ニ關スル發明及實用新案ノ審査ヲ掌ル

化學電氣部ニ於テハ化學工業及電氣工業ニ關スル發明及實用新案ノ審査ヲ掌ル

意匠商標部ニ於テハ意匠及商標ノ審査ヲ掌ル

第四條　長官ハ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ總理シ部下ノ職員ヲ指揮監督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第五條　削除

第六條　各部ニ部長ヲ置キ事務官及技師ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第七條　特許局ニ抗告審判官、審判官及審査官ヲ置ク

抗告審判官ハ長官、事務官及技師ヲ以テ之ニ充テ抗告審判ヲ掌ル

審判官ハ事務官及技師ヲ以テ之ニ充テ審判ヲ掌ル

審査官ハ事務官及技師ヲ以テ之ニ充テ上官ノ命ヲ承ケ審査ヲ掌ル

第八條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第九條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十條　特許局ニ審査官補ヲ置キ屬及技手ヲ以テ之ニ充ツ

審査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ審査官ヲ助ケテ審査ニ從事ス

第十一條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十三條　特許局ニ陳列館ヲ置キ發明、實用新案、意匠及商標ニ關スル見本及雛形ヲ蒐集陳列シ公衆ヲシテ之ヲ觀覽セシメ且抗告審判、審判及審査ニ關スル圖書及書類ヲ保管シ公衆ヲシテ之ヲ閲覽セシム

陳列館長ハ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●工業試驗所官制

（大正七年五月十五日　勅令第百四十號）

改正　大正七年第二九六號、八年第一三五號、九年第三三六號、一〇年第一六〇號、一二年第一一號、第六八號、第四三八號、一三年第三七九號、一四年第四一號、第二四二號、一五年第四號、第八四號、第三四八號
昭和二年第一五七號

朕工業試驗所官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

工業試驗所官制

第一條　工業試驗所ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ工業ニ關スル試驗、分析、鑑定及傳習ヲ掌ル

工業試驗所ハ前項ノ規定ニ依ル事務ニ支障ナキ場合ニ於テハ工業ニ關スル試驗又ハ分析ヲ爲サムトスル者ニ對シ其ノ試驗又ハ分析ノ爲設備ノ一部ヲ期間ヲ限リ使用セシムルコトヲ得

工業試驗所ハ東京府及大阪府ニ之ヲ置ク

第一條ノ二　工業試驗所ハ前條第一項ノ規定ニ依ル事務ニ妨ナキ限リ一般ノ需要ニ應シテ「セーゲル」溫度計ノ製造ヲ爲スコトヲ得

第二條　工業試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

|  |  |  |
|---|---|---|
| 所長 |  |  |
| 技師 | 專任五十五人 | 奏任（内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 屬 | 專任十一人 | 判任 |
| 技手 | 專任七十一人 | 判任 |

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ所長ハ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●絹業試驗所官制

（大正七年四月一日　勅令第四十六號）

改正　大正一三年第三七八號、一四年第四一號

朕絹業試驗所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

絹業試驗所官制

第一條　絹業試驗所ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ絹業ニ關スル試驗及鑑定ヲ掌ル

第二條　絹業試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

|  |  |  |
|---|---|---|
| 所長 |  |  |
| 技師 | 專任四人 | 奏任 |
| 技手 | 專任四人 | 判任 |
| 屬 | 專任二人 | 判任 |

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臨時窒素研究所官制

（大正七年五月十五日　勅令第百四十一號）

改正　大正九年第三〇二號、一三年第三七二號、一四年第四一號、一五年第八五號

朕臨時窒素研究所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

臨時窒素研究所官制

第一條　臨時窒素研究所ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ窒素工業ニ關スル研究ヲ掌ル

第二條　臨時窒素研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

|  |  |  |
|---|---|---|
| 所長 |  |  |
| 技師 | 專任十一人 | 奏任（内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 屬 | 專任三人 | 判任 |
| 技手 | 專任十二人 | 判任 |

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ所長ハ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●陶磁器試驗所官制

（大正八年四月五日　勅令第八十三號）

改正　大正一三年第三八一號、一四年第四一號

朕陶磁器試驗所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

陶磁器試驗所官制

第一條　陶磁器試驗所ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ陶磁器ニ關スル試驗及鑑定ヲ掌ル

第二條　陶磁器試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

|  |  |  |
|---|---|---|
| 所長 |  |  |
| 技師 | 專任四人 | 奏任 |
| 屬 | 專任二人 | 判任 |
| 技手 | 專任六人 | 判任 |

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●花莚檢査所官制

（明治三十八年三月二十四日　勅令第七十四號）

改正　明治四〇年第一四六號、四三年第

八〇號
大正二年第二〇二號、五年第九八號、一二年第六九號、一三年第二四一號、第三八四號、一四年第四一號

朕花莚檢査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

花莚檢査所官制

第一條 花莚檢査所ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ輸出花莚及輸出野草莚ノ檢査及試驗ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 花莚檢査所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師 專任二人 奏任
屬 專任三人 判任
技手 專任九人 判任

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

附 則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●鑛山監督局官制

大正十三年十二月二十日
勅令第三百六十七號
改正 大正一四年第四一號

朕鑛山監督局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、內務大臣副署）

鑛山監督局官制

第一條 鑛山監督局ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ鑛業及砂鑛業ニ關スル事務竝鑛業及砂鑛業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鑛山監督局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

局長 五人 奏任（內二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
書記官 專任十一人 奏任
技師 專任三十人 奏任
屬 技手 專任百八十三人 判任

第三條 局長ハ鑛夫ニ關スル事務竝鑛業及砂鑛業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ニ付テハ內務大臣、其ノ他ノ事務ニ付テハ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全般ノ事務ヲ掌理ス

局長事故アルトキハ商工大臣ニ於テ其ノ局高等官ノ一人ニ局長ノ職務代理ヲ命ス

第四條 書記官ハ鑛山監督局ニ分屬シ局務ヲ掌ル

第五條 技師ハ鑛山監督局ニ分屬シ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 各鑛山監督局ニ鑛務監督官ヲ置キ書記官及技師ヲ以テ之ニ充ツ

鑛務監督官ハ上官ノ命ヲ承ケ鑛業警察及鑛夫ニ關スル事務竝鑛業及砂鑛業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第九條 各鑛山監督局ニ鑛務監督官補ヲ置キ屬及技手ヲ以テ之ニ充ツ

鑛務監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑛業警察及鑛夫ニ關スル事務竝鑛業及砂鑛業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第十條 鑛山監督局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鑛務署官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ鑛務署長、鑛務官、鑛務技師、鑛務屬又ハ鑛務技手ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ鑛山監督局長、鑛山監督局書記官、鑛山監督局技師、鑛山監督局屬又ハ鑛山監督局技手ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

（別表）

鑛山監督局名稱位置管轄區域表

| 名稱 | 位置 | 管轄區域 |
|---|---|---|
| 東京鑛山監督局 | 東京府東京市 | 東京府 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣<br>千葉縣 茨城縣 栃木縣 愛知縣 靜岡縣<br>山梨縣 岐阜縣 長野縣 |
| 仙臺鑛山監督局 | 宮城縣仙臺市 | 宮城縣 福島縣 岩手縣 青森縣 山形縣<br>秋田縣 |
| 大阪鑛山監督局 | 大阪府大阪市 | 京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 三重縣<br>滋賀縣 福井縣 石川縣 富山縣 鳥取縣<br>島根縣 岡山縣 廣島縣 和歌山縣 德島縣<br>香川縣 愛媛縣 高知縣 |
| 福岡鑛山監督局 | 福岡縣福岡市 | 長崎縣 山口縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣<br>熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣 |
| 札幌鑛山監督局 | 北海道札幌市 | 北海道 |
| 備考 | 鑛業若ハ砂鑛業ノ區域カ二以上ノ鑛山監督局ノ管轄區域ニ跨ルトキ又ハ鑛山監督局ノ管轄區域ノ境界明確ナラサル爲管轄ニ付疑ヲ生シタルトキハ商工大臣管轄鑛山監督局ヲ指定ス | |

## ●燃料研究所官制

大正九年八月二十六日
勅令第三百三號
改正 大正一〇年第一六三號、一一年第二六八號、一二年第六五號、一三年第三七三號、一四年第四一號、一五年第一〇〇號

朕燃料研究所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

燃料研究所官制

第一條 燃料研究所ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ燃料ニ關スル研究ヲ掌ル

燃料研究所ハ前項ノ規定ニ依ル研究ニ妨ナキ限リ一般ノ依頼ニ應シ燃料ニ關スル試驗ヲ爲スコトヲ得

第二條 燃料研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師 專任十人 奏任
屬 專任三人 判任
技手 專任十四人 判任

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條 技師及技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五條 屬ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●商工審議會官制

昭和二年五月二十四日
勅令第百二十一號

朕商工審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、商工大臣副署）

商工審議會官制

第一條 商工審議會ハ商工大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮問ニ應シテ商工業ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

商工審議會ハ前項ノ事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 商工審議會ハ會長一人委員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者及關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ商工大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 商工審議會ニ幹事ヲ置ク、商工大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 商工審議會ニ書記ヲ置ク、商工大臣之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●國產振興委員會官制

大正十五年六月十一日
勅令第百六十號

朕國產振興委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、商工大臣副署）

國產振興委員會官制

第一條 國產振興委員會ハ商工大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮問ニ應シテ國產品ノ改良、使用奬勵其ノ他國產ノ振興ニ關スル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ國產ノ振興ニ關スル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 委員會ハ會長一人委員二十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ商工大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク商工大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク商工大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●瓦斯事業委員會官制

大正十四年十二月二十八日
勅令第三百二十九號

朕瓦斯事業委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、商工大臣副署）

瓦斯事業委員會官制

第一條 瓦斯事業委員會ハ商工大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮問ニ應シテ瓦斯事業ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條 委員會ハ會長一人委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ商工大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク商工大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク商工省判任官ノ中ヨリ商工大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●工藝審査委員會官制

大正八年五月二十二日
勅令第二百三十號
改正 大正一四年第四一號

朕工藝審査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

工藝審査委員會官制

第一條 工藝審査委員會ハ商工大臣ノ監督ニ屬シ工藝展覽會出品ノ審査ヲ爲ス

工藝展覽會ニ關スル規程ハ商工大臣之ヲ定ム

第二條 工藝審査委員會ハ委員長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長ハ商工次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第三條 委員ノ任期ハ一年トス

第四條 委員長ハ會務ヲ統理シ審査ノ成績ヲ商工大臣ニ報告ス

第五條 工藝審査委員會ハ之ヲ左ノ二部ニ分ツ商工大臣必要ト認ムルトキハ部ヲ科ニ分ツコトヲ得

第一部 圖案
第二部 工藝品

委員ノ部屬ハ商工大臣之ヲ定ム

第六條 工藝審査委員會ニ幹事二人ヲ置ク商工部內ノ高等官中ヨリ商工大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條 工藝審査委員會ニ書記五人ヲ置ク商工大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●工業品規格統一調査會官制

大正十年四月二十六日
勅令第百六十四號
改正 大正一四年第四一號

朕工業品規格統一調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

工業品規格統一調査會官制

第一條 工業品規格統一調査會ハ商工大臣ノ監督ニ屬シ工業品ノ規格統一ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條 調査會ハ關係各大臣ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申ス

調査會ハ關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 調査會ハ會長一人、副會長一人及委員七十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第四條 會長ハ商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

副會長、委員及臨時委員ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ副會長其ノ職務ヲ代理ス

第六條 調査會ニ幹事ヲ置ク商工大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條 調査會ニ書記ヲ置ク商工大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●不當廉賣審査委員會ニ關スル件

大正九年十一月二十六日
勅令第五百四十九號
改正 大正一四年第四一號、一五年第一五五號

朕關稅定率法第五條ノ二施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、農商務大臣副署）

第一條 不當廉賣審査委員會ハ商工大臣ノ監督ニ屬シ不當廉賣品ノ輸入及輸入品ノ不當廉賣ニ關スル事項ヲ審査ス

輸出國ニ於ケル輸出ノ時ノ正當卸賣價格ニ運賃、保險料、手數料其ノ他ノ諸掛及關稅ヲ加算シタル額ヨリ低廉ナル價格ヲ以テ物品ヲ輸入シ又ハ販賣スル場合ニ之ニ因リ本邦ニ於ケル重要產業カ危害ヲ被ルノ虞アリト認ムルトキハ商工大臣ハ委員會ノ審査ニ付スヘシ

委員會ノ審査ニ付スヘキ事項ニ付テハ商工大臣ハ豫メ大藏大臣ニ協議スヘシ

第一條ノ二 不當廉賣品ノ輸入又ハ輸入品ノ不當廉賣ニ因リ本邦ニ於ケル重要產業カ危害ヲ被ルノ虞アリト認ムルトキハ利害關係人ハ委員會ノ審査ヲ商工大臣ニ申請スルコトヲ得

第二條 商工大臣ハ委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ再審査ヲ命スルコトヲ得

第二條ノ二　商工大臣ハ稅關官吏ヲシテ不當廉賣品ノ輸入又ハ輸入品ノ不當廉賣ニ關シ必要ナル調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三條　商工大臣ハ委員會ノ決議ニ意見ヲ附シ之ヲ大藏大臣ニ移牒スヘシ

第四條　大藏大臣ハ前條ニ規定スル移牒ニ基キ必要アリト認ムルトキハ關稅定率法第五條ノ二ノ規定ニ依ル附加關稅ノ賦課又ハ追徵ノ命令ヲ發スヘシ

第五條　委員會ハ會長一人委員二十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ審査スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第六條　會長ハ商工大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第七條　委員及臨時委員ハ商工大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第八條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ商工大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第九條　委員會ニ幹事ヲ置ク商工大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條　委員會ニ書記ヲ置ク商工省判任官ノ中ヨリ商工大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第十六款　遞信省及其所管

### ●遞信省官制（明治三十一年十月二十二日勅令第二百九十五號）

改正　明治三三年第一七七號、三四年第一〇〇號、三五年第一一四號、三六年第二四六號、三八年第一〇一號、三九年第七五號、四〇年第二〇〇號、四一年第八二號、第二六五號、第二九八號、四二年第一七六號、第一九四號、四三年第八八號、大正二年第二〇七號、三年第二一六號、第二四三號、五年第二七號、第一七七號、六年第一五五號、七年第二一〇號、八年第一九六號、九年第二九二號、第四五三號、一〇年第三四二號、第四七九號、一一年第三四五號、一二年第一二一號、第三四六號、一三年第一八五號、第二六七號、一四年第一八三號、一五年第一八六號

朕遞信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

遞信省官制

第一條　遞信大臣ハ郵便、小包郵便、電信、電話及航路標識ヲ管理シ發電水力及航空ニ關スル事務ヲ掌リ電氣、造船、水陸運輸ニ關スル事業及航路、船舶、海員ヲ監督ス

遞信大臣ハ日本無線電信株式會社ニ關スル事項ヲ管理ス

第一條ノ二　大臣官房ニ於テハ通則ニ定ムルモノノ外從事員ノ養成保健及遞信博物館ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　遞信省專任書記官ハ十八人ヲ以テ定員トス

第三條　遞信省ニ左ノ局ヲ置ク

郵務局
電務局
工務局
電氣局
管船局
航空局
經理局

第四條　郵務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　郵便及小包郵便ニ關スル事項
二　陸運事業ノ監督ニ關スル事項

第四條ノ二　電務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　電信ニ關スル事項
二　電話ニ關スル事項
三　日本無線電信株式會社ニ關スル事項

第四條ノ三　工務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　電信ノ建設及保存ノ工事ニ關スル事項
二　電話ノ建設及保存ノ工事ニ關スル事項

第五條　電氣局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　電氣ノ取締ニ關スル事項
二　電氣調定器ノ檢定ニ關スル事項
三　發電水力ニ關スル事項

第六條　管船局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　航路標識ニ關スル事項
二　航路、船舶、海員、水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項

管船局ニ船用品檢査所ヲ置キ船用品ノ檢査及試驗ニ關スル事項ヲ掌ラシム

遞信大臣ハ必要ト認ムル地ニ船用品檢査所ノ支所ヲ置キ船用品檢査所ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

船用品檢査所長及支所長ハ遞信技師ヲ以テ之ニ充ツ

第六條ノ二　航空局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　航空ノ取締ニ關スル事項
二　航空ニ關スル事業ノ保護、獎勵及監督ニ關スル事項
三　航空ニ伴フ施設ニ關スル事項

第六條ノ三　經理局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算竝會計ニ關スル事項
二　會計ノ監査ニ關スル事項
三　本省所管ノ官有財產及物品ニ關スル事項
四　電信電話用品ノ製造及修繕ノ作業ニ關スル事項

第七條　遞信省ニ遞信省事務官專任八人ヲ置ク

遞信省事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

前二項ノ職員ノ外航空局ノ事務ニ從事セシムル爲遞信大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ遞信省事務官ヲ命スルコトヲ得

第七條ノ二　遞信省ニ航空官專任九人ヲ置ク

航空官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ航空ニ關スル技術又ハ事務ヲ掌ル

第八條　遞信省ニ專任技師五十一人ヲ置ク但シ內四人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第九條　遞信省屬ハ專任百六十四人ヲ以テ定員トス

第十條　遞信省ニ專任技手七十一人ヲ置ク

第十條ノ二　遞信大臣ハ航空ニ關スル事務ニ關シ必要ニ應シ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ其ノ管理ニ屬スル人馬、艦船、航空機、器材等ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

附　則

第十一條　本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

附　則（大正十三年勅令第二百六十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

遞信省參事官ハ各省官制通則第十四條ノ規定ニ拘ラス之ヲ置カス

航空局官制ハ之ヲ廢止ス

航空局職員ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ航空局書記官ハ遞信書記官ニ、航空官ハ航空官ニ、航空局屬ハ遞信屬ニ、航空局技手ハ遞信技手ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ航空局ノ航空官又ハ技手ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ航空官ハ航空官ニ、航空局技手ハ遞信技手ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

### ●遞信部內臨時職員設置制（大正九年五月十日勅令第百二十七號）

改正　大正九年第三七五號、第四五四號、一〇年第三四三號、一一年第三四六號、第四〇〇號、第四八五號、一二年第三四七號、一三年第一〇二號、第二六八號、一四年第一八四號、一五年第一八七號

朕遞信部內臨時職員設置制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

遞信部內臨時職員設置制

第一條　遞信省ニ左ノ職員ヲ增置ス

一　電信及電話建設ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 書記官 | 專任四人 |
| 事務官 | 專任三人 |
| 技師 | 專任四十七人（內四人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 屬 | 專任七十五人 |
| 技手 | 專任二百八十四人 |

二　造船鐵材調査ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 事務官 | 專任一人 |
| 技師 | 專任二人 |
| 屬 | 專任二人 |

三　郵便局局舍其ノ他ノ震災復舊及新營事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 技師 | 專任二人 |
| 屬 | 專任二人 |
| 技手 | 專任五人 |

四　簡易保險局廳舍ノ新營事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 技師 | 專任一人 |
| 屬 | 專任二人 |
| 技手 | 專任七人 |

五　電信電話復舊ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 書記官 | 專任一人 |
| 事務官 | 專任三人 |
| 技師 | 專任十一人 |
| 屬 | 專任二十七人 |
| 技手 | 專任六十七人 |

六　民設無線電信工事監督ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 技師 | 專任一人 |
| 屬 | 專任一人 |
| 技手 | 專任三人 |

第二條　貯金局ニ左ノ職員ヲ增置ス

一　郵便貯金原簿其ノ他ノ復舊及整理ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 事務官 | 專任三人 |
| 書記 | 專任二百人 |
| 書記補 | 專任三百三十三人 |

二　郵便貯金獎勵ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 書記 | 專任四人 |
| 書記補 | 專任三人 |

三　郵便貯金局所外預入事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 書記 | 專任十六人 |
| 書記補 | 專任二十五人 |

第三條　電信電話復舊ノ事務ニ從事セシムル爲電氣試驗所ニ左ノ職員ヲ增置ス

| | |
|---|---|
| 技師 | 專任二人 |
| 書記 | 專任二人 |
| 技手 | 專任十七人 |

第四條　遞信局ニ左ノ職員ヲ增置ス

一　電信及電話建設ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 書記官 | 專任三人 |
| 事務官 | 專任七人 |
| 技師 | 專任二十人 |
| 書記 | 專任八十四人 |
| 技手 | 專任二百九十三人 |

二　造船鐵材調査ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 事務官 | 專任一人 |
| 技師 | 專任七人 |
| 書記 | 專任四人 |
| 技手 | 專任二人 |

三　電信電話復舊ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 書記官 | 專任一人 |
| 事務官 | 專任一人 |
| 技師 | 專任九人 |
| 書記 | 專任二十三人 |
| 技手 | 專任百七十四人 |

四　郵便貯金原簿其ノ他ノ復舊及整理ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 書記 | 專任二十三人 |

五　郵便貯金獎勵ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 書記 | 專任七人 |
| 書記補 | 專任一人 |

六　郵便貯金局所外預入事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 書記 | 專任四人 |
| 書記補 | 專任四人 |

第五條　郵便局ニ左ノ職員ヲ增置ス

一　郵便貯金原簿其ノ他ノ復舊及整理ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 通信書記 | 專任二十六人 |
| 通信書記補 | 專任四十五人 |

二　郵便貯金獎勵ノ事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 通信書記 | 專任一人 |
| 通信書記補 | 專任二人 |

三　郵便貯金局所外預入事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 通信書記 | 專任二十七人 |
| 通信書記補 | 專任四十五人 |

第六條　第一條第一號竝第四條第一號、第三號及第四號ノ職員ハ當該年度豫算ノ範圍內ニ於テ各所定ノ定員以內ヲ置クモノトス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス（左記勅令略記）

大正五年勅令第十一號、遞信省臨時調査局官制、大正六年勅令第百五十六號、戰時船舶管理局官制、大正七年勅令第二百十一號、大正七年勅令第二百十四號、大正七年勅令第二百十六號、大正八年勅令第百九十七號、大正八年勅令第百九十八號、大正八年勅令第百九十九號

本令施行ノ際現ニ通信局事務官又ハ電氣局事務官ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令書ヲ用ヰス各通信局事務官又ハ電氣局事務官ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

附　則（大正十四年勅令第百八十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時電信電話建設局官制ハ之ヲ廢止ス

臨時電信電話建設局職員ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ臨時電信電話建設局本廳勤務ノ臨時電信電話建設局ノ書記官ハ遞信書記官ニ、事務官ハ遞信省事務官ニ、技師ハ遞信技師ニ、書記ハ遞信屬ニ、技手ハ遞信技手ニ、臨時電信電話建設局出張所勤務ノ臨時電信電話建設局ノ書記官ハ遞信局書記官ニ、事務官ハ遞信局事務官ニ、技師ハ遞信局技師ニ、書記ハ遞信局書記ニ、技手ハ遞信局技手ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

### ●遞信省部內官吏臨時陸海軍特設事務又ハ戰時若ハ事變ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信事務ニ從事スル者ノ補闕ノ件（明治三十四年二月二十六日勅令第七號）

改正　大正九年第三三號

朕遞信省部內ノ官吏ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信ノ事務ニ從事シ又ハ陸海軍特設ノ事務ニ從事スル者ノ補闕ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

遞信省部內ノ官吏ニシテ臨時陸海軍特設ノ事務ニ從事シ又ハ戰時若ハ事變ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信ノ事務ニ從事スル者ハ之ヲ定員外トシ其ノ補闕ヲ爲スコトヲ得

前項ニ依リ判任官ノ補闕ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ雇員ヲ使用シ其ノ俸給ハ判任官俸給豫算定額內ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

附　則

明治二十七年勅令第百八十三號明治二十八年勅令第二十一號及同年勅令第百十六號ハ之ヲ廢止ス

### ●遞信省部內官吏臨時陸海軍特設ノ事務又ハ戰時若ハ事變ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信事務ニ從事シタル者ノ復歸ニ關スル件（大正三年二月[illegible]日勅令第[illegible]號）

改正　[illegible]

朕遞信省部內ノ官吏ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信ノ事務ニ從事シ又ハ陸海軍特設ノ事務ニ從事シタル者ノ復歸ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

遞信省部內ノ官吏ニシテ臨時陸海軍特設ノ事務ニ從事シ又ハ戰時若ハ事變ニ際シ所屬部局以外ニ於テ臨時遞信ノ事務ニ從事シタル者所屬部局ニ復歸スル場合ニ於テ定員充實スルトキハ復歸後一年ヲ限リ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定員外ト爲リタル者ノ俸給ハ豫算定額內ヨリ之ヲ支給ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●電氣試驗所官制（大正七年六月十日勅令第二百十九號）

改正　[illegible]

朕電氣試驗所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

電氣試驗所官制

第一條　電氣試驗所ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ電氣試驗ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條　電氣試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 所長 | 一人 | |
| 技師 | 專任十九人 | 奏任 |
| 書記 | 專任十一人 | 判任 |
| 技手 | 專任七十七人 | 判任 |

所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

所長タル技師ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第三條　所長ハ遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七條　遞信大臣ハ遞信技師又ハ遞信技手ヲシテ臨時電氣試驗所ノ事務ヲ助ケシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●貯金局官制

（大正九年十月二日勅令第四百五十六號）

（改正　大正一〇年第三四四號、一一年第三四七號、一二年第三四八號、一三年第二六九號、一四年第二七七號、一五年第一八八號）

朕貯金局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

貯金局官制

第一條　貯金局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便爲替、郵便貯金及年金恩給ノ給與竝各官廳ノ徵收スル歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂渡ニ關スル事務ヲ掌ル

遞信大臣ハ必要ト認ムル地ニ貯金局ノ支局ヲ設クルコトヲ得

第二條　貯金局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長　勅任
書記官　專任二人　奏任
事務官　專任十九人　奏任
書記　專任五百七十人　判任
書記補　專任千三人　判任

第三條　局長ハ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第四條　書記官及事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第五條　書記及書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第六條　支局長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

爲替貯金局官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際爲替貯金局書記又ハ爲替貯金局書記補ニシテ現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ爲替貯金局書記ハ貯金局書記ニ、爲替貯金局書記補ハ貯金局書記補ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●簡易保險局官制

（大正九年十月二日勅令第四百五十七號）

（改正　大正一〇年第三四五號、一一年第三四八號、一二年第三四九號、一三年第二七〇號、一四年第二七八號、一五年第一八九號、第二七七號）

朕簡易保險局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

簡易保險局官制

第一條　簡易保險局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　簡易保險局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長　勅任
書記官　專任四人　奏任
事務官　專任八人　奏任
技師　專任三人　奏任
書記　專任六百四十人　判任
技手　專任十二人　判任
書記補　專任八百六十六人　判任

第三條　局長ハ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第四條　書記官及事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第五條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第六條　書記及書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●遞信局官制

（大正十三年十一月二十五日勅令第二百七十二號）

（改正　大正一四年第一八五號、第二八〇號、一五年第一九一號、第二七八號）

朕遞信局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

遞信局官制

第一條　遞信局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、簡易生命保險、郵便年金、電信及電話ノ管理ニ關スル事務、發電水力調査ニ關スル事務竝電氣事業及船舶海員ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　遞信局ノ名稱、位置及管轄區域ハ別表ニ依ル

海事、鐵道郵便、船舶郵便、船舶無線電信、船舶無線電話其ノ他二以上ノ遞信局ノ管轄區域ニ屬シ又ハ何レノ遞信局ノ管轄區域ニモ屬セサル事務ノ管轄ハ遞信大臣之ヲ定ム

第三條　遞信大臣ハ遞信局ノ管轄區域內ニ出張所ヲ設クルコトヲ得

第四條　遞信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長　七人　勅任
書記官　專任七人　奏任
事務官　專任三十五人　奏任
技師　專任百十人　奏任
書記　專任千五百五十一人　判任
技手　專任千二百八十九人　判任
書記補　專任八百七十四人　判任

第五條　各局所ノ定員ハ遞信大臣之ヲ定ム

第六條　遞信局長ハ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理シ其ノ管轄內ノ通信官署ヲ監督ス

第七條　遞信局書記官及遞信局事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第八條　遞信局技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第九條　遞信局書記及遞信局書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第十條　遞信局技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十一條　遞信局事務官、遞信局技師、遞信局書記及遞信局技手ハ臨時命ヲ承ケ通信ニ關スル遞信省ノ事務ヲ助ク

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方遞信官署官制ハ之ヲ廢止ス

地方遞信官署官制第十一條ニ揭クル職員ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ遞信局長ハ遞信局長ニ、遞信局書記官ハ遞信局書記官ニ、遞信局事務官ハ遞信局事務官ニ、遞信局技師ハ遞信局技師ニ、遞信局書記ハ遞信局書記ニ、遞信局技手ハ遞信局技手ニ、遞信局書記補ハ遞信局書記補ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

勤勉手當給與令第一條第六號中「及地方遞信官署」ヲ「、遞信局及通信官署」ニ改ム

（別表）

遞信局名稱、位置及管轄區域表

| 名稱 | 位置 | 管轄區域 |
|---|---|---|
| 東京遞信局 | 東京市 | 東京府　神奈川縣　埼玉縣　群馬縣　千葉縣　茨城縣　栃木縣　靜岡縣　山梨縣 |
| 名古屋遞信局 | 名古屋市 | 愛知縣　三重縣　岐阜縣　長野縣　福井縣　石川縣　富山縣 |
| 大阪遞信局 | 大阪市 | 大阪府　京都府　兵庫縣　奈良縣　滋賀縣　和歌山縣　德島縣　高知縣 |
| 廣島遞信局 | 廣島市 | 廣島縣　鳥取縣　島根縣　岡山縣　山口縣　香川縣　愛媛縣 |
| 熊本遞信局 | 熊本市 | 熊本縣　長崎縣　福岡縣　大分縣　佐賀縣　宮崎縣　鹿兒島縣　沖繩縣 |
| 仙臺遞信局 | 仙臺市 | 宮城縣　新潟縣　福島縣　岩手縣　青森縣　山形縣　秋田縣 |
| 札幌遞信局 | 札幌市 | 北海道 |

（大正十三年十一月二十五日遞信省令第四十九號）

他ノ遞信省令中地方遞信官署官制ニ依ル官廳又ハ官ニ付定メタル規定ハ各之ヲ遞信局官制又ハ通信官署官制ニ依ル同一名ノ官廳又ハ官ニ付定メタル規定トス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●遞信局職員ニ在支那、香港又ハ新嘉坡帝國領事館附ヲ命スル件

（大正六年九月二十七日勅令第百六十八號）

（改正　大正一〇年第三一四號）

朕遞信局職員ニ在支那又ハ香港帝國領事館附ヲ命スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

遞信大臣ハ船舶檢査ノ爲遞信局職員ニ在支那、香港又ハ新嘉坡帝國領事館附ヲ命スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年勅令第二百六號ハ之ヲ廢止ス

## ●通信官署官制

（大正十三年十一月二十五日勅令第二百七十三號）

（改正　大正一四年第二八一號、一五年第一九二號、第二七九號）

朕通信官署官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

通信官署官制

第一條　通信官署ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、簡易生命保險、郵便年金、電信及電話ノ現業事務ヲ掌ル

第二條　通信官署ハ郵便局、電信局及電話局トス

第三條　郵便局ハ郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、簡易生命保險及郵便年金ノ現業事務ヲ、電信局ハ電信ノ現業事務ヲ、電話局ハ電話ノ現業事務ヲ掌ル

郵便局ハ電信及電話ノ現業事務ヲ、電信局ハ電話ノ現業事務ヲ兼掌スルコトヲ得

第四條　郵便局及電信局ヲ分テ一等、二等及三等トシ電話局ヲ分テ一等及二等トス

第五條　遞信大臣ハ郵便局ヲ指定シ區域ヲ定メテ現業監察ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第六條　郵便局、電信局及電話局ノ名稱、位置、等級及事務取扱ノ範圍ハ遞信大臣之ヲ定ム

第七條　遞信大臣ハ必要ナル在外各地ニ電信局ヲ設クルコトヲ得

第八條　遞信大臣ハ必要ナル各地ニ郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、簡易生命保險、郵便年金、電信又ハ電話ノ取扱所ヲ設クルコトヲ得

第九條　通信官署ニ左ノ職員ヲ置ク

通信事務官　專任九十七人　奏任
通信技師　專任二十二人　奏任
通信書記　專任五千八百六十一人　判任
通信技手　專任四百七十四人　判任
通信書記補　專任九千九百十五人　判任
三等郵便局長　判任
三等電信局長　判任

第十條　各局所ノ定員ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十一條　通信事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十二條　通信技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十三條　通信書記及通信書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第十四條　通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十五條　一等郵便局長、一等電信局長及一等電話局長ハ通信事務官ヲ以テ、二等郵便局長、二等電信局長及二等電話局長ハ通信書記ヲ以テ之ニ充ツ

一等電話局長ハ通信技師ヲ以テ、二等電話局長ハ通信技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十六條　三等郵便局長及三等電信局長ハ上司ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第十七條　通信事務官、通信技師、通信書記及通信技手ハ臨時命ヲ承ケ通信ニ關スル遞信省ノ事務ヲ助ク

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方遞信官署官制第十二條ニ揭クル職員ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ通信事務官ハ通信事務官ニ通信技師ハ通信技師ニ、通信書記ハ通信書記ニ、通信技手ハ通信技手ニ、通信書記補ハ通信書記補ニ、三等郵便局長ハ三等郵便局長ニ、三等電信局長ハ三等電信局長ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●三等郵便局及三等電信局通信手ニ關スル件

（大正六年十一月二十八日勅令第二百十五號）

（改正　大正一二年第二六九號）

朕三等郵便局及三等電信局通信手ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

三等郵便局又ハ三等電信局ニハ各局二人ヲ限リ通信手ヲ置クコトヲ得

通信手ハ判任官ノ待遇トス局長ノ指揮ヲ承ケ局務ニ從事ス

通信手ハ三等郵便局又ハ三等電信局ノ事務員トシテ三年以上在勤シ遞信大臣ノ定ムル銓衡規程ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ採用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●燈臺局官制

（大正十四年九月十二日勅令第二百八十二號）

朕燈臺局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

燈臺局官制

第一條　燈臺局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ燈臺其ノ他ノ航路標識ノ工事、保守及用品ノ作業ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　燈臺局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長　勅任又ハ奏任
技師　專任五人　奏任
書記　專任十三人　判任
技手　專任二十人　判任
看守　判任

第三條　局長ハ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七條　看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ從事ス其ノ定員ハ左ノ如シ

一等燈臺
二等燈臺　各三人
三等燈臺
四等燈臺
五等燈臺
六等燈臺
無等燈臺
燈竿
導燈
燈標
燈船
霧信號所
潮流信號所　各二人
通航信號所　各五人

他ノ航路標識ノ管理ニ屬スル航路標識ニハ前項ノ規定ニ拘ラス看守ヲ置カス

他ノ航路標識ヲ管理スル航路標識、船舶通報ニ關スル事務ヲ取扱フ航路標識及航路標識所在地外ニ吏員ヲ退息セシムル必要アル航路標識ニハ各看守二人以內ヲ增置スルコトヲ得

第一項及第三項ニ規定スルモノノ外遞信大臣必要ト認ムルトキハ俸給豫算定額內ニ於テ看守豫備員二十人以內ヲ置クコトヲ得

豫備員ハ燈臺局ノ事務ニ臨時從事セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

航路標識管理所官制ハ之ヲ廢止ス

明治二十八年勅令第百五十一號ハ之ヲ廢止ス

航路標識管理所職員ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ航路標識管理所長ハ燈臺局長ニ、航路標識管理所技師ハ燈臺局技師ニ、航路標識管理所書記ハ燈臺局書記ニ、航路標識管理所技手ハ

燈臺局技手ニ、航路標識看守ハ燈臺局看守ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●海員審判所職員定員及任用令

明治三十年四月十日
勅令第七十八號

改正　明治三〇年第四四九號、三一年第一六〇號、三二年第二六五號、三三年第一八二號、三四年第一一二號、四〇年第二一二號、四三年第一七一號
大正二年第二四二號、九年第四六〇號、一二年第三八八號、一四年第一四三號、一五年第一九三號

朕海員審判所、職員定員及任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

海員審判所職員定員及任用令

第一條　高等海員審判所職員定員ハ左ノ如シ

所長　一人
審判官　十三人
理事官　二人
書記　四人

第二條　地方海員審判所職員定員ハ各所ヲ通シテ左ノ如シ

所長　四人
審判官　二十八人
理事官　八人
書記　二十人

第三條　高等海員審判所長ハ勅任トシ遞信省高等官ヲ以テ之ヲ兼ネシム

高等海員審判所審判官ハ奏任トシ中十名ハ遞信部内ノ高等官又ハ文部省直轄商船專門學校ノ教授ヲシテ之ヲ兼ネシム

高等海員審判所理事官ハ奏任トシ中一名ハ遞信部内ノ高等官又ハ文部省直轄商船專門學校ノ教授ヲシテ之ヲ兼ネシム

高等海員審判所書記ハ判任トシ中三名ハ遞信局又ハ遞信局書記ヲシテ之ヲ兼ネシム

第四條　地方海員審判所長ハ奏任トシ遞信局高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム但シ遞信局長ヲシテ之ヲ兼ネシムル場合ニ於テハ勅任トス

地方海員審判所審判官ハ奏任トシ中十八名ハ遞信部内ノ高等官又ハ文部省直轄商船專門學校ノ教授ヲシテ之ヲ兼ネシム

地方海員審判所理事官ハ奏任トシ中三名ハ遞信部内ノ高等官又ハ文部省直轄商船專門學校ノ教授ヲシテ之ヲ兼ネシム

地方海員審判所書記ハ判任トシ中十二名ハ遞信局書記ヲシテ之ヲ兼ネシム

第五條　高等海員審判所審判官理事官及地方海員審判所審判官理事官ハ文官任用令第五條ノ規定ニ該當スル者、海軍高等武官海軍法務官判事檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者、海事ニ關スル遞信部内ノ高等官又ハ文部省直轄商船專門學校ノ教授ヨリ任用ス

## ●海員審判所事務章程

明治三十年六月十五日
勅令第百八十九號

朕海員審判所事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（遞信大臣副署）

海員審判所事務章程

第一條　審判所長ハ海員審判所ノ事務ヲ總理ス

審判所長故障アルトキハ審判官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ先ナル者之ヲ代理ス

第二條　審判所長ハ自ラ審判長ト爲リ若ハ審判官ニ審判長ヲ命スルコトヲ得

第三條　各審判事件ノ掛審判官ハ審判所長ノ指定ニ依ル

第四條　四日以上引續クヘキ見込アル審判ニ於テ審判所長ハ補充審判官一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充審判官ハ其ノ審判中或ル審判官ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第五條　審判官若ハ理事官差支アリテ同一審判所ノ審判官若ハ理事官中其ノ職務ヲ行フヘキ者ナキ場合ニ遞信大臣ニ於テ其ノ事件緊急ヲ要スト認ムルトキハ他ノ審判所ノ審判官若ハ理事官ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第六條　審判ノ公開ヲ停止スルノ決定ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡スヘシ此ノ場合ニ於テ裁決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第七條　審判ハ定數ノ審判官之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

評議ハ其ノ審判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顚末並各審判官ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

評議ノ際各審判官意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ審判長ヲ終トス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナル者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命審判官ヲ始トス

第八條　審判官ハ審判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　裁決及決定ハ過半數ノ意見ニ依ル其ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被審人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第十條　裁決ヲ言渡シタルトキハ審判所長ハ直ニ遞信大臣ニ裁決ノ謄本ヲ差出スヘシ

第十一條　理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シ取調ヲ爲シタル後審判ヲ要セスト思料スルトキハ理由ヲ具シ審判所長ヲ經由シテ遞信大臣ニ報告スヘシ

第十二條　審判所ニ於テ或ル事件ニ付審判ヲ開始セス若ハ繼續セスト決定シタルトキハ審判所長ハ之ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

第十三條　審判所長ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ事務取扱ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條　事務ノ執行ニ關シ遞信大臣ハ各審判所長ヲ監督シ高等海員審判所長ハ各地方海員審判所長ヲ監督ス

職務ノ執行ニ關シ高等海員審判所理事官ハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ地方海員審判所理事官ハ遞信大臣及高等海員審判所理事官ノ命令ニ從フ

## ●地方海員審判所名稱位置及管轄區域ニ關スル件

明治四十三年三月二十八日
勅令第九十四號

朕地方海員審判所ノ名稱、位置及管轄區域ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

地方海員審判所ノ名稱、位置及管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第二百六十四號ハ之ヲ廢止ス

## ●簡易生命保險審査會規程

大正五年八月十八日
勅令第二百七號

改正　大正八年第二八三號、九年第四六一號、一四年第二七四號
昭和二年第二〇三號

朕簡易生命保險審査會規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

簡易生命保險審査會規程

第一條　簡易生命保險審査會ハ遞信大臣ノ監督ニ屬シ簡易生命保險法第二十九條ノ規定ニ依リテ簡易生命保險ニ關スル事項ヲ、郵便年金法第十九條ノ規定ニ依リテ郵便年金ニ關スル事項ヲ審査ス

第二條　審査會ハ會長一人及委員十二人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ遞信次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

司法省民事局長
遞信省郵務局長
法制局高等官　一人
社會局部長　一人
司法省高等官　一人
商工省高等官　一人
遞信省高等官　一人
學識經驗アル者　五人

第四條　前條第三號乃至第八號ノ規定ニ依ル委員ハ遞信大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ遞信大臣ノ指定スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條　審査會ノ會議ハ委員過半數出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

審査會ノ議決ハ出席委員ノ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第七條　審査會ノ審査ノ裁決ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テシ之ヲ請求人ニ交付ス

第八條　審査會ニ幹事一人ヲ置ク遞信大臣ノ奏請ニ依リ遞信部内ノ高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條　審査會ニ書記二人ヲ置ク簡易保險局書記ノ中ヨリ遞信大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　會長、委員、幹事及書記ニハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第十一條　本令ニ規定スルモノノ外審査會ニ關シ必要ナル事項ハ遞信大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ簡易生命保險法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●簡易生命保險審査會規程施行細則

大正七年四月十日
遞信省令第二十一號

改正　大正九年第一〇五號
昭和二年第二一號

簡易生命保險審査會規程施行細則左ノ通定ム

簡易生命保險審査會規程施行細則

第一條　簡易生命保險法第二十九條又ハ郵便年金法第十九條ノ規定ニ依リ簡易生命保險審査會ノ審査ヲ受ケムトスル者ハ左記事項ヲ記載シタル審査請求書ニ記名調印シ證據書類アルトキハ之ヲ添附シ簡易生命保險審査會ニ差出スヘシ

一、請求人ノ住所、氏名又ハ名稱、生年月日及保險契約者、保險金受取人、年金契約者又ハ年金受取人ノ別
二、保險證書又ハ郵便年金證書ノ記號番號
三、請求ノ趣旨
四、請求ノ理由
五、證據方法
六、年月日

法定代理人ニ於テ審査請求ヲナス場合ハ其ノ資格ヲ證明スル文書ヲ添附シ法定代理人ニ於テ審査請求書ニ記名調印スヘシ

前二項ノ規定ハ審査請求ノ取下ニ之ヲ準用ス但シ第一項第四號及第五號ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　請求人數人アルトキハ其ノ一人ヲ代表者トスヘシ

前項ノ代表者ハ他ノ請求人ヲ代理スルモノトス

第三條　審査會ニ於テ審査請求書ヲ受ケタルトキハ其ノ謄本ヲ作成シ簡易保險局ニ送付スヘシ

第四條　簡易保險局ニ於テ前條ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキハ辨明書ヲ審査會ニ差出スヘシ

第五條　審査會ハ審査請求書及辨明書ニ就キ審査ス

審査會ニ於テ必要アリト認ムルトキハ鑑定書其ノ他ノ書類ヲ徵スルコトヲ得

第六條　審査會ノ裁決ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

一、請求人ノ住所、氏名又ハ名稱
二、法定代理人ニ依ル審査請求ノ場合ニ在リテハ其ノ代理人ノ住所氏名
三、保險證書又ハ郵便年金證書ノ記號番號
四、事實及爭點ノ要旨
五、裁決ノ趣旨
六、裁決ノ理由
七、年月日

第七條　審査會ノ裁決原本ハ會長ノ指定シタル委員之ヲ作成シ會長及出席委員之ニ記名調印スヘシ

第八條　簡易生命保險審査會規程第七條ノ裁決正本ハ前條ノ裁決原本ニ基キ審査會幹事之ヲ作成シ簡易生命保險審査會ノ印章ヲ押捺シ之ヲ請求人ニ交付シ其ノ謄本ヲ簡易保險局ニ交付スヘシ

第九條　審査請求カ簡易生命保險法又ハ郵便年金法ニ依リ其ノ審査請求ヲ爲スヘカラサルモノナルトキ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ却下スヘシ但シ手續ノ欠缺ハ之ヲ補正セシムルコトヲ妨ケス

第十條　審査會ノ裁決ヲ經タル事件ニ付テハ前條ノ規定ニ依リ却下セラレタル場合ヲ除クノ外審査會ノ再審査ヲ請求スルコトヲ得ス

第十一條　請求人裁決前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求ヲ受繼クモノトス

附　則

本令ハ大正七年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●船員職業紹介委員會官制

大正十二年八月二十八日
勅令第三百七十四號

朕船員職業紹介委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

船員職業紹介委員會官制

第一條　船員職業紹介委員會ハ船員職業紹介事業ノ經營ニ關スル事項ニ付遞信大臣ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申シ船員職業紹介事業ノ經營ニ關スル事項ニ付遞信大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條　船員職業紹介委員會ハ會長一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ遞信次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ遞信大臣ノ奏請ニ依リ船舶所有者及船員ノ利益ヲ代表シ得ル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ各同數ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ遞信大臣ノ指定シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　遞信大臣ハ必要ニ依リ又ハ船員職業紹介委員會ノ要求アルトキハ遞信省高等官其ノ他學識經驗アル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第六條　船員職業紹介委員會ニ幹事ヲ置ク遞信大臣ノ奏請ニ依リ遞信省高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　船員職業紹介委員會ニ書記ヲ置ク遞信省判任官ノ中ヨリ遞信大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣ニ於ケル郵便及電信ニ關スル事務監督ノ件

明治二十九年三月三十日
勅令第八十六號

朕臺灣ニ於ケル郵便及電信ニ關スル事務監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

臺灣ニ於ケル郵便及電信ニ關スル事務ハ遞信大臣ノ監督ニ屬セシム

附　則

本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

# 第十七款　鐵道省及其所管

## ●鐵道省官制

大正九年五月十五日
勅令第百四十四號

改正　大正九年第五五七號、一〇年第二六五號、第二七六號、一一年第二七五號、一二年第三〇號、一三年第一八六號、第三八六號、一四年第二九八號、一五年第二九六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ鐵道省官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

鐵道省官制

第一條　鐵道大臣ハ國有鐵道及其ノ附帶ノ業務ヲ管理シ地方鐵道及軌道ヲ監督ス

鐵道大臣ハ南滿洲鐵道株式會社ノ鐵道及航路ニ關スル業務ヲ監督ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外職員ノ養成保健、鐵道衞生ニ關スル事務及鐵道業務ニ關スル研究ヲ掌ル

第三條　鐵道省專任書記官ハ十八人ヲ以テ定員トス

第四條　鐵道省ニ左ノ七局ヲ置ク

監督局
運輸局
建設局
工務局
工作局
電氣局
經理局

第五條　監督局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　地方鐵道ノ免許及軌道ノ特許ニ關スル事項
二　地方鐵道及軌道ノ監督ニ關スル事項
三　地方鐵道ノ補助ニ關スル事項
四　南滿洲鐵道株式會社ノ鐵道及航路ノ監督ニ關スル事項

第六條　運輸局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　國有鐵道ノ運輸及其ノ附帶ノ業務ニ關スル事項
二　國有鐵道ト他ノ鐵道、軌道及航路トノ聯絡運輸ニ關スル事項

第七條　建設局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　新設線路ノ調査計劃ニ關スル事項
二　新設ノ線路及建造物ノ工事ニ關スル事項

第八條　工務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　土地、線路及建造物ノ保存及管理ニ關スル事項
二　線路及建造物ノ改良ニ關スル事項

第九條　工作局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　車輛ノ製作、保存及改良ニ關スル事項
二　工場作業ニ關スル事項

第九條ノ二　電氣局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　電氣設備ノ新設、保存及改良ニ關スル事項
二　電力ノ發生及配給ニ關スル事項

第十條　經理局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
二　會計ノ監査ニ關スル事項
三　本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

第十一條　削除

第十二條　鐵道省ニ專任事務官四十人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十三條　鐵道省ニ專任技師二百五人ヲ置ク奏任トス但シ内八人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十四條　鐵道省專任屬ハ九百十四人ヲ以テ定員トス

第十五條　鐵道省ニ專任技手千二百十七人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十六條　鐵道大臣ハ鐵道ノ建設、改良、工作又ハ電氣ニ關スル事務ヲ取扱フ爲必要アリト認ムルトキハ地方ニ事務所ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道院官制及大正二年勅令第七十五號ハ之ヲ廢止ス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中鐵道院トアルハ鐵道省、鐵道院總裁トアルハ鐵道大臣トス

### ●鐵道省鐵道醫ニ關スル件

大正八年五月三十一日
勅令第二百五十七號
改正　大正九年第一四八號、第五一七號

朕鐵道院鐵道醫ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　鐵道省ニ鐵道醫ヲ置ク

第二條　鐵道醫ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受ケ上司ノ指揮ヲ承ケ療養ニ從事ス

第三條　奏任官ノ待遇ヲ受クル鐵道醫ノ進退ハ奏任官ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任官ノ待遇ヲ受クル鐵道醫ノ進退ハ鐵道大臣之ヲ專行ス

第四條　鐵道醫ノ定員ハ鐵道大臣之ヲ定ム

第五條　鐵道醫ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但シ同官等內又ハ同等級內ニ於テハ文武官吏ノ次席トス

（別表）

奏任官ノ待遇ヲ受クル鐵道醫官等配當表

| 年俸 | 三等 | 四等 | 五等 | 六等 | 七等 | 八等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
|  | 四千五百圓以上ノモノ | 三千八百圓以上四千五百圓未滿ノモノ | 三千百圓以上三千八百圓未滿ノモノ | 二千四百圓以上三千百圓未滿ノモノ | 千六百圓以上二千四百圓未滿ノモノ | 千三百圓以上千六百圓未滿ノモノ |

判任官ノ待遇ヲ受クル鐵道醫等級配當表

| 月俸 | 一等 | 二等 | 三等 | 四等 |
|---|---|---|---|---|
|  | 百三十五圓以上ノモノ | 八十五圓以上百三十五圓未滿ノモノ | 五十五圓以上八十五圓未滿ノモノ | 五十五圓未滿ノモノ |

### ●鐵道醫ノ定員

大正十年六月四日
鐵道省告示第五十九號
改正　大正一一年第三五號、一二年第五八號、一四年第一一一號

鐵道醫ノ定員左ノ通定ム

大正八年五月內閣告示第八號ハ之ヲ廢止ス

奏任官ノ待遇ヲ受クルモノ　百三十五人
判任官ノ待遇ヲ受クルモノ　百四十二人

### ●鐵道局官制

大正九年五月十五日
勅令第百四十五號
改正　大正九年第五五八號、一〇年第二七七號、一一年第二七六號、一二年第三三一號、一三年第三八八號、一四年第二九九號、一五年第二九七號

朕鐵道局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

鐵道局官制

第一條　鐵道局ハ鐵道大臣ノ管理ニ屬シ其ノ管轄區域內ニ於ケル國有鐵道ノ現業事務及其ノ附帶ノ業務ヲ掌ル

鐵道局ハ鐵道大臣ノ指定スル鐵道ノ建設、改良又ハ工作ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　鐵道大臣ハ鐵道局ノ事務ヲ分掌セシムル爲地方官署ヲ置クコトヲ得

第三條　鐵道局ノ名稱、位置及管轄區域ハ鐵道大臣之ヲ定ム

第四條　鐵道局ニ左ノ職員ヲ置ク

|  |  |  |
|---|---|---|
| 局長 | 六人 | 勅任 |
| 參事 | 專任三十人 | 奏任 |
| 副參事 | 專任百四十八人 | 奏任 |
| 技師 | 專任三百十二人 | 奏任 |
| 書記 | 專任一萬千六百十一人 | 判任 |
| 技手 | 專任五千七百七十六人 | 判任 |

前項職員ノ外鐵道局ニ鐵道手ヲ置ク判任官ノ待遇トス其ノ定員ハ鐵道大臣之ヲ定ム

第五條　局長ハ鐵道大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第六條　參事及副參事ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第七條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第八條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十條　鐵道手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●鐵道會議官制

大正十一年七月二十七日
勅令第三百四十四號

朕鐵道會議官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、鐵道大臣副署）

鐵道會議官制

第一條　鐵道會議ハ鐵道大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應シ鐵道敷設法第四條ニ規定スル事項ヲ調査審議ス

前項ノ外鐵道會議ハ鐵道ニ關スル事項ニ付鐵道大臣ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ開申シ又ハ關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條　鐵道會議ハ議長一人及議員四十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時議員ヲ置クコトヲ得

第三條　議長ハ鐵道大臣ヲ以テ之ニ充ツ

議員及臨時議員ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ鐵道大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　議長ハ議事ヲ整理シ會務ヲ總理ス

議長事故アルトキハ鐵道大臣ノ指名シタル議員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　鐵道會議ニ幹事一人ヲ置ク鐵道省高

等官ノ中ヨリ鐵道大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　鐵道會議ニ書記ヲ置ク鐵道省判任官ノ中ヨリ鐵道大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道會議規則ハ之ヲ廢止ス

### ●南滿洲鐵道株式會社ノ鐵道及航路ニ關スル業務ノ監督ニ關スル件

大正九年五月十五日
勅令第百五十號

朕南滿洲鐵道株式會社ノ鐵道及航路ニ關スル業務ノ監督ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

南滿洲鐵道株式會社ノ鐵道及航路ニ關スル業務ニ付テハ關東長官ハ鐵道大臣ノ監督ヲ承ク

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第十八款　朝鮮總督府及其所管

### ●朝鮮總督府官制

明治四十三年九月三十日
勅令第三百五十四號
改正　明治四十四年第一三六號、四五年第二二號、大正二年第一一四號、四年第六〇號、五年第一九二號、六年第七八號、第二〇七號、七年第一六二號、八年第二四〇號、第三八六號、一〇年第二二號、第三五六號、一二年第二九六號、一三年第四一一號、一四年第八二號、一五年第一六二號
昭和二年第一九三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍大臣副署）

朝鮮總督府官制

第一條　朝鮮總督府ニ朝鮮總督ヲ置ク

總督ハ朝鮮ヲ管轄ス

第二條　總督ハ親任トス

第三條　總督ハ諸般ノ政務ヲ統理シ內閣總理大臣ヲ經テ上奏ヲ爲シ及裁可ヲ受ク

第三條ノ二　總督ハ安寧秩序ノ保持ノ爲必要ト認ムルトキハ朝鮮ニ於ケル陸海軍ノ司令官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第四條　總督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ朝鮮總督府令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、二百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第五條　總督ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第六條　總督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任文官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任文官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條　總督ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ敍位敍勳ヲ上奏ス

第八條　總督府ニ政務總監ヲ置ク

政務總監ハ親任トス

政務總監ハ總督ヲ輔佐シ府務ヲ統理シ各部局ノ事務ヲ監督ス

第九條　總督府ニ總督官房竝左ノ六局及一部ヲ置ク

內務局
財務局
殖産局
法務局
學務局
警務局
山林部

第十條　總督官房、各局及部ノ事務ノ分掌ハ總督之ヲ定ム

第十一條　總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

|  |  |  |
|---|---|---|
| 局長 | 六人 | 勅任 |
| 山林部長 | 一人 | 勅任 |
| 祕書官 | 專任二人 | 奏任 |
| 事務官 | 專任三十三人 | 奏任（內二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 山林事務官 | 專任一人 | 奏任 |
| 視學官 | 專任三人 | 奏任 |
| 編修官 | 專任四人 | 奏任 |
| 技師 | 專任三十八人 | 奏任（內三人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 通譯官 | 專任九人 | 奏任 |
| 屬 | 專任二百二十八人 | 判任 |
| 編修書記 | 專任五人 | 判任 |
| 技手 | 專任百十八人 | 判任 |
| 通譯生 | 專任三人 | 判任 |

第十二條　局長ハ各局ノ長ト爲リ總督及政務總監ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十三條　山林部長ハ總督及政務總監ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十四條　削除

第十五條　祕書官ハ總督ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル

第十七條　山林事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ林野ニ關スル事務ヲ掌ル

第十七條ノ二　視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ヲ掌ル

第十七條ノ三　編修官ハ上官ノ命ヲ承ケ教科用圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務ヲ掌ル

第十八條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十九條　通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第二十條　屬、編修書記、技手又ハ通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、教科用圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務、技術又ハ通譯ニ從事ス

第二十一條　削除

第二十二條　削除

第二十三條　學務局ニ觀測所ヲ置キ氣象ニ關スル事務ヲ掌ラシム

第二十四條　觀測所長ハ朝鮮總督府技師ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條　觀測所ノ名稱及位置ハ總督之ヲ定ム

第二十六條　殖産局ニ地質調査所ヲ置キ地質ノ調査ニ關スル事務ヲ掌ラシム

第二十七條　地質調査所長ハ朝鮮總督府技師ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第三百十九號ハ【其ノ官立學校ニ關スルモノヲ除クノ外】之ヲ廢止ス

附　則（大正八年勅令第三百八十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中朝鮮總督府各部長官トアルハ朝鮮總督府各局長、朝鮮總督府度支部長官トアルハ朝鮮總督府財務局長、朝鮮總督府農商工部長官トアルハ朝鮮總督府殖産局長、朝鮮總督府司法部長官トアルハ朝鮮總督府法務局長、朝鮮總督府ノ鐵道局長トアルハ朝鮮總督府鐵道部長トス

### ●朝鮮總督臨時代理ニ關スル件

昭和二年四月十三日
勅令第八十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督臨時代理ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督故障アルトキハ勅命ヲ以テ他ノ親任官ヲシテ臨時其ノ職務ヲ代理セシム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府部內臨時職員設置制

大正九年十月二十五日
勅令第四百九十七號
改正　大正一〇年第三一五號、一一年第三八七號、第四二九號、一二年第一六號、第二七四號、一四年第八三號、一五年第一四四號
昭和二年第一二八號

朕朝鮮總督府部內臨時職員設置制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府部內臨時職員設置制

第一條　朝鮮總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

一　建築及土木ニ關スル事務ニ從事スル者

|  |  |  |
|---|---|---|
| 土木事務官 | 專任四人 | 奏任 |
| 技師 | 專任二十七人 | （內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 屬<br>技手 | 專任百八十三人 |  |

二　國境附近ニ於ケル住民ノ撫育ニ關スル事務ニ從事スル者

|  |  |
|---|---|
| 事務官 | 專任一人 |
| 屬 | 專任九人 |

三　削除

四 砂防事業ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任一人
屬 專任一人
技手 專任三人
五 國有林調査ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任二人
屬 專任二人
技手 專任十一人
六 鑛區臨檢ニ關スル事務ニ從事スル者
屬 專任三人
技手 專任六人
七 鑛業登錄ニ關スル事務ニ從事スル者
屬 專任一人
八 燃料選鑛研究ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任六人
屬 專任一人
技手 專任五人
九 簡易國勢調査ニ關スル事務ニ從事スル者
屬 專任一人
十 租稅制度改正準備ニ關スル事務ニ從事スル者
事務官 專任一人
屬 專任三人

第二條 朝鮮總督府遞信官署ニ左ノ職員ヲ置ク
一 電信電話ノ整備ニ關スル事務ニ從事スル者
遞信技師 專任二人
遞信書記 專任三人
遞信技手 專任五人
遞信書記補 專任二人
二 發電水力調査ニ關スル事務ニ從事スル者
遞信技師 專任二人
遞信書記 專任一人
遞信技手 專任二人

第三條 朝鮮總督府道ニ左ノ職員ヲ置ク
一 耕地調査竝灌漑及開墾助成ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任七人
技手 專任十三人
二 砂防事業ニ關スル事務ニ從事スル者
技師 專任三人
屬 專任三人
技手 專任二十二人
三 租稅制度改正準備ニ關スル事務ニ從事スル者
屬 專任十三人

第四條 租稅制度改正準備ニ關スル事務ニ從事セシムル爲朝鮮總督府ニ左ノ職員ヲ置ク
屬 專任四人

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス
明治四十四年勅令第八十二號
明治四十五年勅令第二十三號
大正二年勅令第九十九號
大正七年勅令第百三十七號
大正七年勅令第三百七十一號
大正八年勅令第百三十七號
大正八年勅令第百五十五號
大正八年勅令第百五十六號
大正八年勅令第二百四十一號

### ●朝鮮總督府ニ土地改良部設置及臨時職員增置ノ件

（昭和二年五月二十六日勅令第百二十七號）

朕朝鮮總督府ニ土地改良部設置及臨時職員增置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條 朝鮮ニ於ケル土地改良ニ關スル事務ニ從事セシムル爲臨時朝鮮總督府ニ土地改良部ヲ置ク

第二條 朝鮮總督府ニ左ノ職員ヲ增置シ土地改良部ニ屬セシム
土地改良部長 一人 勅任
事務官 專任三人
技師 專任十二人
屬 專任十六人
技手 專任五十六人

第三條 土地改良部長ハ總督及政務總監ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府中樞院官制

（明治四十三年九月三十日勅令第三百五十五號）
改正 明治四五年第二七號
大正四年第六二號、一〇年第一六八號、一二年第二六一號、一三年第四一二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府中樞院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府中樞院官制

第一條 朝鮮總督府中樞院ハ朝鮮總督ニ隷シ朝鮮總督ノ諮詢ニ應スル所トス

前項ノ外朝鮮總督ハ中樞院ヲシテ朝鮮ニ於ケル舊慣及制度ニ關スル事項ヲ調査セシムルコトヲ得

第二條 中樞院ニ左ノ職員ヲ置ク
議長
副議長 一人 親任待遇
顧問 五人 親任待遇
參議 六十五人 （勅任待遇又ハ奏任待遇）
書記官長 勅任
書記官 專任一人 奏任
通譯官 專任一人 奏任
屬
通譯生 専任七人 判任

第三條 中樞院議長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ

議長ハ院務ヲ總管シ中樞院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス

中樞院副議長ハ議長ヲ補佐シ議長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第四條 顧問及參議ハ院議ヲ審定ス

第五條 削除

第六條 副議長、顧問及參議ハ朝鮮總督ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

副議長、顧問及參議ノ任期ハ三年トス但シ必要アル場合ニ於テハ任期中解任スルコトヲ妨ケス

第七條 副議長ニハ年額四千圓以內、顧問及參議ニハ三千圓以內ヲ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ手當トシテ支給ス但シ官吏ニシテ副議長、顧問又ハ參議タル者ニハ手當ヲ支給セス

第八條 削除

第九條 書記官長ハ朝鮮總督府ノ局長ヲシテ之ヲ兼ネシム議長ノ監督ヲ承ケ院務ヲ掌理ス

第十條 書記官ハ書記官長ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌ル

第十條ノ二 通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第十一條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ院務ニ從事ス

第十二條 通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

附 則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府遞信官署官制

（明治四十五年三月二十八日勅令第三十號）
改正 大正二年第九八號、三年第一一四號、四年第三九號、第六三號、五年第一一七號、六年第一六七號、七年第一六三號、八年第三五號、第一八四號、第三九〇號、九年第一三一號、第三〇四號、一〇年第三二號、第三一六號、一一年第三〇二號、一二年第二八〇號、一三年第四一三號、一四年第二九三號
昭和二年第二號

朕朝鮮總督府遞信官署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府遞信官署官制

第一條 朝鮮總督府遞信官署ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話、航路標識、海員ノ養成、發電水力及航空ニ關スル事務竝航路、船舶、海員、電氣事業及瓦斯事業ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

朝鮮總督ノ指定シタル遞信官署ハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ取扱フ歲入金歲出金及歲入歲出外現金ノ出納竝郵便物ノ出港稅ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 遞信官署ハ遞信局、郵便爲替貯金管理所、郵便局、電信局、電話局及郵便所トス

第三條 遞信局ハ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話、航路標識、海員ノ養成、發電水力及航空ニ關スル事務ヲ管理シ航路、船舶、海員、電氣事業及瓦斯事業ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 郵便爲替貯金管理所ハ郵便爲替貯金ノ檢査計算ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 郵便局及郵便所ハ郵便、郵便爲替及郵便貯金ノ事務ヲ、電信局ハ電信ノ事務ヲ、電話局ハ電話ノ事務ヲ掌ル

電信、電話又ハ海事ニ關スル事務ハ郵便局又ハ郵便所ヲシテ之ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六條 朝鮮總督ハ郵便局ヲ指定シ區域ヲ定メテ遞信局ノ管掌事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第七條 朝鮮總督ハ必要ナル地ニ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信又ハ電話ノ取扱所ヲ置キ航路標識其ノ他海事ニ關スル事務ヲ分掌セシムル爲遞信局出張所ヲ置クコトヲ得

第八條 郵便局、電信局、電話局及郵便所ノ名稱及位置竝航路標識ノ種別、名稱及位置ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第九條 遞信官署ニ左ノ職員ヲ置ク
遞信局長 勅任
遞信事務官 專任四人 奏任
遞信副事務官 專任十八人 奏任
遞信技師 專任二十八人 奏任（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
遞信書記
遞信技手
遞信書記補
航路標識看守 } 專任千三百五十一人 判任
郵便所長 判任

第十條 遞信局長ハ朝鮮總督ノ監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第十一條 削除

第十二條 遞信事務官及遞信副事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十三條 遞信技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十四條 遞信書記、遞信技手、遞信書記補及航路標識看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術及航路標識ノ看守ニ從事ス

第十五條 郵便爲替貯金管理所長ハ遞信副事務官ヲ以テ之ニ充ツ遞信局長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第十六條 郵便局長、電信局長及電話局長ハ遞信副事務官又ハ遞信書記ヲ以テ之ニ充ツ遞信局長ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第十七條 郵便所長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

附 則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府通信官署官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ朝鮮總督府通信局長官、通信局書記官、通信事務官、通信事務官補、通信技師、通信書記、通信技手、通信書記補、航路標識看守又ハ郵便所長ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用ヰス朝鮮總督府遞信局長官、遞信局書記官、遞信事務官、遞信事務官補、遞信技師、遞信書記、遞信技手、遞信書記補、航路標識看守又ハ郵便所長ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

### ●朝鮮總督府海員審判所官制

（大正三年四月七日勅令第五十號）

朕朝鮮總督府海員審判所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

朝鮮總督府海員審判所官制

第一條 朝鮮總督府海員審判所ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬シ海員ノ審判ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 海員審判所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長 一人
審判官 六人
理事官 二人
書記 三人

第三條 所長ハ朝鮮總督府遞信官署高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

審判官ハ內四人ハ朝鮮總督府遞信官署高等官、內二人ハ朝鮮總督府判事ノ中ヨリ之ヲ命ス

理事官ハ朝鮮總督府遞信官署高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

書記ハ朝鮮總督府遞信官署判任官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第四條 所長ハ海員審判所ノ事務ヲ總理ス

所長ハ海員ノ審判ヲ掌ル

第五條 審判官ハ海員ノ審判ヲ掌ル

理事官ハ審判開始ノ申立ヲ爲シ其ノ他審判ニ關スル事務ヲ掌ル

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 審判ハ所長審判官ノ內三人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第七條 海員審判所ノ事務處理ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府鐵道局官制

（大正十四年四月一日勅令第八十四號）

朕朝鮮總督府鐵道局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府鐵道局官制

第一條 朝鮮總督府鐵道局ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ朝鮮ニ於ケル國有鐵道及其ノ附帶ノ業務竝私設鐵道及軌道ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鐵道局ニ左ノ職員ヲ置ク
局長 勅任
理事 專任一人 勅任
參事 專任七人 奏任
副參事 專任二十二人 奏任
技師 專任五十五人 奏任（內三人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
書記 專任八百九十人 判任
技手 專任五百九十九人 判任

前項職員ノ外鐵道局ニ鐵道手ヲ置ク判任官ノ待遇トス其ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三條 局長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條 理事ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

理事ハ局長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 參事及副參事ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第六條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九條 鐵道手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事ス

第十條 朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ出張所ヲ置キ鐵道局ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十一條 鐵道局ニ鐵道從事員養成所ヲ附置ス

第十二條 鐵道從事員養成所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長
教諭 專任十四人 判任（內二人ヲ奏任ト爲スコトヲ得）
舍監
書記 專任二人 判任

所長ハ鐵道局部內ノ高等官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス

第十三條 所長ハ鐵道局長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第十四條 教諭ハ所長ノ指揮ヲ承ケ教育ヲ掌ル

第十五條 舍監ハ教諭ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス所長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ノ事ヲ掌ル

第十六條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府鐵道局鐵道醫及鐵道藥劑師ニ關スル件

（大正十五年六月二十五日勅令第二百二十三號）

朕朝鮮總督府鐵道局鐵道醫及鐵道藥劑師ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條 朝鮮總督府鐵道局ニ鐵道醫及鐵道藥劑師ヲ置ク

第二條 鐵道醫及鐵道藥劑師ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トス

鐵道醫ハ上司ノ指揮ヲ承ケ療養ニ從事ス

鐵道藥劑師ハ上司ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第三條　奏任官ノ待遇ヲ受クル鐵道醫及鐵道藥劑師ノ進退ハ奏任官ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任官ノ待遇ヲ受クル鐵道醫及鐵道藥劑師ノ進退ハ朝鮮總督之ヲ專行ス

第四條　鐵道醫及鐵道藥劑師ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五條　鐵道醫及鐵道藥劑師ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ第一表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但シ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席トス

第六條　鐵道醫及鐵道藥劑師ノ俸給ハ第二表ニ依ル但シ月俸七十五圓未滿ノ者ニ限リ各所定ノ最低額ヲ下ラサル範圍内ニ於テ適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ給スルコトヲ得

第七條　奏任官ノ待遇ヲ受クル鐵道醫及鐵道藥劑師ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ特ニ功勞アル者ニハ年額七百圓以内ヲ加給スルコトヲ得

判任官ノ待遇ヲ受クル鐵道醫及鐵道藥劑師ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務鍊熟優等ナル者ニハ月額四十圓以内ヲ加給スルコトヲ得

第八條　奏任官ノ待遇ヲ受クル鐵道醫及鐵道藥劑師ニシテ鐵道醫ニ在リテハ七級俸以上、鐵道藥劑師ニ在リテハ四級俸以上ノ俸給ヲ受クル者竝判任官ノ待遇ヲ受クル鐵道醫及鐵道藥劑師ニシテ五級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ昇級スルコトヲ得ス

第九條　朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令ハ鐵道醫及鐵道藥劑師ニ之ヲ準用ス

第十條　俸給ノ支給ニ關シテハ高等官及判任官ノ俸給支給ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一表）

奏任官待遇者官等配當

| | 三等 | 四等 | 五等 | 六等 | 七等 | 八等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 鐵道醫 | 一級俸 | 二級俸<br>三級俸 | 四級俸<br>五級俸 | 六級俸<br>七級俸 | 八級俸<br>九級俸<br>十級俸 | 十一級俸<br>十二級俸 |
| 鐵道藥劑師 | ● | | 一級俸 | 二級俸<br>三級俸<br>四級俸 | 五級俸<br>六級俸<br>七級俸 | 八級俸<br>九級俸<br>十級俸 |

判任官待遇者等級配當

| | 一等 | 二等 | 三等 | 四等 |
|---|---|---|---|---|
| 鐵道醫<br>鐵道藥劑師 | 一級俸<br>二級俸 | 三級俸<br>四級俸<br>五級俸 | 六級俸<br>七級俸<br>八級俸<br>月俸七十五圓未滿五十圓以上 | 九級俸<br>十級俸<br>月俸五十圓未滿 |

（第二表）

奏任官待遇者年俸

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 | 十二級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 鐵道醫 | 四、五〇〇圓 | 四、一〇〇圓 | 三、八〇〇圓 | 三、四〇〇圓 | 三、一〇〇圓 | 二、七〇〇圓 | 二、四〇〇圓 | 二、〇〇〇圓 | 一、八〇〇圓 | 一、六〇〇圓 | 一、四〇〇圓 | 一、二〇〇圓 |
| 鐵道藥劑師 | 三、一〇〇圓 | 二、七〇〇圓 | 二、四〇〇圓 | 二、二〇〇圓 | 二、〇〇〇圓 | 一、八〇〇圓 | 一、六〇〇圓 | 一、四〇〇圓 | 一、二〇〇圓 | 一、一〇〇圓 | | |

判任官待遇者月俸

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 鐵道醫<br>鐵道藥劑師 | 一六〇圓 | 一三五圓 | 一一五圓 | 一〇〇圓 | 八五圓 | 七五圓 | 六五圓 | 五五圓 | 五〇圓 | 四五圓 |

## ●朝鮮總督府鐵道局鐵道醫及鐵道藥劑師ノ加俸及定員ニ關スル件

大正十五年六月二十九日
朝鮮總督府令第五十八號
改正　昭和二年第四二號

朝鮮總督府鐵道局鐵道醫及鐵道藥劑師ノ加俸及定員ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　大正十五年勅令第二百二十三號第九條ノ規定ニ依リ朝鮮總督府鐵道局ノ鐵道醫及鐵道藥劑師ニ支給スヘキ加俸ニ付テハ官吏ノ例ニ依ル但シ必要アリト認ムルトキハ減額支給スルコトヲ得

第二條　朝鮮總督府鐵道局ノ鐵道醫及鐵道藥劑師ノ定員ハ左ノ通トス

| | | |
|---|---|---|
| 鐵道醫 | 奏任官ノ待遇ヲ受クルモノ | 八人 |
| | 判任官ノ待遇ヲ受クルモノ | 八人 |
| 鐵道藥劑師 | 奏任官ノ待遇ヲ受クルモノ | 一人 |
| | 判任官ノ待遇ヲ受クルモノ | 一人 |

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府專賣局官制

大正十年三月三十一日
勅令第五十三號
改正　大正一一年第三〇一號、一二年第二四八號、一三年第四一四號、一四年第二三五號
昭和二年第二一三號

朕朝鮮總督府專賣局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府專賣局官制

第一條　朝鮮總督府專賣局ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ニ關スル事務ヲ掌ル

一　煙草ノ耕作、調査、收納、製造、販賣、輸入、移入、輸出、移出、試驗、鑑定及取締ニ關スル事項

二　鹽ノ製造、販賣、試驗及鑑定ニ關スル事項

三　人蔘ノ耕作收納、紅蔘ノ製造販賣鑑定竝人蔘及紅蔘ノ試驗取締ニ關スル事項

第二條　朝鮮總督府專賣局ハ之ヲ京城ニ置ク

地方ニ專賣支局ヲ置キ專賣局ノ事務ヲ分掌セシム

專賣支局ノ名稱位置ハ別表ニ依ル

專賣支局ノ管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三條　專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 局長 | | 勅任 |
| 事務官 | 專任七人 | 奏任 |
| 副事務官 | 專任十二人 | 奏任 |
| 技師 | 專任十二人 | 奏任 |
| 屬<br>技手 | 專任四百七十九人 | 判任 |

第四條　局長ハ朝鮮總督ノ監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

事務官及副事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五條　專賣支局ニ支局長ヲ置ク事務官又ハ副事務官ヲ以テ之ニ充ツ

支局長ハ局長ノ命ヲ承ケ支局ノ事務ヲ掌理ス

支局長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第六條　朝鮮總督ハ必要アリト認ムル地方ニ專賣局又ハ專賣支局ノ出張所ヲ置クコトヲ得

出張所ニ出張所長ヲ置ク副事務官、技師、屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

出張所長ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

附　則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

專賣支局名稱位置

| 名稱 | 位置 |
|---|---|
| 京城專賣支局 | 京畿道京城府 |
| 全州專賣支局 | 全羅北道全州郡全州面 |
| 大邱專賣支局 | 慶尚北道大邱府 |
| 平壤專賣支局 | 平安南道平壤府 |

## ●朝鮮總督府税關官制

明治四十三年九月三十日
勅令第三百六十二號
改正　明治四四年第八七號、四五年第三二號
大正二年第六八號、三年第七〇號、第一三八號、五年第二一〇號、六年第一八二號、七年第一一四號、八年第一三九號、九年第三〇五號、一〇年第二三四號、一一年第四五四號、一二年第二八一號、一三年第四一五號、一五年第一二七號
昭和二年第一七五號

朕朝鮮總督府税關官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府税關官制

第一條　朝鮮總督府税關ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

一　關税、噸税、移入税、出港税及税關諸收入ニ關スル事項

二　保税倉庫、假置場其ノ他ノ保税地域ニ關スル事項

三　船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項

四　關税、噸税、移入税、出港税等ニ關スル犯則處分ニ關スル事項

五　關税通路ノ取締ニ關スル事項

六　輸入又ハ移入ノ貨物ノ消費税及輸出又ハ移出ノ貨物ノ交付金ニ關スル事項

前項ノ外朝鮮總督ノ指定スル税關ニ於テハ輸出及移出ノ海藻及水産製造品ノ品質檢査竝輸入及移入ノ苗木類ノ消毒ニ關スル事項ヲ掌ル

第二條　左ノ三港ニ税關ヲ置ク

| | |
|---|---|
| 京畿道 | 仁川 |
| 慶尚南道 | 釜山 |
| 平安北道 | 新義州 |

第三條　税關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 税關長 | 三人 | 奏任 |
| 關税官 | 專任五人 | 奏任 |
| 鑑査官 | 專任二人 | 奏任 |
| 技師 | 專任一人 | 奏任 |
| 事務官補<br>監視<br>鑑査官補<br>技手<br>監吏 | 專任二百四十七人 | 判任 |

第四條　税關長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ税關ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第五條　削除

第六條　關税官ハ上官ノ命ヲ承ケ税關ノ事務ヲ掌ル

第七條　鑑査官ハ上官ノ命ヲ承ケ貨物ノ檢査鑑定ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第九條、第十條　削除

第十一條　事務官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

監視ハ上官ノ指揮ヲ承ケ關税警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

鑑査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ檢査鑑定ニ從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ關税警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十二條　税關ノ管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

朝鮮總督ハ税關ノ管轄區域内ニ於テ必要ト認ムル地ニ税關支署又ハ税關監視署ヲ置クコトヲ得

税關支署又ハ税關監視署ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條　税關支署ニ支署長ヲ置ク關税官又ハ事務官補ヲ以テ之ニ充ツ

税關支署長ハ税關長ノ命ヲ承ケ其ノ管轄區域内ニ於ケル税關事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第十四條　税關監視署ニ署長ヲ置ク監視又ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ

税關監視署長ハ税關長又ハ税關支署長ノ指揮ヲ承ケ關税警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十五條　朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ税關出張所ヲ置キ税關事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第十三條ノ規定ハ税關出張所ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府營林署官制

大正十五年六月十四日
勅令第百六十三號
改正　昭和二年第一七六號

朕朝鮮總督府營林署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府營林署官制

第一條　朝鮮總督府營林署ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ國有林野ニ付施業計畫及森林產物ノ處分ヲ除クノ外營林ノ實行ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　營林署ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 署長 | | |
| 山林事務官 | 專任一人 | 奏任 |
| 技師 | 專任五人 | 奏任 |
| 屬 | 專任十六人 | 判任 |
| 技手 | 專任七十八人 | 判任 |
| 森林主事 | 專任二百七十七人 | 判任 |

第三條　署長ハ山林事務官、技師、屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第四條　山林事務官ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

技師ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

技手ハ署長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ營林及林野保護ノ事務ニ從事ス

第六條　營林署ノ名稱、位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第七條　特別ノ必要アルトキハ朝鮮總督ハ營林署ヲシテ第一條ニ揭クル事務ノ外國有林野ニ關スル事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八條　鴨綠江及豆滿江ノ流域ヲ管轄スル營林署ハ第一條ニ揭クル事務ノ外同江ノ漂流材木ニ關スル水難救護ノ事務ヲ掌ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府營林廠官制ハ之ヲ廢止ス

## ●朝鮮總督府醫院官制

明治四十三年九月三十日
勅令第三百六十八號
改正　大正二年第五六號、三年第一一六號、第一四七號、五年第一一九號、八年第一四二號、九年第四四九號、一〇年第三五七號

朕朝鮮總督府醫院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府醫院官制

第一條　朝鮮總督府醫院ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ疾病ノ診療、傳染病地方病ノ調査研究及助產婦看護婦ノ養成ニ關スル事ヲ掌ル

第二條　削除

第三條　醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 院長 | | 勅任 |
| 醫官 | 專任十七人 | 奏任（内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |

技師　專任一人　奏任
教官　專任一人　奏任
事務官　專任一人　奏任
藥劑官　專任一人　奏任
醫員　專任二十四人　判任
書記　專任五人　判任
藥劑手　專任五人　判任
看護婦長　專任一人　判任
助手　專任一人　判任

第四條　院長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

院長ハ診療、傳染病地方病ノ調査研究及助産婦看護婦ノ養成ニ關スル事項ヲ掌理ス

第五條　醫官ハ院長ノ命ヲ承ケ診療、傳染病地方病ノ調査研究及助産婦看護婦ノ養成ニ關スル事項ヲ掌ル

第六條　技師ハ院長ノ命ヲ承ケ傳染病地方病ノ調査研究ニ關スル事項ヲ掌ル

第六條ノ二　教官ハ院長ノ命ヲ承ケ助産婦及看護婦ノ養成ニ關スル事項ヲ掌ル

第七條　事務官ハ院長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第八條　藥劑官ハ院長ノ命ヲ承ケ藥品、醫療器械及治療材料ニ關スル事項ヲ掌ル

第九條　醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ診療、傳染病地方病ノ調査研究及助産婦看護婦ノ養成ニ從事ス

第十條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條　削除

第十二條　藥劑手ハ上官ノ命ヲ承ケ藥品、醫療器械及治療材料ニ關スル事項ニ從事ス

第十二條ノ二　看護婦長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫院ニ於ケル看護ニ關スル事項ニ從事ス

第十三條　助手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ診療、傳染病地方病ノ調査研究及藥劑ノ事務ヲ助ク

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府濟生院官制

（明治四十五年三月二十八日勅令第四十三號）
改正　大正二年第五七號、一〇年第一八四號、一一年第三二二號

朕朝鮮總督府濟生院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府濟生院官制

第一條　朝鮮總督府濟生院ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ孤兒ノ養育及盲啞者ノ教育ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　濟生院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
主事　專任　二人　奏任
書記・調導　專任　十五人　判任

第三條　院長ハ朝鮮總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ

院長ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第四條　主事ハ院長ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　調導ハ上官ノ指揮ヲ承ケ授業ニ從事ス

第七條　濟生院ハ必要ニ應シ分院ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府感化院官制

（大正十二年八月二十九日勅令第三百八十二號）

朕朝鮮總督府感化院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府感化院官制

第一條　朝鮮總督府感化院ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ朝鮮感化令第一條ノ規定ニ該當スル者ノ感化ヲ掌ル

第二條　朝鮮總督府感化院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
教諭　專任三人　內一人奏任　二人判任
書記　專任一人　判任

第三條　院長ハ奏任官タル教諭ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　教諭ハ在院者ノ感化ヲ掌ル

第五條　書記ハ院長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　感化院ノ名稱ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府警察官講習所官制

（大正八年八月二十日勅令第三百八十八號）
改正　大正一〇年第一九九號、一三年第四二六號

朕朝鮮總督府警察官講習所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府警察官講習所官制

第一條　朝鮮總督府警察官講習所ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ警察官吏又ハ警察官吏タルヘキ者ニ警察ニ關スル學術及其ノ運用並實務ヲ教授スル所トス

第二條　警察官講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
教授　專任四人　奏任
助教授　專任四人　判任
書記　專任二人　判任

第三條　所長ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　教授及助教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　講習生ニ充ツル爲警察官講習所ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府中央試驗所官制

（明治四十五年三月二十八日勅令第三十六號）
改正　大正二年第一〇〇號、四年第六五號、第一〇〇號、五年第九九號、七年第一〇〇號、九年第四七二號、一〇年第二三五號、一一年第二四九號、一二年第二〇三號、一三年第四二三號
昭和二年第一七八號

朕朝鮮總督府中央試驗所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府中央試驗所官制

第一條　朝鮮總督府中央試驗所ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ工業及衞生ニ關スル試驗、分析及鑑定ノ事務ヲ掌ル

第二條　中央試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師　專任六人　奏任（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
屬　專任一人　判任
技手　專任十人　判任

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師及技手ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五條　屬ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ中央試驗所ノ支所又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府工業傳習所官制ハ之ヲ廢止ス

## ●朝鮮總督府勸業模範場官制

（明治四十三年九月三十日勅令第三百七十號）
改正　明治四四年第八八號、四五年第三五號
大正三年第一三二號、五年第七九號、七年第四七號、八年第一四一號、九年第四七三號、一〇年第二九三號、一一年第二五八號、一二年第二〇二號、一三年第四二二號、一四年第四二二號

朕朝鮮總督府勸業模範場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府勸業模範場官制

第一條　朝鮮總督府勸業模範場ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

一　産業ノ發達改良ニ資スル調査及試驗
二　物産ノ調査並産業上必要ナル物料ノ分析及鑑定
三　種子、種苗、種禽及種畜ノ配付
四　原蠶種ノ製造及配付
五　産業上ノ指導、講習及通信

第二條　勸業模範場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長
技師　專任十一人　奏任（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）

屬　專任七人　判任
技手　專任二十二人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ場中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第四條　技師ハ場長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ從事ス

第六條　朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ勸業模範場ノ支場又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府林業試驗場官制

（大正十一年八月二十三日勅令第三百八十七號）
改正　大正一三年第四一七號、一四年第二〇九號、一五年第一六四號
昭和二年第一七七號

朕朝鮮總督府林業試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府林業試驗場官制

第一條　朝鮮總督府林業試驗場ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　林業ニ關スル調査及試驗
二　林業ニ關スル分析及鑑定
三　造林用種苗ノ配付
四　林業ニ關スル講習及講話

第二條　林業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長
技師　專任四人　奏任
屬　專任二人　判任
技手　專任十八人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬及技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ從事ス

第六條　朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ林業試驗場ノ支場又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府部內臨時職員設置制第一條中第八號ヲ削リ第九號ヲ第八號トシ以下順次繰上ク

## ●朝鮮總督府水産試驗場官制

（大正十年五月七日勅令第二百號）
改正　大正一一年第三二三號、一三年第四二四號

朕朝鮮總督府水産試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府水産試驗場官制

第一條　朝鮮總督府水産試驗場ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　水産ニ關スル試驗及調査
二　水産ニ關スル分析及鑑定
三　養殖用種苗ノ配付
四　水産ニ關スル講習及講話

第二條　水産試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長
技師　專任三人　奏任
技手　專任十二人　判任
屬　專任二人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　朝鮮總督ハ必要ト認ムル地ニ水産試驗場ノ支場又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府獸疫血清製造所官制

（大正七年三月二十九日勅令第三十一號）
改正　大正八年第八四號、一〇年第二五七號、一一年第二五九號、一二年第二三三號、一三年第四二五號、一五年第一三七號

朕朝鮮總督府獸疫血清製造所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

朝鮮總督府獸疫血清製造所官制

第一條　朝鮮總督府獸疫血清製造所ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　家畜傳染病ノ豫防接種液及血清ノ製造並試驗ニ關スル事項
二　家畜傳染病ノ調査及試驗ニ關スル事項
三　痘苗ノ製造及試驗ニ關スル事項
四　家畜傳染病ノ豫防接種液及血清、痘苗並其ノ副産物ノ配付及販賣ニ關スル事項

第二條　獸疫血清製造所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師　專任六人　奏任
屬・技手　專任十二人　判任

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

牛疫血清製造所官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ牛疫血清製造所技師、技手又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各朝鮮總督府獸疫血清製造所技師、技手又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●朝鮮總督府地方官官制

（明治四十三年九月三十日勅令第三百五十七號）
改正　明治四五年第三七號
大正二年第五五號、三年第一三三號、四年第六六號、第一一七號、五年第六〇號、第一八七號、六年第五五號、第一五九號、七年第九七號、八年第二七五號、第三九一號、九年第一六五號、第四五〇號、一〇年第二三號、第三五九號、一一年第一八〇號、第三七二號、一二年第二五六號、一三年第四一八號、一四年第八五號、第二一〇號、一五年第一六五號
昭和二年第二〇四號

朕朝鮮總督府地方官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府地方官官制

第一條　朝鮮ニ左ノ道ヲ置ク

京畿道
忠清北道
忠清南道
全羅北道
全羅南道
慶尙北道
慶尙南道
黄海道
平安南道
平安北道
江原道
咸鏡南道
咸鏡北道

道ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二條　道ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

知事　十三人　勅任
參與官　十三人　勅任又ハ奏任
事務官　三十九人　奏任
理事官　專任四十二人　奏任
警視　專任五十二人　奏任
通譯官　專任一人　奏任
港務醫官　專任一人　奏任
獸醫官　專任四人　奏任
技師　專任四十六人　奏任
屬　專任四百六十六人　判任
視學　專任二十六人　判任
警部　專任四百二十八人　判任
港務醫官補　專任六人　判任
獸醫官補　專任六人　判任
技手　專任三百三十七人　判任
警部補　專任七百八十一人　判任

第三條　參與官ハ各道一人、事務官ハ各道三人ヲ以テ定員トス

通譯官ハ平安南道ニ專任一人、港務醫官ハ慶尙南道ニ專任一人、獸醫官ハ京畿道、慶尙南道、咸鏡南道及咸鏡北道ニ各專任一人ヲ置ク

理事官、警視、技師及前條ニ掲クル判任官ノ各道ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四條　大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ俸給最低額ヨリ低キ俸給ヲ受クル技師及技手ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル職務ノ職員ノ

定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第五條　知事ハ朝鮮總督ニ隸シ法令ヲ執行シ管內ノ行政事務ヲ管理シ所屬官吏ヲ指揮監督ス

所部ノ判任官以下ノ進退ハ知事之ヲ行フ

第六條　知事ハ管內ノ行政事務ニ關シ職權又ハ委任ノ範圍內ニ於テ道令ヲ發スルコトヲ得

第七條　知事ハ府尹、郡守又ハ島司ノ命令又ハ處分ニシテ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第八條　知事ハ安寧秩序ヲ保持スル爲兵力ヲ要スルトキハ之ヲ朝鮮總督ニ具狀スヘシ但シ非常急變ノ場合ニ際シテハ直ニ當該地方駐在軍隊ノ司令官ニ出兵ヲ要求スルコトヲ得

第九條　知事事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ事務官其ノ職務ヲ代理ス

第十條　知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府尹、郡守、島司又ハ警察署長ニ委任スルコトヲ得

第十一條　參與官ハ知事ノ諮問ニ應シ又ハ臨時命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十二條　各道ニ知事官房、內務部、財務部及警察部ヲ置ク

官房及各部ノ事務分掌ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條　部長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ知事ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

警察部長ハ警察及衞生事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ警視、警部、警部補、巡查及消防手ヲ指揮監督ス

第十三條ノ二　各道ニ視學官ヲ置キ理事官ヲ以テ之ニ充ツ

視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル事務ヲ掌ル

第十四條　理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ道務ヲ掌ル

第十五條　通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第十五條ノ二　警視ハ知事ノ命ヲ承ケ警察及衞生事務ヲ分掌シ部下ノ警部、警部補、巡查及消防手ヲ指揮監督ス

第十五條ノ三　削除

第十五條ノ四　港務醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ海港檢疫及醫務ヲ掌ル

第十五條ノ五　獸醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫、檢查及醫務ヲ掌ル

第十五條ノ六　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十六條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ニ從事ス

警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衞生事務ニ從事シ部下ノ警部補、巡查及消防手ヲ指揮監督ス

港務醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ海港檢疫及醫務ニ從事ス

獸醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫、檢查及醫務ニ從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衞生事務ニ從事シ部下ノ巡查及消防手ヲ指揮監督ス

第十六條ノ二　各府郡島ニ警察署、京城府ニ消防署ヲ置ク但シ朝鮮總督ハ地方ノ必要ニ應シ別ニ區域ヲ定メテ警察署ヲ置クコトヲ得

警察署及消防署ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十六條ノ三　警察署長及消防署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ管內ノ警察及衞生事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

消防署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ管內ノ消防事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十六條ノ四　各道ニ巡查ヲ置ク判任官ノ待遇トス

京畿道ニ消防手ヲ置ク判任官ノ待遇トス

消防手ハ消防署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

巡查及消防手ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十七條　道ニ府、郡及島ヲ置ク

府、郡及島ノ名稱、位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十八條　府郡島ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

府尹　十二人　奏任
郡守　二百十八人　奏任
島司　二人　奏任
屬　專任二千三百七十三人　判任
技手　專任百二十七人　判任
通譯生　專任二人　判任
稅務吏　專任八十人　判任
森林主事　專任七十七人　判任

前項職員ノ外京城府ニ理事官專任四人及技師專任一人、釜山府ニ理事官專任二人、大邱府及平壤府ニ理事官各專任一人ヲ置ク理事官及技師ハ奏任トス

第十九條　各府郡島ニ於ケル屬、技手、通譯生、稅務吏及森林主事ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十條　第四條ノ規定ハ府郡島ノ技師及技手ノ定員ニ付之ヲ準用ス

第二十一條　府尹、郡守又ハ島司ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法令ヲ執行シ管內ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

府尹、郡守又ハ島司事故アルトキハ知事ノ指定シタル府郡島ノ屬各其ノ職務ヲ代理ス但シ理事官ヲ置キタル府ニ在リテハ理事官府尹ノ職務ヲ代理ス

第二十一條ノ二　理事官ハ府尹ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十一條ノ三　島司ハ管內ノ行政事務ニ關シ法令ニ依リ又ハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付島令ヲ發スルコトヲ得

第二十二條　屬、技手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術及通譯ニ從事ス

稅務吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ徵稅ニ關スル事務ニ從事ス

森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ國有林野以外ノ林野ノ保護ノ事務ニ從事ス

第二十二條ノ二　知事ハ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ島支廳ヲ置クコトヲ得

支廳長ハ島屬ヲ以テ之ニ充ツ

支廳長ハ島司ノ指揮ヲ承ケ知事ノ定ムル所ニ依リ支廳主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第二十三條　削除

第二十四條　削除

第二十五條　各郡島ニ面ヲ置ク

面ニ面長ヲ置ク判任官ノ待遇トス但シ五十人ヲ限リ之ヲ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

面長ハ郡守又ハ島司ノ指揮ヲ承ケ面內ノ行政事務ヲ補助執行ス

面及面長ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十六條　全羅南道ニ慈惠醫院ヲ附置ス

慈惠醫院ハ癩ノ診療ニ關スルコトヲ掌ル

醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長
醫官　專任一人　奏任
醫員　專任四人　判任
書記　專任一人　判任
藥劑手　專任一人　判任

第二十七條　院長ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ知事ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第二十八條　醫官ハ院長ノ命ヲ承ケ醫務ヲ掌ル

醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

藥劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第二十九條　消防手ノ俸給其ノ他ノ給與其ノ他消防署ニ關スル經費ハ國庫ニ屬スルモノヲ除クノ外京畿道地方費ノ支辨トス

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正四年勅令第六十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

他ノ官制中府尹又ハ郡守トアルハ之ヲ府尹、郡守又ハ島司トス・

附　則（大正八年勅令第三百九十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ朝鮮總督府道長官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ朝鮮總督府道知事ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

當分ノ內第三部長ハ警視ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中朝鮮總督府ノ道長官トアルハ道知事トス

## ●朝鮮地方待遇職員令

大正九年十一月二十日　勅令第五百四十一號

改正　大正一〇年第三〇五號、一一年第二六〇號、一二年第五〇六號、一三年第二四八號、一四年第八七號、一五年第三三五號

朕朝鮮地方待遇職員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮地方待遇職員令

第一條　地方土木ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲道地方費又ハ府費ヲ以テ各道又ハ府ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
土木主事　專任十八人以內　奏任官待遇
土木書記　專任百七十四人以內　判任官待遇
技術職員
土木技師　專任二十人以內　奏任官待遇
土木技手　專任四百九十人以內　判任官待遇

第二條　地方産業ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲道地方費又ハ府費ヲ以テ各道又ハ府ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
産業主事　專任十七人以內　奏任官待遇
産業書記　專任百八十六人以內　判任官待遇
技術職員
産業技師　專任七十人以內　奏任官待遇
産業技手　專任千九百十四人以內　判任官待遇

第二條ノ二　地方衞生ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲道地方費又ハ府費ヲ以テ各道又ハ府ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
衞生主事　專任二人以內　奏任官待遇
衞生書記　專任三十人以內　判任官待遇
技術職員
衞生技師　專任十三人以內　奏任官待遇
衞生技手　專任四十六人以內　判任官待遇

第二條ノ三　地方社會事業ニ關スル事務ニ從事セシムル爲道地方費又ハ府費ヲ以テ各道又ハ府ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
社會主事　專任十一人以內　奏任官待遇
社會書記　專任三十五人以內　判任官待遇

第二條ノ四　地方測候ニ關スル技術ニ從事セシムル爲道地方費ヲ以テ各道ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

技術職員
測候技師　專任二人　奏任官待遇
測候技手　專任十三人以內　判任官待遇

第三條　前五條ノ職員ノ各道及各府ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四條　第五條ニ於テ準用スル地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受クル第一條乃至第二條ノ四ノ職員ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第五條　第一條乃至第二條ノ四ノ職員ノ任免、待遇、俸給及休職ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外地方待遇職員令ヲ準用ス

第六條　明治四十三年勅令第三百九十六號第五條ノ規定ニ依リ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得ル者ハ判任官待遇事務職員ニ之ヲ任用スルコトヲ得

第七條　第五條ニ於テ準用スル地方待遇職員令第三條乃至第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ朝鮮教育令ニ依ル專門學校ハ之ヲ專門學校又ハ實業專門學校、朝鮮教育令ニ依ル實業學校（朝鮮總督府農林學校ヲ除ク）又ハ朝鮮總督府農林學校ハ之ヲ地方待遇職員令第三條及第五條ニ規定スル實業學校ト看做ス

第八條　朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令及大正十年勅令第三十四號ハ第一條乃至第二條ノ四ノ職員ニ之ヲ準用ス

第一條乃至第二條ノ四ノ職員ニシテ朝鮮陸接國境地方ニ在勤スルモノニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ當分ノ內月額三十圓以內ノ臨時特別手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮地方待遇職員ノ加俸及定員ニ關スル件

大正十一年九月九日　朝鮮總督府令第百三十二號

改正　大正一二年第八〇號、第一三六號、一三年第一三號、第六七號、一四年第三三號、第七〇號、一五年第四一號　昭和二年第三號

朝鮮地方待遇職員ノ加俸及定員ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　朝鮮地方待遇職員ニ支給スヘキ加俸ニ付テハ官吏ノ例ニ依ル但シ道知事必要ト認ムルトキハ減額支給スルコトヲ得

第二條　朝鮮地方待遇職員ノ各道ノ定員ハ別表第一號各府ノ定員ハ別表第二號ニ依ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年朝鮮總督府令第十一號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

第一號

| 職名<br>道名 | 事務職員 | | | | | | | 技術職員 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 土木主事 | 産業主事 | 社會主事 | 土木書記 | 産業書記 | 社會書記 | 衞生書記 | 土木技師 | 産業技師 | 衞生技師 | 測候技師 | 土木技手 | 産業技手 | 衞生技手 | 測候技手 |
| 京畿道 | 一人 | 一人 | 一人 | 四人 | 六人 | 二人 | 一人 | 一人 | 八人 | 一人 | 一人 | 二〇人 | 一五九人 | 三人 | 一人 |
| 忠清北道 | 一人 | 一人 | ｜ | 三人 | 五人 | 一人 | 一人 | 一人 | 四人 | 一人 | ｜ | 七人 | 八三人 | 一人 | ｜ |
| 忠清南道 | 一人 | 一人 | 一人 | 三人 | 五人 | 一人 | 一人 | 一人 | 五人 | ｜ | ｜ | 一二人 | 一三五人 | 一人 | ｜ |
| 全羅北道 | 一人 | 一人 | 一人 | 三人 | 六人 | 二人 | 一人 | 一人 | 五人 | ｜ | ｜ | 一三人 | 一五二人 | 二人 | 一人 |
| 全羅南道 | 一人 | 一人 | 一人 | 三人 | 五人 | 一人 | 一人 | 一人 | 五人 | 一人 | ｜ | 一五人 | 一六九人 | 二人 | 二人 |
| 慶尙北道 | 一人 | 一人 | 一人 | 三人 | 八人 | 二人 | 一人 | 一人 | 七人 | ｜ | ｜ | 一八人 | 一七八人 | 三人 | 一人 |
| 慶尙南道 | 一人 | 一人 | 一人 | 四人 | 八人 | 二人 | 一人 | 一人 | 六人 | ｜ | 一人 | 一七人 | 一九四人 | 二人 | 一人 |
| 黄海道 | 一人 | 一人 | ｜ | 三人 | 五人 | 一人 | 一人 | 一人 | 六人 | ｜ | ｜ | 一九人 | 一二二人 | 一人 | ｜ |
| 平安南道 | 一人 | 一人 | 一人 | 三人 | 五人 | 二人 | 一人 | 一人 | 四人 | 一人 | ｜ | 一四人 | 一〇五人 | 二人 | 一人 |
| 平安北道 | 一人 | 一人 | ｜ | 三人 | 五人 | 一人 | 一人 | 一人 | 五人 | 一人 | ｜ | 二三人 | 九四人 | 一人 | 二人 |
| 江原道 | 一人 | 一人 | ｜ | 三人 | 五人 | 一人 | 一人 | 一人 | 五人 | 一人 | ｜ | 九人 | 一二二人 | 二人 | 一人 |
| 咸鏡南道 | 一人 | 一人 | 一人 | 三人 | 五人 | 一人 | 一人 | 一人 | 六人 | ｜ | ｜ | 一三人 | 九〇人 | 一人 | 一人 |
| 咸鏡北道 | 一人 | 一人 | ｜ | 四人 | 五人 | 一人 | 一人 | 一人 | 四人 | 一人 | ｜ | 一一人 | 五三人 | 一人 | 二人 |

第二號

| 職名 府名 | 事務職員 | | | | | | | | 技術職員 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 土木主事 | 産業主事 | 社會主事 | 衛生主事 | 土木書記 | 産業書記 | 社會書記 | 衛生書記 | 土木技師 | 衛生技師 | 土木技手 | 産業技手 | 衛生技手 |
| 京城府 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 二〇人 | 五人 | 四人 | 五人 | 一人 | 一人 | 二〇人 | 五人 | 五人 |
| 仁川府 | — | — | — | — | 三人 | 二人 | 一人 | 一人 | — | — | 五人 | 二人 | 一人 |
| 群山府 | — | — | — | — | 三人 | 二人 | 一人 | 一人 | — | — | 五人 | 二人 | 一人 |
| 木浦府 | — | — | — | — | 三人 | 二人 | 一人 | 一人 | — | — | 五人 | 二人 | 一人 |
| 大邱府 | 一人 | 一人 | — | — | 五人 | 三人 | 一人 | 一人 | 一人 | — | 八人 | 二人 | 一人 |
| 釜山府 | 一人 | 一人 | 一人 | 一人 | 五人 | 三人 | 二人 | 二人 | 一人 | 二人 | 八人 | 二人 | 六人 |
| 馬山府 | — | — | — | — | 三人 | 二人 | 一人 | 一人 | — | — | 五人 | 二人 | 一人 |
| 平壤府 | 一人 | 一人 | 一人 | — | 五人 | 三人 | 二人 | 一人 | 一人 | — | 八人 | 二人 | 二人 |
| 鎭南浦府 | — | — | — | — | 三人 | 二人 | 一人 | 一人 | — | 一人 | 五人 | 二人 | 二人 |
| 新義州府 | — | — | — | — | 三人 | 二人 | 一人 | 一人 | 一人 | — | 五人 | 二人 | 一人 |
| 元山府 | — | — | — | — | 三人 | 二人 | 一人 | 一人 | — | 一人 | 五人 | 二人 | 二人 |
| 清津府 | 一人 | — | — | — | 三人 | 二人 | 一人 | 一人 | 一人 | — | 五八 | 二人 | 一人 |

## ●朝鮮道立醫院官制

大正十四年四月一日
勅令第八十六號
改正　昭和二年第一一九號

朕朝鮮道立醫院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮道立醫院官制

第一條　本令ニ於テ道立醫院ト稱スルハ朝鮮道地方費ニ於テ設立維持スル醫院ヲ謂フ

道立醫院ハ疾病ノ診療ニ關スルコトヲ掌リ兼ネテ助産婦及看護婦ノ養成ニ關スルコトヲ掌ル

第二條　道立醫院ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 院長 | | |
| 醫官 | 專任七十九人 | 奏任 |
| 敎官 | 專任三人 | 奏任 |
| 事務官 | 專任二人 | 奏任 |
| 藥劑官 | 專任二人 | 奏任 |
| 醫員 | 專任百二十一人 | 判任 |
| 書記 | 專任四十三人 | 判任 |
| 藥劑手 | 專任三十二人 | 判任 |
| 看護婦長 | 專任三人 | 判任 |

院長タル醫官ハ二人ヲ限リ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第三條　院長ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ知事ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第四條　醫官ハ院長ノ命ヲ承ケ醫務竝助産婦及看護婦ノ養成ニ關スルコトヲ掌ル

敎官ハ院長ノ命ヲ承ケ助産婦及看護婦ノ養成ニ關スルコトヲ掌ル

事務官ハ院長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

藥劑官ハ院長ノ命ヲ承ケ調劑ヲ掌ル

醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務竝助産婦及看護婦ノ養成ニ關スルコトニ從事ス

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

藥劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

看護婦長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ醫院ニ於ケル看護ニ關スルコトニ從事ス

第五條　道立醫院ノ設立廢止ニ關スル規程及各道立醫院ニ於ケル職員ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム其ノ職員ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ當該醫院ヲ設立維持スル道地方費ノ支辨トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際朝鮮總督府道慈惠醫院（全羅南道小鹿島慈惠醫院ヲ除ク）ノ醫官、敎官、事務官、藥劑官、醫員、書記、藥劑手又ハ看護婦長ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各朝鮮道立醫院ノ醫官、敎官、事務官、藥劑官、醫員、書記、藥劑手又ハ看護婦長ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際朝鮮總督府道慈惠醫院（全羅南道小鹿島慈惠醫院ヲ除ク）ノ醫官、書記又ハ藥劑手ニシテ現ニ休職ノ者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ休職ノ儘各朝鮮道立醫院ノ醫官、書記又ハ藥劑手ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●道立醫院規程

大正十四年四月一日
朝鮮總督府令第二十九號

道立醫院規程左ノ通定ム

道立醫院規程

第一條　道立醫院ヲ設立セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　名稱及位置
二　開院年月日
三　敷地及建物ノ平面圖
四　設計圖及構造仕樣書
五　病室數及其ノ坪數（每室ノ坪數ヲモ附記スヘシ）
六　設立ニ關スル豫算
七　患者收容定員
八　職員ノ定員
九　分科
十　收價及施療ニ關スル規程
十一　初年度ノ收支概算
十二　維持方法

前項第一號、第十號若ハ第十二號ノ事項ヲ變更シ又ハ建物ノ增築若ハ改築ヲ爲サムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第二號乃至第九號及第十一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ朝鮮總督ニ之ヲ屆出ツヘシ

第二條　道立醫院診療ヲ開始シタルトキハ十日內ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第三條　道立醫院ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由、廢止後ノ措置及廢止ノ期日ヲ具シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　道知事ハ道立醫院ノ次年度歲入、歲出ニ關スル計算書及之ニ伴フ收支ノ說明書ヲ作リ其ノ前年度ノ豫算ニ比較シ增減アルモノハ其ノ計算ノ基ク所ヲ明ニシタル調書ヲ添ヘ五月三十一日迄ニ朝鮮總督ニ提出スヘシ

第五條　道知事ハ道立醫院事務分掌規程ヲ定メ朝鮮總督ニ報告スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ道慈惠醫院ハ全羅南道小鹿島慈惠醫院ヲ除クノ外本令ニ依リ道立醫院トシテ設立セラレタルモノト看做ス從來ノ道立醫院ニ付亦同シ

## ●朝鮮總督府警察官吏ノ職務應援ニ關スル件

大正十一年四月二十七日
勅令第二百三十五號

朕朝鮮總督府警察官吏ノ職務應援ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　朝鮮總督府道知事ハ災害警防、國境警備又ハ取締上必要アル場合ニ於テ應援ノ爲他ノ道知事又ハ警察官講習所長ニ協議シテ警察官吏ノ派遣ヲ求ムルコトヲ得

朝鮮總督ハ災害警防、國境警備又ハ取締上緊急ノ必要アル場合ニ於テ道知事又ハ警察官講習所長ニ對シ他ノ道ノ警察事務應援ノ爲所屬警察官吏ノ派遣ヲ命スルコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依リ派遣セラレタル警察官吏ハ其ノ地ノ警察官吏トシテ職務ニ從事スルモノトス

第三條　道知事ハ警備上特ニ保護又ハ注意ヲ

要スル者ニ對シ同行ヲ必要トスル場合ニ於テ所屬警察官吏ヲシテ他ノ道ノ區域ニ亙リ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府裁判所職員定員令

大正九年十二月二十日
勅令第五百六十七號
改正　大正一〇年第二〇九號、一一年第二八〇號、一二年第二五〇號、第五〇五號、一三年第四一九號、一五年第二五一號

朕朝鮮總督府裁判所職員定員令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府裁判所職員定員令

第一條　朝鮮總督府判事朝鮮總督府檢事各職ノ定員左ノ如シ

| | | |
|---|---|---|
| 高等法院 | | |
| 長 | 勅任 | 一人 |
| 部長 | 勅任 | 一人 |
| 判事 | 勅任又ハ奏任 | 八人 |
| 高等法院檢事局 | | |
| 檢事長 | 勅任 | 一人 |
| 檢事 | 勅任又ハ奏任 | 二人 |
| 覆審法院 | | |
| 長 | 勅任 | 三人 |
| 部長 | 勅任又ハ奏任 | 六人 |
| 判事 | 奏任 | 二十人 |
| 覆審法院檢事局 | | |
| 檢事長 | 勅任 | 三人 |
| 檢事 | 勅任又ハ奏任 | 四人 |
| 地方法院及地方法院支廳 | | |
| 地方法院長 | 勅任又ハ奏任 | 十一人 |
| 部長 | 奏任 | 十二人 |
| 判事 | 奏任 | 百二十一人 |
| 地方法院檢事局及地方法院支廳檢事分局 | | |
| 地方法院檢事正 | 勅任又ハ奏任 | 十一人 |
| 檢事 | 奏任 | 五十六人 |

勅任タル高等法院判事、高等法院檢事、覆審法院部長、覆審法院檢事、地方法院長及地方法院檢事正ハ通シテ六人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　前條ニ掲クルモノヲ除クノ外朝鮮總督府裁判所職員ノ定員左ノ如シ

| | |
|---|---|
| 書記長 | 四人 |
| 通譯官 | 四人 |
| 書記<br>通譯生 | 專任六百七十九人 |

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府監獄官制

明治四十二年十月十八日
勅令第二百四十三號
改正　明治四三年第三六六號、四四年第一五九號、四五年第三三號、大正二年第八五號、七年第一〇二號、八年第一四〇號、九年第四九九號、一〇年第三〇六號、一二年第二〇一號、一三年第一〇九號、第四二〇號

朕統監府監獄官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府監獄官制

第一條　朝鮮總督府監獄ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬ス

第二條　監獄ノ設置及廢止ハ朝鮮總督之ヲ定ム

覆審法院檢事長ハ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ其ノ管轄區域內ニ在ル監獄ヲ監督ス

第三條　監獄ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 典獄 | 專任十三人 | 奏任 |
| 典獄補 | 專任六人 | 奏任 |
| 看守長<br>技手<br>通譯生 | 專任百二十人 | 判任 |

第四條　監獄ノ長ハ典獄又ハ典獄補ヲ以テ之ニ充ツ

監獄ノ長ハ朝鮮總督及覆審法院檢事長ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條ノ二　典獄補ハ監獄又ハ分監ノ長タル者ヲ除クノ外上官ノ命ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌ル

第五條　看守長ハ分監ノ長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ事務ニ從事ス

第五條ノ二　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯及通譯ニ從事ス

第七條　監獄ニハ第三條ニ掲ケタル職員ノ外保健技師、保健技手、敎誨師、敎師、藥劑師、作業技手、看守及女監取締ヲ置ク其ノ定員、職務及懲戒ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

保健技師ハ奏任官ノ待遇トシ敎誨師ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トシ保健技手、敎師、藥劑師、作業技手、看守及女監取締ハ判任官ノ待遇トス

第八條　朝鮮總督ハ必要ニ應シ分監ヲ置クコトヲ得

分監ノ長ハ典獄補又ハ看守長ヲ以テ之ニ充ツ

分監ノ長ハ監獄ノ長ノ指揮監督ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌リ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第九條　監獄ノ長事故アルトキハ典獄補又ハ上席ノ看守長其ノ職務ヲ代理シ分監ノ長事故アルトキハ上席ノ看守長又ハ看守其ノ職務ヲ代理ス

附　則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員定員

大正十三年十二月二十五日
朝鮮總督府令第八十六號
改正　昭和二年第三四號

奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員定員左ノ通定ム

| | |
|---|---|
| 保健技師<br>保健技手 | 二十八人 |
| 敎誨師 | 二十一人 |
| 敎師 | 六人 |
| 藥劑師 | 十一人 |
| 作業技手 | 二十人 |
| 看守 | 千七百七人 |
| 女監取締 | 六十二人 |

數習中ノ看守ハ定員外トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年朝鮮總督府令第七十號ハ之ヲ廢止ス

## ●朝鮮總督府供託局官制

大正十一年三月三十日
勅令第六十九號
改正　大正一二年第二五一號

朕朝鮮總督府供託局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府供託局官制

第一條　朝鮮總督府供託局ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ法令ノ規定ニ依リテ爲ス供託事務ヲ掌ル

第二條　供託局ハ各地方法院ノ所在地ニ之ヲ置ク

第三條　供託局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 局長 | | |
| 書記 | 專任十一人 | 判任 |

第四條　局長ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ局務ヲ掌理シ部下ヲ指揮監督ス

第五條　書記ハ局長タル者ヲ除クノ外局長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　朝鮮總督ハ地方法院支廳ノ所在地ニ供託局出張所ヲ置キ供託局ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●京城帝國大學官制

大正十三年五月二日
勅令第百三號
改正　大正一三年第四二一號、一四年第一三九號、一五年第四六號、昭和二年第一九號、第一五三號

朕京城帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

京城帝國大學官制

第一條　京城帝國大學ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 總長 | | 勅任 |
| 敎授 | 專任五十二人 | 勅任又ハ奏任 |
| 助敎授 | 專任二十七人 | 奏任 |
| 事務官 | 專任一人 | 奏任 |
| 學生監 | | |
| 司書官 | 專任一人 | 奏任 |
| 助手 | 專任四十二人 | 判任 |
| 書記 | 專任十七人 | 判任 |
| 司書 | 專任三人 | 判任 |

第二條　總長ハ朝鮮總督ノ監督ヲ承ケ京城帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ朝鮮總督ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條　教授ハ各學部ニ分屬シテ其ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ學部長ニ補セラレタル者ニハ講座ヲ擔任セシメサルコトヲ得

第四條　助教授ハ各學部ニ分屬シ教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

講座ヲ擔任スル助教授ハ第一條ノ定員外トス但シ講座ヲ分擔スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第六條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　司書官ハ上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書、記錄及閱覽ニ關スル事務ヲ掌理ス

第八條　助手ハ各學部ニ分屬シ教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケ學術ニ關スル職務ニ服ス

第九條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十條　司書ハ上官ノ命ヲ承ケ附屬圖書館ニ於ケル圖書記錄ノ整理、保存及閱覽ニ關スル事務ニ從事ス

第十一條　各學部ニ學部長ヲ置キ其ノ學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス

學部長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ其ノ學部ノ事ヲ掌ル

第十二條　京城帝國大學ニ豫科ヲ置ク

豫科ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
教授　專任十八人　奏任
生徒監
助教授　專任一人　判任

部長ハ豫科教授ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス總長ノ命ヲ承ケ豫科ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

教授及助教授ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

生徒監ハ豫科教授ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス部長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十三條　京城帝國大學ニ附屬圖書館ヲ置ク

圖書館ニ圖書館長ヲ置キ教授、助教授又ハ司書官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス

圖書館長ハ總長ノ監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府諸學校官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百五十一號）

（改正　大正一二年第一五五號、第二五二號、一三年第九一號、一四年第八八號、第一九九號　昭和二年第一九七號）

朕朝鮮總督府諸學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（御名御璽）（總理大臣副署）

朝鮮總督府諸學校官制

第一條　朝鮮總督府專門學校ハ左ノ如シ

京城法學專門學校
京城醫學專門學校
京城高等工業學校
水原高等農林學校
京城高等商業學校

第二條　水原高等農林學校ニ實業補習學校教員養成所ヲ附置ス

第三條　朝鮮總督府ノ師範學校及實業學校ハ左ノ如シ

京城師範學校
京城工業學校

第四條　京城師範學校ニ附屬ノ小學校及普通學校ヲ置ク

第五條　朝鮮總督府專門學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　勅任又ハ奏任
教授　奏任
生徒監
助教授　判任
書記　判任

前項職員ノ外水原高等農林學校ニ主事ヲ置ク

京城高等工業學校長ハ朝鮮總督府中央試驗所長、水原高等農林學校長ハ朝鮮總督府勸業模範場長ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　朝鮮總督府ノ師範學校及實業學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　奏任
教諭　奏任又ハ判任
舍監
書記　判任

前項職員ノ外師範學校ニ主事及訓導ヲ置ク

訓導ハ判任トス

京城工業學校長ハ京城高等工業學校長ヲ以テ之ニ充ツ

第七條　朝鮮總督府諸學校ノ專任職員ノ定員ハ別表ニ依ル

第八條　教諭ニシテ奏任タル者ノ員數ハ當該學校ニ於ケル學級數八學級以下ノ師範學校又ハ六學級以下ノ實業學校ニ在リテハ三人以內トシ以上三學級ヲ增ス每ニ一人ヲ加フルコトヲ得

學校長ヨリ兼任スル教諭ハ前項ノ定員ノ外トス

第九條　專門學校、師範學校及實業學校ノ學校長ハ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

師範學校長ハ兼ネテ朝鮮內ニ於ケル初等普通教育ニ關スル學事ヲ視察ス

第十條　教授、助教授及教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第十一條　生徒監ハ教授ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十二條　舍監ハ教諭ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ノ事ヲ掌ル

第十三條　水原高等農林學校主事ハ水原高等農林學校教授ノ中ヨリ、師範學校主事ハ師範學校教諭ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ受ケ各實業補習學校教員養成所又ハ附屬ノ小學校若ハ普通學校ノ事務ヲ掌ル

第十四條　訓導ハ附屬ノ小學校又ハ普通學校ノ兒童ノ教育ニ從事シ兼ネテ師範學校ノ生徒ノ實地授業ヲ指導ス

第十五條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十六條　朝鮮總督ハ校務上ノ須要ニ依リ專門學校ニ商議委員會ヲ設クルコトヲ得

商議委員會ノ委員ハ朝鮮總督之ヲ命ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

朝鮮總督府專門學校官制
朝鮮總督府師範學校官制
朝鮮總督府中學校官制
朝鮮總督府高等普通學校官制
朝鮮總督府女子高等普通學校官制

京城第一高等普通學校、平壤高等普通學校、大邱高等普通學校、咸興高等普通學校、京城女子高等普通學校及平壤女子高等普通學校ニハ師範科ヲ存置シ平壤高等普通學校ニハ附屬普通學校ヲ置ク

本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ京城專修學校ノ學校長、教授、助教授又ハ書記ノ職ニ在ル者ハ各京城法學專門學校ノ學校長、教授、助教授又ハ書記ニ、京城醫學專門學校、京城工業專門學校又ハ水原農林專門學校ノ教授、助教授又ハ書記ノ職ニ在ル者ハ各京城醫學專門學校、京城高等工業學校又ハ水原高等農林學校ノ教授、助教授又ハ書記ニ、朝鮮總督府ノ師範學校、中學校、高等普通學校又ハ女子高等普通學校ノ學校長、教諭、訓導又ハ書記ノ職ニ在ル者ハ各朝鮮總督府ノ師範學校、中學校、高等普通學校又ハ女子高等普通學校ノ學校長、教諭、訓導又ハ書記ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際朝鮮總督府ノ專門學校、師範學校、中學校、高等普通學校又ハ女子高等普通學校ノ學校長、教授、助教授、教諭、訓導又ハ書記ニシテ現ニ休職中ノ者ハ其ノ休職期間中仍休職ノ儘在任スルモノトス

（別表）

朝鮮總督府諸學校職員定員表

| | 學校長 | 教授 | 教諭 | 助教授 | 訓導 | 書記 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 京城法學專門學校 | 一人 | 六人 | | 三人 | | 二人 |
| 京城醫學專門學校 | 一人 | 八人 | | 三人 | | 二人 |
| 京城高等工業學校 | | 十一人 | | 十人 | | 二人 |
| 水原高等農林學校 | | 九人 | | 九人 | | 二人 |
| 京城高等商業學校 | 一人 | 九人 | | 四人 | | 二人 |
| 京城師範學校 | 一人 | | 二十八人 | | 三十一人 | 三人 |
| 京城工業學校 | | | 十三人 | | | 一人 |

## ●朝鮮公立學校官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百五十二號）

朕朝鮮公立學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（御名御璽）（總理大臣副署）

朝鮮公立學校官制

第一條　公立ノ師範學校、中學校、高等女學校、高等普通學校、女子高等普通學校及實業學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　奏任
教諭　奏任又ハ判任
舍監
主事
訓導　判任
保姆
書記　判任

實科高等女學校、女子實業學校及實業補習學校ノ學校長ハ奏任又ハ判任トス

舍監ハ寄宿舍ノ設アル學校ニ、主事及訓導ハ附屬ノ小學校又ハ普通學校ヲ置キタル師範學校ニ、保姆ハ附屬幼稚園ヲ置キタル師範學校ニ之ヲ置ク

第二條　教諭ニシテ奏任タル者ノ員數ハ當該學校ニ於ケル學級數八學級以下ノ師範學校、中學校、高等女學校、高等普通學校及女子高等普通學校又ハ六學級以下ノ實業學校ニ在リテハ三人以內トシ以上三學級ヲ增ス每ニ一人ヲ加フルコトヲ得

學校長ヨリ兼任スル教諭ハ前項ノ定員ノ外トス

第三條　公立ノ小學校及普通學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
訓導　判任

第四條　師範學校、中學校、高等女學校、高等普通學校、女子高等普通學校及實業學校ノ學校長ハ道知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

師範學校長ハ兼ネテ其ノ道內ニ於ケル初等普通教育ニ關スル學事ヲ視察ス

第五條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第六條　舍監ハ教諭ノ中ヨリ道知事之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ノ事ヲ掌ル

第七條　主事ハ附屬ノ小學校、普通學校又ハ幼稚園ヲ置キタル師範學校ノ教諭ノ中ヨリ道知事之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ附屬ノ小學校、普通學校又ハ幼稚園ノ事務ヲ掌ル

第八條　師範學校ノ訓導ハ附屬ノ小學校又ハ普通學校ノ兒童ノ教育ニ從事シ兼ネテ師範學校生徒ノ實地授業ヲ指導ス

師範學校ノ保姆ハ師範學校訓導ノ中ヨリ道知事之ヲ補ス幼兒ノ保育ニ從事ス

第九條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　小學校及普通學校ノ學校長ハ訓導ノ中ヨリ道知事之ヲ補ス府尹、郡守又ハ島司ノ指揮ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十一條　小學校及普通學校ノ訓導ハ兒童ノ教育ニ從事ス

第十二條　公立ノ幼稚園ニ園長及保姆ヲ置ク

園長ハ保姆ノ中ヨリ道知事之ヲ補ス府尹、郡守又ハ島司ノ指揮ヲ承ケ園務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

保姆ハ判任官ノ待遇トス幼兒ノ保育ニ從事ス

第十三條　公立ノ師範學校、中學校、高等女學校、高等普通學校、女子高等普通學校、實業學校、小學校、普通學校及幼稚園ノ職員ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム其ノ職員ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ當該學校又ハ幼稚園ヲ設立維持スル道地方費、學校費又ハ學校組合ノ支辨トス

第十四條　本令ニ於テ實業學校ト稱スルハ實業專門學校以外ノ實業學校ヲ謂フ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

朝鮮公立高等女學校官制
朝鮮公立實業專修學校官制
朝鮮公立小學校官制
朝鮮公立普通學校官制

本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ朝鮮ニ於ケル公立ノ高等女學校、實業專修學校又ハ實業學校ノ學校長、教諭又ハ書記ノ職ニ在ル者ハ各公立ノ高等女學校又ハ實業學校ノ學校長、教諭又ハ書記ニ、公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導又ハ副訓導ノ職ニ在ル者ハ各公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際朝鮮ニ於ケル公立ノ高等女學校、實業專修學校又ハ實業學校ノ學校長、教諭又ハ書記及公立ノ小學校、普通學校、簡易實業專修學校又ハ簡易實業學校ノ訓導又ハ副訓導ニシテ現ニ休職中ノ者ハ其ノ休職期間中仍休職ノ儘在任スルモノトス

## ●朝鮮公立學校職員定員規程

（大正十一年四月一日朝鮮總督府令第五十四號）

朝鮮公立學校職員定員規程左ノ通定ム

朝鮮公立學校職員定員規程

第一條　公立師範學校教諭ノ定員ハ四學級ノ學校ニ在リテハ十一人以上トシ四學級以上一學級ヲ加フル每ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ增スヘシ但シ一學級每ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ネス又他ノ職ヨリ兼ネサルコトヲ要ス

附屬ノ小學校及普通學校ノ訓導並附屬幼稚園ノ保姆ノ定員ニ關シテハ第四條乃至第六條ノ規定ヲ準用ス

書記ノ定員ハ專任二人以內トス

第二條　公立ノ中學校、高等女學校、高等普通學校、女子高等普通學校及實業學校ノ教諭ノ定員ハ五學級以下ノ學校ニ在リテハ一學級每ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル每ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ增スヘシ

前項ノ場合ニ於テ一學級每ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ネス又他ノ職ヨリ兼ネサルコトヲ要ス

實業補習學校ノ教諭ノ定員ハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

書記ノ定員ハ專任二人以內トス

第三條　特別ノ事情アルトキハ道知事ノ申請ニ依リ第一條及第二條ノ規定ニ拘ラス定員ヲ增減スルコトアルヘシ

第四條　公立ノ小學校及普通學校ノ訓導ノ定員ハ一學級每ニ專任一人トス

六學級以上ノ學校ニ在リテハ前項ノ外一人ヲ加フルコトヲ得

第五條　公立幼稚園ノ保姆ノ定員ハ小學校又ハ普通學校ノ例ニ準ス

第六條　公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導ニシテ陸軍一年現役ニ服スル者ハ之ヲ第四條ノ定員外トス

第七條　特別ノ事情アルトキハ道知事ニ於テ公立ノ小學校若ハ普通學校ノ訓導又ハ幼稚園ノ保姆ノ定員ヲ增減スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮公立高等女學校職員定員規程、朝鮮公立實業專修學校及朝鮮公立簡易實業專修學校職員定員規程、朝鮮公立實業學校職員定員規程、朝鮮公立小學校職員定員規程及朝鮮公立普通學校職員定員規程ハ之ヲ廢止ス

### ●官、公立學校ノ囑託教員及講師ニ關スル件

（大正六年七月二十八日朝鮮總督府令第四十九號）

改正　大正一一年第五五號

官立及公立學校ノ囑託教員及講師ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　官立又ハ公立學校ニ於テ一定ノ時間ヲ限リ特定學科ノ教授ニ從事スル者ヲ講師トシ一般教官ト同樣ノ勤務ヲ爲ス者ヲ囑託教員トス

第二條　官立及公立ノ學校ニ於テハ教官ノ定員ノ一部ニ代ヘ囑託教員ヲ置キ又ハ教官ノ外囑託教員又ハ講師ヲ置クコトヲ得

第三條　教官ニ代フル囑託教員ノ數ハ公立ノ小學校又ハ普通學校ニ在リテハ學級數ノ二分ノ一、其ノ他ノ學校ニ在リテハ教官定員ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條及第五條　削除

第六條　公立學校ノ囑託教員ノ手當ハ教官ノ定員ノ一部ニ代フル場合ニ在リテハ其俸給豫算ヨリ其ノ他ノ場合ニ在リテハ特ニ定メタル豫算ヨリ之ヲ支給スヘシ

公立學校ノ講師ノ手當ハ特ニ定メタル豫算ヨリ之ヲ支給スヘシ

第七條　公立學校ノ囑託教員及講師ノ進退ハ道知事之ヲ專行シ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第八條　第三條ノ規定ハ專門學校及實業專門學校ニ關シテハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年朝鮮總督府令第百十九號及明治四十五年同第七十號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ官立又ハ公立學校ノ囑託教員又ハ講師ニシテ別ニ辭令ヲ交付セサルモノハ現在ノ手當額ヲ以テ本令ニ依ル囑託教員又ハ講師ニ採用セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ公立普通學校ノ代用教員ニシテ別ニ辭令ヲ交付セサルモノハ現在ノ手當額ヲ以テ本令ニ依ル囑託教員ニ採用セラレタルモノトス

公立學校ノ囑託教員又ハ講師ノ手當ハ大正六年度ニ限リ從來ノ例ニ依リ支給スルコトヲ得

### ●朝鮮總督府圖書館官制

（大正十二年十一月三十日勅令第四百九十三號）

改正　大正一四年第一九一號

朕朝鮮總督府圖書館官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府圖書館官制

第一條　朝鮮總督府圖書館ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ圖書ヲ蒐集保存シテ公衆ノ閲覽參考ノ用ニ供スル所トス

第二條　朝鮮總督府圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長　奏任

司書　專任三人　判任

書記　專任二人　判任

第三條　館長ハ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第三條ノ二　司書ハ上官ノ指揮ヲ承ケ圖書ノ蒐集、保存及閲覽ニ關スル事務ニ從事ス

第四條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條　朝鮮總督ハ必要ニ依リ朝鮮總督府圖書館ニ評議員ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮史編修會官制

（大正十四年六月八日勅令第二百十八號）

朕朝鮮史編修會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮史編修會官制

第一條　朝鮮史編修會ハ朝鮮總督ノ管理ニ屬シ朝鮮史料ノ蒐集及編纂竝朝鮮史ノ編修ヲ掌ル

第二條　朝鮮史編修會ハ會長一人顧問及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ

顧問及委員ハ朝鮮總督ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル顧問又ハ委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　朝鮮史編修會ニ幹事若干人ヲ置ク朝鮮總督ノ奏請ニ依リ朝鮮總督府部內高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　朝鮮史編修會ノ事務ニ從事セシムル爲之ニ左ノ職員ヲ置ク

修史官　專任三人　奏任

修史官補　專任四人　判任

書記　專任二人　判任

第七條　修史官ハ會長ノ命ヲ承ケ朝鮮史料ノ蒐集及編纂竝朝鮮史編修ノ事務ヲ擔任ス

修史官補ハ上司ノ指揮ヲ承ケ朝鮮史料ノ蒐集及編纂竝朝鮮史編修ノ事務ニ從事ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府土木會議官制

（明治四十三年九月三十日勅令第三百七十五號）

改正　大正六年第八〇號、一〇年第七二號

朕朝鮮總督府土木會議官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府土木會議官制

第一條　朝鮮總督府土木會議ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬シ河川、道路、港灣、航路標識、鐵道、輕便鐵道、軌道、電氣事業及上下水道ニ關スル制度、計畫、設備其ノ他土木ニ關スル重要ナル事項ヲ調査審議ス

第二條　土木會議ハ會長一人及委員二十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條　會長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ朝鮮總督ノ指定シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第五條　土木會議ニ幹事二人ヲ置キ朝鮮總督府高等官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第六條　土木會議ニ書記ヲ置キ朝鮮總督府判任官ノ中ヨリ會長之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府林野調査委員會官制

（大正七年四月三十日勅令第百十號）

改正　大正一〇年第三五八號、一四年第三三號

朕朝鮮總督府林野調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府林野調査委員會官制

第一條　朝鮮總督府ニ林野調査委員會ヲ置ク

林野調査委員會ハ朝鮮林野調査令ニ依リ爲シタル査定ニ對スル不服ノ申立ヲ裁決シ竝査定及裁決ニ關スル再審ヲ爲ス

第二條　林野調査委員會ハ委員長一人及委員二十五人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　委員長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ朝鮮總督ノ奏請ニ依リ朝鮮總督府判事、朝鮮總督府高等官及朝鮮總督府林野調査委員會事務官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

朝鮮總督府判事ニシテ委員タル者ハ五人ヲ下ルコトヲ得ス

第四條　林野調査委員會ニ部ヲ置ク

部ニ部長ヲ置ク委員長ハ一ノ部長ト爲リ他ノ部長ハ委員ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

部ノ組織及事務分配ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

第五條　林野調査委員會ノ議事ハ部長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

議事ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ部長ノ決スル所ニ依ル

第六條　委員長ハ會務ヲ總理ス

第七條　委員長又ハ部長事故アルトキハ委員長ノ指定シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第八條　林野調査委員會ニ左ノ職員ヲ置ク

事務官　專任二人　奏任

副事務官　專任三人　奏任

書記　專任十六人　判任

通譯生　專任十五人　判任

第九條　事務官及副事務官ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

書記及通譯生ハ上司ノ指揮ヲ承ケ各庶務及通譯ニ從事ス

附　則

本令ハ大正七年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮關稅訴願審査委員會官制

（明治四十五年四月十七日勅令第八十四號）

改正　大正一四年第二二一號

朕朝鮮關稅訴願審査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮關稅訴願審査委員會官制

第一條　朝鮮關稅訴願審査委員會ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬シ朝鮮ニ於ケル關稅及移入稅ニ關スル訴願ヲ審査ス

第二條　朝鮮關稅訴願審査委員會ハ會長一人委員五人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ朝鮮總督府政務總監、委員ハ朝鮮總督府財務局長、朝鮮總督府殖産局長、朝鮮總督府法務局長及朝鮮總督府事務官二人ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ第二條ノ定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四條ノ二　委員ニシテ朝鮮總督府事務官ヲ以テ充ツルモノ及臨時委員ハ朝鮮總督ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條　朝鮮關稅訴願審査委員會ニ幹事一人ヲ置ク朝鮮總督ノ奏請ニ依リ朝鮮總督府高等官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　朝鮮關稅訴願審査委員會ニ書記二人ヲ置ク朝鮮總督府判任官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●公立學校職員恩給審査規程

（明治四十五年四月一日朝鮮總督府令第八十三號）

改正　大正九年第九九號

公立學校職員恩給審査規程左ノ通定ム

公立學校職員恩給審査規程

第一條　朝鮮總督府ニ公立學校職員恩給審査委員ヲ置キ委員長及四名以內ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條　公立學校職員恩給審査委員長及委員ハ朝鮮總督府高等官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

第三條　公立學校職員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ朝鮮總督ニ具申ス

第四條　公立學校職員恩給審査委員ハ朝鮮ニ於ケル公立ノ學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス

第五條　朝鮮總督府ニ公立學校職員恩給顧問醫ヲ置キ公立學校職員退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス

第六條　公立學校職員恩給顧問醫ハ朝鮮總督之ヲ囑託ス

第七條　公立學校職員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記若干名ヲ置キ朝鮮總督府屬ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮人タル奏任官及判任官增置ニ關スル件

（明治四十三年九月三十日勅令第三百七十四號）

朕朝鮮人タル奏任官及判任官ノ增置ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ各俸給豫算定額內ニ於テ朝鮮人タル奏任官又ハ判任官ヲ增置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ朝鮮總督ハ奏任官ニ付テハ豫メ其ノ官名及人員ヲ具シ勅裁ヲ請フヘシ

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府警務費俸給豫算定額內ニ於テ囑託醫設置

（明治四十四年六月二十九日勅令第百九十一號）

朕朝鮮總督府警務費俸給豫算定額內ニ於テ囑託醫ヲ置クコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

朝鮮總督ハ當分ノ內警務費俸給豫算定額內ニ於テ囑託醫ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府及所屬官署雇員規程

（大正十一年十月二十八日朝鮮總督府令第百四十一號）

改正　大正一三年訓令第五二號、一四年府令第二六號、一五年第五二號

朝鮮總督府及所屬官署雇員規程左ノ通定ム

朝鮮總督府及所屬官署雇員規程

第一條　朝鮮總督府及所屬官署ノ雇員ニ關シテハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規程ニ依ル

遞信官署、鐵道官署、專賣局及營林署ノ現業ニ從事スル雇員ノ給料及諸給與ニ關シ本規程ニ依リ難キモノニ付テハ其ノ主管官署ノ長之ヲ定ム

第二條　雇員ハ上司ノ指揮ヲ承ケ事務又ハ技術ニ從事ス

第三條　雇員ハ當該官署ノ長之ヲ任免ス

第四條　月給ヲ受クル雇員解職セラレ又ハ死亡シタルトキハ當月分ノ給料ハ其ノ全額ヲ支給ス但シ他ノ官署（朝鮮總督府及所屬官署ニ限ル）ニ採用セラルル爲解職ト爲リタル者ノ給料ハ日割計算ヲ以テ支給ス

第五條　月給ヲ受クル雇員官吏ニ任用セラレ又ハ日給ヲ受クル雇員ニ採用セラレタルトキハ其ノ月ノ給料ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第六條　月給ヲ受クル雇員病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ超ヘ又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ超ユルトキハ給料ノ半額ヲ減ス但シ賜暇若ハ服忌ニ因ルトキ、職務ニ基因スル傷痍疾病ナルトキ、傳染病豫防ノ爲施行スル交通遮斷若ハ隔離又ハ水災火災其ノ他非常罹災ニ因ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　日給ヲ受クル雇員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ勤務ニ服セサルモ給料ヲ支給ス

一　官署休暇日（休暇日ノ前後ヲ通シ缺勤シタル場合ヲ除ク）及賜暇ノ日

二　父母ノ祭日

三　服忌ノ日

四　職務ニ基因スル傷痍疾病ノ爲ノ缺勤ノ日

五　傳染病豫防ノ爲施行スル交通遮斷又ハ隔離ノ爲ノ缺勤ノ日

六　水災火災其ノ他非常罹災ノ爲ノ缺勤ノ日但シ七日以內ニ限ル

七　朝鮮內ニ於テ徵兵檢査又ハ簡閲點呼ニ應スル爲ノ往復ノ日及檢査又ハ點呼ノ爲ノ滯在ノ日

八　陸海軍ニ應召ノ爲ノ往復ノ日

第八條　給料ハ月給ニ在リテハ發令ノ翌日ヨリ、日給ニ在リテハ發令ノ日ヨリ之ヲ計算ス其ノ增減アリタルトキ亦同シ

第九條　月給ヲ受クル雇員ノ給料支給方ハ明治二十五年大藏省令第十一號文官俸給支給細則ノ例ニ依ル

第十條　日給ヲ受クル雇員ノ給料ハ前月十六日ヨリ當月十五日迄ノ分ヲ其ノ月二十一日ニ之ヲ支給ス但シ三月ニ於テハ其ノ月ノ十六日ヨリ末日迄ノ分ヲ翌月五日ニ之ヲ支給シ、四月ニ於テハ其ノ月一日ヨリ十五日迄ノ分ヲ其ノ月二十一日ニ之ヲ支給ス

前項ノ支給日カ休暇日ニ該當スルトキハ之ヲ繰下ク

第十一條　當該主務局部課長ハ毎月十六日限前月十六日ヨリ當月十五日ニ至ル日給雇員ノ勤務日數ヲ調査シ之ヲ所管經費ノ支拂ヲ爲ス官吏ニ通知スヘシ但三月ニ於テハ其ノ月十六日ヨリ末日迄ノ分ヲ翌月一日ニ、四月ニ於テハ其ノ月一日ヨリ十五日迄ノ分ヲ其ノ月十六日ニ通知スヘシ

第十二條　豫備役又ハ後備役ノ軍籍ニ在ル雇員陸海軍ニ召集セラレタルトキハ其ノ間給

料ノ支給ヲ停止シ其ノ陸海軍ニ於テ受クル俸給カ其ノ給料ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得

補充兵役ニ在ル雇員戰時若ハ事變ニ際シ又ハ教育若ハ勤務演習ノ爲召集セラレタルトキ亦前項ニ同シ

第十三條　給料ニ過渡アルコトヲ發見シタルトキハ翌月分ニ於テ差引整理スルコトヲ得但シ會計年度ヲ異ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　各官署ノ長ハ必要ト認ムルトキハ朝鮮總督ノ承認ヲ經テ雇員ニ宿舍ヲ貸與スルコトヲ得

第十五條　各官署ノ長ハ雇員ニ對シ其ノ職務ニ要スル被服ヲ貸與シ又ハ給與スルコトヲ得

前項ニ依リ被服ヲ貸與シ又ハ給與セムトスルトキハ其ノ規程ヲ設ケ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規程中ニハ被服ノ使用期間及保存期限ヲ定ムヘシ

貸與ノ被服ニシテ保存期間滿了ノモノハ之ヲ該被服使用者ニ給與スルコトヲ得

第十六條　前二條ニ規定スル各官署ノ長ノ事務ハ遞信官署ニ係ルモノハ遞信局長、鐵道官署ニ係ルモノハ鐵道局長、專賣局、同支局及同出張所ニ係ルモノハ專賣局長、道府郡島警察署道慈惠醫院及公立學校ニ係ルモノハ道知事、稅關同支署及同出張所ニ係ルモノハ稅關長、勸業模範場同支場及同出張所ニ係ルモノハ勸業模範場長、觀測所及測候所ニ係ルモノハ觀測所長竝官立學校、朝鮮總督府醫院、中央試驗所、獸疫血清製造所、林業試驗所、水產試驗場竝營林署ニ係ルモノハ各當該官署ノ長、高等法院、同檢事局ニ係ルモノハ高等法院長、覆審法院同檢事局竝覆審法院所在地ノ地方法院、同檢事局及其ノ所轄ノ支廳、檢事分局、出張所、供託局ニ係ルモノハ覆審法院長、覆審法院所在地外ノ地方法院、同檢事局及其ノ所轄ノ支廳、檢事分局、出張所、供託局ニ係ルモノハ當該地方法院長、其ノ他ノ官署及本府ニ係ルモノハ總督官房會計課長之ヲ決定スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府及所屬官署ノ囑託員ニ關スル件

（大正十一年十月二十八日　朝鮮總督府令第百四十二號）

朝鮮總督府及所屬官署ノ囑託員ニ關シ別段ノ規定ナキモノニ付テハ朝鮮總督府及所屬官署雇員規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●地方文廟職員ニ關スル件

（大正十二年四月二十一日　朝鮮總督府令第六十八號）

地方文廟職員ニ關スル件左ノ通定ム

地方文廟中京畿道開城郡松都面所在ノ文廟ニハ司成一人、直員一人ヲ置キ其ノ他ノ地方ニ於ケル文廟ニハ直員一人ヲ置ク

司成ノ進退ハ道知事ノ申請ニ依リ朝鮮總督之ヲ行フ

司成ハ名譽職トシ郡守ノ指揮ヲ承ケ文廟ノ享祀及管守ニ關スル事務ヲ掌理シ所屬直員ヲ監督ス

直員ノ進退ハ府尹、郡守、島司ノ申請ニ依リ道知事之ヲ行フ

直員ハ名譽職トシ府尹、郡守、島司及司成ノ指揮ヲ承ケ文廟ヲ直守シ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年朝鮮總督府令第百二十七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際文廟直員ノ職ニ在ル者ハ本令ニ依リ任命セラレタルモノトス

### ●朝鮮總督府ノ府尹郡守島司等ノ朝鮮煙草專賣令犯則處分ニ關スル職權ノ件

（大正十三年二月十二日　勅令第十六號）

朕朝鮮總督府ノ府尹郡守島司等ノ朝鮮煙草專賣令犯則處分ニ關スル職權ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府ノ府尹、郡守、島司、府郡島稅務官吏、道警察官吏及稅關官吏ハ朝鮮煙草專賣令又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ犯則處分ニ關スル事務ヲ行フコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# 第十九款　臺灣總督府及其所管

### ●臺灣總督府官制

（明治三十年十月二十一日　勅令第三百六十二號）

改正　明治三一年第一二三號、第一〇六號、三三年第二五四號、三四年第二〇一號、三五年第二五七號、三七年第一二三號、三八年第二三三號、四〇年第一六七號、四一年第四四號、四二年第一二七號、第二七〇號、四三年第二八一號、四四年第二六〇號、四五年第一四三號、大正二年第一一五號、三年第一四八號、四年第一六號、第一二九號、六年第八一號、第二〇九號、七年第三〇四號、八年第三一一號、第三九三號、九年第三四八號、一〇年第一八號、第三六〇號、一三年第三二號、第四二七號、一五年第三二一號

朕臺灣總督府官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍大臣副署）

臺灣總督府官制

第一條　臺灣總督府ニ臺灣總督ヲ置ク

總督ハ臺灣ヲ管轄ス

第二條　總督ハ親任トス

第三條　總督ハ內閣總理大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス

第三條ノ二　總督ハ安寧秩序ノ保持ノ爲必要ト認ムルトキハ其ノ管轄區域內ニ於ケル陸海軍ノ司令官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第四條　總督陸軍武官ナルトキハ臺灣軍司令官ヲ兼ネシムルコトヲ得

第五條　總督ハ其ノ職權若ハ特別ノ委任ニ依リ總督府令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第六條乃至第八條　削除

第九條　總督ハ必要ト認ムル地域內ニ於テ其ノ地ノ守備隊長若ハ駐在武官ヲシテ民政事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第十條　總督ハ知事又ハ廳長ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第十一條　總督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任文官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條　總督ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ敍位敍勳ヲ上奏ス

第十三條　總督ハ所部文官ヲ懲戒ス其ノ勅任官ニ係ルモノ竝ニ奏任官ノ免官ハ內閣總理大臣ヲ經テ上奏シ其ノ他ハ之ヲ專行ス

第十四條　總督府ニ總督官房ヲ置ク

總督官房ニ專任祕書官一人ヲ置ク機密ニ關スル事務ヲ掌ル

祕書官ハ奏任トス

第十五條、第十六條　削除

第十七條　總督府ニ總督官房ノ外左ノ五局ヲ置ク

內務局
文敎局
財務局
殖產局
警務局

內務局ニ測候所ヲ附屬セシム

殖產局ニ獸疫血清製造所ヲ置キ獸疫血清ノ製造及配付ニ關スル事務ヲ掌ラシム

殖產局ニ營林所及其ノ出張所ヲ置キ總督ノ指定スル國有林野ノ造林ニ關スル事務、其ノ國有林野ノ產物ノ採取、製造、加工及販賣ニ關スル事務竝之ニ附帶スル鐵道、道路及其ノ鐵道ニ依ル貨客ノ運輸營業ニ關スル事務ヲ掌ラシム

殖產局ニ度量衡所ヲ置キ度量衡器ノ製造、修理、販賣及取締其ノ他ノ度量衡及計量ニ關スル事務ヲ掌ラシム

第十八條　總督官房及各局ノ事務ノ分掌及其ノ分課ハ總督之ヲ定ム

第十九條　總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 總務長官 | | 勅任 |
| 局長 | 五人 | 勅任 |
| 事務官 | 專任二十人 | 奏任（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 警視 | 專任二人 | 奏任 |
| 視學官 | 專任五人 | 奏任 |
| 編修官 | 專任二人 | 奏任 |
| 技師 | 專任三十八人 | 奏任（內二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 統計官 | 專任一人 | 奏任 |
| 翻譯官 | 專任一人 | 奏任 |
| 屬 | 專任百九十四人 | 判任 |
| 警部 | 專任六人 | 判任 |
| 編修書記 | 專任四人 | 判任 |
| 技手 | 專任百三人 | 判任 |
| 通譯 | 專任一人 | 判任 |

各測候所ヲ通シテ技師一人技手十六人ヲ置ク

測候所技師ハ奏任、測候所技手ハ判任トス

第二十條　總務長官ハ總督ヲ佐ケ部務ヲ總理シ總督官房及各局ノ事務ヲ監督ス

第二十一條　局長ハ總督及總務長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第二十二條　警務局長ハ總督ノ特ニ命スル場合ニ限リ警察事務ノ執行ニ關シ總督及總務長官ノ命ヲ承ケ廳長、警務部長及警視以下ノ警察官吏ヲ指揮監督ス

第二十三條、第二十四條　削除

第二十五條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ總督官房及各局ノ事務ヲ掌ル

第二十六條　警視ハ警務局ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ警務ヲ掌ル

警視ハ警務警察事務ノ執行ニ關シ警務局長ノ命ヲ承ケ警部以下ノ警察官吏ヲ指揮監督ス

第二十六條ノ二　視學官ハ文教局ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ヲ掌ル

第二十六條ノ三　編修官ハ文教局ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ教科用圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十七條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ總督官房及各局ノ事務ヲ助ク

第二十七條ノ二　統計官ハ上官ノ命ヲ承ケ統計ヲ掌ル

第二十七條ノ三　測候所技師ハ上官ノ命ヲ承ケ氣象ニ關スル事務ヲ掌リ測候所技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ氣象ニ關スル事務ニ從事ス

第二十八條　翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第二十九條　各課ニ課長一人ヲ置キ奏任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上官ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス

第三十條　屬、技手及通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務技術通譯ニ從事ス

第三十一條　警部ハ警務局ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ警務ニ從事ス

第三十二條　編修書記ハ文教局ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ教科用圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務ニ從事ス

第三十三條　測候所、獸疫血清製造所、營林所、營林所出張所及度量衡所ノ名稱及位置ハ總督之ヲ定ム

附　則

臺灣總督府度量衡司檢所官制ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正八年勅令第三百九十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際臺灣總督府民政長官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ臺灣總督府總務長官ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中民政長官トアルハ臺灣總督府總務長官トス

（大正九年九月一日　臺灣總督府令第六十三號）

別ニ定ムルモノヲ除クノ外從前ノ府令及告示中營林局又ハ營林局長ニ關スル規定ハ殖產局又ハ殖產局長ニ關スル規定トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●臺灣總督府部內臨時職員設置制

（大正十三年十二月二十五日　勅令第四百二十八號）

改正　大正一四年第二七一號、一五年第一一號、第二五〇號

朕臺灣總督府部內臨時職員設置制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府部內臨時職員設置制

第一條　臺灣總督府ニ左ノ職員ヲ增置ス

一　營繕ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任五人
屬　專任一人
技手　專任二十七人

二　林野其ノ他ノ土地整理ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任一人
屬　專任十四人
技手　專任六人

三　河川事業ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任二人
屬　專任九人
技手　專任十七人

四　灌漑及排水ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任四人
屬　專任三人
技手　專任十四人

五　茶檢查ニ關スル事務ニ從事スル者
技手　專任三人

六　蔗苗養成ニ關スル事務ニ從事スル者
屬　專任三人
技手　專任七人

七　蔗苗及植物檢查ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任一人
屬　專任一人
技手　專任十三人

八　移出米檢查ニ關スル事務ニ從事スル者
屬　專任一人
技手　專任二十七人

九　水產試驗及海洋調査ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任一人
屬　專任一人
技手　專任五人

十　鑛物及地質ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任一人
技手　專任二人

十一　森林計畫ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任二人
技手　專任十二人

十二　保安林ニ關スル事務ニ從事スル者
屬　專任一人
技手　專任三人

十三　簡易國勢調査ニ關スル事務ニ從事スル者
屬　專任四人

十四　鳳梨栽培獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者
技手　專任一人

十五　計量器ノ取締ニ關スル事務ニ從事スル者
技手　專任一人

十六　大學創設ニ關スル事務ニ從事スル者
屬　專任二人

十七　臺東水道新設ニ關スル事務ニ從事スル者
技手　專任二人

十八　肥料檢查ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任一人
屬　專任一人
技手　專任二人

十九　內地種米獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者
技手　專任一人

二十　東部地方開發計畫ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任一人
屬　專任二人
技手　專任四人

第二條　臺灣總督府交通局ニ左ノ職員ヲ增置ス

一　鐵道ノ改良ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任四人（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得）
書記　專任六人
技手　專任七人

二　港灣ノ設備ニ關スル事務ニ從事スル者
技師　專任四人
書記　專任十二人
技手　專任十八人

三　道路橋梁ニ關スル事務ニ從事スル者
副參事　專任一人
技師　專任五人
書記　專任六人
技手　專任十七人

四　無線電信局建設ニ關スル事務ニ從事ス

ル者

| | | |
|---|---|---|
| 技師 | 專任一人 | |
| 書記 | 專任二人 | |
| 技手 | 專任七人 | |

第三條　酒類專賣ニ關スル工場其ノ他ノ建築及設備ニ從事セシムル爲臺灣總督府專賣局ニ左ノ職員ヲ増置ス

| | | |
|---|---|---|
| 技師 | 專任一人 | |
| 技手 | 專任六人 | |

第四條　臺灣總督府州及廳ニ左ノ職員ヲ増置ス

一　林野其ノ他ノ土地整理ニ從事スル者

| | | |
|---|---|---|
| 屬 | 專任十人 | |
| 技手 | 專任七人 | |

二　獸疫豫防ニ關スル事務ニ從事スル者

| | | |
|---|---|---|
| 防疫獸醫 | 專任七人 | 判任 |

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府評議會官制

（大正十年六月一日勅令第二百四十一號）

朕臺灣總督府評議會官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府評議會官制

第一條　臺灣總督府評議會ハ臺灣總督ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　評議會ハ會長一人、副會長一人及會員二十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ臺灣總督、副會長ハ臺灣總督府總務長官ヲ以テ之ニ充ツ

會員ハ臺灣總督府部內高等官及臺灣ニ居住スル學識經驗アル者ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

會員ノ任期ハ二年トス但シ臺灣總督必要ト認ムル場合ニ於テハ任期中ト雖解任スルコトヲ得

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス會長事故アルトキハ副會長其ノ職務ヲ代理ス會長副會長共ニ事故アルトキハ臺灣總督ノ指定スル會員會長ノ職務ヲ代理ス

第五條　評議會ニ幹事ヲ置ク臺灣總督府部內高等官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

幹事ハ會長又ハ副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　評議會ニ書記及通譯ヲ置ク臺灣總督府部內職員ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

書記又ハ通譯ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務又ハ通譯ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府醫院官制

（明治三十一年六月二十日勅令第百十一號）

改正　明治三九年第一一一號、四〇年第二二三號、四三年第一九九號
大正元年第二九號、二年第一二一號、三年第六一號、四年第一二七號、五年第二一八號、六年第一七九號、八年第二九三號、九年第五一六號、一〇年第二八號、第一八五號、第三六三號、一二年第二四九號、第四七四號、一三年第四三七號、一四年第二七二號

朕臺灣總督府醫院官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

臺灣總督府醫院官制

第一條　臺灣總督府醫院ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ疾病ノ診療ニ關スル事ヲ掌ル

臺灣總督ハ特ニ醫院ヲ指定シ看護婦及助産婦ノ養成ニ關スル事ヲ掌ラシムルコトヲ得

第二條　醫院ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | | |
|---|---|---|---|
| 院長 | | | |
| 醫長又ハ醫官 | 專任 | 四十六人 | 奏任 |
| 藥局長 | 專任 | 十二人 | 判任（內二人ヲ奏任ト爲スコトヲ得） |
| 醫官補 | 專任 | 七十人 | 判任 |
| 調劑師 | 專任 | 二十四人 | 判任 |
| 書記 | 專任 | 三十人 | 判任 |

第三條　院長ハ醫長又ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ

院長タル醫長ハ一人ヲ限リ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第四條　院長ハ臺灣總督ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第五條　削除

第六條　醫長、醫官及藥局長ハ院長ノ命ヲ承ケ診療及調劑ニ關スル事ヲ掌ル

第一條第二項ノ規定ニ依リ指定セラレタル醫院ノ醫長、醫官及藥局長ハ前項ニ規定スル事項ノ外院長ノ命ヲ承ケ看護婦及助産婦ノ養成ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　醫官補、調劑師及書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ各主務ニ從事ス

第八條　醫院ノ名稱及位置ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治三十一年六月二十日ヨリ施行ス

## ●臺灣總督府結核療養所官制

（大正十四年三月九日勅令第二十一號）

朕臺灣總督府結核療養所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府結核療養所官制

第一條　臺灣總督府結核療養所ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ結核患者ノ診療ニ關スル事ヲ掌ル

第二條　結核療養所ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 所長 | | |
| 醫官 | 專任一人 | 奏任 |
| 醫員 | 專任一人 | 判任 |
| 調劑手 | 專任一人 | 判任 |
| 書記 | 專任一人 | 判任 |

第三條　所長ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　醫官ハ所長ノ命ヲ承ケ診療ヲ掌ル

第五條　醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ診療ニ從事ス

第六條　調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第七條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　結核療養所ノ名稱及位置ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府感化院官制

（大正十一年四月二十七日勅令第二百三十四號）

朕臺灣總督府感化院官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府感化院官制

第一條　臺灣總督府感化院ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ命令ヲ以テ定ムル者ノ感化ヲ掌ル

第二條　臺灣總督府感化院ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 院長 | | |
| 敎諭 | 專任四人 | 判任 |
| 書記 | 專任一人 | 判任 |

第三條　院長ハ臺灣總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ

院長ハ臺灣總督ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　敎諭ハ在院者ノ感化ヲ掌ル

第五條　書記ハ院長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　感化院ノ名稱ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府交通局官制

（大正十三年十二月二十五日勅令第四百二十九號）

改正　大正一四年第三一九號、一五年第一七四號
昭和二年第七號

朕臺灣總督府交通局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府交通局官制

第一條　臺灣總督府交通局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　國有鐵道及其ノ附帶事業ニ關スル事項

二　港灣ノ設備及其ノ利用ニ關スル事項

三　道路橋梁ニ關スル事項

四　郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話及航路標識ニ關スル事項

五　私設鐵道、軌道、航路、船舶、海員及電氣事業ノ監督ニ關スル事項

第二條　臺灣總督府交通局ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 總長 | | 勅任 |
| 理事 | 專任一人 | 勅任又ハ奏任 |
| 參事 | 專任四人 | 奏任 |
| 副參事 | 專任九人 | 奏任 |
| 技師 | 專任十一人 | 奏任（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 書記 | 專任四百七人 | 判任 |
| 技手 | 專任百二十五人 | 判任 |

| | | |
|---|---|---|
| 交通主事 | 專任百八十七人 | 判任 |
| 燈臺看守 | 專任三十二人 | 判任 |
| 三等郵便局長 | | 判任 |

第三條　總長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

總長ハ奏任官ノ功過ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第四條　理事ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

理事ハ總長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第五條　參事及副參事ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第六條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル技師ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ助ク

第七條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九條　交通主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ從事ス

第十條　燈臺看守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ從事ス

第十一條　三等郵便局長ハ三等郵便局ノ長ト爲リ上司ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第十二條　臺灣總督府交通局ニ郵便局、電信局、電話局及燈臺ヲ置ク郵便局ヲ分チテ一等、二等及三等トス

第十三條　臺灣總督ハ必要ト認ムル地ニ交通局ノ出張所又ハ工場ヲ置クコトヲ得

第十四條　郵便局、電信局、電話局、燈臺、出張所及工場ノ名稱及位置ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府鐵道部官制及臺灣總督府通信官署官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ臺灣總督府鐵道部ノ書記若ハ技手又ハ臺灣總督府ノ通信書記、通信技手、通信書記補、三等郵便局長若ハ燈臺看守ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ鐵道部書記及通信書記ハ臺灣總督府交通局書記ニ、鐵道部技手及通信技手ハ臺灣總督府交通局技手ニ、通信書記補ハ臺灣總督府交通主事ニ、三等郵便局長ハ臺灣總督府三等郵便局長ニ、燈臺看守ハ臺灣總督府交通局燈臺看守ニ各同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

（大正十三年十二月二十五日臺灣總督府令第八十一號）

別ニ定ムルモノヲ除クノ外從前ノ府令及告示中鐵道部トアルハ交通局、鐵道部長トアルハ交通局總長トス但シ左記府令ハ交通局鐵道職員ニノミ之ヲ適用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年府令第百七十六號臺灣總督府鐵道部職員旅費規則

（大正十三年十二月二十五日臺灣總督府令第八十四號）

別ニ定ムルモノヲ除クノ外從前ノ府令中臺灣總督府遞信局又ハ臺灣總督府遞信局長トアルハ臺灣總督府交通局又ハ臺灣總督府交通局總長トシ、臺灣總督府通信官署官制ニ依ル郵便局、郵便局出張所、電信局、電信取扱所又ハ郵便局長、電信局長トアルハ臺灣總督府交通局、郵便局（郵便局出張所ヲ含ム）、電信局（電信取扱所ヲ含ム）又ハ臺灣總督府交通局郵便局長、電信局長トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府官吏戰時事變ノ際臨時事務ニ從事者補闕ノ件

（明治三十七年五月三日勅令第百三十五號）

朕臺灣總督府又ハ北海道鐵道部官吏補闕ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

明治三十四年勅令第七號ハ臺灣總督府ノ鐵道又ハ通信事務ニ從事スル官吏【及北海道鐵道部ノ官吏】ニ關シ之ヲ準用ス

## ●【臺灣總督府鐵道部】工場ニ於テ機械其ノ他ノ製作及修理ヲ引受ケ得ルノ件

（明治三十九年八月二十五日勅令第二百二十四號）

朕臺灣總督府鐵道部工場ニ於テ機械其ノ他ノ製作及修理ヲ引受クルヲ得ルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

【臺灣總督府鐵道部】工場ニ於テ他官廳又ハ會社若ハ個人ヨリ請求スルモノアルトキハ機械其ノ他ノ製作又ハ修理ヲ引受クルコトヲ得

## ●臺灣總督府專賣局官制

（明治三十四年五月二十四日勅令第百十六號）

改正　明治三五年第二五八號、三八年第八九號、三九年第二〇七號、四二年第四四號、第二七三號
大正元年第二二號、第一一九號、四年第二〇號、第一三〇號、八年第二九九號、九年第五四二號、一〇年第二三七號、一一年第一五五號、一二年第五一八號、一三年第四三〇號、一五年第一五六號

朕臺灣總督府專賣局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

臺灣總督府專賣局官制

第一條　臺灣總督府專賣局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌理ス

一　樟腦、樟腦油、阿片、食鹽、煙草及酒類ノ收納、購買、賣渡、保管、製造及檢查ニ關スル事項

二　樟腦、酒類、白糀、紅糀、酒母及醪ノ製造特許及取締ニ關スル事項

三　鹽田ニ關スル事項

四　煙草ノ耕作及取締ニ關スル事項

第二條　臺灣總督府專賣局ハ之ヲ臺北ニ置ク

第三條　臺灣總督府專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 局長 | | 勅任 |
| 參事 | 專任六人 | 奏任 |
| 副參事 | 專任四人 | 奏任 |
| 技師 | 專任八人 | 奏任 |
| 書記 | 專任百六十四人 | 判任 |
| 技手 | 專任六十七人 | 判任 |

第四條　前條定員ノ外必要ニ應シ俸給定額內ニ於テ技師及技手ヲ置クコトヲ得

第五條　局長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

局長ハ奏任官ノ功過ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ自ラ之ヲ行フ

第六條　參事及副參事ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第七條　削除

第八條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ分掌ス

第九條　削除

第十條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十一條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第十二條　削除

第十三條　臺灣總督ハ必要ト認ムル地ニ專賣局ノ支局、出張所又ハ工場ヲ置クコトヲ得

支局、出張所及工場ノ名稱及位置ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十四條　支局長ハ參事、副參事、技師又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條　支局長ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ支局一切ノ事務ヲ掌理ス

附　則

第十六條　本令ハ明治三十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　臺灣總督府製藥所官制、臺灣鹽務局官制及臺灣樟腦局官制ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

## ●臺灣總督府稅關官制

（明治三十四年四月十一日勅令第四十九號）

改正　明治三五年第二一四號、三八年第一二七號、三九年第一一〇號、四〇年第一六九號、四一年第一七四號、四二年第一三六號、第二七四號、四三年第四四〇號、四四年第一九〇號
大正二年第一二〇號、三年第六〇號、四年第二一號、第一二六號、七年第四號、八年第三六〇號、一〇年第三五一號、一三年第二號、第四三一號、一五年第二九八號
昭和二年第一一六號

朕臺灣總督府稅關官制ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

臺灣總督府稅關官制

第一條　臺灣總督府稅關ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　關稅、噸稅及稅關諸收入ニ關スル事項

二　保稅倉庫、假置場其ノ他ノ保稅地域ニ關スル事項

三　船舶及貨物ノ取締並貨物ノ收容ニ關スル事項

四　臺灣關稅規則、臺灣噸稅規則及稅關ニ於テ發見シタル臺灣間接國稅犯則者ノ處分ニ關スル事項

五　輸出入貨物ノ戾稅及交付金ニ關スル事項

六　運送通路ノ取締ニ關スル事項

七　製茶稅ニ關スル事項

八　輸入ノ砂糖、織物ノ消費稅及骨牌ノ課稅ニ關スル事項

九　砂糖ノ內地移出ノ取締ニ關スル事項

十　稅關又ハ稅關支署ノ所在地ニ於ケル移出先（砂糖消費稅法第七條ニ規定スルモノ）ヨリ引取ラルル砂糖ノ消費稅ニ關スル事項

第二條　稅關ハ之ヲ臺北州基隆港ニ置ク

第三條　削除

第四條　稅關ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | | |
|---|---|---|---|
| 稅關長 | 專任 | | 奏任 |
| 事務官 | 專任 | 三人 | 奏任 |
| 鑑定官 | 專任 | 一人 | 奏任 |
| 屬 | 專任 | 四十五人 | 判任 |
| 監視 | 專任 | 十八人 | 判任 |
| 鑑定官補 | 專任 | 二十人 | 判任 |
| 技手 | 專任 | 一人 | 判任 |
| 監吏 | 專任 | 百二十一人 | 判任 |

特許手數料ヲ徵シテ保稅地域其ノ他關稅上特殊ノ取扱ヲ爲ス場所ニ常時派出スル稅關官吏ハ之ヲ定員外トス

第五條　稅關長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第六條　事務官ハ稅關監視部長又ハ稅關支署長タル者ノ外稅關長ノ命ヲ承ケ稅關ノ事務ヲ掌理ス

第七條　鑑定官ハ稅關長ノ命ヲ承ケ貨物ノ檢查鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス

第八條　屬ハ稅關支署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　監視ハ稅關監視部長若ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十條　鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ檢查鑑定ニ從事ス

第十條ノ二　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第十一條　監吏ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ニ從事ス

第十二條　稅關ニ稅關監視部ヲ置ク

稅關監視部ニ部長一人ヲ置キ事務官又ハ監視ヲ以テ之ニ充ツ

稅關監視部長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十三條　臺灣總督ハ必要ナル場所ニ稅關支署、稅關出張所、稅關支署出張所及稅關監視署ヲ置クコトヲ得

稅關支署ノ管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十四條　稅關支署ニ支署長一人ヲ置キ事務官又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

稅關支署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ管轄內ノ稅關事務ヲ掌理ス

第十五條　稅關監視署ニ署長一人ヲ置キ監視若ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ

稅關監視署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則者ノ處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

附　則

本令ハ明治三十四年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府中央研究所官制

（大正十年八月二日勅令第三百六十二號）

（改正　大正一三年第三六號、第四三六號　昭和二年第一二九號）

朕臺灣總督府中央研究所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府中央研究所官制

第一條　臺灣總督府中央研究所ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

一　農業、蔗業、林業、工業其ノ他ノ產業及衞生ニ關スル研究、調查、試驗、分析、鑑定、講習及講話

二　種苗、種畜、細菌學的豫防治療品其ノ他研究調查又ハ試驗ノ結果ニ因ル物料等ノ育成、製造、配付又ハ貸付

第二條　臺灣總督府中央研究所ニ部及課ヲ置ク

部及課ノ事務ノ分掌ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三條　臺灣總督府中央研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 所長 | | |
| 部長 | | |
| 事務官 | 專任一人 | 奏任 |
| 技師 | 專任三十四人 | 奏任（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 屬 | 專任十六人 | 判任 |
| 技手 | 專任六十八人 | 判任 |

第四條　所長ハ臺灣總督府總務長官ヲ以テ之ニ充ツ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ總理ス

第五條　部長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ所長ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第六條　事務官ハ所長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第七條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十條　臺灣總督ハ必要ト認ムル地ニ臺灣總督府中央研究所支所ヲ置クコトヲ得其ノ位置及名稱ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十一條　第一條ノ事項ニ關シ所長ノ諮問ニ應セシムル爲臺灣總督府中央研究所ニ評議會ヲ置ク

評議會員ハ關係臺灣總督府部內高等官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府農事試驗場官制及臺灣總督府研究所官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ臺灣總督府農事試驗場又ハ臺灣總督府研究所ノ技師、書記又ハ技手タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各臺灣總督府中央研究所ノ技師、屬又ハ技手ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

（大正十年八月二日臺灣總督府令第百二十六號）

別ニ定ムルモノヲ除クノ外從前ノ府令及告示中研究所又ハ研究所長、農事試驗場又ハ農事試驗場長、園藝試驗場又ハ園藝試驗場主任、種畜場又ハ種畜場長又ハ支場長、林業試驗場又ハ林業試驗場長又ハ主任、糖業試驗場又ハ糖業試驗場長、茶樹栽培試驗場又ハ茶樹栽培試驗場主任ニ關スル規定ハ中央研究所又ハ中央研究所長ニ關スル規定トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制

（明治三十一年六月二十日勅令第百十二號）

（改正　明治三三年第二二號、四〇年第一一九號、四二年第二七八號、四三年第一〇號　大正一一年第二二〇號、一四年第九〇號、一五年第一二六號）

朕臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制

第一條　臺灣總督府警察官及司獄官練習所ハ警部、巡查、看守長、看守タルニ必要ナル學術及實務ヲ敎授スル所トス

第二條　警察官及司獄官練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
敎官
舍監
書記

第三條　所長ハ臺灣總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ臺灣總督ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　所長ハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ所內ノ規則ヲ定ムルコトヲ得

第五條　專任敎官ハ奏任二人及判任八人トス

所長事故アルトキハ上席敎官其ノ職務ヲ代理ス

第六條　舍監ハ敎官ヲ以テ之ニ充ツ所長ノ指揮ヲ承ケ練習生ノ紀律ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　書記ハ專任二人判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ明治三十一年七月一日ヨリ施行ス

明治三十年勅令第九十三號臺灣總督府巡查看守敎習所官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

## ●臺灣總督府警察官及司獄官練習所ニ巡查及看守ヲ置クヲ得ルノ件

（明治三十二年十月十日勅令第四百號）

朕臺灣總督府警察官及司獄官練習所ニ巡查及看守ヲ置クヲ得ルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ニ充ツル爲臺灣總督府ニ巡查及看守ヲ置クコトヲ得

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

## ●臺灣總督府警察官吏ノ職務應援ニ關スル件

（大正九年十一月二十七日勅令第五百五十三號）

朕臺灣總督府警察官吏ノ職務應援ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　臺灣總督府ノ州知事又ハ廳長ハ災害警防、蕃地警備又ハ取締上必要アル場合ニ於テ應援ノ爲他ノ州知事若ハ廳長又ハ警察官及司獄官練習所長ニ協議シテ警察官吏ノ派遣ヲ求ムルコトヲ得

臺灣總督ハ災害警防、蕃地警備又ハ取締上緊急ノ必要アル場合ニ於テ州知事、廳長又ハ警察官及司獄官練習所長ニ對シ他ノ州知事又ハ廳長ノ事務應援ノ爲警察官吏ノ派遣ヲ命スルコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依リ派遣セラレタル警察官吏ハ其ノ地ノ警察官吏トシテ職務ニ從事スルモノトス

第三條　州知事又ハ廳長ハ警察上特ニ保護又ハ注意ヲ要スル者ニ對シ同行ヲ必要トスル場合ニ於テ所屬警察官吏ヲシテ他ノ州又ハ廳ノ區域ニ亙リ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ニ依リ派遣ヲ命セラレタル警察官吏ノ旅費其ノ他臨時必要ナル費用ハ當分ノ內應援ヲ受ケタル州又ハ廳地方費ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

## ●臺灣總督府法院職員定員令

（大正九年十二月二十日勅令第五百六十八號）

（改正　大正一〇年第四二七號、一一年第二四四號、一二年第二三四號、一三年第四三三號、一五年第二二四號）

朕臺灣總督府法院職員定員令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府法院職員定員令

第一條　臺灣總督府法院判官臺灣總督府法院檢察官各職ノ定員左ノ如シ

| | | |
|---|---|---|
| 高等法院 | | |
| 長 | 勅任 | 一人 |
| 判官 | 奏任 | 十三人 |
| 高等法院檢察局 | | |
| 檢察官長 | 勅任 | 一人 |
| 檢察官 | 奏任 | 二人 |
| 地方法院 | | |
| 長 | 勅任又ハ奏任 | 三人 |
| 判官 | 奏任 | 二十二人 |
| 地方法院檢察局 | | |
| 檢察官長 | 勅任又ハ奏任 | 三人 |
| 檢察官 | 奏任 | 十人 |

高等法院判官ニシテ上告部判官タルモノハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

勅任タル高等法院上告部判官、地方法院長及地方法院檢察官長ハ通シテ四人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　前條ニ掲クルモノヲ除クノ外臺灣總督府法院職員ノ定員左ノ如シ

| | |
|---|---|
| 書記長 | 一人 |
| 書記 | 專任百六十二人 |
| 通譯 | 專任三十三人 |

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（昭和二年七月一日勅令第二百十四號）

朕臺灣總督府法院職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府法院職員定員令中左ノ通改正ス

第一條第一項中「判官　奏任　十三人」ヲ「判官　奏任　九人」ニ、「判官　奏任　二十二人」ヲ「判官　奏任　三十五人」ニ、「檢察官　奏任　十人」ヲ「檢察官　奏任　十七人」ニ改ム

第二條中「書記　專任百六十二人」ヲ「書記　專任百七十一人」ニ、「通譯　專任三十三人」ヲ「通譯　專任四十人」ニ改ム

附　則

本令ハ昭和二年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府供託局官制

（大正十一年三月三十日勅令第七十一號）

（改正　大正一三年第四三四號）

朕臺灣總督府供託局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府供託局官制

第一條　臺灣總督府供託局ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ法令ニ依リテ爲ス供託事務ヲ掌ル

第二條　供託局ハ各地方法院ノ所在地ニ之ヲ置ク

第三條　各供託局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 局長 | | |
| 書記 | 專任五人 | 判任 |

第四條　局長ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ供託局ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第五條　書記ハ局長タル者ヲ除クノ外局長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　臺灣總督ハ地方法院支部又ハ地方法院若ハ地方法院支部ノ出張所ノ所在地其ノ他必要ト認ムル地ニ供託局出張所ヲ置キ供託局ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府監獄官制

（明治三十三年九月八日勅令第三百五十九號）

（改正　明治三四年第七六號、四二年第二八〇號、四四年第一一一號、四五年第一三二號　大正二年第一二三號、四年第二三三號、七年第三九〇號、八年第三二六號、一〇年第四二五號、一一年第四四三號、一二年第四九五號、一三年第四三五號、一五年第三六號）

朕臺灣總督府監獄官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

臺灣總督府監獄官制

第一條　臺灣總督府監獄ハ臺灣總督ノ管理ニ屬ス

第二條　監獄ノ位置及名稱ハ臺灣總督之ヲ定ム

各監獄ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 典獄 | 三人 | 奏任 |
| 典獄補 | 一人 | 奏任 |
| 看守長 | 專任三十四人 | 判任 |
| 通譯 | 專任三人 | 判任 |

第三條　典獄及典獄補ハ臺灣總督ノ監督ヲ承ケ監獄ノ長トナリ監獄ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條　看守長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事シ又ハ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守以下ヲ指揮監督ス

第五條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第六條　削除

第七條　臺灣總督ハ第二條ノ職員ノ外須要ニ應シ俸給定額內ニ於テ各監獄ニ技手ヲ置クコトヲ得

第八條　技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事ニ從フ

第九條　典獄及典獄補ハ判任官竝判任官ノ待遇ヲ受クル保健技手、敎誨師、敎師及作業技手ノ進退ハ之ヲ臺灣總督ニ具狀シ看守及女監取締ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十條　削除

第十一條　典獄及典獄補事故アルトキハ上席看守長其ノ職務ヲ代理ス

第十二條　削除

第十三條　臺灣總督ハ監獄ノ支監ヲ置クコトヲ得

支監長ハ看守長ヲ以テ之ニ充ツ典獄ノ指揮監督ヲ承ケ支監ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

支監長事故アルトキハ上席看守長其ノ職務ヲ代理ス

第十四條　監獄ニ保健技師、保健技手、敎誨師、

教師、作業技手、看守及女監取締ヲ置ク其ノ定員、職務及懲戒ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

保健技師ハ奏任官ノ待遇トシ教誨師ハ奏任官ノ待遇又ハ判任官ノ待遇トシ保健技手、教師、作業技手、看守及女監取締ハ判任官ノ待遇トス

附　則

本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府諸學校官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百五十七號）

（改正　大正一二年第一四八號、第二八六號、第三〇四號、一三年第七三號、第一四七號、第四三八號、一四年第二一一號、一五年第二八三號　昭和二年第五二號、第一一三號）

朕臺灣總督府諸學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府諸學校官制

第一條　臺灣總督府ノ專門學校ハ左ノ如シ

臺北醫學專門學校
臺北高等農林學校
臺北高等商業學校
臺南高等商業學校

第二條　臺灣總督府ノ高等學校及師範學校ハ左ノ如シ

臺北高等學校
臺北第一師範學校
臺北第二師範學校
臺中師範學校
臺南師範學校

第三條　臺北第一師範學校ニ附屬ノ小學校ヲ、臺北第二師範學校及臺南師範學校ニ附屬ノ公學校ヲ置ク

第四條　臺灣總督府ノ專門學校及高等學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　勅任又ハ奏任
教授　奏任
助教授　判任
教諭　判任（内三人ヲ奏任ト爲スコトヲ得）
生徒監
書記　判任

教諭ハ高等學校ニ之ヲ置ク

第五條　臺灣總督府師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　奏任
教諭　奏任又ハ判任
主事
舍監
訓導　判任
書記　判任

主事及訓導ハ附屬ノ小學校又ハ公學校ヲ置キタル學校ニ之ヲ置ク

第一項ノ教諭ニシテ奏任タル者ノ員數ハ當該學校ニ於ケル學級數八學級迄ハ三人以内トシ以上三學級ヲ增ス每ニ一人ヲ加フルコトヲ得

學校長ヨリ兼任スル教諭ハ前項ノ定員ノ外トス

第六條　臺灣總督府諸學校ノ專任職員ノ定員ハ別表ニ依ル

師範學校訓導ニシテ陸軍一年現役ニ服役スル者ハ其ノ期間之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

第七條　學校長ハ臺灣總督ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條　專門學校ノ教授及助教授ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條　高等學校ノ教授及助教授ハ高等科生徒ノ教育ヲ、教諭ハ尋常科生徒ノ教育ヲ掌ル

第十條　生徒監ハ專門學校ニ在リテハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ、高等學校ニ在リテハ教授、助教授又ハ教諭ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十一條　師範學校ノ教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第十二條　主事ハ附屬ノ小學校又ハ公學校ヲ置キタル師範學校ノ教諭ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ附屬ノ小學校又ハ公學校ノ事務ヲ掌ル

第十三條　舍監ハ師範學校教諭ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ノ事ヲ掌ル

第十四條　訓導ハ附屬ノ小學校又ハ公學校ノ兒童ノ教育ヲ掌リ兼ネテ師範學校生徒ノ實地授業ヲ指導ス

第十五條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

臺灣總督府高等商業學校官制
臺灣總督府醫學專門學校官制
臺灣總督府師範學校官制
臺灣總督府農林專門學校官制

本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ臺灣總督府高等商業學校、臺灣總督府醫學專門學校又ハ臺灣總督府農林專門學校ノ學校長、教授、助教授又ハ書記ノ職ニ在ル者ハ各臺灣總督府高等商業學校、臺灣總督府醫學專門學校又ハ臺灣總督府高等農林學校ノ學校長、教授、助教授又ハ書記ニ、臺灣總督府師範學校ノ學校長、教諭又ハ書記ノ職ニ在ル者ハ各臺灣總督府師範學校ノ學校長、訓導又ハ書記ニ、臺灣總督府師範學校ノ教授又ハ助教授ノ職ニ在ル者ハ臺灣總督府師範學校ノ教諭ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス但シ現ニ臺灣總督府醫學專門學校ノ奏任助教授ノ職ニ在ル者ハ臺灣總督府醫學專門學校ノ教授ニ同官等及現ニ受クル俸給額ニ相當スル俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

（別表）

臺灣總督府諸學校職員定員表

| 學校名 | 學校長 | 教授 | 教諭 | 助教授 | 訓導 | 書記 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 臺北醫學專門學校 | 一 | 二二 |  | 五 |  | 五 |
| 臺北高等農林學校 | 一 | 一五 |  | 九 |  | 三 |
| 臺北高等商業學校 | 一 | 一四 |  | 五 |  | 三 |
| 臺南高等商業學校 | 一 | 六 |  | 五 |  | 三 |
| 臺北高等學校 | 一 | 二六 | 一〇 | 二 |  | 六 |
| 臺北第一師範學校 | 一 |  | 一九 |  | 二一 | 四 |
| 臺北第二師範學校 | 一 |  | 二八 |  | 二五 | 四 |
| 臺中師範學校 | 一 |  | 二〇 |  |  | 四 |
| 臺南師範學校 | 一 |  | 二八 |  | 二六 | 四 |

## ●臺灣公立學校官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百五十八號）

朕臺灣公立學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣公立學校官制

第一條　公立ノ中學校、高等女學校及實業學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　奏任
教諭　奏任又ハ判任
助教諭　判任
主事
舍監
訓導　判任
書記　判任

女子實業學校及實業補習學校ノ學校長ハ奏任又ハ判任トス

助教諭ハ女子實業學校又ハ實業補習學校ニ之ヲ置ク

主事及訓導ハ附屬ノ小學校又ハ公學校ヲ置キタル學校ニ之ヲ置ク

舍監ハ寄宿舍ノ設アル學校ニ之ヲ置ク

第二條　教諭ニシテ奏任タル者ノ員數ハ當該學校ニ於ケル學級數八學級以下ノ中學校及高等女學校又ハ六學級以下ノ實業學校ニ在リテハ三人以内トシ以上三學級ヲ增ス每ニ一人ヲ加フルコトヲ得

學校長ヨリ兼任スル教諭ハ前項ノ定員ノ外トス

第三條　公立ノ小學校及公學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
訓導　判任
准訓導

第四條　公立ノ中學校、高等女學校及實業學校ノ學校長ハ州知事又ハ廳長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第五條　教諭及助教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第六條　主事ハ附屬ノ小學校又ハ公學校ヲ置キタル學校ノ教諭ノ中ヨリ州知事又ハ廳長之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ附屬ノ小學校又ハ公學校ノ事務ヲ掌ル

第七條　舍監ハ教諭又ハ助教諭ノ中ヨリ州知事又ハ廳長之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ノ事ヲ掌ル

第八條　訓導ハ中學校又ハ高等女學校ノ附屬ノ小學校又ハ公學校ノ兒童ノ教育ヲ掌リ兼ネテ中學校又ハ高等女學校ノ演習科又ハ講習科ノ生徒ノ實地授業ヲ指導ス

第九條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　公立ノ小學校及公學校ノ學校長ハ訓導ノ中ヨリ州知事又ハ廳長之ヲ補シ郡守、市尹又ハ支廳長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十一條　小學校又ハ公學校ノ訓導ハ兒童ノ教育ヲ掌リ兼ネテ學校長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第十二條　准訓導ハ判任官ノ待遇トシ訓導ノ職務ヲ助ク

第十三條　公立ノ中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ノ定員ハ各學校ニ付臺灣總督之ヲ定ム

公立ノ實業補習學校、小學校及公學校ノ職員ノ定員ニ關スル規程、公立ノ小學校及公學校ノ准訓導ノ給與及其ノ他ノ諸給與ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十四條　公立ノ中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ノ俸給ハ國庫ノ負擔トシ公立ノ實業補習學校、小學校及公學校ノ職員ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ州又ハ廳地方費ノ負擔トス

第十五條　本令ニ於テ實業學校ト稱スルハ實業專門學校以外ノ實業學校ヲ謂フ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

臺灣公立高等普通學校官制
臺灣公立女子高等普通學校官制
臺灣公立簡易實業學校官制
臺灣公立公學校官制
臺灣公立高等女學校官制
臺灣公立中學校官制
臺灣公立實業學校官制

本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ [illegible]

## ●臺灣公立盲啞學校官制

（大正十一年四月二十二日勅令第二百二十四號）

朕臺灣公立盲啞學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣公立盲啞學校官制

第一條　臺灣公立盲啞學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　判任
教諭　奏任又ハ判任
舍監
書記　判任

第二條　學校長ハ州知事又ハ廳長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第三條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第四條　舍監ハ教諭ノ中ヨリ州知事又ハ廳長之ヲ補ス學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ノ事ヲ掌ル

第五條　書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第六條　臺灣公立盲啞學校ノ職員ノ定員ハ各學校ニ付臺灣總督之ヲ定ム

第七條　臺灣公立盲啞學校ノ職員ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ州又ハ廳地方費ノ負擔トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣公立幼稚園官制

（大正十二年三月二十四日勅令第四十九號）

朕臺灣公立幼稚園官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣公立幼稚園官制

第一條　臺灣公立幼稚園ニ左ノ職員ヲ置ク

園長
保姆

第二條　園長ハ保姆ノ中ヨリ州知事又ハ廳長之ヲ補ス但シ必要アルトキハ公立ノ小學校若ハ公學校ノ學校長又ハ廳、郡若ハ市ノ視學ヲ以テ園長ニ充ツルコトヲ得

園長ハ廳長、郡守又ハ市尹ノ命ヲ承ケ園務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第三條　保姆ハ判任官ノ待遇トス幼兒ノ保育ヲ擔任シ兼ネテ園長ノ指揮ヲ承ケ園務ニ從事ス

第四條　公立幼稚園ノ職員ノ俸給其ノ他ノ諸給與ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

第五條　市街庄立幼稚園ノ職員ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ州又ハ廳地方費ノ負擔トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府圖書館官制

（大正三年四月十四日勅令第六十二號）

（改正　大正五年第一三二號、一〇年第一四〇號）

朕臺灣總督府圖書館官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

臺灣總督府圖書館官制

第一條　臺灣總督府圖書館ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ圖書ノ蒐集保存及公衆ノ閲覽ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　臺灣總督府圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長　奏任
司書　專任三人　判任
書記　專任一人　判任

第三條　削除

第四條　館長ハ臺灣總督ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第五條　削除

第六條　司書ハ上司ノ指揮ヲ承ケ圖書ノ蒐集保存及閲覽ニ關スル事務ニ從事ス

第七條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　臺灣總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ臺灣總督府圖書館ニ商議委員ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府地方官官制

（大正九年七月二十七日勅令第二百十八號）

（改正　大正九年第五二七號、一〇年第二八〇號、一三年第三四號、第四〇二號、一五年）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ臺灣總督府地方官官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臺灣總督府地方官官制　（總理大臣副署）

第一條　臺灣ニ左ノ州及廳ヲ置ク

臺北州
新竹州
臺中州
臺南州
高雄州
臺東廳
花蓮港廳
澎湖廳

州及廳ノ位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二條　州及廳ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 知事 | 五人 | 勅任 |
| 廳長 | 三人 | 奏任 |
| 事務官 | 十人 | 奏任 |
| 地方理事官 | 專任二十六人 | 奏任 |
| 地方警視 | 專任十五人 | 奏任 |
| 地方技師 | 專任十六人 | 奏任 |
| 視學 | 專任十三人 | 判任 |
| 屬 | 專任四百八人 | 判任 |
| 警部 | 專任二百二十人 | 判任 |
| 技手 | 專任百四十五人 | 判任 |
| 通譯 | 專任十六人 | 判任 |
| 警部補 | 專任二百七十人 | 判任 |
| 稅務吏 | 專任百一人 | 判任 |
| 森林主事 | 專任百三人 | 判任 |

前項職員ノ中知事、事務官及地方技師ハ州ニ、廳長ハ廳ニ之ヲ置ク

第三條　地方理事官、地方警視、地方技師及判任官ノ各州及各廳ニ於ケル定員ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四條　大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ俸給最低額以下ヲ受クル地方技師及判任官俸給令第六條ノ規定ニ依リ俸給最低額以下ヲ受クル技手ハ第二條ノ定員ノ外トス

第五條　知事又ハ廳長ハ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ法令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ管理ス

第六條　知事又ハ廳長ハ部內ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管內一般又ハ其ノ一部ニ州令又ハ廳令ヲ發スルコトヲ得

知事ハ其ノ發スル命令ニ二月以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、七十圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

廳長ハ其ノ發スル命令ニ拘留又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第七條　知事又ハ廳長ハ管內ノ靜謐ヲ維持スル爲兵力ヲ要スルトキハ之ヲ臺灣總督ニ具狀スヘシ但シ非常急變ノ場合ニ際シテハ直ニ當該地方ノ陸海軍ノ司令官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第八條　知事又ハ廳長ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ功過ヲ臺灣總督ニ具狀ス

判任官ノ進退ハ知事ハ自ラ之ヲ行ヒ廳長ハ臺灣總督ニ之ヲ具狀ス

第九條　知事ハ郡守、市尹又ハ警察署長ノ爲ス處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

廳長ハ街庄長ノ爲ス處分ニ付テハ前項ノ例ニ依リ之ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十條　知事事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ事務官其ノ職務ヲ代理ス

廳長事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ地方理事官又ハ廳在勤ノ地方警視其ノ職務ヲ代理ス

前二項ノ規定ニ依リ職務ヲ代理スル者ナキ場合ニ於テハ臺灣總督ハ當該ノ州又ハ廳ノ高等官ノ一人ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシム

第十一條　知事又ハ廳長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ部下ノ官吏ヲシテ臨時代理セシムルコトヲ得

知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡守、市尹又ハ警察署長ニ委任スルコトヲ得

第十二條　州ニ知事官房、內務部及警務部ヲ置ク其ノ事務ノ分掌ハ臺灣總督之ヲ定ム

廳ニ於ケル事務ノ分掌ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十三條　事務官ハ內務部又ハ警務部ノ部長ト爲ル知事ノ命ヲ承ケ部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十四條　警務部長ハ警察及衛生ノ事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケ郡守、地方警視、警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第十五條　地方理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十六條　地方警視ハ上官ノ命ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ヲ掌リ部下ノ警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第十七條　地方技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十八條　視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル事務ニ從事ス

第十九條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ニ從事シ部下ノ警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第二十一條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十二條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第二十三條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ニ從事シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十四條　稅務吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ徵稅ニ關スル事務ニ從事ス

第二十五條　森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ林野ノ取締及保護ニ從事ス

第二十六條　州及廳ニ警察醫ヲ置ク奏任官又ハ判任官ノ待遇トス

警察醫ノ定員ハ州及廳ヲ通シテ奏任官待遇者ニ在リテハ六人以內、判任官待遇者ニ在リテハ八人以內トシ其ノ各州及各廳ニ於ケル定員ハ臺灣總督之ヲ定ム

警察醫ハ上官ノ命ヲ承ケ警察及衛生ニ關スル醫務ニ從事ス

第二十七條　州及廳ニ巡查ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡查ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十八條　廳長ハ廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲臺灣總督ノ認可ヲ受ケ支廳ヲ置クコトヲ得

支廳長ハ地方警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

支廳長事故アルトキハ上席官吏其ノ職務ヲ代理ス

第二十九條　市ニ警察署ヲ置ク

知事ハ必要アリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得

警察署ノ名稱、位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

警察分署ノ名稱、位置及管轄區域ハ知事之ヲ定ム

第三十條　警察署長ハ地方警視、警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長又ハ警察分署長ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ部內ノ警察及衛生ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第三十一條　知事ハ徵稅ニ關スル事務ヲ分掌セシムル爲臺灣總督ノ認可ヲ受ケ稅務出張所ヲ置クコトヲ得

稅務出張所長ハ地方理事官又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ

第三十二條　州ニ郡及市ヲ置ク

郡ノ數ハ四十五、市ノ數ハ五トス

郡及市ノ名稱、位置及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三十三條　郡及市ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 郡守 | | |
| 市尹 | | |
| 助役 | | |
| 地方理事官 | 五十五人 | 奏任 |
| 地方技師 | 專任一人 | 奏任 |
| 視學 | 專任五十人 | 判任 |
| 屬 | 專任三百四十九人 | 判任 |
| 技手 | 專任五十人 | 判任 |

前項職員ノ中郡守ハ郡ニ、市尹、助役及地方技師ハ市ニ之ヲ置ク

郡守、市尹及助役ハ地方理事官ヲ以テ之ニ充ツ

地方技師及判任官ノ各州ニ於ケル定員ハ臺灣總督、各郡及各市ニ於ケル定員ハ知事之ヲ定ム

---

第三十四條　各市ニ於ケル助役ノ定員ハ一人トス

臺灣總督ハ州ノ地方警視、警部、警部補又ハ巡查ヲ郡ニ配置スルコトヲ得

第三十五條　第四條ノ規定ハ郡及市ノ地方技師及技手ノ定員ニ付之ヲ準用ス

第三十六條　郡守又ハ市尹ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ所部ノ官吏ヲ指揮監督ス

郡守ハ警察及衛生ノ事務ニ關シ郡ニ配置セラレタル地方警視、警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第三十七條　郡守又ハ市尹ハ其ノ指揮監督スル判任官ノ進退ヲ知事ニ具狀ス

第三十八條　郡守ハ街庄長ノ爲ス處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第三十九條　郡守又ハ市尹事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理スル官吏ハ知事之ヲ指定ス

郡守又ハ市尹ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ部下ノ官吏ヲシテ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十條　郡又ハ市ニ於ケル事務ノ分掌ハ知事之ヲ定ム

第四十一條　市ノ助役ハ市尹ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第四十二條　市ノ地方技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第四十三條　郡又ハ市ノ視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル事務ニ從事ス

第四十四條　郡又ハ市ノ屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十五條　郡又ハ市ノ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第四十六條　郡ニ街又ハ庄ヲ置ク但シ臺灣總督ノ指定スル蕃地ニハ之ヲ置カサルコトヲ得

臺灣總督ハ地方ノ狀況ニ依リ廳ニ街又ハ庄ヲ置クコトヲ得

街庄ノ名稱及管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

街ニ街長、庄ニ庄長ヲ置ク判任官ノ待遇トス

但シ街長ハ十人ヲ限リ之ヲ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

街庄長ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ街庄內ノ行政事務ヲ補助執行ス

街庄長ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四十七條　臺北州及高雄州ニ港務部ヲ置ク

港務部ノ事務ノ分掌ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四十八條　港務部ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 部長 | | |
| 港務官 | 專任一人 | 奏任 |
| 港務醫官 | 專任一人 | 奏任 |
| 港務屬 | 專任二人 | 判任 |
| 港吏 | 專任四人 | 判任 |
| 港務醫官補 | 專任一人 | 判任 |
| 港務獸醫 | 專任一人 | 判任 |
| 港務調劑手 | 專任一人 | 判任 |

第四十九條　部長ハ州警務部長ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ知事ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

部長ハ其ノ所管事務ニ關シテハ警察官吏ヲ指揮スルコトヲ得

第五十條　港務官ハ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌ル

第五十一條　港務醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ檢疫及醫務ヲ掌ル

第五十二條　港務屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

港吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部務ニ從事ス

港務醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢疫及醫務ニ從事ス

港務獸醫ハ上官ノ指揮ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫、檢查及醫務ニ從事ス

港務調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第五十三條　知事ハ臨時必要アリト認ムルトキハ檢疫又ハ醫務ニ從事セシムル爲豫算定額內ニ於テ港務部ニ檢疫員又ハ檢疫醫員ヲ置クコトヲ得

檢疫員及檢疫醫員ハ判任官ノ待遇トス

檢疫員及檢疫醫員ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

第五十四條　港務部ノ位置及其ノ管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

知事ハ必要ト認ムル地ニ港務部ノ支部ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ街庄ニ關スル規定ハ同年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年勅令第二百十七號ハ大正九年九月三十日限リ之ヲ廢止ス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中臺灣總督府ノ廳ニ關スル規定ハ州又ハ廳ニ關スル規程トシ廳長ニ關スル規定ハ知事又ハ廳長ニ關スル規定トス

附　則（大正十三年勅令第四百三十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府港務所官制及臺灣總督府臨時海港檢疫所官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ臺灣總督府州又ハ廳ノ理事官、警視又ハ技師ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各臺灣總督府ノ地方理事官、地方警視又ハ地方技師ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ臺灣總督府ノ港務官、港務醫官、港務書記、港吏、港務醫官補、港務獸醫又ハ港務調劑手ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各臺灣總督府州ノ港務官、港務醫官、港務屬、港吏、港務醫官補、港務獸醫又ハ港務調劑手ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

廳、廳長等ニ關スル律令（大正九年八月三十一日律令第九號）

明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外從前ノ律令中臺灣總督府ノ廳ニ關スル規定ハ州又ハ廳ニ關スル規定トシ廳長ニ關スル規定ハ知事又ハ廳長ニ關スル規定トス

附　則

本令ハ大正九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正九年八月二十七日臺灣總督府令第五十二號）

別ニ定ムルモノヲ除クノ外從前ノ臺灣總督府令及告示中廳ニ關スル規定ハ州又ハ廳ニ關スル規定、廳長ニ關スル規定ハ知事又ハ廳長ニ關スル規定トス

附　則

本令ハ大正九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府廳管內ニ區ヲ置クノ件

（大正九年九月一日勅令第三百六十一號）

朕臺灣總督府廳管內ニ區ヲ置クノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　臺灣總督ハ臺灣總督府廳管轄區域內ニ區ヲ置クコトヲ得但シ街庄ノ管轄區域ニハ之ヲ置カス

區ノ名稱、管轄區域及區役場ノ位置ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二條　區ニ左ノ職員ヲ置ク

區長　一人

區書記

區書記ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定ム

區長及區書記ハ判任官ノ待遇トス

第三條　區長ハ廳長及支廳長ノ指揮監督ヲ承ケ區內ノ行政事務ヲ補助執行ス

第四條　區書記ハ區長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條　區長及區書記ハ廳長之ヲ任免ス

第六條　區長及區書記ニハ手當ヲ給ス

第七條　區ノ職員ノ手當其ノ他區ノ費用ハ廳地方費ヨリ之ヲ支辨ス

第八條　區及區ノ職員ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣廳長取扱事項

（明治三十六年十二月二十日臺灣總督府令第八十二號　改正　明治三七年第九四號　大正元年第一五號、七年第五號、第六二號、一一年第四六號、一四年第七四號）

左ニ揭クル事項ハ廳長ヲシテ之ヲ取扱ハシム

但シ官有森林原野規則ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラス

明治三十五年四月府令第二十七號ハ廢止ス

一　國庫經濟ニ屬スル用途指定ノ土地建物勞力及工事材料寄附受納ニ關スル件

二　公用中ノ官有土地水面千坪未滿ヲ有償又ハ無償ニテ五箇年以內使用ニ關スル件

三　公用ニ供セサル五百坪未滿ノ官有土地水面ヲ有償又ハ無償ニテ五箇年以內貸付ニ關スル件

四　官有土地水面ニ屬スル代金千圓以內ノ土石竹木其ノ他產物賣拂ニ關スル件

五　千坪未滿ノ開墾及水面埋立地ノ豫約賣拂、貸付又ハ豫約ニ係ル開墾及水面埋立成功ノ土地ノ賣拂、貸付竝未成功地ノ返還及成功期限延期ニ關スル件

六　削除

七　鑛業、鹽業、糖業、水產業、農業又ハ植林事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認ムル官有土地水面千坪未滿ヲ其ノ起業者ニ有償ニテ五箇年以內貸付ニ關スル件

八　公用ニ供セサル官有建物ニシテ建坪百坪未滿ノモノヲ競爭契約ニヨリ三箇年以內貸付ニ關スル件

九　市區計畫ノ確定シタル市街地ニ於テ公用ヲ廢止シタル道路、溝渠、城壁敷地ノ一箇所ニ付五百坪以下ニシテ評定價格五千圓未滿ノモノノ賣拂ニ關スル件

十　私設鐵道、軌道其ノ他軌條ノ敷設、電柱ノ建設又ハ灌漑、排水路ノ開設及之ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認ムル堰堤、堤防、護岸其ノ他ノ工作物ノ設置ノ爲官有土地水面ノ使用、貸付ニ關スル件

十一　寄附物件還付ニ關スル件

十二　評定價格千圓未滿ノ官有建物及其ノ附屬物又ハ船舶ヲ競爭契約ニ依リ賣拂ニ關スル件

十三　削除

十四　一箇所ニ付百五十坪以下ニシテ評定價格千圓未滿ノ土地ノ賣拂ニ關スル件

### ●檢疫員及檢疫醫員ノ服務、任免及俸給等ニ關スル件

（大正十三年十二月二十五日臺灣總督府令第九十三號）

檢疫員及檢疫醫員ノ服務、任免、俸給其ノ他ノ給與及休職ニ關シテハ臺灣地方待遇職員令ヲ準用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●臺灣地方待遇職員令

（大正十年九月十二日勅令第四百六號）

改正　大正一二年第五一九號

朕臺灣地方待遇職員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣地方待遇職員令

第一條　地方產業ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲州費、廳地方費又ハ市費ヲ以テ各州、廳又ハ市ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
產業主事　專任八人以內　奏任官待遇
產業書記　專任十五人以內　判任官待遇
技術職員
產業技師　專任二十人以內　奏任官待遇
產業技手　專任百人以內　判任官待遇

第二條　地方土木ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲州費、廳地方費又ハ市費ヲ以テ各州、廳又ハ市ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
土木書記　專任十五人以內　判任官待遇
技術職員
土木技師　專任十人以內　奏任官待遇
土木技手　專任五十人以內　判任官待遇

第三條　地方衞生ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲州費又ハ廳地方費ヲ以テ各州又ハ廳ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
衞生書記　專任十人以內　判任官待遇
技術職員
衞生技師　專任五人以內　奏任官待遇
衞生技手　專任七十人以內　判任官待遇

第四條　地方ニ於ケル物產檢査ニ關スル事務ニ從事セシムル爲州費又ハ廳地方費ヲ以テ各州又ハ廳ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

物產檢査員　專任百五十人以內　判任官待遇

第五條　前四條ノ職員ノ各州、各廳及各市ノ定員ハ臺灣總督之ヲ定ム

第六條　第七條ニ於テ準用スル地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受クル第一條乃至第四條ノ職員ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第七條　第一條乃至第四條ノ職員ノ服務ニ關シテハ官吏服務規律ヲ準用シ其ノ任免、待遇、俸給及休職ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外地方待遇職員令ヲ準用ス

第八條　前條ニ於テ準用スル地方待遇職員令第二條乃至第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ臺灣敎育令ニ依ル專門學校ハ之ヲ專門學校又ハ實業專門學校、臺灣敎育令ニ依ル實業學校ハ之ヲ實業學校ト看做ス

第九條　朝鮮臺灣滿洲及樺太在勤文官加俸令ハ第一條乃至第四條ノ職員ニ之ヲ準用ス

第十條　第一條乃至第四條ノ職員ノ給與ニ付テハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年勅令第三百七十號ハ之ヲ廢止ス

### ●臺灣關稅訴願審査委員會規則

（明治三十二年九月十八日勅令第三百八十七號）

朕臺灣關稅及出港稅訴願審査委員會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

臺灣關稅【及出港稅】訴願審査委員會規則

第一條　關稅法第六十九條ニ依ル委員會ハ臺灣關稅【及出港稅】訴願審査委員會ト稱シ會長一人委員五人ヲ以テ組織ス

第二條　會長ハ臺灣總督府【民政長官】委員ハ臺灣總督府高等官三人臺灣總督府法院判官二人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四條　委員ハ臺灣總督ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條　會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條　關稅【及出港稅】訴願審査委員會ニ幹事一人ヲ置キ臺灣總督府高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條　關稅【及出港稅】訴願審査委員會ニ書記二人ヲ置キ臺灣總督府屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

### ●臺灣總督府ニ學校職員恩給審査委員設置

（大正十年十二月八日勅令第四百五十四號）

朕明治三十三年法律第七十七號ニ依ル退隱料及遺族扶助料ノ審査ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　臺灣總督府ニ學校職員恩給審査委員ヲ置ク委員長一人及委員四人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長及委員ハ臺灣總督府高等官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

第二條　學校職員恩給審査委員ハ明治三十三年法律第七十七號ニ依ル退隱料及遺族扶助料ニ關スル事項ヲ審査ス

第三條　委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ臺灣總督ニ具申ス

第四條　臺灣總督府ニ恩給顧問醫三人ヲ置ク臺灣總督之ヲ命ス

審査上必要アル場合ニ於テハ臨時恩給顧問醫ヲ置クコトヲ得

第五條　恩給顧問醫及臨時恩給顧問醫ハ委員長ノ諮問ニ應シ退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス

第六條　恩給顧問醫ニハ年五百圓以內ノ手當ヲ、臨時恩給顧問醫ニハ事件ノ輕重難易ニ依リ每件三圓以上十圓以內ノ手當ヲ給ス

第七條　學校職員恩給審査委員ノ事務ニ從事セシムル爲書記ヲ置ク臺灣總督府屬ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●臺灣中央衞生會規則

（明治三十年三月十七日臺灣總督府令第八號）

改正　明治三〇年第六三號、三四年第一〇四號、四一年第二四號、四三年第一六號、第五九號、四四年第七二號、四五年第四一號、大正三年第一二號、七年第一〇號、第六七號、八年第五〇號、第九八號、一一年第一五四號

臺灣中央衞生會規則左ノ通相定ム

臺灣中央衞生會規則

第一條　臺灣中央衞生會ハ臺灣總督ニ屬シ公衆衞生ニ關スル事項ニ就キ臺灣總督ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　臺灣中央衞生會ハ衞生ニ關スル事項ニ就テハ臺灣總督ニ建議スルコトヲ得

第三條　臺灣中央衞生會ハ衞生各般ノ事項ニ關シ地方長官ニ尋問ヲ要シ或ハ會員ヲ臨時各地方ニ派遣シテ調査檢察ヲ要スト認ムルトキハ之ヲ臺灣總督ニ具申スヘシ

第四條　臺灣中央衞生會ハ會長一人委員十八人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ臺灣總督府總務長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ臺灣總督府部內局長（警務局長ヲ除ク）、臺灣總督府事務官、參事官、技師通シテ九人臺灣總督府警務局長、臺灣總督府中央研究所衞生部長、臺灣軍軍醫部長、臺北州知事、臺北醫院長、臺灣總督府醫學專門學校長及醫師、藥學家若干人ヲ以テ之ニ充ツ

委員中臺灣總督府部內局長（警務局長ヲ除ク）、臺灣總督府事務官、參事官、技師、醫師、藥學家ハ臺灣總督之ヲ命ス

第五條　醫師藥學家ヨリ出タル委員ノ任期ハ二箇年トス但滿期後再任セラルルコトヲ得

第六條　臺灣總督ハ特別ノ事件ヲ審議スル爲臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　會長ハ會務ヲ總督シ議事ヲ整理シ其決議ヲ臺灣總督ニ具申ス

第八條　會長事故アルトキハ臺灣總督ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條　臺灣中央衞生會ニ幹事二人ヲ置キ臺灣總督府事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第十條　臺灣中央衞生會ニ書記ヲ置キ臺灣總督府屬ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

第十一條　醫師藥學家及臨時委員ニシテ有給ノ官職ヲ帶サル者ニハ出席數ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトアルヘシ

### ●官設埤圳補償審査委員會規則

（明治四十二年三月二十八日臺灣總督府令第十二號）

改正　明治四四年第七五號、大正七年第二八號、八年第八八號、一三年第八七號

官設埤圳補償審査委員會規則左ノ通相定ム

官設埤圳補償審査委員會規則

第一條　官設埤圳補償審査委員會ハ臺灣總督府ニ之ヲ置キ委員長一人委員十二人ヲ以テ組織ス

第二條　委員長ハ臺灣總督トシ委員ハ臺灣總督府高等文官中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

第三條　委員長ハ會務ヲ統理シ會議ノ議長トナリ議事ヲ整頓ス

委員長事故アルトキハ委員中官等最高キ者其ノ職務ヲ代理ス

第四條　官設埤圳補償審査委員會ノ會議ハ總員半數以上ノ出席アルニアラサレハ之ヲ開クコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五條　前條ノ議決アリタルトキハ委員長ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ作リ議決ニ關與シタル委員ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ裁決書ハ謄本二通ヲ作リ委員會ノ印ヲ押捺シ一通ハ之ヲ當事者ニ送達シ一通ハ之ヲ臺灣總督府內務局長ニ送付スヘシ

第六條　官設埤圳補償審査委員會ハ必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一　當事者及第三者ニ出頭ヲ命シ竝證憑書類ヲ提出セシムルコト
二　委員ヲ派遣シテ實地ヲ臨檢セシムルコト

第七條　官設埤圳補償審査委員會ニ幹事二人及書記若干人ヲ置ク幹事ハ臺灣總督府高等官書記ハ臺灣總督府判任官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

第八條　幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ委員長及幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●臺灣總督府河川調査委員會規則

（明治四十五年七月十四日臺灣總督府令第六十九號）

改正　大正八年第一二六號、一四年第一八號

臺灣總督府河川調査委員會規則左ノ通相定ム

臺灣總督府河川調査委員會規則

第一條　水源ノ調査、河身ノ改修、流量ノ調定、河川ノ調査、工事ノ計畫、法令ノ施行其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ審査スル爲臺灣總督府河川調査委員會ヲ置キ委員長一人委員若干人ヲ以テ組織ス

第二條　委員長ハ總務長官ヲ以テ之ニ充テ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

內務局長
財務局長
殖產局長
總督府事務官　三人
總督府技師　三人
交通局理事
交通局技師　二人

前項各號ノ外臺灣總督ハ學識經驗ヲ有スル者ニ對シ特ニ委員ヲ命スルコトヲ得

第三條　委員會ハ會議ノ必要アル每ニ委員長之ヲ召集ス

第四條　委員長ハ議事ヲ整理ス委員長事故アルトキハ出席委員中官等ノ最高キ者ヲシテ之ヲ代理セシム

第五條　委員會ハ囘議ノ方法ニ依リ議決ヲ爲スコトヲ得

第六條　委員長ハ必要ト認ムルトキハ委員中ヨリ常務委員若干人ヲ命スルコトヲ得

第七條　委員會ニ幹事二人ヲ置ク

第八條　幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

幹事ハ委員中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

第九條　委員會ニ書記四人ヲ置キ總督府判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ委員長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第二十款　關東廳及其所管

### ●關東廳官制

（大正八年四月十二日勅令第九十四號）

改正　大正八年第三八三號、九年第五〇〇號、一〇年第二四七號、一一年第三三四號、一二年第二六二號、一三年第四三九號、一五年第二六三號、昭和二年第一九八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、陸軍大臣副署）

關東廳官制

第一條　關東州ニ關東廳ヲ置ク

第二條　關東廳ニ關東長官ヲ置ク

關東長官ハ關東州ヲ管轄シ南滿洲ニ於ケル鐵道線路ノ警務上ノ取締ノ事ヲ掌ル

關東長官ハ南滿洲鐵道株式會社ノ業務ヲ監督ス

第三條　關東長官ハ親任トス

陸軍武官關東長官ニ任セラレタルトキハ之ニ關東軍司令官ヲ兼ネシムルコトヲ得

第四條　關東長官ハ內閣總理大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス但シ涉外事項ニ關シテハ外務大臣ノ監督ヲ承ク

第五條　關東長官ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ廳令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ二百圓以內ノ罰金若ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第六條　關東長官ハ安寧秩序ヲ保持スル爲臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ前條ノ制限ヲ超ユル罰則ヲ附シタル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ發シタル命令ハ發布後直ニ內閣總理大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ若シ勅裁ヲ得サルトキハ關東長官ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第七條　關東長官ハ其ノ管轄區域ノ安寧秩序ノ保持又ハ鐵道線路ノ警護ノ爲必要アルトキハ關東軍司令官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第八條　關東長官ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分

分チ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第九條　關東長官ハ所部ノ職員ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十條　關東長官ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部ノ職員ノ敍位敍勳ヲ上奏ス

第十一條　關東長官ハ所部ノ職員ヲ懲戒ス其ノ勅任官ニ係ルモノ及奏任官ノ免官ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏ス

第十二條　關東廳ニ長官官房、內務局、警務局及財務部ヲ置ク

長官官房、內務局、警務局及財務部ノ事務ノ分掌ハ關東長官之ヲ定ム

第十三條　關東州ヲ二區ニ分チ各區ニ民政署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ關東長官之ヲ定ム

第十四條　民政署ノ事務ヲ分掌セシムル爲須要ノ地ニ民政支署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ關東長官之ヲ定ム

第十四條ノ二　管內ニ警察署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ關東長官之ヲ定ム

第十五條　關東廳ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 局長 | 二人 | 勅任 |
| 財務部長 | | 奏任 |
| 事務官 | 專任十五人 | 奏任（內一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得） |
| 秘書官 | 專任一人 | 奏任 |
| 理事官 | 專任五人 | 奏任 |
| 技師 | 專任八人 | 奏任 |
| 警視 | 專任十一人 | 奏任 |
| 翻譯官 | 專任一人 | 奏任 |
| 屬 | 專任百四十二人 | 判任 |
| 視學 | 專任九人 | 判任 |
| 警部 | 專任六十一人 | 判任 |
| 技手 | 專任四十三人 | 判任 |
| 翻譯生 | 專任二十六人 | 判任 |
| 稅務吏 | 專任二十六人 | 判任 |
| 警部補 | 專任百十七人 | 判任 |

事務官ハ南滿洲ニ駐在スル領事官ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

交通ノ事務ニ關シ關東廳ニ顧問ヲ置ク顧問ハ南滿洲鐵道株式會社ノ社長ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　削除

第十七條　局長ハ各局ノ長ト爲リ關東長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

警務局長ハ警察及衞生ノ事務ノ執行ニ關シ關東長官ノ命ヲ承ケ民政署長、民政支署長、警視、警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

財務部長ハ關東長官ノ命ヲ承ケ財務部ノ事務ヲ掌理ス

第十八條　削除

第十九條　事務官ハ民政署長又ハ民政支署長タル者ヲ除クノ外上司ノ命ヲ受ケ廳務ヲ分掌ス

第二十條　民政署長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ關東長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ施行シ部內ノ行政事務ヲ管理ス

第二十一條　民政署長ハ部內ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管內一般又ハ其ノ一部ニ民政署令ヲ發シ之ニ五十圓以內ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二十二條　民政署長ハ管內ノ警察署長ヲ指揮ス

第二十三條　民政署長ハ所部ノ職員ヲ監督シ判任官ノ進退ヲ關東長官ニ具狀ス

第二十四條　民政署長ハ署中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　民政署長事故アルトキハ上席ノ官吏其ノ職務ヲ代理ス

民政署長ハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第二十六條　削除

第二十七條　秘書官ハ關東長官ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十八條　理事官ハ民政支署長タル者ヲ除クノ外上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第二十九條　技師ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第三十條　警視ハ上司ノ命ヲ承ケ警察及衞生ノ事務ヲ掌リ部下ノ警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第三十一條　翻譯官ハ上司ノ命ヲ承ケ翻譯通辯ヲ掌ル

第三十二條　屬ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十三條　視學ハ上司ノ指揮ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ニ從事ス

第三十四條　警部ハ上司ノ指揮ヲ承ケ警察及衞生ノ事務ニ從事シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第三十五條　技手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十六條　翻譯生ハ上司ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ從事ス

第三十六條ノ二　稅務吏ハ上司ノ指揮ヲ承ケ稅務ニ從事ス

第三十六條ノ三　警部補ハ上司ノ指揮ヲ承ケ警察及衞生ノ事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第三十七條　民政支署長ハ事務官、理事官、警視、屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第三十八條　民政支署長事故アルトキハ上席官吏其ノ職務ヲ代理ス

第三十八條ノ二　警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ上司ノ指揮監督ヲ承ケ部內ノ警察及衞生ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第三十八條ノ三　民政署長又ハ關東州外ノ警察署長ハ管內ノ靜謐ヲ維持スル爲兵力ヲ要スルトキハ之ヲ關東長官ニ具狀スヘシ但シ非常急變ノ場合ニ際シテハ直ニ其ノ附近ノ守備隊長ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條　關東廳ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ノ定員ハ關東長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ關東都督府ノ參事官、事務官、秘書官、學務官、技師、警視、翻譯官、屬、視學、警部、技手、翻譯生、警部補又ハ巡査ノ職ニ在ル者ハ關東廳ノ參事官、事務官、秘書官、學務官、技師、警視、翻譯官、屬、視學、警部、技手、翻譯生、警部補又ハ巡査ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

別ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ勅令中關東都督府トアルハ關東廳、關東都督又ハ都督トアルハ關東長官トス

他ノ勅令中任用給與等ニ付テノ在職年數ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ關東都督府職員トシテノ在職ハ之ヲ關東廳職員トシテノ在職ト看做ス

## ●關東廳部內臨時職員設置制

（大正九年十月二十五日勅令第五百一號）

改正　大正一〇年第二四八號、一二年第二一一號、第三八四號、一三年第六〇號、第四四〇號、一五年第一七一號
昭和二年第一五八號

朕關東廳部內臨時職員設置制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東廳部內臨時職員設置制

第一條　土木營繕ノ事務ニ從事セシムル爲關東廳ニ左ノ職員ヲ增置ス

| | |
|---|---|
| 技師 | 專任三人 |
| 屬 | 專任四人 |
| 技手 | 專任四十五人 |

第二條　電信電話建設ノ事務ニ從事セシムル爲關東廳遞信官署ニ左ノ職員ヲ增置ス

| | |
|---|---|
| 遞信技師 | 專任二人 |
| 遞信書記 | 專任二人 |
| 遞信技手 | 專任五人 |

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

大正七年勅令第二百三十六號
大正八年勅令第二百九十四號
大正八年勅令第三百四十七號
大正九年勅令第百十二號

本令施行ノ際關東廳事務官補ノ官ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ關東廳事務官補ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●關東廳醫院官制

（明治四十一年十月三十一日勅令第二百七十一號）

改正　明治四四年第五四號
大正一〇年第二一〇號、一一年第二三八號、

一三年第四四二號、一四年第一四四號

朕關東都督府醫院官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東廳醫院官制

第一條　關東廳醫院ハ關東長官ノ管理ニ屬シ疾病ノ診療ニ關スル事ヲ掌ル

第二條　醫院ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 院長 | | |
| 醫官 | 專任十四人 | 奏任 |
| 醫員 | 專任八人 | 判任 |
| 調劑手 | 專任九人 | 判任 |
| 書記 | 專任三人 | 判任 |

第三條　院長ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ關東長官ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理ス

第四條　醫官ハ院長ノ命ヲ承ケ診療ニ關スル事ヲ掌ル

第五條　醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ診療ニ從事ス

第六條　調劑手及書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑又ハ庶務ニ從事ス

第七條　醫院ノ名稱及位置ハ關東長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●關東廳觀測所官制

（明治四十一年十月三十一日勅令第二百七十三號）

改正　明治四三年第一〇四號
大正二年第二六七號、七年第六六號、一五年第一五七號

朕關東都督府觀測所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東廳觀測所官制

第一條　關東廳觀測所ハ關東長官ノ管理ニ屬シ氣象及標準時ノ觀測事務ヲ掌ル

第二條　觀測所ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 所長 | | |
| 技師 | 專任一人 | 奏任 |
| 書記 | 專任一人 | 判任 |
| 技手 | 專任九人 | 判任 |

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ關東長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第四條ノ二　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　關東長官ハ必要ト認メタル地ニ支所ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●關東廳遞信官署官制

（大正九年十月二十五日勅令第五百二號）

改正　大正一〇年第三〇七號、一三年第四四一號、一四年第二三一號、一五年第一〇三號

朕關東廳遞信官署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東廳遞信官署官制

第一條　關東廳遞信官署ハ關東長官ノ管理ニ屬シ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ニ關スル事務竝電氣事業ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　關東廳遞信官署ハ遞信局、郵便局、電信局、電話局及郵便所トス

第三條　遞信局ハ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ノ管理ニ關スル事務、電信及電話ノ建設竝私設電信電話及電氣事業ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條　郵便局及郵便所ハ郵便、郵便爲替及郵便貯金ノ現業事務ヲ、電信局ハ電信ノ現業事務ヲ、電話局ハ電話ノ現業事務ヲ掌ル

郵便局及郵便所ハ電信及電話ノ現業事務ヲ、電信局ハ電話ノ現業事務ヲ兼掌スルコトヲ得

第五條　關東長官ハ郵便局ヲ指定シ區域ヲ定メテ遞信局ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第六條　郵便局、電信局、電話局及郵便所ノ名稱及位置ハ關東長官之ヲ定ム

第七條　關東長官ハ必要ナル地ニ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信又ハ電話ノ取扱所ヲ設クルコトヲ得

第八條　遞信官署ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 遞信局長 | | 奏任 |
| 遞信事務官 | 專任二人 | 奏任 |
| 遞信副事務官 | 專任八人 | 奏任 |
| 遞信技師 | 專任二人 | 奏任 |
| 遞信書記<br>遞信技手<br>遞信書記補 | 專任四百九十三人 | 判任 |
| 郵便所長 | | 判任 |

第九條　遞信局長ハ關東長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十條　遞信事務官及遞信副事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十一條　遞信技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十二條　遞信書記及遞信書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第十三條　遞信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十四條　郵便局長、電信局長及電話局長ハ遞信副事務官又ハ遞信書記ヲ以テ之ニ充ツ

電信局長及電話局長ハ遞信技師又ハ遞信技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十五條　郵便所長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東廳通信官署官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ關東廳ノ通信管理局長、通信管理局事務官、通信事務官、通信事務官補、通信技師、通信書記、通信技手、通信書記補又ハ郵便所長ノ官ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ關東廳通信管理局長ハ關東廳遞信局長ニ、關東廳通信管理局事務官ハ關東廳遞信事務官ニ、關東廳ノ通信事務官及通信事務官補ハ關東廳遞信副事務官ニ、關東廳通信技師ハ關東廳遞信技師ニ、關東廳通信書記ハ關東廳遞信書記ニ、關東廳通信技手ハ關東廳遞信技手ニ、關東廳通信書記補ハ關東廳遞信書記補ニ、關東廳郵便所長ハ關東廳郵便所長ニ同官等俸給又ハ同手當ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●關東廳海務局官制

（明治四十一年十月三十一日勅令第二百七十二號）

改正　明治四四年第五六號
大正二年第二六六號、一三年第二三一號、第四四三號

朕關東都督府海務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東廳海務局官制

第一條　關東廳海務局ハ關東長官ノ管理ニ屬シ港務、海港檢疫、船舶ノ測度檢査其ノ他海事ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　關東廳海務局ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 局長 | | |
| 技師 | 專任四人 | |
| 屬 | 專任五人 | 判任 |
| 技手 | 專任十一人 | |

第三條　局長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ關東長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

局長ハ其ノ所管事務ニ關シテハ警察官吏ヲ指揮スルコトヲ得

第四條　技師ハ局長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七條　關東長官ハ臨時必要アリト認ムルトキハ檢疫又ハ醫務ニ從事セシムル爲檢疫員又ハ檢疫醫員ヲ置クコトヲ得

檢疫員及檢疫醫員ハ判任官ノ待遇トス

第八條　關東長官ハ必要ニ應シ海務局支局ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●關東廳監獄官制

（明治四十一年十月三十一日勅令第二百七十四號）

改正　明治四三年第一〇五號
大正二年第二六八號、九年第三五二號、一二年第二九〇號、一三年第四四四號、一五年第三〇六號
昭和二年第二一五號

朕關東都督府監獄署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東廳監獄官制

第一條　關東廳監獄ハ關東長官ノ管理ニ屬ス

第一條ノ二　關東長官ハ必要ト認ムルトキハ分監ヲ置クコトヲ得

第二條　監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄　一人　奏任
典獄補　一人　奏任
看守長　專任　六人　判任
翻譯生　專任　一人　判任

第三條　典獄ハ監獄ノ長ト爲リ關東長官ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條　典獄補ハ分監ノ長ト爲リ典獄ノ指揮ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第五條　典獄又ハ典獄補事故アルトキハ上席ノ看守長其ノ職務ヲ代理ス

第六條　看守長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ事務ニ從事シ看守及女監取締ヲ指揮監督ス

第七條　翻譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通辯翻譯ニ從事ス

第八條　第二條ニ揭ケタル職員ノ外監獄ニ保健技師、保健技手、教誨師、看守及女監取締ヲ置ク其ノ定員及職務ニ關スル規程ハ關東長官之ヲ定ム

保健技師ハ奏任官ノ待遇トシ教誨師ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トシ保健技手、看守及女監取締ハ判任官ノ待遇トス

第九條　監獄職員ニシテ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ノ奏薦及宣行ハ奏任官ノ例ニ依リ、判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ監獄ノ長之ヲ行フ

第十條　監獄ノ名稱及位置ハ關東長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十三年八月一日關東廳令第四十五號）

關東廳監獄官制第八條ニ依リ保健技師以下ノ職員ノ定員左ノ通定ム

保健技師
保健技手　二人
教誨師　二人
看守　百二十人
女監取締　三人

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府看守及女監取締定員規程ハ之ヲ廢止ス

### ●關東廳中學校官制

（明治四十二年三月二十七日勅令第三十六號）

改正　明治四三年第一〇七號、四四年第五八號、四五年第九三號
大正二年第二七〇號、六年第二七號、七年第七二號、八年第一六一號、九年第八八號、一〇年第七三號、一一年第一八五號、一二年第一四五號、第五〇三號、一三年第六三號、第四四五號、一四年第一二九號、一五年第四八號
昭和二年第九一號

朕關東都督府中學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東廳中學校官制

第一條　關東廳中學校ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

學校長　四人　奏任
教諭　專任八十五人內十六人　奏任
　　　　　　　　　六十九人　判任
生徒監
書記　專任　七人　判任

第二條　學校長ハ關東長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第三條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第四條　生徒監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第五條　書記ハ教諭ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

附　則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●關東廳高等女學校官制

（明治四十三年三月二十八日勅令第百八號）

改正　明治四四年第五九號、四五年第九四號
大正三年第七一號、七年第七三號、八年第一六二號、九年第八九號、一〇年第七四號、一一年第一八六號、一二年第一四六號、一三年第七二號、第四四六號、一四年第一三〇號
昭和二年第九二號

朕關東都督府高等女學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東廳高等女學校官制

第一條　關東廳高等女學校ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

學校長　二人　奏任
教諭　專任四十九人內九人　奏任
　　　　　　　　　四十人　判任
生徒監
書記　專任　五人　判任

第二條　學校長ハ關東長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第三條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第四條　生徒監ハ教諭ヲ以テ之ニ充ツ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第五條　書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●旅順師範學堂官制

（大正七年四月一日勅令第五十一號）

改正　大正八年第一六三號、九年第九〇號、一〇年第七五號、一一年第一八七號、一三年第一一四號、第四四七號

朕旅順師範學堂官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

旅順師範學堂官制

第一條　旅順師範學堂ハ支那人ノ兒童ニ普通教育ヲ授クル教員ヲ養成スル所トス

第二條　旅順師範學堂ニ附屬公學堂ヲ置ク

旅順師範學堂ニ左ノ職員ヲ置ク

學堂長　奏任
教諭　專任十七人內三人　奏任
　　　　　　　十四人　判任
訓導　專任九人　判任
生徒監
書記　專任二人　判任

第三條　學堂長ハ關東長官ノ命ヲ承ケ堂務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條　訓導ハ附屬公學堂ノ兒童ノ教育ヲ掌リ兼ネテ生徒ノ實地授業ヲ指導ス

第六條　生徒監ハ教諭ヲ以テ之ニ充ツ學堂長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第七條　書記ハ學堂長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

第八條　旅順師範學堂ニ附屬小學校教員養成部ヲ置ク

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●旅順工科大學官制

（大正十五年五月十三日勅令第百十九號）

改正　昭和二年第一〇七號

朕旅順工科大學官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

旅順工科大學官制

第一條　旅順工科大學ニ左ノ職員ヲ置ク

大學長　勅任
教授　專任十二人　勅任又ハ奏任
助教授　專任十一人　奏任
學生監
助手　專任二十二人　判任
書記　專任七人　判任

第二條　大學長ハ關東長官ノ監督ヲ承ケ大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

大學長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ關東長官ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條　教授ハ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

第四條　助教授ハ教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

第五條　學生監ハ教授又ハ助教授ノ中ヨリ關東長官之ヲ補ス大學長ノ命ヲ承ケ學生ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第六條　助手ハ教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケ學術ニ關スル職務ニ服ス

第七條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第八條　大學長ハ必要アル場合ニ於テハ講師ヲ囑託スルコトヲ得

第九條　旅順工科大學ニ教授會ヲ置キ教授ヲ以テ之ヲ組織ス

大學長ハ教授會ヲ召集シ其ノ議長トナル

第十條　教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一　學科課程ニ關スル事項
二　學生ノ試驗ニ關スル事項
三　關東長官又ハ大學長ノ諮詢シタル事項

第十一條　大學長ハ必要アリト認ムルトキハ助教授又ハ講師ヲ教授會ニ列席セシムルコトヲ得

第十二條　旅順工科大學ニ豫科ヲ置ク

豫科ニ左ノ職員ヲ置ク

教授　專任十三人　奏任
助教授　專任五人　判任
主事

主事ハ豫科教授ノ中ヨリ關東長官之ヲ補ス大學長ノ命ヲ承ケ豫科ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督シ生徒ノ訓育ヲ掌ル

教授及助教授ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第十三條　旅順工科大學ニ關シテハ大學令ニ依ル但シ同令中文部大臣ノ職務ハ關東長官之ヲ行フ

第十四條　旅順工科大學ニ功勞アル者ニハ勅旨ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●旅順工科大學商議員規則

（大正十二年七月十四日關東廳令第三十二號）

旅順工科大學商議員規則左ノ通定ム

旅順工科大學商議員規則

第一條　旅順工科大學ニ商議員若干人ヲ置ク

第二條　商議員ハ大學長ノ推薦ニ依リ關東長官之ヲ囑託ス

第三條　商議員ハ商議員會ヲ組織ス

第四條　商議員會ハ關東長官又ハ大學長ノ諮問ニ應シテ意見ヲ開申ス

第五條　商議員ハ大學ニ關スル重要ナル事項ニ付大學長ヲ補佐ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●關東州小學校官制

（明治四十年三月二十日勅令第四十九號）

朕關東州小學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東州小學校官制

第一條　關東州小學校ハ日本人ノ兒童ニ普通教育ヲ授クル所トス

第二條　關東州小學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
訓導
准訓導

第三條　學校長ハ民政署長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

學校長ハ訓導ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　訓導ハ判任トス生徒ノ教育ヲ擔任シ及學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條　准訓導ハ判任官ノ待遇トス訓導ノ職務ヲ助ク

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●關東州公學堂官制

（明治四十年三月二十日勅令第五十號）

朕關東州公學堂官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東州公學堂官制

第一條　關東州公學堂ハ支那人ノ兒童ニ普通教育ヲ授クル所トス

第二條　關東州公學堂ニ左ノ職員ヲ置ク

學堂長
教諭
助教

第三條　學堂長ハ民政署長ノ命ヲ承ケ堂務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

學堂長ハ教諭ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　教諭ハ判任トス生徒ノ教育ヲ擔任シ及學堂長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條　助教ハ判任官ノ待遇トス教諭ノ職務ヲ助ク

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●關東州公立學校官制

（大正十五年六月二十二日勅令第百九十四號）

朕關東州公立學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東州公立學校官制

第一條　公立ノ高等女學校及實業學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　奏任
教諭　奏任又ハ判任
書記　判任

第二條　實科高等女學校、女子實業學校及實業補習學校ノ學校長ハ奏任又ハ判任トス

教諭ニシテ奏任タル者ノ員數ハ八學級以下ノ高等女學校又ハ六學級以下ノ實業學校ニ在リテハ三人以內トシ以上三學級ヲ增ス每ニ一人ヲ加フルコトヲ得

學校長ヨリ兼任スル教諭ハ前項ノ定員ノ外トス

第三條　學校長ハ關東長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

第六條　公立ノ高等女學校及實業學校ノ職員ノ定員ハ各學校ニ付關東長官之ヲ定ム其ノ職員ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ當該學校ヲ設立維持スル市ノ負擔トス

第七條　本令ニ於テ實業學校ト稱スルハ實業專門學校以外ノ實業學校ヲ謂フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●關東州地方待遇職員令

（大正十三年十月二十三日勅令第二百四十九號）

朕關東州地方待遇職員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東州地方待遇職員令

第一條　關東州地方産業ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲地方費ヲ以テ關東廳ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
産業主事　專任一人　奏任官待遇
産業書記　專任六人以內　判任官待遇
技術職員
産業技師　專任四人以內　奏任官待遇
産業技手　專任十五人以內　判任官待遇

第二條　地方土木ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲地方費ヲ以テ關東廳ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
土木主事　專任一人　奏任官待遇
土木書記　專任七人以內　判任官待遇
技術職員
土木技師　專任二人以內　奏任官待遇
土木技手　專任十九人以內　判任官待遇

第三條　地方教育事務ニ從事セシムル爲地方費ヲ以テ關東廳ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

教育主事　專任一人　奏任官待遇
教育書記　專任四人以內　判任官待遇

第四條　地方衞生ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲地方費ヲ以テ關東廳ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
衞生主事　專任一人　奏任官待遇
衞生書記　專任四人以內　判任官待遇
技術職員
衞生技手　專任二人以內　判任官待遇

第五條　地方行政事務ニ從事セシムル爲地方費ヲ以テ關東廳ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

地方書記　專任十一人以內　判任官待遇

第六條　第七條ニ於テ準用スル地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受クル第一條乃至前條ノ職員ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第七條　第一條乃至第五條ノ職員ノ服務ニ關

シテハ官吏服務規律ヲ準用シ其ノ任免、待遇、俸給及休職ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外地方待遇職員令ヲ準用ス

第八條　前條ニ於テ準用スル地方待遇職員令第三條及第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ旅順工科學堂又ハ旅順工科大學附屬工學專門部ハ之ヲ實業專門學校ト看做ス

第九條　朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令ハ第一條乃至第五條ノ職員ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際本令ニ依リ任用スル者ニ付第七條ニ於テ準用スル地方待遇職員令第九條ノ規定ニ依ル俸給額ニ依リ難キ場合ニ限リ同條ノ規定ニ拘ラス其ノ現ニ受クル俸給額ヲ之ニ給スルコトヲ得

## ●關東廳體育研究所規程

（昭和二年四月一日 關東廳令第十號）

關東廳體育研究所規程左ノ通定ム

關東廳體育研究所規程

第一條　關東廳體育研究所ハ關東長官ノ管理ニ屬シ體育ニ關スル調査研究及指導ヲ掌ル

第二條　關東廳體育研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
主事　一人
指導員　若干人
書記　若干人

第三條　所長ハ關東長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ總理ス

主事ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

指導員ハ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

書記ハ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四條　關東廳體育研究所ニ評議員若干人ヲ置ク

評議員ハ重要ナル所務ニ付所長ノ諮問ニ應シ意見ヲ開陳ス

第五條　所屬運動場管理ニ關スル事項ハ所長之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●關東廳農事試驗場規程

（明治三十九年十一月十八日 關東都督府令第三十號）
改正　大正二年第三七號

關東都督府農事試驗場規程左ノ通相定ム

關東【都督府】農事試驗場規程

第一條　關東【都督府】ニ農事試驗場ヲ置キ左ノ業務ヲ掌ラシム

一　農産、畜産ノ改良蕃殖ニ關スル試驗
二　模範農事ニ關スル事項
三　種苗、蠶種、種卵、畜種等ノ配付ニ關スル事項
四　土壤、肥料、農産物等ノ分析ニ關スル事項
五　種苗肥料等ノ鑑定ニ關スル事項
六　農事巡回講話及講習ニ關スル事項
七　農具、農産物ノ標本陳列ニ關スル事項

第二條　農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

一　場長　一人
一　技術員　若干人
一　事務員　若干人

第三條　場長ハ場中一切ノ事務ヲ掌理シ場員ヲ指揮監督ス

第四條　技術員ハ場長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五條　事務員ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務、會計ニ從事ス

## ●關東廳種畜場規程

（大正十五年六月二十日 關東廳令第二十九號）

關東廳種畜場規程左ノ通定ム

關東廳種畜場規程

第一條　關東廳種畜場ハ關東長官ノ管理ニ屬シ左ノ業務ヲ掌ル

一　畜産ノ改良蕃殖ニ關スル事項
二　種畜種禽及種卵ノ配付ニ關スル事項
三　種畜種付ニ關スル事項
四　牧草栽培ニ關スル事項
五　畜産ニ關スル講話及講習

第二條　關東廳種畜場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長
技術員　若干人
事務員　若干人

第三條　場長ハ場中全般ノ事務ヲ掌理シ場員ヲ指揮監督ス

第四條　技術員ハ場長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五條　事務員ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

金州種畜場規程ハ之ヲ廢止ス

## ●關東廳種馬所規程

（大正十五年四月十五日 關東廳令第十六號）

關東廳種馬所規程左ノ通定ム

關東廳種馬所規程

第一條　關東廳種馬所ハ關東長官ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　種牡馬ノ種付及貸付
二　種付成績及産駒成績ノ調査
三　産馬ニ關スル諸般ノ調査

第二條　關東廳種馬所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技術員　若干人
事務員　若干人

第三條　所長ハ所務ヲ掌理シ所員ヲ指揮監督ス

第四條　技術員ハ所長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第五條　事務員ハ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

第六條　必要ト認ムル地ニハ關東廳種馬所出張所ヲ置クコトアルヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●關東廳土地審査委員會規則

（大正三年五月十二日 勅令第八十九號）

朕關東都督府土地審査委員會規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東【都督府】土地審査委員會規則

第一條　關東【都督府】ニ關東【都督府】土地審査委員會ヲ置ク

第二條　土地審査委員會ニ左ノ職員ヲ置ク

委員長
委員　十一人
幹事　一人
書記

委員長ハ委員中ヨリ關東【都督】之ヲ命ス關東【都督】ノ命ヲ承ケ會務ヲ統理ス

委員ハ關東【都督府】高等官中ヨリ關東【都督】之ヲ命ス

幹事ハ關東【都督府】高等官中ヨリ關東【都督】之ヲ命ス委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

書記ハ關東【都督府】判任官ヲ以テ之ニ充ツ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三條　土地審査委員會ニ初審部及終審部ヲ置ク

初審部ハ三人、終審部ハ五人ノ委員ヲ以テ各事件ニ付之ヲ組織ス

前項ノ委員ハ委員長之ヲ指定ス

第四條　初審部ニ於テハ關東州土地調査令ニ依ル査定ニ對スル不服ノ申立ニ付裁決ヲ爲ス

終審部ニ於テハ前項ノ裁決ニ對スル不服ノ申立ニ付裁決ヲ爲ス

第五條　初審ニ干與シタル委員ハ其ノ裁決ニ對スル不服ノ申立ニ付終審ニ干與スルコトヲ得ス

第六條　土地審査委員會ノ裁決ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ不服ノ申立ヲ爲シタル者ニ其ノ謄本ヲ交付ス

前項ノ裁決ハ三十日間之ヲ公示ス

第七條　初審部ノ裁決ニ對シ不服アル土地ノ所有者又ハ利害關係人ハ前條ノ公示期間内ニ不服ノ申立ヲ爲スヘシ

第八條　前條ノ期間内ニ不服ノ申立ナキトキ又ハ終審部ノ裁決アリタルトキハ土地ノ所有者又ハ利害關係人ノ權利ハ確定ス

第九條　土地審査委員會ノ裁決ニ依リ確定シタル事項ニ付テハ左ノ各號ノ場合ニ限リ其ノ確定ノ日ヨリ三年内ニ終審部ニ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得

一　罰セラルヘキ行爲ニ基キテ裁決アリタルトキ但シ罰セラルヘキ行爲ニ付テノ判決カ確定シタルトキニ限ル

二　裁決ノ證據ト爲リタル文書カ僞造又ハ變造ナルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●關東廳土地審査委員會規則施行細則

（大正三年七月十一日 關東都督府令第十五號）
改正　大正七年第三四號

關東【都督府】土地審査委員會規則施行細則左ノ通定ム

關東【都督府】土地審査委員會規則施行細則

第一條　關東州土地調査令第四條ニ依リ裁決ヲ求メムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ土地審査委員會ニ提出スヘシ

一　申請者ノ氏名、名稱又ハ商號
二　申請者ノ住所、事務所又ハ營業所
三　目的地ノ所在、地目及面積
四　申請ノ事由

前項ノ申請書ニハ證據書類及目的地ノ概況圖ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條　關東【都督府】土地審査委員會規則第七條又ハ第九條ニ依リ不服ノ申立ヲ爲シ又ハ再審ノ申立ヲ爲サムトスル者ハ前條第一項各號ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ裁決書ヲ添ヘ土地審査委員會ニ提出スヘシ

第三條　土地審査委員會ハ申請者利害關係人、證人及鑑定人ヲ審問シ竝必要ト認ムル證憑ヲ徵スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ書記ハ調書ヲ作成スヘシ

第四條　事件カ審査ヲ求メ得ヘカラサルモノナルトキハ土地審査委員會ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ申請ヲ却下スヘシ

申請書カ第一條又ハ第二條ノ規定ニ適セサルトキハ土地審査委員會ハ其ノ欠缺ヲ補正スル爲相當ノ期限ヲ定メ之ヲ還付スヘシ

第四條ノ二　各事件ノ會議ハ委員長之ヲ招集ス

第四條ノ三　委員會ノ議事ハ委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第四條ノ四　委員長ハ各事件ニ付其ノ委員中ヨリ主査委員ヲ命スヘシ

第四條ノ五　主査委員ハ其ノ事件ノ審査ヲ爲シ案ヲ具シ委員會ノ會議ニ提出スヘシ但シ審査書ヲ委員長及委員ニ回付シ會議ニ代フルコトヲ得

第五條　委員會ニ於テ不服又ハ再審ノ申立ヲ受理シタルトキ及委員會ニ於ケル裁決確定シタルトキハ之ヲ臨時土地調査部、地方法院及所轄民政署又ハ民政支署ニ通知スヘシ

第六條　第三條ニ依リ召喚シタル者ニハ旅費、日當及滯在費ヲ支給ス

前項ノ費用ノ算定ニ關シテハ關東州裁判費用令ノ規定ヲ準用ス但シ同令中法院又ハ民政署長ノ權限ニ屬スル事項ハ委員長之ヲ定ム

第七條　前條ノ費用ハ申請書ノ不利益ニ裁決アリタルトキハ申請者ノ負擔トシ利益ニ裁決アリタルトキハ國庫ノ負擔トス

第八條　土地審査委員會ノ審理ハ公開セス

第九條　委員長、裁決ニ干與シタル委員及書記ハ其ノ裁決書ニ署名捺印スヘシ

第九條ノ二　委員會ハ議事ノ要領ヲ記錄シ關係書類ト共ニ之ヲ保存スヘシ

第九條ノ三　書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十條　利害關係人、證人及鑑定人召喚ヲ受ケ出頭セサルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

虛僞ノ陳述ヲ爲シタル證人、鑑定人及證憑ノ提出ヲ命セラレ之ヲ肯セサル者亦同シ

第十一條　本令ニ定ムルモノノ外審査委員會ニ必要ナル事項ハ委員長之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●經濟調査會規則

（大正十一年十一月二十一日 關東廳令第八十五號）

經濟調査會規則左ノ通定ム

經濟調査會規則

第一條　關東廳ニ經濟調査會ヲ置ク

經濟調査會ハ關東長官ノ諮問ニ應シテ經濟ニ關スル重要ナル事項ヲ調査審議ス

第二條　調査會ハ會長一人、副會長二人及委員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトアルヘシ

第三條　會長ハ關東廳事務總長ヲ以テ之ニ充ツ

副會長、委員及臨時委員ハ關東長官之ヲ命シ又ハ囑託ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

會長、副會長共ニ事故アルトキハ會長ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　調査審議ノ爲必要アリト認ムルトキハ調査會ニ部ヲ置キ委員及臨時委員ヲ之ニ分屬セシムルコトアルヘシ

第六條　會長ハ書面ヲ以テ委員ノ意見ヲ徵シ會議ニ代ラシムルコトヲ得

第七條　調査會ニ幹事及書記ヲ置ク關東長官之ヲ命ス

幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

書記ハ會長、副會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●建築技術者檢定委員會規則

（大正八年六月十一日 關東廳令第二十二號）
改正　大正一〇年第六二號

建築技術者檢定委員會規則左ノ通定ム

建築技術者檢定委員會規則

第一條　關東廳ニ建築技術者檢定委員會ヲ置ク

關東長官ノ監督ヲ承ケ大連市建築規則第六十三條ノ主任技術者資格檢定ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條　委員會ニ左ノ職員ヲ置ク

委員長　一人
委員　若干人
幹事　一人
書記　若干人

第三條　委員長ハ關東廳內務局長ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ關東長官之ヲ選任ス

委員長事故アルトキハ上席委員其ノ職務ヲ代理ス

幹事ハ委員ノ中ヨリ委員長之ヲ命シ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

書記ハ關東廳ノ判任官中ヨリ委員長之ヲ命シ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

## ●看護婦試驗委員規程

（大正九年十月三十一日 關東廳令第六十六號）
改正　大正一〇年第六六號

看護婦試驗委員規程左ノ通定ム

看護婦試驗委員規程

第一條　看護婦試驗ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲關東廳ニ看護婦試驗委員ヲ置ク

第二條　看護婦試驗委員ハ委員長及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　委員長ハ關東廳警務局長ヲ以テ之ニ充ツ

委員長ハ看護婦試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ統理ス

第四條　委員ハ關東廳ノ職員其ノ他ニ就キ關東長官之ヲ命ス

委員ハ委員長ノ命ヲ承ケ看護婦試驗ノ事ヲ掌ル

第五條　看護婦試驗委員ノ事務ニ關シ看護婦試驗主事一人ヲ置キ關東廳勤務ノ高等官中ヨリ關東長官之ヲ命ス

主事ハ委員長ノ命ヲ承ケ看護婦試驗ノ事務ヲ掌理ス

第六條　看護婦試驗委員ノ事務ニ關シ看護婦試驗書記若干人ヲ置キ關東廳勤務ノ判任官中ヨリ關東長官之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●關東廳補助會社團體監督規程

（大正十三年一月十六日 關東廳令第三號）

關東廳補助會社團體監督規程左ノ通定ム

第一條　關東廳ニ於テ補助助成スル會社又ハ團體（其ノ他之ニ類スルモノ以下同シ）ニシテ監督上必要アリト認ムルトキハ關東長官ハ監督官吏ヲ任シ之カ監督ノ任ニ當ラシム

第二條　監督官吏ハ少クトモ毎年一回會社又ハ團體ノ業務及會計ヲ檢査スヘシ

監督官吏ハ前項ノ外必要ト認ムルトキハ隨

時會社又ハ團體ノ事務所ニ就キ檢査スルコトヲ得

第三條　監督官吏ハ前條ノ檢査ヲ施行シタルトキハ檢査終了後十日内ニ意見ヲ附シ關東長官ニ之ヲ報告スヘシ

第四條　監督官吏ハ會社又ハ團體ヨリ關東廳ニ提出スル一切ノ文書ヲ主務課ヨリ回付ヲ受ケ之ヲ檢閲シ意見アルモノハ直ニ關東長官ニ之ヲ具申スヘシ

## 第二十一款　樺太廳及其所管

### ●樺太廳官制

大正七年六月六日勅令第百九十八號
改正　大正八年第二九五號、九年第五二二號、一〇年第二八一號、一一年第四五九號、一二年第二六四號、一三年第四四八號、一五年第一二八號
昭和二年第一九九號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ樺太廳官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

樺太廳官制

第一條　樺太ニ樺太廳ヲ置ク

第二條　樺太廳ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 長官 | | 勅任 |
| 部長 | 三人 | 奏任 |
| 事務官 | 專任六人 | 奏任 |
| 支廳長 | 七人 | 奏任 |
| 警視 | 專任二人 | 奏任 |
| 技師 | 專任五人 | 奏任 |
| 屬 | 專任百二十人 | 判任 |
| 視學 | 專任四人 | 判任 |
| 警部 | 專任十二人 | 判任 |
| 技手 | 專任六十二人 | 判任 |
| 森林主事 | 專任七十七人 | 判任 |
| 警部補 | 專任十七人 | 判任 |

教習中ノ森林主事ハ之ヲ前項定員ノ外トス

第三條　長官ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス但シ郵便電信及電話ニ關スル事務ニ付テハ遞信大臣、貨幣銀行及關稅ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣、度量衡及計量ニ關スル事務ニ付テハ商工大臣ノ監督ヲ承ク

第四條　長官ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ廳令ヲ發シ之ニ三月以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第五條　長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第六條　長官ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ高等官ノ功過ハ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第七條　長官ハ所部ノ高等官ノ懲戒ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ懲戒ハ之ヲ行フ

第八條　長官ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條　長官事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ部長其ノ職務ヲ代理ス

長官及部長共ニ事故アルトキハ内閣總理大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ長官ノ職務ヲ代理セシム

長官ハ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十條　長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ所轄官廳ニ委任スルコトヲ得

第十一條　樺太廳ニ長官官房及左ノ三部ヲ置ク

内務部
農林部
警察部

長官官房及各部ノ事務分掌ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十二條　樺太廳管内須要ノ地ニ樺太廳支廳ヲ置ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十三條　部長ハ長官ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十四條　警察部長ハ事務ノ執行ニ關シ長官ノ命ヲ承ケ警視、警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第十五條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十六條　支廳長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十七條　支廳長ハ法律命令ニ依リ又ハ長官ヨリ委任セラレタル事件ニ付支廳令ヲ發スルコトヲ得

第十八條　支廳長事故アルトキハ其ノ廳勤務ノ上席屬其ノ職務ヲ代理ス

第十九條　支廳長ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十九條ノ二　警視ハ上官ノ命ヲ承ケ警察及衞生ニ關スル事務ヲ掌リ部下ノ警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十一條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十二條　視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ニ從事ス

第二十三條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衞生ノ事務ニ從事シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十四條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十五條　削除

第二十六條　削除

第二十七條　森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ營林及林野保護ノ事務ニ從事ス

第二十八條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衞生ノ事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第二十九條　長官ハ支廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲支廳出張所ヲ置クコトヲ得其ノ名稱、位置及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第三十條　支廳出張所長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第三十一條　樺太廳管内須要ノ地ニ警察署ヲ置ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第三十二條　警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ地方ノ狀況ニ依リ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部内ノ警察及衞生ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第三十三條　樺太廳ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年勅令第六十二號及大正五年勅令第二百四十六號ハ之ヲ廢止ス

### ●樺太廳部内臨時職員設置制

大正九年五月十三日勅令第百三十三號
改正　大正九年第五〇三號、一〇年第二〇四號、一一年第三二四號、第四二二號、一二年第一五六號、一三年第四四九號、一四年第一六八號、一五年第一三八號
昭和二年第一三〇號

朕樺太廳部内臨時職員設置制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

樺太廳部内臨時職員設置制

第一條　樺太廳ニ左ノ職員ヲ增置ス

一　殖民ニ關スル事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 技師 | 專任一人 |
| 屬 | 專任四人 |
| 技手 | 專任三十六人 |

二　産業ニ關スル事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 技師 | 專任一人 |
| 屬<br>技手 | 專任十四人 |

三　森林ニ關スル事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 技師 | 專任二人 |
| 屬 | 專任二人 |
| 技手 | 專任二十九人 |

四　土木營繕ニ關スル事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 技師 | 專任一人 |
| 屬 | 專任二人 |
| 技手 | 專任十六人 |

第二條　樺太廳鐵道事務所ニ左ノ職員ヲ增置ス

一　鐵道ノ建設ニ關スル事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 鐵道技師 | 專任二人 |
| 鐵道書記 | 專任三人 |
| 鐵道技手 | 專任十二人 |

二　鐵道ノ改良ニ關スル事務ニ從事スル者

| | |
|---|---|
| 鐵道技手 | 專任二人 |

第三條　電信電話改良ニ關スル事務ニ從事セシムル爲樺太廳通信官署ニ左ノ職員ヲ增置ス

| | |
|---|---|
| 通信書記 | 專任一人 |
| 通信技手 | 專任四人 |
| 通信書記補 | 專任二人 |

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

大正七年勅令第百八十六號
大正七年勅令第百八十七號
大正七年勅令第二百號

### ●樺太廳支廳長委任事項

大正十二年九月三十日樺太廳令第四十四號
改正　大正一三年第三九號、一四年第一三號、第二六號

樺太廳支廳長委任事項左ノ通改正ス

樺太廳支廳長委任事項

一　雇員ノ進退賞罰ニ關スル件
二　職員ノ勤務指定ニ關スル件
但シ保長及出張所長ハ此ノ限ニ在ラス
三　判任官以下退官、廢官、退職、休職ノトキ事務引繼殘務調理ヲ命スル件
四　判任官以下ニ出張ヲ命スル件
五　公立小學校教員ニ出張ヲ命スル件
六　判任官以下ノ歸省、養病、私事旅行ノ願ヲ許否シ又ハ除服ヲ命スル件
七　行旅病死人ノ死屍火葬許可ニ關スル件
八　水難救護法施行細則第七條勞務賃錢定率認可ニ關スル件
九　小學校校舍ノ新築、增築又ハ改築認可ニ關スル件
一〇　小學校假校舍ノ使用認可ニ關スル件
一一　私立小學校ノ設置認可ニ關スル件
一二　私立小學校教員採用解職認可ニ關スル件
一三　公立小學校ノ授業料徵收認可ニ關スル件
一四　公立小學校代用教員（裁縫專科代用教員ヲ含ム）進退ニ關スル件
一五　豫定工費千圓ヲ超エサル道路、橋梁、水道、排水溝堤防ノ修繕及河川ノ流木除去ニ關スル件
一六　公費又ハ私費ヲ以テスル道路、橋梁、堤防ノ修築又ハ河川ノ流木除去許可ニ關スル件
一七　公費又ハ私費ヲ以テスル豫定工費千圓ヲ超エサル船澗濬鑿許可ニ關スル件
一八　豫定公費二百圓ヲ超エサル引水工事許可ニ關スル件
一九　支廳長ノ檢査ヲ受クヘキ條件ヲ附シ許可シタル土木工事ノ竣工檢査ニ關スル件
二〇　豫定工費千圓ヲ超エサル保管官有建物ノ修繕ヲ施行スル件
二一　假橋又ハ假渡船ノ設備ニ關スル件
二二　渡船及驛遞ノ補助ニ關スル件
二三　公醫及公獸醫ノ補助金仕拂ニ關スル件
二四　豫定價格百圓ヲ超エサル國有土地水面ニ屬スル土石、砂利賣拂ニ關スル件
二五　保管官有建物ノ貸付、返還及賠償ニ關スル件
二六　農民貸付官有建物ノ處分ニ關スル件
二七　種畜飼養費ノ補助ニ關スル件
二八　牛馬ノ貸付、返還、償還及賠償ニ關スル件
二九　家畜（種畜ヲ除ク）ノ移入及購入補助ニ關スル件
三〇　左ノ範圍ヲ超エサル國有土地ノ處分竝登記ニ關スル件

| | |
|---|---|
| 農耕目的區劃地 | 三万坪 |
| 市街區劃地 | 五百坪 |
| 部落宅地區劃地 | 千五百坪 |
| 既墾地又ハ荒蕪地（但シ貸付期間三年ヲ超エサルモノニ限ル） | 一千坪 |

三一　未開地千坪以内素地ノ儘一時使用ヲ許可スル件
三一ノ二　樺太國有未開地特別處分令施行規則第十一條ノ規定ニ依ル檢査ニ關スル件
三二　豫定價額千圓ヲ超エサル主副林産物ノ賣拂ニ關スル件
三三　木材ノ移出又ハ輸出ニ關スル件
三四　林産物ノ搬出延期ニ關スル件
三五　火災防禦又ハ檢證ノ爲立木斫伐ニ關スル件
三六　支障木危險木ノ斫伐ニ關スル件
三七　地元住民ニ雜草蘆葦ノ類ヲ讓與ノ件
三八　見積價格四百圓ヲ超エサル森林被害辨償處分ニ關スル件但シ訴訟ニ係ルモノヲ除ク

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●樺太廳支廳出張所長取扱事項

大正十三年十二月十五日樺太廳令第四十號
改正　大正一四年第九號、第二七號

樺太廳支廳出張所長取扱事項左ノ通定ム

樺太廳支廳出張所長取扱事項

一　所員ノ服務指定ニ關スル件
二　所員退官、廢官、退職、休職ノトキ事務引繼殘務調理ニ關スル件
三　所員ノ請暇及除服ニ關スル件
四　傭人ノ採用、解傭ニ關スル件
五　所員ノ管内出張ニ關スル件
六　町村長ノ支廳管内出張及請暇ニ關スル件
七　行旅病死人ノ死屍火葬ニ關スル件
八　水難救護法施行細則第七條勞務賃錢定率ニ關スル件
九　小學校臨時休業ニ關スル件
十　小學校假校舍ノ使用ニ關スル件
十一　小學校教員ノ支廳管内出張ニ關スル件
十二　小學校教員赴任延期ニ關スル件
十三　小學校教員請暇ニ關スル件
十四　豫定工費五百圓ヲ超エサル道路、橋梁、水道、排水溝、堤防ノ修繕及河川ノ流木除去ニ關スル件
十五　公費又ハ私費ヲ以テスル道路、橋梁、堤防ノ修築又ハ河川ノ流木除去ニ關スル件
十六　公費又ハ私費ヲ以テスル豫定工費百圓ヲ超エサル引水工事ニ關スル件
十七　豫定工費五百圓ヲ超エサル保管官有建物ノ修繕ヲ施行スル件
十八　假橋又ハ假渡船ノ設備ニ關スル件
十九　渡船及驛遞ノ補助ニ關スル件
二十　公醫及公獸醫ノ補助金仕拂ニ關スル件
二十一　豫定價格五十圓ヲ超エサル國有土地水面ニ屬スル土石、砂利賣拂ニ關スル件
二十二　保管官有建物ノ貸付、返還及賠償ニ關スル件
二十三　農民貸付官有建物ノ處分ニ關スル件
二十四　移住補助ニ關スル件
二十五　種畜飼養費ノ補助ニ關スル件
二十六　牛馬ノ貸付、返還、償還及賠償ニ關スル件
二十七　家畜（種畜ヲ除ク）ノ移入及購入補助ニ關スル件
二十八　左ノ範圍ヲ超エサル國有土地ノ處分ニ關スル件

| | |
|---|---|
| 農耕目的區劃地 | 三萬坪 |
| 市街區劃地 | 五百坪 |
| 部落宅地區劃地 | 千五百坪 |

二十八ノ二　樺太國有未開地特別處分令施行規則第十一條ノ規定ニ依ル檢査ニ關スル件
二十九　牛馬[illegible]
三十　豫定價額五百圓ヲ超エサル主副林産物ノ賣拂ニ關スル件
三十一　木材ノ移出又ハ輸出ニ關スル件
三十二　林産物ノ搬出延期ニ關スル件
三十三　火災防禦又ハ檢證ノ爲立木斫伐ニ關スル件
三十四　支障木、危險木ノ斫伐ニ關スル件
三十五　土地[illegible]
三十六　樺太漁業取締規則第一條ノ漁業許可及第十條ノ漁業届出ニ關スル件但シ漁業ノ場所カ支廳直轄ノ區域ニ亘ルモノヲ除ク
三十七　漁業組合規則第二條乃至第四條、第七條、第九條、第十條、第十二條、第十七條、第二十條及第二十一條ノ規定ニ依ル事項處理ニ關スル件
三十八　地元住民ニ雜草蘆葦ノ類ヲ讓與ノ件
三十九　見積價格二百圓ヲ超エサル森林被害辨償處分ニ關スル件但シ訴訟ニ依ルモノヲ除ク

附　則

本令ハ大正十三年十二月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

## ●樺太廳醫院官制

（大正七年六月三日勅令第百八十八號）

改正　大正八年第二一七號、一一年第二七八號、一三年第四五〇號、一五年第一二九號
昭和二年第一三一號

朕樺太廳醫院官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

### 樺太廳醫院官制

第一條　樺太廳醫院ハ樺太廳長官ノ管理ニ屬シ診療及醫藥ニ關スルコトヲ掌ル

前項ノ外樺太廳長官ハ醫院ヲシテ助產婦及看護婦ノ養成ニ關スルコトヲ掌ラシムルコトヲ得

第二條　醫院ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

院長
醫長　專任三人　奏任
醫官　專任六人　奏任
醫員　專任十二人　判任
藥局員　專任三人　判任
書記　專任三人　判任

第三條　院長ハ醫長ヲ以テ之ニ充ツ樺太廳長官ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監督ス

第四條　醫長及醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ診療ヲ掌ル

第五條　醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ診療ニ從事ス

第六條　藥局員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第七條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　樺太廳長官ハ醫長、醫官、醫員及藥局員ヲシテ助產婦及看護婦ノ養成ヲ掌ラシムルコトヲ得

第九條　醫院ノ名稱及位置ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●樺太廳觀測所官制

（大正七年六月三日勅令第百八十九號）

改正　大正九年第三九八號
昭和二年第一一七號

朕樺太廳觀測所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

### 樺太廳觀測所官制

第一條　樺太廳觀測所ハ樺太廳長官ノ管理ニ屬シ氣象觀測ノ事務ヲ掌ル

第二條　觀測所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師　專任一人　奏任
書記　專任一人　判任
技手　專任七人　判任

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ樺太廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第四條ノ二　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　樺太廳長官ハ必要ト認ムル地ニ支所ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●樺太廳中學校官制

（明治四十五年四月十三日勅令第八十一號）

改正　大正二年第四九號、三年第六三號、第九二號、七年第八五號、八年第二一九號、一〇年第一六五號、一一年第二一一號、一二年第一五八號、一三年第六四號、一四年第一三一號、一五年第四九號、第三五四號
昭和二年第七七號

朕樺太廳中學校官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

### 樺太廳中學校官制

第一條　樺太廳中學校ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

學校長　三人　奏任
教諭　專任五十二人內　十一人奏任　四十一人判任
生徒監
書記　專任五人　判任

第二條　學校長ハ樺太廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第三條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第四條　生徒監ハ教諭ヲ以テ之ニ充ツ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第五條　書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

第六條　樺太廳中學校ニ小學校教員講習所ヲ附置スルコトヲ得

樺太廳長官ハ樺太廳中學校教諭ノ中ヨリ小學校教員講習所主事ヲ命シ所務ヲ掌ラシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●樺太廳高等女學校官制

（大正五年四月六日勅令第九十三號）

改正　大正六年第一〇七號、七年第八六號、八年第二二〇號、九年第四一七號、一一年第二二二號、一二年第一五九號、一三年第六五號、一四年第一三二號
昭和二年第五四號

朕樺太廳高等女學校官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

### 樺太廳高等女學校官制

第一條　樺太廳高等女學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　二人　奏任
教諭　專任三十一人內　六人奏任　二十五人判任
生徒監
書記　專任三人　判任

第二條　學校長ハ樺太廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第三條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第四條　生徒監ハ教諭ヲ以テ之ニ充ツ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第五條　書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●樺太公立高等女學校官制

（大正十三年四月一日勅令第六十六號）

朕樺太公立高等女學校官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

### 樺太公立高等女學校官制

第一條　樺太公立高等女學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長　奏任
教諭　奏任又ハ判任
生徒監
書記　判任

實科高等女學校ノ學校長ハ奏任又ハ判任トス

第二條　教諭ニシテ奏任タル者ノ員數ハ當該學校ニ於ケル學級數八學級以下ノ學校ニ在リテハ三人以內トシ以上三學級ヲ增ス每ニ一人ヲ加フルコトヲ得

學校長ヨリ兼任スル教諭ハ前項ノ定員外トス

第三條　學校長ハ樺太廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條　生徒監ハ教諭ヲ以テ之ニ充ツ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第六條　書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

第七條　樺太公立高等女學校職員ノ定員ハ各學校ニ付樺太廳長官之ヲ定ム

第八條　樺太公立高等女學校職員ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ當該學校ヲ設立維持スル町村ノ支辨トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●樺太公立高等女學校職員定員規程

（大正十三年四月六日樺太廳令第十三號）

樺太公立高等女學校職員定員規程左ノ通定ム

### 樺太公立高等女學校職員定員規程

第一條　教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級每ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル每ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ增加ス但シ高等科ニ在リテハ一學級每ニ二人以上ノ割合ヲ以テ之ヲ增スヘシ

前項ノ場合ニ於テ一學級每ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ネス又他ノ職ヨリ兼ネサルコトヲ要ス

書記ノ定員ハ專任一人トス

第二條　特別ノ事情アルトキハ支廳長ノ申請

ニ依リ前條ノ規程ニ拘ラス定員ヲ增減スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

## ●樺太廳農事試驗場官制

（大正七年六月三日勅令第百九十號）

改正　大正八年第一七七號、一一年第二七九號、一四年第五二號、一五年第九七號
昭和二年第一三二號

朕樺太廳農事試驗場官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

### 樺太廳農事試驗場官制

第一條　樺太廳農事試驗場ハ樺太廳長官ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　農產及畜產ニ關スル調查及試驗
二　農產及畜產ニ關スル分析及鑑定
三　種畜及種禽ノ管理及飼養
四　種苗、種畜、種禽及種卵ノ配付又ハ貸付
五　農事及畜產ニ關スル講習及講話

第二條　農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長
技師　專任二人　奏任
書記　專任一人　判任
技手　專任七人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ樺太廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七條　樺太廳長官ハ必要ト認ムル地ニ分場ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●樺太廳水產試驗場官制

（大正七年六月三日勅令第百九十一號）

改正　大正九年第四八〇號

朕樺太廳水產試驗場官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

### 樺太廳水產試驗場官制

第一條　樺太廳水產試驗場ハ樺太廳長官ノ管理ニ屬シ水產ニ關スル調查、試驗、分析、鑑定、講習及講話ニ關スルコトヲ掌ル

第二條　水產試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長
技師　專任一人　奏任
書記　專任一人　判任
技手　專任六人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ樺太廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七條　樺太廳長官ハ必要ト認ムル地ニ分場ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●樺太廳森林作業所官制

（大正十一年五月四日勅令第二百五十一號）

改正　大正一二年第一六七號、一三年第四五二號、一五年第一七二號
昭和二年第一三三號

朕樺太廳臨時森林作業所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

### 樺太廳森林作業所官制

第一條　樺太廳森林作業所ハ樺太廳長官ノ管理ニ屬シ樺太廳長官ノ指定スル地域ニ於ケル森林產物ノ採取、加工及販賣ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　森林作業所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師　專任四人　奏任
屬、技手　專任三十一人　判任

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ樺太廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七條　樺太廳長官ハ必要ト認ムル地ニ出張所ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和二年勅令第一三三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ樺太廳臨時森林作業所ノ技師、屬又ハ技手ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各樺太廳森林作業所ノ技師、屬又ハ技手ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●樺太廳郵便局官制

（明治四十二年五月二十六日勅令第百四十八號）

改正　大正二年第五〇號、三年第二五五號、四年第九四號、五年第六四號、六年第一〇六號、七年第一一六號、八年第二一八號、九年第四七八號、一〇年第二〇二號、一一年第三三〇號、一四年第三一號
昭和二年第一七九號

朕樺太廳郵便局官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

### 樺太廳郵便局官制

第一條　樺太廳郵便局ハ樺太廳長官ノ管理ニ屬シ郵便、郵便爲替及郵便貯金ノ業務ヲ掌ル但シ電信及電話ニ關スル業務ヲ兼掌スルコトヲ得

樺太廳長官ノ指定シタル郵便局ニ於テハ樺太廳及其ノ所屬官署ノ取扱フ歲入金、歲出金及歲入歲出外現金ノ出納ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　樺太廳長官ハ郵便局ヲシテ其ノ指定シタル區域內ニ於テ管理事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第三條　郵便局ノ名稱、位置及事務取扱ノ範圍ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第三條ノ二　樺太廳長官ハ必要ナル地ニ郵便、電信又ハ電話ノ取扱所ヲ設クルコトヲ得

第四條　郵便局ニ左ノ職員ヲ置ク

通信事務官　專任一人　奏任
通信技師　專任一人　奏任
通信書記、通信技手　專任四十九人　判任
通信書記補　專任四十五人　判任
特定郵便局長

第五條　通信事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第六條　通信技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第七條　通信書記及通信書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第八條　通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九條　郵便局長ハ通信事務官又ハ通信書記ヲ以テ之ニ充ツ但シ樺太廳長官ニ於テ特ニ指定シタル郵便局ノ局長ハ特定郵便局長ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　特定郵便局長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第十一條　樺太廳長官ハ必要ニ應シ通信事務官、通信技師、通信書記、通信技手及通信書記補ヲシテ通信ニ關スル樺太廳ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太廳郵便電信局官制ハ之ヲ廢止ス

樺太廳郵便電信局職員ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ通信書記ハ通信書記ニ、通信技手ハ通信技手ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●樺太廳鐵道事務所官制

（大正[illegible]年六月六日勅令第[illegible]號）

改正　[illegible]
昭和二年第[illegible]號

朕樺太廳鐵道事務所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

### 樺太廳鐵道事務所官制

第一條　樺太廳鐵道事務所ハ樺太廳長官ノ管理ニ屬シ鐵道及附帶ノ業務竝地方鐵道及軌道ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　鐵道事務所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

鐵道事務官　專任一人　奏任

鐵道技師　專任二人　奏任

鐵道書記　專任三十九人　判任

鐵道技手　專任十八人　判任

第三條　所長ハ鐵道事務官又ハ鐵道技師ヲ以テ之ニ充ツ樺太廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條　鐵道事務官ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第五條　鐵道技師ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第六條　鐵道書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　鐵道技手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第八條　樺太廳長官ハ必要ト認ムル地ニ支所又ハ出張所ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年勅令第百五號ハ之ヲ廢止ス

### ●樺太廳臨時築港事務所官制

（大正七年一月二十九日勅令第十七號）

改正　大正八年第二一六號、九年第五〇四號、一〇年第二六三號、一一年第三二五號、一三年第四五一號

朕樺太廳臨時築港事務所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

樺太廳臨時築港事務所官制

第一條　樺太廳臨時築港事務所ハ本斗港、大泊港及眞岡港ニ之ヲ置ク樺太廳長官ノ管理ニ屬シ各本斗港、大泊港又ハ眞岡港ノ修築ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　樺太廳臨時築港事務所ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師　專任二人　奏任

書記　專任六人　判任

技手　專任十四人　判任

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ樺太廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●樺太町村吏員懲戒審査會規程

（大正十一年七月十四日廳令第七號）

樺太町村吏員懲戒審査會規程左ノ通定ム

樺太町村吏員懲戒審査會規程

第一條　樺太町村吏員懲戒審査會ハ樺太廳ニ之ヲ置ク

第二條　審査會ノ會長ハ樺太廳長官ヲ以テ之ニ充ツ

會員ハ六人トシ樺太廳高等官ノ中ヨリ樺太廳長官之ヲ命ス

第三條　審査會ハ會長及會員ヲ併セテ四人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

審査會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四條　會長事故アルトキハ上席ノ會員之ヲ代理ス

出席者事故アリテ前條第一項ノ定數ニ滿タサルトキハ樺太廳長官ハ所屬高等官ノ中ヨリ臨時會員ヲ命スルコトヲ得

第五條　會長及會員ハ自己又ハ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第六條　審査會ニ書記一名ヲ置ク樺太廳判任官ノ中ヨリ樺太廳長官之ヲ命ス

書記ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　樺太廳長官ハ町村長、助役又ハ收入役ノ行爲ニシテ解職ニ當ルヘキモノアリト認ムルトキハ證據書類ヲ添ヘ書面ヲ以テ審査會ノ審査ヲ要求スヘシ

第八條　前條ノ要求アリタルトキハ會長ハ期日ヲ定メテ審査會ヲ開キ決議及其ノ事由ヲ書面ヲ以テ復申スヘシ

第九條　審査會ハ必要アリト認ムルトキハ本人ヲ召喚シ取調ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●檢疫委員及豫防委員設置規程

（大正十四年七月一日樺太廳令第二十四號）

檢疫委員及豫防委員設置規程左ノ通定ム

檢疫委員及豫防委員設置規程

第一條　樺太廳ニ檢疫委員部ヲ設ク警察部長ヲ委員長ニ充ツ

第二條　檢疫委員長ハ樺太廳長官ノ命ヲ承ケ檢疫委員ヲ指揮シ傳染病豫防ノ監督、船舶汽車ノ檢疫其ノ他傳染病豫防救治ニ關スル事務ヲ管理ス

第三條　檢疫委員ハ檢疫委員長ノ命ヲ承ケ前條ノ事務ニ從事ス

第四條　町村ハ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ樺太町村制第九條ニ依リ豫防委員ヲ設置スヘシ

豫防委員ヲ設置シタルトキハ速ニ其ノ氏名及事務所ヲ樺太廳長官ニ報告スヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

第五條　豫防委員ノ職務規程ハ町村長之ヲ定メ樺太廳長官ニ報告スヘシ

第六條　前二條ニ依ル報告ハ所轄支廳ヲ經由スヘシ

第七條　豫防委員ハ傳染病豫防法及同法施行規則ニ定メタル事項ノ外左ノ各號ヲ擔任スヘシ

一　傳染病豫防方法施行竝救助ニ關スルコト

二　傳染病患者收容所消毒所ノ設備竝管理ニ關スルコト

三　消毒器具及藥品ノ設備ニ關スルコト

四　種痘其ノ他傳染病豫防注射ニ關スルコト

五　檢病的戸口調査ニ關スルコト

六　前各號ノ外豫防上必要ナル事項

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第二十二款　南洋廳及其所管

### ●南洋廳官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百七號）

改正　大正一三年第四五三號　昭和二年第二〇〇號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ南洋廳官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣、海軍、大藏、商工、遞信大臣副署）

南洋廳官制

第一條　南洋群島ニ南洋廳ヲ置ク

第二條　南洋廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　勅任

書記官　專任一人　奏任

事務官　專任五人　奏任

警視　專任一人　奏任

技師　專任二人　奏任

屬　專任四十七人　判任

警部<br>警部補　專任十一人　判任

技手　專任十二人　判任

第三條　長官ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ部内ノ政務ヲ管理ス但シ郵便及電信ニ關スル事務ニ付テハ遞信大臣、貨幣銀行及關税ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣、度量衡及計量ニ關スル事務ニ付テハ商工大臣ノ監督ヲ承ク

第四條　長官ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ廳令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、二百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第五條　長官ハ安寧秩序ヲ保持スル爲臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テハ前條ノ制限ヲ超ユル罰則ヲ附シタル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ發シタル命令ハ公布後直ニ内閣總理大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ勅裁ヲ得サルトキハ長官ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第六條　長官ハ其ノ管轄區域ノ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ鎭守府司令長官又ハ附近ノ海軍主席指揮官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第七條　長官ハ所部ノ職員ヲ指揮監督シ高等官ノ功過ハ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第八條　長官ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條　長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ所轄官廳ニ委任スルコトヲ得

第十條　南洋廳ノ事務分掌ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十一條　南洋廳管内須要ノ地ニ南洋廳支廳ヲ置ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十二條　長官ハ支廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲支廳出張所ヲ置クコトヲ得其ノ名稱、位置及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第十三條　書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ廳務ヲ掌理ス

第十四條　事務官ハ支廳長タル者ヲ除クノ外上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十五條　支廳長ハ事務官、屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十六條　支廳長ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ支廳令ヲ發スルコトヲ得

第十七條　支廳出張所長ハ屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第十八條　警視ハ上官ノ命ヲ承ケ警察、衞生及監獄ノ事務ヲ掌リ其ノ執行ニ關シ警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第十九條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十條　屬ハ支廳長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條　警部ハ支廳長タル者ヲ除クノ外上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衞生及監獄ノ事務ニ從事シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十二條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十三條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衞生及監獄ノ事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第二十四條　氣象ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲南洋廳ニ觀測所ヲ置ク其ノ名稱及位置ハ長官之ヲ定ム

觀測所長ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第二十五條　南洋廳ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ノ定員ハ長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年勅令第二百六十七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ臨時南洋群島防備隊ニ在勤スル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ海軍書記生ハ南洋廳屬ニ、海軍警部ハ南洋廳警部ニ、海軍技官補ハ南洋廳技手ニ、海軍警部補ハ南洋廳警部補ニ、海軍巡査ハ南洋廳巡査ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

### ●南洋廳部内臨時職員設置制

（大正十一年三月三十一日勅令第百八號）

改正　大正一二年第一四三號、一三年第二四二號、一四年第一一三號、一五年第八一號　昭和二年第二〇八號

朕南洋廳部内臨時職員設置制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

南洋廳部内臨時職員設置制

第一條　南洋廳ニ左ノ職員ヲ置ク

一　營繕ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任一人

技手　專任三人

二　土地調査ニ關スル事務ニ從事スル者

屬　專任二人

技手　專任四人

三　水産調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技手　專任一人

四　港灣修築ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任一人

屬　專任一人

技手　專任二人

五　官有椰子林經營調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技手　專任一人

第二條　削除

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●南洋廳醫院官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百十一號）

改正　大正一三年第四五四號　昭和二年第一〇九號

朕南洋廳醫院官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

南洋廳醫院官制

第一條　南洋廳醫院ハ南洋廳長官ノ管理ニ屬シ疾病ノ診療竝傳染病及地方病ノ調査研究ヲ掌ル

第二條　醫院ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

院長　七人

醫長　專任四人　奏任

醫官　專任五人　奏任

醫員　專任十五人　判任

藥劑員　專任七人　判任

書記　專任三人　判任

第三條　院長ハ醫長又ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ南洋廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理ス

第四條　醫長及醫官ハ院長ノ命ヲ承ケ診療竝傳染病及地方病ノ調査研究ヲ掌ル

第五條　削除

第六條　醫員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ診療竝傳染病及地方病ノ調査研究ニ從事ス

第七條　藥劑員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第八條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　醫院ノ名稱及位置ハ南洋廳長官之ヲ定ム南洋廳長官ハ必要ト認ムル地ニ醫院ノ分院ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●南洋廳小學校官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百十三號）

改正　大正一三年第八六號、一五年第八六號　昭和二年第九四號

朕南洋廳小學校官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

南洋廳小學校官制

第一條　南洋廳小學校ハ國語ヲ常用スル兒童ニ普通教育ヲ授クル所トス

第二條　小學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

訓導　專任十二人　判任

第三條　學校長ハ訓導ヲ以テ之ニ充ツ南洋廳支廳長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第四條　訓導ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ及學校長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第五條　小學校ノ名稱及位置ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●南洋廳公學校官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百十四號）

改正　大正一五年第一〇四號

朕南洋廳公學校官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

南洋廳公學校官制

第一條　南洋廳公學校ハ國語ヲ常用セサル兒童ニ普通教育ヲ授クル所トス

第二條　公學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

訓導　專任五十四人　判任

第三條　學校長ハ訓導ヲ以テ之ニ充ツ南洋廳支廳長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第四條　訓導ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ及學校長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第五條　公學校ニ徒弟養成所ヲ附置スルコトヲ得

南洋廳長官ハ公學校ノ職員ヲシテ徒弟養成所ノ生徒ノ教育ヲ擔任セシメ又ハ所務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第六條　公學校及徒弟養成所ノ名稱及位置ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ臨時南洋群島防備隊ニ在勤スル海軍教員別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ同俸給ヲ以テ南洋廳公學校訓導ニ任セラレタルモノトス

### ●南洋廳産業試驗場官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百十號　改正　大正一三年第二九九號、一五年第九八號　昭和二年第一一〇號）

朕南洋廳産業試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

南洋廳産業試驗場官制

第一條　南洋廳産業試驗場ハ南洋廳長官ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

一　農産、林産及畜産ニ關スル調査及試驗

二　農産、林産及畜産ニ關スル分析及鑑定

三　農産、林産及畜産ニ關スル講習及講話

第二條　産業試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長

技師　專任三人　奏任

技手 書記 ｝專任七人　判任

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ南洋廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ場長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　南洋廳長官ハ必要ト認ムル地ニ産業試驗場ノ分場ヲ置クコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●南洋廳採鑛所官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百九號　改正　大正一二年第二三五號）

朕臨時南洋廳採鑛所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

南洋廳採鑛所官制

第一條　南洋廳採鑛所ハ南洋廳長官ノ管理ニ屬シ燐鑛採掘ニ關スル業務ヲ掌ル

第二條　採鑛所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師　專任一人　奏任

技手　專任四人　判任

書記　專任三人　判任

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ南洋廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ所長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●南洋廳郵便局官制

（大正十一年三月三十一日勅令第百十二號　改正　大正一二年第一四四號、一三年第四五五號）

朕南洋廳郵便局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

南洋廳郵便局官制

第一條　南洋廳郵便局ハ南洋廳長官ノ管理ニ屬シ郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信及電話ニ關スル業務ヲ掌ル

南洋廳長官ノ指定シタル郵便局ハ前項ノ業務ノ外南洋廳及其ノ所屬官署ノ取扱フ歲入金、歲出金及歲入歲出外現金ノ出納ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　郵便局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

通信技師　專任一人　奏任

通信書記 通信書記補 ｝專任四十四人　判任

通信技手　專任十人　判任

第三條　局長ハ南洋廳事務官又ハ通信書記ヲ以テ之ニ充ツ南洋廳長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條　通信技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第五條　通信書記及通信書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第六條　通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第七條　郵便局ノ名稱、位置及事務取扱ノ範圍ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第八條　南洋廳長官ハ必要ニ應シ通信技師、通信書記、通信技手又ハ通信書記補ヲシテ通信ニ關スル南洋廳ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## 第二十三款　會計檢査院

### ●會計檢査院法

（明治二十二年五月十日法律第十五號　改正　明治三三年第八一號、四三年第三一號、四四年第二三號　大正二年第一一號、五年第三六號、八年第四號、一〇年第五三號、一四年第四三號　昭和二年第二六號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計檢査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

會計檢査院法

第一章　組織

第一條　會計檢査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條　會計檢査院ハ院長一員部長三員檢査官十二員ヲ置キ之ヲ會計檢査官トシ別ニ書記官專任一員副檢査官專任二十員及書記ヲ置ク

第三條　院長ハ親任、部長ハ勅任、檢査官ハ勅任又ハ奏任、書記官及副檢査官ハ奏任、書記ハ判任トス

勅任檢査官及書記ノ定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條　會計檢査院ニ三部ヲ設ケ各部部長一員檢査官四員ヲ以テ檢査ノ事務ヲ分掌ス

第六條　會計檢査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計檢査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ休職ヲ命セラル丶コトナシ

會計檢査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條　父子兄弟ハ同時ニ會計檢査官トナルコトヲ得ス

第八條　會計檢査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條　會計檢査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條　左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一　第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二　第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三　第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四　檢査事務ノ規程計算證明ノ樣式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五　其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條　計算檢査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計檢査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章　職權

第十二條　會計檢査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ檢査確定シ會計ヲ監督ス

第十三條　會計檢査院ノ檢査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一　總決算

二　各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三　日本銀行ノ政府ノ爲取扱フ現金及有價證券ノ出納ニ關ル決算

四　政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

五　法律勅令ニ依リ特ニ會計檢査院ノ檢査ニ屬セラレタル決算

第十四條　會計檢査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ檢査確定スルト同時ニ左ノ事項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一　總決算及各省決算報告書ノ金額ト日本銀行ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二　歲入ノ賦課徵收歲出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各ヽ其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三　豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條　會計檢査院ハ各年度ノ會計檢査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條　會計檢査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ檢査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ檢査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計檢査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計檢査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第四號ノ團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條　現金物品ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計檢査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計檢査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條　會計檢査院ハ計算書及計算證明ノ樣式竝ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條　會計檢査院ハ各官廳ヲシテ檢査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計檢査院長ハ檢査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地檢査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ檢査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

前二項ハ會計檢査院ノ檢査ヲ受クル各官廳以外ノモノニ付之ヲ準用ス

第二十條　會計檢査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ檢査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十條ノ二　會計檢査院ハ日本銀行ノ計算ヲ檢査シ正當ナリト決定シタルトキハ其ノ旨ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ正當ナラスト決定シタルトキハ大藏大臣ニ移牒シテ相當ノ處置ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條　會計檢査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條　出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ樣式ヲ守ラサルトキハ會計檢査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條　政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計檢査院ニ於テ檢査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條　會計檢査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脫漏二重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐僞ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計檢査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章　附則

第二十五條　會計檢査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### ●會計檢査院事務章程

（明治三十二年十二月二十五日勅令第四百五十七號　改正　明治四三年第一一四號　大正二年第一三一號、四年第一五九號、一〇年第三九五號、一四年第九一號）

朕會計檢査院事務章程ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

會計檢査院事務章程

第一條　會計檢査院ニ第一部、第二部及第三部ヲ設ケ各部ニ課ヲ置キ檢査ノ事務ヲ分掌セシム

第二條　會計檢査院ハ院長官房ヲ置ク

第三條　會計檢査院ノ會議ハ會計檢査官ヲ以テ組織ス

總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第四條　總會議ハ會計檢査官現員ノ三分ノ二以上部會議ハ其ノ部ノ會計檢査官現員ノ半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

出席會計檢査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ總會議ニ於テハ三名部會議ニ於テハ一名ヲ限リ副檢査官ヲ以テ補充スルコトヲ得

第五條　總會議又部會議ハ會計檢査官、委員又ハ副檢査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第六條　會計檢査官總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要スル事件ニ付議案ヲ提出セムトスルトキハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ附シ總會議ノ議決ヲ要スルモノハ院長ニ部會議ノ議決ヲ要スルモノハ部長ニ之ヲ提出スヘシ

第七條　會計檢査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ檢査シ又ハ其ノ檢定若ハ判決ニ與ルコトヲ得ス

第八條　院長ハ所部ノ職員ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ自ラ之ヲ行フ

第九條　院長ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部職員ノ敍位敍勳ヲ上奏シ又ハ增俸賞與ヲ行フ

第十條　院長ハ會計檢査院全般ニ關スル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲會計檢査院高等官中ヨリ委員ヲ設クルコトヲ得

第十一條　左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

一　各部ノ分課ヲ定ムルコト

二　各部課主管ノ事務及職員ノ配置ヲ定ムルコト

三　各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノヲ處分スルコト

四　副檢査官ニ總會議出席ヲ命スルコト

五　所部ノ職員ニ出張ヲ命スルコト

六　議事ニ關シ細則ヲ定ムルコト

七　部會議ノ議決スヘキ事項ヲ定ムルコト

八　行務監督規程及其ノ他ノ行政事務ニ關スル諸規程ヲ定ムルコト

第十二條　院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニ付主任部長及檢査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

總會議又ハ部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限リ院長ハ文章ノ訂正ヲ爲スコトヲ得

第十三條　院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ十四日以內ニ之ヲ再議ニ付スヘシ

再議ノ議決ニ對シテハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

院長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ其ノ議決書ヲ受ケタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ總會議ニ付スヘシ

第十四條　院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條　左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

一　其ノ名ヲ以テ審理書ヲ發スルコト

二　副檢査官ニ部會議出席ヲ命スルコト

三　部員ヲシテ其ノ部主管ノ事務ニ付一時相互ニ幫助セシムルコト

四　部員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告スルコト

第十六條　部長ハ各課ヨリ提出スル文書ヲ審査シ其ノ總會議若ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノ又ハ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ處分スヘシ

其ノ部會議ニ付シタルモノハ總テ之ヲ院長ニ提出スヘシ

第十七條　部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニ付主任檢査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限リ部長ハ文章ヲ訂正スルコトヲ得

第十八條　部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ム

ルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第十九條　部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條　檢査官ハ各課ノ長トナリ課務ヲ掌理ス

第二十一條　檢査官ハ檢査ノ執行ニ因リ檢定、判決、審理等ニ關スル文書ヲ調製シ之ヲ部長ニ提出ス

第二十二條　副檢査官ハ各課ニ分屬シ課長ヲ助ケ又ハ院長官房若ハ各部ニ分屬シ審議立案ヲ掌ル

第二十三條　副檢査官ハ檢査ノ事項ニ關シ意見アル場合ニ於テ總會議又ハ部會議ニ議案ヲ提出セムトスルトキハ院長又ハ當該部長ノ承認ヲ經ヘシ

第二十四條　書記官ハ院長官房ニ屬シ庶務ヲ掌ル

第二十五條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ檢査ノ事務又ハ庶務ニ從事ス

第二十六條　會計檢査院ハ行務年度ヲ定メ檢査ノ事務ヲ執行ス

第二十七條　會計檢査院ハ檢査ノ事項ニ付當該官吏ニ對シテハ審理書ヲ發シ國務大臣ニ對シテハ質問書又ハ注意書ヲ發スルコトヲ得

第二十八條　會計檢査院ハ出納官吏ノ計算正當ナリト判決シタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付シ正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ對シ處分要求書ヲ發スヘシ

會計檢査院ハ出納官吏其ノ負擔スヘキ缺損金ノ辨償ヲ終ヘタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付スヘシ

第二十九條　會計檢査院ハ國ノ代表者ニ於テ出納官吏ニ對スル公訴附帶ノ私訴ヲ提起シタル事項ニ關シテハ之ニ對スル通常又ハ特別裁判所ノ判決執行ノ結果ニ依リ其ノ檢査判決ヲ行フヘシ

第三十條　會計檢査院ハ第二十八條ノ處分要求書ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ事由ヲ檢査成績書ニ載セテ上奏スヘシ

第三十一條　會計檢査院ハ出納官吏ニ對シ再審ヲ行フ場合ニ於テハ前ニ該件ノ檢査ヲ擔當セサリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第三十二條　會計檢査院ハ出納官吏ノ請求ニ因リ再審ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ本屬長官ニ通知スヘシ

會計檢査院ハ職權ヲ以テ再審ヲ行フ場合ニ於テハ本屬長官ヲ經由シテ其ノ旨ヲ當該出納官吏ニ通知スヘシ

第三十三條　會計檢査院ハ左ノ場合ニ於テ本屬長官ヲシテ直ニ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

一　出納官吏其ノ保管スル現金ヲ亡失シタルトキ
二　各省大臣出納官吏ニ對シ辨償ヲ命シタルトキ
三　出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキ

第三十三條ノ二　會計檢査院ハ必要ニ應シ技術顧問員ヲ置クコトヲ得

技術顧問員ハ院長ノ命ニ依リ技術ニ關スル事項ヲ調査シ意見ヲ開陳ス

第三十四條　會計檢査院ハ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期又ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

第三十五條　會計檢査院ハ必要アルトキハ檢査事項ニ關スル資料ノ調査ヲ關係官廳ニ囑託スルコトヲ得

### ●會計檢査院勅任檢査官及書記定員（明治四十三年三月二十八日勅令第百十三號）

（改正　明治四四年第二二二號　大正二年第一三三號、三年第二四六號、八年第九〇號、一〇年第三九六號、一二年第九八號、一四年第九二號　昭和二年第三七號）

朕會計檢査院勅任檢査官、書記及技手ノ定員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

會計檢査院勅任檢査官及書記ノ定員左ノ通定ム

一　勅任檢査官　三人
二　書記　專任二百十六人

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## 第二十四款　行政裁判所

### ●行政裁判所令（大正二年六月十四日勅令第百三十三號）

朕行政裁判所令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

行政裁判所令

第一條　行政裁判所ニ三部ヲ置ク

行政裁判所長官ハ各部ニ屬スヘキ事務ノ分配ヲ定ム

第二條　部ニ部長ヲ置ク

長官ハ一部ノ長ト爲ル

他ノ部長ハ勅任官タル行政裁判所評定官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第三條　部長ハ裁判長ト爲リ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四條　長官ハ部長及評定官ノ部屬ヲ定ム

第五條　部長故障アルトキハ其ノ部ノ評定官行政裁判法第七條第二項ノ順序ニ依リ之ヲ代理ス

評定官故障アル場合ニ於テ之ヲ代理スヘキ者ハ長官臨時之ヲ定ム

第六條　部長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲其ノ部ノ評定官ニ專理ヲ命スルコトヲ得

專理評定官ハ口頭審問ヲ爲ス前及合議ノ際部長及他ノ評定官ニ對シ訴訟ノ事實證憑及爭點ニ付說明ヲ爲スヘシ

第七條　判決ハ審問終結シタル期日又ハ其ノ期日ヨリ十四日内ニ之ヲ言渡スヘシ

第八條　裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟記錄ニ之ヲ記入セシム

第九條　行政裁判所ノ總會ハ評定官總員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス

總會ノ決議ハ出席評定官ノ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條　總會ハ長官之ヲ召集ス

長官ハ總會ノ議長ト爲リ議事ヲ整理ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條第一項ノ規定ヲ準用ス

第十一條　合議ノ際各評定官意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同シキトキハ年少ノ者ヲ始トシ專理ヲ命シタル事件ニ付テハ專理評定官ヲ始トス

第十二條　評定官ハ決議スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　法規ノ解釋ヲ一定シ又ハ判例ヲ變更スル必要アリト認ムルトキハ長官之ヲ總會ノ議ニ付ス

第十四條　書類ノ送達ハ使丁若ハ郵便ヲ以テシ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第十五條　行政裁判所ハ其ノ職權ニ屬スル事項ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十六條　本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

行政裁判所處務規程及明治三十四年勅令第七十二號ハ之ヲ廢止ス

### ●行政裁判所評定官及書記員數及職務ノ件（明治二十三年六月三十日勅令第百十一號）

（改正　明治三二年第三五五號、四〇年第一二九號、四三年第一一五號　大正二年第一三四號、三年第二四七號、五年第一二五號、七年第一四二號、一三年第三八九號）

朕行政裁判所評定官ノ員數竝書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　行政裁判所評定官ノ定員ハ專任十四人トス

第二條　行政裁判所書記ノ定員ハ七人トス

行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ

第三條　行政裁判所書記ハ往復會計記錄其他庶務ニ從事ス

第四條　行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ從フ

審判ニ關シテハ裁判長ノ命令ニ從フ

## 第二十五款　貴族院事務局及衆議院事務局

### ●貴族院事務局官制（明治二十三年七月十一日勅令第百二十一號）

（改正　明治二四年第九九號、第二〇六號、三〇年第三四九號、三一年第三〇七號、三六年第二五五號、四三年第一三二號　大正二年第一三五號、五年第一四八號、七年第一四七號、八年第一七八號、九年第四三一號、一〇年第二一一號、一二年第二五三號、一三年第三九〇號、一五年第一五八號）

朕貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

貴族院事務局官制

第一條　貴族院事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

書記官長　一人
書記官　專任　四人
速記士　專任　一人
守衞長　一人
屬　專任　十四人
速記技手　專任　五十六人
守衞副長　專任　二人

第二條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計警務等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第四條ノ二　速記士ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ速記ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條ノ三　守衞長ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ守衞副長以下ヲ部署シ警務ヲ掌ル

第五條　屬及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

第六條　削除

第七條　守衞副長ハ判任トス守衞長ヲ助ケ守衞ヲ指揮シ守衞長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

### ●貴族院事務局技手設置（明治三十年十一月十九日勅令第四百十三號）

朕貴族院事務局ニ技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

貴族院事務局ニ屬定員以内ニ於テ技手二人ヲ置クコトヲ得

### ●衆議院事務局官制（明治二十三年七月十一日勅令第百二十二號）

（改正　明治二四年第一〇〇號、第二〇七號、三〇年第三五〇號、三一年第三〇八號、三六年第二五六號、四三年第一三三號　大正二年第一三六號、五年第一四九號、七年第一四八號、八年第一七九號、九年第四三二號、一〇年第二一二號、一二年第二五四號、一三年第三九一號、一五年第一五九號）

朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

衆議院事務局官制

第一條　衆議院事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

書記官長　一人
書記官　專任　四人
速記士　專任　一人
守衞長　一人
屬　專任　十四人
速記技手　專任　五十六人
守衞副長　專任　二人

第二條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計警務等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第四條ノ二　速記士ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ速記ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條ノ三　守衞長ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ守衞副長以下ヲ部署シ警務ヲ掌ル

第五條　屬及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

第六條　削除

第七條　守衞副長ハ判任トス守衞長ヲ助ケ守衞ヲ指揮シ守衞長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

### ●衆議院事務局技手設置（明治三十年十一月十九日勅令第四百十四號）

朕衆議院事務局ニ技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

衆議院事務局ニ定員以内ニ於テ技手二人ヲ置クコトヲ得

### ●貴族院衆議院守衞定員及給與令（明治四十年三月二十七日勅令第六十二號）

（改正　明治四三年第二一〇號　大正三年第四三號、五年第一六〇號、八年第一八〇號、九年第三三一號、一〇年第二一三號、一二年第二五五號、一三年第四號、第三九二號、一四年第三二二號）

朕貴族院衆議院守衞定員及給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

貴族院衆議院守衞定員及給與令

第一條　守衞ノ定員ハ貴族院專任四十人、衆議院專任四十人トス

前項定員ノ外議會開期中ニ限リ貴族院專任四十人、衆議院專任六十人ヲ增置スルコトヲ得

第二條　守衞ノ月俸ハ三十圓乃至八十圓トス

最上額ヲ受ケ二年ヲ超エ事務練熟優等ナル守衞ニハ月額十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第三條　削除

第四條　月俸ノ增給ハ十圓ヲ超ユルコトヲ得

第五條　守衞班長タル守衞及通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル守衞ニハ前條ノ規定ヲ適用セス特別ノ事由アル場合ニ於ケル守衞ノ增給ニ付亦同シ

第五條ノ二　通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル守衞ニハ一箇月二十圓以內ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第五條ノ三　議會開期中非番ノ日又ハ常勤時間外ニ於テ勤務ニ服シタル守衞ニハ一日二圓以內ノ勤務手當ヲ給スルコトヲ得

第六條　守衞ニハ一箇月十圓以內ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

第七條　月俸ハ新任、增俸、減俸及復職ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ、退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス

一　職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ因リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者
二　身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ因リ退職ヲ命セラレタル者
三　休職ヲ命セラレタル者
四　在職中死亡シタル者

休職當月復職シタル者ニハ其ノ月ノ月俸ハ更ニ之ヲ給セス

第八條　休職給ハ休職ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第九條　病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　本令ニ依ル給與細則ハ貴族院書記官長及衆議院書記官長各之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

貴族院衆議院守衞定員竝俸給令ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル月俸額ヲ給セラルルモノトス

## 第二十六款　廳府縣

### ●警視廳官制（大正二年六月十三日勅令第百四十九號）

（改正　大正三年第二四八號、四年第八九號、五年第四號、第五一號、第一一三號、六年第一一八號、七年第一五六號、八年第二八五號、九年第三八七號、一〇年第二四九號、一一年第三二七號、第三八八號、一二年第一六八號、第四六五號、一三年第二一三號、第三九三號、一四年第一〇號、第一七〇號、第二八八號、一五年第一一一號、第一四五號　昭和二年第一八三號）

朕警視廳官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣內務大臣副署）

### 警視廳官制

第一條　警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 警視總監 | | 勅任 |
| 書記官 | 專任五人 | 奏任 |
| 事務官 | 專任三人 | 奏任 |
| 警視 | 專任五十三人 | 奏任 |
| 消防司令 | 專任三人 | 奏任 |
| 技師 | 專任十九人 | 奏任 |
| 警部 | 專任百三十三人 | 判任 |
| 屬 | 專任三十三人 | 判任 |
| 消防士 | 專任二十二人 | 判任 |
| 消防機關士 | 專任十人 | 判任 |
| 技手 | 專任九十人 | 判任 |
| 通譯 | 專任二人 | 判任 |
| 警部補 | | 判任 |

警部補ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ警視總監之ヲ定ム

第二條　大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ俸給最低額ヨリ低キ俸給ヲ受クル技師及技手ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル職務ノ職員ノ定員ノ内トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第三條　警視總監ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及特ニ内務大臣ノ指定スル衛生事務、工場法施行ニ關スル事務、鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務竝勞働爭議調停ニ關スル事務ヲ管理シ各省ノ主務ニ關スル事務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第四條　警視總監ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得

第五條　警視總監ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ東京警備司令官又ハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第六條　警視總監ハ其ノ主務ニ付テハ管内ノ支廳長、市長、區長及町村長ヲ指揮監督ス

第七條　警視總監ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第八條　警視總監事故アルトキハ警務部長タル書記官其ノ職務ヲ代理ス

警視總監及警務部長タル書記官共ニ事故アルトキハ内務大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ警視總監ノ職務ヲ代理セシム

警視總監ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九條　警視總監ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ警察署長ニ委任スルコトヲ得

第十條　警視總監ハ警察署長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十一條　警視廳ニ總監官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
二　文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項
三　官印廳印ノ管守ニ關スル事項
四　各部所成案ノ審査及制規ニ關スル事項
五　高等警察ニ關スル事項
六　會計ニ關スル事項
七　他ノ主管ニ屬セサル事項

第十二條　警視廳ニ部ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

警務部
　一　警務ニ關スル事項
刑事部
　一　刑事ニ關スル事項
保安部
　一　建築警察、風俗警察及危險物取締等ニ關スル事項
　二　營業警察及交通警察等ニ關スル事項
衛生部
　一　衛生警察及衛生ニ關スル事項
消防部
　一　水火消防ニ關スル事項

第十三條　總監官房ニ官房主事ヲ置キ書記官ヲ以テ之ニ充ツ官房主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十四條　部ニ部長ヲ置ク警務部長刑事部長保安部長及衛生部長ハ書記官、消防部長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ警視總監ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

警務部長ハ行政警察事務ノ執行ニ關シ警視總監ノ命ヲ承ケ警察署長以下ヲ指揮監督ス

刑事部長ハ刑事警察事務ノ執行ニ關シ警視總監ノ命ヲ承ケ警察署長以下ヲ指揮監督ス

消防部長ハ消防事務ノ執行ニ關シ警視總監ノ命ヲ承ケ消防署長（消防署長アラサル地ニ在リテハ警察署長）以下ヲ指揮監督ス

第十五條　官房主事又ハ部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第十六條　警視廳ニ監察官二人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ

監察官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ警察事務ノ實況ヲ監察ス

第十六條ノ二　警視廳ニ工場監督官ヲ置キ事務官及技師ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ工場法施行竝鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條ノ三　警視廳ニ建築監督官ヲ置キ事務官、警視又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

建築監督官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條ノ四　警視廳ニ調停官ヲ置キ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

調停官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第十七條　警視及消防司令ハ監察官竝内務大臣ノ指定シタル警察署及消防署ノ署長タル者ヲ除クノ外總監官房又ハ部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十八條　警視總監ハ總監官房及各部ニ分課ヲ設クルコトヲ得

第十九條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衛生、徵發及召集ニ關スル事務ヲ分掌シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十一條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十二條　消防士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事シ部下ノ消防手ヲ指揮監督ス

消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防機關ノ運用ニ從事ス

第二十三條　警視廳ニ工場監督官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工場法施行竝鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第二十三條ノ二　警視廳ニ建築監督官補ヲ置キ屬、警部、警部補又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

建築監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第二十三條ノ三　警視廳ニ停調官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

調停官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第二十四條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十五條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ從事ス

第二十六條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衛生、徵發及召集ニ關スル事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第二十七條　警視廳管内ニ警察署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ警視總監之ヲ定ム

第二十八條　警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ部内ノ警察、衛生、徵發及召集ニ關スル事務（市ニ於ケル徵發及召集ニ關スル事務ヲ除ク）ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第二十八條ノ二　警察署長ハ徵發及召集ニ關スル事務ニ付部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

第二十九條　東京市内及第二項ノ規定ニ依ル編入區域内ニ於ケル水火災ノ警戒防禦ヲ掌ラシムル爲消防署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ警視總監之ヲ定ム

警視總監ハ土地ノ狀況ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ受ケ東京市接近町村ノ全部又ハ一部ヲ消防署ノ管轄區域ニ編入スルコトヲ得

第二十九條ノ二　警視總監必要アリト認ムルトキハ第三條及前條第一項ノ規定ニ拘ラス消防署ヲシテ其ノ管轄區域外ノ水火災ノ警戒防禦ニ應援セシムルコトヲ得

第三十條　消防署長ハ消防司令又ハ消防士ヲ以テ之ニ充ツ

消防署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第三十一條　警視廳ニ巡査及消防手ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査及消防手ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第三十二條　警視廳ニ警察練習所及消防練習所ヲ置ク

警察練習所ハ警察ニ從事スル職員、消防練習所ハ消防ニ從事スル職員ノ教習及訓練ニ關スル事項ヲ掌ル

第三十三條　警察練習所長ハ警務部長タル書記官、消防練習所長ハ消防部長タル事務官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ其ノ主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治三十九年四月十八日内務省令第二號）

東京府ニ於テ主管セル衛生事項中左ノ事項ハ警視廳主管トス

一　賣藥規則ニ依ル事務
一　藥品巡視ノ件
一　賣藥部外品ニ關スル事務
一　鍼灸術營業ニ關スル事務
一　入齒齒拔口中治療接骨營業ニ關スル事務
一　病院設立許否ニ關スル件

（明治三十九年四月十八日内務省訓令第六號）　警視廳　東京府

渡船業許否竝其他ノ事務ニ關スル主管事項左ノ通リ之ヲ定ム其他ハ從前ノ通リ

但シ輕易ノモノニ在テハ下級官公署ニ委任シ口頭其他簡易ノ方法ニ依リ出願又ハ屆出ノ途ヲ開ク等努メテ簡捷ノ方法ヲ取ルヘシ

一　渡船業許否ニ關スル件
兩廳共同管轄トス連名宛ノ願書ヲ提出セシメ東京府之ヲ先閲スルコト
一　紀念碑及形像建設許否ノ件
官有地竝官有地社寺境内官省公園堤塘ニ係ルモノハ兩廳共同管轄トス連名宛ノ願書ヲ提出セシメ警視廳之ヲ先閲ス其他ハ從前ノ通リ警視廳專屬トス

（明治三十九年四月十八日内務省訓令第七號）　警視廳　東京府

涼臺棧橋足代等ノ水上建設物竝床店葭簀張露店川除看板廣告札等ノ街路使用許否ニ關シテハ從來兩廳交渉ノ上各主管ヲ定メラレ候處右等許否ニ就テハ成ルヘク之ヲ下級官公署ニ委任シ且官公署間ニ於テ協議ヲ要スル場合ハ精々簡易ノ方法ニ依リ取扱上努メテ敏活ヲ期スヘシ

（明治三十九年四月十八日内務省訓令第八號）　警視廳　東京府

警視廳主管事項中左ノ事項ニ就テハ其設定改廢竝處分前東京府ニ合議スヘシ

一　牛乳榨取場及畜舍取締規程設定竝改廢ニ關スル件
一　工場取締規程設定竝改廢ニ關スル件
一　屠場ノ設置廢止處分ニ關スル件

## ●北海道廳官制

（大正二年六月十三日勅令第百五十號）

（改正　大正三年第一六一號、第二四九號、五年第五號、第五二號、六年第一一九號、第二二〇號、第二三八號、七年第一五七號、八年第三四八號、九年第三八八號、一〇年第二五〇號、一一年第四一三號、一二年第一五三號、第四六六號、一三年第二一四號、第三九四號、一四年第一一號、第一七一號、一五年第一一二號、第一四六號、昭和二年第一八四號）

朕北海道廳官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

北海道廳官制

第一條　北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 長官 | | 勅任 |
| 部長 | 專任五人 | 奏任 |
| 事務官 | 專任二十二人 | 奏任 |
| 警視 | 專任十四人 | 奏任 |
| 小作官 | 專任一人 | 奏任 |
| 技師 | 專任二十一人 | 奏任 |
| 視學 | 專任十三人 | 判任 |
| 屬 | 專任二百二十六人 | 判任 |
| 警部 | 專任八十四人 | 判任 |
| 小作官補 | 專任一人 | 判任 |
| 技手 | 專任百五人 | 判任 |
| 通譯 | 專任二人 | 判任 |
| 警部補 | | 判任 |

警部補ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ北海道廳長官之ヲ定ム

内務部長及土木部長ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第二條　大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ俸給最低額ヨリ低キ俸給ヲ受クル技師及技手ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル職務ノ職員ノ定員ノ内トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第三條　長官ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓殖竝民ノ事務及部内ノ行政事務ヲ總理ス

第四條　長官ハ北海道ノ事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得

第五條　長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第六條　長官ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第七條　長官ハ支廳長又ハ警察署長ノ處分又ハ命令ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分又ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

長官ハ行政事務ニ付テハ警察署長ヲ指揮監督シ其ノ處分ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第八條　長官事故アルトキハ内務部長タル部長其ノ職務ヲ代理ス

長官及内務部長タル部長共ニ事故アルトキハ内務大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ長官ノ職務ヲ代理セシム

第九條　長官ハ道廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

長官ハ其ノ事務ノ一部ヲ支廳長、警察署長又ハ市長ニ委任スルコトヲ得

第十條　北海道廳ニ長官官房及左ノ五部ヲ置ク

内務部
學務部
土木部
拓殖部
警察部

第十一條　長官官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
二　文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項
三　官印廳印ノ管守ニ關スル事項
四　褒賞ニ關スル事項
五　統計ニ關スル事項

第十二條　内務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　北海道會、北海道參事會及北海道地方費ニ關スル事項
二　支廳及市町村其ノ他公共團體ニ關スル事項
三　道廳ニ屬スル國庫費ノ會計ニ關スル事項
四　地方費經濟ニ屬スル收支出納ニ關スル事項
五　道廳所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
六　地方費經濟ニ屬スル財産及物品ニ關スル事項
七　農工商ニ關スル事項
八　小作爭議調停ニ關スル事項
九　水産漁獵ニ關スル事項
十　度量衡ニ關スル事項
十一　他ノ主管ニ屬セサル事項
十二　學事、教育學藝ニ關スル事項
二　社寺及宗教ニ關スル事項
三　兵事ニ關スル事項
四　社會事業ニ關スル事項

五　史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項

土木部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　土木ニ關スル事項
二　水陸運輸ニ關スル事項
三　水面埋立ニ關スル事項

拓殖部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　殖民地ノ選定經營其ノ他殖民ニ關スル事項
二　土地ノ處分及開墾ニ關スル事項
三　地籍ニ關スル事項
四　官有地管理ニ關スル事項
五　土地收用ニ關スル事項
六　森林原野ニ關スル事項

警察部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　警察ニ關スル事項
二　衞生ニ關スル事項
三　工場法施行ニ關スル事項
四　鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事項
五　勞働爭議調停ニ關スル事項

第十二條ノ二　內務大臣ハ須要ニ依リ北海道廳ニ產業部ヲ置キ前條第一項第八號乃至第十一號ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十三條　部長ハ長官ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第十四條　部長事故アルトキハ長官ニ於テ道廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第十五條　警察部長ハ警察事務ノ執行ニ關シ長官ノ命ヲ承ケ警視、警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第十六條　道廳ニ視學官ヲ置キ學務部長ヲ以テ之ニ充ツ

視學官ハ長官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察ヲ掌ル

第十六條ノ二　道廳ニ工場監督官ヲ置キ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官ハ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ工場法施行竝鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條ノ三　道廳ニ建築監督官ヲ置クコトヲ得事務官、警視又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

建築監督官ハ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條ノ四　道廳ニ調停官ヲ置クコトヲ得事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

調停官ハ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第十七條　支廳長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十八條　支廳長ハ行政事務ニ付其ノ部內ノ町村長ヲ指揮監督ス

第十九條　支廳長ハ町村長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條　支廳長ハ法律命令ニ依リ又ハ長官ヨリ委任セラレタル事件ニ付支廳令ヲ發スルコトヲ得

第二十一條　支廳長事故アルトキハ其ノ廳勤務ノ事務官其ノ職務ヲ代理ス

支廳長及其ノ廳勤務ノ事務官共ニ事故アルトキ又ハ前項ノ場合ニ於テ其ノ廳勤務ノ事務官ナキ支廳ニ在リテハ其ノ廳勤務ノ上席屬支廳長ノ職務ヲ代理ス

第二十二條　支廳長ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第二十三條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第二十四條　警視ハ警察部ニ屬シ又ハ內務大臣ノ指定シタル警察署ノ署長ト爲リ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ部署ノ事務ヲ掌理ス

第二十四條ノ二　小作官ハ上官ノ命ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十五條　長官ハ長官官房及各部ニ分課ヲ設クルコトヲ得

第二十六條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十七條　視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル庶務ニ從事ス

第二十八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十九條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衞生事務ヲ分掌シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十九條ノ二　道廳ニ工場監督官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官補ハ警察部ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ工場法施行竝鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第二十九條ノ三　道廳ニ建築監督官補ヲ置クコトヲ得屬、警部、警部補又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

建築監督官補ハ警察部ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第二十九條ノ四　道廳ニ調停官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

調停官補ハ警察部ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第二十九條ノ五　小作官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第三十條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十一條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通譯ニ從事ス

第三十二條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衞生事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第三十三條　管內須要ノ地ニ道廳支廳ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　北海道廳管內ニ警察署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第三十五條　警察署長ハ警視ヲ以テ充ツル場合ヲ除クノ外警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ地方ノ狀況ニ依リ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部內ノ警察及衞生事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第三十六條　北海道廳ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ニ關スル規程ハ內務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ法律命令ニ依リ郡區長ノ管掌ニ屬シタル事項ハ支廳長之ヲ處理ス

從前郡區長ノ兼掌シタル戶長ノ事務ハ支廳長ニ於テ之ヲ其ノ廳在勤ノ屬ニ委任スルコトヲ得

明治二十六年勅令第百九十九號中郡令ニ關スル規定ハ支廳令ニ之ヲ準用ス

附　則（大正十三年勅令第三百九十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ本令ニ依ル廢官ニ係ル官ニ在リ休職中ナル者ニ付テハ其ノ休職滿期ニ至ル迄ノ間臨時其ノ官ヲ置カレタルモノトス

---

（昭和二年三月一日　內務省告示第三百七號）

北海道廳官制ノ規定ニ依リ昭和二年四月一日ヨリ北海道廳ニ產業部ヲ置ク

---

## ●北海道廳支廳名稱位置及管轄區域

（明治三十年十一月二日　勅令第三百九十五號）

改正　明治三二年第一九一號、第三八五號、三四年第一三一號、三六年第二八四號、三九年第五四號、四一年第二九〇號、四三年第六號、四四年第七號、大正三年第一八四號、一一年第三八〇號

朕北海道廳支廳名稱位置及管轄區域ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

北海道廳支廳ノ名稱位置及管轄區域別表ノ通定ム

附　則

本令ハ明治三十年勅令第三百九十二號北海道廳官制施行ノ日ヨリ施行ス

（別表）

| 名稱 | 位置 | 管轄區域 |
|---|---|---|
| 北海道廳石狩支廳 | 石狩國　札幌【區】北二條西五町目 | 札幌郡、千歳郡、石狩郡、厚田郡、濱益郡 |
| 北海道廳渡島支廳 | 渡島國　函館【區】元町 | 龜田郡、上磯郡、茅部郡、山越郡、松前郡 |
| 北海道廳檜山支廳 | 渡島國　檜山郡江差中歌町 | 檜山郡、爾志郡、久遠郡、奥尻郡、太櫓郡、瀨棚郡 |
| 北海道廳後志支廳 | 膽振國　虻田郡倶知安村 | 壽都郡、島牧郡、歌棄郡、磯谷郡、岩內郡、古宇郡、虻田郡（虻田村辨邊村ヲ除ク）、小樽郡、高島郡、忍路郡、余市郡、古平郡、美國郡、積丹郡 |
| 北海道廳空知支廳 | 石狩國　空知郡岩見澤村 | 空知郡（富良野村ヲ除ク）、夕張郡、雨龍郡、樺戶郡 |
| 北海道廳上川支廳 | 石狩國　【上川郡】旭川【村】 | 上川郡（石狩國）、空知郡ノ內富良野村、上川郡（天鹽國）、中川郡（天鹽國）、勇拂郡ノ內占冠村 |
| 北海道廳留萌支廳 | 天鹽國　留萌郡留萌町 | 增毛郡、留萌郡、苫前郡、天鹽郡 |
| 北海道廳宗谷支廳 | 北見國　宗谷郡稚內村 | 宗谷郡、枝幸郡、利尻郡、禮文郡 |
| 北海道廳網走支廳 | 北見國　網走郡北見町 | 網走郡、斜里郡、常呂郡、紋別郡 |
| 北海道廳膽振支廳 | 膽振國　【室蘭郡】札幌通 | 室蘭郡、有珠郡、虻田郡ノ內虻田村辨邊村、幌別郡、勇拂郡（占冠村ヲ除ク）、白老郡 |
| 北海道廳浦河支廳 | 日高國　浦河郡浦河村 | 浦河郡、沙流郡、新冠郡、靜內郡、三石郡、樣似郡、幌泉郡 |
| 北海道廳釧路國支廳 | 釧路國　【釧路郡】釧路【町】 | 釧路郡、白糠郡、足寄郡、阿寒郡、川上郡、厚岸郡 |
| 北海道廳河西支廳 | 十勝國　河西郡下帶廣村 | 河西郡、河東郡、上川郡（十勝國）、中川郡、十勝郡、廣尾郡 |
| 北海道廳根室支廳 | 根室國　根室郡常盤町 | 根室郡、花咲郡、野付郡、標津郡、目梨郡、國後郡、色丹郡、得撫郡、新知郡、占守郡、紗那郡、振別郡、擇捉郡、蘂取郡 |

---

## ●拓殖及森林事務ニ從事セシムル爲北海道廳ニ臨時職員增置等ノ件

（大正六年十二月一日　勅令第二百二十一號）

改正　大正七年第二七八號、八年第四二一號、九年第五一八號、一〇年第三二三號、一一年第四三〇號、一二年第一二一號、第三三四號、一三年第一四一號、第二五一號、第三九五號、一四年第一四五號、一五年第一四〇號
昭和二年第九五號

朕拓殖及森林事務ニ從事セシムル爲北海道廳ニ臨時職員增置等ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　拓殖及森林ノ事務ニ從事セシムル爲北海道廳ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

一　殖民ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 事務官 | 專任三人 | 奏任 |
| 技師 | 專任五人 | 奏任 |
| 屬 | 專任百十一人 | 判任 |
| 技手 | 專任二百三十人 | 判任 |

二　森林ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 事務官 | 專任一人 | 奏任 |
| 技師 | 專任二十三人 | 奏任 |
| 屬 | 專任四十九人 | 判任 |
| 技手 | 專任三百三十七人 | 判任 |
| 森林主事 | 專任二百四十人 | 判任 |

三　產業ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 技師 | 專任三十三人 | 奏任 |
| 屬 | 專任三十二人 | 判任 |
| 技手 | 專任二百二人 | 判任 |

四　土地改良ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 事務官 | 專任一人 | 奏任 |
| 技師 | 專任六人 | 奏任 |
| 屬 | 專任二十五人 | 判任 |
| 技手 | 專任八十四人 | 判任 |

五　道路、橋梁ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 事務官 | 專任一人 | 奏任 |
| 技師 | 專任十三人 | 奏任 |
| 屬 | 專任六十三人 | 判任 |
| 技手 | 專任二百九十八人 | 判任 |

六　河川ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 技師 | 專任一人 | 奏任 |
| 屬 | 專任七人 | 判任 |
| 技手 | 專任三十四人 | 判任 |
| 河川監守 | 專任四十六人 | 判任 |

七　治水ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 技師 | 專任九人 | 奏任 |
| 屬 | 專任十五人 | 判任 |
| 技手 | 專任六十六人 | 判任 |

八　港灣ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 技師 | 專任十二人 | 奏任 |
| 技手 | 專任六十二人 | 判任 |

九　殖民道ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 技師 | 專任一人 | 奏任 |
| 技手 | 專任七人 | 判任 |

十　鐵道及軌道助成ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 技師 | 專任一人 | 奏任 |
| 技手 | 專任三人 | 判任 |

十一　調査ニ關スル事務ニ從事スル職員

| | | |
|---|---|---|
| 事務官 | 專任一人 | 奏任 |
| 技手 | 專任八人 | 判任 |

前項第四號乃至第八號ノ職員中技師一人ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

第二條　北海道廳管內須要ノ地ニ營林區署ヲ置キ營林區署ノ下ニ營林區分署ヲ置ク

營林區署及營林區分署ノ位置、名稱及管轄區域ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第三條　營林區署長ハ技師、營林區分署長ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

營林區署長及營林區分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第四條　森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ營林及林野保護ノ事務ニ從事ス

第五條　北海道廳長官ハ築港又ハ治水工事ノ爲必要ニ應シ管內ニ築港事務所又ハ治水事務所ヲ置クコトヲ得

築港事務所長及治水事務所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

築港事務所長及治水事務所長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ所主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第六條　河川監守ハ上官ノ指揮ヲ承ケ河川及其ノ附屬物保護ノ事務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

---

## ●北海道廳事業手設置

（明治三十年四月二十九日　勅令第百三十三號）

改正　明治四三年第二六號、大正二年第二八五號

朕北海道廳ノ事業ニ要スル經費豫算內ニ於テ事業手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、拓殖大臣副署）

北海道廳長官ハ明治四十三年度以降當分ノ內北海道拓殖費及森林費ニ屬スル俸給豫算定額內ニ於テ事業手ヲ置クコトヲ得

事業手ノ任用ニ關スル規程ハ內務大臣之ヲ定ム

事業手ハ判任官ノ待遇トス

事業手ノ月俸ハ二十五圓以上八十五圓以下トス

事業手最上級俸ヲ受ケ三年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ハ特ニ月額十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

---

## ●地方官官制

（大正十五年六月四日　勅令第百四十七號）

改正　昭和二年第一八五號

朕地方官官制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

## 地方官官制

第一條　府縣ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

知事　勅任
書記官　奏任
地方事務官　專任四百十六人　奏任
地方警視　專任二百人　奏任
地方小作官　專任三十六人　奏任
地方技師　專任二百七十六人　奏任
視學　專任七十六人　判任
屬　專任二千二百四十八人　判任
警部　專任千三百五十九人　判任
小作官補　專任三十七人　判任
技手　專任九百九十六人　判任
通譯　專任十四人　判任
警部補　判任

書記官ハ東京府ニ在リテハ專任二人、其ノ他ノ府縣ニ在リテハ各專任三人ヲ以テ定員トス

警部補ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ知事之ヲ定ム

第二條　前條ノ定員外ニ於テ府縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

視學　專任三百五十人以内　判任
屬
技手　專任三千七百人以内　判任

第三條　知事、書記官及警部補ヲ除クノ外第一條ノ職員竝ニ前條職員ノ各府縣内ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第四條　大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ俸給最低額ヨリ低キ俸給ヲ受クル地方技師及技手ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル職務ノ職員ノ定員ノ内トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第五條　知事ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第六條　知事ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第七條　知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得但シ東京府知事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條　知事ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

東京府知事ハ其ノ主務ニ付テハ東京府下ノ警察署長ヲ指揮監督ス

第九條　知事ハ支廳長又ハ警察署長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

知事ハ行政事務ニ付其ノ部内ノ市町村長ヲ指揮監督シ其ノ處分ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第十條　知事事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ書記官其ノ職務ヲ代理ス

知事及書記官共ニ事故アルトキハ内務大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシム

知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十一條　知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ支廳長、警察署長又ハ市町村長ニ委任スルコトヲ得

第十二條　各府縣ニ知事官房及左ノ三部ヲ置ク但シ東京府ニハ警察部ヲ置カス

内務部
學務部
警察部

第十三條　知事官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
二　文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項
三　官印府縣印ノ管守ニ關スル事項
四　褒賞ニ關スル事項
五　統計ニ關スル事項

第十四條　内務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　議員選擧ニ關スル事項
二　府縣ノ行政ニ關スル事項
三　市町村其ノ他公共團體ノ行政ノ監督ニ關スル事項
四　會計ニ關スル事項
五　土木ニ關スル事項
六　土地收用ニ關スル事項
七　水陸運輸ニ關スル事項
八　水面埋立ニ關スル事項
九　農工商森林水產ニ關スル事項
十　小作爭議調停ニ關スル事項
十一　度量衡ニ關スル事項
十二　他ノ主管ニ屬セサル事項

第十五條　學務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　教育學藝ニ關スル事項
二　社寺及宗教ニ關スル事項
三　兵事ニ關スル事項
四　社會事業ニ關スル事項
五　史蹟名勝天然紀念物ニ關スル事項

東京府ノ學務部ニ於テハ前項ノ外衞生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條　警察部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　警察ニ關スル事項
二　衞生ニ關スル事項
三　工場法施行ニ關スル事項
四　鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事項
五　勞働爭議調停ニ關スル事項

第十七條　内務大臣ハ須要ニ依リ府縣ヲ指定シテ土木部、產業部又ハ衞生部ヲ置クコトヲ得

土木部ニ於テハ第十四條第五號乃至第八號ノ事務ヲ掌ル

產業部ニ於テハ第十四條第九號乃至第十一號ノ事務ヲ掌ル

衞生部ニ於テハ前條第二號ノ事務ヲ掌ル

土木部又ハ產業部ヲ置ク府縣ニ於テハ知事ハ第十三條第二號乃至第五號ノ事務ノ一部又ハ全部ヲ内務部ニ於テ掌ラシムルコトヲ得

第十八條　部ニ部長ヲ置ク内務部、學務部及警察部ニ在リテハ書記官ヲ以テ、土木部、產業部及衞生部ニ在リテハ書記官又ハ地方技師ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第十九條　部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第二十條　警察部長ハ警察事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケ地方警視、警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十一條　知事ハ知事官房及各部ニ分課ヲ設クルコトヲ得

第二十二條　地方事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第二十三條　地方警視ハ警察部ニ屬シ又ハ内務大臣ノ指定シタル警察署ノ署長ト爲リ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ部署ノ事務ヲ掌理ス

警察部ニ屬スル地方警視ハ警察事務ノ執行ニ關シ上官ノ指揮ヲ承ケ警部、警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十四條　地方小作官ハ上官ノ命ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十五條　地方技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十六條　視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他教育ニ關スル庶務ニ從事ス

第二十七條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十八條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衞生、徵發及召集ニ關スル事務ヲ分掌シ部下ノ警部補及巡査ヲ指揮監督ス

第二十九條　小作官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ小作爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第三十條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第三十一條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ從事ス

第三十二條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衞生、徵發及召集ニ關スル事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第三十三條　各府縣ニ工業組合監督官及工業組合監督官補ヲ置クコトヲ得

工業組合監督官ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ、工業組合監督官補ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ重要輸出品工業組合法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第三十四條　各府縣ニ視學官ヲ置キ學務部長タル書記官ヲ以テ之ニ充ツ

視學官ハ知事ノ命ヲ承ケ學事ノ視察ヲ掌ル

第三十五條　東京府ヲ除クノ外各府縣ニ工場監督官及工場監督官補ヲ置クコトヲ得

工場監督官ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ、工場監督官補ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ工場法施行竝ニ鑛業及砂鑛業以外ノ事業ニ於ケル工業勞働者最低年齡法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第三十六條　東京府ヲ除クノ外各府縣ニ建築監督官及建築監督官補ヲ置クコトヲ得

建築監督官ハ地方事務官、地方警視又ハ地方技師ヲ以テ、建築監督官補ハ屬、警部、技手又ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第三十七條　東京府ヲ除クノ外各府縣ニ調停官及調停官補ヲ置クコトヲ得

調停官ハ地方事務官又ハ地方技師ヲ以テ、調停官補ハ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ勞働爭議調停ニ關スル事務ニ從事ス

第三十八條　大阪府ニ監察官一人ヲ置キ警察部ニ屬スル地方警視ヲ以テ之ニ充ツ

監察官ハ上官ノ命ヲ承ケ警察事務ノ實況ヲ監察ス

第三十九條　各府縣管内ニ警察署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ知事之ヲ定ム

第四十條　警察署長ハ地方警視ヲ以テ充ツル場合ヲ除クノ外警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ地方ノ狀況ニ依リ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部内ノ警察、衞生、徵發及召集ニ關スル事務（市ニ於ケル徵發及召集ニ關スル事務ヲ除ク）ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第四十一條　警察署長ハ徵發及召集ニ關スル事務ニ付部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十二條　各府縣ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡査ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第四十三條　島地其ノ他交通不便ノ地ニ府縣支廳ヲ置クコトヲ得其ノ位置、名稱及管轄區域ハ内務大臣之ヲ定ム

知事必要アリト認ムルトキハ支廳出張所ヲ置クコトヲ得

第四十四條　支廳長ハ地方事務官ヲ以テ之ニ充ツ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

支廳出張所長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ知事ノ定ムル所ニ依リ出張所主管ノ事務ヲ處理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第四十五條　支廳長ハ行政事務ニ付其ノ部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十六條　支廳長ハ町村長ノ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第四十七條　支廳長事故アルトキハ其ノ廳勤務ノ上席屬其ノ職務ヲ代理ス

第四十八條　支廳長ハ其ノ廳勤務ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十九條　本令中市長トアルハ市制第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區長ヲ、町村長トアルハ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第百三十一號及明治四十二年勅令第五十四號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ本令ニ依ル廢官ニ係ル官ニ在リ休職中ナル者竝ニ大正十三年勅令第三百九十六號施行ノ際同令ニ依ル廢官ニ係ル官ニ在リ現ニ休職中ナル者ニ付テハ其ノ休職滿期ニ至ル迄ノ間臨時其ノ官ヲ置カレタルモノトス

（昭和二年四月一日内務省告示第三百八號）

地方官官制ノ規定ニ依リ昭和二年四月一日ヨリ左ノ府縣ニ土木部ヲ置ク

東京府、京都府、大阪府、神奈川縣、兵庫縣、愛知縣

## ●沖繩縣郡編制

（明治二十九年三月七日勅令第十三號）

朕沖繩縣ノ郡編制ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

第一條　那覇首里【兩區】ノ區域ヲ除ク外沖繩縣ヲ畫シテ左ノ五郡トス

島尻郡　島尻各間切久米島慶良間諸島渡名喜島粟國島伊平屋諸島鳥島及大東島
中頭郡　中頭各間切
國頭郡　國頭各間切及伊江島
宮古郡　宮古諸島
八重山郡　八重山諸島

第二條　郡ノ境界若クハ名稱ヲ變更スルコトヲ要スルトキハ内務大臣之ヲ定ム

附　則

第三條　本令施行ノ時期ハ内務大臣之ヲ定ム

（明治二十九年内務省令第二號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

## ●警察官吏職務應援ニ關スル件

（明治四十三年十一月九日勅令第四百二十七號）

朕警察官吏職務應援ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

第一條　廳府縣長官ハ災害警防又ハ取締上必要アル場合ニ於テ應援ノ爲他ノ廳府縣長官ニ協議シテ警察官吏ノ派遣ヲ求ムルコトヲ得

内務大臣ハ警防又ハ取締上緊急ノ必要アル場合ニ於テ廳府縣長官ニ對シ他ノ廳府縣ノ警察事務ノ應援ノ爲所屬警察官吏ノ派遣ヲ命スルコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依リ派遣セラレタル警察官吏ハ其ノ地ノ警察官吏トシテ職務ニ從事スルモノトス

第三條　廳府縣長官ハ警察上特ニ保護又ハ注意ヲ要スル者ニ對シ同行ヲ必要トスル場合ニ於テ所屬警察官吏ヲシテ他ノ廳府縣ノ區域ニ亙リ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條　第一條ノ規定ニ依リ派遣ヲ命セラレタル警察官吏ノ旅費其ノ他臨時必要ナル費用ハ應援ヲ受ケタル廳府縣ニ於テ警察費ヨリ之ヲ支辨スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●内地及樺太ニ於テ警察事務ヲ取扱フ官廳間ノ警察官吏職務應援ニ關スル件

（大正十四年七月二十五日勅令第二百五十八號）

朕内地及樺太ニ於テ警察事務ヲ取扱フ官廳間ノ警察官吏職務應援ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

明治四十三年勅令第四百二十七號ハ同令第一條第二項ノ規定ヲ除クノ外内地及樺太間ニ於ケル警察官吏職務應援ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●海港檢疫竝輸入獸類檢疫及檢查上管轄外ニ於ケル地方長官ノ職權ニ關スル件

（明治四十年三月三十一日勅令第百號）

朕海港檢疫竝輸入獸類檢疫及檢查上管轄外ニ於ケル地方長官ノ職權ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

地方長官ハ海港檢疫竝輸入獸類檢疫及檢查上必要アル場合ニ於テハ内務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ管轄區域外ニ於テ其ノ職權ヲ行フコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●地方官ヲシテ御料地ヲ管理セシムルノ件

（明治二十三年六月四日勅令第八十八號）

朕地方官ヲシテ御料地ヲ管理セシムルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（内務大臣副署）

地方長官ハ宮内大臣ノ委託ニ由リ御料地ヲ管理スヘシ其管理ニ係ル費用ハ皇室ノ支辨トス

## ●社寺取扱方府縣ヘ委任事項

（明治十八年五月二十日内務省達甲第十六號）
（改正　明治二七年内務省訓令第一三號）

一　官國幣社社入金遣拂并豫備蓄積金處分ノ事
一　同經費ヲ以テ常用器品新調修繕ノ事
一　同不用ノ建物古材賣却ノ事
一　同社營建物改造修繕ノ事

一同寄附物品ノ事
一同【神官】派出出京養病歸省ノ事
一社寺廢合跡建物處分ノ事
一同什物祠堂金及持添田畑山林處分ノ事
　但寶物古文書ハ此限ニアラス
一同境内官有地ノ樹木伐採處分ノ事
一同境内民有地ヘ記念碑建設處分ノ事
一同寄附ノ金錢器物處分ノ事

右件々委任候條府縣限リ致處分其都度可屆出此旨相達候事

### ●府縣事務中稟請ヲ要セス處分後報告スヘキ條件

明治十九年三月十二日
內務省令第一號
改正　明治二四年第八號、三〇年第一二號、第三三號

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

自今左ニ揭ル條件ハ稟請ヲ要セス處分シテ後報告スヘシ但報告期限ハ別ニ之ヲ定ム

一恤救規則心得第八條一家數人救助ノ事
一社寺由緒アル地所建物處分ノ事
一社寺創立再興等建設延期ノ事
一劇藥配伍ノ賣藥許否ノ事
一府縣官舍ノ内官宅警察署郡區役所等建築ノ事

### ●東京府小笠原島水產事務ニ關スル臨時職員設置

明治三十九年五月十八日
勅令第百六號
改正　大正九年第三九〇號、一四年第二二三號、一五年第一四八號

朕東京府小笠原島水產事務ニ關スル臨時職員設置ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

水產事務ノ爲東京府ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 地方技師 | 專任 | 一人 |
| 技手 | 專任 | 三人 |

### ●震災地警備ノ事務ニ從事セシムル爲臨時職員設置

大正十二年九月十二日
勅令第四百十三號
改正　大正一二年第四四四號、一三年第三九八號、一四年第六七號

朕震災地警備ノ事務ニ從事セシムル爲臨時職員設置ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

震災地ノ警備ニ關スル事務ニ從事セシムル爲警視廳、神奈川縣、埼玉縣及千葉縣ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 警視廳 | | |
| 警視 | 專任九人 | 奏任 |
| 警部 | 專任三十五人 | 判任 |
| 神奈川縣 | | |
| 地方警視 | 專任二人 | 奏任 |
| 警部 | 專任十一人 | 判任 |
| 埼玉縣 | | |
| 警部 | 專任一人 | 判任 |
| 千葉縣 | | |
| 警部 | 專任一人 | 判任 |

警視廳ニ監察官一人ヲ置キ前項ノ警視ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●京都府臨時職員設置ニ關スル件

昭和二年五月二日
勅令第百一號

朕京都府臨時職員設置ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

京都府下震災地復興ニ關スル事務ニ從事セシムル爲京都府ニ臨時左ノ職員ヲ置ク

| | |
|---|---|
| 書記官 | 專任一人 |
| 地方事務官 | 專任一人 |
| 地方技師 | 專任二人 |
| 屬 | 專任五人 |
| 技手 | 專任七人 |

震災地ニ府廳出張所ヲ置キ復興ニ關スル事務ヲ分掌セシム

出張所ニ所長ヲ置キ書記官ヲ以テ之ニ充ツ京都府知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所務ヲ掌理ス

京都府知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ出張所長ニ委任スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●廳府縣巡査定員令

大正十五年六月三日
勅令第百四十一號

朕大正五年勅令第三十號廳府縣巡査定員ノ件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

廳府縣巡査定員令

第一條　廳府縣巡査ノ定員ハ警部補ヲ通シ左ノ定限内ニ於テ土地ノ狀況ヲ斟酌シ内務大臣之ヲ定ム

| | |
|---|---|
| 市ニ於テハ人口三百乃至八百ニ付 | 一人 |
| 市以外ノ地域ニ於テハ人口六百乃至二千ニ付 | 一人 |

第二條　東京府ノ市以外ノ地域ニ付テハ當分ノ内前條市ニ於ケル定員ノ例ニ依ル

沖繩縣ノ市ニ付テハ當分ノ内前條市以外ノ地域ニ於ケル定員ノ例ニ依ルコトヲ得

第三條　教習中ノ巡査及請願ニ依リ配置スル巡査ハ之ヲ定員外トス

第四條　本令ハ當分ノ内東京府小笠原島及伊豆七島ニ配置スル巡査ニ付テハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年勅令第四百四十五號ハ之ヲ廢止ス

### ●特設消防署規程

大正八年七月十七日
勅令第三百五十號
改正　大正一二年第一八一號、一三年第二一六號、第三九七號、一五年第一四九號

朕特設消防署規程ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

特設消防署規程

第一條　水火消防ニ關スル事務ニ從事セシムル爲大阪府、京都府、神奈川縣、兵庫縣及愛知縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 地方警視 | 專任一人 | 奏任 |
| 消防士 | 專任三十六人 | 判任 |
| 消防機關士 | 專任十四人 | 判任 |

地方警視ハ大阪府ニ限リ之ヲ置ク

消防士及消防機關士ノ各府縣ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

第二條　大阪市、京都市、横濱市、神戸市及名古屋市竝第二項ノ規定ニ依ル編入區域內ニ於ケル水火災ノ警戒防禦ヲ掌ラシムル爲大阪府、京都府、神奈川縣、兵庫縣及愛知縣管內ニ消防署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ知事之ヲ定ム

知事ハ土地ノ狀況ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ受ケ第一項ノ市ノ接近町村ノ全部又ハ一部ヲ消防署ノ管轄區域ニ編入スルコトヲ得

第三條　知事必要ト認ムルトキハ消防署ヲシテ其ノ管轄區域外又ハ其ノ府縣外ノ水火災ノ警戒防禦ニ應援セシムルコトヲ得

第四條　警察部長ハ知事ノ命ヲ承ケ第一條ノ職員、消防手及消防員ヲ指揮監督ス

第五條　第一條ノ地方警視ハ警察部ニ屬シ第二條第一項ノ規定ニ依ル區域ニ拘ラス上官ノ命ヲ承ケ消防事務ヲ掌リ其ノ執行ニ關シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防士、消防機關士、消防手及消防員（消防署管轄區域外ニ在リテハ警部、警部補及巡査）ヲ指揮監督ス

大阪府ヲ除クノ外第一條ニ揭クル府縣ニ在リテハ知事ハ警察部勤務ノ地方警視ヲシテ消防署管轄區域ニ付前項ノ規定ニ依ル職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六條　消防士及消防機關士ハ警察部又ハ消防署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

消防士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部下ノ消防手及消防員ヲ指揮監督ス

第七條　消防署長ハ消防士ヲ以テ之ニ充ツ但シ消防機關士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

消防署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ主管事務ヲ掌リ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第八條　第一條ニ揭クル府縣ニ消防手ヲ置ク判任官ノ待遇トス

消防手ハ警察部又ハ消防署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

消防手ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第九條　第一條ニ揭クル府縣ニ消防員ヲ置クコトヲ得

消防員ハ消防署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

消防員ニ關スル規定ハ知事之ヲ定ム

第十條　本令ニ依ル消防ニ關スル經費ハ其ノ國庫ニ屬スルモノヲ除クノ外府縣警察費ノ支辨トス

附　則

本令ハ大正八年七月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ神奈川縣ニ在リテハ同年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市消防規程ハ之ヲ廢止ス

大阪市消防規程ニ依ル警視、消防士及消防機關士ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ同官等俸給ヲ以テ各當該官ニ任セラレタルモノトス

### ●臨時海港檢疫所官制

明治三十三年三月二十八日
勅令第七十五號
改正　大正八年第四二四號、一〇年第一五六號、一二年第三一七號、一四年第一一四號

朕臨時海港檢疫所官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

臨時海港檢疫所官制

第一條　臨時海港檢疫所ハ臨時海港檢疫ニ關スル事務ヲ掌ル

第一條ノ二　內務大臣ハ臨時海港檢疫所ノ出張所ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二條　臨時海港檢疫所ハ主務大臣ノ命ヲ承ケ地方長官之ヲ管理ス

第三條　臨時海港檢疫所ノ開設及閉鎖ハ內務大臣之ヲ告示ス

第四條　臨時海港檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク

| | |
|---|---|
| 所長 | |
| 臨時海港檢疫官補 | |
| 臨時海港檢疫所書記 | |
| 臨時海港檢疫員 | 判任官待遇 |
| 臨時海港檢疫醫 | 奏任官待遇又ハ判任官待遇 |

前項ノ規定ニ依ル奏任官待遇ノ臨時海港檢疫醫ノ數ハ通シテ五人以內トス

第五條　所長ハ臨時海港檢疫所所在道廳府縣ノ警察部長ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

第六條　臨時海港檢疫官補及臨時海港檢疫所書記ハ道廳府縣判任官ヲ以テ之ニ充テ地方長官之ヲ命ス

第七條　臨時海港檢疫官補ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ニ從事ス

第八條　臨時海港檢疫所書記ハ所長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　臨時海港檢疫員ハ上官ノ命ヲ承ケ臨時海港檢疫ニ關スル事務ニ從事ス

第十條　臨時海港檢疫醫ハ上官ノ命ヲ承ケ臨時海港檢疫ニ關スル技術ニ從事ス

附　則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●道路管理職員制

大正九年八月十一日
勅令第二百四十五號
改正　大正一二年第三一八號、一三年第二八七號

朕道路管理職員制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

道路管理職員制

第一條　道路管理ノ爲道廳又ハ府縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

| | | |
|---|---|---|
| 事務職員 | | |
| 道路主事 | 專任六十人以內 | 奏任官待遇 |
| 道路書記 | 專任千人以內 | 判任官待遇 |
| 技術職員 | | |
| 道路技師 | 專任百六十人以內 | 奏任官待遇 |
| 道路技手 | 專任三千四百人以內 | 判任官待遇 |

前項職員ノ道廳及各府縣內ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受クル第一項ノ職員ニシテ他ノ官職ニ在ル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第二條　道路主事及道路書記ハ道路ニ關スル事務ニ從事ス

道路技師及道路技手ハ道路ニ關スル技術ニ從事ス

第三條　道路管理者タル市町村長ハ道路管理ノ爲左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員
　道路主事
　道路書記
技術職員
　道路技師
　道路技手

第二條ノ規定ハ前項ノ職員ニ之ヲ準用ス

道路管理者タル市町村長ハ市町村ノ吏員ヲシテ道路管理ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムルコトヲ得

第四條　道路法第十七條但書ノ規定ニ依リ指定スル市ノ市長ハ道路管理ノ爲市ニ道路局又ハ道路部ヲ設クルノ必要アリト認ムルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ職員ノ外道路局長又ハ道路部長ヲ置クコトヲ得

第五條　市町村ニ於テ道路ノ管理ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員ノ俸給及旅費ニ關スル規定ハ道路管理者之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●地方土木職員制

大正九年八月十一日
勅令第二百四十六號
改正　大正一二年第三一九號

朕地方土木職員制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

地方土木職員制

第一條　地方土木ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ各道廳又ハ府縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

| | | |
|---|---|---|
| 事務職員 | | |
| 土木書記 | 專任五百七十人以內 | 判任官待遇 |
| 技術職員 | | |
| 土木技師 | 專任百六十人以內 | 奏任官待遇 |
| 土木技手 | 專任二千四百人以內 | 判任官待遇 |

前項職員ノ道廳及各府縣內ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受クル第一項ノ職員ニシテ他ノ官職ニ在ル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第二條　土木書記ハ土木ニ關スル事務ニ從事ス

土木技師及土木技手ハ土木ニ關スル技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●地方產業職員制

大正十四年三月三十一日
勅令第四十三號
改正　大正一五年第二三一號
昭和二年第一三四號

朕地方產業職員制改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

地方產業職員制

地方產業ニ關スル事務又ハ技術ニ從事セシムル爲北海道地方費、府縣費又ハ市費ヲ以テ各道廳、府縣又ハ市ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

一　農、林、水產又ハ畜產ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル者

| | | |
|---|---|---|
| 事務職員 | | |
| 地方農林主事 | 專任百五人以內 | 奏任官待遇 |
| 農林主事補 | 專任千三百七十六人以內 | 判任官待遇 |
| 技術職員 | | |
| 地方農林技師 | 專任千七十七人以內 | 奏任官待遇 |
| 農林技手 | 專任七千六百七十三人以內 | 判任官待遇 |

二　商又ハ工ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル者

| | | |
|---|---|---|
| 事務職員 | | |
| 地方商工主事 | 專任六十人以內 | 奏任官待遇 |
| 商工主事補 | 專任三百六人以內 | 判任官待遇 |
| 技術職員 | | |
| 地方商工技師 | 專任二百五十四人以內 | 奏任官待遇 |
| 商工技手 | 專任七百八十九人以內 | 判任官待遇 |

三　產業統計ニ關スル事務ニ從事スル者

| | | |
|---|---|---|
| 地方統計主事 | 專任五十人以內 | 奏任官待遇 |

| | |
|---|---|
| 統計主事補 | 專任三百四人以內　判任官待遇 |

前項職員ノ道廳及各府縣內ノ定員ハ第一號ノ職員ニ在リテハ農林大臣、第二號ノ職員ニ在リテハ商工大臣、第三號ノ職員ニ在リテハ農林大臣及商工大臣、府縣內各市ノ定員ハ地方長官之ヲ定ム

地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受クル第一項ノ職員ニシテ他ノ官職ニ在ル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

附　則

本令ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ左ノ上欄ニ揭クル職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ各相當下欄ニ揭クル職ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各從前ノ待遇及俸給ヲ以テ之ニ任セラレタルモノトス

| | |
|---|---|
| （一）農、林、水產又ハ畜產ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル者 | |
| 產業主事 | 地方農林主事 |
| 產業技師 | 地方農林技師 |
| 產業主事補 | 農林主事補 |
| 產業技手 | 農林技手 |
| （二）商又ハ工ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル者 | |
| 產業主事 | 地方商工主事 |
| 產業技師 | 地方商工技師 |
| 產業主事補 | 商工主事補 |
| 產業技手 | 商工技手 |
| （三）產業統計ニ關スル事務ニ從事スル者 | |
| 產業主事 | 地方統計主事 |
| 產業主事補 | 統計主事補 |

本令施行前休職ヲ命セラレタル者ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（大正十五年勅令第二百三十一號）

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際郡ノ職員タル者別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ其ノ職ヲ免セラレタルモノトス但シ本令施行前休職ヲ命セラレタル郡ノ職員ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

## ●地方測候所職員制

大正九年十二月二十七日
勅令第五百七十號

朕地方測候所職員制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

地方測候所職員制

第一條　地方測候所ニ通シテ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

| | | |
|---|---|---|
| 所長 | | |
| 測候技師 | 專任八十一人以內 | 奏任官待遇 |
| 測候技手 | 專任四百三十八人以內 | 判任官待遇 |
| 測候書記 | 專任百四十六人以內 | 判任官待遇 |

第二條　所長ハ測候技師又ハ測候技手ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　測候技師及測候技手ハ測候ニ關スル技術ニ從事ス

測候書記ハ測候ニ關スル事務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年勅令第二百六十八號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ舊令ニ依ル技師、技手又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各從前ノ待遇及俸給ヲ以テ測候技師、測候技手又ハ測候書記ニ任セラレタルモノトス

## ●地方學校衞生職員制

大正十三年六月十日
勅令第百四十八號

朕地方學校衞生職員制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

地方學校衞生職員制

第一條　北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ道廳又ハ府縣ニ通シテ左ノ技術職員ヲ置クコトヲ得

| | | |
|---|---|---|
| 學校衞生技師 | 專任四十七人以內 | 奏任官待遇 |

前項職員ノ道廳及各府縣內ノ定員ハ文部大臣之ヲ定ム

地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受クル第一項ノ職員ニシテ他ノ官職ニ在ル者ノ員數ハ主トシテ從事スル職員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第二條　學校衞生技師ハ學校衞生ニ關スル技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年六月二十五日
文部省訓令第十一號

北海道廳
府　　縣

地方學校衞生職員制第一條ノ規定ニ依ル學校衞生技師定員左ノ通定ム

道廳府縣各一人

## ●地方社會教育職員制

大正十四年十二月十四日
勅令第三百二十四號

朕地方社會教育職員制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

地方社會教育職員制

地方ニ於ケル社會教育ニ關スル事務ニ從事セシムル爲北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ道廳又ハ府縣ニ通シテ左ノ事務職員ヲ置クコトヲ得

| | | |
|---|---|---|
| 社會教育主事 | 專任六十人以內 | 奏任官待遇 |
| 社會教育主事補 | 專任百十人以內 | 判任官待遇 |

前項職員ノ道廳及各府縣內ノ定員ハ文部大臣之ヲ定ム

地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受クル第一項ノ職員ニシテ他ノ官職ニ在ル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●地方社會事業職員制

大正十四年十二月十四日
勅令第三百二十三號

朕地方社會事業職員制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

地方社會事業職員制

地方ニ於ケル社會事業ニ關スル事務ニ從事セシムル爲北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ道廳又ハ府縣ニ通シテ左ノ事務職員ヲ置クコトヲ得

| | | |
|---|---|---|
| 社會事業主事 | 專任六十一人以內 | 奏任官待遇 |
| 社會事業主事補 | 專任二百五十三人以內 | 判任官待遇 |

前項職員ノ道廳及各府縣內ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受クル第一項ノ職員ニシテ他ノ官職ニ在ル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●廳府縣衞生職員制

大正十年十一月十二日
勅令第四百三十五號
改正　大正一一年第四〇一號、一二年第二七九號、一五年第一七三號

朕廳府縣衞生職員制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

廳府縣衞生職員制

第一條　廳府縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事務職員 | 衞生主事 | 專任十人以內 | 奏任官待遇 |
| | 衞生主事補 | 專任百二十二人以內 | 判任官待遇 |
| 技術職員 | 衞生技師 | 專任三百八十五人以內 | 奏任官待遇 |
| | 衞生技手 | 專任九百八十六人以內 | 判任官待遇 |

前項ニ揭クル職員ノ各廳府縣ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム

地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給ヲ受クル第一項ノ職員ニシテ他ノ官職ニ在ルモノノ員數ハ主トシテ從事スル事務又ハ技術ノ職員ノ定員ノ內トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

第二條　廳府縣衞生主事及衞生主事補ハ上官ノ命ヲ承ケ衞生ニ關スル事務ニ從事ス

廳府縣衞生技師及衞生技手ハ上官ノ命ヲ承ケ衞生ニ關スル技術ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年勅令第百五十一號及同年勅令第百五十三號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ奏任官待遇タル警察醫及屠畜檢査技師ハ衞生技師ニ、判任官待遇タル警察醫及屠畜檢査技手ハ衞生技手ニ辭令ヲ用キス同官等同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

## ●癩療養所職員制

大正十年四月二十六日
勅令第百五十二號
改正　大正一〇年第三三九號、一二年第一〇號、一三年第一四三號、一五年第四二號

朕明治四十三年勅令第三百四十六號癩療養所職員名稱待遇及任免ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

癩療養所職員制

第一條　本令ニ於テ療養所ト稱スルハ明治四十年法律第十一號第四條第一項ノ規定ニ依リ設置スルモノヲ謂フ

第二條　療養所ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 所長 | 五人 | 奏任官待遇 |
| 醫長 | 五人 | 奏任官待遇 |
| 醫員 | 專任十人以內 | 奏任官待遇 |
| | 專任十二人以內 | 判任官待遇 |
| 調劑員 | 專任八人以內 | 判任官待遇 |
| 看護婦長<br>看護長 | 專任八人以內 | 判任官待遇 |
| 主事 | 專任二人以內 | 奏任官待遇 |
| 書記 | 專任十九人以內 | 判任官待遇 |

所長ハ醫長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

主事ハ醫長ヲ以テ所長ニ充テタル療養所ニ限リ之ヲ置クコトヲ得

第三條　所長ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

醫長、醫員、調劑員及看護婦長又ハ看護長ハ上官ノ命ヲ承ケ療養所ニ關スル技術ニ從事ス

主事及書記ハ上官ノ命ヲ承ケ療養所ニ關スル事務ニ從事ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●家畜防疫職員制

大正十五年五月二十一日
勅令第百三十二號

朕家畜防疫職員制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農林大臣副署）

家畜防疫職員制

第一條　農林大臣ハ家畜傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ臨時廳府縣ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

| | | |
|---|---|---|
| 防疫獸醫 | 專任四十人以內 | 判任官待遇 |

第二條　防疫獸醫ハ上官ノ命ヲ承ケ家畜傳染病豫防ニ關スル技術ニ從事ス

第三條　防疫獸醫ヲ置クヘキ廳府縣及其ノ定員ハ農林大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●地方待遇職員令

大正九年八月十一日
勅令第二百四十八號
改正　大正九年第三三二號、第五七一號、一〇年第一五四號、第三四〇號、第四三六號、一三年第一四九號、第三九九號、一四年第三二五號、一五年第一三三號

朕地方待遇職員令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務、內務大臣副署）

地方待遇職員令

第一條　左ニ揭クル職員中高等官待遇又ハ判任官待遇ノ事務職員及技術職員ノ任免、待遇、俸給及休職ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

一　道路管理職員制ニ依ル職員
二　地方土木職員制ニ依ル職員
三　地方產業職員制ニ依ル職員
四　地方測候所職員制ニ依ル職員
五　地方學校衞生職員制ニ依ル職員
六　地方社會教育職員制ニ依ル職員
七　地方社會事業職員制ニ依ル職員

第二條　高等官待遇事務職員ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　文官任用令第五條第一項ノ規定ニ依リ高等文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者
二　大學令ニ依ル大學ノ學部ニシテ各其ノ從事スル事務ニ關スル學科ヲ主タル學科トスルモノニ於テ其ノ學科ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者
三　專門學校ニシテ各其ノ從事スル事務ニ關スル學科ヲ主タル學科トスルモノニ於テ其ノ學科ヲ修メ卒業シ且二年以上判任官待遇以上ノ職ニ在リテ各其ノ從事スル事務ト同種ノ事務ニ從事シタル者
四　五年以上判任官待遇以上ノ職ニ在リテ各其ノ從事スル事務ト同種ノ事務ニ從事シ月額八十五圓以上ノ俸給ヲ受ケタル者
五　各其ノ從事スル事務ニ關スル學識經驗アル者ニシテ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經タルモノ

第三條　高等官待遇技術職員ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　大學令ニ依ル大學ノ學部ニシテ各其ノ從事スル技術ニ關スル學科ヲ主タル學科トスルモノニ於テ其ノ學科ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者
二　實業專門學校、帝國大學專門部、大學令ニ依ル大學ノ學部ノ實科又ハ水產講習所ニシテ各其ノ從事スル技術ニ關スル學科ヲ主タル學科トスルモノニ於テ其ノ學科ヲ修メ卒業シ且二年以上判任官待遇以上ノ職ニ在リテ各其ノ從事スル技術ト同種ノ技術ニ從事シタル者
三　修業年限二年ノ高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校又ハ實業專門學校ノ別科ニシテ各其ノ從事スル技術ニ關スル學科ヲ主タル學科トスルモノニ於テ其ノ學科ヲ修メ卒業シ且五年以上判任官待遇以上ノ職ニ在リ各其ノ從事スル技術ト同種ノ技術ニ從事シタル者
四　各其ノ從事スル技術ニ關スル學識經驗アル者ニシテ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經タルモノ

第四條　判任官待遇事務職員ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　文官任用令第六條ノ規定ニ依リ判任文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者
二　第二條第二號又ハ第五號ニ該當スル者
三　專門學校ニシテ各其ノ從事スル事務ニ關スル學科ヲ主タル學科トスルモノニ於テ其ノ學科ヲ修メ卒業シタル者
四　三年以上各其ノ從事スル事務ト同種ノ公務ニ從事シタル者
五　各其ノ從事スル事務ニ關スル學識經驗アル者ニシテ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經タルモノ

第五條　判任官待遇技術職員ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　第三條第一號又ハ第四號ニ該當スル者
二　實業專門學校、帝國大學專門部、大學令ニ依ル大學ノ學部ノ實科又ハ水產講習所ニシテ各其ノ從事スル技術ニ關スル學科ヲ主タル學科トスルモノニ於テ其ノ學科ヲ修メ卒業シタル者
三　修業年限二年ノ高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校又ハ實業專門學校ノ別科ニシテ各其ノ從事スル技術ニ關スル學科ヲ主タル學科トスルモノニ於テ其ノ學科ヲ修メ卒業シタル者
四　各其ノ從事スル技術ニ關スル學識經驗アル者ニシテ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經タルモノ

第六條　前四條ノ規定ノ適用ニ付テハ帝國大學分科大學ハ之ヲ第二條第二號及第三條第一號ノ學部、帝國大學分科大學ノ實科ハ之ヲ第三條第二號及第五條第二號ノ實科、中學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限三年ノ蠶業講習所ハ之ヲ第三條第二號及第五條第二號ノ實業專門學校ト看做ス

第七條　高等官待遇職員ノ任免ノ奏薦宣行ハ高等官ノ例ニ依リ判任官待遇職員ノ任免ハ判任官ノ例ニ依ル

第八條　高等官待遇職員ノ待遇相當官等ハ事務職員ニ在リテハ高等官四等乃至八等トシ

技術職員ニ在リテハ高等官三等乃至八等トス

判任官待遇職員ノ待遇相當等級ハ判任官一等乃至四等トス

第九條　待遇職員ノ俸給ハ別表ニ依ル但シ他ノ官職ニ在ルトキハ俸給ヲ給セス又ハ別表ニ揭クル最低金額ヨリ低キ俸給ヲ給スルコトヲ得

第十條　高等官官等俸給令第四條及第五條第一項ノ規定ハ高等官待遇ノ事務職員ニ、同令第五條第一項ノ規定ハ高等官待遇ノ技術職員ニ之ヲ準用ス

他ノ官職ニ在リテ高等官五等待遇以上ノ待遇ヲ受ケタル者ヲ高等官待遇事務職員ニ任用スル場合ニ於テハ第八條第一項ニ規定スル待遇ノ範圍內ニ於テ他ノ官職ニ付受ケタル最高キ官等相當ノ待遇ヲ與フルコトヲ得

他ノ官職ニ在リタル者ニシテ高等官待遇職員タルモノニ付テハ他ノ官職ニ付受ケタル待遇ハ之ヲ本令ニ依リ受ケタル待遇ト看做スコトヲ得

第十一條　待遇職員ニハ休職ヲ命スルコトヲ得

休職ノ期間ハ一年トシ其ノ期間滿了シタルトキハ退職シタルモノトス

休職者ニハ俸給ノ三分ノ一ヲ給ス

休職ヲ命セラレタル職員ニハ復職ヲ命スルコトヲ得

休職及復職ノ手續ニ付テハ高等官待遇職員ニ在リテハ高等官ノ例ニ依リ判任官待遇職員ニ在リテハ判任官ノ例ニ依ル

第十二條　本令ハ左ニ揭クル職員ニシテ高等官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモノニ付之ヲ準用ス

一　防疫職員官制ニ依ル職員

二　稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員

三　臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員

四　廳府縣衛生職員制ニ依ル職員

五　癩療養所職員制ニ依ル職員

六　家畜防疫職員制ニ依ル職員

前項ノ規定ニ依ルノ外防疫醫、檢疫醫、臨時海港檢疫醫又ハ癩療養所ノ醫長若ハ醫員ハ醫師免許證ヲ有スル者ヨリ、癩療養所ノ調劑員ハ藥劑師免狀ヲ有スル者ヨリ、檢疫獸醫又ハ防疫獸醫ハ獸醫免狀ヲ有スル者ヨリ、廳府縣衛生技師又ハ衛生技手ハ其ノ職務ニ依リ各醫師免許證、藥劑師免狀又ハ獸醫免狀ヲ有スル者ヨリ、癩療養所ノ看護婦長又ハ看護長ハ看護婦免狀又ハ看護人免狀ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

| 級俸＼待遇別 | 奏任官待遇職員年俸 | 判任官待遇職員月俸 |
|---|---|---|
| 特別俸 | 五、二〇〇圓以下 | 二〇〇圓以下 |
| 一級俸 | 四、五〇〇 | 一六〇 |
| 二級俸 | 四、一〇〇 | 一三五 |
| 三級俸 | 三、八〇〇 | 一一五 |
| 四級俸 | 三、四〇〇 | 一〇〇 |
| 五級俸 | 三、一〇〇 | 八五 |
| 六級俸 | 二、七〇〇 | 七五 |
| 七級俸 | 二、四〇〇 | 六五 |
| 八級俸 | 二、〇〇〇 | 五五 |
| 九級俸 | 一、八〇〇 | 五〇 |
| 十級俸 | 一、六〇〇 | 四五 |
| 十一級俸 | 一、四〇〇 | 四〇 |
| 十二級俸 | 一、二〇〇 |  |

## ●道府縣立感化院職員令

大正九年六月三日
勅令第百八十一號
改正　大正九年第四七〇號

朕道府縣立感化院職員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

道府縣立感化院職員令

第一條　道府縣立感化院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

教諭

院醫

保姆

書記

院長ハ教諭ヲ以テ之ニ充ツ

院醫及保姆ハ院ノ狀況ニ依リ之ヲ置カサルコトヲ得

第二條　教諭及院醫ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トシ保姆及書記ハ判任官ノ待遇トス

第三條　院長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　院醫ハ在院者ノ診療及衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第五條　教諭及保姆ハ在院者ノ感化ヲ掌ル

第六條　書記ハ院長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

第七條　奏任官待遇ノ教諭ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　感化又ハ教育ニ關スル奏任官又ハ奏任官待遇ノ職ニ在リタル者

二　五年以上感化又ハ教育ニ關スル判任官又ハ判任官待遇ノ職ニ在リタル者ニシテ其ノ月俸五十圓以上ヲ受ケタルモノ

三　感化又ハ教育ニ關シ特別ノ學識經驗ヲ有スル者ニシテ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經タルモノ

第八條　判任官待遇ノ教諭及保姆ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一　感化又ハ教育ニ關スル判任官以上又ハ判任官待遇以上ノ職ニ在リタル者

二　師範學校、中學校、高等女學校若ハ實業學校教員又ハ小學校正教員ト爲ルノ資格ヲ有スル者

三　三年以上感化又ハ教育ニ關スル公務ニ從事シタル者

四　感化又ハ教育ニ關シ學識經驗ヲ有スル者ニシテ普通試驗委員ノ銓衡ヲ經タルモノ

第九條　奏任官待遇ノ職員ノ官等ハ別表第一號表ニ依ル

第十條　判任官待遇ノ職員ノ等級ハ別表第二號表ニ依ル

第十一條　奏任官待遇ノ職員ノ任免敍等ノ奏薦及宣行ハ奏任官ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任官待遇ノ職員ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ

第十二條　奏任官待遇ノ職員ノ官等ニ關シテハ高等官官等俸給令第五條第一項ノ規定ヲ準用ス

第十三條　奏任官又ハ判任官待遇ノ職員ノ席次ハ同官等又ハ同等級內ニ於テ文武官吏ノ次席トス

第十四條　奏任官待遇ノ職員ノ年俸ハ別表第三號表、判任官待遇ノ職員ノ月俸ハ別表第四號表ニ依ル

第十五條　前條ニ規定スルモノヲ除クノ外職員ノ俸給ニ關シテハ公立學校職員俸給令ヲ準用ス但シ同令中文部大臣トアルハ內務大臣トス

第十六條　職員ノ分限ニ關シテハ公立學校職員分限令ヲ準用ス但シ同令中文部大臣トアルハ內務大臣トス

附　則

本令ハ大正九年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年勅令第四百七十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ俸給ニ關スル規定ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ道府縣立感化院職員タル者ハ本令ノ規定ニ拘ラス仍從前ノ等級ヲ保有ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸及臨時手當ノ合計額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

前項ノ規定ニ依ル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

別表

第一號表

| 高等官四等待遇 | 高等官五等待遇 | 高等官六等待遇 | 高等官七等待遇 | 高等官八等待遇 |
|---|---|---|---|---|
| 教諭 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
|  | 院醫 | 同上 | 同上 | 同上 |

第二號表

| 判任官一等待遇 | 判任官二等待遇 | 判任官三等待遇 | 判任官四等待遇 |
|---|---|---|---|
| 月俸百圓以上 | 月俸七十圓以上百圓未滿 | 月俸五十圓以上七十圓未滿 | 月俸五十圓未滿 |

第三號表

|  | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 | 十二級 | 十三級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教諭院醫 | 三、八〇〇圓 | 三、四〇〇圓 | 三、一〇〇圓 | 二、八〇〇圓 | 二、六〇〇圓 | 二、四〇〇圓 | 二、二〇〇圓 | 二、〇〇〇圓 | 一、八〇〇圓 | 一、六〇〇圓 | 一、四〇〇圓 | 一、二〇〇圓 | 一、一〇〇圓 |

第四號表

|  | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 | 十二級 | 十三級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教諭院醫 | 一六〇圓 | 一四〇圓 | 一三〇圓 | 一二〇圓 | 一一〇圓 | 一〇〇圓 | 九〇圓 | 八〇圓 | 七〇圓 | 六〇圓 | 五〇圓 |  |  |
| 保姆書記 | 一二〇 | 一一〇 | 一〇〇 | 九〇 | 八〇 | 七〇 | 六〇 | 五五 | 五〇 | 四五 | 四〇 | 三五 | 三〇 |

## ●公立學校職員制

大正六年一月二十九日
勅令第五號
改正　大正八年第三七六號、九年第三二四號、第五六二號、一〇年第三一三號、一二年第三七七號、一三年第七四號

朕公立學校職員制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

公立學校職員制

第一條　公立大學ニ左ノ職員ヲ置ク

大學總長又ハ大學長

教授

助教授

幹事

學生監

助手

書記

大學總長ハ數個ノ學部ヲ有スル大學ニ、大學長ハ一個ノ學部ヲ有スル大學ニ置ク

第一項職員ノ外大學豫科ニ教授及助教授ヲ置ク

第一條ノ二　公立大學ノ附屬醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

醫院長

藥局長

藥劑手

看護長

第一條ノ三　公立ノ專門學校、實業專門學校及高等學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教授

助教授

書記

前項職員ノ外寄宿舍ノ設アル學校ニ舍監、高等學校ノ尋常科及豫科ニ教諭及助教諭ヲ置ク

第二條　師範學校、公立ノ中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教諭

助教諭

書記

前項職員ノ外高等科ヲ置キタル高等女學校ニ教授助教授、寄宿舍ノ設アル學校ニ舍監、師範學校盲學校及聾啞學校ニ訓導、附屬幼稚園ヲ置キタル師範學校竝初等部豫科ヲ置キタル盲學校及聾啞學校ニ保姆ヲ置ク

第二條ノ二　大學總長及大學長ハ勅任官ノ待遇トス

大學總長及大學長ハ文部大臣ノ監督ヲ承ケ大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

第三條　專門學校、實業專門學校及高等學校ノ學校長ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇トス

學校長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　師範學校長ハ奏任トス中學校、高等女學校及實業學校ノ學校長ハ奏任官ノ待遇トス但シ實科高等女學校、女子實業學校及實業補習學校ノ學校長ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トス

盲學校及聾啞學校ノ學校長ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トス

學校長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條ノ二　師範學校長ハ兼ネテ其ノ道府縣內ニ於ケル小學教育ニ關スル學事ヲ視察ス

第四條ノ二　大學ノ教授ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇トス學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

大學ノ助教授ハ奏任官ノ待遇トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

大學ノ幹事ハ奏任官ノ待遇トス大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

大學ノ學生監ハ奏任官ノ待遇トス大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ學生及生徒ノ監督ニ關スル事ヲ掌ル

第四條ノ三　數個ノ學部ヲ置ク大學ニ於テハ各學部ニ學部長一人ヲ置キ教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

學部長ハ大學總長ノ監督ノ下ニ於テ其ノ學部ノ事ヲ掌ル

第四條ノ四　大學附屬醫院ノ醫院長ハ教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ醫院ノ事務ヲ掌理ス

大學附屬醫院ノ藥局長ハ奏任官ノ待遇トス醫院長ノ命ヲ承ケ藥局ノ事務ヲ掌ル

第五條　專門學校、實業專門學校、高等學校、大學豫科及高等女學校高等科ノ教授ハ奏任官ノ待遇、助教授ハ判任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

大學豫科ニ主事ヲ置キ大學豫科教授ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

主事ハ大學總長又ハ大學長ノ命ヲ承ケ大學豫科ノ事務ヲ掌理シ職員ヲ監督ス

第六條　高等學校尋常科、高等學校豫科、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校竝盲學校及聾啞學校ノ中等部ノ教諭ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇、助教諭ハ判任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

地方長官ハ師範學校教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

師範學校ニ附屬幼稚園ヲ置キタル場合ニ於テハ附屬小學校主事ヲシテ兼ネテ園務ヲ掌ラシム

第七條　師範學校、中學校、高等女學校、實業學校並盲學校及聾啞學校ノ中等部ノ教諭ニシテ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル者ノ員數ハ當該學校ニ於ケル學級數八學級以下ノ師範學校、中學校及高等女學校又ハ六學級以下ノ實業學校並盲學校及聾啞學校ノ中等部ニ在リテハ三人以內トシ以上三學級ヲ增ス每ニ一人ヲ加フルコトヲ得

學校長ヨリ兼任スル教諭ハ前項定員ノ外トス

高等女學校高等科ノ學級數ハ之ヲ第一項ノ學級數ニ算入セス

第八條　專門學校、實業專門學校、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ舍監ハ教授、助教授、教諭、助教諭又ハ訓導ノ中ヨリ之ニ兼任ス但シ特別ノ事情アルトキハ專任ノ舍監ヲ置クコトヲ得

專任舍監ハ判任官ノ待遇トス

舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ノ事ヲ掌ル

第八條ノ二　大學ノ助手ハ判任官ノ待遇トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケテ學術ニ關スル職務ニ服ス

第八條ノ三　大學附屬醫院ノ藥劑手ハ判任官ノ待遇トス藥局長ノ指揮ヲ承ケ藥局ニ關スル職務ニ服ス

大學附屬醫院ノ看護長ハ判任官ノ待遇トス上司ノ指揮ヲ承ケ看護ニ關スル職務ニ服ス

第九條　師範學校ノ訓導ハ判任官ノ待遇トス附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌リ兼ネテ師範學校生徒ノ實地授業ヲ監督ス

盲學校及聾啞學校ノ訓導ハ判任官ノ待遇トス初等部兒童ノ教育ヲ掌ル

第十條　師範學校ノ保姆ハ判任官ノ待遇トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

盲學校及聾啞學校ノ保姆ハ判任官ノ待遇トス初等部豫科幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十一條　大學、專門學校、實業專門學校、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ書記ハ判任官ノ待遇トス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條　本令ニ於テ實業學校ト稱スルハ實業專門學校以外ノ實業學校ヲ謂フ

附　則

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十四年勅令第二百四十四號及師範學校官制ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ公立ノ專門學校及實業專門學校ノ教諭又ハ助教諭ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各當該學校ノ教授又ハ助教授ニ任セラレタルモノトス

本令施行ノ際公立ノ專門學校及實業專門學校ノ教諭又ハ助教諭ニシテ休職中ノ者ニ關シテハ其ノ休職期間中仍其ノ職ヲ存置シ從前ノ例ニ依ル

### ●公立圖書館職員令

（大正十年七月二十一日勅令第三百三十六號）

改正　大正一二年第二三〇號

朕公立圖書館職員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

公立圖書館職員令

第一條　公立圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク

館長

司書

書記

第二條　館長ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トス地方長官ノ監督ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

司書ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トス館長ノ指揮ヲ承ケ圖書ノ整理、保存及閲覽ニ關スル事務ヲ掌ル

書記ハ判任官ノ待遇トス館長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三條　奏任官待遇ノ館長及司書ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　文官任用令第五條第一項ノ規定ニ依リ高等文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者

二　學位ヲ有スル者又ハ大學令ニ依ル大學ノ學部若ハ帝國大學分科大學ヲ卒業シ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三　專門學校、高等學校高等科、大學令ニ依ル大學ノ豫科又ハ高等學校大學豫科ヲ卒業シ二年以上判任官待遇以上ノ職ニ在リテ教育又ハ圖書ニ關スル事務ニ從事シタル者

四　五年以上判任官待遇以上ノ職ニ在リテ教育又ハ圖書ニ關スル事務ニ從事シ月額八十圓以上ノ俸給ヲ受ケタル者

五　圖書ニ關シ特別ノ學識經驗アル者ニシテ高等試驗委員ノ詮衡ヲ經タルモノ

第四條　判任官待遇ノ館長、司書及書記ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一　文官任用令第六條ノ規定ニ依リ判任文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者

二　前條第二號乃至第五號ニ該當スル者

三　三年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ從事シタル者

四　圖書ニ關シ學識經驗アル者ニシテ普通試驗委員ノ詮衡ヲ經タルモノ

第五條　奏任官待遇職員ノ任免ノ奏薦宣行ハ奏任官ノ例ニ依リ判任官待遇職員ノ任免ハ判任官ノ例ニ依ル

第六條　奏任官待遇職員ノ待遇相當官等ハ館長ニ在リテハ高等官四等以下トシ司書ニ在リテハ高等官五等以下トス

判任官待遇職員ノ待遇相當等級ハ判任官一等乃至四等トス

第七條　文部大臣ノ指定スル圖書館ノ館長ニシテ高等官四等ノ待遇ヲ受ケ在職三年以上ニ至リ功績アル者ハ特ニ高等官三等ノ待遇ト爲シ年額七百圓以內ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條　高等官官等俸給令第四條及第五條第一項ノ規定ハ奏任官待遇ノ公立圖書館職員ニ之ヲ準用ス

他ノ官職ニ在リタル者ニシテ奏任官待遇職員タルモノニ付テハ他ノ官職ニ付受ケタル待遇ハ之ヲ本令ニ依リ受ケタル待遇ト看做ス

第九條　公立圖書館職員ノ俸給ハ別表ニ依ル

但シ他ノ官職ニ在ルトキハ俸給ヲ給セス又ハ別表ニ揭クル最低額以下ノ俸給ヲ給スルコトヲ得

第十條　公立學校職員俸給令第十條乃至第十五條及第十六條乃至第十八條ノ規定ハ公立圖書館職員ニ付之ヲ準用ス

第十一條　公立圖書館職員ノ分限ニ關シテハ公立學校職員ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第二百八十二號ハ之ヲ廢止ス

圖書館令中第六條乃至第六條ノ五及附則ヲ削リ第七條ヲ第六條トス

本令施行ノ際現ニ公立圖書館ノ館長、司書又ハ書記ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各從前ノ待遇及俸給ヲ以テ之ニ任セラレタルモノトス

（別表）

| 級俸＼待遇別 | 奏任官待遇職員年俸 | 判任官待遇職員月俸 |
|---|---|---|
| 一級俸 | 三、一〇〇圓 | 一四〇圓 |
| 二級俸 | 二、八〇〇 | 一二〇 |
| 三級俸 | 二、六〇〇 | 一一〇 |
| 四級俸 | 二、四〇〇 | 一〇〇 |
| 五級俸 | 二、二〇〇 | 九〇 |
| 六級俸 | 二、〇〇〇 | 八〇 |
| 七級俸 | 一、八〇〇 | 七〇 |
| 八級俸 | 一、六〇〇 | 六〇 |
| 九級俸 | 一、四〇〇 | 五五 |
| 十級俸 | 一、三〇〇 | 五〇 |
| 十一級俸 | 一、二〇〇 | 四五 |
| 十二級俸 | 一、一〇〇 | 四〇 |
| 十三級俸 | 一、〇〇〇 | 三五 |

### ●實業補習學校教員養成所令

（大正九年十月三十日勅令第五百二十一號）

朕實業補習學校教員養成所令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

實業補習學校教員養成所令

第一條　北海道府縣及市ニ於テ設置スル實業補習學校教員養成所ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　實業補習學校教員養成所ノ設置及廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　實業補習學校教員養成所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

教諭

助教諭

書記

前項ノ職員ノ外寄宿舍ノ設アル養成所ニハ舍監ヲ置ク

第四條　所長ハ奏任官ノ待遇トス地方長官ノ監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第五條　教諭ハ奏任官又ハ判任官ノ待遇トシ助教諭ハ判任官ノ待遇トス生徒ノ教育ヲ掌ル

教諭ニシテ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ル者ノ員數ニ關シテハ公立學校職員制中實業學校ニ關スル規定ヲ準用ス

舍監ハ教諭又ハ助教諭ヲ以テ之ニ充ツ所長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ノ事ヲ掌ル

第六條　書記ハ判任官ノ待遇トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　實業補習學校教員養成所職員ノ待遇官等等級ニ關シテハ公立學校職員待遇官等等級令中實業學校職員ニ關スル規定ヲ、俸給旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ公立學校職員俸給令中實業學校職員ニ關スル規定ヲ、分限ニ關シテハ公立學校職員分限令ヲ準用ス

第八條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外實業補習學校教員養成所ノ設置、廢止、入學資格、修業年限、學科及學科目並教諭及助教諭ノ資格等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●市町村立小學校教員恩給審査規程

（大正十年四月十六日勅令第百九號）

朕市町村立小學校教員恩給審査規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

市町村立小學校教員恩給審査規程

第一條　北海道廳府縣ニ市町村立小學校教員恩給審査委員ヲ置ク委員長一人委員四人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長ハ當該地方廳高等官、委員ハ其ノ廳官吏ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ス

第二條　市町村立小學校教員恩給審査委員ハ市町村立小學校、公立實業補習學校及公立幼稚園ノ職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル事項ヲ審査ス

第三條　委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ當該地方長官ニ具申ス

第四條　北海道廳府縣ニ恩給顧問醫三人以內ヲ置ク地方長官之ヲ命ス

審査上必要アル場合ニ於テハ臨時恩給顧問醫ヲ置クコトヲ得

第五條　恩給顧問醫ハ委員長ノ諮問ニ應シ退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス

第六條　恩給顧問醫及臨時恩給顧問醫ニハ手當ヲ給ス北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第七條　市町村立小學校教員恩給審査委員ノ事務ニ從事セシムル爲書記ヲ置ク北海道廳屬又ハ府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ市町村立小學校教員恩給審査委員ノ委員長、委員、書記及恩給顧問醫ノ職ニ在ル者ハ各本令ニ依リ命セラレタルモノトス

### ●北海道廳府縣恩給顧問醫醫術上事項審査ノ件

（明治三十三年六月二十一日勅令第二百六十九號）

朕北海道廳府縣恩給顧問醫ノ醫術上事項審査ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（文部大臣副署）

北海道廳府縣恩給顧問醫ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ公立學校職員ノ進退ニ關シ醫術上ノ事項ヲ審査ス

### 第二十七款　雜

### ●行政廳ヲシテ委囑ニ依リ（恩賜財團）濟生會ノ事務ヲ施行セシムルノ件

（大正三年二月二十日勅令第十八號）

朕行政廳ヲシテ委囑ニ依リ（恩賜財團）濟生會ノ事務ヲ施行セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、大藏大臣副署）

第一條　行政廳ハ（恩賜財團）濟生會ノ委囑ニ依リ其ノ救療事業ニ關シ必要ナル事務ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ委囑ヲ受ケタル行政廳ハ下級行政廳ヲシテ其ノ事務ヲ補助施行セシムルコトヲ得

第二條　內務大臣ハ必要ト認ムルトキハ（恩賜財團）濟生會ヲシテ前條事務施行ノ費用ニ充ツヘキ資金ヲ國庫又ハ地方團體ニ納付セシムルコトヲ得

第三條　行政官廳第一條ノ規定ニ依リ（恩賜財團）濟生會ニ屬スル仕拂事務ヲ取扱フ場合ニ於テハ現金ノ前渡ヲ受ケタル官吏現金取扱ノ例ニ準シ主任ノ官吏ヲシテ其ノ現金取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　（恩賜財團）濟生會第一條ノ委囑ヲ爲サムトスルトキハ豫メ內務大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

## 第二章　官等等級及俸給

### 第一款　通則

### ●高等官官等俸給令

（明治四十三年三月二十八日勅令第百三十四號）

改正　明治四三年第二〇八號、第二三七號、第二八七號、第二九一號、第二九八號、第三〇六號、第三七七號、第四二二號、第四四二號、四四年第一九號、第六〇號、第七五號、第一〇四號、第一〇六號、第一三七號、第一四六號、第一五二號、第二〇六號、第二一一號、第二二七號、第二五八號、第二六四號、第二七七號、四五年第二號、第四五號、第六七號、第八二號、第一〇三號、大正二年第五八號、第七八號、第二二四號、第三〇一號、第三一一號、三年第六四號、第七三號、第七七號、第九三號、第九七號、第一二七號、第一三四號、第二一七號、第二二三號、第二五三號、第二五六號、四年第八號、第二九號、第五九號、第六七號、第七五號、第九九號、第一〇五號、第一一三號、第

一三四號、第一四一號、第一四三號、第一五〇號、第一五三號、第二一七號、第二三二號、五年第一號、第七號、第一二號、第三一號、第五三號、第六五號、第八三號、第九五號、第一〇〇號、第一〇三號、第一三二號、第一四四號、第一四六號、第一五〇號、第一六八號、第一七四號、第二二九號、第二四三號、六年第六號、第二一號、第二六號、第四〇號、第五一號、第五四號、第五六號、第八五號、第九六號、第一〇〇號、第一〇九號、第一二一號、第一三一號、第一五〇號、第一七三號、第一七七號、第一八六號、七年第三號、第二六號、第五二號、第九四號、第一〇四號、第一〇五號、第一〇九號、第一二五號、第一三八號、第一四九號、第一五九號、第一六八號、第一七七號、第一八〇號、第一九二號、第二〇一號、第二二〇號、第二二五號、第二四一號、第二五二號、第二五八號、第二七一號、第二八八號、第二九二號、第三〇七號、第三二七號、第三四二號、第三五六號、第三七七號、第三八四號、八年第七三號、第九一號、第九六號、第一二八號、第一四七號、第一六四號、第一八一號、第二〇四號、第二〇六號、第二二一號、第二二四號、第二五一號、第二八六號、第二九六號、第三〇〇號、第三〇二號、第三一〇號、第三一六號、第三二一號、第三二四號、第三二七號、第三三五號、第三五一號、第三八四號、第三九九號、第四三八號、第四四七號、九年第一二號、第六一號、第七六號、第八六號、第九一號、第一二三號、第一二八號、第一五七號、第二二五號、第二四二號、第二五七號、第三一六號、第三五三號、第三六四號、第三七七號、第三九二號、第四〇四號、第四一八號、第四二四號、第四二八號、第四五一號、第四六二號、第四七九號、第四九六號、第五〇五號、第五一二號、第五五九號、第五六五號、第五七二號、一〇年第二四號、第二九號、第五四號、第七九號、第一一四號、第一四一號、第一六六號、第一六九號、第一八六號、第二〇三號、第二二六號、第二五二號、第二五八號、第二六六號、第二八七號、第三〇二號、第三一七號、第三四九號、第三五二號、第三六四號、第三八八號、第四一〇號、第四二〇號、第四七〇號、一一年第三號、第七三號、第九三號、第一一五號、第一四四號、第一五三號、第一五六號、第一五九號、第一六一號、第二二五號、第二三六號、第二三九號、第二七三號、第二八一號、第二八七號、第三一三號、第三七三號、第四一四號、第四一九號、第四三五號、第四五五號、第四六九號、第四八六號、第四九〇號、一二年第三六號、第七七號、第九六號、第一一〇號、第一一五號、第一二二號、第一四七號、第一五一號、第一九三號、第二〇五號、第二一二號、第二四〇號、第二四六號、第二六五號、第二八二號、第二九一號、第二九七號、第三〇三號、第三五二號、第三七三號、第三八三號、第三九一號、第四二六號、第四三五號、第四五五號、第四八四號、第四八六號、第四九二號、第四九六號、一三年第二七號、第三七號、第六一號、第六七號、第一〇六號、第一三六號、第一八七號、第二〇五號、第二一七號、第二三二號、第二七六號、第四〇〇號、第四五六號、一四年第二二號、第四四號、第九三號、第一四六號、第一七三號、第一八〇號、第一八六號、第二〇六號、第二一九號、第二八三號、一五年第七號、第五〇號、第一〇五號、第一二〇號、第一五〇號、第一六六號、第一八一號、第一九五號、第二二六號、第二七三號、第二八五號、第三一七號

昭和二年第二二號、第五五號、第七八號、第一二五號、第一三五號、第一四二號、第一八七號、第一九四號、第二〇五號、第二一七號

朕高等官官等俸給令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

### 高等官官等俸給令

第一條　親任式ヲ以テ敍任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ敍任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第二條　奏任官ノ任免及敍等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其ノ各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第三條　高等官ノ官等ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第一表ニ依ル

官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシムル官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル

第四條　初メテ高等文官ニ任セラルル者ノ官等ハ六等以下トス

高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セラルル場合ニ於テハ其ノ官等ハ前官ノ官等以下トス但シ前官官等在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得

第五條　高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノモノヲ除キ在職二年ヲ超ユルニ非サレハ陞敍スルコトヲ得ス

陸海軍武官ヲ其ノ部内ノ文官ニ任用シタル場合ニ於テハ武官在職ノ年數ハ之ヲ前項ノ在職年數ニ通算ス

第六條　親任式ヲ以テ敍任スル官、内閣書記官長、特命全權公使及辨理公使ニ任セラルル場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ、文官任用令【第一條第四項】ノ規定ニ依リ勅任文官ニ任用セラルル場合ニ於テハ第四條ノ規定ヲ適用セス

第七條　親任式ヲ以テ敍任スル文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

| | |
|---|---|
| 内閣總理大臣 | 年俸　一萬二千圓 |
| 各省大臣<br>朝鮮總督 | 年俸　八千圓 |
| 樞密院議長<br>特命全權大使<br>判事<br>檢事<br>臺灣總督<br>關東長官<br>會計檢査院長<br>行政裁判所長官 | 年俸　七千五百圓 |
| 樞密院副議長<br>朝鮮總督府政務總監 | 年俸　七千圓 |
| 樞密顧問官 | 年俸　六千五百圓 |

第八條　勅任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

| | |
|---|---|
| 帝國大學總長<br>製鐵所長官<br>京城帝國大學總長<br>北海道廳長官 | 年俸　一級　七千圓<br>二級　六千五百圓 |
| 内閣書記官長<br>法制局長官<br>各省政務次官<br>各省次官<br>復興局長官<br>内務技監<br>製鐵所技監<br>朝鮮總督府判事（高等法院長タルモノ）<br>臺灣總督府總務長官<br>警視總監 | 年俸　六千五百圓 |
| 資源局長官<br>社會局長官<br>海外駐剳財務官<br>專賣局長官<br>特許局長官<br>臺灣總督府法院判官（高等法院長タルモノ） | 年俸　一級　六千五百圓<br>二級　五千七百圓 |
| 特命全權公使<br>大使館參事官<br>大使館商務參事官<br>國際勞働機關帝國事務所長<br>判事（大審院部長、控訴院長タルモノ）<br>檢事（大審院檢事タルモノ四人、檢事長タルモノ）<br>會計檢査院部長<br>行政裁判所評定官（部長タル者）<br>朝鮮總督府各局長<br>朝鮮總督府遞信局長<br>朝鮮總督府鐵道局長<br>朝鮮總督府檢事（高等法院檢事長タルモノ）<br>臺灣總督府法院檢察官（高等法院檢察官長タルモノ） | 年俸　一級　六千五百圓<br>二級　五千七百圓<br>三級　五千二百圓 |
| 官立大學長<br>旅順工科大學長<br>樺太廳長官<br>南洋廳長官<br>府縣知事<br>朝鮮總督府道知事 | 年俸　一級　六千圓<br>二級　五千五百圓<br>三級　五千二百圓 |
| 賞勳局總裁<br>樞密院書記官長 | 年俸　五千七百圓 |
| 陸軍法務官（高等軍法會議法務官タル者）<br>海軍法務官（高等軍法會議法務官タル者）<br>製鐵所理事（總務部長タルモノ）<br>朝鮮總督府醫院長<br>朝鮮總督府專賣局長<br>朝鮮總督府判事（高等法院部長、覆審法院長タルモノ）<br>朝鮮總督府檢事（覆審法院檢事長タルモノ）<br>臺灣總督府交通局總長<br>關東廳法院判官<br>貴族院書記官長<br>衆議院書記官長 | 年俸　一級　五千七百圓<br>二級　五千二百圓 |
| 各廳技師 | 年俸　一級　六千圓<br>二級　五千五百圓<br>三級　五千二百圓<br>四級　四千八百圓 |
| 内閣恩給局長<br>内閣拓殖局長<br>内閣統計局長<br>内閣印刷局長<br>各省參與官<br>各省局長<br>外務省情報部長<br>辨理公使<br>總領事<br>復興局部長<br>社會局部長<br>造幣局長<br>貯金局長<br>簡易保險局長<br>朝鮮總督府山林部長<br>朝鮮總督府土地改良部長<br>臺灣總督府各局長<br>臺灣總督府專賣局長<br>臺灣總督府州知事 | 年俸　五千二百圓 |
| 法制局參事官<br>銀行檢査官<br>營繕管財局理事<br>稅關長<br>稅務監督局長<br>專賣局部長<br>專賣局理事<br>陸軍法務官<br>千住製絨所長<br>海軍法務官<br>營林局事務官<br>保險事務官<br>特許局事務官<br>鑛山監督局長<br>製鐵所理事<br>製鐵所醫官<br>遞信局長<br>燈臺局長<br>鐵道局長 | 年俸　一級　五千二百圓<br>二級　四千八百圓 |

朝鮮總督府事務官
朝鮮總督府鐵道局理事
朝鮮總督府醫院醫官
朝鮮總督府道參與官
朝鮮道立醫院醫官
臺灣總督府事務官
臺灣總督府交通局理事
臺灣總督府醫院醫長
臺灣總督府專門學校長
臺灣總督府高等學校長
關東廳各局長
關東廳事務官
關東法院檢察官
北海道廳部長（內務部長、土木部長タルモノ）
神宮皇學館長
陸軍教授
海軍教授
判事（大審院判事、控訴院部長、地方裁判所長タルモノ）
檢事（大審院檢事、控訴院檢事正タルモノ）
文部省直轄諸學校長
朝鮮總督府判事（高等法院判事、覆審法院部長、地方法院長タルモノ）
朝鮮總督府檢事（高等法院檢事、覆審法院檢事、地方法院檢事正タルモ）ノ
朝鮮總督府專門學校長
臺灣總督府法院判官（高等法院上告部判官、地方法院長タルモノ）
臺灣總督府法院檢察官（地方法院檢察官長タルモノ）
旅順工科大學教授
檢查官
行政裁判所評定官

年俸
一級　五千二百圓
二級　四千八百圓
三級　四千五百圓

第九條　勅任文官（勅任式ヲ以テ敍任スル文官ヲ除ク）ニシテ五年以上其ノ官ノ最高俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以內ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ勅任文官（勅任式ヲ以テ敍任スル文官ヲ除ク）ノ在職年數ニシテ現官ノ最高俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ最高俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ勅任文官ニ任スル際ハ第一項ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第九條ノ二　高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニシテ三年以上（各省參與官ニ在リテハ二年以上）高等官二等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ高等官一等ニ陞敍スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等官一等又ハ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ノ高等官二等以上ノ在職年數ハ之ヲ現官ノ高等官二等ノ在職年數ニ通算ス

前官高等官一等ノ勅任文官ニ在リタル者ヲ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官一等ニ敍スルコトヲ得

第十條　神宮皇學館教授、陸軍大學校及海軍大學校以外ノ陸軍及海軍諸學校教官タル陸軍教授若ハ海軍教授又ハ督學官ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

文部省直轄諸學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ六十人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得但シ各校二人ヲ超ユルコトヲ得ス

北海道帝國大學豫科、附屬土木專門部、附屬水產專門部教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各科ヲ通シテ三人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

東京商科大學豫科教授又ハ東京商科大學附屬商學專門部教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シテ二人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

官立醫科大學附屬藥學專門部教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ通シテ一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

京城帝國大學豫科教授又ハ朝鮮總督府專門學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ各一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

旅順工科大學豫科教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ功績アル者ハ一人ヲ限リ高等官二等ニ陞敍スルコトヲ得

第十一條　各廳ニ於テ勅任技師ヲ置クコトヲ要スルモノハ官制ニ於テ之ヲ定ム

第十二條　奏任文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第二表各號ノ一ニ依ル

第十三條　別表第二表第一號ニ依ル官ノ官等ハ高等官三等乃至七等、同第二號ニ依ルモノハ高等官四等乃至八等、同第三號ニ依ルモノハ高等官五等以下トス

第十四條　別表第二表第一號ニ依ル諸官左ノ如シ

內閣書記官
內閣總理大臣秘書官
內閣恩給局書記官
內閣拓殖局書記官
內閣統計局書記官
內閣統計局統計官
內閣印刷局書記官
法制局參事官
賞勳局書記官
資源局書記官
資源局統計官
樞密院書記官
樞密院議長秘書官
各省大臣秘書官
各省書記官
外務事務官
外務省翻譯官
外務省電信官
內務事務官
考證官
防疫官
復興局書記官
社會局書記官
社會局事務官
國際勞働機關帝國事務所事務官
神宮皇學館教授
警察講習所教授
大藏事務官
銀行檢查官
營繕管財局書記官
造幣局書記官
專賣局參事
釀造試驗所事務官
稅關事務官
植物檢查官

稅關港務官（港務部長タルモノ）
稅務監督官
陸軍司法事務官
陸軍法務官
千住製絨所事務官
海軍司法事務官
海軍法務官
司法省衞生官
判事
檢事
少年審判官
矯正院教官（矯正院長タルモノ）
文部事務官
圖書事務官
圖書監修官
學校衞生官
帝國大學書記官
帝國大學醫學部附屬醫院藥局長
官立大學附屬醫院藥局長
臨時教員養成所教授
農林事務官
農林省統計官
農林省小作官
營林局事務官
水產講習所教授
商工事務官
商工省統計官
保險事務官
輸出品監督官
特許局事務官
鑛山監督局書記官
製鐵所參事
製鐵所醫官
航空官
貯金局書記官
簡易保險局書記官
遞信局書記官
通信技師
高等海員審判所審判官
高等海員審判所理事官
地方海員審判所審判官
地方海員審判所理事官
鐵道局參事
朝鮮總督秘書官
朝鮮總督府事務官
朝鮮總督府中樞院書記官
朝鮮總督府修史官
朝鮮總督府視學官
朝鮮總督府遞信事務官
朝鮮總督府遞信技師
朝鮮總督府鐵道局參事
朝鮮總督府專賣局事務官
朝鮮總督府判事
朝鮮總督府檢事
朝鮮總督府醫院醫官
朝鮮總督府諸學校長（專門學校長ヲ除ク）
朝鮮總督府林野調查委員會事務官
朝鮮公立師範學校長
朝鮮公立中學校長
朝鮮公立高等女學校長
朝鮮公立高等普通學校長
朝鮮公立女子高等普通學校長
朝鮮公立實業學校長
朝鮮總督府道事務官
朝鮮總督府道慈惠醫院醫官
朝鮮道立醫院醫官
臺灣總督秘書官
臺灣總督府事務官
臺灣總督府視學官
臺灣總督府法院判官
臺灣總督府法院檢察官
臺灣總督府交通局參事
臺灣總督府專賣局參事
臺灣總督府稅關事務官
臺灣總督府專門學校教授
臺灣總督府高等學校教授
臺灣公立中學校長
臺灣公立高等女學校長
臺灣總督府師範學校長
臺灣公立實業學校長
臺灣總督府醫院醫長
臺灣總督府州事務官
臺灣總督府廳長
臺灣總督府地方技師
關東長官秘書官
關東廳事務官
關東廳法院判官
關東廳法院檢察官
關東廳醫院醫官
關東廳海務局技師
關東廳遞信事務官
關東廳遞信技師
關東廳中學校長
關東廳高等女學校長
旅順師範學堂長
關東州公立高等女學校長
關東州公立實業學校長
樺太廳各部長
樺太廳醫院醫長
樺太廳鐵道技師
樺太廳通信技師
樺太廳中學校長
樺太廳高等女學校長
樺太公立高等女學校長
南洋廳書記官
南洋廳判事
南洋廳檢事
南洋廳醫院醫長
南洋廳通信技師
檢查官
會計檢查院書記官
行政裁判所評定官
貴族院書記官
衆議院書記官
警視廳書記官
北海道廳部長
各府縣書記官
各廳技師
地方技師

第十五條　別表第二表第二號ニ依ル諸官左ノ如シ

外務理事官
外務省警視
土木事務官
復興局事務官
都市計畫地方委員會事務官
職業紹介事務局事務官
癈兵院事務官
健康保險署事務官
造神宮主事
國立感化院院醫
癈兵院院醫
主稅局事務官
營繕管財局事務官
專賣局副參事
稅關鑑查官
關稅官
稅務監督局事務官
司稅官
陸軍通譯官
陸軍事務官
陸地測量師
陸軍監獄長
海軍通譯官
海軍編修
海軍事務官
海軍監獄長
司法省事務官
裁判所通譯官
供託局事務官
典獄（小菅、市谷、豐多摩、巢鴨、大阪、名古屋、廣島、長崎、宮城、札幌ノ刑務所ノ長タル者ヲ除ク）
少年保護司
矯正院教官
矯正院醫官
維新史料編纂官
東京博物館學藝官
帝國大學事務官
帝國大學司書官
官立大學事務官
產業組合事務官
農林省山林事務官
營林局山林事務官
營林署山林事務官
度量衡事務官
製鐵所副參事
遞信省事務官
貯金局事務官
簡易保險局事務官

遞信局事務官
通信事務官
鐵道省事務官
鐵道局副參事
朝鮮總督府土木事務官
朝鮮總督府山林事務官
朝鮮總督府編修官
朝鮮總督府通譯官
朝鮮總督府中樞院通譯官
朝鮮總督府圖書館長
朝鮮總督府警察官講習所教授
朝鮮總督府遞信副事務官
朝鮮總督府鐵道局副參事
朝鮮總督府專賣局副事務官
朝鮮總督府營林署山林事務官
朝鮮總督府稅關關稅官
朝鮮總督府稅關鑑查官
朝鮮總督府典獄（京城、西大門、平壤、大邱ノ監獄ノ長タル者ヲ除ク）
朝鮮總督府醫院藥劑官
京城帝國大學事務官
京城帝國大學司書官
朝鮮總督府諸學校教諭
朝鮮總督府鐵道從事員養成所教諭
朝鮮總督府林野調查委員會副事務官
朝鮮公立師範學校教諭
朝鮮公立中學校教諭
朝鮮公立高等女學校教諭
朝鮮公立高等普通學校教諭
朝鮮公立女子高等普通學校教諭
朝鮮公立實業學校教諭
朝鮮總督府府尹（京城、大邱、釜山、平壤ノ府尹タルモノヲ除ク）
朝鮮總督府郡守
朝鮮總督府島司
朝鮮總督府道理事官
朝鮮總督府道警視
朝鮮總督府府理事官
臺灣總督府統計官
臺灣總督府編修官
臺灣總督府警視
臺灣總督府翻譯官
臺灣總督府中央研究所事務官
臺灣總督府交通局副參事
臺灣總督府專賣局副參事
臺灣總督府稅關鑑定官
臺灣總督府高等學校教諭
臺灣總督府師範學校教諭
臺灣公立中學校教諭
臺灣公立高等女學校教諭
臺灣公立實業學校教諭
臺灣總督府警察官及司獄官練習所教官
臺灣總督府圖書館長
臺灣總督府醫院醫官
臺灣總督府醫院藥局長
臺灣總督府結核療養所醫官
臺灣總督府州港務官
臺灣總督府州港務醫官
臺灣總督府典獄
臺灣總督府地方理事官（臺北市尹タルモノヲ除ク）
臺灣總督府地方警視
關東廳理事官
關東廳警視
關東廳翻譯官
關東廳典獄
關東廳遞信副事務官
關東廳中學校教諭
關東廳高等女學校教諭
旅順師範學堂教諭
關東州公立高等女學校教諭
關東州公立實業學校教諭
樺太廳事務官
樺太廳醫院醫官
樺太廳鐵道事務官
樺太廳通信事務官
樺太廳中學校教諭
樺太廳高等女學校教諭
樺太公立高等女學校教諭
樺太廳支廳長
樺太廳警視
南洋廳事務官
南洋廳警視
南洋廳醫院醫官
副檢查官
警視廳事務官
警視廳警視
北海道廳事務官
北海道廳警視
北海道廳小作官
地方事務官
地方警視
地方小作官

第十六條　別表第二表第三號ニ依ル諸官左ノ如シ

神宮皇學館教諭
國立感化院教諭
裁判所書記長
典獄補
帝國圖書館司書官
朝鮮總督府裁判所書記長
朝鮮總督府裁判所通譯官
朝鮮總督府典獄補
朝鮮總督府醫院教官
朝鮮總督府醫院事務官
朝鮮總督府濟生院主事
朝鮮總督府感化院教諭
朝鮮總督府道通譯官
朝鮮道立醫院教官
朝鮮道立醫院事務官
朝鮮道立醫院藥劑官
臺灣總督府法院書記長
臺灣總督府法院通譯
臺灣總督府典獄補
臺灣公立盲啞學校長
關東廳典獄補
貴族院速記士
衆議院速記士
貴族院守衛長
衆議院守衛長

第十七條　在外公館職員タル高等文官ノ年俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表第三表ニ依ル

大使館一等書記官、公使館一等書記官、大使館商務書記官、公使館商務書記官、奏任官タル總領事、領事又ハ貿易事務官ニシテ五年以上年俸四千五百圓ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以內ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ在職年數ニシテ年俸四千五百圓以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ年俸四千五百圓ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ第二項ニ掲クル官ニ任スル際ハ特ニ第二項ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

大使館理事官、公使館理事官又ハ副領事ニシテ三年以上高等官五等ニ在リ功績顯著ナル者ハ一等ヲ陞敍スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ高等官五等以上ノ在職年數ハ之ヲ前項ニ規定スル在職年數ニ通算ス

第二十條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第五項ノ規定ニ依リ一等ヲ陞敍セラレタル大使館理事官、公使館理事官又ハ副領事ニハ年俸三千八百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第十八條　前數條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外高等文官ノ年俸ハ別表第四表又ハ第五表ニ依ル但シ別段ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　別表第二表第一號乃至第三號又ハ別表第五表ニ依ル奏任文官ニシテ五年以上各其ノ官ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以內ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ在職年數ニシテ現官ノ一級俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ一級俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ奏任文官ニ任スル際ハ特ニ第一項ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第二十條　高等官四等又ハ高等官五等ヲ最高官等トスル奏任文官（外交官ヲ除ク）ニシテ三年以上各其ノ官ノ最高官等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ一等ヲ陞敍スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ高等官四等以上ノ在職年數ハ之ヲ高等官四等ヲ最高官等トスル現官ノ最高官等ノ在職年數ニ、高等官五等以上ノ在職年數ハ之ヲ高等官五等ヲ最高官等トスル現官ノ最高官等ノ在職年數ニ通算ス

第四條ノ規定ノ適用ヲ受ケサル文官他ノ文官ト爲ル場合ニ於テ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ明治三十六年勅令第二百八十五號第三條ノ規定ニ依リ敍シ得ル官等ニ依ル

第二十一條　第九條ノ二第二項、第十七條第六項及前條第二項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シテ官等ヲ陞敍スル場合ニ於テハ第五條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第二十一條ノ二　前官第二十條第一項ノ規定ニ依リ高等官三等ノ奏任文官ニ在リタル者ヲ高等官四等ヲ最高官等トスル奏任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官三等ニ、前官第十七條第五項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ高等官四等ノ奏任文官ニ在リタル者ヲ高等官五等ヲ最高官等トスル奏任文官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官四等ニ敍スルコトヲ得

第二十二條　陸海軍武官ノ俸給ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

現役武官ニシテ高等文官タル者其ノ武官トシテ受クヘキ俸給額カ文官トシテ受クヘキ俸給額ヨリ多キトキハ武官ノ俸給額ヲ其ノ所屬廳ニ於テ給スルコトヲ得

第二十二條ノ二　豫備判事又ハ豫備檢事ヲ命セラレタル判事、檢事、朝鮮總督府判事及朝鮮總督府檢事ノ俸給ハ十一級以下トス

第二十三條　高等文官死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍內ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順位內ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

終身官ニ付テハ其ノ在職中死亡シタル場合ニ限リ前三項ノ規定ヲ適用ス

第二十四條　年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第二十五條　俸給ハ新任增俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス但シ廢官又ハ廢廳ニ因ル退官者即日他官ニ任セラルルトキハ發令ノ當日ヨリ計算ス

休職又ハ待命ヲ命セラレ年俸全額ヲ給セサル場合ハ減俸ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十六條　俸給令ノ改正ニ因リ新ニ給スヘキ俸給ハ改正規定施行ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第二十七條　廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第二十八條　休職廢官退官ノ者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ受ケ事務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ間仍從前ノ年俸ヲ給ス

第二十九條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス

但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

### 附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス（左記勅令略記）

明治二十四年勅令第九十六號、明治二十四年勅令第九十八號、府縣立師範學校長官等及俸給令、明治二十七年勅令第十八號、明治二十九年勅令第百六十一號、技術官俸給令、明治三十二年勅令第九十四號、明治三十二年勅令第百二十八號、明治三十二年勅令第二百六十八號、在外公館職員官等令、陸軍所屬特別文官俸給令、警視廳高等官俸給令、明治三十三年勅令第二百五十九號、帝國圖書館高等官官等俸給令、臺灣總督府職員官等俸給令、港務部高等官俸給令、典獄俸給令、北海道廳高等官俸給令、地方高等官俸給令、統監府及理事廳高等官官等令、關東都督府職員官等給與令、明治四十年勅令第二十八號、樺太廳職員官等給與令、統監府所屬官署技師官等給與令、統監府林廠職員官等給與令、明治四十年勅令第百四號、統監府特許局職員官等俸給令、關東都督府中學校職員官等俸給令、旅順工科學堂高等官官等俸給令、統監府司法廳職員官等給與令、統監府裁判所書記長、統監府裁判所通譯官、統監府裁判所書記、統監府裁判所通譯生及統監府監獄職員官等給與令、統監府警視警部官等給與令

本令施行ノ際現ニ左表上欄ノ俸給額ヲ受クル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ官等ニ拘ラス各其ノ相當下欄ノ俸給額又ハ之ニ相當スル級俸ヲ給スルモノトス

| 現行俸給 | 改正俸給 |
|---|---|
| 五、〇〇〇圓 | 六、〇〇〇圓 |
| 四、五〇〇 | 五、五〇〇 |
| 四、〇〇〇 | 五、〇〇〇 |
| 三、六〇〇 | 四、五〇〇 |
| 三、五〇〇 | 四、二〇〇 |
| 三、三〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 三、〇〇〇 | 三、七〇〇 |
| 二、八〇〇 | 三、五〇〇 |
| 二、六〇〇 | 三、二〇〇 |
| 二、五〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 二、四〇〇 | |
| 二、二〇〇 | 二、七〇〇 |
| 二、〇〇〇 | 二、五〇〇 |
| 一、八〇〇 | 二、二〇〇 |
| 一、六〇〇 | 二、〇〇〇 |
| 一、五〇〇 | 一、八〇〇 |
| 一、四〇〇 | 一、七〇〇 |
| 一、三〇〇 | 一、六〇〇 |
| 一、二〇〇 | 一、五〇〇 |
| 一、一〇〇 | 一、三〇〇 |
| 一、〇〇〇 | 一、二〇〇 |
| 九〇〇 | 一、一〇〇 |
| 八〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 七〇〇 | 八五〇 |
| 六〇〇 | 七五〇 |
| 五〇〇 | 六〇〇 |
| 四五〇 | 五五〇 |
| 四〇〇 | 五〇〇 |
| 三〇〇 | 四〇〇 |

年功加俸、在勤加俸、在勤俸、職務俸ハ前項上欄ノ額ニ算入セス

現ニ各種ノ加俸ヲ受クル者本令ニ該當スル場合ニ於テ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ其ノ加俸ノ額ハ從前ノ額ニ依ル

舊俸給令ニ依リ一級俸又ハ各官ノ最高俸ヲ受ケタル年數ハ第十九條第一項、第二十三條第二項、第二十六條及第二十八條第二項ノ年數中ニ通算ス

但シ舊俸給令ニ依リ [illegible] 場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

舊俸給令ニ依リ各官ノ最高俸以下ノ俸給カ第三項ノ規定ニ依リ改正一級俸以上ノ額ニ對當スル場合ニ於テハ [illegible] 起算ス

[illegible]

トヲ得ス

本令ニ依リ從前ノ官等ニ變更ヲ加ヘタル場合ニ於テ現ニ本令ニ存セサル官等ニ在ル者ハ本令施行ノ際ノ在官者ニ限リ其ノ官等ヲ存スルモノトス

現ニ最低額以下ノ俸給ヲ受クル者、休職中ノ者及本俸全額ヲ給セラレサル待命中ノ者ノ俸給額ハ從前ノ額ニ依ル

本令公布前ニ公布セラレタル勅令ニ於テ高等官官等俸給令第七條又ハ第八條ヲ援用シタルモノハ本令第四條又ハ第五條ヲ援用シタルモノト看做ス

附　則（大正四年勅令第二十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ副檢査官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス

附　則（大正四年勅令第六十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ朝鮮總督府稅關事務官、朝鮮總督府稅關監視官、朝鮮總督府稅關鑑定官、朝鮮總督府醫院藥劑官又ハ朝鮮總督府醫院副醫官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ナキトキハ從前ノ俸給ヲ受クルモノトス

本令施行ノ際現ニ朝鮮總督府府尹又ハ朝鮮總督府府事務官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス

本令施行ノ際現ニ高等官三等ニ在リ又ハ二級俸以上ノ俸給ヲ受クル朝鮮總督府府尹ハ其ノ在官ノ間ニ限リ其ノ官等俸給ヲ保有ス但シ第二十八條第二項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

前項ノ規定ハ高等官三等ニ在リ又ハ二級俸以上ノ俸給ヲ受クル朝鮮總督府道事務官ニシテ本令施行ノ際朝鮮總督府府尹ニ轉任スル者ニ之ヲ準用ス

本令施行ノ際現ニ高等官四等ニ在リ又ハ二級俸以上ノ俸給ヲ受クル朝鮮總督府府事務官ハ其ノ在官ノ間ニ限リ其ノ官等俸給ヲ保有ス

前三項ノ規定ニ依リ受クル俸給ハ第二十三條ノ適用ニ付テハ之ヲ一級俸ト看做ス但シ本俸ト年功加俸トヲ合シテ朝鮮總督府府尹ニ在リテハ三千圓ヲ、朝鮮總督府府事務官ニ在リテハ二千三百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

附　則（大正四年勅令第九十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

現ニ鐵道院技師ノ職ニ在ル者ニシテ本令施行ノ際鐵道院理事ニ任セラレタル者ニハ現ニ受クル俸給額ヲ給スルコトヲ得理事ニシテ現ニ加俸ヲ受クル者ニ付亦同シ

附　則（大正五年勅令第十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

高等官官等俸給令第二十條ニ揭クル諸官ニシテ本令施行ノ際現ニ五級俸ヲ受クル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ仍現官等ヲ保有ス

附　則（大正五年勅令第二百二十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

海軍大學校敎官タル海軍敎授ニシテ現ニ勅任官タル者ニ付テハ其ノ官職ニ在ル間仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（大正六年勅令第四十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

帝國大學各分科大學敎授ニシテ本令施行ノ際現ニ年功加俸ヲ受クル者ハ本令ニ依ル加俸ヲ受クル者ト看做ス

附　則（大正七年勅令第百四十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

北海道廳支廳長、島司又ハ郡長ニシテ本令施行ノ際現ニ左表上欄ノ俸給額ヲ受クル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各相當下欄ノ俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス

| 現行俸給 | 改正俸給 |
|---|---|
| 一、七〇〇 | 一、八〇〇 |
| 一、五〇〇 | 一、六〇〇 |
| 一、二〇〇 | 一、四〇〇 |
| 一、一〇〇 | 一、二〇〇 |
| 一、〇〇〇 | 一、一〇〇 |
| 八五〇 | 一、〇〇〇 |
| 七五〇 | 九〇〇 |

附　則（大正七年勅令第百九十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ師範學校長タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ナキトキハ從前ノ俸給ヲ受クルモノトス

附　則（大正八年勅令第七十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

帝國大學分科大學敎授ノ高等官一等ノ在官年數ハ高等官官等俸給令第九條第二項ノ規定ノ適用ニ付帝國大學敎授ノ高等官一等ノ在官年數ニ之ヲ通算ス

京都帝國大學醫科大學附屬醫院藥局長ノ一級俸ノ在職年數ハ高等官官等俸給令第二十三條第一項ノ規定ノ適用ニ付京都帝國大學醫學部附屬醫院藥局長ノ一級俸ノ在職年數ニ之ヲ通算ス

附　則（大正八年勅令第四百四十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第四百三號ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年制令第七號ニ依リ任用セラレタル朝鮮總督府判事又ハ朝鮮總督府檢事ニハ當分ノ內最低額以下七百圓迄ノ俸給ヲ給スルコトヲ得

附　則（大正九年勅令第七十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ東京高等商業學校敎授ニシテ東京商科大學豫科又ハ東京商科大學附屬商學專門部ノ敎授ニ任セラレタル者ノ東京高等商業學校敎授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官官等俸給令第十條第六項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ東京商科大學豫科又ハ東京商科大學附屬商學專門部ノ敎授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

附　則（大正九年勅令第百五十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ內閣統計局長、軍需局長又ハ鐵道院理事ノ官ニ在ル者ノ內閣統計局長、軍需局長又ハ鐵道院理事トシテノ高等官二等ノ在職ハ高等官官等俸給令第九條ノ四第一項及第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同條第一項ニ揭クル各官ノ高等官二等ノ在職ト看做ス

附　則（大正九年勅令第二百五十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ俸給ニ關スル改正規定ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸額ニ付左ノ區分ニ依リ算出シタル金額ニ相當スル級俸又ハ俸給ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

一　本俸年額六千五百圓ヲ超ユルモノ
　其ノ年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額但シ年額七千五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス
二　本俸年額五千五百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ
　年額七千圓
三　本俸年額三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額ニ千五百圓ヲ加ヘタル額
四　本俸年額千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額ニ其ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額及二百圓ヲ加ヘタル額
五　本俸年額三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額ニ其ノ二分ノ一ニ相當スル金額及百二十圓ヲ加ヘタル額
六　本俸年額三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額ニ三百圓ヲ加ヘタル額
七　本俸年額三百圓以下ノモノ
　其ノ年額ノ二倍ニ相當スル金額

大正九年七月三十一日現在ニ於テ休職、非職、待命中ノ者ニ付テハ其ノ在職最終ノ本俸ニ付前項ノ規定ヲ準用ス

經理上ノ必要アル場合ニ於テハ大正十年度限リ改正級額以內ニ於テ第二項ノ規定ニ準シ適宜ノ俸給ヲ定メ之ヲ給スルコトヲ得

從前ノ規定ニ依リ一級俸又ハ最高俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ本令ニ依ル一級俸又ハ最高俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス但シ從前ノ規定ニ依ル一級俸又ハ最高俸ニ付第二項又ハ前項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依ル改正俸給ノ二級俸以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ從前ノ規定ニ依ル一級俸又ハ最高俸ヲ增額シタル俸給ヲ受クル在職年數ニ付亦前項ニ同シ

從前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ハ其ノ本俸トシテ本令ニ依ル一級俸又ハ最高俸ヲ受ケ其ノ年功加俸トシテ從前ノ本俸及年功加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ本令ニ依ル一級俸又ハ最高俸ノ金額ヲ控除シタルモノヲ受ク但シ從前ノ本俸及年功加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依ル一級俸又ハ最高俸以下ナルトキハ本俸トシテ其ノ金額ニ相當スル級俸又ハ俸給ヲ受ケ相當級俸又ハ相當俸給ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受ク

明治二十四年勅令第百六十五號ハ之ヲ廢止ス

第二項、第三項及前項ノ規定ニ依ル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

改正俸給ニシテ從前ノ俸給ヲ減額シタルモノニ付テハ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ニ限リ改正俸給ニ依ラス從前ノ俸給ヲ受ケシム

附　則（大正九年勅令第五百六十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

判事檢事官等俸給令、朝鮮總督府判事及朝鮮總督府檢事官等俸給與令及臺灣總督府法院職員官等俸給及定員令ハ之ヲ廢止ス但シ判事及檢事ノ進級ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依ル勅任六級俸以上ノ俸給ヲ受クル判事又ハ檢事ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸又ハ俸給ヲ受ケ其ノ年功加俸ヲ受クル者ハ本俸トシテ從前ノ本俸及年功加俸合計額ノ俸給ヲ受クルモノトス

本令施行ノ際現ニ朝鮮總督府判事、朝鮮總督府檢事、臺灣總督府法院判官又ハ臺灣總督府法院檢察官ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸又ハ俸給ヲ受クルモノトス

附　則（大正十年勅令第四百七十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

神宮皇學館職員官等俸給令ハ之ヲ廢止ス

神宮皇學館職員ニシテ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クルモノニ對シ支給スル俸給額ハ本令施行ノ際ニ限リ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

本令施行ノ際現ニ神宮皇學館助敎授又ハ書記タル者ハ文武判任官等級令ニ拘ラス其ノ官ニ在ル間從前ノ等級ヲ降ルコトナキモノトス

附　則（大正十二年勅令第九十六號）

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ千葉醫學專門學校、金澤醫學專門學校又ハ長崎醫學專門學校ノ敎授ニシテ官立醫科大學附屬藥學專門部敎授ニ任セラレタル者ノ千葉醫學專門學校、金澤醫學專門學校又ハ長崎醫學專門學校ノ敎授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官官等俸給令第十條第六項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ官立醫科大學附屬藥學專門部敎授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

附　則（大正十二年勅令第二百四十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ千葉醫學專門學校敎授ニシテ高等官二等ニ在ル者ヲ官立醫科大學藥學專門部敎授ニ任スル場合ニ於テハ之ヲ高等官二等ニ敍スルコトヲ得

附　則（大正十二年勅令第二百四十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ旅順工科大學附屬工學專門部敎授ニシテ旅順工科大學豫科敎授ニ任セラレタル者ノ旅順工科學堂及旅順工科大學附屬工學專門部ノ敎授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官官等俸給令第十條第八項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ旅順工科大學豫科敎授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

附　則（大正十二年勅令第二百四十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ北海道帝國大學附屬大學豫科敎授ニシテ北海道帝國大學豫科敎授ニ任セラレタル者ノ北海道帝國大學附屬大學豫科敎授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官官等俸給令第十條第四項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ北海道帝國大學豫科敎授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

本令施行ノ際現ニ北海道帝國大學附屬大學豫科敎授ニシテ高等官二等ニ在ル者ヲ北海道帝國大學豫科敎授ニ任スル場合ニ於テハ之ヲ高等官二等ニ敍スルコトヲ得

附　則（大正十二年勅令第三百九十一號）

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ官立大學ノ敎授又ハ助敎授ニシテ敎授ニ在リテハ左表第一表、助敎授ニ在リテハ左表第二表上欄ノ級俸ヲ受クルモノ別ニ辭令ヲ發セラレサルトキハ各其ノ相當下欄ノ級俸及職務俸ヲ受クルモノトス

官立大學ノ敎授又ハ助敎授ノ年功加俸ニ關シ第九條第二項第三項又ハ第十九條第二項第三項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ依リ官立大學ノ敎授又ハ助敎授トシテ改正俸給一級俸ノ額以上ノ俸給ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ通算セス但シ勅任一級俸ヲ受ケタル在職年數ハ此ノ限ニ在ラス

（第一表）

| 現行俸給 | 改正俸給 | |
|---|---|---|
| | 本俸 | 職務俸 |
| 勅任一級俸 | 一級俸 | 七〇〇圓 |
| 勅任二級俸 | 二級俸 | 七〇〇 |
| 勅任三級俸<br>奏任一級俸 | 三級俸 | 七〇〇 |
| 奏任二級俸 | 四級俸 | 七〇〇 |
| 奏任三級俸 | 五級俸 | 七〇〇 |
| 奏任四級俸 | 六級俸 | 七〇〇 |
| 奏任五級俸 | 七級俸 | 七〇〇 |
| 奏任六級俸 | 八級俸 | 七〇〇 |
| 奏任七級俸 | 九級俸 | 六〇〇 |
| 奏任八級俸 | 十級俸 | 四〇〇 |
| 奏任九級俸 | 十一級俸 | 四〇〇 |
| 奏任十級俸 | 十二級俸 | 四〇〇 |
| 奏任十一級俸 | 十二級俸 | 二〇〇 |

（第二表）

| 現行俸給 | 改正俸給 | |
|---|---|---|
| | 本俸 | 職務俸 |
| 一級俸 | 一級俸 | 一、四〇〇圓 |
| 二級俸 | 二級俸 | 一、三〇〇 |
| 三級俸 | 三級俸 | 一、二〇〇 |
| 四級俸 | 四級俸 | 一、〇〇〇 |
| 五級俸 | 五級俸 | 九〇〇 |
| 六級俸 | 六級俸 | 七〇〇 |
| 七級俸 | 七級俸 | 六〇〇 |
| 八級俸 | 八級俸 | 四〇〇 |
| 九級俸 | 九級俸 | 四〇〇 |
| 十級俸 | 十級俸 | 三〇〇 |
| 十一級俸 | 十一級俸 | 二〇〇 |
| 十二級俸 | 十二級俸 | 一〇〇 |

附　則（大正十三年勅令第四百號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際警視廳理事官ヨリ警視廳消防部長又ハ警視廳事務官ニ、北海道廳支廳長又ハ北海道廳理事官ヨリ北海道廳事務官ニ、各府縣ノ理事官ヨリ地方事務官ニ、各府縣ノ警視ヨリ地方警視ニ任セラルル者ハ本令ノ規定ニ拘ラス從前受ケタル俸給額ト同一ノ俸給ヲ受クルモノトス

附　則（大正十四年勅令第九十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ商船學校ノ敎授ニシテ東京高等商船學校敎授ニ任セラレタル者ノ商船學校敎授トシテノ高等官三等ノ在職ハ高等官官等俸給令第十條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ東京高等商船學校敎授トシテノ高等官三等ノ在職ト看做ス

本令施行ノ際現ニ商船學校敎授ニシテ高等官二等ニ在ル者ヲ東京高等商船學校敎授ニ任スル場合ニ於テハ之ヲ高等官二等ニ敍スルコトヲ得

（第一表）

## 文武高等官官等表

| 官職＼官等 | 勅任 |  |  | 奏任 |  |  |  |  |  |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|  | 親任 | 一等 | 二等 | 三等 | 四等 | 五等 | 六等 | 七等 | 八等 | 九等 |
| 內閣 | 內閣總理大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 內閣書記官長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 恩給局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 拓殖局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 統計局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 印刷局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 印刷局技師 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 法制局長官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 法制局參事官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 賞勳局總裁 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 資源局長官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
| 樞密院 | 樞密院議長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 樞密院副議長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 樞密顧問官 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 樞密院書記官長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
| 外務省 | 外務大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 外務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 情報部長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 特命全權大使 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 特命全權公使 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 大使館參事官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 大使館商務參事官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 辨理公使 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  | 大使館一等書記官 | 同上 |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  | 公使館一等書記官 | 同上 |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  | 大使館二等書記官 | 同上 |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  | 公使館二等書記官 | 同上 |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  | 大使館三等書記官 | 同上 |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  | 公使館三等書記官 | 同上 |  |  |  |
|  |  |  |  | 大使館商務書記官 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  |  | 公使館商務書記官 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  | 總領事 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  | 領事 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |  |
|  |  |  |  | 貿易事務官 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  | 大使館理事官 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  |  |  |  | 公使館理事官 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  |  |  |  | 副領事 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  |  |  |  | 大使館一等通譯官 | 同上 |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  | 公使館一等通譯官 | 同上 |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 大使館二等通譯官 |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  | 公使館二等通譯官 |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  | 外交官補 | 同上 |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  | 領事官補 | 同上 |  |  |
| 內務省 | 內務大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 內務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 內務技監 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 復興局長官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 復興局部長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 社會局長官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 社會局部長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 國際勞働機關帝國事務所長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各廳技師 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 造神宮副使 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  | 國立感化院教諭（國立感化院長タルモノ） | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  | 神宮皇學館長 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |
| 大藏省 | 大藏大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 大藏次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 海外駐劄財務官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 銀行檢査官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 營繕管財局理事 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 造幣局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各廳技師 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 專賣局長官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 專賣局部長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 專賣局理事 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 稅關長 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  | 稅關港務官（港務部長タルモノヲ除ク） | 同上 | 同上 | 同上 |  |
|  |  |  |  |  |  | 稅關醫官 | 同上 | 同上 | 同上 |  |
|  |  |  |  |  |  | 稅關獸醫官 | 同上 | 同上 | 同上 |  |
|  |  |  | 稅務監督局長 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |  |
| 陸軍省 | 陸軍大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 陸軍次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 法務局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 陸軍大將 | 陸軍中將 | 陸軍少將 | 陸軍大佐 | 陸軍中佐 | 陸軍少佐 | 陸軍大尉 | 陸軍中尉 | 陸軍少尉 |  |
|  |  | 陸軍中將相當官 | 陸軍少將相當官 | 陸軍大佐相當官 | 陸軍中佐相當官 | 陸軍少佐相當官 | 陸軍大尉相當官 | 陸軍中尉相當官 | 陸軍少尉相當官 |  |
|  |  | 陸軍法務官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 陸軍司法事務官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各廳技師 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 千住製絨所長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 陸軍教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
| 海軍省 | 海軍大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 海軍次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 法務局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 海軍大將 | 海軍各科中將 | 海軍各科少將 | 海軍各科大佐 | 海軍各科中佐 | 海軍各科少佐 | 海軍各科大尉 | 海軍各科中尉 | 海軍各科少尉 |  |
|  |  |  |  |  |  |  | 海軍各科特務大尉 | 海軍各科特務中尉 | 海軍各科特務少尉 |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 省 |  |  |  | 海軍豫備大佐<br>海軍豫備機關大佐 | 海軍豫備中佐<br>海軍豫備機關中佐 | 海軍豫備少佐<br>海軍豫備機關少佐 | 海軍豫備大尉<br>海軍豫備機關大尉 | 海軍豫備中尉<br>海軍豫備機關中尉 | 海軍豫備少尉<br>海軍豫備機關少尉 |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  | 海軍豫備特務少尉<br>海軍豫備機關特務少尉 |  |
|  |  | 海軍法務官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 海軍司法事務官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各廳技師 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 海軍教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
| 司法省 | 司法大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 司法次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 司法技師 |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 判事 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 檢事 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  | 典獄（小菅、市谷、豐多摩、[illegible]、大阪、名古屋、廣島、長崎、宮城、札幌ノ刑務所ノ長タル者） | 同上 | 同上 |  |  |  |  |
| 文 | 文部大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 文部次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 督學官 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  | 各廳技師 |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 部省 |  | 帝國大學總長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 帝國大學教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |  |
|  |  |  |  | 帝國大學助教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  | 帝國大學豫科教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  | 帝國大學附屬專門部教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  | 史料編纂官 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  | 官立大學長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 官立大學教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |  |
|  |  |  |  | 官立大學助教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  | 官立大學豫科教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  | 官立大學附屬專門部教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  | 文部省直轄諸學校長（東京盲學校長、東京聾啞學校長ヲ除ク） | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |
|  |  |  | 文部省直轄諸學校教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |
|  |  |  |  | 東京盲學校長 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |  |
|  |  |  |  | 東京聾啞學校長 | 同上 | 同上 | 同上 |  |  |  |
|  |  |  |  | 文部省直轄諸學校教諭 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
|  |  |  |  | 帝國圖書館長 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |
|  |  |  |  | 東京博物館長 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |
| 農林省 | 農林大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 農林次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各廳技師 |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|  |  |  | 營林局事務官 |  |  |  |  |  |  |  |
| 商工省 | 商工大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 商工次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 保險事務官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 特許局長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 特許局事務官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各廳技師 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 鑛山監督局長 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |  |
|  |  | 製鐵所長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 製鐵所理事（總務部長タルモノ） | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 製鐵所理事 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |  |
|  |  | 製鐵所技監 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 製鐵所醫官 |  |  |  |  |  |  |  |
| 遞信省 | 遞信大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 遞信次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各廳技師 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 貯金局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 簡易保險局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 遞信局長 |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|  |  |  | 燈臺局長 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |  |
| 鐵道省 | 鐵道大臣 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 政務次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 鐵道次官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 參與官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各局長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各廳技師 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 鐵道局長 |  |  |  |  |  |  |  |
| 會計檢査院 | 會計檢査院長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 會計檢査院部長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 檢査官 |  |  |  |  |  |  |  |
| 行政裁判所 | 行政裁判所長官 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 行政裁判所評定官 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
| 朝鮮 | 朝鮮總督 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  | 政務總監 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 各局長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 山林部長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 土地改良部長 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 事務官 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 各廳技師 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 遞信局長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 鐵道局長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  | 鐵道局理事 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 專賣局長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  | 稅關長 | 同上 | 同上 |  |  |  |  |
|  |  | 醫院長 | 同上 |  |  |  |  |  |  |  |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 總督府 | | | 醫院醫官 | | | | | | | |
| | | 道知事 | 同上 | | | | | | | |
| | | | 道參與官 | 同上 | 同上 | | | | | |
| | | | 朝鮮道立醫院醫官 | | | | | | | |
| | | | | | | 道港務醫官 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | | | | | 道獄醫官 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | | | 府尹（京城、大邱、釜山、平壤ノ府尹タルモノ） | 同上 | 同上 | | | | |
| | | 判事 | 同上 | | | | | | | |
| | | 檢事 | 同上 | | | | | | | |
| | | | | 典獄（京城、西大門、平壤、大邱ノ監獄ノ長タル者） | 同上 | 同上 | | | | |
| | | 京城帝國大學總長 | 同上 | | | | | | | |
| | | 京城帝國大學教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | | |
| | | | | 京城帝國大學助教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| | | | 京城帝國大學豫科教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| | | | 專門學校長 | 同上 | 同上 | 同上 | | | | |
| | | | 專門學校教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| 臺灣 | 臺灣總督 | | | | | | | | | |
| | | 總務長官 | 同上 | | | | | | | |
| | | | 各局長 | | | | | | | |
| | | | 事務官 | | | | | | | |
| | | | 各廳技師 | | | | | | | |
| | | 交通局總長 | 同上 | | | | | | | |
| | | | 交通局理事 | 同上 | 同上 | | | | | |
| | | | | | 測候所技師 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 總督府 | | | 專賣局長 | | | | | | | |
| | | | | 稅關長 | 同上 | | | | | |
| | | | 州知事 | | | | | | | |
| | | | | 地方理事官（臺北市尹タルモノ） | 同上 | 同上 | | | | |
| | | 法院判官 | 同上 | | | | | | | |
| | | 法院檢察官 | 同上 | | | | | | | |
| | | | 專門學校長 | 同上 | 同上 | | | | | |
| | | | 高等學校長 | 同上 | 同上 | | | | | |
| | | | 醫院醫長 | | | | | | | |
| 關東廳 | 關東長官 | | | | | | | | | |
| | | | 各局長 | | | | | | | |
| | | | | 財務部長 | 同上 | | | | | |
| | | | 事務官 | | | | | | | |
| | | | | 遞信局長 | 同上 | | | | | |
| | | | | | 觀測所技師 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | 旅順工科大學長 | 同上 | | | | | | | |
| | | 旅順工科大學教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | | |
| | | | | 旅順工科大學助教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| | | | 旅順工科大學豫科教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| | | | 法院判官 | | | | | | | |
| | | | 法院檢察官 | | | | | | | |
| 樺太廳 | | 長官 | 同上 | | | | | | | |
| | | | | | 觀測所技師 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 南洋廳 | | 長官 | 同上 | | | | | | | |
| 警視廳 | | 警視總監 | 同上 | | | | | | | |
| | | | | | | 消防司令 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| 北海道廳 | | 長官 | 同上 | | | | | | | |
| | | | 部長（內務部長、土木部長タルモノ） | | | | | | | |
| | | | 技師 | | | | | | | |
| | | | | | 師範學校長 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| 府縣 | | 知事 | 同上 | | | | | | | |
| | | | | | 師範學校長 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| 貴族院事務局 | | 貴族院書記官長 | 同上 | | | | | | | |
| 衆議院事務局 | | 衆議院書記官長 | 同上 | | | | | | | |

（第二表）

## 奏任文官年俸表

| 級 | 俸 | | |
|---|---|---|---|
| | 第一號 | 第二號 | 第三號 |
| 一級 | 四、五〇〇圓 | 三、八〇〇圓 | 三、一〇〇圓 |
| 二級 | 四、一〇〇 | 三、四〇〇 | 二、七〇〇 |
| 三級 | 三、八〇〇 | 三、一〇〇 | 二、四〇〇 |
| 四級 | 三、四〇〇 | 二、七〇〇 | 二、〇〇〇 |
| 五級 | 三、一〇〇 | 二、四〇〇 | 一、八〇〇 |
| 六級 | 二、七〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、六〇〇 |
| 七級 | 二、四〇〇 | 一、八〇〇 | 一、四〇〇 |
| 八級 | 二、〇〇〇 | 一、六〇〇 | 一、二〇〇 |
| 九級 | 一、八〇〇 | 一、四〇〇 | 一、一〇〇 |
| 十級 | 一、六〇〇 | 一、二〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 十一級 | 一、四〇〇 | 一、一〇〇 | 九〇〇 |
| 十二級 | 一、二〇〇 | | |

（第三表）

## 在外公館奏任職員年俸表

| 官名　官等 | 三等 | 四等 | 五等 | 六等 | 七等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大使館一等書記官<br>公使館一等書記官<br>總領事 | 四、五〇〇圓 | 一級　四、一〇〇<br>二級　三、八〇〇 | | | |
| 大使館二等書記官<br>公使館二等書記官 | | 一級　四、一〇〇<br>二級　三、八〇〇 | 一級　三、四〇〇<br>二級　三、一〇〇 | | |
| 大使館三等書記官<br>公使館三等書記官 | | | 一級　三、四〇〇<br>二級　三、一〇〇 | 一級　二、七〇〇<br>二級　二、四〇〇 | |
| 大使館商務書記官<br>公使館商務書記官 | 四、五〇〇 | 一級　四、一〇〇<br>二級　三、八〇〇 | 一級　三、四〇〇<br>二級　三、一〇〇 | 一級　二、七〇〇<br>二級　二、四〇〇 | 一級　二、〇〇〇<br>二級　一、八〇〇 |
| 領事<br>貿易事務官 | 四、五〇〇 | 一級　四、一〇〇<br>二級　三、八〇〇 | 一級　三、四〇〇<br>二級　三、一〇〇 | 一級　二、七〇〇<br>二級　二、四〇〇 | |
| 大使館理事官<br>公使館理事官<br>副領事 | | | 一級　三、四〇〇<br>二級　三、一〇〇 | 一級　二、七〇〇<br>二級　二、四〇〇 | 一級　二、〇〇〇<br>二級　一、八〇〇<br>三級　一、六〇〇<br>四級　一、四〇〇 |
| 大使館一等通譯官<br>公使館一等通譯官 | | | 一級　三、四〇〇<br>二級　三、一〇〇 | 一級　二、七〇〇<br>二級　二、四〇〇 | |
| 大使館二等通譯官<br>公使館二等通譯官 | | | | | 一級　二、〇〇〇<br>二級　一、八〇〇<br>三級　一、六〇〇<br>四級　一、四〇〇 |
| 外交官補<br>領事官補 | | | | 一級　二、七〇〇<br>二級　二、四〇〇 | 一級　二、〇〇〇<br>二級　一、八〇〇<br>三級　一、六〇〇<br>四級　一、四〇〇 |

（第四表）

| 官名　級俸 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 |
|---|---|---|---|---|---|
| 千住製絨所長　奏任タルモノ | 四、五〇〇圓 | | | | |
| 神宮皇學館長　奏任タルモノ | 四、五〇〇 | 四、一〇〇 | 三、八〇〇 | 三、四〇〇 | 三、一〇〇 |
| 文部省直轄諸學校長奏任タルモノ但シ東京盲學校長東京聾啞學校長ヲ除ク | | | | | |
| 製鐵所理事　奏任タルモノ | | | | | |
| 燈臺局長　奏任タルモノ | | | | | |
| 朝鮮總督府專門學校長　奏任タルモノ | | | | | |
| 朝鮮總督府道參與官　奏任タルモノ | | | | | |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 臺灣總督府專門學校長奏任タルモノ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 臺灣總督府高等學校長奏任タルモノ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

（第五表）

| 官名／級俸 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 | 十二級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 税關長奏任タルモノ | 四,五〇〇 | 四,一〇〇 | 三,八〇〇 | 三,四〇〇 | 三,一〇〇 |  |  |  |  |  |  |  |
| 税務監督局長奏任タルモノ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 典獄　小菅、市谷、豐多摩、巢鴨、大阪、名古屋、廣島、長崎、宮城、札幌ノ刑務所ノ長タル者 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 帝國圖書館長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 東京博物館長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 鑛山監督局長奏任タルモノ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 朝鮮總督府税關長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 朝鮮總督府府尹　京城、大邱、釜山、平壤ノ府尹タルモノ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 朝鮮總督府典獄　京城、西大門、平壤、大邱ノ監獄ノ長タルモノ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 臺灣總督府交通局理事奏任タルモノ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 臺灣總督府税關長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 臺灣總督府地方理事官　臺北市尹タルモノ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 關東廳財務部長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 關東廳遞信局長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 税關醫官 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 税關獸醫官 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 陸軍教授奏任タルモノ | 四,五〇〇 | 四,一〇〇 | 三,八〇〇 | 三,四〇〇 | 三,一〇〇 | 二,七〇〇 | 二,四〇〇 | 二,〇〇〇 | 一,八〇〇 | 一,六〇〇 | 一,四〇〇 | 一,二〇〇 |
| 海軍教授奏任タルモノ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 督學官 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 帝國大學教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 帝國大學豫科教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 帝國大學附屬專門部教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 史料編纂官 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 官立大學教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 官立大學豫科教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 官立大學附屬專門部教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 文部省直轄諸學校教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 京城帝國大學教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 京城帝國大學豫科教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 朝鮮總督府專門學校教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 旅順工科大學教授奏任タルモノ |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 旅順工科大學助教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 旅順工科大學豫科教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 國立感化院教諭國立感化院院長タルモノ | 三,八〇〇 | 三,四〇〇 | 三,一〇〇 | 二,八〇〇 | 二,六〇〇 | 二,四〇〇 | 二,二〇〇 | 二,〇〇〇 | 一,八〇〇 | 一,六〇〇 |  |  |
| 東京盲學校長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 東京聾啞學校長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 師範學校長 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 税關港務官港務部長タルモノヲ除ク | 三,四〇〇 | 三,一〇〇 | 二,八〇〇 | 二,六〇〇 | 二,四〇〇 | 二,二〇〇 | 二,〇〇〇 | 一,八〇〇 | 一,六〇〇 | 一,四〇〇 | 一,三〇〇 | 一,二〇〇 |
| 帝國大學助教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 官立大學助教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 文部省直轄諸學校教諭 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 京城帝國大學助教授 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

| 官名／級俸 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 | 十二級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 朝鮮總督府道港務醫官 | 三,一〇〇 | 二,八〇〇 | 二,六〇〇 | 二,四〇〇 | 二,二〇〇 | 二,〇〇〇 | 一,八〇〇 | 一,六〇〇 | 一,四〇〇 | 一,三〇〇 | 一,二〇〇 | 一,一〇〇 |
| 朝鮮總督府道獸醫官 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 臺灣總督府測候所技師 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 關東廳觀測所技師 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 樺太廳觀測所技師 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 警視廳消防司令 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

### ●初敍官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官他ノ高等文官ト爲ル場合ノ官等ニ關スル件

（明治三十六年十二月二十三日　勅令第二百八十五號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ初敍官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官他ノ高等文官ト爲ル場合ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　本令ニ於テ特別文官ト稱スルハ高等官官等俸給令【第七條】ニ依ル初敍官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官ヲ謂フ

第二條　特別文官他ノ高等文官ト爲ル場合ノ官等ハ前ニ他ノ高等文官タラサリシ者ニ付テハ高等官六等以下トシ前ニ他ノ高等文官タリシ者ニ付テハ前官等以下トス但シ前官等七等以下ナルトキハ陞シテ六等ニ至ルコトヲ得

第三條　前條ノ場合ニ於テハ特別文官在職年數滿二年ニ對シテ一等ヲ陞敍スルコトヲ得

前ニ他ノ高等文官タリシ者前條ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ前官等七等以下ノ場合ヲ除クノ外其ノ官等在職年數ヲ特別文官在職年數ニ通算シテ前項ノ規定ヲ適用ス但シ前ノ他ノ高等文官在職滿二年以上ナルトキハ其ノ在職年數ハ二年トシ特別文官在職年數ニ通算ス

前二項ノ在職年數ニシテ特別文官ヨリ他ノ高等文官ト爲ル際陞敍ノ爲算用セラレサルモノハ新ニ敍セラレタル官等ノ陞敍年數ニ通算ス但シ前ノ他ノ高等文官ノ官等以上ニ敍セラレサルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

明治三十年勅令第百九十七號及之ヲ準用シタル規定ハ之ヲ廢止ス

### ●宮內高等官ヨリ高等文官ニ任用セラルル者ニ關スル件

（明治四十一年七月二十七日　勅令第百八十二號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ宮內高等官ヨリ高等文官ニ任用セラルル者ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

宮內高等官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者高等文官ニ任用セラルル場合ニ於テハ【明治三十九年勅令第百二十五號第一項】及高等官官等俸給令【第七條第二項、第三項】ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●判任官俸給令

（明治四十三年三月二十八日　勅令第百三十五號）

改正　明治四三年第三七八號、四五年第四七號　大正二年第二一五號、第三〇二號、三年第三八號、五年第六六號、第二四七號、七年第二七九號、第三〇八號、第三七八號、八年第一八二號、第二五四號、第二七六號、第三五八號、第四〇〇號、第四四〇號、九年第二五八號、第三五四號、第四六三號、第五〇六號、一〇年第三九三號、一二年第三三五號、一三年第一一〇號、第四五七號、一五年第二七四號

朕判任官俸給令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

判任官俸給令

第一條　判任官ノ月俸ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外別表ニ依ル

第二條　陸海軍准士官及下士ハ判任トシ其ノ月俸ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三條　判任文官ハ毎級在職一年以上ニ至ラサレハ增給スルコトヲ得ス但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　判任文官ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ハ特ニ二百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第五條　判任文官ノ俸給ハ月俸七十五圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第六條　各廳技手ハ判任トシ各廳事務ノ繁閑ニ依リ別表最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第七條　警視廳、北海道廳、府縣及監獄判任官竝税務監督局屬、税務署屬、專賣局書記及朝鮮總督府航路標識看守ニハ別表最低額以下二十圓迄ノ月俸ヲ給スルコトヲ得但シ港吏、港務醫官補、港務獸醫官補、港務藥劑手及府縣通譯ハ此ノ限ニ在ラス

道廳及府縣視學ノ月俸ハ別表八級俸以上トス

第八條　削除

第九條　各廳警部補ノ月俸ハ四十圓以上八十五圓以下トス

第十條　左ニ掲クル者ノ月俸ハ二十五圓以上八十五圓以下トス

健康保險署書記補
各廳税關監吏
各廳税務吏
各廳森林主事
北海道廳河川監守

第十一條　左ニ掲クル者ノ月俸ハ二十圓以上八十五圓以下トス

貯金局書記補
簡易保險局書記補
遞信局書記補
各廳通信書記補
各廳遞信書記補
臺灣總督府交通主事

第十二條　前三條ノ判任文官最上級俸ヲ受ケ三年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ハ特ニ月額十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第十三條　判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸四月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍內ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ケタル順序ニ依リ同順位內ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第十四條　月俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス

前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官官等俸給令ノ例ニ依ル

第十五條　俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附　則（大正九年勅令第二百五十八號）

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年勅令第二百五十七號附則第二項乃至第六項及第八項ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ニ付之ヲ準用ス

從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ五級俸以上各級ニ於ケル在職年數ト看做ス

從前ノ規定ニ依ル五級俸以上ヲ受クル者第二項ノ規定ニ依リ改正級俸ニ相當セサル俸給ヲ受クルトキハ從前ノ級俸ト同等ノ改正級俸ヲ受クルモノト看做ス

前項ノ規定ハ五級俸以上ニ於テ級俸ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ノ級俸ニ付之ヲ準用ス

第八條乃至第十一條ニ掲クル判任文官ノ從前ノ規定ニ依ル最上級俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ最上級俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス

判任官俸給令附則ヲ削ル

明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ノ例ニ依リ五級俸以上ノ俸給ヲ受クル地方税支辨ニ屬スル判任文官ノ級俸ノ對等ニ付テハ前數項ノ規定ニ依ラス左表ノ區分ニ依ル但シ文武判任官等級令ノ適用ニ付テハ仍從前ノ等級

チ保有ス

| 現行俸給 | 改正俸給 |
|---|---|
| 特別俸 | 一級俸 |
| 一級俸 | 二級俸 |
| 二級俸 | 四級俸 |
| 三級俸 | 五級俸 |
| 四級俸 | 六級俸 |
| 五級俸 | 六級俸 |

（別表）

| 級俸 | 月額 |
|---|---|
| 一級俸 | 百六十圓 |
| 二級俸 | 百三十五圓 |
| 三級俸 | 百十五圓 |
| 四級俸 | 百圓 |
| 五級俸 | 八十五圓 |
| 六級俸 | 七十五圓 |
| 七級俸 | 六十五圓 |
| 八級俸 | 五十五圓 |
| 九級俸 | 五十圓 |
| 十級俸 | 四十五圓 |
| 十一級俸 | 四十圓 |

（別表）

| | 神宮權禰宜 | |
|---|---|---|
| 一等 | 一級俸<br>二級俸 | |
| 二等 | 三級俸<br>四級俸 | |
| 三等 | | 一級俸 |
| 四等 | | 三級俸<br>四級俸 |

## ●文武判任官等級令

（明治四十三年六月十八日勅令第二百六十七號）

（改正　明治四三年第三七九號　大正四年第二一八號、五年第八四號、六年第一〇一號、九年第一三號、第二五九號、第四八四號、一〇年第四七一號）

朕文武判任官等級令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

文武判任官等級令

第一條　判任官ノ等級ハ一等乃至四等トシ其ノ區分ハ別表ニ依ルモノノ外其ノ本俸ニ依リ左ノ如ク定ム

一等　特別俸　一級俸　二級俸

二等　三級俸　四級俸　五級俸　月俸九十五圓以下八十五圓以上

三等　六級俸　七級俸　八級俸　月俸八十五圓未滿五十五圓以上

四等　九級俸　十級俸　十一級俸　月俸五十五圓未滿

第二條　年功ニ依リ加給ヲ受クルモ爲ニ等級ヲ昇スコトナシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

文武判任官等級表ハ之ヲ廢止ス

【本令施行ノ際現ニ判任官俸給令附則第三項ノ規定ニ依リ月俸四十三圓ヲ受クル者ノ等級ハ三等トス】

| 神宮宮掌 | 神宮衞士副長 | 陸軍准士官及下士 | 海軍准士官及下士官 | 三等郵便局長<br>三等電信局長 | 朝鮮總督府郵便所長<br>臺灣總督府三等郵便局長<br>關東廳郵便所長<br>樺太廳特定郵便局長 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 一級俸<br>二級俸 | 陸軍各兵特務曹長及相當官<br>陸軍砲工兵上等工長 | 海軍准士官<br>海軍豫備准士官 | 年手當二百四十圓以上千圓以下 | 年手當七百二十圓以上千二百圓以下 |
| | 三級俸<br>四級俸 | 陸軍各兵曹長及相當官<br>陸軍各兵一等諸工長 | 海軍一等下士官<br>海軍豫備一等下士官 | 年手當百二十圓以上二百四十圓未滿 | 年手當三百六十圓以上七百二十圓未滿 |
| 二級俸<br>月俸七十五圓未滿六十五圓以上 | 五級俸<br>六級俸<br>月俸七十五圓未滿六十五圓以上 | 陸軍各兵軍曹及相當官<br>陸軍各兵二等諸工長 | 海軍二等下士官<br>海軍豫備二等下士官 | 年手當七十二圓以上百二十圓未滿 | 年手當百二十圓以上三百六十圓未滿 |
| 五級俸<br>六級俸<br>月俸六十五圓未滿四十圓以上 | 七級俸<br>八級俸<br>月俸六十五圓未滿五十圓以上 | 陸軍各兵伍長及相當官<br>陸軍各兵三等諸工長 | 海軍三等下士官<br>海軍豫備三等下士官 | 年手當七十二圓未滿 | 年手當百二十圓未滿 |

## ●文官俸給支給細則

（明治二十五年十二月二十三日大藏省令第十一號）

（改正　明治二九年第七號、三八年第三〇號　大正九年第一五號）

文官俸給支給細則左ノ通リ相定メ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

但明治二十三年當省令第十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

文官俸給支給細則

第一條　高等文官及判任文官ノ俸給ハ各廳左ノ日割定日ニ於テ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス

| | |
|---|---|
| 毎月二十一日 | 外務省及其所管經費ニ關スル官廳<br>大藏省及其所管經費ニ關スル官廳<br>内務省及其所管經費ニ關スル官廳<br>鐵道省及其所管經費ニ關スル官廳 |
| 毎月二十二日 | 陸軍省及其所管經費ニ關スル官廳<br>司法省及其所管經費ニ關スル官廳<br>海軍省及其所管經費ニ關スル官廳 |
| 毎月二十三日 | 文部省及其所管經費ニ關スル官廳<br>遞信省及其所管經費ニ關スル官廳<br>〔農商務省〕及其所管經費ニ關スル官廳 |

第二條　廢官退官退職及死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全額ヲ其際支給スルモノトス

高等官官等俸給令【第三十五條】ニ依リ殘務調理ヲ命セラレタル者其調理翌月以降ニ渉リ全月分ヲ支給スルモノハ第一條ノ支給定日ニ依ル但最後ノ月ハ日割ヲ以テ調理結了ノ日迄ヲ其際支給ス

第三條　轉任者ノ俸給ハ其發令ノ當日迄ヲ甲廳ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ乙廳ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第四條　他廳ヘ轉任シタルモノハ第一條ノ支給日ニ拘ラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其際支給ス

第五條　他廳ヘ轉任ノ際俸給過渡アルトキハ前任廳ニ於テ其際之ヲ追徵スヘシ

第六條　俸給支給定日後他廳ヨリ轉任シ來リタルトキハ後任廳ニ於テ其月ノ殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス

第七條　高等官官等俸給令【第三十六條】ニ依リ減給ノ者廢官退官退職及死亡ノ時ハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス

第八條　傷痍忌引若クハ特旨賜暇ノ場合ハ病氣若クハ私事故障ト連續スルモ減俸トナルヘキ闕勤日數中ニ算入セス又病氣ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セス

第九條　俸給ヲ支給スルニ當リ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス

日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

## ●敎官及技術官ノ俸給ニ關スル件

（大正九年八月十八日勅令第二百六十二號）

朕敎官及技術官ノ俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　敎官ノ俸給ハ其ノ學科目ノ種類又ハ授業時間ノ多少ニ依リ、技術官ノ俸給ハ各廳事務ノ繁閑ニ依リ其ノ最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條　敎官ニシテ他ノ廳ノ敎官ヲ兼ヌル者ノ俸給ハ之ヲ分割シテ各廳ヨリ給スルコトヲ得

第三條　敎官ノ職務ヲ擔任スル講師又ハ囑託ニハ敎官俸給豫算又ハ特ニ定メタル豫算ノ中ヨリ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年勅令第百五十四號

明治四十三年勅令第二百二十七號

大正六年勅令第六十九號

## ●朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令

（明治四十三年三月二十八日勅令第百三十七號）

（改正　明治四三年第三八四號、四四年第二六九號　大正二年第五三號、九年第三九九號、一一年第一八八號、一五年第五二號）

朕臺灣滿韓及樺太在勤文官加俸令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、內務、文部大臣副署）

朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令

第一條　朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤ノ内地人タル文官、試補、司法官試補及見習ニハ本令ニ依リ加俸ヲ給ス

第二條　朝鮮總督、臺灣總督、關東長官及樺太廳長官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ五トシ其ノ他ノ高等官、試補及司法官試補ノ加俸ハ本俸（京城帝國大學ノ敎授及助敎授ニ在リテハ本俸及職務俸）ノ十分ノ五以內、判任官ハ十分ノ八以內トシ其ノ額ハ本屬長官之ヲ定ム

但シ試補、司法官試補、六級俸以下ノ判任官及見習ノ加俸ハ月額七十圓迄ヲ給スルコトヲ得

南洋廳長官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ九トシ其ノ他ノ南洋廳高等官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ十二以內、南洋廳判任官ハ十分ノ十五以內トシ其ノ額ハ本屬長官之ヲ定ム但シ七級俸以下ノ判任官ノ加俸ハ月額百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第三條　加俸ノ支給ニ付テハ本俸ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條　本令ハ在外公館職員及陸海軍軍屬ニハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府職員加俸支給規則、明治三十七年勅令第三十五號、滿韓在勤文官加俸令及明治四十年勅令第三十七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際別ニ加俸ニ關スル辭令書ヲ交付セラレサル者ハ從前ノ額ヲ受クルモノトス但シ統監、臺灣總督、關東都督及樺太廳長官ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

（大正十四年四月二日內閣訓令第一號）

樺太廳

朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令第二條第一項ニ依ル樺太廳及所屬官署ニ在勤スル高等文官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ五ト相定メ大正十四年四月分ヨリ之ヲ適用ス

（明治四十三年四月十四日大藏省令第十七號）

（改正　大正九年第四三號）

明治四十三年勅令第百三十七號ニ依リ樺太ニ在勤スル官吏ノ加俸額左ノ通相定ム

判任官　月俸七十五圓以下ノモノ　月額七十圓

　　　　其ノ他　本俸十分ノ八

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●外國在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時增給ニ關スル件

（大正十四年三月三十一日勅令第四十五號）

朕外國在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時增給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

外國ニ在勤、駐劄、駐在、派遣若ハ留學中ノ者又ハ外國ヲ旅行スル者ニハ爲替相場ノ變動ニ基ク特別ノ事情ノ存スル間所管大臣大藏大臣ト協議シテ在勤俸、在勤加俸、加俸、手當、在勤手當、加給手當、學資金、巡歷手當、駐在手當、派遣手當、馬飼料又ハ旅費ニ付其ノ定額ノ四分ノ一以內ノ金額ヲ臨時增給スルコトヲ得艦船ノ乘員、乘組員又ハ之ニ設置セラレタル通信官署ニ在勤スル職員ノ月手當、航海加俸、航海日當、食料又ハ食卓料ニシテ當該艦船ノ帝國外ニ在ル間支給スルモノニ付亦同シ

大正七年勅令第三百三十三號又ハ大正七年勅令第三百三十四號ノ規定ニ依ル臨時增給ノ額ハ本令ノ適用ニ付テハ航海日當又ハ食卓料ノ額ニ之ヲ加算ス

附　則

本令ハ大正十四年一月以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

## ●月俸七十五圓未滿ノ判任官待遇者ノ俸給ニ關スル件

（明治四十年六月二十五日勅令第二百四十四號）

（改正　明治四三年第一三六號）

朕月俸三十圓未滿ノ判任官待遇者ノ俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

判任官俸給令第五條ノ規定ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ俸給ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●巡査、看守、女監取締、憲兵上等兵、陸軍警査、海軍警査、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、貴族院守衞、衆議院守衞及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ノ待遇相當等級ニ關スル件

（大正十一年六月二日勅令第三百十五號）

朕巡査、看守、女監取締、憲兵上等兵、陸軍警査、海軍警査、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、貴族院守衞、衆議院守衞及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ノ待遇相當等級ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、內務、司法、陸軍、海軍大臣副署）

巡査、看守、女監取締、憲兵上等兵、陸軍警査、海軍警査、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、貴族院守衞、衆議院守衞及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ノ待遇相當等級ハ判任官三等以下トシ文武判任官等級區分ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給ニ關スル件

（明治三十七年九月十三日勅令第二百六號）

朕文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給支給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレ陸海軍ニ於テ俸給ヲ受クル者ハ其ノ間文官俸給ノ支給ヲ停止ス但シ陸海軍ニ於テ受クル俸給ノ額文官俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ハ奉職官廳ニ於テ文官俸給ヨリ之ヲ補給ス

附　則

明治二十四年勅令第百六十二號及明治二十七年勅令第百二十九號ハ之ヲ廢止ス

## ●陸海軍准士官以下ノ受恩給者

## 文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル俸給支給方

（明治三十三年三月三十一日勅令第百三十二號）

朕陸海軍准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル俸給ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

陸海軍准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於テハ其ノ受クヘキ俸給額ヨリ恩給額ヲ控除シタル額ヲ支給スルモノトス

（明治三十三年四月十八日大藏省令第十九號）

本年勅令第百三十二號ニ依ル俸給支給方ハ高等官ニ在テハ年俸月割額判任官ニ在テハ月俸額ヨリ恩給年額十二分ノ一ニ相當スル額ヲ毎月控除支給スルモノトス但日割計算ヲ以テ恩給ヲ支給スルトキハ其日割支給額ニ相當スル額ヲ控除支給スルモノトス

俸給ノ日割支給ヲ要スルトキハ恩給モ亦當月分ノ現日數ヲ以テ計算控除スルモノトス

## ●准士官以下ノ受恩給者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル諸給與及納金計算方

（明治三十三年六月二十二日勅令第二百七十三號）

朕准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於ケル諸給與及納金計算方ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

准士官以下ニシテ恩給ヲ受クル者文官判任以上ニ任セラレタル場合ニ於テ俸給ヲ基礎トシテ計算スルモノノ中恩給及死亡賜金ハ其ノ受クヘキ俸給額ヲ基準トシテ之ヲ計算シ休職俸給及減俸ハ其ノ受クヘキ俸給額中ヨリ恩給額ヲ控除シタル額ヲ基準トシテ之ヲ計算ス

【官吏遺族扶助法第二條】ノ納金ハ恩給額ヲ控除シタル額、休職給額又ハ減俸殘額ヲ基準トシテ之ヲ計算ス

## ●朝鮮臺灣關東州ニ於ケル官立公立學校教官ニシテ一年現役ニ服スル者ノ給與ニ關スル件

（大正十年四月十三日勅令第八十九號）

改正　大正一一年第一八九號、一五年第二七〇號

朕朝鮮臺灣關東州ニ於ケル官立公立學校教官ニシテ一年現役ニ服スル者ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮公立小學校訓導、朝鮮公立普通學校訓導、朝鮮總督府師範學校訓導、臺灣公立小學校訓導、臺灣公立公學校訓導、臺灣公立高等女學校訓導、臺灣總督府師範學校訓導、關東州小學校訓導、關東州公學堂教諭又ハ旅順師範學堂訓導ニシテ徵兵令第十四條ノ規定ニ依ル一年現役ニ服スル者ニハ其ノ在營中俸給ノ三分ノ二ヲ減ス

附　則

本令ハ大正十年四月分ヨリ之ヲ適用ス

## ●傭員俸給及傭員其他ニ給スル諸手當支給方

（明治二十六年二月二十三日勅令第七號）

朕傭員俸給及傭員其他ニ給スル諸手當支給方ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

傭員俸給及傭員其他ニ給スル諸手當ニシテ月額ヲ以テ支給スルモノハ毎月下旬ニ之ヲ支給スルコトヲ得

## ●各廳雇等日給ノ者休暇日ニモ給額支給

（明治八年六月三十日太政官達第百十四號）

院省【使】府縣

各監雇【出仕】等日給ノ者是迄【一六】并祝日祭日其他一般休暇日ニ其給額ヲ與ヘ或ハ不與等一定無之候處本年七月一日ヨリ以後ハ日數ヲ限リ雇入ノ者又ハ諸職人等ヲ除クノ外ハ都テ右休暇日ト雖モ給額可相渡此旨相達候事

# 第二款　宮內省

## ●宮內官官等俸給令

（大正十年十月七日皇室令第十八號）

改正　大正一一年第四號、第八號、第一二號、一二年第二號、第七號、第一〇號、第一一號、第一七號、一三年第八號、第九號、第一一號、第一二號、一四年第二號、一五年第一號、昭和元年第三號、二年第六號

朕宮內官官等俸給令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮內大臣副署）

### 宮內官官等俸給令

第一條　親任式ヲ以テ任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ八等トス親任式ヲ以テ任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至八等官ヲ奏任官トス

判任官ヲ分テ四等トス

第二條　高等官ノ官等ハ別表ニ依ル

第三條　高等官ノ初任ハ六等以下トス

他官廳ヨリ轉任スル場合ニ於テハ其ノ官等ハ高等官ニ在リテハ前官ノ官等以下トス但シ前官官等在職年數二年ヲ踰エタル者ハ一等ヲ陞スコトヲ得

前官高等官七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス陞シテ高等官六等ニ至ラシムルコトヲ得

前官高等官一等ニ在リタル者ヲ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任官ニ任スル場合ニ於テハ特ニ高等官一等ニ敍スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ陸海軍將校同相當官ヲ高等官ニ任用スル場合及退官者ヲ任用スル場合ニ之ヲ準用ス

第四條　前條第一項乃至第三項ノ規定ハ親任式ヲ以テ任スル宮內官侍醫頭主馬頭宮內大臣秘書官侍從長侍從次長式部長官式部次長掌典長掌典次長宮中顧問官內大臣秘書官長內大臣秘書官皇后宮大夫皇太后宮大夫別當御歌所長學習院長女子學習院長帝室博物館總長李王職長官李王職次官勅任官タル李王職贊侍及臨時帝室編修官長ニ之ヲ適用セス別ニ定ムル教官又ハ技術官ニ付亦同シ

第五條　高等官ノ官等ハ毎等在職二年ヲ踰ユルニ非サレハ陞敍スルコトヲ得ス但シ六等迄ノ陞敍ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　高等官二等ヲ最高官等トスル勅任官ニシテ三年以上高等官二等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ高等官一等ニ陞敍スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等官一等又ハ高等官二等ヲ最高官等トスル勅任官ノ高等官二等以上ノ在職年數ハ之ヲ現官ノ高等官二等ノ在職年數ニ通算ス

第七條　高等官四等又ハ高等官五等ヲ最高官等トスル奏任官ニシテ三年以上各其ノ官ノ最高官等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ一等ヲ陞敍スルコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等官四等以上ノ在職年數ハ之ヲ高等官四等ヲ最高官等トスル現官ノ最高官等ノ在職年數ニ、高等官五等以上ノ在職年數ハ之ヲ高等官五等ヲ最高官等トスル現官ノ最高官等ノ在職年數ニ通算ス

第三條ノ規定ノ適用ヲ受ケサル宮內官他ノ宮內官ト爲ル場合ニ於テ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ大正二年皇室令第五號第三條ノ規定ニ依リ陞シ得ル官等ニ依ル

第八條　高等官ノ俸給ハ年俸トシ判任官ノ俸給ハ月俸トス

第九條　勅任官ノ俸給ハ宮內高等官俸給表第一表ニ依ル

奏任官ノ俸給ハ宮內高等官俸給表第二表ニ依リ其ノ各號ノ區分ハ左ノ如シ

一　第一號ニ依ルモノハ次號ニ依ラサル諸官トス

二　第二號ニ依ルモノハ次ノ如シ

皇宮警視
式部官
掌典次長
掌典
內掌典
樂長
陵墓監
侍醫補
藥劑師
主膳監
帝室會計審査官補
帝室林野局事務官補
學習院事務官
李王職贊侍
李王職典祀
李王職通譯官

皇宮警視ノ俸給ハ三級俸以下內掌典樂長及陵墓監ノ俸給ハ五級俸以下トス

第十條　宮內判任官俸給表各號ノ區分ハ左ノ如シ

一　第一號ニ依ルモノハ次號ニ依ラサル諸官トス

二　第二號ニ依ルモノハ次ノ如シ

內掌典
掌典補
樂　師
陵墓守長
李王職典祀補

第十一條　左ニ揭ケタル諸官ノ俸給ハ俸給表ニ定ムル定限ニ依ラサルコトヲ得但シ最高額ヲ超ユルコトヲ得ス

宮內省翻譯官
技師及技手
內舍人
式部官獵場監守長及鷹師
掌典內掌典及掌典補
樂長及樂師
陵墓監及陵墓守長
圖書寮編修官及圖書寮編修官補
侍醫侍醫補醫員藥劑師長藥劑師及藥劑員
主膳監及主膳
皇族ニ分屬スル宮內事務官及宮內屬
學習院教授及學習院助教授
女子學習院教授及女子學習院助教授
帝室博物館鑑査官及帝室博物館鑑査官補
李王職事務官李王職贊侍李王職典祀李王職典醫李王職通譯官李王職屬李王職典祀補及李王職典醫補
臨時帝室編修官及臨時帝室編修官補

第十二條　宮內官其ノ官ノ最高俸ヲ受ケ在職五年ヲ踰エ功績顯著ナル者ニハ勅任官ニ在リテハ一年千圓以內奏任官ニ在リテハ一年七百圓以內判任官ニ在リテハ一月四十圓以內ノ年功加俸ヲ給スルコトアルヘシ

宮內省參事官宮內事務官宮內技師侍從式部官掌典次長侍醫帝室林野局事務官帝室林野局技師李王職事務官李王職贊侍又ハ臨時帝室編修官ニシテ勅任官ト爲ラサル者ニ付テハ奏任官タル各官ノ最高俸ヲ內掌典ニシテ奏任官ト爲ラサル者ニ付テハ判任官タル其ノ官ノ最高俸ヲ以テ前項ニ規定スル其ノ官ノ最高俸ト看做ス

第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ宮內官ノ在職年數ニシテ現官ノ最高俸額以上ノ俸給ヲ受ケタル年數ハ之ヲ現官ノ最高俸ヲ受ケタル在職年數ニ通算ス

前項ノ規定ニ依リ在職年數ヲ通算シ五年以上ニ及フ者ヲ宮內官ニ任スル際ハ特ニ第一項ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第十三條　朝鮮人ニ非スシテ朝鮮ニ在勤スル宮內官ニハ高等官ニ在リテハ俸給額十分ノ五以內判任官ニ在リテハ月俸七十五圓以下ハ月額六十五圓迄其ノ他ハ俸給額十分ノ八以內ノ加俸ヲ給ス朝鮮人ニシテ內地ニ在勤スル宮內官ニ付亦同シ

第十四條　宮內官轉任ノ場合ニ於テ其ノ官ノ最高俸カ現ニ受クル俸給額ヨリ寡少ナルトキハ仍從前ノ額ヲ給スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ年功加俸ノ給與ニ付テハ現ニ受クル俸給ヲ以テ第十二條第一項ノ規定ニ依ル最高俸ト看做ス

第十五條　年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ給ス

第十六條　俸給ハ新任轉任增俸減俸共ニ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス官制又ハ俸給令ノ改正ニ由リ新ニ給スヘキ俸給ハ新令施行ノ日ヨリ之ヲ計算ス

休職又ハ廢官トナリ若ハ退官シタル者即日他ノ有給ノ官職ニ任用セラレタルトキハ前官ノ俸給ハ其ノ當日迄ヲ計算ス

第十七條　休職又ハ廢官トナリ若ハ退官又ハ死亡シタル者ニハ高等官ニ在リテハ其ノ年俸月割ノ全額判任官ニ在リテハ其ノ月ノ俸給全額ヲ給ス

第十八條　休職廢官退官ノ者事務引繼又ハ殘務整理ノ爲特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其ノ間仍從前ノ俸給ヲ給ス

第十九條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者喪ニ服スル者傳染病豫防ノ爲出勤ヲ停メラレタル者及賜暇休養中ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　休職ヲ命セラレタル者ニハ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス但シ有給ノ官ニ就キタルトキハ其ノ翌日ヨリ之ヲ停ム

第二十一條　宮內官ニシテ恩給法ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クル者ノ俸給ハ恩給額ヲ控除シテ之ヲ給ス但シ增加恩給ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　宮內官ニシテ陸海軍ニ召集セラレ陸海軍ニ於テ俸給ヲ受クル者ハ其ノ間宮內官俸給ノ支給ヲ停止ス但シ陸海軍ニ於テ受クル俸給ノ額宮內官俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ハ宮內官俸給ヨリ之ヲ補給ス

第二十三條　宮內官死亡シタルトキハ在職中ナルト休職中ナルトニ拘ラス高等官ニ在リテハ在職最終年俸三分ノ一判任官ニ在リテハ在職最終月俸四月分ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項ノ遺族トハ配偶者直系卑屬直系尊屬兄弟姉妹及戶主ニシテ宮內官死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭ケタル順序ニ依ル但シ直系卑屬數人アルトキハ宮內官ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ依リ直系尊屬數人アルトキハ養方ハ實方ニ、親等近キ者ハ遠キ者ニ、男ハ女ニ先チ兄弟姉妹數人アルトキハ男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第二十四條　本令ノ在職年數ハ月ヲ以テ之ヲ計算ス

第二十五條　女官ノ官等俸給ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十六條　判任官ノ官等俸給相當ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

第二十七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十八條　本令施行ノ際[illegible]及宮內判[illegible]タル俸給[illegible]レサルト[illegible]又ハ之ニ[illegible]

附　則（大正十一年皇室令第四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際皇族ニ分屬スル宮內事務官及宮內屬竝李王職事務官及李王職屬ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給ト同額ノ俸給又ハ之ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス

附　則（大正十一年皇室令第八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際[illegible]令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給ト同額ノ俸給又ハ之ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス

附　則（大正十二年皇室令第十七號）

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年九月三十日現在ニ於テ學校職員退隱料及巡査看守退隱料ヲ受クル宮內官ノ俸給ノ支給ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（大正十三年皇室令第十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際內舍人又ハ東宮內舍人タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給ト同額ノ俸給又ハ之ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス

（別表）

### 宮內高等官官等表

| | | |
|---|---|---|
| 勅任官 | 親任 | 宮內大臣 |
| | 一等 | |
| | 二等 | |
| 奏任官 | 三等 | |
| | 四等 | |
| | 五等 | |
| | 六等 | |
| | 七等 | |
| | 八等 | |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 宮內次官 | | | | | | | |
| | 諸陵頭 | 同 | | | | | | |
| | 圖書頭 | 同 | | | | | | |
| | 侍醫頭 | 同 | | | | | | |
| | 大膳頭 | 同 | | | | | | |
| | 內藏頭 | 同 | | | | | | |
| | 內匠頭 | 同 | | | | | | |
| | 主馬頭 | 同 | | | | | | |
| | 宮內省參事官 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | | 宮內大臣秘書官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | | 宮內書記官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | 宮內事務官 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | | 宮內省翻譯官 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | 宮內技師 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 皇宮警察長 | 同 | 同 | 同 | | |
| | | | | | 皇宮警視 | 同 | 同 | 同 |
| 侍從長 | 同 | | | | | | | |
| | 侍從次長 | 同 | | | | | | |
| | | 侍從 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| 式部長官 | 同 | | | | | | | |
| | 式部次長 | 同 | | | | | | |
| | | 式部官 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | 主獵官 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | 掌典長 | | | | | | | |
| | | 掌典次長 | 同 | | | | | |
| | | | 掌典 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | | | 內掌典 | 同 | 同 | 同 |
| | | | | 樂部長 | 同 | 同 | 同 | |
| | | | | | 樂長 | 同 | 同 | 同 |
| 宗秩寮總裁 | 同 | | | | | | | |
| | | | | | 陵墓監 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 圖書寮編修官 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | 侍醫 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | | |
| | | | | | 侍醫補 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 藥劑師長 | 同 | 同 | 同 | | |
| | | | | | 藥劑師 | 同 | 同 | 同 |
| | | | | | 主膳監 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 車馬監 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | 宮中顧問官 | 同 | | | | | | |
| 內大臣 | | | | | | | | |
| | 內大臣秘書官長 | 同 | | | | | | |
| | | | 內大臣秘書官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | 皇后宮大夫 | 同 | | | | | | |
| | | | 皇后宮事務官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | 皇太后宮大夫 | 同 | | | | | | |
| | | | 皇太后宮事務官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | 別當 | 同 | | | | | | |
| | 帝室會計審查局長官 | 同 | | | | | | |
| | | | 帝室會計審查局事務官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | | 帝室會計審查官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | | | 帝室會計審查官補 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | 帝室林野局長官 | 同 | | | | | | |
| | | 帝室林野局次長 | | | | | | |
| | | 帝室林野局事務官 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | | | 帝室林野局事務官補 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | 帝室林野局技師 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | 御歌所長 | 同 | | | | | | |
| | | | 御歌所主事 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | 學習院長 | 同 | | | | | | |
| | | 學習院教授 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 學習院事務官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | | 學習院學生監 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | 女子學習院長 | 同 | | | | | | |
| | | 女子學習院教授 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 女子學習院事務官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | | 女子學習院學生監 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | 帝室博物館總長 | 同 | | | | | | |
| | | | 帝室博物館事務官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | | 帝室博物館鑑查官 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | 李王職長官 | | | | | | | |
| | | 李王職次官 | | | | | | |
| | | 李王職事務官 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | | 李王職贊侍 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 李王職典祀 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 李王職典醫 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 李王職技師 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | | 李王職通譯官 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| | | | 臨時帝室編修局事務官 | 同 | 同 | 同 | 同 | |
| | 臨時帝室編修官長 | 同 | | | | | | |
| | | 臨時帝室編修官 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |

## 宮內高等官俸給表

### 第一表

| | |
|---|---|
| 宮內大臣<br>內大臣 | 八千圓 |
| 宮內次官 | 六千五百圓 |
| 侍從長<br>式部長官<br>宗秩寮總裁 | 親任　七千圓<br>高等官一等　六千五百圓 |
| 皇后宮大夫<br>皇太后宮大夫<br>學習院長<br>李王職長官 | 一級俸　六千五百圓<br>二級俸　五千七百圓 |
| 侍醫頭<br>內藏頭<br>內匠頭<br>帝室會計審查局長官<br>帝室林野局長官 | 一級俸　六千五百圓<br>二級俸　五千七百圓<br>三級俸　五千二百圓 |
| 諸陵頭<br>圖書頭<br>大膳頭<br>主馬頭<br>宮內省參事官<br>侍從次長<br>掌典長<br>內大臣秘書官長<br>女子學習院長<br>帝室博物館總長<br>李王職次官 | 一級俸　五千七百圓<br>二級俸　五千二百圓 |
| 宮內技師<br>侍醫<br>帝室林野局技師<br>臨時帝室編修官長 | 一級俸　五千七百圓<br>二級俸　五千二百圓<br>三級俸　五千圓 |
| 宮內事務官<br>侍從<br>式部次長<br>帝室林野局次長<br>帝室林野局事務官 | 一級俸　五千二百圓<br>二級俸　五千圓 |

李王職事務官
臨時帝室編修官

學習院教授
女子學習院教授
李王職賛侍
一級俸　四千五百圓
二級俸　四千百圓
三級俸　三千八百圓

式部官
掌典次長
別當
一級俸　四千五百圓
二級俸　四千百圓

第二表

| 級俸 | 第一號 | 第二號 |
|---|---|---|
| 一級 | 四、五〇〇圓 | 三、八〇〇圓 |
| 二級 | 四、一〇〇 | 三、四〇〇 |
| 三級 | 三、八〇〇 | 三、一〇〇 |
| 四級 | 三、四〇〇 | 二、七〇〇 |
| 五級 | 三、一〇〇 | 二、四〇〇 |
| 六級 | 二、七〇〇 | 二、〇〇〇 |
| 七級 | 二、四〇〇 | 一、八〇〇 |
| 八級 | 二、〇〇〇 | 一、六〇〇 |
| 九級 | 一、八〇〇 | 一、四〇〇 |
| 十級 | 一、六〇〇 | 一、二〇〇 |
| 十一級 | 一、四〇〇 | 一、一〇〇 |
| 十二級 | 一、二〇〇 | 一、〇〇〇 |

宮内判任官俸給表

| 級俸 | 第一號 | 第二號 |
|---|---|---|
| 一級 | 一六〇圓 | 一三五圓 |
| 二級 | 一三五 | 一一五 |
| 三級 | 一一五 | 一〇〇 |
| 四級 | 一〇〇 | 八五 |
| 五級 | 八五 | 七五 |
| 六級 | 七五 | 六五 |
| 七級 | 六五 | 五五 |
| 八級 | 五五 | 五〇 |
| 九級 | 五〇 | 四五 |
| 十級 | 四五 | 四〇 |
| 十一級 | 四〇 | 三五 |

## ●初敍官等ノ制限ヲ受ケサル宮内高等官他ノ宮内高等官トナリ又ハ初敍官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官初敍官等ノ制限ヲ受クル宮内高等官トナル場合ノ官等ニ關スル件

（大正二年四月九日皇室令第五號）

朕初敍官等ノ制限ヲ受ケサル宮内高等官他ノ宮内高等官トナリ又ハ初敍官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官初敍官等ノ制限ヲ受クル宮内高等官トナル場合ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

第一條　本令ニ於テ特別宮内官ト稱スルハ宮内官官等俸給令第三條ニ依ル初敍官等ノ制限ヲ受ケサル宮内高等官ヲ謂ヒ特別文官ト稱スルハ高等官官等俸給令第四條ニ依ル初敍官等ノ制限ヲ受ケサル高等文官ヲ謂フ

第二條　特別宮内官他ノ宮内高等官トナリ又ハ特別文官特別宮内官ニ非サル宮内高等官トナル場合ノ官等ニ付テハ前ニ他ノ宮内高等官又ハ特別文官ニ非サル高等文官タラサリシ者ニ付テハ宮内官官等俸給令第三條第一項ノ初任ト看做シ前ニ他ノ宮内高等官又ハ特別文官ニ非サル高等文官タリシ者ニ付テハ其ノ官等ヲ以テ宮内官官等俸給令第三條第二項及第三項ノ前官ノ官等ト看做ス

第三條　前條ノ場合ニ於テハ特別宮内官又ハ特別文官ノ在職年數滿二年ニ對シテ一等ヲ陞敍スルコトヲ得

前ニ他ノ宮内高等官又ハ特別文官ニ非サル高等文官タリシ者前條ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ前官等七等以下ノ場合ヲ除クノ外其ノ官等在職年數ヲ特別宮内官又ハ特別文官ノ在職年數ニ通算シテ前項ノ規定ヲ適用ス但シ前ノ他ノ宮内高等官又ハ特別文官ニ非サル高等文官ノ在職年數ニシテ滿二年以上ナルトキハ其ノ在職年數ハ二年トシテ之ヲ通算ス

## ●宮内判任官等級令

（大正十年十月七日宮内省令第十六號）

宮内判任官等級令左ノ通改正ス

宮内判任官等級令

第一條　宮内判任官ノ官等ハ左ニ揭ケタル俸給ノ區分ニ依ル但シ官等ニ付別ニ辭令書ヲ交付セラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

| 官等區分 | 俸給區分 第一號 | 俸給區分 第二號 |
|---|---|---|
| 一等 | 一級俸<br>二級俸<br>月俸百十五圓ヲ超ユル者 | 一級俸<br>二級俸<br>月俸百圓ヲ超ユル者 |
| 二等 | 三級俸<br>四級俸<br>五級俸<br>月俸七十五圓ヲ超ユル者 | 三級俸<br>四級俸<br>五級俸<br>月俸六十五圓ヲ超ユル者 |
| 三等 | 六級俸<br>七級俸<br>八級俸<br>月俸五十圓ヲ超ユル者 | 六級俸<br>七級俸<br>八級俸<br>月俸四十五圓ヲ超ユル者 |
| 四等 | 九級俸<br>十級俸<br>十一級俸<br>月俸五十圓未滿ノ者 | 九級俸<br>十級俸<br>十一級俸<br>月俸四十五圓未滿ノ者 |

第二條　加俸ヲ受クルモ爲ニ等級ヲ昇スコトナシ

附　則

第三條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條　本令施行ノ際現ニ宮内判任官ノ職ニ在ル者宮内官官等俸給令ノ改正ニ依リ其ノ官等ニ異動ヲ生スルトキハ仍從前ノ官等ニ依ル

（大正十一年十月十日宮内省令第十六號）

大正十一年皇室令第八號施行ノ際ニ於ケル獵場監守長及鷹師ノ官等ニ關スル件左ノ通定ム

大正十一年皇室令第八號施行ノ際獵場監守長及鷹師ニシテ同令ニ依ル改正ノ爲其ノ官等ニ異動ヲ生スルトキハ仍從前ノ官等ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十三年六月二十三日宮内省令第六號）

大正十三年皇室令第十二號施行ノ際ニ於ケル内舍人及【東宮内舍人】ノ官等ニ關スル件左ノ通定ム

大正十三年皇室令第十二號施行ノ際内舍人又ハ【東宮内舍人】タル者ハ宮内判任官等級令ニ拘ラス其ノ官ニ在ルノ間從前ノ官等ヲ降ルコトナシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# 第三款　外務省

## ●在外公館費用條例

（明治二十六年十月三十一日勅令第百七十一號）

改正　明治二七年第五一號、第八二號、二八年第二六號、二九年第九號、第三五七號、三〇年第四三號、第二五六號、三一年第二一二號、第二四三號、三二年第一二一號、第二八三號、三三年第一一四號、第二二一號、第四一二號、三四年第一二五號、第一九〇號、第二二五號、三五年第一三八號、三六年第五三號、第一五三號、三七年第二二號、第一七二號、三八年第六三號、第二四八號、三九年第二號、第四號、第六五號、第一六九號、第三〇七號、四〇年第一〇號、第二八六號、四一年第一一三號、第一五五號、第二九四號、四二年第二二三號、四三年第一三八號、第二五九號、第四三二號

大正二年第二一七號、第二九三號、四年第一一一號、五年第一〇七號、七年第一三三號、第二二七號、八年第二五二號、九年第六二號、第五三一號、一〇年第一一一號、第三八九號、一一年第三三七號、第五〇八號、一二年第二〇〇號、一四年第二六號、第三〇號、第九四號、一五年第一二三號

昭和二年第一九五號

朕公使館領事館費用條例ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（外務大臣副署）

在外公館費用條例

第一條　外交官、領事官、外務書記生ノ俸給ハ本俸、在勤俸及加俸ノ三種トス

第二條　削除

第三條　待命外交官及待命領事官ニハ其ノ本俸三分ノ一以内ヲ給スルコトヲ得但シ臨時外務省ノ事務ニ從事スルコトヲ命セラレタル者ニハ九人ヲ限リ其ノ本俸全額以内ヲ給スルコトヲ得

第四條　削除

第五條　在勤俸ハ外國在勤ノ場合ニ於テ別表第一號、第二號又ハ第三號ニ依リ任所到著ノ翌日ヨリ之ヲ給ス

外國ニ於テ任官シ其ノ地ニ在勤ヲ命セラレタル者ニハ就職ノ日ヨリ其ノ在勤俸ヲ給ス

在勤俸ハ年額ヲ十二分シ毎月之ヲ給ス

任所ニ於テ在勤俸ノ給額ニ異動ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ發令ノ翌日ヨリ起算シ之ヲ給ス

第六條　外交官及領事官ニシテ其ノ妻ヲ任所ニ同伴シ若ハ呼寄セタル者ニハ第七條第二項ノ場合ヲ除キ其ノ妻任所ニ到著ノ翌日ヨリ歐、米、阿弗利加、濠洲、英領印度及露領亞細亞ニ於テハ現ニ受クル在勤俸及交際加俸ノ十分ノ四亞細亞諸國ニ於テハ十分ノ三ヲ增給ス但シ外交官補ニ在リテハ大使館事務代理又ハ公使館事務代理ヲ命セラレタル者、領事官補ニ在リテハ總領事代理、領事代理、總領事館分館主任又ハ領事館分館主任ヲ命セラレタル者ニ限ル

第六條ノ二　在外公館長、總領事館分館主任ニシテ任國外又ハ管轄地域外ニ出張ヲ命セラレ當該公館ヲ離ルルコト二週間ニ達スルモノニ對シテハ其ノ翌日ヨリ歸館ノ當日迄代理ニ對スル在勤俸ト代理者ノ本官ニ對スル在勤俸トノ差額ヲ控除シタル殘額ヲ給ス

第七條　外交官領事官外務書記生兼任國若クハ兼任地駐在中ハ本任所ノ在勤俸ヲ給ス但シ在外公館長ニ於テ當該公館ヲ離ルルコト二週間ニ達スルトキハ其ノ翌日ヨリ歸館ノ當日マテ代理ニ對スル在勤俸ト代理者ノ本官ニ對スル在勤俸トノ差額ヲ控除シタル殘額ヲ給ス

兼任國又ハ兼任地駐在中ハ到著ノ翌日ヨリ出發ノ前日迄其ノ日數ニ應シ左ノ割合ニ依リ在勤俸ヲ增給ス妻ヲ同伴シタル者ニハ外交官補、領事官補及外務書記生ヲ除キ更ニ其ノ三分ノ一ヲ增給ス

| | 甲地方 | 乙地方 | 丙地方 | 丁地方 |
|---|---|---|---|---|
| 特命全權公使 | 九四圓 | 八二圓 | —圓 | —圓 |
| 大使館參事官<br>辨理公使<br>總領事（勅任）<br>臨時代理公使 | 八六 | 七四 | 四九 | 四四 |
| 大使館一等書記官<br>公使館一等書記官<br>總領事（奏任）<br>大使館二等書記官<br>公使館二等書記官<br>領事 | 五五 | 四四 | 三六 | 三二 |
| 大使館三等書記官<br>公使館三等書記官<br>大使館理事官<br>公使館理事官<br>副領事<br>外交官補<br>領事官補 | 四六 | 三六 | 二九 | 二六 |
| 外務書記生 | 三六 | 二九 | 二三 | 二〇 |

前項ノ規定中甲地方トハ南北亞米利加、乙地方トハ歐羅巴、阿弗利加、大洋洲竝支那及西比利亞以外ノ亞細亞、丙地方トハ支那（南滿洲ヲ除ク）及西比利亞、丁地方トハ南滿洲ヲ謂フ

第七條ノ二　戰時又ハ事變ニ際シ本任所ナキニ至リタル場合ニ於テ從前ノ兼任國又ハ兼任地ニ在勤ヲ命セラレタル外交官、領事官及外務書記生ノ在勤俸ハ當該本任所ノ在勤

俸ニ依ル但シ別ニ在勤俸ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ外交官、領事官及外務書記生ニシテ當該本任所ニ在勤シタル者ナルトキハ轉勤シタルモノト看做ス

第一項ノ場合ニ於テ本任所ヲ引揚ケタル公使一時從前ノ兼任國ニ駐在スルトキハ其ノ駐在中從前ノ本任所ノ在勤俸及前條第二項ノ在勤增俸ヲ給ス

第八條　歸朝ヲ命セラレタル者又ハ賜暇歸朝ヲ許サレタル者ニハ任所出發ノ前日マテ在勤俸ヲ給ス

轉勤ヲ命セラレ又ハ轉官シタル者ニハ前任所出發ノ前日マテ從前ノ在勤俸ヲ給ス但シ轉官スルモ同一ノ地ニ在勤ヲ命セラレタル者ニハ其ノ事務引繼ノ前日マテ從前ノ在勤俸ヲ給ス

第六條ノ增給ヲ受クル者轉官、轉勤又ハ歸朝ヲ命セラレタル場合ニ於テ已ヲ得サル事故ノ爲メ外務大臣ノ許可ヲ得テ其ノ妻ヲ舊任地若クハ任地ニ殘置クトキハ其ノ事故ノ存スル間從前ノ通增給ヲ給スルコトヲ得但其ノ地ノ在勤俸支給ヲ止メタル日ヨリ起算シテ百八十日ヲ超ルコトヲ得ス

第九條　轉勤又ハ歸朝ヲ命セラレタル者又ハ轉官シタル者ニ在勤俸ヲ給スルハ命令到達ノ日ヨリ三週間ヲ以テ限トス但特別ノ命令アルトキ又ハ病ニ罹リ外務大臣ノ許可ヲ得テ滯留スル者ハ此ノ限ニアラス

第九條ノ二　在勤俸ハ在外公館職員カ休暇中其ノ任地ヲ離レタル場合ト雖外務大臣ノ定ムル期間仍之ヲ支給スルコトヲ得第六條ノ增給ヲ受クル者ノ妻カ病氣又ハ夫ノ病氣看護ノ爲任地ヲ離レタル場合ニ於テ其ノ增給ニ付亦同シ

第十條　削除

第十一條　任所ニ於テ非職ヲ命セラレタル者又ハ退官シタル者ニハ其ノ命令到達ノ月マテ本俸及在勤俸ヲ給ス

任所ニ於テ死亡シタルトキハ其ノ當月マテ在勤俸ヲ給ス

前項ノ場合ニ於テ第六條ノ增給ハ死亡ノ日ヨリ四週間以內ヲ限リ其ノ妻舊任地出發ノ前日マテ從前ノ通之ヲ給スルコトヲ得其ノ已ムヲ得サル事故ノ爲メ四週間以內ニ出發スルコト能ハス特ニ外務大臣ノ許可ヲ得タル者ニハ死亡ノ日ヨリ百八十日ヲ限リ其ノ事故ノ存スル間仍其ノ增給ヲ給スルコトヲ得

第六條ノ增給ヲ受クル者ノ妻任所ニ於テ死亡シタルトキハ其ノ當月マテ增給ス

第十一條ノ二　外務大臣ハ總領事、領事及副領事ニシテ引續キ五年以上同一ノ官ヲ以テ同一ノ公館ニ勤務シ功績アル者ニ在勤俸ノ十分ノ六以內ノ交際加俸ヲ給スルコトヲ得但シ代理ニ對スル在勤俸ヲ受クル者ニ付テハ其ノ本官ニ對スル在勤俸ニ依ル

前項ノ交際加俸ヲ受クル領事官副領事ヨリ領事ニ又ハ領事ヨリ總領事ニ任セラレ仍同一ノ公館ニ勤務スル場合ニ於テ其ノ受クヘキ在勤俸ノ額カ從前受ケタル在勤俸及交際加俸ノ通算額ヨリ少キトキハ前項ノ規定ニ依リ後ノ官ニ對スル交際加俸ヲ給スルニ至ルマテ其ノ差額ヲ交際加俸トシテ給ス

第一項ノ規定ニ依ル勤續年數ノ算定ニ付テハ養病歸朝ノ場合ニ於ケル任地出發ノ翌日ヨリ歸任ノ當日ニ至ルマテノ期間ハ之ヲ控除ス

第十一條ノ三　外務大臣ハ奏任官以下ノ在外公館職員ニシテ其ノ在勤地ニ必要ナル語學ニ通達シ尙其ノ語學ニ精熟セムトスル者ニ特ニ考査ヲ經テ在勤俸ノ十分ノ二以內ノ語學加俸ヲ給スルコトヲ得但シ英語、佛語及獨語ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條ノ四　前二條ノ加俸ノ支給ニ付テハ在勤俸ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條　外交官及領事官ニシテ外國在勤中同一ノ任所ニ於テ判任官ヨリ奏任官ニ又ハ奏任官ヨリ勅任官ニ陞敍セラレタルモノニハ外務大臣ハ大藏大臣ト協議シテ定ムル所ニ依リ一時限リ在勤俸年額ノ百分ノ九以內ノ加俸ヲ支給スルコトヲ得但シ其ノ金額五百圓ニ滿タサルトキハ五百圓迄ヲ支給スルコトヲ得

第十三條　代理者ニハ其ノ事務引繼ヲ受ケタル日ヨリ代理中左ノ割合ニ依リ代理ニ對スル在勤俸ヲ給ス但シ當該主任官到著ノ場合ニ於テハ其ノ到著ノ日ヲ以テ限リトス

| | |
|---|---|
| 臨時代理大使 | 特命全權大使ノ在勤俸ノ十分ノ四乃至八 |
| 臨時代理公使 | 特命全權公使ノ在勤俸ノ十分ノ四乃至八 |
| 總領事代理 | 總領事（奏任）ノ在勤俸ノ十分ノ七乃至九 |
| 領事代理 | 領事ノ在勤俸ノ十分ノ七乃至九 |
| 大使館事務代理 | 特命全權大使ノ在勤俸ノ十分ノ三乃至五 |
| 公使館事務代理 | 特命全權公使ノ在勤俸ノ十分ノ三乃至五 |
| 總領事館事務代理 | 總領事（奏任）ノ在勤俸ノ十分ノ五乃至九 |
| 領事館事務代理 | 領事ノ在勤俸ノ十分ノ五乃至九 |

代理者到著ノ日ニ事務ノ引繼ヲ受ケタルトキハ其ノ翌日ヨリ之ヲ給ス

在外公館長休暇中又ハ兼任國若ハ兼任地駐在ノ場合又ハ任國外若ハ管轄地域外ニ出張ノ場合ニ於テ當該公館ヲ離ルルコト二週間ニ達スルトキハ代理者ニ其ノ翌日ヨリ歸館ノ當日迄代理ニ對スル在勤俸ヲ給ス

前項ノ規定ハ總領事館分館主任又ハ領事館分館主任タル副領事、領事官補又ハ外務書記生休暇中又ハ管轄地域外ニ出張ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ代理者ニ給スヘキ代理ニ對スル在勤俸ノ額ハ其ノ者カ當該分館主任タル場合ニ於ケル在勤俸ノ額以下トス

第十四條　本令ニ於テ轉官トアルハ外交官、領事官、外務書記生ノ間ニ其ノ官ヲ轉スルヲ謂ヒ轉勤トアルハ其ノ任所ヲ轉スルヲ謂フ

第十五條　大使館商務參事官、大使館商務書記官及公使館商務書記官ニ關スル本令ノ適用ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大使館商務參事官ハ大使館參事官、大使館商務書記官及公使館商務書記官ニシテ高等官四等以上ノモノハ大使館一等書記官及公使館一等書記官、大使館商務書記官及公使館商務書記官ニシテ高等官五等ノモノハ大使館二等書記官及公使館二等書記官、大使館商務書記官及公使館商務書記官ニシテ高等官六等以下ノモノハ大使館三等書記官及公使館三等書記官ト看做ス

第十六條　貿易事務官ニハ其ノ官等ニ應シ本令ニ揭クル領事ニ關スル規程ヲ適用ス

第十七條　名譽領事ニハ事務所費トシテ年額八百圓以內ヲ給スルコトヲ得

第十八條　名譽領事館ニ外務書記生ヲ在勤セシムルトキハ其ノ在勤俸ハ最近地領事館ノ例ニ依ル

附　則（大正十四年勅令第九十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ商務官又ハ副商務官ノ職ニ在ル者ニシテ總領事、領事又ハ副領事ニ任セラレ引續キ同一ノ地ニ在勤スルモノハ第十一條ノ二ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ引續キ同一ノ官ヲ以テ同一ノ公館ニ勤務スル者ト看做ス

別表第一號

### 大使館公使館及國際聯盟帝國事務局職員在勤俸

| 官名／任所 | 特命全權大使 | 特命全權公使 | 大使館參事官 | | 大使館一等書記官<br>公使館一等書記官 | 大使館二等書記官<br>公使館二等書記官 | 大使館三等書記官<br>公使館三等書記官 | 大使館理事官<br>公使館理事官 | | | 副領事 | | | 外交官補 | 外務書記生 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 高等官一等 | 高等官二等 | | | | 高等官五等以上 | 高等官六等 | 高等官七等 | 高等官五等以上 | 高等官六等 | 高等官七等 | | 判任官一級俸特別俸 | 判任官二級俸三級俸四級俸 | 判任官五級俸六級俸七級俸 | 判任官八級俸以下 |
| 英 | 四〇、〇〇〇圓 | — | 一五、〇〇〇 | 一三、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 七、九〇〇 | 六、七五〇 | 七、四五〇 | 六、七五〇 | 六、二五〇 | — | — | — | 五、八〇〇 | 六、七五〇 | 五、八〇〇 | 四、八〇〇 | 四、三〇〇 |
| 佛 | 四〇、〇〇〇圓 | 二二、〇〇〇 | 一五、〇〇〇 | 一三、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 七、九〇〇 | 六、七五〇 | 七、四五〇 | 六、七五〇 | 六、二五〇 | — | — | — | 五、八〇〇 | 六、七五〇 | 五、八〇〇 | 四、八〇〇 | 四、三〇〇 |
| 獨 | 三五、〇〇〇圓 | — | 一四、〇〇〇 | 一二、〇〇〇 | 九、五〇〇 | 七、六〇〇 | 六、四五〇 | 七、一五〇 | 六、四五〇 | 六、〇〇〇 | — | — | — | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |
| 露 | 三〇、〇〇〇圓 | — | 一三、〇〇〇 | 一二、〇〇〇 | 九、五〇〇 | 七、六〇〇 | 六、四五〇 | 七、一五〇 | 六、四五〇 | 六、〇〇〇 | — | — | — | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |
| 埃 | —圓 | 二五、〇〇〇 | — | — | 九、八〇〇 | 七、六〇〇 | 六、四五〇 | — | — | — | — | — | — | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |
| 伊 | 三〇、〇〇〇圓 | — | 一三、〇〇〇 | 一二、〇〇〇 | 九、五〇〇 | 七、六〇〇 | 六、四五〇 | 七、一五〇 | 六、四五〇 | 六、〇〇〇 | — | — | — | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |
| 土耳古 | 三〇、〇〇〇圓 | — | 一三、〇〇〇 | 一二、〇〇〇 | 九、五〇〇 | 七、六〇〇 | 六、四五〇 | 七、一五〇 | 六、四五〇 | 六、〇〇〇 | — | — | — | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |
| 瑞西 | —圓 | 二二、〇〇〇 | 一三、〇〇〇 | 一二、〇〇〇 | 九、三〇〇 | 七、四〇〇 | 六、三〇〇 | — | — | — | — | — | — | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 白 | 二六、〇〇〇圓 | — | 一二、〇〇〇 | 一一、〇〇〇 | 九、三〇〇 | 七、四〇〇 | 六、三〇〇 | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | — | — | — | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 蘭 | —圓 | 二二、〇〇〇 | — | — | 九、三〇〇 | 七、四〇〇 | 六、三〇〇 | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 瑞典 | —圓 | 二二、〇〇〇 | — | — | 九、三〇〇 | 七、四〇〇 | 六、三〇〇 | — | — | — | — | — | — | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 波 | —圓 | 二二、〇〇〇 | — | — | 九、三〇〇 | 七、四〇〇 | 六、三〇〇 | — | — | — | — | — | — | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| チエツコ、スロヴアキア | —圓 | 二二、〇〇〇 | — | — | 九、三〇〇 | 七、四〇〇 | 六、三〇〇 | — | — | — | — | — | — | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 羅 | —圓 | 二二、〇〇〇 | — | — | 九、三〇〇 | 七、四〇〇 | 六、三〇〇 | — | — | — | — | — | — | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 希 | —圓 | 二二、〇〇〇 | — | — | 九、三〇〇 | 七、四〇〇 | 六、三〇〇 | — | — | — | — | — | — | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 西 | —圓 | 二二、〇〇〇 | — | — | 九、三〇〇 | 七、四〇〇 | 六、三〇〇 | — | — | — | — | — | — | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 支 | 二六、〇〇〇圓 | — | 一〇、〇〇〇 | 九、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 四、四〇〇 | 三、五〇〇 | 三、九〇〇 | 三、五〇〇 | 三、二五〇 | — | — | — | 二、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、七〇〇 |
| 暹 | —圓 | 一五、〇〇〇 | — | — | 六、六〇〇 | 五、二五〇 | 四、五〇〇 | — | — | — | — | — | — | 三、八五〇 | 四、五〇〇 | 三、八五〇 | 三、二〇〇 | 二、九〇〇 |
| 米 | 四五、〇〇〇圓 | — | 一六、〇〇〇 | 一四、〇〇〇 | 一〇、五〇〇 | 八、三五〇 | 七、〇〇〇 | 七、七五〇 | 七、〇〇〇 | 六、五〇〇 | 七、七五〇 | 七、〇〇〇 | 六、五〇〇 | 六、〇〇〇 | 七、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 五、〇〇〇 | 四、五〇〇 |
| 墨 | —圓 | 一八、〇〇〇 | — | — | 八、三〇〇 | 六、六五〇 | 五、六〇〇 | — | — | — | — | — | — | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| 伯 | 三〇、〇〇〇圓 | — | 一三、〇〇〇 | 一二、〇〇〇 | 九、五〇〇 | 七、六〇〇 | 六、四五〇 | — | — | — | — | — | — | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |
| 亞 | —圓 | 二〇、〇〇〇 | — | — | 一〇、〇〇〇 | 七、九〇〇 | 六、七五〇 | — | — | — | — | — | — | 五、八〇〇 | 六、七五〇 | 五、八〇〇 | 四、八〇〇 | 四、三〇〇 |
| 智 | —圓 | 一八、〇〇〇 | — | — | 八、三〇〇 | 六、六五〇 | 五、六〇〇 | — | — | — | — | — | — | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| 秘 | —圓 | 一八、〇〇〇 | — | — | 八、三〇〇 | 六、六五〇 | 五、六〇〇 | — | — | — | — | — | — | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |

備考　支那ニ在勤スル特命全權公使ノ在勤俸ノ額ハ當分ノ內從前ノ例ニ依ル

別表第二號

### 領事館職員在勤俸

| 官名／任所 | 總領事 | 領事 | | 副領事 | | | 領事官補 | 外務書記生 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 分館主任、出張所主任 | 高等官五等以上 | 高等官六等 | 高等官七等 | | 判任官一級俸特別俸 | 判任官二級俸三級俸四級俸 | 判任官五級俸六級俸七級俸 | 判任官八級俸以下 |
| 倫敦 | 甲一三、〇〇〇圓<br>乙一〇、〇〇〇 | 八、一五〇圓 | —圓 | 七、四五〇圓 | 六、七五〇圓 | 六、二五〇圓 | 五、八〇〇圓 | 六、七五〇圓 | 五、八〇〇圓 | 四、八〇〇圓 | 四、三〇〇圓 |
| リヴアプール | — | 八、〇〇〇 | — | 七、一五〇 | 六、四五〇 | 六、〇〇〇 | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |
| 里昂 | — | 七、五〇〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 馬耳塞 | — | 八、〇〇〇 | — | 七、一五〇 | 六、四五〇 | 六、〇〇〇 | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 未蘭 | — | 七、五〇〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| アンヴェルス | — | 七、五〇〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 漢堡 | 甲一二、〇〇〇<br>乙一〇、〇〇〇 | 七、六五〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| オデッサ | — | 七、五〇〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 莫斯科 | 甲一二、〇〇〇<br>乙一〇、〇〇〇 | 七、八〇〇 | — | 七、一五〇 | 六、四五〇 | 六、〇〇〇 | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |
| ブラゴウェスチェンスク | — | 六、〇〇〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| ハバロフスク | 甲一〇、〇〇〇<br>乙八、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| ペトロパウロフスク | — | 六、〇〇〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| ノヴォシビルスク | — | 六、〇〇〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| 浦潮斯徳 | 甲一〇、〇〇〇<br>乙八、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| アレクサンドロウスク | 甲一〇、〇〇〇<br>乙八、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| オハ | — | — | 甲五、四〇〇<br>乙五、〇〇〇 | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| 哈爾賓 | 甲一〇、〇〇〇<br>乙八、〇〇〇 | 四、五〇〇 | — | 三、九〇〇 | 三、五〇〇 | 三、二五〇 | 三、〇〇〇 | 三、五〇〇 | 三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二〇〇 |
| 滿洲里 | — | 六、〇〇〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| 齊齊哈爾 | — | 五、〇〇〇 | — | 二、九五〇 | 二、七〇〇 | 二、四五〇 | 二、三〇〇 | 二、七〇〇 | 二、三〇〇 | 一、九〇〇 | 一、七〇〇 |
| 長春 | — | 五、五〇〇 | — | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 農安 | — | — | 甲三、五〇〇<br>乙三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 吉林 | 甲七、〇〇〇<br>乙六、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 間島 | 甲七、〇〇〇<br>乙六、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 琿春 | — | — | 甲三、五〇〇<br>乙三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 百草溝 | — | — | 甲三、五〇〇<br>乙三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 局子街 | — | — | 甲三、五〇〇<br>乙三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 頭道溝 | — | — | 甲三、五〇〇<br>乙三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 安東 | — | 五、〇〇〇 | — | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 帽兒山 | — | — | 甲三、五〇〇<br>乙三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 通化 | — | — | 甲三、五〇〇<br>乙三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 鐵嶺 | — | 四、五〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 掏鹿 | — | — | 甲三、五〇〇<br>乙三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 海龍 | — | — | 甲三、五〇〇<br>乙三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 奉天 | 甲一二、〇〇〇<br>乙九、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 新民府 | — | — | 甲三、五〇〇<br>乙三、〇〇〇 | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 洮南 | — | 四、五〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 鄭家屯 | — | 四、五〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 遼陽 | — | 四、五〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 牛莊 | — | 五、〇〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 赤峰 | — | 四、五〇〇 | — | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 張家口 | — | 五、〇〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 北京 | — | 五、五〇〇 | — | 三、一〇〇 | 二、八〇〇 | 二、六〇〇 | 二、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、七〇〇 |
| 天津 | 甲九、〇〇〇<br>乙八、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 芝罘 | — | 四、五〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 青島 | 甲九、〇〇〇<br>乙八、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 坊子 | — | — | 甲三、七〇〇<br>乙三、二〇〇 | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 済南 | 甲八、五〇〇<br>乙七、五〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 張店 | — | — | 甲三、七〇〇<br>乙三、二〇〇 | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 博山 | — | — | 甲三、七〇〇<br>乙三、二〇〇 | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 上海 | 甲一二、〇〇〇<br>乙九、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、八〇〇 | 二、五五〇 | 二、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、五五〇 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 杭州 | — | 四、〇〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 蘇州 | — | 四、〇〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 南京 | — | 五、五〇〇 | — | 二、八〇〇 | 二、五五〇 | 二、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、五五〇 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 蕪湖 | — | 四、五〇〇 | — | 二、八〇〇 | 二、五五〇 | 二、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、五五〇 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 九江 | — | 四、五〇〇 | — | 二、八〇〇 | 二、五五〇 | 二、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、五五〇 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 漢口 | 甲九、〇〇〇<br>乙八、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、八〇〇 | 二、五五〇 | 二、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、五五〇 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 宜昌 | — | 四、五〇〇 | — | 二、八〇〇 | 二、五五〇 | 二、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、五五〇 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 沙市 | — | 四、五〇〇 | — | 二、八〇〇 | 二、五五〇 | 二、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、五五〇 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 長沙 | — | 五、〇〇〇 | — | 二、八〇〇 | 二、五五〇 | 二、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、五五〇 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 重慶 | — | 四、五〇〇 | — | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 成都 | 甲七、〇〇〇<br>乙六、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、六五〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇五〇 | 二、四〇〇 | 二、〇五〇 | 一、七〇〇 | 一、五五〇 |
| 福州 | 甲七、〇〇〇<br>乙六、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 厦門 | — | 五、〇〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 汕頭 | — | 四、五〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 廣東 | 甲八、五〇〇<br>乙七、五〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、八〇〇 | 二、五五〇 | 二、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、五五〇 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 雲南 | — | 五、〇〇〇 | — | 二、五〇〇 | 二、二五〇 | 二、一〇〇 | 一、九五〇 | 二、二五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、四五〇 |
| 香港 | 甲八、五〇〇<br>乙七、五〇〇 | 四、〇〇〇 | — | 二、八〇〇 | 二、五五〇 | 二、三五〇 | 二、二〇〇 | 二、五五〇 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 河内 | 甲八、五〇〇<br>乙七、五〇〇 | 四、七五〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、七五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| 西貢 | — | 六、五〇〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| 新嘉坡 | 甲一〇、〇〇〇<br>乙八、〇〇〇 | 四、七五〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| マニラ | 甲九、〇〇〇<br>乙八、〇〇〇 | 五、九五〇 | — | 五、四五〇 | 四、九〇〇 | 四、五五〇 | 四、二〇〇 | 四、九〇〇 | 四、二〇〇 | 三、五〇〇 | 三、一〇〇 |
| ダヴァオ | — | — | 甲五、〇〇〇<br>乙四、五〇〇 | 四、六五〇 | 四、二〇〇 | 三、九〇〇 | 三、六〇〇 | 四、二〇〇 | 三、六〇〇 | 三、〇〇〇 | 二、六〇〇 |
| スラバヤ | — | 六、〇〇〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| バタヴィア | 甲八、五〇〇<br>乙七、五〇〇 | 四、七五〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| メダン | — | 六、〇〇〇 | — | 四、三五〇 | 三、九五〇 | 三、六五〇 | 三、四〇〇 | 三、九五〇 | 三、四〇〇 | 二、八〇〇 | 二、四〇〇 |
| 蘭貢 | — | 七、〇〇〇 | — | 四、九五〇 | 四、五〇〇 | 四、一五〇 | 三、八五〇 | 四、五〇〇 | 三、八五〇 | 三、二〇〇 | 二、八〇〇 |
| カルカタ | 甲一〇、〇〇〇<br>乙八、〇〇〇 | 五、一〇〇 | — | 四、六五〇 | 四、二〇〇 | 三、九〇〇 | 三、六〇〇 | 四、二〇〇 | 三、六〇〇 | 三、〇〇〇 | 二、六〇〇 |
| コロンボ | — | 七、〇〇〇 | — | 四、六五〇 | 四、二〇〇 | 三、九〇〇 | 三、六〇〇 | 四、二〇〇 | 三、六〇〇 | 三、〇〇〇 | 二、六〇〇 |
| 孟買 | — | 七、〇〇〇 | — | 四、九五〇 | 四、五〇〇 | 四、一五〇 | 三、八五〇 | 四、五〇〇 | 三、八五〇 | 三、二〇〇 | 二、八〇〇 |
| アレキサンドリヤ | 甲一二、〇〇〇<br>乙九、〇〇〇 | 六、八〇〇 | — | 六、二〇〇 | 五、六〇〇 | 五、二〇〇 | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| ポートサイド | — | 七、〇〇〇 | — | 六、二〇〇 | 五、六〇〇 | 五、二〇〇 | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| ケープタウン | — | 七、〇〇〇 | — | 六、二〇〇 | 五、六〇〇 | 五、二〇〇 | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| シドニー | 甲一二、〇〇〇<br>乙一〇、〇〇〇 | 六、八〇〇 | — | 六、二〇〇 | 五、六〇〇 | 五、二〇〇 | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| ホノルル | 甲一二、〇〇〇<br>乙一〇、〇〇〇 | 六、八〇〇 | — | 六、二〇〇 | 五、六〇〇 | 五、二〇〇 | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| 桑港 | 甲一四、〇〇〇<br>乙一二、〇〇〇 | 七、八〇〇 | — | 七、一五〇 | 六、四五〇 | 六、〇〇〇 | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |
| ロスアンゼルス | — | 八、〇〇〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| ポートランド | — | 八、〇〇〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| シアトル | — | 八、五〇〇 | — | 七、一五〇 | 六、四五〇 | 六、〇〇〇 | 五、五五〇 | 六、四五〇 | 五、五五〇 | 四、六〇〇 | 四、一〇〇 |
| シカゴ | — | 八、五〇〇 | — | 七、七五〇 | 七、〇〇〇 | 六、五〇〇 | 六、〇〇〇 | 七、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 五、〇〇〇 | 四、五〇〇 |
| 紐育 | 甲一五、〇〇〇<br>乙一三、〇〇〇 | 八、五〇〇 | — | 七、七五〇 | 七、〇〇〇 | 六、五〇〇 | 六、〇〇〇 | 七、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 五、〇〇〇 | 四、五〇〇 |
| ニューオルレアンス | — | 八、〇〇〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| 晩香坡 | — | 八、〇〇〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| オタワ | 甲一二、〇〇〇<br>乙一〇、〇〇〇 | 七、六五〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| ハヴァナ | — | 九、〇〇〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| パナマ | — | 八、〇〇〇 | — | 七、〇〇〇 | 六、三〇〇 | 五、八五〇 | 五、四〇〇 | 六、三〇〇 | 五、四〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 |
| マサトラン | — | 七、五〇〇 | — | 六、二〇〇 | 五、六〇〇 | 五、二〇〇 | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| 里馬 | — | 七、五〇〇 | — | 六、二〇〇 | 五、六〇〇 | 五、二〇〇 | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| サンパウロ | 甲一二、〇〇〇<br>乙一〇、〇〇〇 | 七、〇〇〇 | — | 六、二〇〇 | 五、六〇〇 | 五、二〇〇 | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| サントス | — | — | 甲七、二〇〇<br>乙六、四〇〇 | 六、二〇〇 | 五、六〇〇 | 五、二〇〇 | 四、八〇〇 | 五、六〇〇 | 四、八〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、五〇〇 |
| リベロンプレート | — | — | 甲六、八〇〇<br>乙六、〇〇〇 | 四、六五〇 | 四、二〇〇 | 三、九〇〇 | 三、六〇〇 | 四、二〇〇 | 三、六〇〇 | 三、〇〇〇 | 二、六〇〇 |
| バウルー | — | 八、〇〇〇 | — | 六、五〇〇 | 五、九〇〇 | 五、四五〇 | 五、〇五〇 | 五、九〇〇 | 五、〇五〇 | 四、二〇〇 | 三、七〇〇 |

備考

一　總領事ノ在勤俸ハ勅任總領事ニ甲額ヲ、奏任總領事ニ乙額ヲ給ス

二　分館主任又ハ出張所主任ノ在勤俸ハ副領事又ハ領事官補ニ甲額ヲ、外務書記生ニ乙額ヲ給ス

別表第三號

### 大使館商務參事官、大使館商務書記官及公使館商務書記官在勤俸

| 官名＼任所 | 歐洲 | 北米 | 南米 | 支那 | 印度及南洋 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大使館商務參事官 | 一二、〇〇〇（圓以内） | 一五、〇〇〇（圓以内） | 一二、〇〇〇（圓以内） | 一一、〇〇〇（圓以内） | 一〇、〇〇〇（圓以内） |

| 大使館商務書記官<br>公使館商務書記官 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 高等官四等以上 | 一〇、〇〇〇 | 一三、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 九、〇〇〇 | 八、〇〇〇 |
| 高等官五等 | 七、四五〇 | 七、七五〇 | 七、四五〇 | 二、八〇〇 | 四、三五〇 |
| 高等官六等 | 六、七五〇 | 七、〇〇〇 | 六、七五〇 | 二、五五〇 | 三、九五〇 |
| 高等官七等 | 六、二五〇 | 六、五〇〇 | 六、二五〇 | 二、三五〇 | 三、六五〇 |

## ●在外公館費用條例施行細則

（大正十四年三月二十四日外務省令第三號）

在外公館費用條例施行細則左ノ通相定ム

在外公館費用條例施行細則

第一條　外國在勤中ノ本俸及在勤俸ハ毎月二十一日之ヲ給ス但シ休日ニ當ルトキハ順延トス

歸朝、轉勤、轉官等ノ爲メ任所ヲ離ルル場合ニ於テ本俸及在勤俸ノ日割計算ヲ要スルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ其ノ出發前日ニ給スルコトヲ得

第二條　在外公館費用條例第七條第二項ノ場合ニ於テ本任國到著前兼任國ニ駐在シタルトキハ同條ニ規定シタル分額ノミヲ給スルモノトス

第三條　外國在勤中轉官スルモ同一ノ地ニ在勤ヲ命セラレタル者ハ其ノ事務引繼ノ當日ヨリ新任所ノ在勤俸ヲ給ス

第四條　在外公館費用條例第十一條ノ三ヲ適用スヘキ語學ハ支那語、蒙古語、朝鮮語、露西亞語、安南語、馬來語、暹羅語、印度語、波斯語、亞剌比亞語、土耳古語、勃爾牙利語、羅馬尼語、希臘語、「セルビア」語、洪牙利語、「チェック」語、伊太利語、西班牙語、葡萄牙語、和蘭語、丁抹語、波蘭語、芬蘭語、瑞典語又ハ諾威語トス

語學加俸ヲ受ケムカ爲メ特ニ考査ヲ求メムト欲スル者ハ考査上參考トナルヘキ書類ヲ添附シ在外公館ノ館長タル場合ニ於テハ直接外務大臣ニ又館長タラサル場合ニ於テハ當該館長ヲ經テ外務大臣ニ申請スヘシ當該館長ヲ經ル場合ニ於テハ該館長ハ意見ヲ附シテ申請書ヲ外務大臣ニ申達スヘシ

外務省留學生トシテ講習シタル語學竝特別任用ニ係ル大使館通譯官、公使館通譯官、外務通譯生又ハ此等ノ官ヨリ外交官、領事官貿易事務官若ハ外務書記生ニ任セラレタル者ニシテ該特別任用ノ際詮衡ヲ經タル語學ニ付テハ其ノ成績特ニ優秀ナル場合ニ限リ加俸ヲ給スルコトヲ得

第五條　病ニ罹リ歸朝若ハ滯留ヲ願出ツル場合ニ於テハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外必ス醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

在外公館費用條例第十一條第三項後段ノ場合ニ於テ外務大臣ノ許可ヲ得ムトスルトキハ其ノ夫ノ在勤シタル在外公館員ノ連印ヲ要ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十六年外務省令第三號ハ之ヲ廢止ス

## ●待命外交官ニシテ他ノ外交官ヲ兼ヌル者ノ俸給ニ關スル件

（大正五年七月三日勅令第百七十五號）

朕待命外交官ニシテ他ノ外交官ヲ兼ヌル者ノ俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

待命外交官ニシテ須要ニ應シ他ノ外交官ヲ兼ヌル者ニハ本官ノ本俸全額ヲ給ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●大使館通譯官ニ關スル件

（明治三十八年十二月二日勅令第二百四十九號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大使館通譯官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

大使館一等通譯官及大使館二等通譯官ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ニ關スル規定ヲ準用ス

## ●公使館一等通譯官公使館二等通譯官及外務通譯生ノ在勤俸加俸旅費等ニ關スル件

（大正七年六月十三日勅令第二百二十六號）

朕公使館一等通譯官公使館二等通譯官及外務通譯生ノ在勤俸加俸旅費等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

第一條　公使館一等通譯官及公使館二等通譯官ノ在勤俸、加俸、退官賜金、死亡賜金及旅費ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外公使館三等書記官ニ關スル規定ヲ準用ス但シ公使館二等通譯官ノ在勤俸ノ額ハ公使館三等書記官ノ在勤俸ノ額以下トス

第二條　外務通譯生ノ在勤俸、加俸、退官賜金、死亡賜金及旅費ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外外務書記生ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十八年勅令第八十三號ハ之ヲ廢止ス

## ●外務省警視ノ在勤俸及加俸ニ關スル件

（大正七年七月二十日勅令第二百九十三號）
改正　大正一三年第一九四號

朕外務省警視ノ在勤俸加俸旅費等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

外務省警視ノ在勤俸及加俸ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外副領事ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# 第四款　內務省

## ●國際勞働機關帝國事務所職員給與令

（昭和二年六月三十日勅令第二百六號）

朕國際勞働機關帝國事務所職員給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

國際勞働機關帝國事務所職員給與令

第一條　國際勞働機關帝國事務所職員ノ給與ニ關シテハ在外公館費用條例ヲ準用ス

第二條　前條ノ規定ニ依ル在外公館費用條例ノ適用ニ付テハ所長ハ特命全權公使、高等官三等又ハ四等ノ者ハ大使館又ハ公使館ノ一等書記官、高等官五等ノ者ハ大使館又ハ公使館ノ二等書記官、高等官六等ノ者ハ大使館又ハ公使館ノ三等書記官、高等官七等ノ者ハ外交官補、判任官ハ外務書記生ト看做ス但シ所長ノ在勤俸額ハ別表ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

| 官名 | 官等 | 在勤俸額 |
|---|---|---|
| 所長 | 一等 | 二〇、〇〇〇圓 |
| | 二等 | 一六、〇〇〇 |

## ●神宮司廳職員官等俸給令

（大正十年十二月十七日勅令第四百六十九號）
改正　大正一三年第二九四號

朕明治四十三年勅令第百四十號神宮司廳職員官等俸給ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

神宮司廳職員官等俸給令

第一條　大宮司ハ高等官一等又ハ二等トス

第二條　少宮司ハ高等官二等乃至四等トス

第三條　禰宜ハ高等官四等乃至八等、技師ハ高等官五等乃至八等トス但シ三年以上各其ノ官ノ最高官等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ一等ヲ陞敍スルコトヲ得

第四條　高等官ノ俸給ハ年俸トシ別表甲號ニ依リ判任官ノ俸給ハ月俸トシ別表乙號ニ依ル

判任官ノ俸給ハ月俸七十五圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　大宮司、少宮司、禰宜、衞士長又ハ技師ニシテ五年以上各其ノ官ニ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナルモノニハ特ニ七百圓以內ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第六條　禰宜、宮掌、衞士副長又ハ技手ニシテ五年以上各其ノ官ニ一級俸ヲ受ケテ在職シ成績優等ナルモノニハ特ニ月額四十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第七條　伶人、衞士及森林監守ノ俸給ハ大宮司ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ニ對シ支給スル俸給額ハ本令施行ノ際ニ限リ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

本令施行ノ際現ニ神宮ノ禰宜又ハ宮掌タル者ハ文武判任官等級令ニ拘ラス其ノ官ニ在ル間從前ノ等級ヲ降ルコトナキモノトス

（別表）

甲號

神宮司廳高等官俸給表

| 級俸／官名 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 祭主 | 七、〇〇〇 | | | | | | | | | | |
| 大宮司 | 五、二〇〇 | 四、八〇〇 | 四、五〇〇 | | | | | | | | |
| 少宮司 | 四、五〇〇 | 四、一〇〇 | 三、八〇〇 | 三、四〇〇 | 三、一〇〇 | | | | | | |
| 禰宜<br>衞士長 | 三、一〇〇 | 二、七〇〇 | 二、四〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 | 一、四〇〇 | 一、二〇〇 | 一、一〇〇 | 一、〇〇〇 | 九〇〇 |
| 技師 | 三、八〇〇 | 三、四〇〇 | 三、一〇〇 | 二、七〇〇 | 二、四〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 | 一、四〇〇 | 一、二〇〇 | 一、一〇〇 |

乙號

神宮司廳判任官俸給表

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 禰宜 | 一三五 | 一一五 | 一〇〇 | 八五 | | | | | | | |
| 宮掌 | 七五 | 六五 | 五五 | 五〇 | 四五 | 四〇 | | | | | |
| 衞士副長 | 一三五 | 一一五 | 一〇〇 | 八五 | 七五 | 六五 | 五五 | 五〇 | | | |
| 技手 | 一六〇 | 一三五 | 一一五 | 一〇〇 | 八五 | 七五 | 六五 | 五五 | 五〇 | 四五 | 四〇 |

## ●神宮大宮司及少宮司ノ初敍及陞敍ノ官等ニ關スル件

（明治三十五年二月十日勅令第三十一號）
改正　明治三六年第二八五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ神宮大宮司及少宮司ノ初敍及陞敍竝他官ニ轉任又ハ再任スル場合ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

神宮大宮司及少宮司ノ初敍及陞敍ノ官等ハ高等官官等俸給令〔第七條及第八條〕ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

## ●神宮司廳職員及神宮皇學館職員ノ支給俸給額ニ關スル件

（大正十年十二月十七日內務省令第二十六號）

大正十年勅令第四百六十九號附則及大正十年勅令第四百七十號附則ノ規定ニヨリ神宮司廳職員及神宮皇學館職員ニシテ從前ノ規定ニヨリ俸給ヲ受クルモノニ對シ支給スル俸給額ハ現ニ受クル本俸年額（神宮職員賞與支給規程ニヨル勤勵手當ヲ受クル者ニ在リテハ本俸年額及勤勵手當額ノ合算額ヲ以テ本俸年額ト看做ス）ニ付左ノ區分ニヨリ算出シタル金額ニ相當スル級俸又ハ俸給ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

一　本俸年額三千圓ヲ超ユルモノ
　其ノ年額ニ千五百圓ヲ加ヘタル額
一　本俸年額千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額ニ其ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額及二百圓ヲ加ヘタル額
一　本俸年額三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額ニ其ノ二分ノ一ニ相當スル金額及百二十圓ヲ加ヘタル額
一　本俸年額三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額ニ三百圓ヲ加ヘタル額
一　本俸年額三百圓以下ノモノ
　其ノ年額ノ二倍ニ相當スル金額

從前ノ規定ニヨリ一級俸又ハ最高俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ本令ニ依ル一級俸又ハ最高俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス但シ從前ノ規定ニ依ル一級俸又ハ最高俸ニ付前項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依ル改正俸給ノ二級俸以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ニ依ル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●奏任及判任待遇神宮職員俸給規則

（大正十年十二月十九日內務省令第二十八號）
改正　大正一三年第二八號
昭和二年第一〇號

奏任及判任待遇神宮職員俸給規則左ノ通定ム

奏任及判任待遇神宮職員俸給規則

第一條　神部ノ俸給ハ年俸神部補及伶人ノ俸給ハ月俸トシ別表ニ依ル判任待遇ノ職ニ在ル者ノ俸給ハ月俸七十圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第二條　五年以上一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ神部ニ在リテハ五百圓以內神部補及伶人ニ在リテハ月額二十圓以內ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第三條　衞士及森林監守ノ月俸ハ三十圓乃至七十圓トス但シ衞士及森林監守部長タル衞士及森林監守ニハ八十圓迄ヲ給スルコトヲ得

特別技能ヲ有スル衞士及森林監守ニハ一箇月十圓以內ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第四條　衞士及森林監守ノ將給ハ五圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　衞士及森林監守ニシテ五年以上最高俸ヲ受ケテ在職シ事務練熟優等ノ者ニハ特ニ月額二十圓以內加給スルコトヲ得

第六條　俸給ノ支給方ハ奏任待遇ノ者ニ在リテハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ判任待遇ノ者ニ在リテハ判任官俸給支給ノ例ニ依ル但シ休職給ヲ給スルモノノ外其ノ當月分全額ヲ給ス

附　則

本令ハ大正十年十二月十七日ヨリ之ヲ適用ス

明治四十五年內務省令第三號大正元年內務省令第一號ハ之ヲ廢止ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸額（神宮職員賞與支給規程ニ依ル勤勵手當ヲ受クル者ニ在リテハ本俸年額及勤勵手當額ノ合算額ヲ以テ本俸年額ト看做ス）ニ付左ノ區分ニ依リ算出シタル金額ニ相當スル級俸又ハ俸給ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

一　本俸年額千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ
　其ノ年額ニ其ノ三十分ノ十三ニ相當スル

金額及二百圓ヲ加ヘタル額

二本俸年額三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ其ノ二分ノ一ニ相當スル金額及百二十圓ヲ加ヘタル額

三本俸年額三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ

其ノ年額ニ三百圓ヲ加ヘタル額

四本俸年額三百圓以下ノモノ

其ノ年額ノ二倍ニ相當スル額

從前ノ規定ニ依リ一級俸又ハ最高俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ本令ニ依ル一級俸又ハ最高俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス但シ從前ノ規定ニ依ル一級俸又ハ最高俸ニ付前項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依ル改正俸給ノ二級俸以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三項ノ規定ニ依ル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

（別表）

神部俸給表

| 職名　級俸 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 神部 | 二、五〇〇圓 | 二、二〇〇圓 | 二、〇〇〇圓 | 一、八〇〇圓 | 一、六〇〇圓 | 一、四〇〇圓 | 一、三〇〇圓 | 一、二〇〇圓 | 一、一〇〇圓 | 一、〇〇〇圓 |

神部補及伶人俸給表

| 職名　級俸 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 神部補 | 一三〇圓 | 一一五圓 | 一〇〇圓 | 八五圓 | 七五圓 | 六五圓 | 五五圓 | 五〇圓 | 四五圓 | 四〇圓 |
| 伶人 | 一〇〇 | 八五 | 七五 | 六五 | 五五 | 五〇 | 四五 | 四〇 | | |

## ●明治神宮外苑管理署職員俸給規則

（大正十五年十月二十一日内務省令第五十號）

明治神宮外苑管理署職員俸給規則左ノ通定ム

明治神宮外苑管理署職員俸給規則

第一條　署長、主事及技師ノ俸給ハ年俸、主事補及技手ノ俸給ハ月俸トシ別表ニ依ル

判任待遇ノ職ニ在ル者ノ俸給ハ月俸七十五圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ支給スルコトヲ得但シ所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第二條　署長、主事及技師ニシテ五年以上各其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニハ特ニ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第三條　主事補及技手ニシテ五年以上各其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ成績優等ナル者ニハ特ニ月額四十圓以内ヲ加給スルコトヲ得

第四條　俸給支給方ハ署長、主事及技師ニ在リテハ高等官俸給支給ノ例ニ依リ主事補及技手ニ在リテハ判任官俸給支給ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ大正十五年十月二十二日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

署長、主事及技師俸給表

| 職名　級俸 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 署長 | 三、一〇〇 | 二、七〇〇 | 二、四〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 | 一、四〇〇 | 一、二〇〇 | 一、一〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 主事 | 二、五〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 | 一、四〇〇 | 一、二〇〇 | 一、〇〇〇 | 九〇〇 | 八〇〇 |
| 技師 | 三、八〇〇 | 三、四〇〇 | 三、一〇〇 | 二、七〇〇 | 二、四〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 | 一、四〇〇 | 一、二〇〇 |

主事補及技手俸給表

| 職名　級俸 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 主事補<br>技手 | 一六〇 | 一三五 | 一一五 | 一〇〇 | 八五 | 七五 | 六五 | 五五 | 五〇 |

## 第五款　陸軍省

## ●陸軍武官官等表

（明治三十五年一月三十一日勅令第十一號）

改正　明治三五年第一八四號、第二二二號、三六年第一八二號、三七年第一九九號、第二三六號、四二年第二號、四五年第八號大正三年第一三九號、四年第一五五號、六年第九五號、七年第二七號、九年第二四一號、一〇年第五五號、一一年第五六號、一四年第二號、第一六〇號

朕陸軍武官官等表ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

陸軍武官官等表別表ノ通改正ス

附　則

本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ陸軍監督補ハ本令施行ノ際辭令書ヲ用キス陸軍一等副監督ニ任セラレタルモノトス

（別表）

陸軍武官官等表

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 將官 | 陸軍大將 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 陸軍中將 | | | | | | | 經理部將官相當官 | 陸軍主計總監 | 衛生部將官相當官 | 陸軍軍醫總監 | 獸醫部將官相當官 | 陸軍獸醫總監 | | |
| | 陸軍少將 | | | | | | | | 陸軍主計監 | | 陸軍軍醫監<br>陸軍藥劑監 | | 陸軍獸醫監 | | |
| 各兵科佐官（上長官） | 陸軍憲兵大佐 | 陸軍步兵大佐 | 陸軍騎兵大佐 | 陸軍砲兵大佐 | 陸軍工兵大佐 | 陸軍航空兵大佐 | 陸軍輜重兵大佐 | 經理部上長官 | 陸軍一等主計正 | 衛生部上長官 | 陸軍一等軍醫正<br>陸軍一等藥劑正 | 獸醫部上長官 | 陸軍一等獸醫正 | | |
| | 陸軍憲兵中佐 | 陸軍步兵中佐 | 陸軍騎兵中佐 | 陸軍砲兵中佐 | 陸軍工兵中佐 | 陸軍航空兵中佐 | 陸軍輜重兵中佐 | | 陸軍二等主計正 | | 陸軍二等軍醫正<br>陸軍二等藥劑正 | | 陸軍二等獸醫正 | | |
| | 陸軍憲兵少佐 | 陸軍步兵少佐 | 陸軍騎兵少佐 | 陸軍砲兵少佐 | 陸軍工兵少佐 | 陸軍航空兵少佐 | 陸軍輜重兵少佐 | | 陸軍三等主計正 | | 陸軍三等軍醫正<br>陸軍三等藥劑正 | | 陸軍三等獸醫正 | | |
| 各兵科尉官（士官） | 陸軍憲兵大尉 | 陸軍步兵大尉 | 陸軍騎兵大尉 | 陸軍砲兵大尉 | 陸軍工兵大尉 | 陸軍航空兵大尉 | 陸軍輜重兵大尉 | 經理部士官 | 陸軍一等主計 | 衛生部士官 | 陸軍一等軍醫<br>陸軍一等藥劑官<br>陸軍一等看護官 | 獸醫部士官 | 陸軍一等獸醫 | 軍樂部士官 | 陸軍一等樂長 |
| | 陸軍憲兵中尉 | 陸軍步兵中尉 | 陸軍騎兵中尉 | 陸軍砲兵中尉 | 陸軍工兵中尉 | 陸軍航空兵中尉 | 陸軍輜重兵中尉 | | 陸軍二等主計 | | 陸軍二等軍醫<br>陸軍二等藥劑官<br>陸軍二等看護官 | | 陸軍二等獸醫 | | 陸軍二等樂長 |
| | 陸軍憲兵少尉 | 陸軍步兵少尉 | 陸軍騎兵少尉 | 陸軍砲兵少尉 | 陸軍工兵少尉 | 陸軍航空兵少尉 | 陸軍輜重兵少尉 | | 陸軍三等主計 | | 陸軍三等軍醫<br>陸軍三等藥劑官<br>陸軍三等看護官 | | 陸軍三等獸醫 | | 陸軍三等樂長 |
| 各兵科准士官 | 陸軍憲兵特務曹長 | 陸軍步兵特務曹長 | 陸軍騎兵特務曹長 | 陸軍砲兵特務曹長<br>陸軍砲兵上等工長 | 陸軍工兵特務曹長<br>陸軍工兵上等工長 | 陸軍航空兵特務曹長 | 陸軍輜重兵特務曹長 | 經理部准士官 | 陸軍上等計手<br>陸軍上等縫工長<br>陸軍上等靴工長 | 衛生部准士官 | 陸軍上等看護長<br>陸軍上等磨工長 | 獸醫部准士官 | 陸軍上等蹄鐵工長 | 軍樂部准士官 | 陸軍樂長補 |
| 各兵科下士 | 陸軍憲兵曹長 | 陸軍步兵曹長 | 陸軍騎兵曹長 | 陸軍砲兵曹長<br>陸軍砲兵一等火工長<br>陸軍砲兵一等鞍工長<br>陸軍砲兵一等銃工長<br>陸軍砲兵一等鍛工長 | 陸軍工兵曹長<br>陸軍工兵一等木工長<br>陸軍工兵一等機工長<br>陸軍工兵一等電工長 | 陸軍航空兵曹長 | 陸軍輜重兵曹長 | 經理部下士 | 陸軍一等計手<br>陸軍一等縫工長<br>陸軍一等靴工長 | 衛生部下士 | 陸軍一等看護長<br>陸軍一等磨工長 | 獸醫部下士 | 陸軍一等蹄鐵工長 | 軍樂部下士 | 陸軍一等樂手 |
| | 陸軍憲兵軍曹 | 陸軍步兵軍曹 | 陸軍騎兵軍曹 | 陸軍砲兵軍曹<br>陸軍砲兵二等火工長<br>陸軍砲兵二等鞍工長<br>陸軍砲兵二等銃工長<br>陸軍砲兵二等鍛工長 | 陸軍工兵軍曹<br>陸軍工兵二等木工長<br>陸軍工兵二等機工長<br>陸軍工兵二等電工長 | 陸軍航空兵軍曹 | 陸軍輜重兵軍曹 | | 陸軍二等計手<br>陸軍二等縫工長<br>陸軍二等靴工長 | | 陸軍二等看護長<br>陸軍二等磨工長 | | 陸軍二等蹄鐵工長 | | 陸軍二等樂手 |
| | 陸軍憲兵伍長 | 陸軍步兵伍長 | 陸軍騎兵伍長 | 陸軍砲兵伍長<br>陸軍砲兵三等火工長<br>陸軍砲兵三等鞍工長<br>陸軍砲兵三等銃工長<br>陸軍砲兵三等鍛工長 | 陸軍工兵伍長<br>陸軍工兵三等木工長<br>陸軍工兵三等機工長<br>陸軍工兵三等電工長 | 陸軍航空兵伍長 | 陸軍輜重兵伍長 | | 陸軍三等計手<br>陸軍三等縫工長<br>陸軍三等靴工長 | | 陸軍三等看護長<br>陸軍三等磨工長 | | 陸軍三等蹄鐵工長 | | 陸軍三等樂手 |

## ●陸軍兵卒等級表

（明治四十年十月十一日軍令陸第五號）

改正　大正四年第八號、九年第三號、一一年第一一號、一四年第六號

朕陸軍兵卒等級表ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス（陸軍大臣副署）

陸軍兵卒等級表左ノ通改正ス

陸軍兵卒等級表

| 兵科各部 | 一級 | 二級 | 三級 |
|---|---|---|---|
| 憲兵科 | 上等兵 | | |
| 步兵科 | 上等兵 | 一等卒 | 二等卒 |
| 騎兵科 | 上等兵 | 一等卒 | 二等卒 |
| 砲兵科 | 上等兵 | 一等卒 | 二等卒 |
| 工兵科 | 上等兵 | 一等卒 | 二等卒 |
| 航空兵科 | 上等兵 | 一等卒 | 二等卒 |
| 輜重兵科 | 上等兵 | 一等卒 | 二等卒<br>輸卒 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 衛生部 | 上等看護卒<br>上等磨工卒 | 一等看護卒<br>一等磨工卒 | 二等看護卒<br>二等磨工卒<br>補助看護卒 |
| 軍樂部 | 樂手補 | | |

備考

一、經理部衛生部兵卒ニ關スル改正ハ明治四十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

二、明治四十一年十二月一日ニ於テ豫備役後備役一等縫工、二等縫工、一等靴工、二等靴工タル者ハ別ニ命令ナクシテ相當等級ノ縫工卒靴工卒タルモノトス

三、明治四十一年十二月一日ニ於テ看護手タル者ハ別ニ命令ナクシテ上等看護卒タルモノトス

四、本令施行ノ際現在スル砲兵助卒及砲兵輸卒ハ後備役ヲ終ル迄其ノ名稱ヲ有ス

附　則（大正十一年軍令陸第十一號）

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際縫、靴工卒タル者ハ其ノ後備役ヲ終ル迄現ニ有スル等級ノ縫、靴工卒タルモノトス

## ●陸軍給與令

（明治三十二年六月七日勅令第二百二十二號）

改正　明治三三年第四四三號、三三年第一三一號、第三三二號、三四年第五九號、三五年第一三三號、第一三六號、第一七二號、第一八七號、第二二七號、第二七〇號、三六年第七〇號、第一一一號、第一八六號、三七年第一〇三號、三八年第二一五號、四〇年第五九號、第一〇六號、第三四三號、四一年第六二號、第二〇四號、四二年第三號、第六六號、第一五三號、四三年第一四二號、第四三六號、四五年第九八號
大正元年第四四號、二年第四三號、第二五一號、三年第一六二號、四年第五三號、五年第六七號、六年第一號、第一八七號、七年第五四號、八年第九二號、第四三五號、第四八〇號、九年第二六四號、第三一八號、一〇年第五七號、第二一六號、第二七〇號、一一年第二五四號、第三四〇號、第三七四號、一二年第一七〇號、第四五七號、一四年第一六一號
昭和二年第一八號

朕陸軍給與令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

陸軍給與令

### 第一章　總則

第一條　陸軍軍人各部各隊及特ニ本令ニ規定シタル軍屬ニ係ル給與ハ本令ニ依ル

第二條　本令ニ於テ名稱ヲ區別スルコト左ノ如シ

一　軍隊ト稱スルハ步兵、騎兵、砲兵、工兵、鐵道、電信、飛行、氣球及輜重兵ノ各隊ヲ謂フ

二　下士兵卒ト稱スルハ各兵科各部ノ下士兵卒ヲ謂フ

三　諸生徒ト稱スルハ生徒及士官候補生、技術將校タル士官ニ任セラルヘキ見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、依託學生、依託生徒ヲ謂フ

四　下士以下ト稱スルハ本條第二第三ニ揭クルモノヲ謂フ

五　營內居住ト稱スルハ屯營、官衙及學校內ニ居住スルヲ謂フ

第三條　削除

### 第二章　俸給

第四條　俸給ヲ分テ左ノ三種トス

一　俸給　准士官以上ニ給スルモノ

二　給料　下士兵卒ニ給スルモノ

三　手當金　諸生徒ニ給スルモノ

第五條　現役准士官以上ニハ第一表ニ依リ俸給ヲ給ス但シ待命中ノ者ニハ俸給十分ノ八、休職中ノ者及外國留學ヲ許可セラレタル者ニハ俸給十分ノ六、停職中ノ者ニハ俸給十分ノ三ヲ給ス

第六條　現役下士兵卒ノ給料ハ第三表諸生徒手當金ハ第四表ニ依ル

第七條　北海道在勤ノ准士官以上、營外居住ノ下士以下及軍屬（文官、奏任待遇者及判任待遇者ニ限ル）ニハ在勤加俸ヲ給ス其ノ定額ハ第五表ニ依ル

第八條　准士官下士兵卒ニハ左ノ各號ニ依リ加俸ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ依ル

一　憲兵准士官下士上等兵ニハ憲兵加俸

二　上等諸工長、樂長補、樂手、樂手補及營外居住ノ一、二、三等諸工長ニハ技術加俸

三　憲兵准士官下士上等兵ニシテ通譯ヲ命セラレタルモノニハ通譯加俸

第九條　俸給ハ毎月下旬之ヲ給ス但シ營內居住ノ下士以下ハ毎旬之ヲ給ス

演習ノ爲屯營ヲ離ルトキ其ノ他必要アルトキハ陸軍大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス適宜ノ時期ニ於テ其ノ月ノ俸給ヲ給スルコトヲ得

第十條　准士官以上及下士以下死亡ノトキ、現役ヲ離レタルトキ又ハ諸生徒ヲ免セラレタルトキハ准士官以上及營外居住ノ下士以下ニ在リテハ其ノ月末日迄、營內居住ノ下士以下ニ在リテハ其ノ旬末日迄ノ俸給ヲ給スルコトヲ得

第十一條　俸給、給料、技術加俸及通譯加俸ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十二條　上級ノ職務心得勤ヲ命セラレタル者ニハ上級官ノ俸給十分ノ一ヲ加給ス但シ上級官ノ俸給ニ數等アルトキハ最下給ニ依ル

第十三條　教化隊附ノ者ニハ准士官以上俸給六分ノ一、下士以下給料四分ノ一ヲ加給ス

第十四條　陸軍部內ニ於ケル兼職又ハ武官ニシテ文官ニ任セラレタル者ニハ俸給ノ多額ニ就キ之ヲ給ス

第十五條　待命、休職、停職、豫備役、後備役、退役ト爲リタル者ニハ事務引渡中在職又ハ現役ニ準シ俸給ヲ給ス

第十六條　豫備役後備役ノ准士官以上及下士兵卒並補充兵ニシテ召集中ノ者及部隊ノ職務ニ就キタル者ニハ在職又ハ現役ニ準シ俸給ヲ給ス但シ演習召集中ハ俸給ニ數等アルモノハ最下給ニ依ル

第十七條　准士官以上及下士以下請願休暇病氣引籠拘禁留置中又ハ擅ニ職役屯營本隊ヲ離レ又ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタルトキ又ハ生死分明ナラサルトキハ俸給ヲ減却シ又ハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

軍屬ニシテ判任以上ノ者請願休暇病氣引籠ヲ除ク外前項ノ場合ニ於テハ軍人ニ準ス

第十七條ノ二　五年以上營內ニ居住シテ下士タル者ニハ其ノ准士官ト爲リタルトキ、現役滿期若ハ現役免除ノトキ、免官若ハ死亡ノトキ又ハ營外居住ニ轉シタルトキニ際シ退營賜金ヲ給ス其ノ定額ハ第七表ノ二ニ依ル

退營賜金ノ定額ヲ異ニスル二以上ノ地ニ在營シタル者ニ對スル退營賜金ノ算定方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十七條ノ三　法令ニ違反シ其ノ職ヲ失ヒタル下士ニハ退營賜金ヲ給セス退營賜金ヲ支給スヘキ事實發生シタル際法令ニ違反スル行爲ニ關シ取調中ニ在ル下士ニシテ免官若ハ失官ト爲リタル者又ハ聯隊長若ハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ於テ下士失職處分ニ該當スト認メタル者ニ付亦同シ

第十七條ノ四　下士ニハ初任ノトキ初任手當ヲ給ス其ノ定額ハ第七表ノ三ニ依ル

第十七條ノ五　勤功章ヲ有スル現役下士ニハ在營中毎年五月及十一月ニ於テ勤功褒賞金ヲ給ス其ノ定額ハ第七表ノ四ニ依ル

### 第三章　死亡賜金

第十八條　現役ノ准士官以上、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及下士兵卒（歸休兵ニ在リテハ召集中ノモノニ限ル）死亡シタルトキハ死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス其ノ定額ハ第八表ニ依ル

前項ノ遺族トハ妻、子、父、母、孫、祖父、祖母及兄弟姉妹ニシテ死亡者ノ死亡當時之ト同一戶籍內ニ在ルモノヲ謂フ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭ケタル順序ニ依リ同順位內ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

豫備役、後備役ノ准士官以上、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及下士兵卒並ニ補充兵ニシテ召集中ノモノ又ハ部隊ノ職務ニ就キタルモノ死亡シタルトキハ前各項ニ準シ死亡賜金ヲ給ス

第十九條　削除

---

第二十條　削除

### 第四章　糧食

第二十一條　糧食ハ准士官以上及營外居住ノ下士以下ニ在テハ自辨トシ營內居住ノ下士以下、現役兵トシテ徵集セラレ入營ノ際特ニ糧食ヲ要スル者、糧食自辨ノ者（軍屬ヲ含ム）ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ病院ニ入ル者並營內居住ノ下士以下現役ヲ離レ又ハ召集解除ノ際疾病其ノ他ノ事故ニ因リ歸鄉セシメ難キ者ニ在テハ官給トス其ノ定額ハ第九表ニ依ル

士官候補生、士官學校豫科生徒、幼年學校生徒及戶山學校甲種下士學生ニハ在校中（入病院中ヲ除ク）、前項ノ規定ニ依リ糧食官給ノ者ニハ病院ニ於テ轉地療養中、衛戍分遣隊ノ衛兵及陸軍大臣ノ指定スル衛兵ニハ服務中其ノ日數ニ依リ增賄料ヲ給ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル

前二項ノ規定ハ士官學校豫科生徒採用豫定者及幼年學校生徒採用豫定者ニシテ入校ノ際特ニ糧食ヲ要スル者ニ之ヲ準用ス

第二十二條　軍隊ノ糧食ハ營內居住ノ下士以下現人員ニ應シ定額ヲ交付ス

第二十三條　營內居住ノ下士諸學校ニ入學シ外泊ヲ命セラレタルトキ並准士官以上及營外居住ノ下士以下及軍屬傳染病流行其ノ他ノ場合ニ於テ詰切ヲ命セラレタルトキ又ハ營外居住ノ下士兵卒及判任以下ノ軍屬居殘勤務ヲ命セラレ食事ヲ要スルトキハ食料ヲ給ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル

諸學校ニ入學ノ營內居住下士兵卒其ノ人員少數ナルトキハ第二十一條ノ規定ニ依ル糧食ヲ給セス前項ニ準シ食料ヲ給スルコトヲ得

第二十四條　准士官以上及下士以下演習中露營若ハ夜間作業又ハ夜中行軍スルトキ及憲兵下士上等兵夜中巡邏スルトキ其ノ他下士兵卒夜間巡察又ハ不寢番ヲ爲ストキハ夜食料ヲ給ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル軍屬竝馬丁亦之ニ準ス

第二十五條　准士官以上下士以下野外演習、軍隊旅行又ハ陣營移轉ノ際自炊ヲ爲ストキ、演習召集ノ際屯營內ニ詰切ヲ命セラレタルトキ又ハ衛戍分遣隊ニ服務スルトキ若ハ衛戍地內ノ衛兵所ト雖之ニ服務スル者ノ爲ニ屯營ニ於テ其ノ糧食ヲ炊爨セサル衛兵所ニ服務スルトキハ糧食ヲ給ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル軍屬馬丁亦之ニ準ス

諸隊聯合野外演習中自炊ヲ爲ス場合ニ於テ各隊糧食ノ定額異ルトキハ當該演習地（演習地二師管以上ニ跨ルトキハ主タル演習地）ノ屬スル師管ノ額ニ從ヒ之ヲ給スルコトヲ得

野外演習、軍隊旅行又ハ陣營移轉ノ際自炊ヲ爲ス場合ニ於テハ第一項糧食ノ外野外增賄料ヲ給ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル

出師準備用ノ糧食品ハ新陳交換ノ爲平時軍隊ノ糧食ニ換ヘテ之ヲ給スルコトヲ得其ノ數額ハ第十表ニ依ル

前項ノ場合ニ於テハ第九表糧食定額ヨリ陸軍大臣ノ定メタル金額ヲ控除シタルモノヲ給ス

第二十六條　拘禁、留置、懲罰中ノ者ニハ糧食ヲ給ス其ノ定額ハ第十一表ニ依ル但シ憲兵隊ノ留置場及陸軍大臣指定ノ監獄ニ在リテハ食料定額內ノ實費支辨トス

第二十七條　教化隊、諸學校、病院及被服廠ニ在リテハ第二十一條、第二十四條、第二十五條及第二十六條ノ給與ハ現人員ニ應シ定額ヲ交付ス

第二十七條ノ二　新設又ハ增設ノ部隊ニハ第二十二條及前條ニ規定スルモノノ外特ニ給與ヲ必要トスル糧食ヲ交付スルコトヲ得其ノ品種數量ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十七條ノ三　前二條ノ規定ニ依リ第二十七條ニ揭クル部隊ニ交付スル糧食ニ付テハ當該部隊長ニ其ノ經理ヲ委任ス

第二十八條　未決監已決監ニ入監中ノ者ノ糧食ハ現人員ニ應シ定額ヲ交付シ監獄長ニ其ノ經理ヲ委任ス但シ第二十六條但書ノ監獄ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

監獄ニ於テ營倉處分執行中ノ者ノ糧食亦前項ニ同シ

第二十八條ノ二　委任經理ニ屬スル米麥及賄料ハ一箇月以內ノ數額ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

### 第五章　被服

第二十九條　削除

第三十條　現役士官及准士官ニハ初任ノトキ服裝手當ヲ給ス但シ准士官ヨリ士官ニ任セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ外近衛騎兵聯隊附ト爲リタル騎兵准士官以上ニハ供奉用服裝手當ヲ給ス

服裝手當ノ定額ハ第十二表ニ依ル

豫備役後備役下士ニシテ平時部隊ニ在職ノ者准士官ニ任セラレ引續キ在職スルトキハ第一項服裝手當ノ半額ヲ給ス

第三十一條　營內居住ノ下士以下、憲兵上等兵、樂手補及召集中ノ豫備役、後備役下士以下並補充兵ニハ第十三表中所要ノ被服ヲ支給又ハ貸與ス

第三十二條　軍隊、憲兵隊、教化隊、諸學校、病院、被服廠及運輸部ニハ第十四表中所要ノ被服ヲ備附ク

第三十三條　前二條ノ被服ノ種類、定數及給與期限ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三十四條　下士以下ノ被服ハ其ノ定員（定員ナキモノハ其ノ現人員）ニ應シ、備附被服ハ其ノ定數ニ應シ定額ヲ以テ當該部隊ニ之ヲ交付ス

新設又ハ增設ノ部隊ニハ前項ニ規定スルモノノ外特ニ給與ヲ必要トスル被服ヲ交付スルコトヲ得

第一項ノ定額及前項ノ被服ノ種類員數ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三十五條　憲兵隊、教化隊、諸學校、病院及被服廠ニ交付スル被服ニ付テハ當該部隊長ニ其ノ經理ヲ委任ス

第三十六條　營外居住ノ下士ニハ第十三表中特ニ必要トスル被服ニ限リ支給又ハ貸與スルコトヲ得但シ現品ノ支給ニ代ヘ被服料ヲ給スルコトヲ得

第三十七條　准士官以上營外居住下士及軍屬ニハ地方ノ狀況ニ依リ第十三表中所要ノ特種被服ヲ支給又ハ貸與スルコトヲ得

第三十七條ノ二　看護婦長ニハ看護勤務上所要ノ被服ヲ支給又ハ貸與スルコトヲ得但シ現品ノ支給ニ代ヘ被服料ヲ給スルコトヲ得

第三十七條ノ三　前三條ノ被服ノ種類、員數及支給又ハ貸與ノ區分竝第三十六條及前條ノ被服料ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三十八條　動員ノ際各部各隊ニ屬スル豫備役後備役下士兵卒並補充兵所要ノ被服ハ其ノ定員ニ應シ現品若ハ金額ヲ以テ漸次各師團ニ交付ス

### 第六章　馬匹

第三十九條　士官以上乘馬本分ニシテ乘馬ヲ各自ニ繫畜スル者ニハ其ノ期間馬糧ヲ給ス其ノ定額ハ第二十一表ニ依ル

前項ノ馬糧ハ一箇月以內ノ數量ヲ前渡ス但シ代金ヲ以テ給スルコトヲ得

第九條第二項ノ規定ハ馬糧代金支給ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條　左ノ各號ノ馬匹ニ付テハ現馬數ニ應シ馬糧ノ定額ヲ交付シ定馬數內陸軍大臣ノ定メタル馬數ニ應シ裝蹄料及剪毛料ノ定額ヲ交付ス其ノ定額ハ第二十一表及第二十二表ニ依ル

一　軍隊ノ保管馬

二　軍隊以外ノ部隊ノ保管馬（軍馬補充部ニ於テ育成中ノモノヲ除ク）

騎兵、砲兵、電信、輜重兵ノ各隊ニハ前項ノ裝蹄料ニ換ヘ蹄鐵現品及補助裝蹄料ヲ、各部隊保管馬ノ裝蹄ヲ獸醫學校ニテ實施シタルトキハ補助裝蹄料ノミヲ交付スルコトヲ得其ノ定額ハ第二十二表ノ定額以內ニ於テ陸軍大臣之ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リ交付スル蹄鐵現品ハ三箇月以內ノ數額ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第一項第二號ノ馬匹ニ係ル馬糧、裝蹄料及剪毛料ハ該馬匹ヲ繫畜スル部隊長ニ其ノ經理ヲ委任ス

第四十一條　獸醫學校病馬廠ニ入廠中ノ部隊保管馬ニ付テハ現馬數ニ應シ馬糧ノ定額ヲ交付シ校長ニ其ノ經理ヲ委任ス其ノ定額ハ第二十一表ニ依ル

第四十二條　馬匹ヲ繫畜スル部隊ニハ必要ニ應シ裝蹄及剪毛器械ヲ初度現品ニテ備附ク

爾後裝蹄料及剔毛料ノ內ヲ以テ之ヲ保續セシム

第四十三條乃至第四十六條　削除

第四十七條　軍隊旅行、演習旅行又ハ陣營移轉ノトキハ第二十一表ノ秣飼ヲ給スルコトヲ得

前項ノ秣飼ハ時宜ニ依リ代金ヲ以テ給スルコトヲ得

第四十七條ノ二　委任經理ニ屬スル馬糧ハ一箇月以內ノ數額ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

### 第七章　消耗品、陣營具

第四十八條　軍隊ノ消耗品ハ消耗品料及煖室用薪炭料ノ二種ニ分チ各定額ヲ交付ス

第四十九條　軍隊ノ陣營具ハ營中具、庖廚具、廐具ノ三種ニ分チ初度現品ヲ備附ケ爾後永續料トシテ定額ヲ交付ス

第五十條　軍隊ニ於ケル定員外者ノ消耗品料、陣營具永續料ハ現人員ニ、煖室用薪炭料ハ煖室器具附現數ニ應シ別ニ定額ヲ交付スルコトヲ得

第五十一條　第四十八條乃至第五十條ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第五十二條　削除

### 第八章　削除

第五十三條乃至第五十七條　削除

### 第九章　雜則

第五十八條　營內居住下士以下死亡シタルトキハ埋葬ニ要スル諸費ハ官給トス但シ歸省中死亡シタルトキ又ハ親族ニシテ死體ノ引渡ヲ請フモノアルトキハ埋葬料ヲ親族ニ給ス其ノ定額ハ第二十八表ニ依ル

豫備役後備役下士兵卒召集中死亡シタルトキ亦前項ニ同シ

第五十九條　下士以下ノ患者治療ニ要スル諸費ハ官費トス

准士官以上及軍屬ニシテ其ノ傷病公務ニ基因スル者ノ治療ニ要スル諸費ハ官費トス但シ傳染病ノ爲手當金ヲ受クル者ハ定額ヲ納付セシム

前項ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六十條　准士官以上、營外居住下士以下及軍屬ニハ必要ニ應シ官舍ヲ貸渡スコトヲ得

官舍貸渡料ノ定額及納付區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則（大正九年勅令第二百六十四號）

本令ハ大正九年八月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

大正九年八月一日現役ニ在ル大將ノ俸給ハ年額七千八百圓、同中將（參謀總長又ハ教育總監ノ職ニ在ル者ヲ除ク）ノ俸給ハ年額六千八百圓トス但シ待命中ノ者ハ其ノ十分ノ八、休職中ノ者ハ其ノ十分ノ六、停職中ノ者ハ其ノ十分ノ三トス

附　則（大正九年勅令第三百十八號）

本令ハ大正九年八月十日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

大正九年八月十日現役准尉ヨリ少尉ニ任セラレタル者及現役准士官ニシテ特別俸ヲ受クルモノノ俸給ハ左ノ各號ニ依ル

一　准尉（一等）ヨリ少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉（二等）ニ任セラレタルモノハ年額千二百圓

二　准尉（二等）ヨリ少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉（二等）ニ任セラレタルモノハ年額千百四十圓但シ准尉任官後一年六月以上ノ者ニハ年額千二百圓ヲ給スルコトヲ得

三　准士官ニシテ特別俸甲ヲ受クルモノハ年額千二百圓、特別俸乙ヲ受クルモノハ年額千八十圓

四　特別俸甲ヲ受クル憲兵特務曹長、砲兵上等工長又ハ工兵上等工長ヨリ大正九年八月十日以後少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉ニ任セラレタルモノハ年額千二百七十二圓

五　特別俸乙ヲ受クル憲兵特務曹長、砲兵上等工長又ハ工兵上等工長ヨリ大正九年八月十日以後少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉ニ任セラレタルモノハ年額千百五十二圓但シ特別俸乙ヲ受ケタル後二年以上ノ者ニハ年額千二百七十二圓ヲ給スルコトヲ得

大正十年七月三十一日以前ニ一等給ヲ受クル砲兵上等工長又ハ工兵上等工長ヨリ大正九年八月十日以後少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉（二等）ニ任セラレタルモノノ俸給ハ年額千三十二圓トス

火工掛下士ニシテ大正九年八月十日前ニ技術加俸ヲ受ケ同年同月同日以後火工長ニ任セラレサルモノニハ其ノ現官ニ在ル間其ノ受ケタル技術加俸ヲ給ス

附　則（大正十年勅令第五十七號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ現役樂長タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級ノ俸給ヲ受クルモノトス但シ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級ノ俸給ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

附　則（大正十一年勅令第二百五十四號）

本令ハ大正十一年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

大正八年勅令第百四十八號ハ之ヲ廢止ス

當分ノ內賄料ハ日額一錢以內ヲ增加スルコトヲ得

附　則（大正十二年勅令第百七十號）

本令ハ大正十二年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

大正九年以前徵集ノ營內居住下士兵卒及憲兵上等兵竝大正九年以前樂手補ヲ命セラレタル樂手補ニシテ大正十二年七月末日迄ニ現役ヲ離レ又ハ歸休退營スルモノニハ其ノ現役ヲ離レ又ハ歸休退營ノトキ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ所要ノ被服ヲ支給スルコトヲ得

大正八年勅令第二號ハ之ヲ廢止ス

### 第一表　俸給

| 區分 | | 年額 |
|---|---|---|
| 大將 | | 七千五百圓 |
| 中將<br>同相當官 | | 六千五百圓 |
| 少將<br>同相當官 | | 五千六百圓 |
| 大佐<br>同相當官 | | 四千六百圓 |
| 中佐<br>同相當官 | | 三千六百圓 |
| 少佐<br>同相當官 | | 二千六百圓 |
| 大尉<br>同相當官 | 一等 | 二千百圓 |
| | 二等 | 千八百圓 |
| | 三等 | 千六百圓 |
| 中尉<br>同相當官 | 一等 | 千二百圓 |
| | 二等 | 千二十圓 |
| 少尉<br>同相當官 | | 八百五十圓 |
| 一等樂長 | 一等 | 二千四百圓 |
| | 二等 | 二千百圓 |
| | 三等 | 千九百二十圓 |
| 二等樂長 | 一等 | 千六百八十圓 |
| | 二等 | 千五百圓 |
| 三等樂長 | 一等 | 千三百二十圓 |
| | 二等 | 千百四十圓 |
| 准士官 | 一等 | 九百六十圓 |
| | 二等 | 九百圓 |
| | 三等 | 八百四十圓 |

備考

一　參謀總長又ハ教育總監ノ職ニ在ル中將ノ俸給ハ年額七千三百圓、軍司令官又ハ師團長ノ職ニ在ル中將ノ俸給ハ年額六千八百圓トス

二　聯隊長又ハ獨立隊長ノ職ニ在ル佐官ニハ月額二十圓以內ヲ加給ス其ノ定額及支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

三　准士官ヨリ少尉同相當官ニ任セラレタル者又ハ其ノ者ニシテ更ニ中尉同相當官ニ任セラレタルモノノ新ニ受クヘキ俸給額カ從前ノ額（憲兵加俸及技術加俸ヲ含ム以下同シ）ヨリ少キトキハ從前ノ額ヲ給ス

### 第二表　削除

### 第三表　給料

| 區分 | | 月額 營內居住 | 月額 營外居住 |
|---|---|---|---|
| 曹長<br>同相當官 | 一等 | 三十九圓 | 六十三圓 |
| | 二等 | 三十四圓五十錢 | 六十圓 |
| | 三等 | 三十圓 | 五十七圓 |
| 軍曹<br>同相當官 | 一等 | 二十二圓五十錢 | 五十一圓 |
| | 二等 | 十八圓 | 四十八圓 |
| | 三等 | 十五圓 | 四十五圓 |
| | 四等 | 十三圓五十錢 | 四十二圓 |
| 伍長<br>同相當官 | 一等 | 十圓五十錢 | 三十九圓 |
| | 二等 | 九圓 | 三十七圓五十錢 |
| 下士勤務諸兵卒 | | 六圓 | |
| 上等兵<br>同級兵卒 | 一等 | 五圓四十錢 | 三十四圓五十錢 |
| | 二等 | | 三十三圓 |
| 一、二等卒<br>同級兵卒 | | 四圓五十錢 | |
| 敎化卒 | | 一圓五十錢 | |

備考

一　豫備役後備役ノ見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官又ハ見習獸醫官ノ給料ハ月額十八圓トス

二　豫備役後備役下士兵卒演習召集中ノ給料ハ營內居住ノ額トス

### 第四表　手當金

| 區分 | 月額 |
|---|---|
| 士官候補生（見習士官ヲ除ク） | 七圓二十錢 |
| 見習士官<br>見習主計<br>見習醫官<br>見習藥劑官<br>見習獸醫官 | 十八圓 |
| 衞生部依託學生及生徒<br>獸醫部依託學生及生徒<br>陸軍法務官試補依託學生 | 三十圓 |
| 陸地測量部修技所生徒 | 二十二圓五十錢 |
| 士官學校豫科生徒<br>工科學校生徒<br>戶山學校軍樂生徒 | 四圓五十錢 |

### 第五表　北海道在勤加俸

| 區分 | | 月額 |
|---|---|---|
| 中將 | 高等文官一等 | 三十七圓五十錢 |
| 少將<br>同相當官 | 同　二等 | 二十五圓 |
| 大佐<br>同相當官 | 同　三等 | 二十圓 |
| 中佐<br>同相當官 | 同　四等 | 十七圓五十錢 |
| 少佐<br>同相當官 | 同　五等 | 十五圓 |
| 大尉<br>同相當官 | 同　六等 | 九圓五十錢 |
| 中尉<br>同相當官 | 同　七等 | 八圓 |
| 少尉<br>同相當官 | 同　奏任文官待遇　八等 | 七圓 |
| 准士官 | 判任文官　一等 | 六圓五十錢 |
| 曹長<br>同相當官 | 判任文官　二等 | 四圓 |
| 軍曹<br>同相當官 | 同　三等 | 三圓 |
| 伍長<br>同相當官 | 同　判任文官待遇　四等 | 二圓五十錢 |
| 上等兵<br>同級兵卒 | | 二圓 |

### 第六表　諸加俸

| 名稱 | 區分 | | 月額 |
|---|---|---|---|
| 憲兵加俸 | 憲兵准士官<br>下士上等兵 | | 七圓五十錢 |
| 通譯加俸 | 憲兵准士官<br>下士上等兵 | 一等 | 五圓 |
| | | 二等 | 四圓 |
| | | 三等 | 三圓 |
| | | 四等 | 二圓 |
| 技術加俸 | 上等諸工長<br>樂長補 | 一等 | 六圓 |
| | 一、二、三等諸工長 | 二等 | 五圓 |
| | 樂手 | 三等 | 四圓 |
| | 樂手補 | 四等 | 三圓 |

備考　通譯加俸ハ技能特ニ優秀ナル者ニ限リ月額二十圓以內ヲ增給スルコトヲ得其ノ增給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

### 第七表　削除

### 第七表ノ二　下士退營賜金

| 在營年數 | 金額 內地 | 金額 北海道 |
|---|---|---|
| 五年 | 六十圓 | 八十圓 |
| 六年 | 百二十圓 | 百六十圓 |
| 七年 | 百八十圓 | 二百四十圓 |
| 八年 | 二百四十圓 | 三百二十圓 |

| | | |
|---|---|---|
| 九年 | 三百圓 | 四百圓 |
| 十年 | 三百六十圓 | 四百八十圓 |
| 十一年 | 四百二十圓 | 五百六十圓 |
| 十二年 | 五百圓 | 六百六十圓 |

備考

明治三十六年十一月三十日ニ於テ四年（對馬警備隊兵卒出身ノ者ニ在リテハ三年）以上在營ノ者ハ其ノ在營年數ヲ總テ四年（對馬警備隊兵卒出身ノ者ニ在リテハ三年）ト算シ爾後其ノ在營年數ヲ加算ス

本表中在營年數ハ對馬警備隊兵卒出身者ニ在リテハ順次一年ヲ減ス

十二年以上在營ノ者ハ十二年ノ額ニ依ル

### 第七表ノ三　初任手當

| 名稱 | 金額 |
|---|---|
| 下士初任手當 | 二十圓 |

### 第七表ノ四　勤功褒賞金

| 名稱 | 支給期 | 金額 |
|---|---|---|
| 下士勤功褒賞金 | 五月 | 五圓 |
| | 十一月 | 五圓 |

備考

支給期日ハ陸軍大臣之ヲ定ム支給期日前ニ於テ勤功章ヲ失ヒ、營外居住ト爲リ又ハ死亡シタルトキハ其ノ褒賞金ヲ給セス

### 第八表　死亡賜金

| | |
|---|---|
| 大將 | 二,五〇〇圓 |
| 中將同相當官 | 二,一六七圓 |
| 少將同相當官 | 一,八六七圓 |
| 大佐同相當官 | 一,五三三圓 |
| 中佐同相當官 | 一,二六七圓 |
| 少佐同相當官 | 一,〇八三圓 |
| 大尉同相當官 | 七八三圓 |
| 中尉同相當官 | 五六七圓 |
| 少尉同相當官 | 四六七圓 |
| 見習士官<br>見習主計<br>見習醫官<br>見習藥劑官<br>見習獸醫官 | 四〇〇圓 |
| 准士官 | 四〇〇圓 |
| 曹長同相當官 | 二八五圓 |
| 軍曹同相當官 | 二五五圓 |
| 伍長同相當官 | 二三五圓 |
| 上等兵同級兵卒 | 一八〇圓 |
| 一等卒同級兵卒 | 一六五圓 |
| 二等卒同級兵卒 | 一五〇圓 |

備考

准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタルモノノ死亡賜金ハ少尉同相當官ノ額トス

### 第九表　糧食及食料

| | | | 日額 |
|---|---|---|---|
| 糧食 | 米麥 | 精米 | 四合二勺 |
| | | 精麥 | 一合八勺 |
| | 賄料 | 第一區 | 二十錢一厘 |
| | | 第二區 | 十九錢八厘 |
| | | 第三區 | 十九錢五厘 |
| | | 第四區 | 十九錢二厘 |
| | 野外演習間食料 | | 四錢二厘 |
| | 增賄料 | | 六錢五厘 |
| 食料 | 將官同相當官 | | 九十錢 |
| | 上長官、士官、准士官 | | 七十二錢 |
| | 下士以下 | | 六十錢 |
| | 夜食料 | 一食分 | 六錢 |

備考

一　地方區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

二　各區內ノ賄料ハ土地ノ狀況又ハ兵員ノ多少ニ依リ增減スルコトヲ得但シ一人一日ノ平均額ハ本表金額ヲ超過スルコトヲ得ス

### 第十表　糧食換用品

| 品目 | 一人一日ノ額 數量 |
|---|---|
| 乾麵麭 | 百八十匁 |
| 罐詰肉 | 四十匁 |
| 食鹽 | 三匁 |
| 醬油越幾斯 | 五匁 |
| 漬物福神漬 | 十匁 |

### 第十一表　拘禁、留置、懲罰中糧食

| 區分 | 米麥 精米 | 米麥 精麥 | 賄料 地方區分 | 賄料 金額 |
|---|---|---|---|---|
| 力業ニ服スル者 | 四合二勺 | 一合八勺 | 第一區 | 十錢八厘 |
| 力業ニ服セサル者 | 三合五勺 | 一合五勺 | 第二區 | 十錢二厘 |
| 懲戒減食ノ者 | 二合乃至三合 | | 三錢六厘 | |
| 重營倉ニ處セラレタル者 | 四合二勺 | 一合八勺 | | |
| 輕營倉ニ處セラレタル者 | 第九表糧食ノ定額ニ依ル | | | |
| 第二十六條但書ニ依ル者 | 食料六十錢以內 | | | |

---

備考

一　地方區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

二　各隊ノ營倉ニ留置セラレタル者ハ輕營倉ニ處セラレタル者ノ定額ニ依ル

三　精米日額三合五勺ニ對スル減食計算ハ一食一合二勺トス

四　懲戒減食者ノ米麥ノ日額ハ精米七精麥三ノ割合ヲ以テ計算シ各四捨五入勺位ニ止メ其ノ減食計算ノ一食分ハ日額ヲ三分シ四捨五入勺位ニ止ム

五　賞表ヲ有スル囚人ニ增菜ヲ與フル場合ニ於テハ一回四錢ヲ增給ス

### 第十二表　服裝手當

| 名稱 | 區分 | 金額 |
|---|---|---|
| 服裝手當 | 士官准士官 | 三百七十五圓 |
| 供奉用服裝手當 | 近衞騎兵聯隊附騎兵准士官以上 | 三十七圓五十錢 |

### 第十三表　下士以下被服

| 品目 | 品目 |
|---|---|
| 軍帽 | 軍靴 |
| 帽垂 | 脚絆 |
| 日覆 | 靴下 |
| 軍衣袴 | 拍車 |
| 冬衣袴 | 携帶天幕 |
| 夏衣袴 | 軍隊手牒 |
| 外套 | 被服手入具 |
| 雨覆 | 背嚢 |
| 作業衣袴 | 背負袋 |
| 襟布 | 雜嚢 |
| 襦袢袴下 | 飯盒 |
| 手套 | 水筒 |

| 特殊被服 品目 | 特殊被服 品目 |
|---|---|
| 防寒毛布 | 防寒毛皮 |
| 防寒外套 | 本小絨襦袢 |
| 防寒用襟 | 本小絨腹卷 |
| 防寒胴著 | 防暑帽 |
| 防寒襦袢袴下 | 防暑衣 |
| 防寒手套 | 帽用垂布 |
| 防寒靴下 | 防蚊手套 |
| 防寒帽 | 防蚊覆面 |
| 防寒覆面 | 眼鏡 |
| 防寒靴 | |

### 第十四表　備附被服

| 品目 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 正帽 | 作業衣袴 | 手套 | 飯盒 | 患者雨覆 |
| 正衣袴 | 護謨引頭巾 | 護謨手套 | 水筒 | 患者病衣 |
| 戰車兜 | 護謨引衣袴 | 長靴 | 携帶天幕 | 袷病衣 |
| 電熱航空被服 | 護謨頭巾 | 航空編上靴 | 毛布 | 綿入病衣 |
| 航空兜 | 體操衣袴 | 護謨靴 | 包布 | 寢衣 |
| 航空頭巾 | 體操腹卷 | 脚絆 | 圍帶 | |
| 航空衣袴 | 體操靴 | 拍車 | 大蒲團 | 狂病衣 |
| 航空脚著 | 擊劍衣袴 | 前垂 | 敷布 | 患者足袋 |
| 裏毛袴 | 擊劍腹卷 | 胴當 | 枕 | 上靴 |
| 航空眼鏡 | 調髮袴 | 背嚢 | 大枕 | |
| 防塵眼鏡 | 外套 | 背負袋 | 蚊帳 | |
| 作業帽 | 襟卷 | 雜嚢 | 大蚊帳 | |

### 第十五表乃至第二十表　削除

### 第二十一表　馬糧及秣飼

| 品目 | | 額 | | |
|---|---|---|---|---|
| | 定量區分 | 甲號 | 乙號 | 丙號 |
| 馬糧 | 大麥 | 一貫三百五十匁 | 一貫三百匁 | 一貫百匁 |
| | 干草 | 一貫匁 | | |
| | 藁 | 一貫匁 | | |
| 秣飼 | 大麥三百五十匁以內 | | | |

備考

一　各定量ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

二　大麥ニ燕麥、高粱其ノ他ノ雜穀ヲ、干草ニ牧草又ハ青苅燕麥其ノ他ノ秣類ヲ換ヘ給スルコトヲ得其ノ換給割合ハ陸軍大臣之ヲ定ム

### 第二十二表　裝蹄料及馴毛料

| | 部隊區分 | 金額 |
|---|---|---|
| 裝蹄料 月額 | 甲號 | 九十八錢 |

| | | |
|---|---|---|
| | 乙號 | 七十錢 |
| 別毛料 | 年額 | 二十五錢 |

備考
一　保管馬少數ノ部隊ニ在リテハ本表甲號ノ金額ノ十五割以內ヲ增給スルコトヲ得
二　部隊區分及前號ノ增給額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十三表乃至第二十七表　削除

第二十八表　埋葬料

| | |
|---|---|
| 下士<br>士官候補生<br>見習士官<br>見習主計<br>見習醫官<br>見習藥劑官<br>見習獸醫官 | 三十七圓五十錢 |
| 兵卒<br>諸生徒 | 三十圓 |

### ●樺太ニ在勤スル陸軍現役將校ノ給與ニ關スル件

（大正十四年十一月二十四日　勅令第三百十八號）

朕樺太ニ在勤スル陸軍現役將校ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

樺太ニ在勤スル陸軍現役將校ニハ俸給ノ十分ノ五以內ノ在勤加俸ヲ給ス其ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

前項ノ者ニハ必要ニ應シ宿舍及家具ヲ貸與スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令

（明治二十六年十一月二十四日　勅令第二百十二號）
改正　明治三〇年第二二四號、三二年第一四二號、三六年第一三五號、三七年第七號、三八年第二四號、四〇年第一〇五號、四三年第一四七號
大正九年第二六六號、一一年第二四五號

朕在外國公使館附陸海軍武官俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍大臣副署）

在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令

第一條　在外國大使館附及公使館附陸軍武官ノ俸給ハ分チテ本俸及在勤俸ノ二種トス

第二條　大使館附及公使館附陸軍武官ノ本俸ハ陸軍給與令第一表ノ俸給トス

第三條　大使館附及公使館附陸軍武官ノ在勤俸年額ハ別表ニ依ル

陸軍大尉ニシテ大使館附及公使館附少佐ノ職務心得ヲ命セラレタル者ノ在勤俸ハ陸軍佐官ノ在勤俸額ニ同シ

第四條　削除

第五條　在勤俸ハ海外在勤ノ場合ニ於テ本俸ノ外任所到著ノ日ヨリ任所出發ノ前日マテ之ヲ給ス

第六條　任所替ヲ命セラレタルトキハ舊任所出發ノ日ヨリ新任所到著ノ前日マテハ在勤俸ヲ給セス

第七條　歸朝若クハ任所替ヲ命セラレタル者其ノ辭令到達ノ日ヨリ三十日ヲ過キ尚出發セサルトキハ其ノ翌日ヨリ在勤俸ヲ給セス但特ニ滯在ヲ命セラレタル者ハ此ノ限ニアラス

第七條ノ二　大使館附又ハ公使館附陸軍武官ノ任所ニ其ノ妻同伴スルトキハ其ノ妻任所ニ在ルノ日ヨリ其ノ妻任所ニ在ラサルニ至ルノ日ノ前日マテ（前條ノ場合ニ於テハ在勤俸ヲ給スル間ニ限ル）亞細亞諸國ニ在リテハ現ニ受クル在勤俸ノ十分ノ三、其ノ他ノ諸國ニ在リテハ同十分ノ四公增給ス

前項ノ規定ニ依リ增給ヲ受クル者歸朝又ハ任所替ヲ命セラレタル場合ニ於テ已ムヲ得サル事故ノ爲陸軍大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ妻ヲ任所又ハ舊任所ニ留ラシムルトキハ其ノ事故ノ存スル間從前ノ通增給ヲ給スルコトヲ得但シ其ノ地ノ在勤俸ノ支給ヲ止メタル日ヨリ起算シテ百八十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條　俸給ハ年額ヲ十二分シテ一箇月分トシ毎月下旬ニ之ヲ給ス但外國ニ送金ヲ要スルモノハ半箇年分以內ニ於テ前金渡ヲ爲スコトヲ得

第九條　削除

附　則

第十條　本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

明治二十一年勅令第十八號及本年勅令第六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

在外國大使館附及公使館附陸軍武官在勤俸年額表

| 官名＼住所 | 英、米、佛、露 | 獨、墺 | 伊 | 支 |
|---|---|---|---|---|
| 陸軍將官 | 一萬五千圓 | 一萬三千五百圓 | 一萬二千圓 | 七千百七十圓 |
| 陸軍佐官 | 一萬五百圓 | 九千七百五十圓 | | 四千五十圓 |

備考　支那ニ在リテハ將官ニ千二百圓以內、佐官ニ九百圓以內ヲ增給スルコトヲ得

### ●在外國公使館附陸軍武官ノ在勤俸ニ關スル件

（大正五年六月二十六日　勅令第百六十九號）
改正　大正一〇年第三三七號

朕在外國公使館附陸軍武官ノ在勤俸ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令別表ニ揭クル國以外ノ歐米ニ於ケル國ニ公使館附陸軍武官ヲ置キタルトキハ其ノ在勤俸ハ當分ノ內伊國ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●外國駐在陸軍武官給與令

（明治三十年六月二十二日　勅令第二百十六號）
改正　明治三六年第一二〇號、四一年第一六二號、四二年第一六七號、四三年第一四八號
大正九年第二六七號、一一年第二四六號、一四年第二五二號

朕外國駐在陸軍武官給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

外國駐在陸軍武官給與令

第一條　外國駐在ヲ命セラレタル陸軍武官諸給與ハ陸軍給與令ニ於テ定ムル第一表ノ俸給ヲ給スルノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本邦ト駐在國トノ間ヲ往復スルトキ又ハ駐在國ヲ轉スルトキハ外國旅費規則ニ依リ旅費ヲ給ス

外國駐在中駐在官ニハ在勤俸、駐在員ニハ駐在手當ヲ給ス

本邦ト駐在國トノ間ヲ往復スルトキ、駐在國ヲ轉スルトキ又ハ外國駐在中死亡シタル場合ニ於テハ外國旅費規則ニ依リ死亡手當ヲ給ス

第三條　駐在員ニシテ外國駐在中乘馬ヲ要スル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬飼料ヲ給ス但シ馬ヲ以テ應用スルトキハ其ノ實費ヲ給ス

第四條　駐在地ヲ移轉セシメ又ハ駐在地外ニ派遣スルトキハ駐在官ニ在リテハ外國旅費規則ニ依リ旅費ヲ給シ駐在員ニ在リテハ駐在手當ノ外陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ派遣手當及舟車馬賃ノ實費ヲ給ス

任務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹ル等特別ノ事由アルトキハ療治料等ノ實費ヲ給

スルコトヲ得

第五條　在勤俸、駐在手當、派遣手當及馬飼料ノ金額ハ別表ニ依ル

第六條　本令施行ニ關スル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則

第七條　本令ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

明治二十九年勅令第六十八號外國駐在視察陸軍武官給與令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

外國駐在陸軍武官給與表

| 區分 | | | 金額 |
|---|---|---|---|
| 在勤俸 | 月額 | 將官 | 千圓以內 |
| | | 上長官、士官 | 六百五十圓以內 |
| | | 准士官 | 五百圓以內 |
| 駐在手當 | 月額 | | 六百五十圓 |
| 馬飼料 | 月額 | | 四十八圓 |
| 派遣手當 | 日額 | 甲額　上長官 | 十六圓 |
| | | 甲額　士官 | 十二圓 |
| | | 乙額　上長官、士官 | 四圓 |

備考
一　外國駐在官中當該國ニ於ケル最高級先任者ニハ其ノ在勤俸ノ二割以內ヲ增給スルコトヲ得
二　外國駐在官タル判任文官ニハ判任官俸給令別表ノ俸給ヲ給スルノ外其ノ在勤俸ハ准士官ノ額ニ依ル
三　派遣手當ハ軍隊等ノ演習ニ際シ派遣ノトキハ乙額トシ其ノ他單獨旅行及駐在員取締旅行ノトキハ甲額トス但シ駐在員取締將官ナルトキハ日額二十圓トス

### ●外國駐劄陸軍武官在勤俸ニ關スル件

（明治三十六年十二月四日　勅令第二百三號）
改正　明治三九年第二五號、四三年第一四九號

朕外國駐劄陸軍武官ノ在勤俸ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

外國駐劄陸軍武官ニハ陸軍給與令第一表ノ俸給ノ外在勤俸ヲ給ス其ノ年額ハ駐劄國又ハ駐劄地本國ノ大使館附若ハ公使館附武官在勤俸定額以內トス

前項在勤俸ノ支給ニ關シテハ在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令ノ規定ヲ準用ス

### ●陸軍戰時給與規則

（明治二十七年八月一日　勅令第百三十三號）
改正　明治三三年第二九五號、三七年第一四號、第一〇一號、第一九一號、三八年第一五四號、第一七一號、四三年第一四六號
大正三年第二〇三號、七年第二九七號、九年第二六八號、一二年第一七四號

朕陸軍戰時給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

陸軍戰時給與規則

第一條　戰時若クハ事變ニ際シ各部、各隊及軍人軍屬ノ給與ハ本規則ニ依ル但本規則ニ明文ナキモノハ平時給與ノ規程ヲ適用ス

第二條　戰時編制ノ部隊及特ニ設置シタル部隊ノ給與ハ第六條第一項第二項及第四項ノ期間ヲ除クノ外必要ニ應シ明治二十三年法律第二十七號ニ依リ部隊長ニ其ノ經理ヲ委任ス其ノ部隊及給與ノ種類ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條　本規則ニ於テ俸給ト稱スルハ陸軍給與令第一表ノ俸給（隊長加給俸ヲ除ク）ニ上級ノ職務心得勤加給俸ヲ加算シタルモノ、給料ト稱スルハ同令第三表ノ給料ニ加俸（在勤加俸ヲ除ク）ヲ加算シタルモノヲ云フ

第四條　動員シ又ハ臨時ニ編成シタル聯隊又ハ獨立隊ノ隊長ノ職ニ在ル佐官ニハ陸軍給與令第一表ノ隊長加給俸ヲ給セス

隊長加給俸ヲ受クル者第六條ノ增給ヲ受クルトキハ增給起算ノ月ノ翌月ヨリ增給停止ノ月ノ前月マテ其ノ支給ヲ停止ス

第五條　見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者ノ給料ハ月額四十圓トス

第六條　戰地ニ出發ノ者ハ其ノ出發ノ日ヨリ歸著ノ日又ハ給與停止ノ前日マテ准士官以上軍屬ニハ俸給五分ノ二、下士以下ニハ給料四分ノ二ヲ增給ス但シ內地途中ニ在ル者ニ在リテハ其ノ增給ヲ半減スルコトヲ得

戰地ニ在ル者ハ戰地トナリタル日ヨリ給與停止ノ前日マテ前項ニ依ル

出戰又ハ戰備ノ姿勢ヲ完成シタル部隊ニ屬スル者、要塞ノ警急配備ニ就キタル者及對敵ノ目的ヲ以テ派遣セラレタル者ハ其ノ完成ノ日、配備ニ就キタル日又ハ派遣ノ日ヨリ戰地ニ出發ノ前日、戰地トナリタル日ノ前日、配備ヲ解キタル日、歸著ノ日又ハ給與停止ノ前日迄第一項ノ區分ニ依リ俸給ハ五分ノ一、給料ハ四分ノ一ヲ增給ス

臨戰合圍地境ニ出發ノ者ハ其ノ出發ノ日ヨリ歸著ノ日又ハ給與停止ノ前日マテ、臨戰合圍地境ニ在ル者ハ戒嚴布告若ハ宣告ノ日ヨリ戰地トナリタル日ノ前日又ハ戒嚴解除ノ日マテ前項ニ依ル

在勤加俸ノ支給ヲ受クル者前四項ノ增給ヲ受クヘキ場合ニ於テ在勤加俸ノ額其ノ增給ノ額ヨリ多キトキハ平時ノ駐屯地ヲ離ルル日ノ前日迄在勤加俸ニ相當スル額ヲ給ス

敵ノ俘虜トナリ又ハ生死不明トナリタル者ハ其ノ間本條ノ增給ヲ停止ス

第七條　准士官以上營外居住ノ下士以下及軍屬ニシテ前條第一項、第二項及第四項ノ增給ヲ受クル者竝出戰ノ姿勢ヲ完成シテ衞戍地又ハ編成地ヲ出發スル部隊ニ屬スル者及該部隊出發後之ニ屬セシメラレタル者ニハ手當トシテ一回限リ第一表ノ金額ヲ給ス

第七條ノ二ニ依リ手當金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ金額ヲ控除ス

第七條ノ二　豫備後備ノ軍籍ニ在ル准士官以上ニシテ召集ニ應シ就職スル者ニハ一回限リ手當トシテ第一表手當金ノ半額ヲ給ス

大本營前進セル場合ニ於テ戰役ニ關スル勤務ヲ帶ヒ其ノ所在地ニ一時往復スル准士官以上營外居住下士以下及軍屬ニハ前項ニ準シ手當ヲ給スルコトヲ得但シ前項ニ依リ手當ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　軍人軍屬ノ糧食及馬匹ノ飼料ハ第六條第一項、第二項及第四項ノ增給ヲ受クルノ期間現品ヲ給ス其ノ定量及臨時飲食物支給ノ要否ハ陸軍大臣之ヲ定ム

軍人軍屬外ノ者ニシテ糧食給與ノ必要アルトキハ前項ニ依リ適宜現品ヲ給與スルコトヲ得

軍人軍屬ニシテ第一項ノ外糧食給與ノ必要アルトキハ現品又ハ代金ヲ適宜給與スルコトヲ得

裝蹄其ノ他器具ノ保續等ハ總テ官費トス其ノ期間ハ第一項ニ同シ

第九條　營內居住下士以下ニハ動員ノ日ヨリ復員ノ日マテ營外居住下士以下及傭人ニハ第六條第一項、第二項及第四項ノ增給ヲ受クル期間所要ノ被服ヲ給與又ハ貸與ス此ノ場合ニ於テハ平時交付スヘキ被服ノ現品

金額ノ定額ハ其ノ支給ヲ停止ス其ノ方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

軍人軍屬ニハ必要ニ應シ特種ノ被服ヲ給與シ若クハ貸與スルコトヲ得軍人軍屬外ニシテ戰役ニ從事スル者ニ在テモ亦同シ

第十條　豫備役後備役下士ニシテ召集中士官又ハ准士官ニ任セラレタル者ニハ陸軍給與令第十二表服裝手當ノ半額ヲ給ス

第十一條　削除

第十二條　軍人軍屬死亡シタルトキハ第二表ノ埋葬料ヲ給ス

戰役ニ從事スル者ニシテ前項ノ支給ヲ受ケサル者官ニ於テ埋葬ヲ要スルトキハ官費ヲ以テ之ヲ埋葬ス

第十三條　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル軍人軍屬ノ藥餌ハ總テ官給トス軍人軍屬外ト雖戰役ニ從事スル者ハ時宜ニ依リ官給スルコトヲ得

第十四條　各部、各隊及軍人軍屬ニ要スル筆紙墨文具其ノ他消耗品等ハ總テ現品ヲ給ス

第十五條　戰時若ハ事變ニ際シ特別ノ任務ヲ受ケ外國ニ出張スル者ニハ戰地ニ出發スル者ニ準シ給與ヲナスコトヲ得

附　則

第十六條　戰時若クハ事變ノ爲メ業劇ノ事務ニ從事スル部隊ニアル者ハ其ノ期間准士官以上及文官ハ俸給五分ノ一、下士以下ハ給料四分ノ一ヲ增給ス其ノ部隊ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十七條　豫備後備ノ籍ニアル將校竝ニ相當官ニシテ本年六月一日以降召集ニ應シ就職シタル者ニモ本規則第七條第三項ヲ適用ス

第十八條　本規則ニ依レル給與ノ時期、停止、減額及本規則ノ施行細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十九條　明治二十七年勅令第六十三號陸軍臨時給與規則ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第一表　手當金

| 階級 | | 金額 |
|---|---|---|
| 大將 | 高等官親任 | 六百圓 |
| 中將<br>同相當官 | 高等官一等 | 四百圓 |
| 少將<br>同相當官 | 高等官二等 | 三百圓 |
| 大佐<br>同相當官 | 高等官三等 | 二百五十圓 |
| 中佐<br>同相當官 | 高等官四等 | 二百三十圓 |
| 少佐<br>同相當官 | 高等官五等 | 二百圓 |
| 大尉<br>同相當官 | 高等官六等 | 百六十圓 |
| 中少尉<br>同相當官 | 高等官七等以下 | 百四十圓 |
| 准士官 | 試補<br>判任官一等 | 百二十圓 |
| 曹長<br>同相當官 | 判任官二等 | 八十五圓 |
| 軍曹<br>同相當官 | 判任官三等 | 七十圓 |
| 伍長<br>同相當官 | 判任官四等<br>雇員月給五十圓以上 | 五十五圓 |
| 上等兵<br>同級兵卒 | 監獄看守、警查<br>雇員月給五十圓未滿 | 四十五圓 |
| | 雇員月給三十五圓以下 | 三十圓 |
| | 傭人 | 十五圓 |

備考

一　勅任官待遇ノ者ハ少將ノ額、奏任官待遇ノ者ノ中本俸又ハ手當月額三百圓以上ノ者ハ少佐ノ額、同三百圓未滿ノ者ハ中少尉ノ額、判任官待遇ノ者ハ伍長ノ額ニ依ル但シ本表ニ揭クル者ハ此ノ限ニ在ラス

二　囑託者等ニシテ本官ヲ有スル者ハ本表ニ從ヒ其ノ官等ニ相當スル額ニ依リ本官ヲ有セサル者ニ付テハ其ノ職務ニ從ヒ前號ニ準シ陸軍大臣之ヲ定ム

第二表　埋葬料

| 階級 | | 金額 |
|---|---|---|
| 將官<br>同相當官 | 高等官二等以上 | 百五圓 |
| 上長官 | 高等官五等以上 | 八十二圓五十錢 |
| 士官 | 高等官六等以下 | 六十七圓五十錢 |
| 准士官 | 試補<br>判任官一等 | 五十二圓五十錢 |
| 下士<br>憲兵上等兵 | 判任官二等以下<br>雇員月給五十圓以上 | 四十五圓 |
| 兵卒（憲兵上等兵ヲ除ク） | 雇員月給五十圓未滿<br>傭人 | 三十七圓五十錢 |

備考

一　見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者ハ准士官ノ額、其ノ他ハ下士ノ額ニ依ル

二　勅任官待遇ノ者ハ將官同相當官ノ額、奏任官待遇ノ者ノ中本俸又ハ手當月額三百圓以上ノ者ハ上長官ノ額、同三百圓未滿ノ者ハ士官ノ額、判任官待遇ノ者ハ下士ノ額ニ依ル

三　囑託者等ニシテ本官ヲ有スル者ハ本表ニ從ヒ其ノ官等ニ相當スル額ニ依リ本官ヲ有セサル者ニ付テハ其ノ職務ニ從ヒ前號ニ準シ陸軍大臣之ヲ定ム

四　本表ノ雇員、傭人ノ範圍ハ陸軍大臣之ヲ定ム

## ●陸軍軍人軍屬ノ戰時增給等ニ關スル件

（大正七年十二月二十三日　勅令第三百九十四號）
改正　大正九年第二六九號

朕陸軍軍人軍屬ノ戰時增給等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍軍人軍屬ニシテ戰地ニ出發スルモノ又ハ戰地ニ在ルモノノ中左ニ揭クル者ニハ當分ノ內陸軍戰時給與規則第六條第一項及第二項ノ規定ニ依ラス左ノ增給ヲ給ス但シ內地途中ニ在ル者ノ增給ニ付テハ陸軍戰時給與規則第六條第一項ノ規定ニ依ル

士官又ハ准士官ニシテ陸軍戰時給與規則第六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル增給ノ月額三十五圓ニ滿タサルモノ　月額三十五圓

營內居住ノ給料ヲ受クル下士以下　給料ノ十分ノ六

前項ノ規定ニ依ル增給ハ陸軍戰時給與規則第六條第一項及第二項ノ增給ト看做ス

第一項ノ規定ニ依ル增給ヲ爲ス期間軍人軍屬ニハ日用品ヲ給ス但シ准士官以上及之ニ相當スル軍屬ニ在リテハ特ニ必要アル場合ニ限ル

前項ノ規定ニ依リ給スル日用品ノ品種、數量及支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●國民軍ノ給與ニ關スル件

（明治三十七年九月二十九日　勅令第二百十六號）

朕國民軍ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

戰時又ハ事變ニ際シ國民兵役ニ在リテ召集セラレタル者及志願ニ由リ國民軍ニ編入セラレタル者ノ給與ハ後備役ニ在ル者召集中ノ給與ニ同シ

---

## ●陸軍軍人軍艦若クハ水雷艇ニ乘組ムトキ航海加俸給與

（明治二十八年五月四日　勅令第五十八號）
改正　明治三〇年第四一七號

朕陸軍軍人軍艦若クハ水雷艇ニ乘組ムトキ航海加俸ヲ給スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍大臣副署）

陸軍軍人軍艦若クハ水雷艇ノ乘員トシテ航行ノ役務ニ服スル艦艇ニ乘組ムトキハ【海軍軍人俸給令】ニ準據シ其ノ官職相當ノ航海加俸ヲ給ス但陸軍上等兵及陸軍一等卒ハ海軍【一二等卒】ニ陸軍二等卒ハ海軍【三四等卒】ニ準ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

## ●航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル軍人軍屬ニ航空加俸給與ノ件

（大正九年八月二十日　勅令第二百七十九號）
改正　大正一四年第二九五號

朕航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル軍人軍屬ニ航空加俸給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍大臣副署）

軍用ノ航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル陸海軍軍人軍屬（軍屬ニ非サル職工ヲ含ム）ニハ別表ノ航空加俸ヲ給ス其ノ給與細則ハ主務大臣之ヲ定ム

前項ノ規定ハ軍事上ノ必要ニ依リ軍用ニ非サル航空機ニ搭乘シテ航空勤務ニ從事スル陸海軍軍人軍屬（軍屬ニ非サル職工ヲ含ム）ニ之ヲ準用ス

外國ノ航空部隊及學校等ニ於テ航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル陸海軍軍人軍屬（軍屬ニ非サル職工ヲ含ム）ニハ第一項ノ規定ニ準シ航空加俸ヲ給スルコトヲ得

（別表）

| 階級 陸軍 | 階級 海軍 | 月額 |
|---|---|---|
| 將校、同相當官、高等文官、同待遇者 | 士官、特務士官、高等文官、同待遇者 | 六十圓以內 |
| 准士官、見習士官、判任文官一等 | 候補生、准士官、判任文官一等 | 四十圓以內 |
| 下士、士官候補生、判任文官二等以下、判任文官待遇者 | 下士官、判任文官二等以下、判任文官待遇者 | 三十圓以內 |
| 兵卒 | 兵 | 二十圓以內 |

備考

一　新式若ハ新設計ノ航空機ニ搭乘スル者、特ニ危險ト認ムル航空試驗ニ從事スル者、教導ノ職ニ在ル者又ハ航空交通若ハ航空輸送ニ從事スル者ニハ本表定額ノ五割以內ヲ增給スルコトヲ得

二　主務大臣ハ月額ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍內ニ於テ日額ニ依リ航空加俸ヲ給スルコトヲ得但シ一月內ニ於ケル支給額ノ合計ハ月額ヲ超エルコトヲ得ス

三　陸海軍ニ於ケル本表ニ揭ケサル者ニ給スル航空加俸ノ額ハ本表ニ準シテ主務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年八月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

大正二年勅令第十號ハ大正九年七月三十一日限リ之ヲ廢止ス

## ●朝鮮滿洲駐箚陸軍部隊給與令

（明治三十九年十月三十日　勅令第二百七十九號）
改正　明治四〇年第三號、第一三號、第二五三號、第三二七號、四二年第六八號、第三四八號、四三年第一四四號、四五年第一〇〇號　大正二年第二五三號、五年第六九號、六年第三號、第一八九號、七年第五五號、八年第四五四號、九年第二七〇號、第三一九號、一〇年第二二七號、一一年第三七五號、一二年第一七一號、一三年第一五〇號

朕滿洲韓國樺太駐箚陸軍部隊給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

朝鮮滿洲駐箚陸軍部隊給與令

第一條　朝鮮滿洲ニ駐箚スル陸軍部隊及之ニ屬スル軍人軍屬ノ給與ハ本令ニ依ル軍人軍屬以外ノ者ニシテ本令中特ニ定メタル者ノ給與亦同シ

本令ニ明文ナキモノハ陸軍給與令ノ規定ヲ適用ス

第二條　軍隊外ノ委任經理ニ係ル給與ニ關シテハ陸軍給與令ノ規定ニ拘ラス陸軍大臣之ヲ定ム

第三條　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ノ俸給又ハ給料ハ之ヲ減給セサルヲ例トス

第四條　將校同相當官及高等文官同待遇者ニハ俸給ノ十分ノ五以內、准士官、下士以下及判任文官同待遇者ニハ俸給ノ十分ノ八以內ノ在勤加俸ヲ給ス其ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム但シ在勤加俸ノ年額八百四十圓ニ充タサル者ニハ年額八百四十圓迄ヲ給スルコトヲ得

豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在リテ勤務演習ノ爲召集中ノ者ニハ在勤加俸ヲ給セス

朝鮮滿洲ニ駐箚スル軍隊附營內居住各兵科下士兵卒ニシテ通譯ヲ命セラレタル者ニハ月額一圓二十錢以內ノ通譯加俸ヲ給ス其ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條ノ二　削除

第四條ノ三　下士退營賜金ノ定額ハ別表ニ依ル但シ滿洲駐箚師團ニ屬スル者ニ在リテハ陸軍給與令第七表ノ二中內地ノ額ニ依ル

第五條　糧食ハ准士官以上、營外居住ノ下士以下及軍屬ニ在リテハ自辨トシ營內居住ノ下士以下ニ在リテハ官給トス

糧食自辨ノ者ト雖匪徒鎭壓、行軍、演習其ノ他必要ノ場合ニハ之ヲ官給スルコトヲ得

軍人軍屬外ノ者ト雖糧食給與ノ必要アルトキハ之ヲ官給スルコトヲ得

第六條　削除

第七條　削除

第八條　馬匹ニ係ル裝蹄剔毛其ノ他器具ノ保續等ハ總テ實費トス

第九條　左ノ被服ハ現品ヲ以テ交付シ其ノ保續ニ係ル諸費ハ實費トス

一　滿洲駐箚師團ノ備附被服

二　軍隊（滿洲駐箚師團ニ屬スル各隊ヲ除ク）、憲兵隊及病院以外ノ各部隊ノ備附被服

第十條　軍屬ニハ陸軍大臣ノ定メタル者ニ限リ所要ノ被服ヲ支給又ハ貸與ス但シ現品ニ代ヘ被服料ヲ給スルコトヲ得

第十一條　軍人軍屬ニハ必要ニ應シ宿舍及家具ヲ貸與シ防寒用薪炭ヲ支給スルコトヲ得

第十二條　左ノ軍隊ノ消耗品ニ係ル費用ハ官費トス

一　第十九師團及第二十師團ニ屬スル各隊中國境守備ノ爲派遣ノモノ

二　滿洲駐箚師團ニ屬スル各隊

三　獨立守備步兵大隊

第十三條　前條ニ揭クル軍隊ノ陣營具ハ初度現品ヲ備附ケ其ノ保續ニ要スル費用ハ實費トス

第十四條　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル軍人軍屬ノ治療ニ要スル諸費ハ總テ官費トス

軍人軍屬外ト雖時宜ニ依リ官費ト爲スコトヲ得

第十五條　軍人軍屬死亡シ官ニ於テ埋葬スルトキハ其ノ埋葬又ハ遺骨遺物等輸送ニ係ル諸費ハ官費トス

軍人軍屬以外ニシテ前項ノ必要アルトキ亦同シ

第十六條　駐箚部隊ニ屬スル者ニ非サルモ公務ヲ以テ駐箚地ニ往復スル軍人軍屬ノ給與ハ本令ヲ適用ス但シ第四條ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　糧食及馬糧ノ定額、本令ニ依リ給

與スル物件ノ種類、員數、給與期限及支給區分竝給與ノ停止及減額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治三十九年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第二百二十五號ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正五年勅令第六十九號）

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ獨立守備大隊ニ關スル改正ハ准士官以上ノ者ノ在勤加俸給與ニ關スルモノヲ除クノ外大正五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年六月一日獨立守備大隊編成替ノ際同大隊ヨリ獨立守備歩兵大隊ニ轉スル者ノ給與ニ付テハ准士官以上ノ者ノ在勤加俸ニ關スルモノヲ除クノ外仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（大正六年勅令第三號）

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年六月一日獨立守備大隊編成替ノ際同大隊ヨリ獨立守備歩兵大隊ニ轉シタル者ノ給與ニ付テハ准士官以上及營外居住下士ノ在勤加俸ニ關スルモノヲ除クノ外仍從前ノ規定ニ依ル但シ本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ其ノ別表ノ給料ヲ受クル下士ヲ營外ニ居住セシムルトキノ在勤加俸ハ月額九圓トス

附　則（大正九年勅令第三百十九號）

本令ハ大正九年八月十日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

大正九年八月十日現役准尉ヨリ少尉ニ任セラレタル者及現役准士官ニシテ特別俸ヲ受クルモノノ在勤加俸ハ左ノ各號ニ依ル

一　准尉（一等）ヨリ少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉（二等）ニ任セラレタルモノハ月額三十九圓

二　准尉（二等）ヨリ少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉（二等）ニ任セラレタルモノハ月額三十七圓五十錢

三　准士官ニシテ特別俸甲ヲ受クルモノハ月額三十三圓、特別俸乙ヲ受クルモノハ月額三十圓但シ技術加俸ヲ受クル者ニハ月額九十錢ヲ加給ス

（別表）

| 下士退營賜金 在營年數 | 金額 |
|---|---|
| 五年 | 百圓 |
| 六年 | 二百圓 |
| 七年 | 三百圓 |
| 八年 | 四百圓 |
| 九年 | 五百圓 |
| 十年 | 六百圓 |
| 十一年 | 七百圓 |
| 十二年 | 八百二十圓 |
| 備考 | 十二年以上在營ノ者ハ十二年ノ額ニ依ル |

## ●臺灣駐箚陸軍部隊給與規則

（明治二十九年三月三十日勅令第七十號）

（改正　明治三〇年第五〇號、第二八九號、三一年第二八號、三二年第二二四號、第四四五號、三四年第六〇號、三六年第一八七號、四〇年第三二八號、四一年第六三號、四二年第六七號、第三四七號、四三年第一四三號、四五年第九九號　大正二年第四四號、第二五二號、四年第二一二號、五年第六八號、六年第二號、第一八八號、八年第四五五號、九年第二七一號、第三二〇號、一〇年第二一八號、一一年第三七六號、一二年第一七二號）

朕臺灣駐箚陸軍部隊給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

臺灣駐箚陸軍部隊給與規則

第一條　臺灣ニ駐箚スル陸軍部隊及軍人軍屬ノ給與ハ本規則ニ依ル但本規則ニ明文ナキモノハ陸軍給與令ノ規程ヲ適用ス

第二條　削除

第三條　削除

第四條　下士退營賜金ノ定額ハ別表ニ依ル

第五條　削除

第六條　將校同相當官及高等文官同待遇者ニハ俸給ノ十分ノ五以內、准士官、下士以下及判任文官同待遇者ニハ俸給ノ十分ノ八以內ノ在勤加俸ヲ給ス其ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム但シ在勤加俸ノ年額八百四十圓ニ充タサル者ニハ年額八百四十圓迄ヲ給スルコトヲ得

豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在リテ演習召集中ノ者ニハ在勤加俸ヲ給セス

第七條　糧食ハ准士官以上、營外居住ノ下士以下及軍屬（文官、奏任待遇者及判任待遇者ニ限ル）ニ在リテハ自辨トシ營內居住ノ下士以下ニ在リテハ官給トス

糧食自辨ノ者ト雖匪徒鎭壓、行軍、演習其ノ他必要ノ場合ニハ之ヲ官給スルコトヲ得

軍人軍屬外ノ者ト雖糧食給與ノ必要アルトキハ之ヲ官給スルコトヲ得

第八條　削除

第九條　軍人軍屬ニハ必要ニ應シ宿舍及家具ヲ貸與スルコトヲ得

第十條　糧食及馬糧ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十一條乃至第十六條　削除

第十七條　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル軍人軍屬ノ治療ニ要スル諸費ハ總テ官費トス軍人軍屬外ト雖時宜ニ依リ官費ト爲スコトヲ得

第十八條　軍人軍屬死亡シ官ニ於テ埋葬スルトキハ其ノ埋葬又ハ遺骸遺物輸送ニ係ル諸費ハ官費トス軍人軍屬以外ノ者ニ付テモ亦同シ

第十九條　削除

第二十條　駐箚部隊ニ屬スル雇員其ノ他傭役者ノ給與ハ本規則ニ準シ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十一條　駐箚部隊ニ屬スル者ニ非サルモ駐箚地ニ往復スル軍人軍屬ノ給與ニ付テハ第六條ノ規定ヲ除クノ外本規則ヲ適用ス

第二十二條　本規則ニ依レル給與ノ停止減額及本規則ノ施行細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則

第二十三條　本規則ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

附　則（大正九年勅令第三百二十號）

本令ハ大正九年八月十日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

大正九年八月十日現役准尉ヨリ少尉ニ任セラレタル者及現役准士官ニシテ特別俸ヲ受クルモノノ在勤加俸ハ左ノ各號ニ依ル

一　准尉（一等）ヨリ少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉（二等）ニ任セラレタルモノハ月額三十九圓

二　准尉（二等）ヨリ少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉（二等）ニ任セラレタルモノハ月額三十七圓五十錢

三　准士官ニシテ特別俸甲ヲ受クルモノハ月額三十三圓、特別俸乙ヲ受クルモノハ月額三十圓但シ技術加俸ヲ受クル者ニハ月額九十錢ヲ加給ス

別表

| 下士退營賜金 在營年數 | 金額 |
|---|---|
| 五年 | 百圓 |
| 六年 | 二百圓 |
| 七年 | 三百圓 |
| 八年 | 四百圓 |
| 九年 | 五百圓 |
| 十年 | 六百圓 |
| 十一年 | 七百圓 |
| 十二年 | 八百二十圓 |
| 備考 | 十二年以上在營ノ者ハ十二年ノ額ニ依ル |

## ●支那駐箚陸軍部隊給與令

（明治三十五年一月十七日勅令第三號）

（改正　明治三六年第一八八號、四一年第六四號、四二年第六九號、四三年第一四五號、四五年第一〇一號　大正二年第二五四號、四年第二一三號、五年第七〇號、六年第四號、第一九〇號、八年第四五六號、九年第二七二號、第三二一號、

一〇年第二一九號、一二年第一七三號、一三年第一五一號、一四年第一六三號）

朕淸國駐箚陸軍部隊給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

支那駐箚陸軍部隊給與令

第一條　支那ニ駐箚スル陸軍部隊及軍人軍屬ノ給與ハ本令ニ依ル但シ本令ニ明文ナキモノハ臺灣駐箚陸軍部隊給與規則ヲ準用ス

第二條　削除

第三條　軍人軍屬（文官、奏任待遇者及判任待遇者ニ限ル）ニハ在勤加俸ヲ給ス其ノ定額ハ別表ニ依ル

第三條ノ二　下士退營賜金ノ定額ハ陸軍給與令第七表ノ二中內地ノ額ニ依ル

第四條　削除

第五條　糧食ハ准士官以上竝高等文官及奏任待遇者ニ在リテハ自辨トシ下士以下竝判任文官及判任待遇者ニ在リテハ官給トス

糧食自辨ノ者ト雖行軍、演習其ノ他必要ノ場合ニハ之ヲ官給スルコトヲ得軍人軍屬外ノ者ト雖糧食給與ノ必要アルトキハ之ヲ官給スルコトヲ得

第六條　軍人軍屬ニハ第三條ノ在勤加俸ヲ受クル期間必要ニ應シ特種ノ被服ヲ給與シ又ハ貸與ス

下士以下所要ノ被服及駐箚部隊備附ノ被服ハ現品ヲ以テ交付ス

第七條　軍人軍屬ニハ必要ニ應シ宿舍及家具ヲ貸與シ防寒用薪炭ヲ支給スルコトヲ得

第七條ノ二　軍隊ノ消耗品ニ係ル費用ハ實費トス

第七條ノ三　軍隊ノ陣營具ハ初度現品ヲ備附ケ其ノ保續ニ要スル費用ハ實費トス

第八條　被服ノ品種數量ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年勅令第三百二十一號）

本令ハ大正九年八月十日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

大正九年八月十日現役准尉ヨリ少尉ニ任セラレタル者及現役准士官ニシテ特別俸ヲ受クルモノノ在勤加俸ハ左ノ各號ニ依ル

一　准尉（一等）ヨリ少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉（二等）ニ任セラレタルモノハ月額七十圓五十錢

二　准尉（二等）ヨリ少尉ニ任セラレタル者及其ノ者ニシテ更ニ中尉（二等）ニ任セラレタルモノハ月額六十七圓五十錢

三　准士官ニシテ特別俸甲ヲ受クルモノハ月額六十一圓五十錢、特別俸乙ヲ受クルモノハ月額五十八圓五十錢但シ技術加俸ヲ受クル者ニハ月額一圓八十錢ヲ加給ス

（別表）

在勤加俸

軍人

| 階級 | | 月額 |
|---|---|---|
| 中將同相當官 | | 二七三圓 五〇 |
| 少將同相當官 | | 二三五 五〇 |
| 大佐同相當官 | | 一七七 〇〇 |
| 中佐同相當官 | | 一四八 五〇 |
| 少佐同相當官 | | 一二四 五〇 |
| 大尉同相當官 | 一等 | 九一 五〇 |
| | 二等 | 八五 五〇 |
| | 三等 | 七八 〇〇 |
| 中尉同相當官 | 一等 | 七〇 五〇 |
| | 二等 | 六四 五〇 |
| 少尉同相當官 | | 六三 〇〇 |
| 准士官 | 一等 | 五五 五〇 |
| | 二等 | 五二 五〇 |
| | 三等 | 四九 五〇 |
| 營內居住 曹長同相當官 | 一等 | 一七 八八 |
| | 二等 | 一六 二六 |
| | 三等 | 一五 〇〇 |
| 營內居住 軍曹同相當官 | 一等 | 一三 七四 |
| | 二等 | 一二 四八 |
| | 三等 | 一一 四〇 |
| | 四等 | 一〇 六八 |
| 營內居住 伍長同相當官 | 一等 | 九 四二 |
| | 二等 | 八 七九 |
| 營內居住 下士勤務諸兵卒 | | 七 〇二 |
| 營內居住 上等兵同級兵卒 | | 六 七八 |
| 營內居住 一、二等兵同級兵卒 | | 六 五四 |

軍屬

| 階級 | 月額 |
|---|---|
| 年俸六千圓以下 | 二五八圓 〇〇 |
| 五千五百圓以下 | 二四〇 〇〇 |
| 五千二百圓以下 | 二二八 〇〇 |
| 高等文官奏任待遇者 | |
| 四千八百圓以下 | 二一三 〇〇 |
| 四千五百圓以下 | 一八〇 〇〇 |
| 四千百圓以下 | 一六八 〇〇 |
| 三千八百圓以下 | 一六〇 五〇 |
| 三千四百圓以下 | 一五〇 〇〇 |
| 三千百圓以下 | 一四二 五〇 |
| 二千七百圓以下 | 一〇八 〇〇 |
| 二千四百圓以下 | 一〇〇 五〇 |
| 二千圓以下 | 九〇 〇〇 |
| 千八百圓以下 | 八五 五〇 |
| 千六百圓以下 | 八二 五〇 |
| 千四百圓以下 | 七六 五〇 |
| 千二百圓以下 | 七二 〇〇 |

一　營外居住下士以下、判任文官及判任待遇者ノ在勤加俸ハ俸級ノ十分ノ八以內トシ其ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

二　營外居住ノ給料ヲ受クル下士ヲ營內ニ居住セシムルトキノ在勤加俸ハ營外居住下士ノ額ニ依ル

## ●臺灣及澎湖島竝海外駐箚陸軍各部隊所屬陸軍下士判任文官定員補缺雇員給料支辨ノ件

（明治二十九年六月九日勅令第二百四十八號）

朕臺灣島澎湖島竝ニ海外ニ駐箚スル陸軍各部隊ニ屬スヘキ陸軍下士若クハ判任文官ノ補缺ニ充ツル雇員給料支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

臺灣及澎湖島竝ニ海外ニ駐箚ノ陸軍各部隊ニ屬スヘキ陸軍下士又ハ判任文官定員ノ補缺ニ充ツル雇員ニシテ當該駐箚陸軍部隊給與規則ノ給與ヲ受クル者ノ給料ハ俸給豫算定額內ヲ以テ支辨スルコトヲ得

## ●陸海軍所屬待遇官吏俸給令

大正十一年三月三十一日
勅令第九十六號

朕陸海軍所屬待遇官吏俸給令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍大臣副署）

陸海軍所屬待遇官吏俸給令

第一條　陸軍法務官試補及海軍法務官試補ノ年俸ハ千百圓以內トス

第二條　陸軍監獄看守、陸軍警査、海軍監獄看守及海軍警査ノ月俸ハ三十圓以上七十圓以下トス但シ二年以上最高額ヲ受ケ事務練熟優等ナル者ニハ月額十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際在職ノ理事試補、主理試補又ハ陸軍警守ニシテ各陸軍法務官試補、海軍法務官試補又ハ陸軍警査ニ採用セラレタルモノ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ヲ受クルモノトス

## 第六款　海軍省

## ●海軍武官官階

大正九年一月十六日
勅令第十號

改正　大正一三年第四〇一號、一五年第二五六號
昭和二年第二一六號

朕大正四年勅令第二百十六號海軍武官官階ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍武官官階別表ノ通定ム

附　則

本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ海軍兵曹長タル者ハ海軍特務少尉ニ、海軍機關兵曹長タル者ハ海軍機關特務少尉ニ、海軍軍樂長タル者ハ海軍軍樂特務少尉ニ、海軍船匠長タル者ハ海軍船匠特務少尉ニ、海軍看護長タル者ハ海軍看護特務少尉ニ、海軍筆記長タル者ハ海軍主計特務少尉ニ、海軍豫備兵曹長タル者ハ海軍豫備特務少尉ニ、海軍豫備機關兵曹長タル者ハ海軍豫備機關特務少尉ニ別ニ辭令ヲ用ヰスシテ任セラレタルモノトス

從前ノ法令中特務士官ノ各官ニ關スル規定ハ其ノ種別ニ從ヒ各科特務少尉ニ、准士官ノ各官ニ關スル規定ハ其ノ種別ニ從ヒ各科准士官ニ、下士ニ關スル規定ハ下士官ニ、下士官ノ各官ニ關スル規定ハ其ノ種別官階ニ從ヒ各科下士官ニ之ヲ適用ス

附　則（大正十三年勅令第四百一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ海軍機關中將タル者ハ海軍中將ニ、海軍機關少將タル者ハ海軍少將ニ任セラレタルモノトス

前項ノ規定ニ依リ海軍機關少將ヨリ海軍少將ニ任セラレタル者ノ實役停年ハ前役之ヲ通算ス

（別表）

### 海軍武官官階表

| | | 將校 | | 將校相當官 | | | | | | | 特務 | 士官准士官下士官 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 兵科 | 機關科 | 軍醫科 | 藥劑科 | 主計科 | 造船科 | 造機科 | 造兵科 | 水路科 | | 兵科 | 機關科 | 軍樂科 | 船匠科 | 看護科 | 主計科 |
| 士官 | 將官 | 海軍大將 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 海軍中將 | | 海軍軍醫中將 | | 海軍主計中將 | 海軍造船中將 | 海軍造機中將 | 海軍造兵中將 | | | | | | | | |
| | | 海軍少將 | | 海軍軍醫少將 | 海軍藥劑少將 | 海軍主計少將 | 海軍造船少將 | 海軍造機少將 | 海軍造兵少將 | | | | | | | | |
| | 佐官 | 海軍大佐 | 海軍機關大佐 | 海軍軍醫大佐 | 海軍藥劑大佐 | 海軍主計大佐 | 海軍造船大佐 | 海軍造機大佐 | 海軍造兵大佐 | 海軍水路大佐 | | | | | | | |
| | | 海軍中佐 | 海軍機關中佐 | 海軍軍醫中佐 | 海軍藥劑中佐 | 海軍主計中佐 | 海軍造船中佐 | 海軍造機中佐 | 海軍造兵中佐 | 海軍水路中佐 | | | | | | | |
| | | 海軍少佐 | 海軍機關少佐 | 海軍軍醫少佐 | 海軍藥劑少佐 | 海軍主計少佐 | 海軍造船少佐 | 海軍造機少佐 | 海軍造兵少佐 | 海軍水路少佐 | | | | | | | |
| | 尉官 | 海軍大尉 | 海軍機關大尉 | 海軍軍醫大尉 | 海軍藥劑大尉 | 海軍主計大尉 | 海軍造船大尉 | 海軍造機大尉 | 海軍造兵大尉 | 海軍水路大尉 | 特務士官 | 海軍特務大尉 | 海軍機關特務大尉 | 海軍軍樂特務大尉 | 海軍船匠特務大尉 | 海軍看護特務大尉 | 海軍主計特務大尉 |
| | | 海軍中尉 | 海軍機關中尉 | 海軍軍醫中尉 | 海軍藥劑中尉 | 海軍主計中尉 | 海軍造船中尉 | 海軍造機中尉 | 海軍造兵中尉 | 海軍水路中尉 | | 海軍特務中尉 | 海軍機關特務中尉 | 海軍軍樂特務中尉 | 海軍船匠特務中尉 | 海軍看護特務中尉 | 海軍主計特務中尉 |
| | | 海軍少尉 | 海軍機關少尉 | 海軍軍醫少尉 | 海軍藥劑少尉 | 海軍主計少尉 | 海軍造船少尉 | 海軍造機少尉 | 海軍造兵少尉 | 海軍水路少尉 | | 海軍特務少尉 | 海軍機關特務少尉 | 海軍軍樂特務少尉 | 海軍船匠特務少尉 | 海軍看護特務少尉 | 海軍主計特務少尉 |
| | | | | | | | | | | | 准士官 | 海軍兵曹長 | 海軍機關兵曹長 | 海軍軍樂兵曹長 | 海軍船匠兵曹長 | 海軍看護兵曹長 | 海軍主計兵曹長 |
| | | | | | | | | | | | 下士官　一等下士官 | 海軍一等兵曹 | 海軍一等機關兵曹 | 海軍一等軍樂兵曹 | 海軍一等船匠兵曹 | 海軍一等看護兵曹 | 海軍一等主計兵曹 |
| | | | | | | | | | | | 二等下士官 | 海軍二等兵曹 | 海軍二等機關兵曹 | 海軍二等軍樂兵曹 | 海軍二等船匠兵曹 | 海軍二等看護兵曹 | 海軍二等主計兵曹 |
| | | | | | | | | | | | 三等下士官 | 海軍三等兵曹 | 海軍三等機關兵曹 | 海軍三等軍樂兵曹 | 海軍三等船匠兵曹 | 海軍三等看護兵曹 | 海軍三等主計兵曹 |

備考　將校中機關科ニ屬スルモノハ海軍機關大佐以下ニ限ル

| 豫備員 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 豫備將校 | | 豫備特務士官豫備准士官豫備下士官 | | |
| | | 兵科 | 機關科 | | 兵科 | 機關科 |
| 豫備士官 | 豫備佐官 | 海軍豫備大佐 | 海軍豫備機關大佐 | | | |
| | | 海軍豫備中佐 | 海軍豫備機關中佐 | | | |
| | | 海軍豫備少佐 | 海軍豫備機關少佐 | | | |
| | 豫備尉官 | 海軍豫備大尉 | 海軍豫備機關大尉 | | | |
| | | 海軍豫備中尉 | 海軍豫備機關中尉 | | | |
| | | 海軍豫備少尉 | 海軍豫備機關少尉 | 豫備特務士官 | 海軍豫備特務少尉 | 海軍豫備機關特務少尉 |
| | | | | 豫備准士官 | 海軍豫備兵曹長 | 海軍豫備機關兵曹長 |
| | | | | 豫備下士官　豫備一等下士官 | 海軍豫備一等兵曹 | 海軍豫備一等機關兵曹 |
| | | | | 豫備二等下士官 | 海軍豫備二等兵曹 | 海軍豫備二等機關兵曹 |
| | | | | 豫備三等下士官 | 海軍豫備三等兵曹 | 海軍豫備三等機關兵曹 |

## ●海軍兵職階

大正九年一月十六日
勅令第十一號

朕海軍兵職階ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍兵職階別表ノ通定ム

附　則

本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍卒職名等級表ハ之ヲ廢止ス

從前ノ法令中卒ニ關スル規定ハ兵ニ、一等卒ニ關スル規定ハ一等兵ニ、二等卒ニ關スル規定ハ二等兵ニ、三等卒ニ關スル規定ハ三等兵ニ、四等卒ニ關スル規定ハ四等兵ニ之ヲ適用ス

（別表）

### 海軍兵職階表

| | 一等兵 | 二等兵 | 三等兵 | 四等兵 |
|---|---|---|---|---|
| 兵科 | 海軍一等水兵 | 海軍二等水兵 | 海軍三等水兵 | 海軍四等水兵 |
| 機關科 | 海軍一等機關兵 | 海軍二等機關兵 | 海軍三等機關兵 | 海軍四等機關兵 |
| 軍樂科 | 海軍一等軍樂兵 | 海軍二等軍樂兵 | 海軍三等軍樂兵 | 海軍四等軍樂兵 |
| 船匠科 | 海軍一等船匠兵 | 海軍二等船匠兵 | 海軍三等船匠兵 | 海軍四等船匠兵 |
| 看護科 | 海軍一等看護兵 | 海軍二等看護兵 | 海軍三等看護兵 | 海軍四等看護兵 |
| 主計科 | 海軍一等主計兵 | 海軍二等主計兵 | 海軍三等主計兵 | 海軍四等主計兵 |

## ●海軍給與令

明治三十七年一月二十二日
勅令第六號

改正　明治三七年第一八三號、三八年第二〇九號、第二八八號、三九年第一七號、第二九號、第一四六號、第二七二號、第三一二號、四〇年第一三九號、第一七九號、第三一三號、第三三八號、四一年第六五號、第一八五號、第二〇五號、第二〇九號、第三一三號、四二年第一〇四號、第一五四號、四三年第一五一號、第二四九號、四四年第八號、第三九號
大正二年第四五號、第二八八號、三年第二五號、第四一號、第一五六號、第二六一號、四年第四八號、第二二四號、第二三三號、五年第一五號、第二六二號、六年第一三號、七年第五六號、第二六四號、第三四五號、八年第四四號、第一九一號、九年第六三號、第二七六號、一〇年第一二三號、第四〇四號、一一年第二四一號、第五一一號、一二年第四三一號、第四五八號、第五〇七號、一三年第五號、第四二號、第二四四號、第二五〇號、一五年第一四二號、第四二〇號、第三七號
昭和二年第五六號、第九九號

朕海軍給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（海軍大臣副署）

海軍給與令

第一章　總則

第一條　海軍軍人軍屬ノ給與ハ別ニ規定アル

モノヲ除クノ外本令ニ依ル軍人軍屬以外ノ者ニシテ本令中特ニ定メタル者ノ給與亦同シ

第二條　本令ニ於テ軍人ト稱スルハ現役軍人（召集中ニ非サル歸休下士官及歸休兵ヲ除ク）、生徒、學生及召集中ノ豫備役後備役軍人、軍屬ト稱スルハ文官、同待遇者、雇員、傭人ヲ謂フ

第三條　軍人軍屬戰地ニ臨ミ若ハ艦船沈沒其ノ他ノ場合ニ於テ所在不明ト爲リタルトキ又ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタルトキハ本令中特ニ定メタルモノヲ除クノ外其ノ間本令ニ依ル給與ヲ停止ス高等官官等俸給令及判任官俸給令ニ依ル給與亦同シ

第四條　本令ニ依ル給與ハ特ニ支給期ヲ定メタルモノヲ除クノ外年額ニ在リテハ十二分シテ毎月、月額又ハ日額ニ在リテハ毎月下旬之ヲ支給ス

第五條　削除

## 第二章　俸給

### 第一節　軍人俸給

第六條　軍人ニハ第一表ニ依リ俸給ヲ給ス

第七條　准士官以上待命中ハ俸給十分ノ八、休職中ハ俸給十分ノ六、停職中ハ俸給十分ノ三ヲ給ス

第八條　兵陸軍教化隊入隊中ハ俸給十分ノ二ヲ給ス

第九條　俸給ハ之ヲ支給スヘキ事由ノ期間一箇月ニ滿タサルトキハ總テ日割計算ニ依ル

軍人死亡シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス當月末日迄ノ俸給ヲ給ス左ノ各號ノ一ニ當ルトキ亦同シ

一　軍人現役ヲ離レタルトキ但シ准士官以上免官ト爲リタル場合ヲ除ク

二　候補生傷痍又ハ疾病ノ爲候補生ヲ免セラレタルトキ

三　軍人召集セラレ實在職一月以上ニシテ召集ヲ解カレタルトキ

第十條　准士官以上待命、休職、停職、豫備役、後備役、退役、免官若ハ廢官ト爲リ又ハ召集ヲ解カレ事務引繼殘務調理ニ從事スルトキハ其ノ事務ノ了リタル日迄仍在職又ハ召集中ノ例ニ依リ俸給ヲ給ス

第十一條　削除

第十二條　下士官兵公務ニ原因スルニ非ズシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ勤務ニ服セザルトキハ其ノ間左ノ區別ニ依リ俸給ヲ給ス

一　故意ニ出ヅル場合ニシテ勤務ニ服セザルコト一週日ヲ超エタルトキ　俸給十分ノ二

二　自己ノ不攝生ニ原因スル場合ニシテ勤務ニ服セザルコト三十日ヲ超エタルトキ　俸給十分ノ四

三　其ノ他ノ事由ニ因ル場合ニシテ勤務ニ服セザルコト三十日ヲ超エタルトキ　俸給十分ノ八、其ノ百八十日ヲ超エタルトキ　俸給十分ノ六

外國、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テハ前項第二號及第三號ノ規定、陸軍教化隊入隊中ノ兵ニ關シテハ前項ノ規定ヲ適用セス

第十三條　准士官以上、候補生及下士官兵留置、勾留、處刑、處罰中又ハ被告事件ノ爲護送中ハ其ノ間俸給ヲ減額スルコトヲ得但シ被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ニ歸シタルトキ、被告事件繫屬中死亡シタルトキ又ハ處罰中勤務ニ服シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ休職又ハ停職中ノ准士官以上及陸軍教化隊入隊中ノ兵ニハ之ヲ適用セズ

第十四條　軍人所在不明ト爲リタルトキハ其ノ間其ノ受クヘキ俸給ノ額ノ十分ノ五ヲ給ス但シ所在不明ト爲リタルコトカ正當ノ事由ニ因ルモノニ非スト認メラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

所在不明ノ軍人所在判明シ其ノ所在不明ト爲リタル原因正當ノ事由アリタルトキハ停止中ノ俸給ヲ給ス但シ前項ニ依リ俸給額十分ノ五ノ支給ヲ受ケタル者ニハ其ノ差額ヲ給ス

第十五條　准士官以上海軍部內ノ文官ニ任セラレタルトキハ其ノ俸給ハ多額ニ就キ之ヲ給ス

第十六條　軍人外國ニ派遣セラレタルトキ、交通不便ノ地方ニ勤務スルトキ又ハ艦船ニ乘組ミ航海ヲ爲ストキハ其ノ俸給ヲ家族ニ下渡スコトヲ得

前項ノ場合ノ外軍人ノ俸給ハ海軍大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ之ヲ其ノ家族ニ下渡スコトヲ得

第十七條　艦船乘組ノ軍人三箇月以上航海ヲ爲ストキハ出航ノ際其ノ翌月迄ノ俸給ヲ前金渡スルコトヲ得

第十八條　交通不便ノ地方ニ勤務スル軍人ノ俸給ハ六箇月分以內ニ於テ前金渡スルコトヲ得

第十九條、第二十條　削除

### 第二節　文官俸給

第二十一條　第十三條、第十四條及第十六條乃至第十八條ノ規定ハ海軍部內ノ文官及文官待遇者ノ俸給ニ之ヲ準用ス

## 第三章　加俸

### 第一節　在勤加俸

第二十二條　大使館附又ハ公使館附ノ軍人及軍事視察又ハ學術研究ノ爲外國ニ駐在スル軍人ニハ外國在勤中第三表ニ依リ加俸ヲ給ス

前項ニ該當スル者ノ在勤地ニ其ノ妻同伴スルトキハ其ノ妻任所ニ在ルノ日ヨリ其ノ妻任所ニ在ラサルニ至ル日ノ前日迄亞細亞諸國ニ在リテハ前項ノ加俸ノ十分ノ三、其ノ他ノ諸國ニ在リテハ同十分ノ四ヲ增給ス

前項ニ依リ增給ヲ受クル者歸朝又ハ任所替ヲ命セラレタル場合ニ於テ已ムヲ得サル事故ノ爲海軍大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ妻ヲ任所又ハ舊任所ニ留ラシムルトキハ其ノ事故ノ存スル間從前ノ通增給ヲ給スルコトヲ得但シ其ノ地ノ在勤加俸ノ支給ヲ止メタル日ヨリ起算シテ百八十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十三條　朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ在勤スル內地人ニ對シ士官、特務士官、候補生及高等文官同待遇者ニ在リテハ本俸ノ十分ノ五以內、准士官、下士官兵及判任文官同待遇者ニ在リテハ本俸ノ十分ノ八以內ノ加俸ヲ給ス但シ加俸ノ年額八百四十圓ニ滿タサルトキハ年額八百四十圓迄ヲ給スルコトヲ得

南洋群島ニ在勤スル軍人及文官同待遇者ニシテ內地人タル者ニハ本俸ノ十分ノ十以內ノ加俸ヲ給ス

第二十四條　前條ニ依リ加俸ノ支給ヲ受クヘキ者私事ヲ以テ在勤地ヲ離ルルトキ、公務ニ原因スルニ非スシテ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ在勤地以外ニ於テ入院若ハ轉地療養ヲ爲ストキ又ハ留置、勾留、處刑、處罰中若ハ被告事件ノ爲護送中ハ其ノ間加俸ヲ停止ス但シ被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ニ歸シタルトキ、被告事件繫屬中死亡シタルトキ又ハ處罰中勤務ニ服シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　第二十二條ノ加俸ハ六箇月分以內ニ於テ前金渡スルコトヲ得

第二十六條　第十條ノ規定ハ本節ノ加俸ニ之ヲ準用ス

### 第二節　航海加俸

第二十七條　在役艦船ノ乘員ニハ第五表ニ依リ加俸ヲ給ス

豫備艦船ノ乘員ニハ定繫港外航海中第五表ニ依リ加俸ヲ給ス

朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ在ル港ヲ定繫港トスル豫備艦船ノ乘員ニハ在役艦船ノ乘員ニ準シ加俸ヲ給ス

未成艦船（外國ニ於テ製造ノ艦船ニシテ授受未濟ノモノヲ除ク）ノ乘員ニハ豫備艦船ノ乘員ニ準シ加俸ヲ給ス

第二十八條　軍人竝文官及同待遇者艦船（雜役船ヲ除ク）ニ乘組ヲ命セラレタルトキハ前條在役艦船又ハ豫備艦船ノ乘員ニ準シ雜役船又ハ官用船舶ニ乘組ヲ命セラレタルトキハ前條豫備艦船ノ乘員ニ準シ加俸ヲ給ス

第二十九條　削除

第三十條　准士官以上他ノ職務ヲ兼ヌルトキハ其ノ加俸ハ多額ニ就キ之ヲ給ス

第三十一條　軍人竝文官及同待遇者乘組艦船ニ在ラサルトキハ其ノ間加俸ヲ給セス但シ陸戰隊員トシテ勤務ニ服シ旅費ノ支給ヲ受ケザル場合及公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ又ハ

疾病ニ罹リ入院又ハ陸地療養ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

外國、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ入院又ハ陸地療養ヲ爲ストキハ傷痍疾病ノ原因故意ニ出ツル場合ヲ除クノ外加俸ヲ給ス

第三十二條　軍人竝文官及同待遇者留置、勾留、處刑、處罰中又ハ被告事件ノ爲護送中ハ其ノ間加俸ヲ停止ス但シ被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ニ歸シタルトキ、被告事件繫屬中死亡シタルトキ又ハ處罰中勤務ニ服シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　第十條ノ規定ハ本節ノ加俸ニ之ヲ準用ス

### 第三節　特別加俸

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ當ル下士官兵ニハ各號ニ就キ一日七錢五厘以內ノ加俸ヲ給ス

一　普通善行章ヲ有スル者

二　教員ノ職ヲ奉スル者

三　特技章ヲ有スル者

特別善行章ヲ有スル下士官兵ニハ一日十五錢以內ノ加俸ヲ給ス

優等章ヲ有スル下士官兵ニハ一日十五錢以內ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第一項第三號ノ特技章ヲ有スル下士官兵兵種ヲ轉シタル場合ニ於テハ前職ニ在リテ受ケタル特技章ニ對スル加俸ヲ給セス

第三十五條　下士官兵故意又ハ自己ノ不攝生ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ入院若ハ陸地療養ヲ爲ストキ又ハ陸上勤務外宿中故意又ハ自己ノ不攝生ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ缺勤一週日ヲ超ユルトキハ其ノ間加俸ヲ停止ス

外國、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テハ傷痍疾病ノ原因故意ニ出ツル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ヲ適用セス

兵陸軍教化隊入隊中ハ其ノ加俸ヲ停止ス

第三十六條　第十四條第二項及第三十二條ノ規定ハ本節ノ加俸ニ之ヲ準用ス

### 第四節　繼勤加俸

第三十六條ノ二　監獄看守又ハ警査トシテ五年以上勤續シ行狀方正勤務勉勵事務熟達ニ因リ其ノ精勤ヲ表彰セラレタル者ニハ月額十圓以內ノ精勤加俸ヲ給スルコトヲ得

精勤加俸ヲ受クル者處罰セラレタルトキ又ハ其ノ成績佳良ナラスト認メラレタルトキハ其ノ加俸ノ全部又ハ一部ヲ給セザルコトヲ得

第三十六條ノ三　第十四條第二項及第三十二條ノ規定ハ本節ノ加俸ニ之ヲ準用ス

## 第四章　手當

### 第一節　削除

第三十七條　削除

第三十八條　削除

### 第二節　宿舍手當

第三十九條　朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル准士官以上及軍屬ニ宿舍ヲ貸與セサルトキハ內地人ニ限リ第八表ニ依リ甲ノ手當ヲ給ス

第三十九條ノ二　潛水艦ノ乘員艦又ハ母艦ニ宿泊スルコト能ハサル場合ニ於テ上陸宿泊ヲ命セラレタルトキハ第八表ニ依リ乙ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第四十條　第十條ノ規定ハ前二條ノ手當ニ之ヲ準用ス

第四十一條　下士官兵陸上勤務外宿中下士官ニ在リテハ一日十五錢、兵ニ在リテハ一日十錢ノ手當ヲ給ス但シ宿舍ヲ貸與スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　前條ノ手當ハ入院、留置、勾留、處刑中又ハ被告事件ノ爲護送中ハ其ノ間之ヲ停止ス

第四十三條　監獄看守及警査ニハ土地ノ狀況ニ依リ一箇月十圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

### 第三節　生徒及學生手當

第四十四條　海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒ニハ一日十五錢、學生（軍醫學生、藥劑學生、主計學生、造船學生、造機學生、造兵學生ヲ謂フ以下同シ）ニハ一箇月五十圓、造船生徒、造機生徒及造兵生徒ニハ一箇月三十七圓五十錢ノ手當ヲ給ス

第四十五條　生徒及學生入院又ハ轉地療養ヲ爲ストキハ其ノ間前條手當ノ三分ノ一ヲ給ス

第四十六條　生徒及學生留置、勾留、處刑中、被告事件ノ爲護送中又ハ私事ニ因リ在校セサルトキハ其ノ間第四十四條ノ手當ヲ停止ス

第四十七條　削除

第四十八條　削除

第四十九條　學生又ハ造船生徒、造機生徒若ハ造兵生徒ヲ免シタルトキハ既ニ給シタル金額ヲ辨償セシム但シ學業成績ノ不良又ハ傷痍疾病ニ因リ之ヲ免シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

造船生徒、造機生徒又ハ造兵生徒タリシ者海軍造船生徒、造機生徒及造兵生徒令第六條ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサルトキ亦前項ニ同シ

第五十條　海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒ニハ必要ニ應シ六箇月分以內ノ手當ヲ前金渡スルコトヲ得

### 第四節　削除

第五十一條　削除

### 第五節　勞働手當

第五十二條　下士官兵潛水ノ事業ニ從事スルトキハ一日一圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五十三條　下士官兵左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ一日二十五錢以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

一　艦底、汽罐內部、機關室底部又ハ水罐底部ノ掃除ニ從事スルトキ

二　艦船ニ於テ石炭積込ノ際石炭庫內ノ事業ニ從事スルトキ

三　難破船又ハ漂流人ノ救助ニ從事スルトキ

四　前各號ニ準スヘキ非常ノ勞働ニ從事スルトキ

第五十四條　下士官兵熱帶地方其ノ他炎熱ノ場所ニ於テ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ一日十二錢以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

一　艦船ニ在リテ釀汽中機關部ノ事業ニ從事シ又ハ廚房ノ事業ニ從事スルトキ但シ小蒸汽艇ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

二　北緯三十度以南ノ陸地ニ於テ釀汽中機關部ノ事業ニ從事シ又ハ廚房ノ事業ニ從事スルトキ

前項ノ手當ヲ給スル期間ハ熱帶地方ノ外ニ在リテハ暑期百二十日以內トス

### 第六節　被服手當

第五十五條　新ニ士官ニ任用シ、候補生ニ採用シ又ハ下士官ヨリ准士官ニ進級シタルトキハ其ノ際第十表ニ依リ初任手當ヲ給ス

特務大尉ヨリ少佐ニ、機關特務大尉ヨリ機關少佐ニ、主計特務大尉ヨリ主計少佐ニ任用シ又ハ海軍武官進級令第二十一條若ハ第二十二條ノ規定ニ依リ下士官ヨリ准士官ニ進級シタルトキハ第十表初任手當相當額ノ三分ノ一ヲ給ス

豫備士官ニ任用シ又ハ豫備下士官ヨリ豫備准士官ニ進級シタル場合ニ於テ初任手當給與ノ必要アルトキハ第十表初任手當相當額ノ三分ノ一以內ヲ給スルコトヲ得

第五十六條　准士官以上及候補生艦船ノ破壞又ハ沈沒ニ因リ被服ヲ亡失シタルトキ又ハ毀損シテ使用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ第十表ニ依リ臨時手當ヲ給スルコトヲ得

第五十七條　削除

第五十八條　削除

第五十九條　監獄看守又ハ警査ニ採用シタルトキハ其ノ際初度手當トシテ五十圓ヲ給ス但シ監獄看守、警査相互轉職ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十條　監獄看守及警査ニハ被服保續手當トシテ一箇年十五圓ヲ給ス

第六十一條　前條ノ手當ハ毎年九月及三月ノ二期ニ分チ之ヲ支給ス

第六十二條　監獄看守及警査職務上避クヘカラサル事故ニ因リ被服ヲ破損又ハ亡失シタルトキハ臨時手當トシテ四十圓以內ヲ給スルコトヲ得

### 第七節　支度手當

第六十三條　准士官以上候補生竝文官及同待遇者ニシテ東經九十度、西經百四十度、南緯三十四度及北緯六十度ノ外ニ航海スル艦船ニ乘組ノ者ニハ出航ノ際第十一表ニ定ムル

金額以内ノ支度手當ヲ給スルコトヲ得艦船出航後該艦船ニ乘組ヲ命セラレ赴任スル者ニ付亦同シ

第一期練習中ノ候補生、前項經緯度内ニ在ル歸航中ノ艦船ニ乘組ヲ命セラレタル者又ハ支度料ヲ受ケ出張中艦船乘組ヲ命セラレタル者ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第六十四條　支度手當ノ支給ヲ受クヘキ者乘組艦船ノ事故ニ依リ出航セサルトキ、出航前官ノ都合ニ依リ乘組ヲ免セラレタルトキ又ハ死亡シタルトキハ前條支度手當ノ半額以内ヲ給スルコトヲ得

前項ノ支度手當ヲ受ケタル者ニ對シ六箇月以内ニ更ニ前條ノ支度手當ヲ給スル場合ニ於テハ其ノ額ハ前項ノ支度手當ト合セテ第十一表ニ定ムル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

### 第八節　離現役手當

第六十五條　下士官兵左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ第十二表ニ依リ離現役手當ヲ給ス

一　兵現役中死亡シタルトキハ死亡手當

二　下士官兵自己ノ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ服務ニ關聯シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲現役ヲ離レタルトキハ傷病手當

三　下士官兵ニシテ志願ニ依リ三年以上現役ニ服シタル者現役ヲ離レタルトキ又ハ六年以上現役ニ服シタル者現役ヲ離レタルトキハ一時手當

前項第三號ノ手當ハ前項第一號又ハ第二號ノ手當ト之ヲ併給ス

第六十六條　前條ノ手當ハ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、屢刑罰、若ハ懲罰ヲ受ケ改悛ノ狀ナキ爲現役ヲ免セラレタル者又ハ軍人タルノ體面ヲ汚シタル者ニハ之ヲ給セズ

第六十七條　第六十五條第一項第一號又ハ第三號ノ規定ニ依リ死亡シタルトキ給スル手當ハ死亡ノ當時死亡者ト同一ノ家ニ在リタル寡婦、子、父母、孫、祖父母、兄弟姉妹ノ順位ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ順位同シキ者ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第六十八條　第六十五條第一項第二號ノ規定ニ依ル手當ハ增加恩給又ハ傷病賜金ヲ給セラルヘキ者ニ、同條第三號ノ規定ニ依ル手當ハ普通恩給、一時恩給、扶助料又ハ一時扶助料ヲ給セラルヘキ者ニハ之ヲ給セズ

### 第五章　死亡賜金

第六十八條ノ二　准士官以上、候補生及下士官在職中死亡シタルトキハ第十二表ノ二ニ依リ死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

第六十八條ノ三　第六十七條ノ規定ハ前條ノ死亡賜金ニ之ヲ準用ス

### 第六章　扶助金

第六十九條　現役志願兵ノ家族ニハ扶助金一箇月一圓五十錢ヲ給ス

第七十條　左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ前條ノ扶助金ヲ停止ス

一　志願兵歸休ヲ命セラレタルトキハ其ノ翌月ヨリ

二　志願兵所在不明ト爲リタル後又ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタル後二箇月ヲ過キタルトキハ其ノ翌月ヨリ所在判明又ハ復歸ノ前月迄

三　志願兵懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ執行開始ノ翌月ヨリ刑期滿限ノ前月迄

四　志願兵ノ家族所在不明ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ所在判明ノ前月迄

所在不明ノ志願兵所在判明シタルトキハ其ノ不明ト爲リタル原因正當ノ事由アル場合ニ限リ停止中ノ前條ノ扶助金ヲ給ス

第七十一條　第六十九條ノ扶助金ハ每年九月及三月ノ二期ニ分チ之ヲ支給ス

第七十一條ノ二　演習召集ニ應召シタル豫備役後備役下士官兵ノ家族ニハ扶助金一日一圓ヲ給ス

第七十一條ノ三　左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ前條ノ扶助金ヲ停止ス

一　應召者所在不明ト爲リタルトキ又ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタルトキハ其ノ日ヨリ所在判明又ハ復歸ノ前日迄

二　應召者懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ執行開始ノ日ヨリ刑期滿限ノ日迄

三　應召者ノ家族所在不明ト爲リタルトキハ其ノ日ヨリ所在判明ノ前日迄

所在不明ノ應召者所在判明シタルトキハ其ノ不明ト爲リタル原因正當ノ事由アル場合ニ限リ停止中ノ前條ノ扶助金ヲ給ス

### 第七章　被服

第七十二條　下士官兵ニハ第十三表ニ依リ被服物品ヲ交付ス但シ召集中ノ下士官兵及陸軍教化隊入隊中ノ兵ニ交付スヘキ定數ハ第十三表ノ範圍内ニ於テ海軍大臣之ヲ定ム

第七十三條　嚴寒ノ地方ニ在ル下士官兵又ハ同地方ニ航海スル艦船乘組ノ下士官兵ニハ防寒服ヲ交付スルコトヲ得

第七十四條　下士官兵ニ交付スル被服物品ハ交換期限及交換定數ヲ定メテ之ヲ交換ス其ノ期限及定數ハ海軍大臣之ヲ定ム但シ麻襟、カフス、帽日覆、袴釣、牛靴、靴下、手袋、紺足袋、軍帽前章（下士官軍樂兵）、臂章及食器中ノ箸ハ之ヲ還付セシメス

第七十五條　下士官兵豫備役、若ハ後備役ト爲リ又ハ歸休ヲ命セラレタルトキハ被服物品ヲ給ス其ノ定數ハ海軍大臣之ヲ定ム

第七十六條　下士官兵召集ヲ解カレタルトキハ適宜被服物品ヲ給スルコトヲ得

第七十六條ノ二　海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒ニハ第十三表ノ二ニ依リ被服物品ヲ交付又ハ給與ス

前項ニ依リ交付シタル被服物品ハ當該生徒ヲ候補生ニ採用シタル場合ニ限リ之ヲ還付セシメサルコトヲ得其ノ還付セシメサル被服物品ノ定數ハ海軍大臣之ヲ定ム

第七十七條　下士官兵又ハ海軍兵學校、海軍機關學校若ハ海軍經理學校生徒死亡シタルトキハ葬儀ニ必要ナル被服物品ヲ給ス其ノ定數ハ海軍大臣之ヲ定ム

第七十八條　記章佩用ノ資格ヲ有スル准士官及下士官兵ニハ其ノ記章ヲ交付又ハ給與ス

第七十九條　左ノ各號ノ一ニ當ル場合ニ於テ必要アルトキハ適宜被服物品ヲ給スルコトヲ得

一　難破船乘組ノ者又ハ漂流人ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

二　局外中立ノ際交戰國ノ軍務ニ從事スル者ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者其ノ他避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

三　外國ニ於ケル内亂又ハ事變ノ際避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

### 第八章　食料及糧食

第七十九條ノ二　左ノ各號ノ一ニ當ル者ニハ食數ニ應シ食料ヲ給スルコトヲ得

一　艦船乘組ノ准士官以上、候補生竝文官及同待遇者

二　團隊又ハ要港部ニ在ル准士官以上、候補生及文官同待遇者

三　朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル准士官以上、候補生、文官同待遇者及雇員傭人

四　陸上勤務外宿中ノ下士官兵及望樓勤務又ハ無線電信所勤務ノ軍人

第八十條　左ノ各號ノ一ニ當ル者ニハ第十四表ノ量額ヲ最上限トシ糧食ヲ給ス但シ陸軍教化隊入隊中ノ兵ニハ同隊ニ於ケル糧食ヲ給ス

一　學校又ハ病院ニ宿直スル准士官以上及候補生

二　艦船乘組又ハ公務旅行ニ因ル艦船便乘ノ生徒、學生、下士官兵及艦營傭人

三　團隊、要港部、學校又ハ病院ニ在ル生徒、下士官兵及艦營傭人

四　公務ニ原因シ海軍病院入院中ノ准士官以上、候補生、軍屬及職工人夫

五　海軍病院入院中ノ生徒、學生、下士官兵及艦營傭人

六　在監ノ囚人及刑事被告人

七　海軍官衙及艦船ニ於ケル拘禁又ハ護送中ノ者

八　水雷母艦乘組又ハ工作船乘組ノ雇員、傭人及職工

九　徵兵令又ハ海軍志願兵條例ニ依リ海兵團内ニ在リテ身體檢査中ノ者

第八十一條　左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ前條ニ準シ糧食ヲ給スルコトヲ得

一　第七十九條ノ二ニ依リ食料ヲ給スヘキ者ニ糧食ヲ給スルノ必要アルトキ

二　海軍大臣ニ於テ演習ノ際職工人夫其ノ他ノ者ニ糧食ヲ給スルノ必要アリト認メタルトキ

三　難破船救助ノ場合ニ於テ旅費ノ給與ヲ受ケサル者ニ糧食ヲ給スルノ必要アルトキ

四　難破船乘組ノ者又ハ漂流人ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

五　局外中立ノ際交戰國ノ軍務ニ從事スル者ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者其ノ他避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

六　外國ニ於ケル内亂又ハ事變ノ際避難者ヲ艦船ニ於テ救護スルトキ

七　海軍大臣ニ於テ海軍病院收療中ノ外國軍人ニ糧食ヲ給スルノ必要アリト認メタルトキ

八　前條第四號又ハ第五號ニ該當スル者海軍病院入院中豫備役、後備役、免官、免役又ハ退職ト爲リ、召集ヲ解カレ其ノ他同號ニ該當セサルニ至リタル際傷痍又ハ疾病ノ爲退院スルコト能ハサルトキ

第七十九條ノ二第一號ニ依リ食料ヲ給スヘキ者ニハ必要ニ應シ食料ノ全部又ハ一部ニ換ヘ糧食中適宜ノ品種ヲ給スルコトヲ得

第八十二條　糧食ハ第十四表ニ掲クル品種又ハ量額ヲ給スルコト能ハサル場合ニ於テハ適宜品種又ハ量額ヲ定メテ之ヲ給スルコトヲ得

第八十三條　公暇、賜暇、公務旅行又ハ私事ニ因リ艦船團隊要港部學校又ハ病院ニ在ラサル者ニハ食料又ハ糧食ヲ給セス但シ生徒夏季冬季ノ休暇ニ依ル外出中ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條　第七十九條ノ二第三號又ハ第四號ニ該當スル者公暇、賜暇、公務旅行又ハ私事ニ因リ其ノ官衙部隊所在地ヲ離ルルトキハ食料ヲ給セス

第八十五條　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニハ其ノ症狀ニ應シ糧食ノ幾分ヲ滋養食品ニ換ヘ之ヲ給スルコトヲ得

第八十六條　糧食ヲ給スルニ當リ每日ノ食數十食以上ナルトキハ其ノ十分ノ一ノ食數ニ對シ嗜好食料ヲ給シ適宜食品ヲ買辨セシム但シ第八十條第六號又ハ第七號ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條　現品ヲ以テ糧食ヲ給シ難キトキ又ハ生徒ニ夏季冬季ノ休暇ヲ與フルトキハ其ノ食數ニ應シ食料ヲ換給スルコトヲ得

第八十八條　願ニ依リ艦船便乘又ハ入院治療ヲ許可シタル者、旅費ノ給與ヲ受ケ艦船ニ乘組ミタル者其ノ他自ラ食事ヲ調辨スルコト能ハサル爲特ニ糧食ヲ給スルノ必要アリト海軍大臣ニ於テ認メタル者ニハ糧食ヲ給スルコトヲ得

前項ニ依リ糧食ヲ給シタルトキハ其ノ食料ヲ辨償セシム

第八十九條　第七十九條ノ二及第八十六條乃至第八十八條ノ食料ハ海軍大臣之ヲ定ム

第九十條　艦船航海ヲ爲ストキハ豫定日數以内、其ノ他ノ場合ニ於テハ一箇月分以内ノ食料ヲ前金渡スルコトヲ得但シ交通不便ノ地方ニ於テ給スル食料ニ限リ六箇月分以内ニ於テ前金渡スルコトヲ得

### 第九章　治療

第九十一條　左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ治療ニ要スル費用ヲ官費支辨トス

一　生徒、學生、海兵團入團中ノ豫備練習生及下士官兵竝公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル准士官以上、候補生、軍屬及職工人夫ヲ海軍病院ニ收療シ又ハ所在ノ病院若ハ醫師ニ依託シテ治療スルトキ

二　生徒學生海兵團入團中ノ豫備練習生、下士官兵、艦團隊要港部勤務ノ軍人軍屬及拘禁中ノ常人竝公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル准士官以上候補生軍屬職工人夫ヲ當該艦團其ノ他各部ノ治療所ニ收療スルトキ

三　外國、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ艦船乘組ノ軍人、軍屬ヲ海軍病院ニ收療シ又ハ所在ノ病院若ハ醫師ニ依託シテ治療スルトキ

四　護送中ノ囚人又ハ刑事被告人ヲ所在ノ病院又ハ醫師ニ依託シテ治療スルトキ

五　朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル軍人軍屬ヲ海軍病院ニ收療シ又ハ所在ノ病院若ハ醫師ニ依託シテ治療スルトキ

第九十二條　左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ治療ニ要スル費用ヲ官費支辨ト爲スコトヲ得

一　難破船乘組ノ者又ハ漂流人ヲ艦船ニ收療スルトキ

二　局外中立ノ際交戰國ノ軍務ニ從事スル者ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者其ノ他避難者ヲ艦船ニ收療スルトキ

三　外國ニ於ケル内亂又ハ事變ノ際避難者ヲ艦船ニ收療スルトキ

四　海軍大臣ニ於テ海軍病院ニ收療スル外國軍人ノ治療費ヲ官費支辨ト爲スノ必要アリト認メタルトキ

五　前條第一號又ハ第二號ニ該當スル者治療中豫備役、後備役、免官、免役又ハ退職ト爲リ、召集ヲ解カレ其ノ他同號ニ該當セサルニ至リタル際傷痍又ハ疾病ノ爲歸郷スルコト能ハサルトキ

六　艦船乘組ノ艦營傭人ヲ海軍病院ニ收療シ又ハ所在ノ病院若ハ醫師ニ依託シテ治療スルトキ

第九十三條　海軍病院又ハ治療所ノ設備アル艦團其ノ他各部ニ於テ前二條ニ該當セサル者ヲ收療シタルトキハ其ノ費用ヲ辨償セシム其ノ定額ハ海軍大臣之ヲ定ム

### 第十章　埋葬

第九十四條　生徒、學生若ハ下士官兵死亡シ又ハ艦船乘組ノ艦營傭人傭入地外ニ於テ死亡シタルトキハ生徒、學生及下士官ニ在リテハ七十圓、兵及艦營傭人ニ在リテハ五十五圓ヲ最上限トシ官費ヲ以テ之ヲ埋葬ス但シ遺族又ハ故舊ニシテ死體ノ引渡ヲ請フ者アルトキハ本條ノ金額以内ヲ給ス

前項ノ死亡者ニシテ外國、朝鮮、臺灣、關東州、樺太若ハ南洋群島ニ於テ官費ヲ以テ其ノ死體ヲ埋葬スルトキ又ハ傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ前項ノ制限ニ拘ラス特ニ實費支辨ト爲スコトヲ得

第九十五條　艦船乘組ノ准士官以上、候補生竝文官及同待遇者外國、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島航海中死亡シ其ノ地ニ於テ死體ヲ埋葬スルトキハ其ノ費用ヲ實費支辨ト爲スコトヲ得朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル准士官以上、候補生及軍屬死亡シ在勤地ニ於テ埋葬スルトキ亦同シ

第九十六條　下士官兵入院中豫備役、後備役、免官若ハ免役ト爲リ又ハ召集ヲ解カレ退院前死亡シ死體引取人ナキトキハ第九十四條ノ規定ヲ準用ス

### 第十一章　宿舍

第九十六條ノ二　朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在勤スル軍人軍屬ニハ必要ニ應シ宿舍ヲ貸與スルコトヲ得

### 附　則

第九十七條　本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九十八條　監獄書記及監獄看守長ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサル者ハ現ニ受クル俸給額相當ノ等級俸ヲ受クルモノトス

第九十九條　本令施行ノ際一日二十錢ノ手當ヲ受クル生徒ニハ在校中仍同金額ヲ給ス

第百條　本令施行前徵募セシ志願兵ニ歸休ヲ命シタルトキハ其ノ現役滿期又ハ再服役ニ就キタル月迄扶助金ヲ給ス

本令施行ノ際現ニ一箇月一圓七十五錢ノ扶助金ヲ受クル志願兵ノ家族ニハ其ノ現役滿期又ハ再服役ニ就キタル月迄仍同金額ヲ給ス

第百一條　海軍軍人俸給令、外國駐在海軍武官手當金規則、臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則、海軍生徒學生手當金規則、

海軍下士卒手當金規則、海軍監獄看守海軍警査被服料給與令、海軍被服條例、海軍糧食條例、明治二十三年勅令第十五號、同勅令第百五十號、明治二十四年勅令第百三十二號、明治二十五年勅令第七十四號、明治二十六年勅令第二百七號、明治二十七年勅令第七十八號、明治二十八年勅令第五十一號、明治二十九年勅令第二十三號、明治三十年勅令第五十一號、同勅令第百三十號、同勅令第百三十一號、同勅令第三百六十八號、明治三十二年勅令第二號、同勅令第三百三十七號及明治三十六年勅令第六號ハ之ヲ廢止ス

附　則（大正二年勅令第四十五號）

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ志願兵タル者ノ家族ニ給スル扶助金ニ關シテハ其ノ現服役期間滿了ノ月迄、歸休ヲ命セラレタル場合ニ於テハ其ノ歸休ノ月迄仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（大正六年勅令第十三號）

本令ハ大正六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ前金渡ニ係ル食料及之ニ對スル糧食ハ仍其ノ規定ニ依ルコトヲ得

附　則（大正一一年勅令第二四一號）

第七十四條及第十三表ノ改正規定ハ大正十一年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

前項ニ揭クルモノ以外ノ規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シ大正十一年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

現ニ在學中ノ海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒ニハ大正十一年度ニ限リ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ本令ニ依ル品種數量ノ範圍內ニ於テ必要ノ被服物品ヲ交付又ハ給與スルコトヲ得

附　則（昭和二年勅令第九九號）

本令ハ昭和二年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

本令施行前ニ於ケル監獄看守又ハ警査トシテノ勤務日數ハ第三十六條ノ二第一項ニ規定スル期間ノ計算ニ付之ヲ通算ス

### 第一表　軍人俸給表

| | | 年俸 | 日給 |
|---|---|---|---|
| 士 | 大將 | 七、五〇〇圓 〇〇〇 | |
| | 各科中將 | 六、五〇〇 〇〇〇 | |
| | 各科少將 | 五、六〇〇 〇〇〇 | |
| | 各科大佐 | 四、六〇〇 〇〇〇 | |
| | 各科中佐 | 三、六〇〇 〇〇〇 | |
| | 各科少佐 | 二、六〇〇 〇〇〇 | |
| | 各科大尉一級 | 二、一〇〇 〇〇〇 | |
| 特務士官 | 各科特務大尉一級 | 二、二九〇圓 〇〇〇 | |
| | 同二級 | 二、一一〇 〇〇〇 | |
| | 各科特務中尉一級 | 一、九一〇 〇〇〇 | |
| | 同二級 | 一、七七五 〇〇〇 | |
| | 各科特務少尉一級 | 一、六〇〇 〇〇〇 | |
| | 同二級 | 一、四八〇 〇〇〇 | |
| | 候補生 | 六七〇 〇〇〇 | |
| 下士官 | 一等下士官一級 | | 一圓 八二〇 |
| | 同二級 | | 一 六一〇 |
| | 同三級 | | 一 三七〇 |
| | 同四級 | | 一 一四〇 |
| | 二等下士官一級 | | 九五〇 |
| | 同二級 | | 九〇〇 |
| | 三等下士官一級 | | 七六〇 |
| 官 | 同二級 | 一、八〇〇 〇〇〇 | |
| | 同三級 | 一、六〇〇 〇〇〇 | |
| | 各科中尉一級 | 一、二〇〇 〇〇〇 | |
| | 同二級 | 一、〇二〇 〇〇〇 | |
| | 各科少尉 | 八五〇 〇〇〇 | |
| | 准士官一級 | 一、二六〇 〇〇〇 | |
| | 同二級 | 一、一五〇 〇〇〇 | |
| | 同三級 | 一、〇四三 〇〇〇 | |
| | 同四級 | 九三〇 〇〇〇 | |
| | 同二級 | | 七一〇 |
| 兵 | 一等兵 | | 五〇〇 |
| | 二等兵 | | 四〇〇 |
| | 三等兵 | | 三五〇 |
| | 四等兵 | | 一七〇 |

一　中將ニシテ軍令部長ノ職ニ在ルモノニハ年俸七千三百圓ヲ給ス

二　中將ニシテ橫須賀、吳又ハ佐世保ノ鎭守府司令長官ノ職ニ在ルモノニハ特ニ年俸七千圓迄增給スルコトヲ得

三　大佐ニシテ二萬五千噸以上ノ戰艦又ハ巡洋戰艦ノ艦長ノ職ニ在ルモノ及各科大佐タルコト五年以上ニシテ重要ナル職ニ在ル者ニハ特ニ年俸五千百圓ヲ給スルコトヲ得

### 第二表　削除

### 第三表　外國在勤加俸表

| 年額 | 大使館又ハ公使館附武官 將官 | 大使館又ハ公使館附武官 佐官 | 大使館又ハ公使館附武官 尉官 | 大使館又ハ公使館附武官補佐官 佐官 | 大使館又ハ公使館附武官補佐官 尉官 | 駐在 士官、特務士官、准士官 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 英露米佛 | 一五、〇〇〇圓 | 一〇、五〇〇 | 九、一五〇 | 七、五〇〇 | 六、七五〇 | 七、五〇〇以內 |
| 獨墺蘭丁及瑞典 | 一三、五〇〇圓 | 九、七五〇 | 八、五五〇 | 六、七五〇 | 六、三〇〇 | 六、五〇〇以內 |
| 伊 | 一二、〇〇〇圓 | 九、七五〇 | 八、五五〇 | 六、七五〇 | 六、三〇〇 | 六、五〇〇以內 |
| 支 | 九、〇〇〇圓 | 五、五八〇 | 五、一三〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 | 四、五〇〇以內 |

一　本表ニ揭クル國以外ノ外國ニ軍人ヲ在勤セシメタルトキハ其ノ在勤加俸ハ當分ノ內伊國ノ例ニ依ル但シ「シベリア」ニ在リテハ支那ノ例ニ依ル

二　海軍大臣ハ必要ニ應シ本表ノ加俸ヲ減スルコトヲ得

### 第四表　削除

### 第五表　航海加俸表

| 日額 | | | 大將 | 各科中將 | 各科少將 | 各科大佐 | 各科中佐 | 各科少佐 | 各科大尉<br>各科特務大尉 | 各科中尉<br>各科少尉 | 各科特務中尉<br>各科特務少尉 | 候補生 | 准士官 | 一等下士官 | 二等下士官<br>三等下士官 | 一等兵 | 二等兵<br>三等兵<br>四等兵 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第一欄 | 定繫港內 | 甲 | 二圓 二〇 | 二 〇〇 | 一 七〇 | 一 四〇 | 八五 | 六五 | 五五 | 四〇 | 四〇 | 二〇 | 三〇 | 一五 | 一〇 | 〇八 | 〇六 |
| | | 乙 | | | | 一 六〇 | 一 〇〇 | 七五 | 六五 | 五〇 | 五〇 | 三〇 | 三五 | 一七 | 一二 | 〇九 | 〇七 |
| | | 丙 | | | | 二 三〇 | 一 七〇 | 一 二〇 | 一 一〇 | 七〇 | 七五 | 五〇 | 六〇 | 三五 | 二六 | 二〇 | 一八 |
| 第二欄 | 北緯四十四度以南同二十六度以北ノ本邦沿岸 | 甲 | 三圓 二〇 | 二 八〇 | 二 四〇 | 二 〇〇 | 一 二〇 | 九〇 | 八〇 | 五五 | 六〇 | 三五 | 四五 | 二二 | 一六 | 一二 | 〇七 |
| | | 乙 | | | | 二 八〇 | 一 七〇 | 一 二五 | 一 一〇 | 七五 | 八〇 | 五〇 | 六〇 | 三三 | 二四 | 一八 | 一三 |
| | | 丙 | | | | 三 九〇 | 二 八〇 | 二 〇〇 | 一 八〇 | 一 二〇 | 一 三〇 | 八〇 | 九五 | 七〇 | 五二 | 四〇 | 三六 |
| 第三欄 | 北緯四十四度以北同二十六度以南ノ本邦（南洋群島ヲ除ク）沿岸、支那沿岸、北緯五十度以南ノ亞細亞露領沿岸 | 甲 | 六圓 四〇 | 五 六〇 | 四 八〇 | 四 〇〇 | 二 四〇 | 一 八〇 | 一 六〇 | 一 一〇 | 一 二〇 | 七〇 | 九〇 | 三三 | 二四 | 一八 | 一〇 |
| | | 乙 | | | | 四 八〇 | 三 一〇 | 二 三〇 | 二 一〇 | 一 四五 | 一 五五 | 九〇 | 一 一五 | 五〇 | 三六 | 二七 | 一八 |
| | | 丙 | | | | 七 二〇 | 四 八〇 | 三 四〇 | 三 一五 | 二 二〇 | 二 三〇 | 一 三五 | 一 七〇 | 一 一〇 | 八〇 | 六〇 | 五〇 |
| 第四欄 | 北緯五十度以北ノ亞細亞露領沿岸、東經四十度以東西經百五十度以西 | 甲 | 一六圓 〇〇 | 一四 〇〇 | 一二 〇〇 | 一〇 〇〇 | 六 〇〇 | 四 五〇 | 四 〇〇 | 二 七五 | 三 〇〇 | 一 七五 | 二 二五 | 五五 | 四〇 | 三〇 | 一七 |
| | | 乙 | | | | 一二 〇〇 | 七 五〇 | 五 六〇 | 五 〇〇 | 三 四〇 | 三 七〇 | 二 二〇 | 二 八〇 | 八二 | 六〇 | 四五 | 三二 |
| | | 丙 | | | | 一六 八〇 | 一一 三〇 | 八 四〇 | 七 五〇 | 五 一〇 | 五 五〇 | 三 三〇 | 四 二〇 | 一 八〇 | 一 四〇 | 一 〇〇 | 九〇 |
| 第五欄 | 東經四十度以西西經百五十度以東 | 甲 | 二二圓 四〇 | 一九 六〇 | 一六 八〇 | 一四 〇〇 | 八 四〇 | 六 三〇 | 五 六〇 | 三 八五 | 四 二〇 | 二 四五 | 三 一五 | 八八 | 六四 | 四八 | 二八 |
| | | 乙 | | | | 一六 〇〇 | 一〇 〇〇 | 七 五〇 | 六 七〇 | 四 六〇 | 五 〇〇 | 二 九〇 | 三 八〇 | 一 二〇 | 九〇 | 六八 | 四八 |
| | | 丙 | | | | 一九 二〇 | 一四 〇〇 | 一〇 五〇 | 九 四〇 | 六 五〇 | 七 〇〇 | 四 一〇 | 五 三〇 | 二 八〇 | 一 九〇 | 一 五〇 | 一 三五 |

一　驅逐艦、掃海艇、碎氷艦及千五百噸未滿ノ艦船乘員ニハ乙、潛水艦乘員ニハ丙、其ノ他ノ艦船乘員ニハ甲ノ額ヲ給ス

二　朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ在ル港ヲ定繫港トスル艦船及常時揚子江流域ニ派遣セラルル艦船乘員ノ航海加俸ノ額第二十三條ノ規定ニ依ル各其ノ地ノ在勤加俸（常時揚子江流域ニ派遣セラルル艦船乘員ニ付テハ臺灣ノ在勤加俸）ノ額ヨリ少キトキハ在勤加俸ニ相當スル額ヲ航海加俸トシテ給ス

三　文官ニハ本表ノ官等ニ相當スル額ヲ給ス但シ高等官七等以下及奏任待遇者ハ各科特務中尉各科特務少尉ノ額、判任官同待遇者ハ准士官ノ額ニ依ル

四　將官乙又ハ丙ノ額ヲ受クヘキ場合ニハ甲ノ額又ハ各科大佐ノ額ノ內何レカ多キ額ヲ給ス

五　艦隊司令長官、艦隊司令官、戰隊司令官、艦隊參謀長、艦長、驅逐隊司令、掃海隊司令、潛水隊司令、艇隊司令、特務艦長、驅逐艦長、潛水艦長、艇長、特務艇長、救難船長及演習其ノ他ノ場合ニ於テ特設スル部隊ノ指揮官ニハ航海加俸ノ十分ノ二ヲ增給ス

### 第六表　削除

### 第七表　削除

### 第八表　宿舍手當表

| | 甲 日額 | 乙 日額 |
|---|---|---|
| 各科中將 | 二圓 四〇〇 | |
| 各科少將 | 一 五〇〇 | |
| 各科大佐<br>高等文官三等 | 一 二四五 | |
| 各科中佐<br>各科少佐<br>高等文官四等<br>同五等 | 一 〇五〇 | |
| 佐官 | | 一圓 六〇〇 |

| | |
|---|---|
| 各科大尉<br>各科特務大尉<br>高等文官六等 | 七五〇 |
| 各科中尉<br>各科特務中尉<br>各科少尉<br>各科特務少尉<br>高等文官七等以下<br>奏任待遇者 | 六七五 |
| 准士官<br>判任文官<br>判任待遇者 | 六〇〇 |
| 雇員 | 三七五 |
| 傭人 | 三〇〇 |
| 尉官<br>特務士官 | 一四〇〇 |
| 准士官 | 九〇〇 |
| 下士官 | 七〇〇 |
| 兵 | 五六〇 |
| 傭人 | 四五〇 |

## 第九表　削除

## 第十表　武裝手當表

| | | |
|---|---|---|
| 初任手當 | 士官 | 四〇〇圓〇〇〇 |
| | 准士官 | 二五〇〇〇〇 |
| | 候補生 | 一〇〇〇〇〇 |
| 臨時手當 | 將官 | 五〇〇圓〇〇〇以內 |
| | 佐官 | 四五〇〇〇〇以內 |
| | 尉官 | 四〇〇〇〇〇以內 |
| | 特務士官 | 三〇〇〇〇〇以內 |
| | 准士官 | 二五〇〇〇〇以內 |
| | 候補生 | 一〇〇〇〇〇以內 |

## 第十一表　支度手當表

| 將官 | 佐官 | 尉官 | 特務士官 | 候補生<br>准士官 |
|---|---|---|---|---|
| 三〇〇圓〇〇〇 | 一五〇圓〇〇〇 | 一〇〇圓〇〇〇 | 四五圓〇〇〇 | 四〇圓〇〇〇 |

一、艦長タル佐官ニハ五十圓ヲ增給ス

二、分隊長タル特務士官ニハ尉官ノ額ヲ給ス

三、高等文官二等以上ニハ將官、五等以上ニハ佐官、六等以下奏任待遇者ニハ尉官、判任文官、判任待遇者ニハ候補生准士官ノ額ヲ給ス

## 第十二表　離現役手當表

| 手當區別／官職名 | 下士官 | 一等兵 | 二等兵 | 三等兵 | 四等兵 |
|---|---|---|---|---|---|
| 死亡手當 | | 二〇〇圓〇〇 | 一八〇圓〇〇 | 一六五圓〇〇 | 一五〇圓〇〇 |
| 傷病手當 | 七〇〇〇 | 六五〇〇 | 六五〇〇 | 六五〇〇 | 六五〇〇 |
| 一時手當 | 二七五〇 | 二五〇〇 | 二二五〇 | 二〇〇〇 | 一七五〇 |

一時手當ノ支給額ハ本表ノ年額ニ志願ニ依ル現役ノ服役年數ヲ乘シタル額トス

## 第十二表ノ二　死亡賜金表

| 官階 | 金額 | 官階 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 大將 | 二、五〇〇圓 | 各科中尉<br>各科特務中尉 | 五六七圓 |
| 各科中將 | 二、一六七 | 各科少尉<br>各科特務少尉 | 四六七 |
| 各科少將 | 一、八六七 | 候補生 | 四〇〇 |
| 各科大佐 | 一、五三四 | 准士官 | 四〇〇 |
| 各科中佐 | 一、三一七 | 一等下士官 | 二八五 |
| 各科少佐 | 一、〇八四 | 二等下士官 | 二五五 |
| 各科大尉<br>各科特務大尉 | 七八四 | 三等下士官 | 二二五 |

備考　准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタルモノノ死亡賜金ハ各科少尉各科特務少尉ノ額トス

## 第十三表　下士官兵被服物品定數表

| 品名／官職名 | 下士官（軍樂兵曹ヲ除ク） | 兵（軍樂兵ヲ除ク） | 軍樂兵曹<br>軍樂兵 |
|---|---|---|---|
| 禮衣袴 | | | 一 |
| 軍衣袴 | 三 | 三 | 三 |
| 夏衣袴 | 三 | 三 | 三 |
| 外套 | 一 | 一 | 一 |
| 雨衣 | 一 | 一 | 一 |
| 軍帽 | 二 | 二 | 二 |
| 縮日覆 | 三 | 三 | 三 |
| 襦袢 | 三 | 三 | 三 |
| 夏襦袢 | 三 | 三 | 三 |
| 中著 | | 二 | |
| 中著襟 | | 二 | |
| 袴下 | 二 | 二 | 二 |
| 脚絆 | 一 | 一 | 一 |
| 麻襟 | 四 | | 四 |
| 襟飾 | | 二 | |
| カフス | | | 二 |
| 手袋 | | | 二 |
| 袴釣 | 二 | | 二 |
| 半靴 | （機關兵曹）二 三 | （機關兵）二 三 | 二 |
| 靴下 | 八 | 八 | 八 |
| 短劍 | | | 一 |
| 劍帶 | | | 一 |
| 前立 | | | 一 |
| 毛布 | 三 | 三 | 三 |
| 蒲團覆 | 一 | 一 | 一 |
| 衣嚢 | 一 | 一 | 一 |
| 腹卷 | 一 | 一 | 一 |
| 紺足袋 | （兵曹（軍樂信號兵ヲ除ク）船匠兵曹）二 | （水兵（軍樂信號兵ヲ除ク）船匠兵）二 | |
| 事業服上衣袴 | （軍樂信號兵タル兵曹軍信號兵タル一等兵曹看護兵曹及經理兵タル主計兵曹以外ノ者）三 | （軍經理兵タル主計兵以外ノ者）三 | |
| 軍帽前章 | 二 | 一 | 二 |
| 臂章 | 附著スヘキ被服ノ數ニ同シ | 同上 | 同上 |
| 食器 | 一 | 一 | 一 |

備考　本表ノ定數ハ常ニ之ヲ所持セシムルモノトス但シ陸上勤務ノ者ニハ紺足袋ヲ交付セサルコトアルヘシ

## 第十三表ノ二　海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒被服物品定數表

| 品名／交付年次 | 第一年 | 第二年 | 第三年 | 一學年延期修學ノ者 |
|---|---|---|---|---|
| 禮衣袴 | 一 | | | |
| 軍衣袴 | 二 | | | 一 |
| 夏衣袴 | 二 | 一 | | |
| 外套 | 一 | | | |
| 軍帽 | 二 | 一 | | |
| 縮日覆 | 四 | 二 | | |
| 襦袢 | 二 | 一 | | |
| 夏襦袢 | 三 | 二 | （經理學校生徒ヲ除ク）一 | 一 |
| 白シャツ | 二 | | | |
| 袴下 | 二 | 一 | | |
| 夏袴下 | 三 | 二 | （經理學校生徒ヲ除ク）一 | 一 |
| 事業服 | （經理學校生徒）三 二 | （經理學校生徒）二 一 | （經理學校生徒ヲ除ク）一 | |
| 脚絆 | 一 | | | |
| 麻襟 | 四 | 二 | | |
| 手袋 | 二 | | | |
| 袴釣 | 二 | | | |
| 靴 | （經理學校生徒）三 二 | 二 | 一 | 一 |
| 運動靴 | 一 | | | |
| 靴下 | （經理學校生徒）一八 一五 | （經理學校生徒）一八 一五 | （經理學校生徒）一八 一五 | 九 |
| 短劍 | 一 | | | |
| 劍帶 | 一 | | | |
| 軍帽前章 | 二 | 一 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 肩章 | 二 | 一 |
| 寢衣 | 二 | |

備考　一本表中帽日覆、麻襟、手袋、袴釣、靴、運動靴及靴下ハ給與シ其ノ他ノ被服物品ハ之ヲ交付ス

### 第十四表　糧食品種量額表

| 品種 | 一週日量額 |
|---|---|
| 麵包 | 八百五十匁 |
| 鳥獸魚肉類 | 九百匁 |
| 穀類 | 一貫三百匁 |
| 乾物野菜類 | 一貫二百匁 |
| 茶焙麥類 | 二十一匁 |
| 砂糖 | 百六十匁 |
| 醬油酢油類 | 五合 |
| 鹽 | 四十匁 |
| 凝脂 | 三十匁 |
| 味噌類 | 二百五十匁 |
| 漬物類 | 四百匁 |

一、非常ノ勞働ニ從事セシメタルトキ其ノ他衛生上必要アルトキハ一日火酒六勺以内ヲ給スルコトヲ得

## ●海軍戰時給與規則

（明治二十七年八月三日勅令第百三十六號）

改正　明治三三年第二九六號、三七年第一五號、第一二六號、第五二號、第八〇號、第一九二號、三八年第四二號、第一七四號、第一八九號

大正七年第二九八號

朕海軍戰時給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（海軍大臣副署）

海軍戰時給與規則

第一條　戰時若クハ事變ニ際シ軍人軍屬ノ給與ハ本規則ニ依ル但本規則中明文ナキモノハ總テ現行ノ諸條規ヲ適用ス

第二條　軍人軍屬ニシテ戰地ニ在ル者又ハ派遣セラルル者竝戰地ニ在ラサルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者ニハ左ノ區別ニ依リ増俸ヲ給ス

一　准士官以上及候補生ニハ俸給（上級職務心得加俸ヲ加算ス）五分ノ二

二　【下士卒】ニハ俸給（上級職務心得加俸ヲ加算ス）四分ノ二

三　文官ニハ俸給五分ノ二

四　雇員傭人ニハ給料四分ノ二

軍人軍屬ニシテ臨戰合圍地境ニ在ル者又ハ派遣セラルル者ニハ前項増俸ノ半額ヲ給ス

第三條　戰地派遣軍人軍屬ノ増俸ハ其ノ出發ノ日ヨリ、既ニ派遣中ノ者ノ増俸ハ戒嚴布告若クハ宣告又ハ開戰ノ日ヨリ各任務ヲ了ヘ歸著ノ日若ハ給與停止ノ前日マテ之ヲ給ス

特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル軍人軍屬ノ増俸ハ其ノ行動ノ爲出發スル者ニ在リテハ其ノ日ヨリ、出發セサル者ニ在リテハ現ニ對敵ノ行動ヲ取リタル日ヨリ行動ヲ終ヘ歸著シタル日、行動ヲ終ヘタル日又ハ給與停止ノ前日マテ之ヲ給ス

第四條　臨戰合圍地境ニ在ル軍人軍屬ノ増俸ハ戒嚴布告若クハ宣告又ハ開戰ノ日ヨリ戒嚴解止又ハ平定ノ日マテ之ヲ給ス

臨戰合圍地境ニ派遣スル軍人軍屬ノ増俸ハ其ノ出發ノ日ヨリ戒嚴解止若クハ平定ノ日又ハ任務ヲ了ヘ歸著ノ日マテ之ヲ給ス

第五條　戰地若クハ臨戰合圍地境ニ一時往復スル軍人軍屬ニハ其ノ出發ノ日ヨリ歸著ノ日マテ増俸ヲ給ス

第六條　戰備完成ノ各部、各隊及艦船艇ノ軍人軍屬ニハ戰地若クハ臨戰合圍地境ニ發航ノ前日又ハ戒嚴布告若クハ宣告又ハ戰地トナリタル日ノ前日マテ第二條第一項増俸ノ半額ヲ給ス

第七條　軍人軍屬ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ戰地ニ於テ治療ヲ受クルトキ竝公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ臨戰合圍地境ニ於テ治療ヲ受クルトキハ其ノ間俸給、加俸及増俸ノ全額ヲ給ス

第八條　軍人軍屬ニシテ擅ニ職務ヲ離レ若クハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタルトキ又ハ監禁、拘留、處刑、處罰若クハ被告事件ノ爲メ護送中ハ其ノ事故ノ生シタル當日ヨリ事故ノ止ミタル當日マテ増俸ヲ停止ス

第九條　戰地若ハ臨戰合圍地境ニ在リ又ハ派遣セラルル准士官以上、候補生及文官ニハ手當トシテ一回限リ高等官三等以上ノ武官及文官ニ在リテハ俸給ノ一箇月分（高等官三等以上ノ文官ニシテ俸給一箇月分ノ額別表、第一表ニ掲クル金額ヨリ少キトキハ其ノ金額）其ノ他ノ者ニ在リテハ別表第一表ノ金額ヲ給ス大本營勤務ノ准士官以上、候補生及文官ニシテ大本營前進ノ際又ハ前進後之ニ派遣セラルル者亦同シ

戰地又ハ臨戰合圍地境ニ派遣セラルル文官以外ノ軍屬ニハ海軍大臣ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ手當トシテ一回限リ月給ノ者ニ在リテハ月給ノ一箇月分、日給ノ者ニ在リテハ日給ノ三十日分ヲ給スルコトヲ得大本營勤務ノ文官以外ノ軍屬ニシテ大本營前進ノ際又ハ前進後之ニ派遣セラルル者亦同シ

戰地若ハ臨戰合圍地境又ハ前進後ノ大本營所在地ニ一時往復スル准士官以上、候補生及文官ニハ一回限リ第一項手當ノ半額ヲ給スルコトヲ得但シ本項ニ依リ手當ノ給與ヲ受ケタル者出張先ニ於テ更ニ派遣ノ命ヲ受クルトキハ尚半額ヲ差繼キ給ス

前各項ニ依リ手當ノ給與ヲ受クヘキ者出發前死亡シ又ハ官ノ都合ニ依リ免セラレタルトキハ其ノ手當金ハ半額トス

第十條　豫備後備ノ軍籍ニ在ル准士官以上ニシテ召集ニ應シ就職スル者ニハ一回限手當トシテ前條第一項手當ノ半額ヲ給ス但戰地若クハ臨戰合圍地境ニ派遣スル場合ニ在テハ尚半額ヲ差繼キ支給ス

第十條ノ二　戰時特設船舶ニ雇入ノ船員又ハ艦船乘組ヲ命セラレタル者ニシテ職務上准士官以上ト船室ヲ同フスル者ニハ海軍給與令第六十五條ニ掲クル艦船乘組ノ准士官以上ニ準シ食卓手當ヲ給スルコトヲ得

第十條ノ三　文官及文官待遇者ニシテ從軍服ヲ著用スル者ニハ服裝手當トシテ一回限リ三十圓以内ヲ給スルコトヲ得

第十一條　糧食ヲ給與スルニ當リ海軍給與令第十四表ニ依リ難キトキハ其ノ品種及量額ヲ適宜換給増減スルコトヲ得又同令第八十六條、第八十七條及第八十八條ニ於ケル金額ニシテ同第八十九條ノ平均價格ニ依リ難キトキハ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第十一條ノ二　艦船ニ在ル准士官以上、候補生、文官、第十條ノ二ニ該當スル者竝營舍ニ屯在スル文官及奏任判任待遇者ニ糧食ヲ給與スル場合ニ於テ別ニ炊爨セシムル必要アルトキハ食數ニ應シ食料ヲ給シ糧食ヲ自辨セシムルコトヲ得

前項ノ食料ニ關シテハ海軍給與令第八十九條及前條ノ例ニ依ル

第十二條　海軍給與令第八十條及第八十一條ニ掲クル以外ノ軍人軍屬其ノ他ノ者ニ糧食給與ノ必要アルトキハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ糧食ヲ給スルコトヲ得

第十三條　艦船乘組又ハ軍隊病院使役ノ軍屬、職工、人夫其ノ他ノ者ニ被服物品給與ノ必要アルトキハ海軍給與令第七十九條ニ準シ之ヲ給與スルコトヲ得

【下士卒】ニハ海軍給與令ニ規定スル被服物品ノ外衛生上必要ナル場合ニ於テ適宜ノ被服物品ヲ給與スルコトヲ得艦船乘組又ハ軍隊病院使役ノ軍屬、職工、人夫其ノ他ノ者ニ給與ノ必要アルトキ亦同シ

【下士卒】ニシテ戰地若ハ臨戰合圍地境ニ在ル者又ハ派遣セラルル者ニハ必要ニ應シ海軍給與令第十三表被服物品ノ員數ヲ適宜増加シ交付スルコトヲ得

准士官以上、候補生及軍屬ニシテ其ノ乘組艦船ノ破壞沈沒其ノ他公務上非常ノ災害ノ爲被服物品ヲ亡失シタル者ニハ必要ニ應シ適宜被服物品ヲ給與シ又ハ海軍給與令第十表ニ準據シ臨時手當ヲ給スルコトヲ得其ノ毀損シテ使用ニ堪ヘサルニ至リタルトキ亦同シ

前項ニ依リ被服物品又ハ臨時手當ヲ給與スルトキハ海軍給與令第五十六條及第六十二條ノ規定ヲ適用セス

第十四條　削除

第十五條　軍人軍屬其ノ他戰役ニ從事スル者死亡シ戰地ニ於テ埋葬スルトキハ總テ實費支辨トシ戰地外ニ於テ埋葬スルトキハ遺族又ハ故舊ニシテ死體ノ引渡ヲ受クル者ニ埋葬料トシテ別表第二表ノ金額ヲ給ス但シ【下士卒】ヲ戰地外ニ於テ埋葬スルトキハ海軍給與令第九十四條ノ規定ニ依ル

第十六條　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル軍人軍屬ノ治療費ハ總テ官給トス但軍人軍屬外ト雖戰役ニ從事スル者ニハ時宜ニ依リ官給スルコトヲ得

第十七條　軍人軍屬ノ俸給及増俸ハ適宜其ノ家族ニ下渡スコトヲ得軍人軍屬外ノ者ニ給スル給料及増俸モ亦同シ

第十八條　各部、各隊、艦船艇及軍人軍屬ニ要スル筆紙墨文具其ノ他消耗品ノ類ハ總テ現品ヲ給ス

第十九條　戰地若ハ臨戰合圍地境ニアラサルモ戰時若ハ事變ニ際シ特別ノ任務ヲ受ケ外國ニ派遣スル軍人軍屬ノ給與モ本規則ニ依ルコトヲ得

附　則

第二十條　戰時若クハ事變ニ際シ繁劇ノ職務ニ從事スル各部、各隊及艦船艇ノ軍人軍屬ニハ其ノ期間第二條第一項増俸ノ半額ヲ増給ス其ノ各部、各隊及艦船、艇ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十條ノ二　海軍大臣ニ於テ戰時若クハ事變ニ際シ繁劇ノ職務ニ從事スル官衙ノ軍人軍屬ニ食事ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ現品又ハ現金ヲ適宜給スルコトヲ得

第二十一條　豫備後備ノ軍籍ニ在ル准士官以上ニシテ本年六月一日以降召集ニ應シ就職シタル者ニモ本規則第十條ヲ適用ス

第二十二條　本規則ニ依レル給與ノ時期、停止、減額及本規則ノ施行細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二十三條　明治二十七年勅令第六十四號海軍臨時給與規則ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

### 第一表

| 區別 | | 金額 | 區別 | | 金額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 中佐、機關中佐<br>【中佐】相當官 | 高等官四等 | 二百三十圓 | 准士官 | 判任官一等 | 百二十圓 |
| 少佐、機關少佐<br>【少佐】相當官 | 高等官五等 | 二百圓 | | 判任官二等 | 八十五圓 |
| 大尉、機關大尉<br>【大尉】相當官 | 高等官六等 | 百六十圓 | | 判任官三等 | 七十圓 |
| 中少尉、機關中少尉<br>【中少尉】相當官<br>特務士官 | 高等官七等以下 | 百四十圓 | | 判任官四等 | 五十五圓 |
| 候補生 | | 九十圓 | | | |

### 第二表

| 區別 | | 金額 | 區別 | | 金額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 將官、機關將官<br>【將官】相當官 | 高等官二等以上 | 七十圓 | 准士官 | 准士官ノ身分取扱ヲ受クル者 | 三十五圓 |
| 【上長官】 | 高等官五等以上 | 五十五圓 | | 判任官<br>判任待遇者<br>【下士】ノ身分取扱ヲ受クル者 | 三十圓 |
| 【士官】、候補生 | 高等官六等以下ノ任官者<br>士官ノ身分取扱ヲ受クル者 | 四十五圓 | | 其ノ他ノ者 | 二十五圓 |

## ●海軍軍人軍屬ノ戰時増給等ニ關スル件

（大正七年十二月二十三日勅令第三百九十五號）

改正　大正一〇年第三五三號

朕海軍軍人軍屬ノ戰時増給等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍軍人軍屬ニシテ戰地ニ在リ若ハ戰地ニ派遣セラルルモノ又ハ特別ノ命令ニ依リ對敵行動ヲ取ルモノノ中尉官、候補生、准士官及下士官兵ニハ當分ノ内海軍戰時給與規則第二條第一項ノ規定ニ依ラス左ノ區別ニ依リ増給スルコトヲ得

一　尉官、候補生及准士官ニシテ海軍戰時給與規則第二條第一項ノ規定ニ依ル増俸ノ月額三十五圓ニ滿タサルモノ
　月額三十五圓

二　下士官兵
　俸給ノ十分ノ六

海軍軍人軍屬ニシテ戰地ニ在リ若ハ派遣セラルル者又ハ戰地ニ在ラサルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者ニハ當分ノ内日用品又ハ臨時飲食物ヲ給スルコトヲ得但シ准士官以上及之ニ相當スル軍屬ニ在リテハ特ニ必要アル場合ニ限ル

第一項ノ規定ニ依ル増給ノ支給區分竝前項ノ規定ニ依リ給スル物品ノ種類、數量及支給區分ハ海軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●支那騷亂地方ニ在ル海軍軍人軍屬ニ増給ノ件

（昭和二年三月十七日勅令第三十二號）

朕支那騷亂地方ニ在ル海軍軍人軍屬ニ増給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

支那騷亂地方ニ在ル艦船ノ乘員タル海軍軍人軍屬又ハ該艦船ニ乘組ヲ命セラレタル海軍軍人軍屬ニハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ准士官以上候補生及文官ニ在リテハ俸給ノ十分ノ二以内、下士官兵及雇員傭人ニ在リテハ俸給又ハ給料ノ十分ノ三以内ヲ増給ス

附　則

本令ハ昭和二年二月二十三日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

# 第七款　司法省

## ●司法官試補及朝鮮總督府司法官試補ニ關スル件

大正九年十二月二十日
勅令第五百六十九號

朕司法官試補及朝鮮總督府司法官試補ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　司法官試補及朝鮮總督府司法官試補ハ奏任官ノ待遇トス

第二條　司法官試補又ハ朝鮮總督府司法官試補ニハ千百圓以內ノ年俸ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際司法官試補又ハ朝鮮總督府司法官試補タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給額ノ俸給ヲ受クルモノトス

## ●司法官試補有給者兵役服役中俸給支給セス

大正五年三月三十一日
司法省令第七號

司法官試補ニシテ有給ノ者兵役ニ服スルトキハ服役中其ノ俸給ヲ支給セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師及作業技手ノ官等等級配當ノ件

大正七年九月十九日
勅令第三百四十七號
改正　大正九年第三四五號、一一年第四三六號、一四年第二二八號

朕監獄醫教誨師及教師ノ官等等級配當ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師及作業技手ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但シ同官等內又ハ同等級內ニ於テハ文武官吏ノ次席トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年勅令第三百四十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際監獄醫、教誨師又ハ教師タル者ハ本令ノ規定ニ拘ラス仍從前ノ等級ヲ保有ス

附　則（大正十一年勅令第四百三十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際監獄醫ニシテ保健技師ニ任セラレタル者及奏任官ノ待遇ヲ受クル教誨師ハ本令ニ拘ラス從前ノ官等ヲ保有ス

（別表）

保健技師、奏任官待遇ノ教誨師及作業技師官等配當表

| | 三等 | 四等 | 五等 | 六等 | 七等 | 八等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 保健技師<br>教誨師<br>作業技師 | 一級俸 | 二級俸<br>三級俸 | 四級俸<br>五級俸 | 六級俸<br>七級俸 | 八級俸<br>九級俸<br>十級俸 | 十一級俸<br>十二級俸 |

保健技手、判任官待遇ノ教誨師、教師及作業技手等級配當表

| | 一等 | 二等 | 三等 | 四等 |
|---|---|---|---|---|
| 保健技手<br>教誨師<br>教師<br>作業技手 | 一級俸<br>二級俸 | 三級俸<br>四級俸<br>五級俸 | 六級俸<br>七級俸<br>八級俸<br>月俸七十五圓未滿五十圓以上 | 九級俸<br>十級俸<br>月俸五十圓未滿 |

## ●奏任及判任待遇監獄職員給與令

大正十一年十月十四日
勅令第四百三十八號
改正　大正一三年第三號、一四年第二二九號

朕奏任及判任待遇監獄職員給與令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

奏任及判任待遇監獄職員給與令

第一條　保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師及作業技手ノ俸給ハ別表ニ依ル但シ月俸七十五圓未滿ノ者ニ限リ各所定ノ最低額ヲ下ラサル範圍內ニ於テ適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ給スルコトヲ得

看守ノ月俸ハ三十圓乃至七十圓トス但シ看守部長タル看守ニハ八十圓迄ヲ給スルコトヲ得

教習中ノ看守ノ月俸ハ二十圓乃至三十六圓トス

女監取締ノ月俸ハ二十圓乃至六十圓トス但シ女監取締部長タル女監取締ニハ七十圓迄ヲ給スルコトヲ得

第二條　保健技師、奏任官ノ待遇ヲ受クル教誨師又ハ作業技師ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ特ニ功勞アル者ニハ年額七百圓以內ヲ加給スルコトヲ得

保健技手又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル教誨師、教師及作業技手ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ニハ月額四十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

看守又ハ女監取締ニシテ最上額ヲ受ケ二年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ニハ月額七圓以內ヲ加給スルコトヲ得但シ看守部長タル看守又ハ女監取締部長タル女監取締ニハ月額十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第三條　保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師又ハ作業技手ニシテ別表四級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ昇級スルコトヲ得ス

看守及女監取締ノ月俸ノ增給ハ十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條ノ二　功勞記章ヲ付與セラレタル看守又ハ女監取締ニハ月額二十圓以內ノ功勞加俸ヲ給スルコトヲ得

第四條　看守又ハ女監取締ニシテ五年以上勤續シ行狀方正勤務勉勵事務熟達ニ因リ其ノ精勤ヲ表彰セラレタル者ニハ月額十圓以內ノ精勤加俸ヲ給スルコトヲ得

第五條　功勞加俸ヲ受クル看守又ハ女監取締功勞記章ノ返納ヲ命セラレタルトキ又ハ精勤加俸ヲ受クル看守又ハ女監取締其ノ成績佳良ナラスト認メラレタルトキハ其ノ加俸ノ支給ヲ廢止ス

功勞加俸又ハ精勤加俸ヲ受クル看守又ハ女監取締懲戒處分ヲ受ケタルトキハ其ノ加俸ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ廢止スルコトヲ得

第六條　休職看守ニシテ陸軍又ハ海軍ニ於テ受クル俸給又ハ給料ノ月額休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以內ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

第七條　通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル看守又ハ女監取締ニハ月額五十圓以內ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第八條　非番ノ日ニ於テ臨時勤務ニ服シタル看守及女監取締ニハ一日二圓以內ノ勤務手當ヲ給スルコトヲ得

第九條　訓練中ノ看守ニハ月額二十圓以內ノ訓練手當ヲ給スルコトヲ得

第十條　看守及女監取締ニハ月額二十圓以內ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

第十一條　樺太ニ在勤スル保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技師及作業技手ニハ月額八十圓以內看守及女監取締ニハ月額四十二圓以內ノ手當ヲ給ス

第十二條　月俸ハ新任、增俸、減俸又ハ復職ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ、休職又ハ退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ當月分ノ全額ヲ給ス

一　職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ因リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者
二　廢職廢廳ノ爲退職シタル者
三　身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者
四　在職中死亡シタル者

第十三條　病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官及判任官ノ俸給支給ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年勅令第四十三號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

奏任官待遇者年俸

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 | 十二級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保健技師<br>作業技師 | 四千五百圓 | 四千百圓 | 三千八百圓 | 三千四百圓 | 三千百圓 | 二千七百圓 | 二千四百圓 | 二千圓 | 千八百圓 | 千六百圓 | 千四百圓 | 千二百圓 |
| 教誨師 | 三千百圓 | 二千七百圓 | 二千四百圓 | 二千圓 | 千八百圓 | 千六百圓 | 千四百圓 | 千二百圓 | 千百圓 | 千圓 | 九百圓 | 八百圓 |

判任官待遇者月俸

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保健技手<br>作業技手 | 百六十圓 | 百三十五圓 | 百十五圓 | 百圓 | 八十五圓 | 七十五圓 | 六十五圓 | 五十五圓 | 五十圓 | 四十五圓 |
| 教誨師<br>教師 | 百三十五圓 | 百十五圓 | 百圓 | 八十五圓 | 七十五圓 | 六十五圓 | 五十五圓 | 五十圓 | 四十五圓 | 四十圓 |

## ●矯正院補導給與令

大正十一年十一月十日
勅令第四百九十一號

朕矯正院補導給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

矯正院補導給與令

第一條　補導ノ月俸ハ別表ニ依ル

第二條　補導ニシテ一級俸ヲ受ケ在職二年以上ニ至リ功勞アル者ニハ月額十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第三條　陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給又ハ給料ヲ受クル者ニハ其ノ間日割ヲ以テ俸給ヲ給セス但シ俸給又ハ給料ノ月額補導ノ月俸額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ給スルコトヲ得

第四條　體操、割烹、裁縫其ノ他特別ノ技能ヲ有スル補導ニハ月額五十圓以內ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第五條　補導ニハ月額二十圓以內ノ宿料ヲ支給スルコトヲ得

第六條　月俸ハ新任、增俸又ハ減俸ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ給ス退職又ハ死亡ノ場合ニ於テハ在職最終月俸當月分ノ全額ヲ給ス

第七條　補導死亡シタルトキハ在職最終月俸三月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ判任官俸給令第十三條ノ規定ニ準シ其ノ遺族ニ給ス

第八條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外月俸ノ支給ニ關シテハ判任官ノ俸給支給ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

矯正院補導ノ月俸表

| 職名＼級俸 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 補導 | 八十圓 | 七十五圓 | 七十圓 | 六十五圓 | 六十圓 | 五十五圓 | 五十圓 | 四十五圓 | 四十圓 | 三十五圓 |

## ●矯正院補導ノ等級配當ニ關スル件

大正十一年十一月十日
勅令第四百九十二號

朕矯正院補導ノ等級配當ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

補導ノ等級ハ其ノ月俸額ニ應シ別表ニ依リ文武判任官等級ニ配當ス但シ同等級內ニ於テハ文武官吏ノ次席トス

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

矯正院補導等級配當表

| 職名＼等級 | 三等 | 四等 |
|---|---|---|
| 補導 | 月俸五十五圓以上 | 月俸五十五圓未滿 |

## ●辯護士タル者ヲ判事檢事ニ任用スル場合ニ於ケル官等ニ關スル件

大正九年九月十五日
勅令第四百十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ辯護士タル者ヲ判事檢事ニ任用スル場合ニ於ケル官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　辯護士タル者ヲ判事又ハ檢事ニ任用スル場合ニ於テ辯護士トシテ實務ニ從事スル年數三年以上ナル者ハ高等官五等以下トシ其ノ年數三年ヲ加フル毎ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

第二條　前ニ高等文官ノ職ニ在リタル者ニ付テハ退官又ハ退職後辯護士トシテ實務ニ從事シタル年數三年毎ニ其ノ退官又ハ退職ノ時ニ於ケル官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ高等官官等俸給令第四條第二項及第三項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ [illegible] 退職ノ時ニ [illegible] 明治三十六年勅令第二百八十五號ノ特別文官ノ職ニ在リタル者 [illegible]

第三條　[illegible]

第四條　[illegible]

第五條　本令ハ [illegible] 臺灣總督府法院ノ判官又ハ檢察官ニ任用スル場合ニ於ケル官等ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第八款　文部省

## ●帝國大學高等官官等俸給令

明治三十年六月二十二日
勅令第二百二十二號
改正　[illegible]

朕帝國大學高等官官等俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

### 帝國大學高等官官等俸給令

（四一年第一四四號、四三年第一五三號　大正五年第五四號、七年第二七二號、八年第七四號、第二三一號、九年第二六一號、一〇年第三一二號、一一年第三六三號、一二年第二三一號、一四年第三一三號、一五年第三一四號）

第一條　削除

第二條　帝國大學教授助教授ノ俸給ハ分チテ本俸及職務俸トス

第三條　教授ニシテ學部長醫院長航空研究所長金屬材料研究所長地震研究所長又ハ化學研究所長ニ補セラレタル者ニハ職務俸千二百圓以內天文臺長傳染病研究所長演習林長ニ補セラレタル者ニハ職務俸九百圓以內教授助教授ニシテ學生監臨海實驗所長植物園長農場長分院長藥局長又ハ圖書館長ニ補セラレタル者ニハ職務俸六百圓以內ヲ給スルコトヲ得

第四條　各講座ニ職務俸ヲ附ス

各講座ニ對スル職務俸ハ學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ年額六百圓以上千八百圓以下トシ文部大臣之ヲ定ム但シ各講座ニ對スル職務俸ハ本俸ト合シテ五千七百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條ノ二　教授ニシテ航空研究所員、金屬材料研究所員地震研究所員又ハ化學研究所員ニ補セラレタル者ニハ職務俸千八百圓以內ヲ給スルコトヲ得但シ本俸ト合シテ五千七百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　教授ハ其ノ擔任スル所ノ講座ニ對スル職務俸ヲ受ク

助教授ニシテ講座ヲ擔任スル者ハ其ノ講座ニ對スル職務俸ノ半額ヲ受ク

第六條　助教授ハ學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ年額三百圓以上九百圓以下ノ職務俸ヲ受ク

第六條ノ二　助教授ニシテ航空研究所員、金屬材料研究所員、地震研究所員又ハ化學研究所員ニ補セラレ專ラ所務ニ從事スル者ニハ年額九百圓以內ノ職務俸ヲ給スルコトヲ得

第七條　教授ニシテ二箇ノ講座ヲ擔任スル場合ニ於テハ其ノ兼擔スル所ノ講座ニ對スル職務俸ノ半額ヲ加給ス

第七條ノ二　教授ニシテ講座外ノ授業ヲ擔當スルトキハ一箇年九百圓以內ヲ俸給ヨリ給スルコトヲ得

第七條ノ三　教授又ハ助教授ノ職務俸ハ通シテ年額二千二百圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ職務俸ノ額ハ本俸ト合シテ六千圓ヲ、本俸及年功加俸ト合シテ六千七百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條　講師ヲ囑託シテ講座ヲ擔任セシメ若ハ講座外ノ授業ヲ擔任セシムルトキハ教官俸給ヨリ其ノ手當ヲ給ス但シ講座擔任ノ場合ニ於ケル手當ハ其ノ講座ニ對スル職務俸額ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　教授助教授若ハ講師ヲシテ一講座ニ屬スル職務ヲ分擔セシムル場合ニ於テ教授助教授ニ分給スヘキ職務俸及講師ニ分給スヘキ手當ノ年額ハ合シテ其ノ講座ニ對スル職務俸ノ年額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　教授若ハ助教授ニシテ一時他ノ公務ニ從事シ若ハ特ニ學術上ノ必要ニ由リ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ一時講座ヲ擔任セス又ハ職務ヲ離ルル者ハ二箇年以內ヲ限リ仍本俸ヲ給スルコトヲ得

第十一條　本令ノ施行ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

附　則

第十二條　明治二十六年勅令第九十四號同年勅令第八十四號帝國大學教官俸給令竝ニ明治三十年勅令第百七號中帝國大學ニ關スル條項ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

附　則（明治四十年勅令第二百三十二號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受クルモノトス

現ニ本令ニ規定スル俸給額ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ內現在ノ儘支給スルコトヲ得

教授ニシテ本令施行前本俸千六百圓ヲ受ケタル者ハ其ノ期間ハ之ヲ第三條【第二項】ノ年數ニ通算スルコトヲ得

### ●官立大學敎官ノ職務俸ニ關スル件（大正十二年八月三十日勅令第三百九十二號）

朕官立大學敎官ノ職務俸ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

官立大學ノ教授及助教授ニハ本俸ノ外學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ俸給トシテ職務俸ヲ給スルコトヲ得

教授ノ職務俸ハ年額二千二百圓以下、助教授ノ職務俸ハ年額千四百圓以下トス但シ職務俸ノ額ハ本俸ト合シテ六千圓ヲ、本俸及年功加俸ト合シテ六千七百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年勅令第百四十五號ハ之ヲ廢止ス

### ●帝國大學、官立大學又ハ文部省直轄諸學校高等官ノ官等ニ關スル件（明治四十年七月三日勅令第二百五十二號）

改正　明治四一年第一一號　大正九年第一一三號、一四年第一四七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國大學、文部省直轄諸學校又ハ商船學校高等官ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信、文部大臣副署）

帝國大學、官立大學又ハ文部省直轄諸學校ノ陸海軍將校、同相當官又ハ學習院高等官ヨリ高等官ニ任用セラルル者及任用セラレタル者ノ官等ニ付テハ高等文官轉任ノ例ヲ準用ス

前項ノ官吏ハ明治三十六年勅令第二百八十五號ニ依ル特別文官トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第九款　遞信省

### ●兼任海員審判所高等官ノ官等ニ關スル件（明治三十九年十二月二十九日勅令第三百二十二號）

朕兼任海員審判所高等官ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

兼任海員審判所高等官ノ官等ハ各其ノ本官ノ官等ニ依ルモノトス

### ●地方遞信官署官制ニ依ル官ニ付定メタル勅令ノ規定ニ關スル件（大正十三年十一月二十五日勅令第二百七十七號）

朕地方遞信官署官制ニ依ル官ニ付定メタル勅令ノ規定ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

別ニ定ムルモノヲ除クノ外官等、俸給、手當等ニ關スル勅令中地方遞信官署官制ニ依ル官ニ付定メタル規定ハ各之ヲ遞信局官制又ハ通信官署官制ニ依ル同一名ノ官ニ付定メタル規定トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百十二號ハ之ヲ廢止ス

## 第十款　朝鮮總督府

### ●朝鮮總督府及所屬官署職員ノ加俸ニ關スル件（大正二年三月三十一日朝鮮總督府令第三十六號）

改正　大正二年第四〇號、四年第九八號、五年第一〇〇號、七年第六〇號、九年第一四一號、第一五〇號、一〇年第一五八號、一五年第二七號

明治四十三年朝鮮總督府令第十五號朝鮮總督府及所屬官署職員ノ加俸ニ關スル件左ノ通改正ス

第一條　朝鮮總督府及所屬官署ニ在勤スル職員ノ加俸ハ左ノ率ニ依リ之ヲ支給ス

高等官及高等官待遇　本俸（京城帝國大學ノ教授及助教授ニ在リテハ本俸及職務俸）ノ十分ノ四

判任官及判任官待遇　本俸十分ノ六

第二條　削除

第三條　左ノ府郡島內ニ在勤スル者ニハ第一條ノ加俸ノ外本俸十分ノ一ニ相當スル額ヲ加給ス

咸鏡北道　各府郡

咸鏡南道　洪原郡　北青郡　新興郡　豐山郡　利原郡　端川郡　甲山郡　三水郡　長津郡

平安北道　各府郡

平安南道　德川郡　寧遠郡　孟山郡　陽德郡

黃海道　谷山郡　遂安郡

江原道　平昌郡　寧越郡　旌善郡　楊口郡　麟蹄郡　伊川郡

慶尙北道　鬱陵島

全羅南道　濟州島　高興郡錦山面小鹿里小鹿島

第四條　左ノ各郡內ニ在勤スル判任官、判任官待遇ニハ第一條及前條ニ依ル加俸ノ外本俸十分ノ一ニ相當スル額ヲ加給ス

咸鏡北道　茂山郡

咸鏡南道　豐山郡　甲山郡　三水郡　長津郡

平安北道　碧潼郡　楚山郡　渭原郡　江界郡　慈城郡　厚昌郡

第四條ノ二　特ニ必要ト認ムル場合ニ於テハ高等官及高等官待遇ニハ本俸ノ十分ノ五以內、判任官及判任官待遇ニハ本俸ノ十分ノ八以內ヲ支給ス但シ試補、司法官試補、本俸月額七十五圓以下ノ判任官及判任官待遇ニハ月額七十圓迄ヲ支給スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ在勤年數ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本令施行ノ際現ニ受クル加俸額カ本令ノ加俸額ヲ超ユル者ニハ本令ニ依ル加俸額カ從前ノ額ニ達スル迄從前ノ額ヲ支給ス

本令施行ノ際現ニ受クル加俸額カ本令ニ依ル加俸額ヨリ少キ者ニハ本俸ニ異動ヲ生スル迄仍從前ノ額ヲ支給ス

前二項ニ該當スル者ニシテ將來本令ノ定額又ハ現ニ受クル加俸額ニ異ナル支給ヲ爲ス場合ニハ辭令ヲ交付ス

附　則（大正五年朝鮮總督府令第百號）

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際舊令附則第三項ニ依ル加俸ヲ受クル者ニシテ其ノ加俸額カ本令ニ依ル加俸額ヲ超ユルモノニ付テハ本令ニ依ル加俸額カ舊令附則第三項ニ依ル加俸額ニ達スル迄大正九年三月三十一日限リ舊令附則第三項ニ依ル加俸額ヲ支給ス

前項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ舊令第三條ノ地ニ在勤シ舊令附則第三項ニ依ル加俸ヲ受ケタリシ者ニシテ其ノ加俸額カ本令ニ依ル加俸額ヲ超ユルモノニ之ヲ準用ス但シ大正二年四月一日以後休職又ハ免官ト爲リタル者ニシテ復職又ハ再ヒ任用セラレタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條ノ在勤年數ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス但シ本令施行ノ際第三條ノ地ニ在勤スル者ニシテ本令施行前其ノ地ニ引續キ在勤シタル年數ハ第三條ノ在勤年數ニ通算ス

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ在勤年數ニ之ヲ準用ス

附　則（大正九年朝鮮總督府令第百四十一號）

本令ハ發布ノ日ヨリ施行シ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

豫備判事、豫備檢事、司法官試補、奏任待遇監獄職員、判任官六級俸以下及判任待遇ノ者ニハ本俸ニ異動ヲ生スル迄仍從前ノ規定ニ依リ加俸ヲ給ス但シ其ノ加俸額ハ從前ノ俸給、加俸及臨時手當ノ合算額ヨリ本俸額ヲ控除シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

明治四十二年統監府令第四十七號ハ之ヲ廢止ス

### ●京城帝國大學高等官俸給令（大正十五年四月一日勅令第五十一號）

朕京城帝國大學高等官俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

京城帝國大學高等官俸給令

第一條　京城帝國大學ノ教授及助教授ノ俸給ハ分チテ本俸及職務俸トス

第二條　教授ニシテ學部長ニ補セラレタル者ニハ職務俸年額千二百圓以內ヲ、教授又ハ助教授ニシテ學生監又ハ圖書館長ニ補セラレタル者ニハ職務俸年額六百圓以內ヲ給スルコトヲ得

第三條　各講座ニ職務俸ヲ附ス

各講座ニ對スル職務俸ハ學科ノ種類及職務ノ繁閑ニ從ヒ年額六百圓以上千八百圓以下トシ朝鮮總督之ヲ定ム但シ各講座ニ對スル職務俸ハ本俸ト合シテ年額五千七百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　教授ハ其ノ擔任スル講座ニ對スル職務俸ヲ受ク

助教授ニシテ講座ヲ擔任スル者ハ其ノ講座ニ對スル職務俸ノ半額ヲ受ク

第五條　助教授ハ學科ノ種類及職務ノ繁閑ニ從ヒ年額三百圓以上九百圓以下ノ職務俸ヲ受ク

第六條　教授講座ヲ兼擔スル場合ニ於テハ其ノ兼擔スル講座ニ對スル職務俸ノ半額ヲ加給ス

第七條　教授講座外ノ授業ヲ擔當スル場合ニ於テハ年額九百圓以內ヲ俸給ヨリ給スルコトヲ得

第八條　教授又ハ助教授ノ職務俸ノ年額ハ通シテ二千二百圓ヲ、本俸ト合シテ六千圓ヲ、本俸及年功加俸ト合シテ六千七百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　講師ヲ囑託シテ講座ヲ擔任セシメ又ハ講座外ノ授業ヲ擔當セシムルトキハ教官俸給ヨリ手當ヲ給ス但シ講座擔任ノ場合ニ於ケル手當ノ金額ハ其ノ講座ニ對スル職務俸ノ年額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　教授、助教授又ハ講師ヲシテ一講座ニ屬スル職務ヲ分擔セシムル場合ニ於テ教授又ハ助教授ニ分給スヘキ職務俸及講師ニ分給スヘキ手當ノ年額ハ合シテ其ノ講座ニ對スル職務俸ノ年額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條　教授又ハ助教授一時他ノ公務ニ從事シ又ハ特ニ學術上ノ必要ニ依リ朝鮮總督ノ指揮ヲ承ケ一時講座ヲ擔任セス若ハ職務ヲ離ルル場合ニ於テハ二年以內ヲ限リ仍本俸ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府保健技師、保健技手、教誨師、教師、作業技手及藥劑師ノ官等等級配當ノ件（大正八年二月二十八日勅令第二十三號）

改正　大正一二年第二〇六號、一三年第一一一號

朕朝鮮總督府監獄醫教誨師及教師ノ官等等級配當ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府保健技師、保健技手、教誨師、教師及作業技手ノ官等等級ノ配當ニ付テハ大正七年勅令第三百四十七號ノ規定ヲ準用ス但シ藥劑師ノ等級ノ配當ニ付テハ教師ノ等級ノ配當ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十二年勅令第二百六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ監獄醫ニシテ保健技師ニ任セラレタル者及奏任官ノ待遇ヲ受クル教誨師ハ本令ニ拘ラス從前ノ官等ヲ保有ス

### ●奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員給與令（明治四十二年十月十八日勅令第二百五十一號）

改正　明治四三年第三九〇號　大正八年第二四號、一二年第二〇七號

朕奏任及判任待遇統監府監獄職員給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員給與令

第一條　奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員ノ給與ニ付テハ奏任及判任待遇監獄職員給與令ヲ準用ス但シ藥劑師ノ給與ニ付テハ教師ノ給與ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條　奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員ニハ朝鮮臺灣滿洲及樺太在勤文官加俸令ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際韓國ノ監獄職員タル者ニ統監府監獄職員ヲ命スル場合ニ於テハ本令施行ノ際ニ限リ奏任及判任待遇監獄職員給與令第三條第一項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

### ●朝鮮地方待遇職員令ニ依ル判任官待遇職員ノ待遇相當等級ニ關スル件

（大正十年一月十九日朝鮮總督府令第十號）

朝鮮地方待遇職員令ニ依ル判任官待遇職員ノ待遇相當等級ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮地方待遇職員令ニ依ル判任待遇職員ハ特ニ辭令ヲ用ヰルモノヲ除クノ外左ノ區分ニ依ル相當等級ノ待遇ヲ受クルモノトス

| | |
|---|---|
| 一等 | 特別俸<br>一級俸<br>二級俸 |
| 二等 | 三級俸<br>四級俸<br>五級俸 |
| 三等 | 六級俸<br>七級俸<br>八級俸 |
| 四等 | 九級俸以下 |

### ●朝鮮總督府巡査ノ給與ニ關スル件

（大正十四年十月二十二日勅令第三百三號）

朕朝鮮總督府巡査ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　朝鮮總督府巡査ノ給與ニ關シテハ巡査給與令ニ依ル但シ同令中同一廳府縣トアルハ朝鮮、廳府縣長官トアルハ道知事トス

第二條　內地人タル朝鮮總督府巡査ニハ朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ發セラレサル者ハ現ニ受クル給與額ヲ給セラルルモノトス

### ●大正十四年勅令第三百三號施行ニ關スル件

（大正十四年十月二十八日朝鮮總督府令第百三號）

大正十四年勅令第三百三號施行ニ關スル件左ノ通定ム

大正十四年勅令第三百三號施行ニ關スル件

第一條　朝鮮總督府道巡査ニシテ刑事通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有シ其ノ勤務ニ服スル者ニ支給スル特別月手當ハ左ノ等級ヲ定メ之ヲ支給ス

| 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五十圓 | 三十五圓 | 二十五圓 | 十五圓 | 十圓 | 八圓 | 六圓 | 五圓 | 四圓 | 三圓 |

特別手當支給ノ方法ハ月俸支給ノ例ニ依ル

第二條　內地人タル朝鮮總督府道巡査ニハ左ノ區別ニ依リ宿舍料ヲ支給ス

| | |
|---|---|
| 一等地 | 十圓 |
| 二等地 | 九圓 |
| 三等地 | 八圓 |
| 四等地 | 七圓 |
| 五等地 | 六圓 |
| 六等地 | 五圓 |

土地ノ等級ハ別ニ之ヲ指定ス

宿舍料ノ支給ニ付テハ宿舍料支給規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査採用及給與令ハ之ヲ廢止ス

### ●消防手給與規則

（大正十一年四月一日朝鮮總督府令第六十七號）

消防手給與規則左ノ通定ム

消防手給與規則

第一條　消防手ノ月俸ハ三十圓乃至七十圓トス但シ消防手部長タル消防手ノ月俸ハ其ノ最上額ヲ八十圓トス

最上額ヲ受ケ二年ヲ超エ事務練熟優秀ナル消防手ニハ月額七圓以內ヲ加給スルコトヲ得但シ消防手部長タル消防手ニハ月額十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

教習中ノ消防手ノ月俸ハ二十圓乃至三十六圓トス

第二條　月俸ノ增給ハ十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　消防手部長タル消防手及特別ノ技能ヲ有スル消防手ニ對シテハ前條ノ規定ヲ適用セス

第四條　功勞記章ヲ付與セラレタル消防手ニハ一箇月二十圓以內ノ功勞加俸ヲ給ス

第五條　功勞加俸ヲ受クル消防手功勞記章ノ返納ヲ命セラレタルトキハ其ノ加俸ノ支給ヲ廢止ス

功勞加俸ヲ受クル消防手懲戒處分ヲ受ケタルトキハ其ノ加俸ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ廢止スルコトヲ得

第六條　消防手ニシテ陸海軍ニ召集セラレ陸海軍ニ於テ俸給又ハ給料ヲ受クル者ハ其ノ間月俸ノ支給ヲ停止ス但シ陸海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料ノ月額消防手ノ月俸額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以內ニ於テ補給ヲ爲スコトヲ得

第七條　特別ノ技能ヲ有スル消防手ニハ一箇月五十圓以內ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第八條　非番ノ日ニ於テ臨時勤務ニ服シタル消防手ニハ一日二圓以內ノ勤務手當ヲ給スルコトヲ得

第九條　訓練中ノ消防手ニハ一箇月二十圓以內ノ訓練手當ヲ給スルコトヲ得

第十條　消防手ニハ宿舍料ヲ支給セサルコトヲ得

第十一條　消防手ニシテ水火災地ニ出場シタルトキハ一回ニ付五十錢以內ノ出場手當ヲ給スルコトヲ得

第十二條　月俸ハ新任、增俸及減俸ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ、退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ之ヲ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス

一　職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ由リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者

二　廢廳ノ爲退職シタル者

三　身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者

四　在職中死亡シタル者

第十三條　病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　本令ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導ニシテ一年現役ニ服スル者ノ俸給補助ニ關スル件

（大正十二年六月十五日朝鮮總督府令第八十六號）

公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導ニシテ一年現役ニ服スル者ノ俸給補助ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮公立小學校訓導又ハ朝鮮公立普通學校訓導ニシテ徵兵令第十四條ノ規定ニ依ル一年現役ニ服スル者アルトキハ其ノ服役中俸給ノ支辨團體ニ對シ大正十年勅令第八十九號ニ基ク俸給ヲ國庫ヨリ補助ス

前項ノ補助ヲ受ケムトスル者ハ一年現役ニ服スル者ノ氏名、俸給、勤務スル學校其ノ他必要ナル事項ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第十一款　臺灣總督府

### ●臺灣總督府保健技師、保健技手、教誨師、教師及作業技手ノ官等等級配當ニ關スル件

（大正十二年十一月三十日勅令第四百九十七號）（改正　昭和二年第一八〇號）

朕大正七年勅令第三百九十一號臺灣總督府監獄醫教誨師及教師ノ官等等級配當ノ件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府ノ保健技師、保健技手、教誨師、教師及作業技手ノ官等等級ノ配當ニ關シテハ大正七年勅令第三百四十七號ヲ準用ス但シ同令中別表トアルハ本令ニ定ムル別表トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ七級俸ヲ受ケ高等官六等ノ待遇ヲ受クル臺灣總督府教誨師ハ本令ニ拘ラス從前ノ官等ヲ保有ス

（別表）

臺灣總督府ノ保健技師及教誨師（奏任官待遇）ノ官等配當表

| | 四等 | 五等 | 六等 | 七等 | 八等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 保健技師<br>教誨師 | 一級俸<br>二級俸 | 三級俸<br>四級俸<br>五級俸 | 六級俸<br>七級俸 | 八級俸<br>九級俸 | 十級俸<br>十一級俸 |

臺灣總督府ノ保健技手、教誨師（判任官待遇）、教師及作業技手ノ等級配當表

| | 一等 | 二等 | 三等 | 四等 |
|---|---|---|---|---|
| 保健技手<br>教誨師<br>教師<br>作業技手 | 一級俸<br>二級俸 | 三級俸<br>四級俸<br>五級俸 | 六級俸<br>七級俸<br>八級俸<br>月俸七十五圓未滿五十圓以上 | 九級俸<br>十級俸<br>月俸五十圓未滿 |

附　則（昭和二年勅令第百八十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ級俸ニ相當セサル金額ノ俸給ヲ受クル者ハ仍從前ノ官等ヲ保有ス

### ●臺灣總督府監獄待遇職員給與令

（大正十二年十一月三十日勅令第四百九十八號）（改正　昭和二年第一八一號）

朕臺灣總督府監獄待遇職員給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府監獄待遇職員給與令

第一條　奏任官待遇又ハ判任官待遇ノ臺灣總督府監獄職員ノ給與ニ付テハ奏任及判任待遇監獄職員給與令ヲ準用ス但シ同令中別表トアルハ本令ニ定ムル別表トス

第二條　奏任官待遇又ハ判任官待遇ノ臺灣總督府監獄職員ニハ朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令ヲ準用ス

第三條　通譯ノ技能ヲ有スル臺灣總督府ノ教誨師及教師ニハ月額五十圓以內ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年勅令第二百三十五號中第三條乃至第六條ヲ削ル

（別表）

臺灣總督府ノ保健技師及教誨師（奏任官待遇）ノ年俸

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保健技師 | 三千八百圓 | 三千四百圓 | 三千百圓 | 二千七百圓 | 二千四百圓 | 二千圓 | 千八百圓 | 千六百圓 | 千四百圓 | 千二百圓 | 千百圓 |
| 教誨師 | 三千百圓 | 二千七百圓 | 二千四百圓 | 二千圓 | 千八百圓 | 千六百圓 | 千四百圓 | 千二百圓 | 千百圓 | 千圓 | 九百圓 |

臺灣總督府ノ保健技手、教誨師（判任官待遇）、教師及作業技手ノ月俸

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保健技手<br>作業技手 | 百六十圓 | 百三十五圓 | 百十五圓 | 百圓 | 八十五圓 | 七十五圓 | 六十五圓 | 五十五圓 | 五十圓 | 四十五圓 |
| 教誨師<br>教師 | 百三十五圓 | 百十五圓 | 百圓 | 八十五圓 | 七十五圓 | 六十五圓 | 五十五圓 | 五十圓 | 四十五圓 | 四十圓 |

附　則（昭和二年勅令第百八十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ現ニ受クル金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

### ●臺灣總督府警察醫官等等級給與令

（大正十四年四月四日勅令第百十九號）

朕臺灣總督府警察醫官等等級給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府警察醫官等等級給與令

第一條　臺灣總督府警察醫ニシテ奏任官待遇タル者ノ待遇相當官等ハ高等官四等乃至八等トシ判任官待遇タル者ノ待遇相當等級ハ判任官一等乃至四等トス

警察醫ニハ地方待遇職員令第七條ノ規定及高等官官等俸給令第五條第一項ノ規定ヲ準用ス

第二條　警察醫ノ俸給ハ別表ニ依ル

第三條　奏任官待遇ノ警察醫ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ特ニ功勞アル者ニハ年額五百圓以內ヲ加給スルコトヲ得

判任官待遇ノ警察醫ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務練熟優等ナル者ニハ月額四十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第四條　警察醫ニシテ別表四級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ昇級スルコトヲ得ス

第五條　警察醫ニハ朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令ヲ準用ス

第六條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外俸給ノ支給ニ關シテハ一般文官俸給支給ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年勅令第百四十五號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

奏任官待遇警察醫年俸

| 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 三、一〇〇圓 | 二、七〇〇圓 | 二、四〇〇圓 | 二、二〇〇圓 | 二、〇〇〇圓 | 一、八〇〇圓 | 一、六〇〇圓 | 一、四〇〇圓 | 一、三〇〇圓 | 一、二〇〇圓 |

判任官待遇警察醫月俸

| 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一六〇圓 | 一三五圓 | 一一五圓 | 一〇〇圓 | 八五圓 | 七五圓 | 六五圓 | 五五圓 | 五〇圓 | 四五圓 |

### ●臺灣總督府巡査ノ給與ニ關スル件

（大正六年十二月二十五日勅令第二百三十五號）（改正　大正九年第四三三號、一二年第四九八號　昭和二年第二一九號）

朕明治四十年勅令第二百九號臺灣總督府巡査看守等ノ給與ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　臺灣總督府巡査ノ給與ニ關シテハ巡査給與令第九條及第十一條第二項ヲ除クノ外同令ニ依ル但シ同令中廳府縣トアルハ州、廳トシ廳府縣長官トアルハ知事又ハ廳長トス

臺灣總督府巡査ノ月俸ハ事情ニ依リ最下限二十五圓迄ト爲スコトヲ得

第二條　內地人タル臺灣總督府巡査ニハ月俸

ト同額以內ノ月額ノ加俸ヲ給ス但シ月俸六十圓未滿ノ者ニハ月額六十圓迄ヲ給スルコトヲ得

臺灣總督府巡查ニシテ蕃地又ハ僻地ニ勤務スル者ニハ前項ノ規定ニ依ル加俸ノ外月俸ノ十分ノ四以內ノ月額ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

第三條　臺灣總督府巡查ニハ被服及屬具ヲ給與又ハ貸與ス但シ必要アル場合ニ於テハ給與品ノ全部又ハ一部ヲ代料ヲ以テ支給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府警察官及司獄官練習生ノ俸給ニ關スル件

（明治三十二年十月十日　勅令第四百一號）

朕臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ノ俸給ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ニシテ【縣】廳ノ巡查看守タル者ニハ【明治三十年勅令第百四十九號巡查看守俸給令第五條】ノ規定ニ拘ラス各其ノ本俸ヲ支給シ臺灣總督府巡查看守タル者ニハ俸給ヲ支給セス其ノ給與ハ明治三十一年勅令第百十八號ヲ準用ス

## ●待遇職員俸給支給規則

（大正十三年四月五日　臺灣總督府令第三十五號）　改正　大正一三年第四八號

待遇職員俸給支給規則左ノ通相定ム

待遇職員俸給支給規則

第一條　本令ニ待遇職員ト稱スルハ臺灣地方職員令ニ依ル職員ヲ謂フ

第二條　判任官待遇職員ノ俸給ハ毎級在職一年以上ニ至ラサレハ增給スルコトヲ得ス但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　判任官待遇職員月俸七十五圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ所定ノ最低俸給ヲ下ルコトヲ得ス

第四條　待遇職員五年以上各其ノ職ノ一級俸ヲ受ケテ在職シ功績顯著ナル者ニ限リ特別俸ヲ支給スルコトヲ得

第五條　待遇職員死亡シタルトキハ左ニ相當スル死亡給與金ヲ其ノ遺族ニ給ス

奏任官待遇者　在職最終年俸三分ノ一ノ額
判任官待遇者　在職最終月額四月分ノ額

前項ノ遺族ト稱スルハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍（本島人ニ在リテハ戸口）內ニ在ル者ヲ謂ヒ遺族ノ順位ハ本項ニ揭ケタル順序ニ依リ同順位內ニ在リテハ家督相續人（本島人ニ在リテハ戸主相續人）ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第六條　俸給ハ毎月之ヲ支給ス但シ年俸ハ十二分シタルモノヲ以テ毎月ノ支給額トス其ノ毎月ノ支給定日ハ大藏省所管文官俸給支給ノ例ニ依ル

第七條　俸給ハ新任、增俸、減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

休職ヲ命セラレ俸給全額ヲ給セサル場合ハ減俸ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第八條　規定ノ改正ニ因リ新ニ給スヘキ俸給ハ改正規定施行ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第九條　廢官、退官及死亡ノトキハ俸給當月分ノ全額ヲ其ノ際支給ス

第十條　休職、廢官、退官ノ者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ受ケ事務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ間仍從前ノ俸給ヲ給ス

前項ノ殘務調理翌月以降ニ渉リ全月分ヲ支給スルモノハ第六條ノ定日ニ依ル但シ最後ノ月ハ日割ヲ以テ調理事務結了ノ日迄ヲ其ノ際支給ス

第十一條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　待遇職員ニシテ陸海軍ニ召集セラレ陸海軍ニ於テ俸給ヲ受クル者ハ其ノ間待遇職員ノ俸給ノ支給ヲ停止ス但シ陸海軍ニ於テ受クル俸給額待遇職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ハ待遇職員俸給ヨリ之ヲ補給ス

前項ニ於テ俸給額ト稱スルハ本俸ニ在勤加俸ヲ加算シタルモノヲ謂フ

第十三條　轉任者ノ俸給ハ其ノ發令ノ當日迄ヲ甲廳ニ於テ之ヲ支給シ翌日以降ハ乙廳ニ於テ之ヲ支給ス

第十四條　他廳ヘ轉任シタル者ハ第六條ノ支給日ニ拘ラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其ノ際支給ス俸給支給定日後他廳ヨリ轉任シ來リタルトキハ前任廳ニ於テ其ノ月ノ殘日數ニ對スル俸給ヲ其ノ際支給ス

第十五條　俸給ヲ支給スルニ當リ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツ日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導俸給規則

（明治三十九年二月八日　臺灣總督府令第十號）　改正　明治四一年第一一號、四三年第三五號　大正八年第三六號、九年第九三號、一一年第八二號、一三年第五五號

臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導俸給規則左ノ通相定ム

臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導俸給規則

第一條　臺灣公立小學校准訓導又ハ臺灣公立公學校准訓導ノ月俸ハ三十圓以上七十圓以下トス

臺灣公立小學校准訓導又ハ臺灣公立公學校准訓導最上俸ヲ受ケ五箇年ヲ超エ職務熟練優等ナル者ニハ特ニ月額十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第二條及第三條　削除

第四條　月俸ハ毎月二十一日之ヲ支給ス但シ月俸支給日休日ニ當ルトキハ繰下ケ支給ス

第五條　月俸ハ總テ發令ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ計算支給ス

退職、死亡ノ場合ハ當月分ノ全額ヲ給ス

懲戒免職、失職ノ場合ハ前項ヲ適用セス

第六條　退職者事務引繼殘務整理ノ爲特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其ノ間仍從前ノ月俸ヲ日割ヲ以テ計算支給ス

第七條　疾病ノ爲執務セサルコト六十日私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニアラス

第八條　在職中死亡シタル者ハ月俸四月分ヲ其ノ遺族ニ給ス但シ遺族及其ノ順位ニ付テハ判任官俸給令第十三條第二項第三項ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治三十九年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年九月府令第八十八號臺灣公學校訓導俸給支給規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ交付セサル者ハ現ニ受クル俸給額相當ノ俸給ヲ受クルモノトス

附　則（大正九年臺灣總督府令第九十三號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條中俸給ニ關スル改正規定ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ調導ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ現ニ受クル俸給ニ付左ノ區分ニ依リ算出シタル金額ニ相當スル俸給ヲ受クルモノトス

一　月俸三十圓ヲ超ユルモノ
　其ノ月額ニ其ノ二分ノ一ニ相當スル金額及十圓ヲ加ヘタル額
二　月俸二十五圓ヲ超エ三十圓ヲ超エサルモノ
　其ノ月額ニ二十五圓ヲ加ヘタル額
三　月俸二十五圓以下ノモノ
　出ノ月額ノ二倍ニ相當スル金額

前項ノ規定ニ依ル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

## ●臺灣公立幼稚園保姆ノ俸給ニ關スル件

（大正十二年三月二十七日　臺灣總督府令第三十七號）

臺灣公立幼稚園保姆ノ俸給ニ關シテハ明治三十九年府令第十號臺灣公立小學校准訓導及臺灣公立公學校准訓導俸給規則ヲ準用ス但シ第一條中七十圓以下ヲ百圓以下トス

附　則

本令ハ大正十二年勅令第四十九號臺灣公立幼稚園官制施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

## ●臺灣廳地方費吏員俸給支給規則

（大正十五年六月二十五日　臺灣總督府令第四十八號）

臺灣廳地方費吏員俸給支給規則左ノ通相定ム

臺灣廳地方費吏員俸給支給規則

臺灣廳地方費吏員俸給支給ニ關シテハ大正九年府令第百十四號州市街庄吏員俸給支給規則ヲ準用ス但シ同規則中州知事トアルハ廳長トス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●街庄長及助役俸給支給規則

（大正九年九月三十日　臺灣總督府令第百十三號）　改正　大正一〇年第三六號、一一年第一七號、一三年第五一號、一四年第六六號

街庄長助役俸給支給規則左ノ通相定ム

街庄長及助役俸給支給規則

第一條　街庄長及助役ヲ有給ト爲ス場合ノ俸給ハ別表ニ依ル但シ奏任官待遇ヲ受クル街長ヲ置ク街ノ助役ニシテ特別ノ事情アルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ月額二百五十圓迄ノ範圍ニ於テ一級上俸ヲ超ヘ支給スルコトヲ得

第二條　月俸八十圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第三條　年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第四條　俸給ハ毎月下旬之ヲ支給ス

第五條　俸給ハ新任、增俸、減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第六條　廢官、廢職、退官、退職又ハ死亡シタルトキハ其ノ際受クヘキ當月分ノ俸給全額ヲ支給ス但シ懲戒免官若ハ解職ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　街庄長及助役在職中死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一又ハ月俸四箇月分ノ額ニ相當スル死亡給與金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ配偶者子父母孫祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍（本島人ニ在リテハ戸口）內ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡給與金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭ケタル順序ニ依リ同順位內ニ在リテハ家督相續人（本島人ニ在リテハ戸主相續人）ハ其他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ

第八條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ忌服ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第十條　俸給支給ニ關スル細則ハ州知事又ハ廳長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

第一號　奏任官待遇ヲ受クル街長（年俸）

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 上俸 | 三、六〇〇圓 | 三、〇〇〇圓 | 二、五〇〇圓 | 二、〇〇〇圓 | 一、五〇〇圓 | 一、〇〇〇圓 |
| 下俸 | 三、三〇〇 | 二、七〇〇 | 二、二〇〇 | 一、七〇〇 | 一、二〇〇 | 九〇〇 |

第二號　判任官待遇ヲ受クル街庄長及助役（月俸）

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 上俸 | 一八〇圓 | 一三〇圓 | 一〇〇圓 | 八〇圓 | 六〇圓 | 四〇圓 |
| 下俸 | 一五〇 | 一一〇 | 九〇 | 七〇 | 五〇 | 三〇 |

## ●州市街庄吏員俸給支給規則

（大正九年九月三十日　臺灣總督府令第百十四號）　改正　大正一〇年第三七號、一一年第一六四號、一三年第五〇號、一四年第六五號

州市街庄吏員俸給支給規則左ノ通相定ム

州市街庄吏員俸給支給規則

第一條　州吏員、市吏員、街庄會計役及街庄制第六條ノ吏員ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外別表ニ依ル

第二條　月俸八十圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス州知事、郡守又ハ市尹ハ適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

第三條　年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第四條　俸給ハ毎月下旬之ヲ支給ス

第五條　毎級在職一箇年以上ニ至ラサレハ增給スルコトヲ得ス但シ八十圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

別表第二號ノ一級上俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務練熟優秀ナル者ニハ二百五十圓迄ヲ支給スルコトヲ得

第六條　俸給ハ新任、增俸、減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第七條　廢職、退職又ハ死亡シタルトキハ其ノ際受クヘキ當月分ノ俸給全額ヲ支給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ當日迄日割ヲ以テ計算支給ス

一　解職シタルトキ
二　廢職又ハ退職シ同日附ヲ以テ他ノ官職ニ任セラレタルトキ

第八條　私事ノ故障ニ因リ執務セサルコト三十日ヲ踰エ又ハ疾病ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ忌服ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第十條　吏員在職中死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一又ハ月俸四箇月分ノ額ニ相當スル死亡給與金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項ノ遺族ト稱スルハ配偶者子父母孫祖父母及兄弟姉妹ニシテ同一戸籍（本島人ニ在リテハ戸口）內ニ在ル者ヲ謂フ

第一項ノ死亡給與金ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭ケタル順序ニ依リ同順位內ニ在リテハ家督相續人（本島人ニ在リテハ戸主相續人）ハ其他ノ者ニ、男ハ女ニ長ハ幼ニ先ツ

第十一條　吏員ニシテ陸海軍ニ召集セラレ陸海軍ニ於テ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ノ支給ヲ停止ス但シ陸海軍ニ於テ受クル俸給ノ額吏員俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得

第十二條　俸給支給ニ關スル細則ハ州知事又ハ廳長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

第一號（年俸）

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 上俸 | 四、五〇〇圓 | 三、八〇〇圓 | 三、一〇〇圓 | 二、四〇〇圓 | 一、八〇〇圓 | 一、四〇〇圓 | 一、〇〇〇圓 |
| 下俸 | 四、一〇〇 | 三、四〇〇 | 二、七〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、六〇〇 | 一、二〇〇 | 九〇〇 |

第二號（月俸）

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 上俸 | 二〇〇圓 | 一五〇圓 | 一一〇圓 | 八〇圓 | 六〇圓 | 四〇圓 | 二五圓 |
| 下俸 | 一七〇 | 一三〇 | 九五 | 七〇 | 五〇 | 三〇 | 二〇 |

# 第十二款　關東廳

## ●關東廳保健技師、保健技手及教誨師ノ官等等級配當ノ件

（大正十二年六月六日勅令第二百九十二號）

朕關東廳保健技師、保健技手及敎誨師ノ官等等級配當ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東廳保健技師、保健技手及敎誨師ノ官等等級ノ配當ニ付テハ大正七年勅令第三百四十七號ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東廳警部補ノ給與ニ關スル件（大正九年八月二十日勅令第二百八十一號）

朕關東廳警部補ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東廳警部補ノ給與ニ關シテハ巡査給與令ヲ準用ス但シ第一條乃至第四條ノ規定、休職給ニ關スル規定及宿料ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

關東廳警部補ニハ被服及屬具ヲ支給シ又ハ貸與ス但シ必要ニ應シ其ノ全部又ハ一部ニ對シ代價ヲ以テ支給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第十三款　樺太廳

●樺太公立小學校教員俸給及諸給與規程（大正十一年四月十三日樺太廳令第三十四號）（改正　大正一二年第二號、第四九號）

樺太公立小學校職員俸給及諸給與規程左ノ通定ム

樺太公立小學校職員俸給及諸給與規程

第一條　小學校教員ノ月俸額ハ別表ニ依ル

第二條　代用教員ノ月俸額ハ八十圓以下トス

第三條　正教員ニシテ一級俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ハ小學校本科正教員ニ在リテハ二百四十圓、尋常小學校本科正教員ニ在リテハ百八十圓、專科正教員ニ在リテハ百六十圓迄ヲ給スルコトヲ得

（別表ノ一）

第四條　俸給ノ支給ニ關シテハ高等官俸給令第二十五條、第二十七條乃至第二十九條及文官俸給支給細則ノ例ニ依ル加俸ノ支給ニ關シテモ亦同シ

第五條　削除

第六條　削除

第七條　削除

第八條　小學校教員內地、樺太、朝鮮又ハ臺灣內ヲ旅行スルトキハ左ノ區分ニ依リ內國旅費規則又ハ樺太廳職員內國旅費規程ノ額ニ相當スル旅費ヲ給ス

一、奏任官待遇ノ訓導ニハ奏任官六等以下ノ額

二、判任官待遇ノ訓導ニシテ俸給月額八十五圓以上ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ額

三、判任官待遇ノ訓導ニシテ俸給月額八十五圓未滿ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ額

四、准訓導又ハ代用教員ニハ第二號表ノ額

第九條　前條ニ定ムルモノヲ除クノ外奏任官待遇ノ訓導ニハ奏任官、判任官待遇ノ訓導ニハ判任官、准訓導又ハ代用教員ハ雇員ノ例ニ依リ內國旅費規則及樺太廳職員內國旅費規程ヲ準用ス

小學校所在地町村內ノ出張ニシテ遠距離ニ涉ル場合ノ旅費支給ニ關シテハ樺太廳職員定額旅費規則ヲ準用ス

第十條　樺太廳支廳長特別ノ事情アリト認メタルトキ、旅費額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ給セサルコトヲ得

第十一條　赴任旅費ノ全部又ハ一部及特ニ旅費支給ニ關シ指定シタルトキハ之ヲ國庫ヨリ支辨スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ大正十一年勅令第百六十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樺太廳立小學校竝樺太公立小學校職員俸給及諸給與規程、樺太廳立小學校職員竝公立小學校職員內國旅費規程及樺太廳立小學校竝樺太公立小學校職員減額旅費規則ハ之ヲ廢止ス

| 職員 | 小學校本科正教員 | | 尋常小學校本科正教員 | | 專科正教員 | | 准教員 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 上 | 下 | 上 | 下 | 上 | 下 | 上 | 下 |
| 一級 | 一八〇圓 | 一六〇 | 一四五 | 一三〇 | 一二〇 | 一一〇 | 六〇 | 五五 |
| 二級 | 一四五圓 | 一三〇 | 一二〇 | 一一〇 | 一〇〇 | 九五 | 五二 | 五〇 |
| 三級 | 一二〇圓 | 一一〇 | 一〇〇 | 九五 | 九〇 | 八五 | 四七 | 四五 |
| 四級 | 一〇〇圓 | 九五 | 九〇 | 八五 | 八〇 | 七五 | 四二 | 四〇 |
| 五級 | 九〇圓 | 八五 | 八〇 | 七五 | 七〇 | 六五 | 三七 | 三五 |
| 六級 | 八〇圓 | 七五 | 七〇 | 六五 | 六二 | 六〇 | 三二 | 三〇 |
| 七級 | 七〇圓 | 六五 | 六二 | 六〇 | 五七 | 五五 | 二七 | 二五 |
| 八級 | 六二圓 | 六〇 | 五七 | 五五 | 五二 | 五〇 | | |
| 九級 | 五七圓 | 五五 | 五二 | 五〇 | 四七 | 四五 | | |
| 十級 | 五二圓 | 五〇 | 四七 | 四五 | 四二 | 四〇 | | |
| 十一級 | 四七圓 | 四五 | 四二 | 四〇 | 三七 | 三五 | | |
| 十二級 | 四二圓 | 四〇 | 三七 | 三五 | 三二 | 三〇 | | |

（別表ノ二）

| 地域、等級區分 | | | 甲額 | 乙額 |
|---|---|---|---|---|
| 豐原、大泊、眞岡 | 一等地 | 正教員 | 十七圓 | 六圓 |
| | | 准教員又ハ代用教員 | 十五圓 | 五圓 |
| 落合、留多加、本斗、野田、泊居、元泊 | 二等地 | 正教員 | 十五圓 | 五圓 |
| | | 准教員又ハ代用教員 | 十三圓 | 五圓 |
| 一、二等地以外ノ地 | 三等地 | 正教員 | 十四圓 | 五圓 |
| | | 准教員又ハ代用教員 | 十二圓 | 五圓 |

一、本表中地域ハ市街宅地又ハ部落宅地トシテ指定セラレタルモノトス

二、甲額ハ本人カ一家ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ミ直系配偶者又ハ兄弟姉妹ト同棲シ是等家族ニ對シ扶養義務ヲ負擔スル者ト認メタル者ニ支給スル額トス

三、乙額ハ前項ニ該當セサル者ニ支給スル額トス

●町村長ノ給料額及其ノ支給規程（大正十一年二月一日樺太廳令第二號）

町村長ノ給料額及其ノ支給規程左ノ通定ム

町村長ノ給料額及其ノ支給規程

第一條　町村長ノ給料ハ月俸トシ其ノ金額ハ別表ニ依ル

町村長ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ超エ事務熟練成績優等ナル者ハ特ニ月俸三百五十圓迄ヲ給スルコトヲ得

月俸百六十圓未滿ノ者ニ限リ級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ又ハ別表最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條　給料ハ當月分ヲ毎月二十一日ニ支給ス但シ休日ニ當ルトキハ繰下トス

第三條　給料ノ支給方ハ新任增給減給ノ場合ハ當月分ヲ發令ノ翌日ヨリ、解職ノ場合ハ當月分ヲ發令ノ當日迄各日割ヲ以テ計算ス

第四條　退職、廢職、死亡ノ場合ハ當月分ノ給料全額ヲ其ノ際支給ス

第五條　退職、廢職ノ者事務引繼ノ爲特ニ命ヲ承ケテ翌月ニ涉リ職務ニ從事スルトキハ前職ノ給料額ニ依リ日割ヲ以テ終了ノ日迄其ノ際支給ス

解職ノ者事務引繼ノ爲特ニ命ヲ受ケタルトキハ前項ニ準シ職務從事ノ日ヨリ支給ス

第六條　私事缺勤三十日、病氣缺勤九十日ヲ超ユルモノハ其ノ超ユル日ヨリ日割ヲ以テ給料ノ半額ヲ減ス但シ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及賜暇休養スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　私事缺勤ト病氣缺勤ト連續スル場合ハ彼是通算セス

第八條　町村長ニシテ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル間ハ給料ノ支給ヲ停止ス但シ町村長ノ給料額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ハ之ヲ補給ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

| 一級俸 | 二級俸 | 三級俸 | 四級俸 | 五級俸 | 六級俸 | 七級俸 | 八級俸 | 九級俸 | 十級俸 | 十一級俸 | 十二級俸 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 三百圓 | 二百五十圓 | 二百二十圓 | 二百圓 | 百八十圓 | 百六十圓 | 百四十五圓 | 百三十圓 | 百十五圓 | 百圓 | 九十圓 | 八十圓 |

## 第十四款　南洋廳

●南洋廳警部補給與令（大正十一年三月三十一日勅令第百二十二號）

朕南洋廳警部補給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

南洋廳警部補給與令

南洋廳巡査任用及給與令第二條及第四條ノ規定ハ南洋廳警部補ニ關シ之ヲ準用ス但シ同令第二條ノ規定ニ於テ依ルコトヲ定メタル巡査給與令中第一條乃至第四條ノ規定及休職給ニ關スル規定ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令ハ南洋廳警部補ニ關シ之ヲ準用ス勤續年數ノ計算ニ關シテハ明治四十三年法律第三十號ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年勅令第二百六十七號ノ海軍警吏及海軍警部補ノ在勤年數ハ巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令ノ準用ニ關シテハ之ヲ南洋廳警部補ノ在勤年數ト看做ス

## 第十五款　貴族院事務局及衆議院事務局

●貴族院衆議院守衛定員及給與令（本輯第一章第二十五款ニ收ム）

## 第十六款　廳府縣

●府縣知事加俸ニ關スル件（大正九年八月十八日勅令第二百六十三號）

朕府縣知事加俸ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

府縣知事ハ別表ニ依リ指定地加俸ヲ受ク但シ本俸ト合シテ六千五百圓ヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ指定地加俸ハ六千五百圓ヨリ本俸額ヲ控除シタル額トス

（別表）

| 指定府縣 | 加俸年額 |
|---|---|
| 東京府、京都府、大阪府、神奈川縣、兵庫縣 | 八百圓 |
| 長崎縣、新潟縣、愛知縣、宮城縣、廣島縣、福岡縣、熊本縣 | 六百圓 |

附　則

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

大正二年勅令第二百十八號ハ大正九年七月分限リ之ヲ廢止ス

府縣知事ニシテ從前ノ規定ニ依ル俸給ノ一級俸ヲ受ケ舊令ニ依ル六百圓ノ加俸ヲ受クル者ノ指定地加俸ハ本令ノ規定ニ拘ラス之ヲ六百圓トス

知事以外ノ府縣高等官ニシテ舊令ニ依ル加俸ヲ受クル者ニ付テハ其ノ加俸ヲ年功加俸ト看做シ大正九年勅令第二百五十七號附則第七項ノ規定ヲ適用ス

●警部補ノ俸給及給與ニ關スル件（明治四十三年三月八日勅令第十七號）

朕警部補ノ俸給及給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

【警部補ノ月俸ハ十五圓乃至三十圓トス】

前項ノ外警部補ノ給與ニ關シテハ巡査給與令ヲ準用ス但シ第一條乃至第四條、第十三條、第十四條ノ規定及休職給ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ明治四十三年勅令第十二號、明治四十三年勅令第十三號及明治四十三年勅令第十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十三年勅令第百二十五號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

●巡査給與令（明治三十九年九月二十六日勅令第二百五十九號）（改正　明治四四年第七六號　大正六年第一九一號、七年第二四三號、八年第三五二號、九年第三三三號、一二年第四四八號）

朕巡査給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

巡査給與令

第一條　巡査ノ月俸ハ三十圓乃至七十圓トス

但シ巡査部長タル巡査ノ月俸ハ其ノ最上額ヲ八十圓トス

最上額ヲ受ケ二年ヲ超エ事務練熟優等ナル巡査ニハ月額七圓以內ヲ加給スルコトヲ得

但シ巡査部長タル巡査ニハ月額十圓以內ヲ加給スルコトヲ得

教習中ノ巡査ノ月俸ハ二十圓乃至三十六圓トス

第二條　削除

第三條　月俸ノ增給ハ十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　巡査部長タル巡査及刑事通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル巡査ニハ前條ノ規定ヲ適用セス特別ノ事由アル場合ニ於ケル巡査ノ增給ニ付亦同シ

第四條ノ二　功勞記章ヲ付與セラレタル巡査ニハ一箇月二十圓以內ノ功勞加俸ヲ給ス

第四條ノ三　同一廳府縣ニ於テ五年以上勤續シ行狀方正勤務勉勵事務熟達ノ巡査ニシテ廳府縣長官ニ於テ其ノ精勤ヲ表彰シタル者ニハ一箇月十圓以內ノ精勤加俸ヲ給スルコトヲ得

精勤加俸ヲ受クル者ニシテ他ノ廳府縣ニ轉勤シタルモノニ付亦前項ニ同シ

第四條ノ四　功勞加俸ヲ受クル巡査功勞記章ノ返納ヲ命セラレタルトキ又ハ精勤加俸ヲ受クル巡査其ノ成績佳良ナラスト認メラレタルトキハ其ノ加俸ノ支給ヲ廢止ス

功勞加俸又ハ精勤加俸ヲ受クル巡査懲戒處分ヲ受ケタルトキハ其ノ加俸ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ廢止スルコトヲ得

第五條　休職巡査ニシテ陸海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料ノ月額休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以內ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

第六條　刑事通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル巡査ニハ一箇月五十圓以內ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第七條　非番ノ日ニ於テ臨時勤務ニ服シタル巡査ニハ一日二圓以內ノ勤務手當ヲ給スルコトヲ得

第八條　訓練中ノ巡査ニハ一箇月二十圓以內ノ訓練手當ヲ給スルコトヲ得

第九條　巡査ニハ一箇月二十圓以內ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

第十條　月俸ハ新任、增俸、減俸及復職ノ場合

ニ於テハ其ノ翌日ヨリ、退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス

一　職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ由リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者
二　廢廳ノ爲退職シタル者
三　身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者
四　休職ヲ命セラレタル者
五　在職中死亡シタル者

休職當月復職シタル者ニハ其ノ月ノ月俸ハ更ニ之ヲ給セス

第十一條　休職給ハ休職ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

休職給、手當金及宿料ノ給與ニ關スル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第十二條　病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

## ●巡査俸給支給規則

（大正元年十一月十六日内務省令第十三號）

巡査俸給支給規則左ノ通之ヲ定ム

巡査俸給支給規則

第一條　巡査ノ月俸ハ毎月末日ヲ以テ支給ノ定日トス但シ廳府縣長官土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ毎月二十五日以後ニ於テ適宜支給日ヲ定ムルコトヲ得

前項支給ノ定日休日ニ相當スルトキハ順次繰上トス

第二條　月俸支給方ハ別ニ規定スルモノノ外文官俸給支給細則ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●消防手給與規則

（大正七年三月三十日内務省令第二號）　改正　大正七年第一六號、八年第六號、九年第二七號

消防手給與規則左ノ通定ム

消防手給與規則

第一條　消防手ノ月俸ハ三十圓乃至七十圓トス但シ消防曹長タル消防手ノ月俸ハ其ノ最上額ヲ八十圓トス

最上額ヲ受ケ二年ヲ超エ事務練熟優等ナル消防手ニハ月額七圓以内ヲ加給スルコトヲ得但シ消防曹長タル消防手ニハ月額十圓以内ヲ加給スルコトヲ得

教習中ノ消防手ノ月俸ハ二十圓乃至三十六圓トス

第二條　削除

第三條　月俸ノ增給ハ十圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　消防曹長タル消防手及特別ノ技能ヲ有スル消防手ニハ前條ノ規定ヲ適用セス特別ノ事由アル場合ニ於ケル消防手ノ增給ニ付亦同シ

第四條ノ二　功勞記章ヲ付與セラレタル消防手ニハ一箇月二十圓以内ノ功勞加俸ヲ給スルコトヲ得

第四條ノ三　同一廳府縣ニ於テ五年以上勤續シ行狀方正勤務勉勵事務熟達ノ消防手ニシテ廳府縣長官ニ於テ其ノ精勤ヲ表彰シタル者ニハ一箇月十圓以内ノ精勤加俸ヲ給スルコトヲ得

第四條ノ四　功勞加俸ヲ受クル消防手功勞記章ノ返納ヲ命セラレタルトキ又ハ精勤加俸ヲ受クル消防手其ノ成績佳良ナラスト認メラレタルトキハ其ノ加俸ノ支給ヲ廢止ス

功勞加俸又ハ精勤加俸ヲ受クル消防手懲戒處分ヲ受ケタルトキハ其ノ加俸ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ廢止スルコトヲ得

第五條　消防手ニシテ陸海軍ニ召集セラレ陸海軍ニ於テ俸給又ハ給料ヲ受クル者ハ其ノ間月俸ノ支給ヲ停止ス但シ陸海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料ノ月額消防手月俸額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以内ニ於テ補給ヲ爲スコトヲ得

第六條　特別ノ技能ヲ有スル消防手ニハ一箇月五十圓以内ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第七條　非番ノ日ニ於テ臨時勤務ニ服シタル消防手ニハ一日二圓以内ノ勤務手當ヲ給スルコトヲ得

第八條　訓練中ノ消防手ニハ一箇月二十圓以内ノ訓練手當ヲ給スルコトヲ得

第九條　消防手ニハ一箇月二十圓以内ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

第十條　消防手ニシテ水火災地ニ出場シタルトキハ一回ニ付二十錢以内ノ出場手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條　月俸ハ新任增俸及減俸ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ之ヲ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス

一　職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ由リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者
二　廢廳ノ爲退職シタル者
三　身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者
四　在職中死亡シタル者

第十二條　病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　巡査俸給支給規則ハ消防手ニ之ヲ準用ス

第十四條　手當金及宿料ノ給與ニ關スル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第十五條　本令ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ之ヲ適用ス

## ●公立學校職員待遇官等等級令

（大正六年一月二十九日勅令第七號）　改正　大正八年第三七七號、九年第三二五號、第五六三號、一〇年第三一八號、一二年第三七八號、一三年第七五號

朕公立學校職員待遇官等等級令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

公立學校職員待遇官等等級令

第一條　公立學校職員ニシテ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ官等ハ別表第一表ニ依ル

第二條　公立ノ中學校、高等女學校（高等科ヲ置ク高等女學校ヲ除ク）、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ學校長竝公立高等女學校高等科教授ニシテ高等官四等ノ待遇ヲ受ケ在職三年以上ニ至リ功積アル者ハ特ニ高等官三等ノ待遇ト爲スコトヲ得但シ實科高等女學校、女子實業學校、實業補習學校、盲學校及聾啞學校ニ付テハ文部大臣ノ指定シタルモノニ限ル

第三條　高等官官等俸給令第二條、第三條第二項及第五條第一項ノ規定ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ任免及敍等ニ之ヲ準用ス

公立大學ノ幹事及學生監ノ敍等ニハ前項ノ外高等官官等俸給令第四條ノ規定ヲ準用ス

高等官三等ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ハ在職二年ヲ超ユルニ非サレハ之ヲ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得ス

前三項ノ規定ノ適用ニ付テハ高等文官ノ在職年數ハ之ヲ同官等待遇ヲ受クル公立學校職員ノ在職年數ト看做ス

第四條　公立學校職員ニシテ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ等級ハ別表第二表ニ依ル

職員制上他ノ職ニ在ル者ヲ以テ兼ネシムル職ノ等級ハ本職ノ等級ニ依ル

第五條　公立學校職員ニシテ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ進退ハ地方長官之ヲ專行ス

第六條　公立學校職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ノ席次ハ同官等又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席トス

第七條　公式令第十四條第三項、第四項及第十五條第三項、第四項ノ規定ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ官記及免官ノ辭令書ニ之ヲ準用ス

第八條　本令ニ於テ實業學校ト稱スルハ實業專門學校以外ノ實業學校ヲ謂フ

附　則

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十五年勅令第三十九號及明治二十六年勅令第二十二號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサル者ハ現ニ配當セラレタル官等等級ノ待遇ヲ受クルモノトス

附　則（大正九年勅令第三百二十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ公立學校職員タル者ハ本令ノ規定ニ拘ラス仍從前ノ等級ヲ保有ス

第一表

| | 勅任官待遇 | 高等官三等待遇 | 高等官四等待遇 | 高等官五等待遇 | 高等官六等待遇 | 高等官七等待遇 | 高等官八等待遇 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大學 | 大學總長 | | | | | | |
| | 大學長 | | | | | | |
| | 教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| | | 助教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | 幹事 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | 學生監 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | 附屬醫院藥局長 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| 大學豫科 | | 教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 專門學校<br>實業專門學校<br>高等學校 | 學校長 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| | | 教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 高等科ヲ置ク高等女學校 | | 學校長 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | 教授 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | 教諭 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 高等學校尋常科<br>高等學校豫科<br>高等師範學校 | | | | 教諭 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 中學校<br>高等女學校（高等科ヲ置ク高等女學校ヲ除ク）<br>實業學校<br>盲學校<br>聾啞學校 | | | 學校長 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | 教諭 | 同上 | 同上 | 同上 |

第二表

| 判任官一等待遇 | 判任官二等待遇 | 判任官三等待遇 | 判任官四等待遇 |
|---|---|---|---|
| 月俸百圓以上 | 月俸七十圓以上百圓未滿 | 月俸五十圓以上七十圓未滿 | 月俸五十圓未滿 |

## ●公立大學職員俸給令

（大正八年八月十四日勅令第三百七十八號）　改正　大正九年第三二八號、一三年第七六號

朕公立大學職員俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

公立大學職員俸給令

第一條　公立大學ノ大學總長、大學長、教授、助教授、幹事、學生監及附屬醫院藥局長ノ年俸ハ別表第一表ニ依ル

第二條　公立大學ノ助手、書記、附屬醫院藥劑手及附屬醫院看護長ノ月俸ハ別表第二表ニ依ル

第三條　勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル公立大學ノ職員ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニハ七百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

第四條　教授及助教授ニハ學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ職務俸ヲ給スルコトヲ得

教授ノ職務俸ハ年額二千二百圓以下、助教授ノ職務俸ハ年額千四百圓以下トス但シ職務俸ノ額ハ本俸ト合シテ六千圓ヲ、本俸及年功加俸ト合シテ六千七百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　助手、書記、附屬醫院藥劑手又ハ附屬醫院看護長ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ事務練熟優等ナル者ニハ特ニ月額二百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第六條　公立大學ノ職員ト他ノ公立大學又ハ其ノ他ノ公立學校ノ職員トヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

第七條　公立學校職員俸給令第五條、第十條乃至第十三條、第十五條乃至第十八條ノ規定ハ公立大學ノ職員ニ關シ之ヲ準用ス

第八條　公立大學豫科ノ教授及助教授ニ付テハ本令ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正九年勅令第三百二十八號）

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸及臨時手當ノ合計額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

從前ノ規定ニ依リ一級俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ本令ニ依ル一級俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス但シ從前ノ規定ニ依ル一級俸ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依ル改正俸給ノ二級俸以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二項ノ規定ニ依リ從前ノ規定ニ依ル一級俸ヲ增額シタル俸給ヲ受ケタル在職年數ニ付亦前項ニ同シ

第二項ノ規定ニ依ル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第一表

| | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 |
| 大學總長 | 七、〇〇〇 | 六、五〇〇 | 六、〇〇〇 | | | | | | | | |
| 大學長 | 六、〇〇〇 | 五、五〇〇 | 五、二〇〇 | | | | | | | | |
| 教授<br>附屬醫院藥局長 | 四、五〇〇 | 四、一〇〇 | 三、八〇〇 | 三、四〇〇 | 三、一〇〇 | 二、七〇〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 |
| 助教授 | 三、一〇〇 | 二、七〇〇 | 二、四〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 | 一、四〇〇 | 一、二〇〇 | 一、一〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 幹事<br>學生監 | 三、八〇〇 | 三、四〇〇 | 三、一〇〇 | 二、七〇〇 | 二、四〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、八〇〇 | 一、六〇〇 | 一、四〇〇 | 一、二〇〇 | 一、一〇〇 |

第二表

| | 助手<br>書記<br>附屬醫院藥劑手<br>附屬醫院看護長 |
|---|---|
| 一級 | 一六〇圓 |
| 二級 | 一四〇圓 |
| 三級 | 一三〇圓 |
| 四級 | 一二〇圓 |
| 五級 | 一一〇圓 |
| 六級 | 一〇〇圓 |
| 七級 | 九〇圓 |
| 八級 | 八〇圓 |
| 九級 | 七〇圓 |
| 十級 | 六〇圓 |
| 十一級 | 五五圓 |
| 十二級 | 五〇圓 |
| 十三級 | 四五圓 |
| 十四級 | 四〇圓 |

## ●公立學校職員俸給令

（明治三十六年三月二十八日勅令第六十六號）

改正 明治三七年第五三號、四二年第三三三號 大正三年第二〇五號、六年第八號、八年第二七號、第三七九號、九年第三二六號、一〇年第一六號、第八八號、第三一九號、一二年第三七九號、一四年第一四八號

朕公立學校職員俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（文部大臣副署）

公立學校職員俸給令

第一條　本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、大學豫科、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校及聾啞學校ノ職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ

第二條　勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル專門學校、實業專門學校、大學豫科及高等學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル

第二條ノ二　高等科ヲ置ク高等女學校ノ學校長、教授及奏任官ノ待遇ヲ受クル教諭ノ年俸ハ第二號表ニ依ル

第三條　奏任官ノ待遇ヲ受クル高等學校尋常科、高等學校豫科、師範學校、中學校、高等女學校（高等科ヲ置ク高等女學校ヲ除ク）、實業學校（實業專門學校ヲ除ク）、盲學校及聾啞學校ノ職員ノ年俸ハ第三號表ニ依ル

第四條　判任官ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第四號表ニ依ル

第五條　官吏ニシテ在官ノ儘職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第六條　一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ七百圓以內、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ四百五十圓以內ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第七條　教員ニシテ舍監、主事ヲ兼ヌル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條　教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第九條　二校以上ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

第十條　陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第十一條　俸給ハ毎級在職一年以上ニ至ラサレハ增給スルコトヲ得ス但シ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸千二百圓以下ノ者及判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸八十圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前職ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ年俸千二百圓以下又ハ月俸八十圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十三條　退職後一年以內ニ再任セラルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ年俸千二百圓以下又ハ月俸八十圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス

退職後一年以內ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セラルル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十四條　前三條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セス

第十五條　休職者ニハ其ノ休職中俸給三分ノ一ヲ給ス但シ教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學スル場合ニ於テ休職ヲ命セラレタル者ニ付テハ之ヲ給セス又ハ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得

第十五條ノ二　師範學校訓導ニシテ徵兵令第十四條ノ規定ニ依ル一年現役ニ服スル者ハ其ノ在營中俸給ノ三分ノ二ヲ減ス

第十六條　特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條　高等官官等俸給令第二十三條乃至第二十九條ノ規定ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ判任官俸給令第十三條及第十四條ノ規定ハ判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條　俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

附　則

第十九條　本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條　本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク

第一號表

| | 學校長 | 教授 |
|---|---|---|
| 一級 | 四,五〇〇圓 | 三,六〇〇 |
| 二級 | 四,一〇〇圓 | 三,四〇〇 |
| 三級 | 三,八〇〇圓 | 三,一〇〇 |
| 四級 | 三,四〇〇圓 | 二,八〇〇 |
| 五級 | 三,一〇〇圓 | 二,五〇〇 |
| 六級 | 二,八〇〇圓 | 二,二〇〇 |
| 七級 | 二,五〇〇圓 | 二,〇〇〇 |
| 八級 | 二,二〇〇圓 | 一,八〇〇 |
| 九級 | 二,〇〇〇圓 | 一,六〇〇 |
| 十級 | 圓 | 一,四〇〇 |
| 十一級 | 圓 | 一,二〇〇 |
| 十二級 | 圓 | 一,一〇〇 |

現ニ本令ニ規定スル俸給額ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ內現在ノ儘支給スルコトヲ得但シ其ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト看做ス

附　則（大正九年勅令第三百二十六號）

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸及臨時手當ノ合計額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

大正九年七月三十一日現在ニ於テ休職中ノ者ニ付テハ其ノ在職最終ノ本俸ニ付前項ノ規定ヲ準用ス

從前ノ規定ニ依リ一級俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ本令ニ依ル一級俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス但シ從前ノ規定ニ依ル一級俸ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依ル改正俸給ノ二級俸以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

從前ノ規定ニ依ル加俸ヲ受クル者ハ其ノ本俸トシテ本令ニ依ル一級俸ヲ受ケ其ノ加俸トシテ從前ノ本俸及加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ本令ニ依ル一級俸ノ金額ヲ控除シタルモノヲ受ク但シ從前ノ本俸及加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額カ本令ニ依ル一級俸以下ナルトキハ本俸トシテ其ノ金額ニ相當スル級俸ヲ受ケ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受ク

第二項但書及前項但書ノ規定ニ該當スル者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノトス

第二項、第三項及第五項ノ規定ニ依ル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第二號表

| | 學校長 | 教授 | 教諭 |
|---|---|---|---|
| 一級 | 四,一〇〇圓 | 三,四〇〇 | 三,一〇〇 |
| 二級 | 三,八〇〇圓 | 三,一〇〇 | 二,八〇〇 |
| 三級 | 三,四〇〇圓 | 二,八〇〇 | 二,六〇〇 |
| 四級 | 三,一〇〇圓 | 二,六〇〇 | 二,四〇〇 |
| 五級 | 二,八〇〇圓 | 二,四〇〇 | 二,二〇〇 |
| 六級 | 二,六〇〇圓 | 二,二〇〇 | 二,〇〇〇 |
| 七級 | 二,四〇〇圓 | 二,〇〇〇 | 一,八〇〇 |
| 八級 | 二,二〇〇圓 | 一,八〇〇 | 一,六〇〇 |
| 九級 | 二,〇〇〇圓 | 一,六〇〇 | 一,四〇〇 |
| 十級 | 一,八〇〇圓 | 一,四〇〇 | 一,三〇〇 |
| 十一級 | 一,六〇〇圓 | 一,二〇〇 | 一,二〇〇 |
| 十二級 | 圓 | 一,一〇〇 | 一,一〇〇 |
| 十三級 | 圓 | | 一,〇〇〇 |

第三號表

| | 學校長 | 教諭 |
|---|---|---|
| 一級 | 三,八〇〇圓 | 三,一〇〇 |
| 二級 | 三,四〇〇圓 | 二,八〇〇 |
| 三級 | 三,一〇〇圓 | 二,六〇〇 |
| 四級 | 二,八〇〇圓 | 二,四〇〇 |
| 五級 | 二,六〇〇圓 | 二,二〇〇 |
| 六級 | 二,四〇〇圓 | 二,〇〇〇 |
| 七級 | 二,二〇〇圓 | 一,八〇〇 |
| 八級 | 二,〇〇〇圓 | 一,六〇〇 |
| 九級 | 一,八〇〇圓 | 一,四〇〇 |
| 十級 | 一,六〇〇圓 | 一,三〇〇 |
| 十一級 | 一,四〇〇圓 | 一,二〇〇 |
| 十二級 | 一,二〇〇圓 | 一,一〇〇 |
| 十三級 | 一,一〇〇圓 | 一,〇〇〇 |

第四號表

| | 專門學校<br>實業專門學校<br>大學豫科<br>高等學校<br>高等科ヲ置ク高等女學校<br>助教授<br>實科高等女學校<br>女子實業學校<br>實業補習學校<br>盲學校<br>聾啞學校<br>學校長<br>高等學校<br>師範學校<br>中學校<br>高等女學校<br>實業學校（實業專門學校ヲ除ク）<br>盲學校<br>聾啞學校<br>教諭 | 專門學校<br>實業專門學校<br>高等學校<br>舍監<br>書記 | 師範學校<br>盲學校<br>聾啞學校<br>訓導 | 高等學校<br>師範學校<br>中學校<br>高等女學校<br>助教諭 |
|---|---|---|---|---|
| 一級 | 一六〇 | 一六〇 | 一四〇 | 一二〇 |
| 二級 | 一四〇 | 一四〇 | 一三〇 | 一一〇 |
| 三級 | 一三〇 | 一三〇 | 一二〇 | 一〇〇 |
| 四級 | 一二〇 | 一二〇 | 一一〇 | 九〇 |
| 五級 | 一一〇 | 一一〇 | 一〇〇 | 八〇 |
| 六級 | 一〇〇 | 一〇〇 | 九〇 | 七〇 |
| 七級 | 九〇 | 九〇 | 八〇 | 六〇 |
| 八級 | 八〇 | 八〇 | 七〇 | 五五 |
| 九級 | 七〇 | 七〇 | 六〇 | 五〇 |
| 十級 | 六〇 | 六〇 | 五五 | 四五 |
| 十一級 | 五〇 | 五〇 | 五〇 | 四〇 |
| 十二級 | | 四五 | 四五 | |
| 十三級 | | 四〇 | 四〇 | |

| 實業學校（實業專門學校ヲ除ク）<br>盲學校<br>聾啞學校 | 師範學校<br>中學校<br>高等女學校<br>實業學校（實業專門學校ヲ除ク）<br>盲學校<br>聾啞學校<br>舍監<br>保姆<br>書記 |
|---|---|
| | 一二〇 |
| | 一一〇 |
| | 一〇〇 |
| | 九〇 |
| | 八〇 |
| | 七〇 |
| | 六〇 |
| | 五五 |
| | 五〇 |
| | 四五 |
| | 四〇 |
| | 三五 |
| | 三〇 |

## ●公立學校職員年功加俸令

（大正九年十月二十八日勅令第五百十九號）

改正 大正一〇年第六〇號、一四年第二七五號

朕公立學校職員年功加俸令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、內務、文部大臣副署）

公立學校職員年功加俸令

第一條　師範學校竝公立ノ高等學校尋常科、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校、聾啞學校及實業補習學校教員養成所ノ學校長、所長、教諭、助教諭、舍監、訓導及保姆ニシテ五年以上勤續スル者ニハ年功加俸ヲ給ス

前項各職間ノ轉職ハ之ヲ勤續ト看做ス學校ノ廢止又ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日內ニ前項ニ掲クル職ニ就キタルトキ亦同シ

第一項ノ實業學校ニハ實業專門學校ヲ、學校長ニハ師範學校長ヲ包含セス

第二條　北海道地方費及府縣ハ前條ノ年功加俸ニ充ツル爲公立學校職員年功加俸國庫補助法第二條ノ規定ニ依リ受クル交付金ト同額以上ノ金額ヲ支出スヘシ

第三條　北海道地方費及府縣ハ公立學校職員年功加俸國庫補助法第二條ノ規定ニ依リ受クル交付金及前條ノ規定ニ依ル支出金ヲ以テ公立學校職員年功加俸資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ

第四條　年功加俸ノ年額ハ別表ニ依ル

第五條　年功加俸ノ支給ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル

第六條　年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ一定ノ期間年功加俸ノ一部又ハ全部ヲ停止スルコトヲ得

第七條　市町村立小學校ノ訓導又ハ准訓導第一條第一項ニ掲クル職ニ轉シタル場合ニ於テハ其ノ市町村立小學校教員加俸令ニ依ル勤續年數ハ之ヲ第一條第一項ニ規定スル勤續年數ニ通算ス小學校ノ正教員又ハ准教員ノ資格ヲ有シ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學教育規程ニ依ル公立小學校ニ在職スル者第一條第一項ニ掲クル職ニ轉シタル場合ニ付亦同シ

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ學校ノ廢止又ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日內ニ第一條第一項ニ掲クル職ニ就キタルトキハ之ヲ轉任ト看做ス

第八條　師範學校長ニシテ在官ノ儘第一條第一項ニ掲クル職ニ在ル者師範學校長勤續加俸令ニ依リ勤續加俸ヲ受クルトキハ本令ニ依ル年功加俸ハ之ヲ給セス本令ニ依リ現ニ受クル年功加俸ハ之ヲ停止ス

第九條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外年功加俸ノ支給ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年十月分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年九月三十日現在ニ於テ勤續五年以上ニ達シタル者ハ本令ノ適用ニ付テハ同日ニ於テ勤續五年ニ達シタルモノト看做ス

附　則（大正十四年勅令第二百七十五

號）

本令ハ大正十四年四月分ヨリ之ヲ適用ス

盲學校及聾啞學校令及實業補習學校教員養成所令施行前ノ公立ノ盲啞學校又ハ實業補習學校教員養成所ニ於ケル職員ハ大正九年四月一日以後ニ限リ本令ノ適用ニ付テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ第一條第一項ノ職員ヨリシモノト看做ス

本令ノ適用ニ因リテ大正十四年三月三十一日現在ニ於テ勤續五年以上ニ達スルコトトナル者ハ本令ノ適用ニ付テハ同日ニ於テ勤續五年ニ達シタルモノト看做ス

（別表）

| | 學校長所長教諭助教諭舍監 | | 訓導保姆 | |
|---|---|---|---|---|
| | 俸給月額八十圓以上 | 俸給月額八十圓未滿 | 俸給月額八十圓以上 | 俸給月額八十圓未滿 |
| 勤續五年以上十年未滿 | 百八圓乃至百三十二圓 | 六十圓乃至八十四圓 | 八十四圓乃至百八圓 | 三十六圓乃至六十圓 |
| 勤續十年以上十五年未滿 | 百五十六圓乃至百八十圓 | 九十六圓乃至百二十圓 | 百三十二圓乃至百五十六圓 | 七十二圓乃至九十六圓 |
| 勤續十五年以上 | 二百十六圓乃至二百七十六圓 | 百三十二圓乃至百六十八圓 | 百九十二圓乃至二百五十二圓 | 百八圓乃至百四十四圓 |

（大正十四年十一月二十四日文部省告示第三百五十八號）

大正十四年勅令第二百七十五號附則第二項ニ依リ大正九年四月一日以後公立學校職員年功加俸令ノ適用ヲ受クル職員ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、公立ノ盲啞學校ノ左ノ職員

學校長ノ職ニ在リタル者竝教員免許令ニ依リ教員免許狀ヲ有スル者、小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者ニシテ教諭、助教諭又ハ訓導ノ職ニ在リタル者

二、石川縣立農業補習學校教員養成所教諭、和歌山縣實業補習學校教員養成所長、教諭竝熊本縣農業教員養成所教諭ノ職ニ在リタル者

## ●公立學校職員年功加俸國庫補助法

（大正九年八月三日法律第三十二號　改正　大正一四年第一二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル公立學校職員年功加俸國庫補助法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、文部大臣副署）

公立學校職員年功加俸國庫補助法

第一條　師範學校竝公立ノ高等學校尋常科、中學校、高等女學校、實業學校、盲學校、聾啞學校及實業補習學校教員養成所ノ職員ノ年功加俸ニ要スル經費ヲ補助スル爲國庫ハ每年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

第二條　前條ノ規定ニ依リ補助スヘキ金額ハ前年六月一日現在ニ於テ五年以上勤續スル學校職員ノ數ニ比例シテ之ヲ北海道府縣ニ交付ス

第三條　學校職員ノ範圍及勤續ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四條　第一條ノ實業學校ニハ實業專門學校ヲ包含セス

附　則

本法ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●道廳府縣立師範學校長ノ俸給ニ關スル件

（大正十二年九月二十九日勅令第四百三十號）

朕道廳府縣立師範學校長ノ俸給ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部、大藏大臣副署）

道廳府縣立師範學校長ノ俸給ハ國庫ノ負擔トス

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●師範學校長勤續加俸令

（大正九年十月二十八日勅令第五百二十號）

朕師範學校長勤續加俸令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

師範學校長勤續加俸令

第一條　師範學校長ニシテ五年以上勤續スル者ニハ勤續加俸ヲ給スルコトヲ得

第二條　勤續加俸ノ年額ハ別表ニ依ル

第三條　勤續加俸ノ支給ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル

第四條　勤續加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ一定ノ期間勤續加俸ノ一部又ハ全部ヲ停止スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正九年十月分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年九月三十日現在ニ於テ勤續五年以上ニ達シタル者ハ本令ノ適用ニ付テハ同日ニ於テ勤續五年ニ達シタルモノト看做ス

（別表）

| 勤續年數 | 勤續加俸年額 |
|---|---|
| 五年以上十年未滿 | 百八圓乃至百三十二圓 |
| 十年以上十五年未滿 | 百五十六圓乃至百八十圓 |
| 十五年以上 | 二百十六圓乃至二百七十六圓 |

## ●市町村立小學校教員俸給ニ關スル件

（明治三十年一月四日勅令第二號　改正　明治四〇年第二一六號）

朕市町村立小學校教員俸給ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（文部大臣副署）

第一條　市町村、町村學校組合及其ノ區ハ第三條ノ月俸平均額ニ基キ小學校ノ教員定數ニ應スル金額ヲ支出スルノ義務アリ但シ市町村町村學校組合及其ノ區ハ土地ノ情況ニ依リ本項ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出スルコトヲ得

第二條　地方長官ハ前條ノ金額以內ニ於テ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムヘシ

地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村町村學校組合及其ノ區ノ同意ヲ得テ前條ノ義務額ヲ超エ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムルコトヲ得但シ區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ其ノ經費ヲ議決スル市町村又ハ町村學校組合ノ同意ヲ得ヘシ

義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得ス

第三條　市町村立小學校ノ本科正教員月俸ノ平均額ハ人口十萬以上ノ市ニ在リテハ二十四圓、其ノ他ノ市及市ニ準スヘキ町村ニ在リテハ二十圓、其ノ他ノ町村ニ在リテハ十六圓トス

前項市ニ準スヘキ町村ハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第四條　本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ノ俸給額ニ關シテハ第二條ヲ適用ス

第五條　專科正教員及補助教授スル教員ノ俸給額ハ地方長官ニ於テ市參事會町村長町村學校組合長ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ但シ本條ニ依リ一旦定マリタル俸給額以內ニ於テ任用スル教員ノ俸給額ニ關シテハ市參事會町村長町村學校組合長ノ意見ヲ聞クノ限ニアラス

第六條　本科正教員及准教員ノ月俸ハ左表ノ金額ヲ下スコトヲ得ス

| | 高等小學校 | | 尋常小學校 | |
|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 本科正教員 | 十二圓 | 十圓 | 十圓 | 八圓 |
| 准教員 | 九圓 | 七圓 | 七圓 | 六圓 |

第七條　本令施行ノ際既ニ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視ス

第八條　本令中町村町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用シ町村長ニ關スル規定ハ島司郡區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者ニ適用ス

本令中市及市參事會ニ關スル規定ニシテ特ニ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ適用スルノ必要アルトキハ文部大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ市參事會ノ職務ハ區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

附　則

第九條　本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十條　明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第六十條第二項ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

## ●市町村立小學校教員加俸令

（明治三十三年三月三十一日勅令第百三十三號　改正　明治四二年第一二號、四四年第四九號　大正二年第二八七號）

朕市町村立小學校教員加俸令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（文部大臣副署）

市町村立小學校教員加俸令

第一條　府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ下付金ヲ以テ市町村立小學校教員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ

第二條　市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第三條　小學校教員ニシテ五年以上同一府縣內ノ市町村立小學校ニ勤續シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス

年功加俸ハ本科正教員ニ在リテハ年額二十四圓乃至六十圓トシ專科正教員及准教員ニ在リテハ年額十二圓乃至二十四圓トス但シ年功加俸ヲ受ケタル後勤續五年ヲ加フル每ニ本科正教員ニ在リテハ年額十八圓乃至三十六圓專科正教員及准教員ニ在リテハ年額十二圓乃至十八圓ヲ加フルコトヲ得

第四條　兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以內更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤續年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以內更ニ就職シタルトキ亦同シ

第五條　道廳府縣視學、島廳郡視學及師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤續年數ニ通算ス

第六條　年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ年功加俸ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

年功加俸ヲ受クル者ニシテ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認メタルトキハ年功加俸ノ支給ヲ止ム

第七條　市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額六十圓以下ノ特別加俸ヲ給ス

市町村立尋常小學校ノ本科正教員ニシテ多級學校ノ一學年ヨリ四學年、五學年又ハ六學年ニ至ル兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ擔任スル者ニハ年額四十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

僻陬地ノ市町村立尋常小學校ニ勤務スル本科正教員ニハ年額三十六圓以下專科正教員及准教員ニハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得但シ前二項ニ依リ特別加俸ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

同一府縣內ニ於テ僻陬地ノ市町村立尋常小學校ニ五年以上勤續スル者ニハ前三項ニ依ル特別加俸ノ外本科正教員ニ在リテハ年額三十六圓以下專科正教員及准教員ニ在リテハ年額十八圓以下ヲ加給ス

第八條　小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テハ本科正教員ト看做ス

第九條　市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定ム

附　則

第十條　本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受クル者ニシテ本令第三條第一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其ノ額同法ニ依リ受クル額ヨリ寡キトキハ同一學校ニ勤續スル間其ノ差額ヲ加給ス

## ●市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他ノ諸給與ニ關スル件

（大正八年七月十四日勅令第三百四十號）

朕市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他ノ諸給與ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

地方長官ハ當分ノ內明治三十年勅令第二號ノ規定ニ拘ラス市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ學區ニ對シ市町村立小學校教員ノ俸給ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ市町村立小學校教員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關シ之ヲ準用ス

市制又ハ町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル市町村ニ準スヘキ公共團體及其ノ組合ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法

（大正十年三月三十日法律第十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法

第一條　市町村立小學校正教員ニシテ徵兵令第十四條ノ規定ニ依リ一年現役兵トシテ現役ニ服スル者ノ服役中ノ俸給ノ爲市町村ニ於テ要スル費用ハ國庫之ヲ負擔ス

第二條　前條ノ規定ニ依リ國庫ノ負擔スル金額ハ每年度之ヲ市町村ニ交付ス

第三條　本法ノ適用ニ付テハ市町村組合又ハ町村組合ハ之ヲ市町村ト看做ス市制又ハ町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル市町村ニ準スヘキ公共團體、其ノ組合又ハ小學校設置區域亦同シ

第四條　本法ニ依リ俸給費ヲ國庫ニ於テ負擔スル小學校正教員ハ市町村義務教育費國庫負擔法ノ適用ニ付テハ同法第三條ノ正教員ノ數ニ之ヲ算入セス

附　則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法施行ニ關スル規程

（大正十年十二月十二日文部省訓令第十號　改正　大正一四年第一三號、第二一號）

北海道廳　府縣

一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法施行ニ關スル規程左ノ通リ定ム

一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法施行ニ關スル規程

第一條　地方長官ハ每年五月十一日現在ニ依リ市町村立小學校正教員ニシテ一年現役兵トシテ現役ニ服スル者ノ在營中ノ俸給ノ爲當該年度市町村ニ於テ要スヘキ費用ヲ調査シ第一號樣式ニ依リ五月末日限之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ但シ一年現役兵條例第五條第一項ノ規定ニ依リ入營期日ノ變更アリタル場合ハ同條例第六條ノ規定ニ依ル最終入營期日ノ翌日現在ニ依リ其ノ俸給費ヲ當該年度分及翌年度分ニ區分シテ調査シ二十日以內ニ報告スヘシ

前項但書ノ規定ニ依リ既ニ報告シタル費用ハ前項本文ノ規定ニ依リ報告スヘキ費用ヨリ除外スヘキモノトス

第二條　地方長官ハ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依ル除隊又ハ死亡等ノ爲前條ノ規定ニ依ル報告ニ異動ヲ生シタルトキハ第二號樣式ニ依リ調査シ其ノ都度之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

第三條　地方長官ハ一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法第一條ノ規定ニ依ル國庫負擔金ニ付小切手振出ノ委任ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ市町村ニ交付スヘシ

第四條　地方長官ハ一年現役兵トシテ現役ニ服スル小學校正教員ノ在職スル市町村ニ變更アリタル場合ハ其ノ俸給費國庫負擔金ハ日割計算法ニ依リ之ヲ關係市町村ニ交付スヘシ

第五條　地方長官ハ一年現役小學校教員俸給費國庫負擔金ヲ市町村ニ交付スルトキハ概算渡ノ方法ニ依ルヘシ

第六條　地方長官ハ毎年前年度ニ於ケル國庫負擔金交付額ヲ市町村別ニ調査シ第三號様式ニ依リ五月末日限之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

第七條　地方長官ハ毎年其ノ年施行シタル一年現役兵タルヘキ者ノ身體檢査ノ成績ヲ調査シ第四號様式ニ依リ一年現役兵條例施行細則第十一條第一項ニ該ルモノハ五月末日限、同條第二項ニ該ルモノハ八月末日限之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

第八條　本令ノ適用ニ付テハ市町村組合又ハ町村組合ハ之ヲ市町村ト看做ス市制又ハ町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル市町村ニ準スヘキ公共團體其ノ組合又ハ小學校設置區域亦同シ

第一號様式

| 俸給別人員 | | 在營中俸給所要額 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 月俸額 | 人員 | 一人當所要額（即月俸額三分ノ一ノ五月分） | 所要總額 | |
| 圓 | 人 | 圓 | 圓 | |
| 計 | | | | |

備考　四月一日以後ニ於テ任命セラレタル者アルトキハ任命月日毎ニ別行トシ備考欄ニ任命月日ヲ記入スヘシ

第二號様式

| 異動年月日 | 俸給別人員 | | 備考 |
|---|---|---|---|
| | 月俸額 | 人員 | |
| | 圓 | 人 | |
| 計 | | | |

備考　異動ノ事由ハ詳細之ヲ備考欄ニ記入スヘシ

第三號様式

| 郡市町村名 | 俸給別人員 | | 國庫負擔金交付額 |
|---|---|---|---|
| | 俸給額 | 人員 | |
| 市ノ部 | 圓 | 人 | |
| 郡ノ部　何郡計　何郡計 | | | |
| 總計 | | | |

第四號様式

| 受検者種別 部別 検査成績 | | 卒業者 | | 在學者 | | 前年度受検延期者 | | 再検査者 | | 計 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 一部 | 二部 | 一部 | 二部 | 一部 | 二部 | 一部 | 二部 | 一部 | 二部 | |
| 一年現役身體検査等位別數 | 甲 | | | | | | | | | | | |
| | 乙 | | | | | | | | | | | |
| | 丙 | | | | | | | | | | | |
| | 丁 | | | | | | | | | | | |
| | 戊 | | | | | | | | | | | |
| | 計 | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | |

備考

一　前年度受検延期者ハ一年現役兵條例施行細則第十八條第一號ニ規定スルモノヲ謂フ

二　再検査者ハ一年現役兵條例施行細則第十八條第二號乃至第四號ニ規定スルモノヲ謂フ

三　卒業者若ハ在學者ニシテ前年度受検延期者若ハ再検査者ニ該ル場合ハ前年度受検延期者若ハ再検査者ノ欄ニ計上シ其ノ旨備考欄ニ記入スヘシ

四　一部ハ師範學校第一部、二部ハ同第二部ヲ謂フ

## 第三章　諸給

### 第一款　手當

#### ●勤勉手當給與令

（大正九年十一月二十二日　勅令第五百四十五號）
改正　大正一〇年第一八八號、一一年第一二五號、第二〇五號、第四一〇號、一二年第二八三號、一三年第九六號、第一九六號、第二七二號、第三三三號、四年第九七號、一五年第二五二號

朕勤勉手當給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

勤勉手當給與令

第一條　官吏、官吏ノ待遇ヲ受クル者、囑託員、雇員、傭人又ハ職工ニシテ左ニ掲クル現業ニ從事スルモノニハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

一　衞生試驗所ニ於ケル現業

一ノ二　復興局ニ於ケル工事ノ現業

二　大藏省所管ノ營繕工事ノ現業

二ノ二　造幣局ニ於ケル現業

三　專賣局ニ於ケル現業

四　陸海軍ノ工事、製造、港務又ハ海軍採炭ノ現業

四ノ二　司法省所管監獄ニ於ケル現業

四ノ三　營林局署ニ於ケル現業

五　製鐵所ニ於ケル現業

五ノ二　遞信省ニ於ケル工事ノ現業

六　貯金局、簡易保險局、遞信局及通信官署ニ於ケル現業

七　帝國鐵道ノ現業

八　朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル工事ノ現業

九　朝鮮總督府鐵道局、朝鮮總督府專賣局、朝鮮總督府營林署及朝鮮總督府遞信官署ニ於ケル現業

十　臺灣總督府交通局ニ於ケル鐵道又ハ通信ノ現業

十一　臺灣總督府專賣局及臺灣總督府殖産局營林所ニ於ケル現業

十二　臺灣總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル工事ノ現業

十二ノ二　臺灣總督府監獄ニ於ケル現業

十三　關東廳遞信官署ニ於ケル現業

十四　樺太廳郵便局ニ於ケル現業

十五　樺太廳ニ於ケル鐵道ノ現業

十六　南洋廳ニ於ケル通信又ハ燐礦採掘ノ現業

十七　北海道廳ノ築港事務所及治水事務所ニ於ケル現業

第一條ノ二　官吏、官吏ノ待遇ヲ受クル者、囑託員、雇員又ハ傭人ニシテ左ニ掲クル事務ニ從事スルモノニハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

一　税關又ハ臨時海港檢疫所ニ於ケル海港檢疫又ハ獸類若ハ獸疫病毒汚染ノ疑アル物品ノ檢疫若ハ檢査事務及其ノ事務ヲ直接幇助スル事務

二　税關、朝鮮總督府税關又ハ臺灣總督府税關ニ於ケル臨時開廳ノ場合又ハ日沒ヨリ日出迄ノ間若ハ休日ニ保税倉庫ノ開扉若ハ貨物ノ積卸搬出入其ノ他ノ取扱ヲ爲ス場合ノ臨時事務

三　税關ニ於ケル植物ノ輸入、移入ニ關スル檢査事務及其ノ事務ヲ直接幇助スル事務

第二條　工場ニ服務スル技手ニシテ第一條ニ該當セサル者ヲシテ定時間外ニ服業セシメタル場合ニハ日額ニ依リ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

第三條　前三條ノ規定ニ依リ給スル手當ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第四條　法律又ハ勅令ニ依ルニ非サレハ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十二年勅令第四百四十八號
明治三十六年勅令第四十八號
明治三十七年勅令第百五十五號
明治三十七年勅令第百七十號
明治三十九年勅令第三百五號
明治四十年勅令第八號
明治四十一年勅令第百六十四號
明治四十一年勅令第百六號
明治四十三年勅令第二百十一號
大正三年勅令第百十七號
大正七年勅令第三百十一號
大正七年勅令第四百號
大正九年勅令第二十五號

#### ●交通至難ノ場所ニ在勤スル職員ニ手當給與ノ件

（大正九年九月十六日　勅令第四百五號）
改正　大正一〇年第三〇號、一一年第一二四號

朕交通至難ノ場所ニ在勤スル職員ニ手當給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、農商務、內務、遞信、司法大臣副署）

交通至難ノ島嶼其ノ他ノ場所ニ在勤スル職員ニハ月額四十五圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ千島國幌筵島ニ在勤スル職員ニ限リ月額百圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

前項ノ交通至難ノ島嶼其ノ他ノ場所ノ指定及手當ノ給與ニ關スル細則ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十年勅令第二百四十六號
明治三十一年勅令第三百五十八號
明治三十二年勅令第二百十八號
明治三十三年勅令第七十七號
明治三十四年勅令第六十四號
明治三十五年勅令第五十三號
明治四十一年勅令第百二十號
明治四十一年勅令第二百六十一號
明治四十二年勅令第二百十六號
明治四十二年勅令第三百十六號
明治四十三年勅令第三百八十八號
明治四十五年勅令第七十六號
大正元年勅令第二十號

#### ●朝鮮陸接國境地方在勤官吏、官吏待遇者、憲兵補等ノ臨時特別手當給與ニ關スル件

（大正十年三月三十一日　勅令第六十二號）

朕朝鮮陸接國境地方ニ在勤スル官吏、官吏ノ待遇ヲ受クル者、憲兵補等ノ臨時特別手當給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、陸軍大臣副署）

朝鮮陸接國境地方ニ在勤スル官吏、官吏ノ待遇ヲ受クル者、憲兵補、囑託員、雇員、傭人又ハ職工ニハ當分ノ內月額三十圓以內ノ臨時特別手當ヲ給スルコトヲ得

前項ノ臨時特別手當ノ額及支給ヲ受クヘキ者ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但シ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ者ニ付テハ朝鮮總督所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年勅令第四百號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前大正九年勅令第四百號ニ依リ臨時特別手當ヲ受クルコトヲ得ル者ニ非サリシ者ニ付テハ本令ハ大正九年九月分ヨリ之ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ大正九年勅令第四百號ニ依ル臨時特別手當ニ付朝鮮總督ノ定ムルモノハ之ヲ本令ニ依ル臨時特別手當ニ付定ムルモノト看做シ其ノ大藏大臣ト協議ヲ要スルモノニ付テハ其ノ協議アリタルモノト看做ス

#### ●三等郵便局長等ノ給與ニ關スル件

（大正九年十月十三日　勅令第四百八十三號）

朕三等郵便局長等ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

第一條　三等郵便局長、三等電信局長、朝鮮總督府郵便所長、臺灣總督府三等郵便局長、關東廳郵便所長及樺太廳特定郵便局長ニハ俸給ヲ給セス別表ニ定ムル金額以內ノ年手當ヲ給ス

前項ノ手當ノ支給ニ關スル規程ハ遞信大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ定ム

第二條　前條第一項ニ掲クル各官ニ在ル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ勤勞ニ應

シ別表ニ定ムル金額以內ノ一時金ヲ給與ス

但シ懲戒處分ニ因リ免官セラレ又ハ刑事裁判ニ因リ失官シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　在官中死亡シタルトキ
二　廢官又ハ廢廳ニ因リ退官シタルトキ
三　勤續三年以上ニシテ退官シタルトキ

附　則

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十一年勅令第百十九號
明治四十一年勅令第二百七十九號
明治四十二年勅令第百四十九號
明治四十三年勅令第百六十六號
大正五年勅令第八十五號

（別表）

| | 年手當 | 一時金 |
|---|---|---|
| 三等郵便局長<br>三等電信局長 | 一、〇〇〇圓 | 四〇〇圓 |
| 朝鮮總督府郵便所長<br>臺灣總督府三等郵便局長<br>關東廳郵便所長<br>樺太廳特定郵便局長 | 一、二〇〇 | 六〇〇 |

## ●海外在勤外交官領事官等戰時事變ノ際臨時手當給與ノ件

（明治三十一年七月二十八日勅令第百七十七號）

改正　明治四四年第二八一號　大正一四年第九八號

朕海外ニ在勤スル外交官領事官等ニ臨時手當給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（外務大臣副署）

海外ニ在勤スル外交官領事官貿易事務官大公使館通譯官外務省警部外務省警視外務書記生外務通譯生外務省警部補及外務省巡査ニシテ其ノ在勤地ニ於テ戰時若ハ事變ニ際會スルトキハ其ノ繼續中在勤俸年額又ハ在勤月手當ノ十分ノ五ニ相當スル金額以內ヲ手當トシテ給與スルコトヲ得

本令手當金支給方ハ明治二十六年勅令第百七十一號【公使館領事館費用條例】中在勤俸支給ノ例ニ依ル

## ●帝國領事館附防疫官手當給與令

（大正十年三月二十八日勅令第四十二號）

改正　大正一五年第八九號

朕帝國領事館附防疫官手當給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、內務大臣副署）

帝國領事館附防疫官手當給與令

第一條　帝國領事館附ヲ命シタル防疫官ニハ本俸ノ外左記年額ノ在勤手當ヲ給ス

| | |
|---|---|
| 上海 | 二千八百圓以內 |
| 香港 | 二千八百圓以內 |
| 新嘉坡 | 四千七百五十圓以內 |

第二條　前條ノ防疫官ニシテ內務大臣ノ認許ヲ受ケ妻ヲ任所ニ居住セシムルモノニハ現ニ受クル在勤手當ノ額ノ十分ノ三ニ相當スル額ヲ加給手當トシテ給ス

第三條　本令ニ依ル給與ニ關スル細則ハ內務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正九年十二月分ヨリ之ヲ適用ス

## ●帝國領事館附防疫官在勤手當支給細則

（大正十年三月二十八日內務省令第九號）

帝國領事館附防疫官在勤手當支給細則左ノ通定ム

第一條　帝國領事館附ヲ命シタル防疫官ニ給スル在勤手當ハ任地到達ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス但シ在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命セラレタル者ハ辭令到達ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

轉任、休職、退官シタル者ニハ其ノ辭令到達ノ日迄、死亡シタル者ハ其ノ當月迄之ヲ支給ス但シ事務引繼其ノ他止ムヲ得サル事故ノ爲許可ヲ得テ其ノ地ニ滯在シタルトキハ二十日以內ヲ限リ之ヲ支給ス

防疫官內地ニ出張ヲ命セラレタルトキハ出發ノ日ヨリ歸任ノ當日迄手當ヲ支給セス

第二條　防疫官ニシテ其ノ妻ヲ任所ニ居住セシムル者ニ給スル手當ノ增給ハ其ノ妻カ任所ニ居住シタル翌日ヨリ之ヲ支給ス

第三條　前條ノ增給ハ其ノ妻任所ヲ去リタルトキハ其ノ當日ヨリ之ヲ支給セス

第四條　在勤手當ハ年額ヲ十二分シ毎月之ヲ支給シ其ノ支給方法ハ俸給支給ノ例ニ依ルモノトス

附　則

本令ハ大正九年十二月分ヨリ之ヲ適用ス

## ●海外駐劄財務官ノ經費ニ關スル件

（明治四十三年五月三十日勅令第二百三十八號）

朕海外駐劄財務官ノ經費ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

第一條　明治四十三年勅令第二百三十六號第一條ノ官吏ニハ俸給ノ外手當ヲ支給ス

手當ノ支給ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム

第二條　海外駐劄財務官費ハ精算ヲ要スルモノト精算ヲ爲サス渡切ルモノトノ二種ニ分ツ其ノ區分及支給ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●海外駐劄財務官經費支給規程

（明治四十三年六月一日大藏省令第二十八號）

改正　明治四四年第七號　大正一二年第二二號

明治四十三年勅令第二百三十八號ニ依ル海外駐劄財務官經費支給規程左ノ通相定ム

第一條　明治四十三年勅令第二百三十六號第一條ノ官吏ニ支給スル手當ハ任所到著ノ翌日ヨリ任所出發ノ日マテ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第二條　海外駐劄財務官經費中左ノ諸費ハ精算ヲ爲サス定額ヲ以テ渡切ルモノトス

一　交際上ニ要スル諸費
二　公用間席借料
三　經濟事情通信謝金及傭人料
四　郵便料

附　則

本令ハ明治四十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●島嶼在勤者月手當給與細則

（大正十年三月三十日大藏省令第八號）

大正九年勅令第四百五號ニ據リ月手當ヲ給與スヘキ場所及給與細則左ノ通相定ム

島嶼在勤者月手當給與細則

第一條　各廳長官ハ交通至難ノ場所ニ在勤スル者ニ對シ土地ノ情況ヲ斟酌シ別表ノ範圍內ニ於テ支給額ヲ定メ月手當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ支給場所及支給額ヲ定メタルトキハ之ヲ報告スヘシ

第二條　月手當ハ新ニ赴任ノ場合ハ著任ノ翌日ヨリ在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命ノ場合ハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ轉勤ノ場合ハ舊任地出發ノ前日迄ヲ其ノ月ノ現日數ニ依リ之ヲ計算支給ス但シ命令到達ノ日ヨリ十五日ヲ超ユルヲ得ス

特別ノ命令ニ依リ又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲出發スルコト能ハサル場合ハ前項但書ノ規定ニ拘ハラス仍其ノ期間內ニ限リ支給スルコトヲ得

第三條　退官、休職又ハ死亡ノトキハ當月分月手當ノ全額ヲ支給ス

事務引繼殘務調理ノ爲公務ニ從事スルトキハ其ノ事務終了ノ當日迄尙之ヲ支給ス

第四條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユルトキ又ハ私事故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルトキハ月手當ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　歸省轉地療養其ノ他私事ノ爲在勤地ヲ離レタル日數ハ月手當ヲ支給セス

第六條　兼務者ニハ月手當ヲ支給セス

第七條　月手當ハ毎月俸給支給定日ニ之ヲ支給ス但シ新任、轉任、轉勤、退官、休職、死亡等ノ場合ニ於テハ支給定日ニ拘ラス之ヲ支給ス

第八條　月手當ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ月ノ現日數ニ依リ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行シ大正九年八月分ヨリ適用ス

明治三十五年大藏省令第五號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

| 地域區分 | 金額<br>奏任官<br>五等以上 | 金額<br>奏任官<br>六等以下 | 金額<br>判任官<br>長タル者及一等 | 金額<br>判任官<br>其他ノモノ | 金額<br>雇員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京府下小笠原島<br>沖繩縣下宮古列島及八重山列島 | 三十圓以內 | 二十五圓以內 | 二十圓以內 | 十五圓以內 | 十一圓以內 |
| 鹿兒島縣下大島 | 二十二圓以內 | 十七圓以內 | 十四圓以內 | 十一圓以內 | 八圓以內 |

## ●租稅ニ關スル委員、其ノ選擧會立會人又ハ選擧立會人及織物鑑定人ノ手當旅費支給方竝織物消費稅法ニ依ル異議申立人ノ負擔費用

（大正二年七月五日大藏省令第二十五號）

改正　大正三年第二〇號、九年第三四號、一五年第四一號

租稅ニ關スル委員、其ノ選擧會立會人又ハ選擧立會人及織物鑑定人ノ手當旅費支給方竝織物消費稅法第九條第五項ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用左ノ通相定ム

第一條　所得調査委員所得、資本利子及營業ノ純益ノ調査ニ從事シタルトキハ一會期ニ付左ノ區別ニ依リ手當ヲ支給ス

| | |
|---|---|
| 納稅者ノ數五千人以上ナルトキ | 七十五圓 |
| 納稅者ノ數三千人以上ナルトキ | 六十圓 |
| 納稅者ノ數千人以上ナルトキ | 五十圓 |
| 納稅者ノ數千人未滿ナルトキ | 四十五圓 |

納稅者ノ數ハ調査委員會ニ於テ其ノ年調査ヲ結了シタル所得稅納稅人員ト所得稅ヲ納メサル營業收益稅納稅人員トノ合計ニ依ル

再調査ノ爲開會シタル調査委員會ノ日數ハ第一項ノ會期ニ包含セラルルモノトス

第二條　調査委員會開會中調査委員ニ闕員ヲ生シ補闕ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ金額ヲ會期中前委員及補闕員カ其ノ資格ヲ有セシ日數ニ按分シテ其ノ手當金額ヲ定ム

第三條　所得審査委員、相續稅審査委員及織物消費稅法第九條第四項ノ鑑定人審査又ハ鑑定ニ從事シタルトキハ日當金十圓ヲ支給ス但シ官吏ニシテ委員又ハ鑑定人タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　第一條及第三條ノ委員又ハ鑑定人ニシテ官吏ニ非サル者ニハ別表定ムル所ニ依リ往復旅費ヲ支給ス但シ租稅ニ關スル調査、審査又ハ鑑定ニ從事シタル日ノ旅行ニ付テハ鐵道賃、船賃、車馬賃ノミヲ支給ス

第五條　前條旅費支給ノ方法ニ關シテハ內國旅費規則ヲ準用ス

第五條ノ二　所得調査委員ノ選擧立會人、稅務署所在地內ヨリ選任セラレタル所得調査委員ノ選擧會立會人及稅務監督局所在地內ヨリ選任セラレタル所得審査委員ノ選擧立會人其ノ立會ニ從事スル場合ニ於テハ日當金二圓ヲ支給ス

前項所得調査委員選擧立會人ノ日當ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第六條　收稅官吏ニ非サル官吏在勤廳所在地ニ於テ鑑定ニ從事スル場合ニ於テハ日當金二圓ヲ支給ス

前項ノ日當ヲ支給スヘキ場合ニ於テハ內國旅費規則第九條及第九條ノ二ノ日當ヲ支給セス

第七條　織物消費稅法第九條第五項ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用ハ鑑定人ノ日當、旅費及鑑定ニ要シタル實費トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年四月大藏省令第十二號、明治三十六年六月大藏省令第十六號、明治三十八年三月大藏省令第二十號及明治四十三年四月大藏省令第十六號ハ之ヲ廢止ス

別表

旅費額

| 車馬賃（一里ニ付） | 宿泊料（一夜ニ付） | 日當（一日ニ付） |
|---|---|---|
| 七十五錢 | 五圓五十錢 | 三圓 |

鐵道賃、船賃ハ（イ）二等旅客運賃（艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ヲ支給ス但シ運賃ノ等級ヲ二ニ區分シタルモノハ上級ノ運賃其等級ヲ設ケアリテハ其乘車、乘船ニ要スル運賃（ロ）鐵道五十哩以上又ハ水路五十浬以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金ヲ支給ス但シ急行料金ヲ徵セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

## ●所得調査委員又ハ所得審査委員戰時利得ノ調査又ハ審査ニ從事シタル場合ノ手當及旅費支給方

（大正七年七月二日大藏省令第二十九號）

所得調査委員又ハ所得審査委員戰時利得ノ調査又ハ審査ニ從事シタル場合ノ手當及旅費支給方左ノ通之ヲ定ム

第一條　所得調査委員戰時利得ノ調査ニ從事シタルトキハ一會期ニ付左ノ區別ニ依リ手當ヲ支給ス

| | |
|---|---|
| 納稅者ノ數二百人以上ナルトキ | 七圓 |
| 納稅者ノ數百人以上ナルトキ | 五圓 |
| 納稅者ノ數百人未滿ナルトキ | 三圓 |

納稅者ノ數ハ調査委員會ニ於テ其ノ年調査ヲ結了シタル納稅人員ニ依ル但シ同一人ニ對シ戰時利得稅法第三條第一項第二號及同第三號ニ依リ各別ニ戰時利得稅ヲ課スヘキ場合ニ於テハ納稅人員ハ各別ニ之ヲ計算ス

戰時利得再調査ノ爲開會シタル調査委員會ノ日數ハ第一項ノ會期ニ包含セラルルモノトス

第二條　戰時利得ノ調査會期中調査委員ニ缺員ヲ生シ補闕ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ金額ヲ會期中前委員及補闕員カ其ノ資格ヲ有セシ日數ニ按分シテ其ノ手當金額ヲ定ム

第三條　所得審査委員戰時利得ノ審査ニ從事シタルトキハ日當金三圓ヲ支給ス但シ官吏ニシテ委員タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　所得審査委員戰時利得ノ審査ノミニ從事スル爲委員會ニ出席シタルトキハ現住地ト委員會場所在地トノ路程ニ從ヒ別表定ムル所ニ依リ往復旅費ヲ支給ス但シ會期中ニ到著又ハ出發シタルトキハ其ノ日ノ旅行ニ付テハ鐵道賃、船賃及車馬賃ノミヲ支給ス

前項ノ規定ハ官吏ニシテ所得審査委員タル者ニハ之ヲ適用セス

第五條　前條旅費支給ノ方法ニ關シテハ內國旅費規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表

旅費額

| 鐵道賃（一哩ニ付） | 船賃（一海里ニ付） | 車馬賃（一里ニ付） | 宿泊料（一夜ニ付） | 日當（一日ニ付） |
|---|---|---|---|---|
| 三錢 | 四錢 | 貳拾五錢 | 壹圓五拾錢 | 壹圓 |

## ●宅地賃貸價格調査委員手當及旅費支給規程

（明治四十三年七月二十一日大藏省令第三十四號）

宅地賃貸價格調査委員手當及旅費支給規程左ノ通定ム

宅地賃貸價格調査委員手當及旅費支給規程

第一條　調査委員公務ニ從事シタルトキハ手當トシテ金八十圓ヲ支給ス但シ調査委員ニ闕員ヲ生シ補闕員ヲ爲シタル場合ニ於テハ會期中前委員及補闕員カ其ノ資格ヲ有セシ日數ニ比例シテ之ヲ支給ス

第二條　調査委員開會ノ通知ニ應シ出席シタルトキ及閉會ニ依リ歸郷シタルトキハ現住地ト委員會場所在地トノ路程ニ從ヒ別表定

ムル所ノ旅費ヲ支給ス

第三條　旅費支給ノ方法ハ内國旅費規則ニ準據ス

（別表）

旅費額

| 鐵道賃（一哩ニ付） | 船賃（一海里ニ付） | 車馬賃（一里ニ付） | 日當（一日ニ付） |
|---|---|---|---|
| 四錢 | 五錢 | 三十錢 | 二圓 |

### ●北海道地價調査ニ關スル委員ノ手當旅費竝其ノ選擧立會人ノ日當支給方

（大正七年六月四日大藏省令第二十四號）

（改正　大正九年第三五號、一五年第四二號）

北海道地價調査ニ關スル委員ノ手當旅費竝其ノ選擧立會人ノ日當支給方左ノ通之ヲ定ム

第一條　大正七年一月大藏省令第二號ノ地價調査委員地價調査ニ從事シタルトキハ一會期ニ付左ノ區別ニ依リ手當ヲ支給ス

調査シタル筆數五千筆以上ナルトキ　五十圓
調査シタル筆數三千筆以上ナルトキ　四十五圓
調査シタル筆數千筆以上ナルトキ　三十五圓
調査シタル筆數千筆未滿ナルトキ　三十圓

第二條　地價調査委員會開會中調査委員ニ闕員ヲ生シ補闕ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ金額ヲ會期中前委員及補闕員カ其ノ資格ヲ有セシ日數ニ按分シテ其ノ手當金額ヲ定ム

第三條　調査委員開會ノ通知ニ應シ出席シタルトキ及閉會ニ依リ歸郷シタルトキハ現住地ト委員會場所在地トノ路程ニ從ヒ別表定ムル所ノ旅費ヲ支給ス但シ開期中ニ到著又ハ出發シタルトキハ其ノ日ノ旅行ニ付テハ鐵道賃、船賃、車馬賃ノミヲ支給ス

第四條　前條旅費支給ノ方法ニ關シテハ内國旅費規則ヲ準用ス

第五條　稅務署所在地内ヨリ選任セラレタル調査委員ノ選擧立會人其ノ立會ニ從事スル場合ニ於テハ日當金二圓ヲ支給ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表

旅費額

| 車馬賃（一里ニ付） | 宿泊料（一夜ニ付） | 日當（一日ニ付） |
|---|---|---|
| 七十五錢 | 五圓五十錢 | 三圓 |

鐵道賃、船賃ハ（イ）二等旅客運賃（艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ヲ支給ス但シ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分シタルモノハ上級ノ運賃其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車、乘船ニ要スル運賃（ロ）鐵道五十哩、水路五十浬以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金ヲ支給ス但シ急行料金ヲ徵セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

### ●煙草專賣法及鹽專賣法施行細則ニ依リ選定スル鑑定人ニ支給スヘキ手當旅費及異議申立人ノ負擔スヘキ費用

（大正九年十二月十一日大藏省令第四十六號）

煙草專賣法第十二條、第十六條及鹽專賣法施行細則第二十條ニ依リ選定スル鑑定人ニ支給スヘキ手當、旅費及異議申立人ノ負擔スヘキ費用左ノ通改正ス

第一條　鑑定人鑑定ニ從事シ若ハ鑑定用務ノ爲旅行スルトキハ其ノ日數ニ應シ手當トシテ一日ニ付金三圓以内ヲ支給ス

官吏ヨリ鑑定スル鑑定人ニハ手當ヲ支給セス

第二條　鑑定人公務ニ依リ旅行スルトキハ前條手當ノ外旅費トシテ別表定ムル所ニ依リ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當及宿泊料ヲ支給ス其ノ支給方法ハ内國旅費規則ニ準據ス

官吏ヨリ選定スル鑑定人ニハ其ノ官等相當ノ旅費ヲ支給ス

第三條　異議申立人ノ負擔スヘキ費用ハ鑑定人ノ手當、旅費及直接鑑定ニ要スル消耗品代郵便料及人夫賃トス

附　則

明治三十七年七月大藏省令第三十二號及同三十八年四月大藏省令第二十七號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

旅費額

| 鐵道賃 | 船賃 | 車馬賃 | 日當 | 宿泊料 |
|---|---|---|---|---|
| 二等定價（通行稅ヲ含ム） | 二等定價（通行稅及艀船賃ヲ含ム） | 一里ニ付　七十錢 | 一日ニ付　二圓 | 一夜ニ付　四圓 |

一、鐵道五十哩、水路五十海里以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金ヲ支給ス但シ急行料金ヲ徵セサル線路ニ依リ旅行スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二、鐵道運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ高級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃ヲ支給ス

三、船賃ハ旅客運賃及普通急行料金ニ依リ鐵道賃ノ例ニ準シ之ヲ支給ス

### ●製鹽地整理ニ關スル鑑定人ノ手當及旅費

（明治四十三年八月一日大藏省令第三十六號）

明治四十三年法律第四十八號ニ依ル鑑定人ノ手當及旅費左ノ通相定ム

第一條　官吏以外ノ者ヨリ選定シタル鑑定人鑑定ニ從事シタルトキハ其ノ日數ニ應シ一日金三圓以内ノ手當ヲ支給ス

第二條　官吏以外ノ者ヨリ選定シタル鑑定人鑑定用務ニヨリ旅行シタルトキハ左ノ旅費ヲ支給ス

一鐵道賃　一哩ニ付　四錢以内
一船賃　一海里ニ付　五錢以内
一車馬賃　一里ニ付　三十錢以内
一宿泊料　一夜ニ付　二圓以内

官吏ヨリ選定シタル鑑定人ニ對シテハ各其ノ所屬廳ニ於テ定メタル旅費額ヲ支給ス

前二項ノ旅費支給方ハ内國旅費規則及大藏省所管旅費支給規則ニ準據ス

第三條　第一條ノ手當及第二條第一項ノ旅費支給額ハ專賣局長官適宜之ヲ定ム

### ●化學兵器手當給與ノ件

（大正十四年十一月十六日勅令第三百十四號）

朕化學兵器手當給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍大臣副署）

化學兵器ニ關スル研究ノ爲其ノ試驗、製造、檢査及取扱ニ從事シ直接其ノ危害ヲ受クル虞アル陸海軍軍人軍屬（軍屬ニ非サル職工ヲ含ム）ニハ別表ノ化學兵器手當ヲ給ス

本令ヲ適用スヘキ化學兵器ノ範圍及化學兵器手當ノ給與細則ハ主務大臣之ヲ定ム

別表

| 階級 |  | 月額 |
|---|---|---|
| 陸軍 | 海軍 |  |
| 將校、同相當官、高等文官、同待遇者 | 士官、特務士官、高等文官、同待遇者 | 六十圓以内 |
| 准士官、見習士官、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、判任文官一等 | 候補生、准士官、判任文官一等 | 四十圓以内 |
| 下士、判任文官二等以下、判任文官待遇者 | 下士官、判任文官二等以下、判任文官待遇者 | 三十圓以内 |
| 兵卒 | 兵 | 二十圓以内 |

備考

一　主務大臣ハ常時ノ勤務ニ非サル者ニ對シ月額ノ二十分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ日額ニ依リ化學兵器手當ヲ給スルコトヲ得但シ一月内ニ於ケル支給額ノ合計ハ月額ヲ超ユルコトヲ得ス

二　特ニ危險ト認ムル作業ニ從事スル者ニハ別ニ月額ノ二十分ノ一以内ノ日額ヲ增給スルコトヲ得但シ一月内ニ於ケル其ノ支給額ノ合計ハ月額ノ五割ヲ超ユルコトヲ得ス

三　陸海軍ニ於ケル本表ニ揭ケサル者ニ對スル化學兵器手當ノ額ハ本表ニ準シテ主務大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十四年五月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

### ●政府ヨリ恩給ヲ受クル者召集中手當支給ノ件

（明治三十八年六月十四日勅令第百七十九號）

朕政府ヨリ恩給ヲ受クル者ニ召集中手當ヲ支給スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（海軍、陸軍大臣副署）

政府ヨリ恩給ヲ受クル者戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレ恩給ヲ停止セラレタル場合ニ於テ其ノ俸給ノ額恩給ノ額ヨリ寡少ナルトキハ手當トシテ其ノ不足額ヲ支給ス

附　則

本令ハ開戰ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

### ●政府ヨリ恩給ヲ受クル者陸軍ニ召集中手當支給方

（明治三十八年六月十四日陸軍省令第十一號）

陸軍ニ召集セラレタル者ニ本年勅令第百七十九號ニ依リ手當支給方左ノ通定ム

第一條　手當ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ恩給證書ノ寫ヲ添ヘ俸給支給廳ニ屆出ヘシ

第二條　手當ハ俸給月額ト恩給年額十二分ノ一トヲ對比シ其ノ不足額ヲ每月（營内居住下士兵卒ハ每旬）俸給支給ノ際俸給支給廳ニ於テ之ヲ給ス

第三條　前條ノ俸給額ニハ諸加俸ヲ加算シ戰時給與規則ニ依ル增給ヲ算入セス

第四條　陸軍懲罰令又ハ陸軍給與令ニ依リ俸給ヲ減給若ハ停止シ又ハ歸郷療養手當ヲ給スル場合ニ在リテモ前二條ニ依リ俸給額ト恩給額トヲ對比シテ手當ヲ支給ス

第五條　手當ハ留守宅ニ於テ之ヲ受領スルコトヲ得其ノ手續ハ留守宅渡俸給ノ例ニ依ル

### ●戰時ニ際シ陸軍准士官以上及軍屬乘組船舶破壞又ハ沈沒ノ爲メ被服裝具亡失ノトキ手當支給ノ件

（明治三十七年六月二十二日勅令第百七十五號）

朕戰時ニ際シ陸軍准士官以上及軍屬ニシテ乘組船舶ノ破壞又ハ沈沒ノ爲被服裝具ヲ亡失シタルトキ手當支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

戰時ニ際シ陸軍准士官以上及軍屬ニシテ乘組船舶ノ破壞又ハ沈沒ノ爲被服裝具ヲ亡失シタルトキハ金二百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

前項手當支給方ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ開戰ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

### ●豫備役後備役各兵科尉官及各部士官ニ服裝手當支給ノ件

（明治三十三年八月二十七日勅令第三百五十號）

（改正　明治三三年第三九五號、三四年第一二二號）

朕豫備役、後備役中少尉ニ服裝手當支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

豫備役、後備役各兵科尉官及各部士官ニシテ明治二十九年三月以前ニ任官シ服裝手當トシテ金五十四圓ヲ受ケタル者補缺ノ爲平時ノ職務ニ就キタルトキハ服裝手當トシテ一回限リ金二十六圓ヲ支給スルコトヲ得

### ●僻地在勤者手當支給細則

（大正十年三月三十日司法省令第九號）

僻地在勤者手當支給細則

第一條　大正九年勅令第四百五號ニ依リ手當ヲ給與スヘキ場所及其ノ給與額ハ別表ノ區別ニ依ル

北海道各地ニ在勤スル看守ニハ土地ノ狀況ニ依リ一月五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第二條　手當ハ任地ニ到著シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス但シ在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命セラレタル者ニ對シテハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

第三條　轉勤ヲ命セラレタル場合ニ於テハ手當ハ舊任地出發ノ前日迄之ヲ支給ス但シ命令到達ノ日ヨリ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス特別ノ命令ニ依リ又ハ已ムコトヲ得サル事故ノ爲出發スルコト能ハサル場合ニ於テハ前項但書ノ規定ニ拘ラス仍其ノ期間手當ノ支給ヲ繼續ス

第四條　退官、休職、退職又ハ死亡ノ場合ニ於テハ當月分ノ全額ヲ支給ス

事務引繼殘務調理ノ爲公務ニ從事スルトキハ其ノ事務終了ノ當日迄手當ノ支給ヲ繼續ス

第五條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユルトキ又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユルトキハ其ノ間手當額ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　歸省、轉地、療養其ノ他私事ノ爲在勤地ヲ離レタルトキハ其ノ間手當ノ支給ヲ停止ス

第七條　兼務者ニハ手當ヲ支給セス

第八條　手當ハ每月俸給支給ノ定日ニ之ヲ支給ス但シ新任、轉任、轉勤、退官、休職、退職又ハ死亡等ノ場合ニ於テハ支給ノ定日ニ拘ラス之ヲ支給ス

第九條　手當ノ額ニ異動ヲ生シタルトキハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

第十條　手當ノ日割計算方ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

附　則

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

（別表）

| 等級 | 場所 | 手當支給月額 |  |  |  |  |
|---|---|---|---|---|---|---|
|  |  | 奏任官五等以上 | 同六等以下 | 判任官（長タル者又ハ一等） | 同二等以下 | 看守雇 |
| 一等 | 東京府下小笠原島（父島母島）<br>沖繩縣下宮古島八重山島<br>北海道内千島群島 | 三十圓以内 | 二十五圓以内 | 二十圓以内 | 十五圓以内 | 十一圓以内 |
| 二等 | 東京府下八丈島<br>沖繩縣下久米島 |  |  | 十七圓以内 | 十三圓以内 | 九圓以内 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 三等 | 東京府下大島新島三宅島<br>鹿兒島縣下大島喜界島沖之永良部島徳之島與論島 | 二十二圓以內 | 十七圓以內 | 十四圓以內 | 十一圓以內 | 八圓以內 |

### ●官立醫科大學附屬專門部教官ニシテ官立醫科大學附屬醫院ノ醫員ヲ命セラレタル者ニ手當給與ノ件

（大正十一年三月三十一日　勅令第百四十六號）

朕官立醫科大學附屬專門部教官ニシテ官立醫科大學附屬醫院ノ醫員ヲ命セラレタル者ニ手當給與ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、文部大臣副署）

官立醫科大學附屬專門部教官ニシテ官立醫科大學附屬醫院ノ醫員ヲ命セラレタル者ニハ當該官立醫科大學病院費ヨリ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●氣象臺職員交通至難地在勤手當支給細則

（大正十年六月三十日　文部省令第三十一號）
（改正　大正一〇年第四八號、一一年第一八號）

氣象臺職員交通至難地在勤手當支給細則左ノ通定ム

氣象臺職員交通至難地在勤手當支給細則

第一條　氣象臺職員ニシテ交通至難ノ場所ニ在勤スル者ニハ大正九年勅令第四百五號ニ依リ別表ノ範圍內ニ於テ月手當ヲ支給ス

第二條　月手當ハ新ニ赴任ノ場合ハ著任ノ翌日ヨリ、在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命ノ場合ハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ、轉勤ノ場合ハ舊任地出發ノ前日迄其ノ月ノ現日數ニ依リ之ヲ計算支給ス但シ命令到達ノ日ヨリ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

特別ノ命令ニ依リ又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲出發スルコト能ハサル場合ニ於テハ前項但書ノ規定ニ拘ハラス仍其ノ期間內ニ限リ支給スルコトヲ得

第三條　退官、休職又ハ死亡ノトキハ當月分月手當ノ全額ヲ支給ス

事務引繼殘務調理ノ爲公務ニ從事スルトキハ其ノ事務終了ノ當日迄之ヲ支給ス

第四條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユルトキ又ハ私事故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルトキハ月手當ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ノ手當ハ此ノ限ニアラス

第五條　歸省轉地療養其ノ他私事ノ爲在勤地ヲ離レタル日數ハ月手當ヲ支給セス

第六條　兼務者ニハ月手當ヲ支給セス

第七條　月手當ハ毎月俸給支給定日ニ之ヲ支給ス但シ新任、轉任、轉勤、退官、休職又ハ死亡等ノ場合ニ於テハ支給定日ニ拘ラス之ヲ支給ス

第八條　月手當ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ月ノ現日數ニ依リ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

附　則

本令ハ大正十年六月分ヨリ之ヲ適用ス

明治四十年文部省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

| 地域區分 | 金額 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 奏任官 | | 判任官 | | 雇員 |
| | 五等以上 | 六等以下 | 長タル者及一等 | 其ノ他ノ者 | |
| 石垣島測候所<br>父島測候所 | | | 月額貳拾圓以內 | 月額拾五圓以內 | 月額拾壹圓以內 |
| 八丈島測候所 | | | 月額拾七圓以內 | 月額拾參圓以內 | 月額九圓以內 |
| 名瀬測候所 | | | 月額拾四圓以內 | 月額拾壹圓以內 | 月額八圓以內 |
| 室戸測候所<br>筑波山測候所<br>潮岬測候所<br>布良測候所<br>長津呂測候所<br>皆月測候所<br>足摺測候所<br>高層氣象臺<br>柿岡地磁氣觀測所 | 月額拾圓以內 | 月額八圓以內 | 月額六圓以內 | 月額五圓以內 | 月額四圓五拾錢以內 |

### ●在支那帝國領事館附氣象臺職員手當支給規程

（大正十一年七月十九日　文部省令第二十五號）
（改正　大正一二年第一七號）

在支那帝國領事館附氣象臺技手手當支給規程左ノ通定ム

在支那帝國領事館附氣象臺職員手當支給規程

第一條　在支那帝國領事館附氣象臺職員ニ支給スヘキ在勤手當及加給手當ハ別表ニ依ル

第二條　在勤手當ノ支給方法ニ關シテハ大正十年文部省令第三十一號氣象臺職員交通至難地在勤手當支給細則第二條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

第三條　加給手當ハ其ノ妻任地ニ赴クトキハ到著ノ翌日ヨリ、歸朝スルトキハ任地出發ノ前日迄之ヲ支給ス

豫メ認許ヲ得スシテ妻ヲ任地ニ在留セシムル者ニハ文部大臣ノ認許ヲ得タル日ノ翌日ヨリ加給手當ヲ支給ス

退官、休職又ハ死亡若ハ妻死亡ノトキハ其ノ當月分加給手當ノ全額ヲ支給ス

夫ノ死亡シタルトキ其ノ妻已ムヲ得サル事故ノ爲死亡當月內ニ舊任地ヲ出發スルコト能ハサルトキハ死亡ノ翌月以內ヲ限リ其ノ事故ノ存スル間仍加給手當ヲ支給ス

轉勤シタルトキ又ハ事務引繼殘務調理ノ爲公務ニ從事シタルトキ在勤手當ヲ支給スル間仍加給手當ヲ支給ス

第四條　在勤手當及加給手當ノ支給方法ニシテ本規程ニ定ムルモノノ外ハ俸給支給ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年文部省令第三十二號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

在勤手當加給手當給與年額表

| 任所 | 奏任官 | | 判任官 | | 雇員 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 在勤手當 | 加給手當 | 在勤手當 | 加給手當 | 在勤手當 | 加給手當 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 上海 | | | 一、八〇〇圓以內 | 四五〇圓以內 | | |
| 天津 | | | 一、八〇〇 | 四五〇 | | |
| 青島 | 二、五〇〇圓以內 | 六二五圓以內 | 一、八〇〇 | 四五〇 | 五〇〇圓以內 | 一二五圓以內 |
| 濟南 | | | 一、八〇〇 | 四五〇 | 五〇〇 | 一二五 |
| 漢口 | | | 一、八〇〇 | 四五〇 | | |
| 芝罘 | | | 一、六〇〇 | 四〇〇 | | |
| 杭州 | | | 一、六〇〇 | 四〇〇 | | |
| 沙市 | | | 一、六〇〇 | 四〇〇 | | |
| 南京 | | | 一、六〇〇 | 四〇〇 | | |

### ●支那駐在製鐵所官吏給與ニ關スル件

（大正十一年五月十八日　勅令第二百六十九號）

朕明治三十六年勅令第十九號支那駐在製鐵所官吏給與ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣、農商務大臣副署）

鐵鑛購入ノ爲支那ニ駐在ヲ命セラレタル製鐵所官吏ニハ駐在手當ヲ給シ【農商務大臣】ノ認許ヲ受ケ妻ヲ駐在地ニ在留セシムルトキハ加給手當ヲ給ス

前項駐在手當及加給手當ノ額ハ別表ニ依ル

附　則

本令ハ大正十年九月一日以後ノ給與ニ之ヲ適用ス

（別表）

| 官名 | 駐在手當年額 | 加給手當年額 |
|---|---|---|
| 勅任官 | 八千圓以內 | 千五百圓以內 |
| 奏任官（出張所長タルモノ） | 五千五百圓以內 | 千圓以內 |
| 奏任官 | 四千圓以內 | 七百圓以內 |
| 判任官 | 二千圓以內 | 四百圓以內 |

### ●支那駐在製鐵所官吏給與細則

（明治三十六年三月二日　農商務省令第二號）
（改正　明治四〇年第五號）

【清國】駐在製鐵所官吏給與細則左ノ通相定ム

【清國】駐在製鐵所官吏給與細則

第一條　駐在手當及加給手當ハ年額ヲ十二分シ月額ヲ以テ之ヲ給ス但シ一箇月ニ滿タサルトキハ其ノ月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ之ヲ給ス

駐在手當及加給手當ニ異動ヲ生スルトキハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

第二條　駐在手當及加給手當ハ駐在地到著ノ翌日ヨリ之ヲ給ス但シ駐在スヘキ地ニ在リテ新ニ任命セラレタル者ニ關シテハ發令ノ日、豫メ認可ヲ得スシテ妻ヲ駐在地ニ在留セシムル者ニ關シテハ【農商務大臣】ノ認可ヲ得タル日ヲ以テ到著ノ日ト看做ス

臨時歸朝中滯在三箇月ニ及ヒタルトキハ其ノ以後駐在手當及加給手當ヲ給セス

轉任轉勤ヲ命セラレタル者ニハ命令到達ノ日マテ駐在手當及加給手當ヲ給ス

第三條　廢官、退官、休職又ハ死亡ノトキハ其ノ當月分駐在手當及加給手當ノ全額ヲ給ス妻死亡シタルトキ加給手當ニ付亦同シ

廢官、退官又ハ休職ノトキ殘務調理ノ爲特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スル場合ニ於テ其ノ翌月以降ハ事務終了ノ日迄日割ヲ以テ駐在手當及加給手當ヲ給ス但シ妻死亡シタルトキ又ハ駐在地ヲ去リタルトキハ其ノ前日迄加給手當ヲ給ス

第四條　駐在手當及加給手當ハ文官俸給支給定日ニ之ヲ給ス但シ轉任、廢官、退官、休職又ハ死亡ノトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　妻ノ旅費トシテ給スヘキ額ハ外國旅費規則ニ依リ一等汽車賃、汽船賃トス但シ官用汽車、汽船ニ依リ妻ヲ旅行セシムルトキハ船車賃ヲ給セス

第六條　廢官、退官、休職又ハ死亡ノトキハ前條ニ準シ妻ノ旅費ヲ給ス但シ自己ノ便宜懲戒處分又ハ刑事裁判ニ由リ退官シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

駐在地ニ於テ又ハ本邦駐在地間往返中ニ於テ妻死亡シタルトキハ前條ノ船車料ニ一割ヲ増給ス

附　則

明治三十三年農商務省令第二十號ハ之ヲ廢止ス

### ●船舶內設置ノ郵便電信及電話官署在勤職員手當給與ノ件

（明治四十二年九月一日　勅令第二百十五號）
（改正　明治四三年第一五七號　大正二年第二二三號、一〇年第三六號）

朕船舶內ニ設置シタル通信官署ニ在勤スル職員ニ手當給與ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、遞信大臣副署）

船舶內ニ設置シタル郵便、電信及電話官署ニ在勤スル職員ニハ別表定ムル所ニ依リ月手當ヲ給與スルコトヲ得

前項ノ月手當ハ航海ノ場合ニ於テハ豫定日數以內、定繫港碇泊ノ場合ニ於テハ一月分以內ヲ限リ前金渡ヲ爲スコトヲ得

本邦外國間ヲ航行スル船舶內ニ設置シタル郵便、電信及電話官署ニ在勤スル職員ニハ月手當ノ外百八十圓以內ノ一時手當ヲ給與スルコトヲ得

月手當及一時手當ノ給與細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

| 官職名 | 金額 |
|---|---|
| 局長 | 六十圓以內 |
| 通信書記 | 五十三圓以內 |
| 通信技手 | 五十三圓以內 |
| 通信書記補 | 四十五圓以內 |
| 雇員 | 三十八圓以內 |

### ●在外國電信局職員手當給與規則

（明治三十四年三月三十一日　勅令第二十二號）
（改正　明治三六年第二六六號、三八年第二一八號、四三年第一五五號　大正一〇年第三二號、一一年第一二號、一二年第三號）

朕在外國郵便及電信局官吏手當給與規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（遞信大臣副署）

在外國電信局職員手當給與規則

第一條　在外國電信局職員手當ハ在勤手當及加給手當ノ二種トス

第二條　在勤手當ハ在外國電信局ニ在勤スル者ニ之ヲ給ス

加給手當ハ遞信大臣ノ認許ヲ得テ妻ヲ任地ニ在留セシムル者ニ之ヲ給ス

第三條　在勤手當及加給手當ノ額ハ別表ニ依ル

第四條　他ノ官廳ヨリ兼任ノ者ニハ加給手當ヲ給セス在勤手當ニ限リ其ノ三分ノ一以內ヲ給スルコトヲ得

第五條　雇員ノ在勤手當ハ本邦人ニ限リ之ヲ給ス

本令手當ノ給與ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附　則

明治二十四年勅令第六十七號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

| | 在勤手當年額 | 加給手當年額 |
|---|---|---|
| 奏任官 | 二千五百圓以内 | 六百二十五圓以内 |
| 通信書記通信技手　局長タル者 | 二千百圓以内 | 五百二十五圓以内 |
| 通信書記通信技手　其ノ他ノ者 | 千八百圓以内 | 四百五十圓以内 |
| 通信書記補 | 九百圓以内 | 二百二十五圓以内 |
| 雇員 | 五百圓以内 | |

## ●在外國電信局職員手當給與細則

（明治三十四年四月四日遞信省令第十九號）

改正　明治三五年第四五號、三九年第四〇號、第五四號、四一年第四號、四三年第一七號　大正二年第一〇五號、三年第三六號、七年第四八號、八年第八號、九年第六八號、一〇年第一七號、第四八號、一一年第一一號、一二年第一七號、一四年第七號

在外國電信局職員手當給與細則

第一條　在勤手當ハ別表ニ依リ任地到著ノ翌日ヨリ之ヲ給ス但シ在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命セラレタル者ハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ給ス

轉任轉勤又ハ歸朝ヲ命セラレタル者ニハ出發ノ前日マテ舊ニ依リ之ヲ給ス但シ命令到達ノ日ヨリ出發前日マテニ十五日ヲ超ユルトキハ十五日マテヲ限リ之ヲ給ス

特別ノ命令アルトキ又ハ止ムヲ得サル事故ノ爲遞信大臣ノ許可ヲ得テ滯留スル者ハ前項但シ書ノ制限ニ拘ラス其ノ命令ノ期間又ハ許可ヲ得タル期間仍之ヲ給ス

他ノ官廳ヘ轉任シタル者ニハ事務引繼濟ノ當日マテ之ヲ給ス

內地出張中內地ニ轉任又ハ轉勤ヲ命セラレタル者ニハ發令ノ當日マテ之ヲ給ス

賜暇歸朝ノ者ニハ任地出發ノ當日ヨリ任地歸著ノ當日マテ之ヲ給セス

臨時雇員ニハ在勤手當ヲ給セス

第二條　退官休職ヲ命セラレ又ハ死亡シタル者ノ在勤手當ハ其ノ當月分月割額ノ全額ヲ給ス

退官又ハ休職ヲ命セラレタル者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ承ケ翌月ニ涉リ公務ニ從事スルトキハ其ノ翌月以降ハ日割ヲ以テ事務引繼殘務調理濟ノ當日マテ之ヲ給ス

雇員退職及死亡ノ場合亦前二項ニ依ル

第三條　加給手當ハ在勤手當給與額ノ四分ノ一トシ其ノ妻任地ニ到著ノ翌日ヨリ之ヲ給ス

任地ニ於テ妻ヲ娶リタル者若ハ豫メ認許ヲ得スシテ妻ヲ任地ニ在留セシムル者ニハ遞信大臣ノ認許ヲ得タル日ノ翌日ヨリ之ヲ給ス

妻歸朝スルトキハ任地出發ノ前日マテ之ヲ給ス

夫ノ死亡シタルトキハ其ノ當月分月割額ノ全額ヲ給ス任地ニ於テ其ノ妻ノ死亡シタルトキ亦同シ

夫ノ死亡シタルトキ其ノ妻止ムヲ得サル事故ノ爲死亡當月內ニ舊任地ヲ出發スルコト能ハス特ニ遞信大臣ノ許可ヲ得テ滯留スルトキハ死亡ノ翌月ヨリ三十日以內ヲ限リ其ノ事故ノ存スル間仍之ヲ給ス

第一條第二項乃至第四項及第二條第二項ノ場合ニ於テハ在勤手當ヲ給スル間仍之ヲ給ス但シ在勤手當ヲ給スル間ニ於テ其ノ妻歸朝スルトキハ本條第三項ノ例ニ依ル

賜暇歸朝ノ場合ニ於テ其ノ妻任地ニ在留シ同伴セサルトキハ賜暇歸朝許可ノ日限內仍之ヲ給ス

第四條　局長心得又ハ局長代理ヲ命セラレタル者ニハ任命ノ命令到達ノ日ヨリ解職ノ命令到達ノ日マテ判任官ニ在リテハ判任局長ノ受クヘキ在勤手當ヲ給ス其ノ加給手當亦同シ

第五條　削除

第六條　本任地ト兼任地ト異ニスル場合ニ於テハ其ノ本任地ヲ以テ前各條ノ任地及在勤スヘキ地ト看做ス但シ他ノ官廳ヨリ兼任ノ者ニ給スル在勤手當ハ其ノ兼任地相當ノ給與額ニ依ル

第七條　兼任ノ者ニ給スル在勤手當及加給手當ハ重複ニ給セス其ノ給與額ノ高額ナル方ニ依リ之ヲ給ス

第八條　他ノ官廳ヨリ兼任ノ者ニ給スル在勤手當ハ總テ別表ニ定ムル給與額ノ十分ノ三トス

第九條　病氣又ハ私事ノ故障ニ由リ執務セサル場合ニ於ケル在勤手當及加給手當ノ給與方ハ高等官官等俸給令【第十八條】ノ例ニ準ス但雇員ニ在リテハ病氣ノ爲メ執務セサルコト六十日ヲ除エルモノ又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ除エルモノハ在勤手當ヲ給セス

前項ノ場合ニ於テ許可ヲ得テ歸朝スル者ニ對スル給與方ハ第一條第五項及第三條第七項ノ例ニ依ル

第十條　在勤手當及加給手當ハ年額ヲ十二分シ其ノ月割額ヲ以テ每月文官俸給支給定日ニ之ヲ給ス但シ月割額全額ヲ給與スヘカラサルモノニ對シテハ日割ヲ以テ計算ス

新任轉任轉勤歸朝退官休職又ハ死亡等ノ場合ニ於テハ前項支給期日ニ拘ラス之ヲ給ス

第十一條　在勤手當及加給手當ニ異動ヲ生スルトキハ本令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外命令到達ノ日ノ翌日ヨリ計算ス

第十二條　在勤手當及加給手當ノ日割計算方ハ其ノ月ノ現日數ニ依リ厘位未滿ハ切捨トス

附則

第十三條　本令ノ規定ハ明治三十四年四月分ヨリ之ヲ適用シ其以前ニ係ルモノハ從前ノ定額ニ依リ之ヲ給ス

（別表）

在勤手當給與年額表

| 任所 | 奏任官 | 通信書記、通信技手　局長 | 主幹 | 其他 | 通信書記補 | 雇員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 上海 | 二、三五〇 | 一、九五〇 | 一、六〇〇 | 一、二〇〇 | 八〇〇 | 四〇〇 |
| 芝罘 | 二、二〇〇 | 一、八〇〇 | — | 一、一五〇 | 七五〇 | 三八〇 |
| 青島 | 二、二八〇 | 一、八八〇 | — | 一、一八〇 | 七八〇 | 三九〇 |

（大正十三年十二月八日遞信省令第六十二號）

改正　大正一四年第八號

在外國電信局職員手當給與細則ニ依ル在勤手當ハ當分ノ內別表ニ依リ之ヲ支給ス

本令ハ大正十三年九月分ヨリ之ヲ適用ス

別表

在勤手當給與年額表

| 任所 | 奏任官 | 通信書記通信技手　局長 | 主幹 | 其ノ他 | 通信書記補 | 雇員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 上海 | 二、五〇〇圓 | 二、一〇〇圓 | 一、七五〇圓 | 一、三五〇圓 | 九〇〇圓 | 五〇〇圓 |
| 芝罘 | 二、三四〇 | 一、九四〇 | — | 一、二九〇 | 八五〇 | 四八〇 |
| 青島 | 二、四三〇 | 二、〇三〇 | — | 一、三三〇 | 八八〇 | 四九〇 |

## ●帝國領事館附遞信局職員ニ手當給與ノ件

（大正十年七月十二日勅令第三百二十號）

改正　大正一一年第一一號、一二年第二號

朕帝國領事館附遞信局職員ニ手當給與ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

大正六年勅令第百六十八號ニ依リ帝國領事館附ヲ命セラレタル遞信局職員ニハ在外國電信局職員手當給與規則ニ準シ手當ヲ給ス但シ判任官ニ給スル手當ノ額ハ通信書記又ハ通信技手ニシテ局長タラサル者ノ額ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年勅令第百二十六號ハ之ヲ廢止ス

## ●帝國領事館附遞信局職員手當給與額

（大正十年七月十四日遞信省令第三十四號）

改正　大正一一年第一〇號、一二年第一六號

帝國領事館附遞信局職員手當給與額左ノ通定ム

大正六年勅令第百六十八號ニ依リ帝國領事館附ヲ命セラレタル遞信局職員手當給與額ハ別表ニ依ル

前項手當給與ノ手續ニ關シテハ在外國電信局職員手當給與細則ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年遞信省令第二十九號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

| 任所 | 在勤手當年額　奏任官 | 在勤手當年額　判任官 | 加給手當年額　奏任官 | 加給手當年額　判任官 |
|---|---|---|---|---|
| 上海 | 二、三五〇圓<br>〇〇 | 一、二〇〇圓<br>〇〇 | 五八七圓<br>五〇 | 三〇〇圓<br>〇〇 |
| 香港 | 二、五〇〇<br>〇〇 | 一、二〇〇<br>〇〇 | 六二五<br>〇〇 | 三〇〇<br>〇〇 |
| 新嘉坡 | 二、五〇〇<br>〇〇 | 一、二〇〇<br>〇〇 | 六二五<br>.〇〇 | 三〇〇<br>〇〇 |

（大正十三年十二月十七日遞信省令第六十三號）

大正十年七月遞信省令第三十四號帝國領事館附遞信局職員手當給與額當分ノ內別表ニ依リ之ヲ支給ス

本令ハ大正十三年九月分ヨリ之ヲ適用ス

（別表）

| 任所 | 在勤手當年額　奏任官 | 在勤手當年額　判任官 | 加給手當年額　奏任官 | 加給手當年額　判任官 |
|---|---|---|---|---|
| 上海 | 二、五〇〇圓<br>〇〇 | 一、三五〇圓<br>〇〇 | 六二五圓<br>〇〇 | 三三七圓<br>五〇 |
| 香港 | 二、五〇〇<br>〇〇 | 一、三五〇<br>〇〇 | 六二五<br>〇〇 | 三三七<br>五〇 |
| 新嘉坡 | 二、五〇〇<br>〇〇 | 一、三五〇<br>〇〇 | 六二五<br>〇〇 | 三三七<br>五〇 |

## ●三等郵便局長、三等電信局長手當金支給方

（明治三十六年三月二十一日遞信省令第十四號）

改正　明治三六年第五七號　大正五年第一九號、八年第五四號、九年第一〇九號

三等郵便局長、三等電信局長手當金年額別表ノ通相定メ特ニ指定シタル三等郵便局長ハ甲號表其ノ他ノ三等郵便局長及三等電信局長ハ乙號表ニ依ル

勤勞顯著ナルモノハ別表ノ範圍ニ拘ラス漸次年額千圓迄ヲ特ニ支給スルコトアルヘシ

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

甲號表

| 等級 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|
| 年額 | 七百五十六圓 | 六百六十圓 | 六百圓 | 四百八十圓 |

乙號表

| 等級 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 年額 | 三百十二圓 | 二百四十圓 | 百九十二圓 | 百六十八圓 | 百四十四圓 | 百二十圓 |

## ●在外國航路標識在勤官吏手當給與ノ件

（明治三十九年一月四日勅令第一號）

朕在外國航路標識在勤官吏手當給與ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（遞信大臣副署）

在外國航路標識在勤官吏ニハ遞信大臣定ムル所ニ依リ年額百八十圓以內ノ手當ヲ給ス

## ●在外國航路標識在勤官吏手當給與細則

（明治三十九年一月四日遞信省令第一號）

明治三十九年一月勅令第一號在外國航路標識在勤官吏手當給與細則左ノ通相定ム

在外國航路標識在勤官吏手當給與細則

第一條　在勤手當ハ左表ニ依リ任地著翌日ヨリ之ヲ給ス但シ在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命セラレタル者ハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ給ス

轉任轉勤者ニハ出發ノ前日マテ之ヲ給ス但シ命令到達ノ日ヨリ出發前日マテニ十五日ヲ超ユルトキハ十五日マテヲ限リ之ヲ給ス

特別ノ命令アルトキ又ハ止ムヲ得サル事故ノ爲メ遞信大臣ノ許可ヲ得テ滯留スルモノハ前項但シ書ノ期限ニ拘ハラス其命令ノ期間又ハ許可ヲ得タル期間仍之ヲ給ス

任地ニ於テ他ノ官廳ニ轉任セシ者ニハ事務引繼濟ノ當日マテ之ヲ給ス

第二條　退官、休職ヲ命セラレ又ハ死亡シタル者ノ在勤手當ハ其當月分月割額ノ全額ヲ給ス

退官、休職ノ者事務引繼殘務調理ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ翌月ニ涉リ公務ニ從事スルトキハ其翌月以降ハ日割ヲ以テ其事務調理濟ノ當日マテ舊ニ依リ在勤手當ヲ給ス

第三條　許可ヲ得テ歸朝スル者ノ在勤手當ハ任地出發ノ當日ヨリ任地歸著ノ當日マテ之

ヲ給セス

第四條　病氣又ハ私事ノ故障ニ由リ執務セサル場合ニ於ケル在勤手當ハ高等官官等俸給令【第十八條】ノ例ニ準ス

第五條　在勤手當ハ年額ヲ十二分シ其月割額ヲ以テ毎月俸給支給定日ニ之ヲ給ス但シ月割額全額ヲ給スヘカラサル者ニ對シテハ日割ヲ以テ計算ス

新任、轉任、轉勤、歸朝、退官、休職又ハ死亡等ノ場合ニ於テハ前項支給期日ニ拘ハラス之ヲ給ス

第六條　在勤手當額ニ異動ヲ生スルトキハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ計算ス

第七條　在勤手當ノ日割計算方ハ其月ノ現日數ニ依リ錢位未滿ハ切捨トス

在勤手當給與年額表

| 官名 | 在勤手當年額 |
|---|---|
| 看守（首員又ハ首員心得） | 百八十圓 |
| 看守　補員以下 | 百五十圓 |

### ●戰時事變ニ際シ之ニ起因スル電線工事ノ從事者ニ手當給與ノ件（明治三十七年八月二十九日勅令第百九十六號）

朕戰時又ハ事變ニ際シ之ニ起因スル電線工事ニ從事スル者ニ手當給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（遞信大臣副署）

戰時又ハ事變ニ際シ之ニ起因スル電線工事ニ從事スル者ニハ別表ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ給スルコトヲ得

前項工事ノ種類ハ遞信大臣之ヲ指定ス

附　則

本令ハ明治三十七年度分ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

| 區分 | | 月額 |
|---|---|---|
| 奏任官 | | 金三十五圓 |
| 判任官 | | 金二十圓 |
| 雇員 | | 金十五圓 |
| 囑託員 | 月額百圓以上ニ當ル手當ヲ受クル者 | 金三十五圓 |
| | 其ノ他 | 金二十圓 |

### ●朝鮮、臺灣ニ於ケル官立、公立ノ學校、樺太廳中學校、同高等女學校又ハ南洋廳公學校ノ教員ニシテ舍監事務ニ從事スル者ノ手當給與ニ關スル件（大正十一年八月十七日勅令第三百七十九號）改正　大正一二年第四〇號、一三年第一九七號

朕樺太廳中學校教諭、樺太廳高等女學校教諭又ハ南洋廳公學校ノ訓導ニシテ舍監事務ニ從事スル者ノ手當給與ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

朝鮮若ハ臺灣ニ於ケル官立若ハ公立ノ學校、樺太廳中學校、樺太廳高等女學校又ハ南洋廳公學校ノ教員ニシテ舍監事務ニ從事スル者ニハ月額十五圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得朝鮮ノ公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導ニシテ一週三十二時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者亦同シ

前項手當ノ額及支給方法ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年勅令第二百九十五號ハ之ヲ廢止ス

### ●朝鮮總督府職員ノ交際手當ニ關スル件（明治四十三年九月三十日勅令第三百八十五號）改正　大正九年第二一三號

朕朝鮮總督府職員ノ交際手當ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督ニハ年額一萬五千圓、政務總監ニハ七千圓、道知事ニハ二千圓以內ノ交際手當ヲ給ス

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府及其ノ所屬官署職員ノ朝鮮語奬勵手當ニ關スル件（大正十年三月十日勅令第三十四號）

朕朝鮮總督府及其ノ所屬官署職員ノ朝鮮語奬勵手當ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ內地人タル判任官以下ノ職員ニシテ朝鮮語ニ通スル者ニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ當分ノ內月額五十圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第三百八十七號ハ之ヲ廢止ス

### ●朝鮮總督府郵便所長手當金年額（大正九年十月二十一日朝鮮總督府令第百五十三號）

明治四十五年朝鮮總督府令第八十九號左ノ通改正ス

朝鮮總督府郵便所長手當金年額左ノ如シ

| 級別 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 | 十二級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年額 | 千二百圓 | 九百六十圓 | 七百二十圓 | 六百圓 | 四百八十圓 | 三百六十圓 | 三百圓 | 二百四十圓 | 百九十二圓 | 百四十四圓 | 百二十圓 | 九十六圓 |

附　則

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

### ●檢疫委員及獸疫檢疫委員手當及旅費支給規程（大正十一年九月八日朝鮮總督府令第百三十一號）

檢疫委員及獸疫檢疫委員手當及旅費支給規程左ノ通定ム

檢疫委員及獸疫檢疫委員手當及旅費支給規程

第一條　傳染病豫防令第十四條ニ依リ命シタル檢疫委員ニシテ明治二十八年勅令第七十一號ニ該當セサル者及獸疫豫防令第十六條ニ依リ命シタル獸疫檢疫委員ニシテ官吏ニ非サル者ニハ本令ニ依リ手當及旅費ヲ支給ス

第二條　檢疫委員ニハ月額六百圓以內又ハ日額二十圓以內ノ手當ヲ支給ス

獸疫檢疫委員タル者ニハ月額三百圓以內又ハ日額十圓以內ノ手當ヲ支給ス

特別ノ事由アルトキハ道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ前項ノ手當額ヲ增加スルコトヲ得

第三條　月額手當ハ其ノ月末日之ヲ支給ス但シ其ノ當日カ休日ニ該當スルトキハ之ヲ繰上ク

第四條　新ニ月額手當ヲ受クル檢疫委員又ハ獸疫檢疫委員ニ任セラレタルトキハ發令ノ翌日ヨリ、解職セラレタルトキハ解職當日迄日割計算ヲ以テ當月分ノ手當ヲ支給シ死亡シタルトキハ當月分全額ヲ支給ス

前項ノ手當ハ解職又ハ死亡ノトキハ其ノ際之ヲ支給ス

第五條　月額手當ヲ受クル檢疫委員又ハ獸疫檢疫委員病氣ノ爲引續キ執務セサルコト十日ヲ超エ若ハ私事ノ故障ニ因リ引續キ執務セサルコト五日ヲ超エタルトキハ日割計算ヲ以テ其ノ超過日數ニ對スル手當ノ半額ヲ減ス但シ職務ニ起因スル傷痍疾病ナルトキ、傳染病ノ爲施行スル交通遮斷若ハ隔離ニ因ルトキ又ハ水災火災其ノ他非常罹災ニ因ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　日額手當ハ勤務日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ前條但書ノ場合又ハ休日若ハ服忌ノ日ハ勤務セサルトキト雖之ヲ支給ス

第七條　檢疫委員又ハ獸疫檢疫委員檢疫事務ノ爲出張スルトキハ府郡島在勤ノ囑託員ニ準シ朝鮮總督府旅費規則及朝鮮總督府減額旅費規程ニ依リ旅費ヲ支給ス

第八條　道知事必要アリト認メタルトキハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ一部若ハ全部ヲ支給セサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨朝鮮總督ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

檢疫委員手當及旅費支給規程及獸疫檢疫委員手當及旅費支給規程ハ之ヲ廢止ス

### ●官公立學校ノ教諭ニシテ舍監事務ニ從事スル者及公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導ニシテ一週三十二時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニ給スヘキ手當ノ額及支給方法ニ關スル件（大正十三年十一月十九日朝鮮總督府令第六十八號）

官公立學校ノ教諭ニシテ舍監事務ニ從事スル者及公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導ニシテ一週三十二時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニ給スヘキ手當ノ額及支給方法ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　官公立學校ノ教諭ニシテ舍監事務ニ從事スル者ニ給スヘキ手當ハ高等官ニ在リテハ月額十圓、判任官ニ在リテハ月額七圓トス

第二條　公立ノ小學校又ハ普通學校ノ訓導ニシテ一週三十二時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニ給スヘキ手當ノ額ハ左ノ區分ニ依ル

| | | |
|---|---|---|
| 一 | 一週三十六時ヲ超エサル者 | 月額　五圓 |
| 二 | 一週三十六時ヲ超エ四十時ヲ超エサル者 | 月額　十圓 |
| 三 | 一週四十時ヲ超ユル者 | 月額　十五圓 |

第三條　特別ノ事情アルトキハ官立學校ニ在リテハ朝鮮總督、公立學校ニ在リテハ道知事前二條ノ額ニ依ラス手當ヲ支給スルコトヲ得但シ月額二十五圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　手當ノ支給方法ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●臺灣總督府部內ノ判任文官通譯兼掌者特別手當支給ノ件（明治三十一年四月六日勅令第六十八號）改正　明治三四年第一一〇號　大正一〇年第三二六號

朕臺灣總督府判任文官及巡查看守ニシテ土語通譯ノ事ヲ兼掌スル者ニ特別手當支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

臺灣總督府部內ノ判任文官ニシテ通譯ノ事ヲ兼掌スル者ニハ一箇月三十圓以內ノ特別手當ヲ支給スルコトヲ得其ノ銓衡及手當支給ノ方法ハ臺灣總督之ヲ定ム

### ●臺灣總督府部內ノ職員ニシテ航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル者ニ航空手當ヲ給スルノ件（大正十二年二月二十三日勅令第三十八號）

朕臺灣總督府部內ノ職員ニシテ航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル者ニ航空手當ヲ給スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

臺灣總督府部內ノ職員ニシテ航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル者ニハ別表ノ航空手當ヲ給ス其ノ給與細則ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年勅令第三百五十三號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

| 階級 | 月額 |
|---|---|
| 奏任文官、同待遇者及月手當又ハ月俸二百圓以上ノ囑託員 | 四十圓以內 |
| 判任文官、同待遇者竝月手當又ハ月俸二百圓未滿ノ囑託員及雇員 | 二十五圓以內 |
| 巡查、警手竝月手當又ハ月俸八十圓未滿ノ囑託員及雇員 | 十五圓以內 |
| 傭員 | 八圓以內 |
| 備考 | 搜索若ハ討伐ノ爲航空機ニ搭乘シ又ハ特ニ危險ト認ムル航空勤務ニ從事スル者ニハ本表定額ノ十割以內ヲ、教導ノ職ニ在ル者ニハ同五割以內ヲ增給スルコトヲ得<br>試驗又ハ研究等ノ爲臨時搭乘ヲ命セラレタル者ニハ月額ヲ超過セサル範圍內ニ於テ日額手當ヲ支給スルコトヲ得 |

### ●臺灣總督府警察官及司獄官練習生手當及旅費支給ノ件（明治三十一年六月二十日勅令第百十八號）改正　明治三四年第一二七號

朕臺灣總督府警察官及司獄官練習生ニ手當金及旅費支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ニハ手當金及旅費ヲ支給スルコトヲ得其ノ支給規則ハ臺灣總督之ヲ定ム

### ●交通至難ノ島嶼其ノ他ノ場所ニ在勤スル臺灣總督府交通局電信局、燈臺職員手當給與細則（大正十年五月十五日臺灣總督府令第九十七號）改正　昭和二年第一三號

交通至難ノ島嶼其ノ他ノ場所ニ在勤スル臺灣總督府燈臺職員手當金給與細則左ノ通相定ム

交通至難ノ島嶼其ノ他ノ場所ニ在勤スル臺灣總督府交通局電信局、燈臺職員手當給與細則

第一條　交通至難ノ島嶼其ノ他ノ場所ニ在勤スル臺灣總督府交通局電信局、燈臺職員ニハ別表ノ月手當ヲ支給ス

第二條　月手當ハ新任、採用又ハ轉勤ノトキハ左記各號ニ依リ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

一　月手當ハ在勤地到着ノ翌日ヨリ計算ス但シ在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命セラレタルトキハ命令到達ノ翌日ヨリ計算ス

二　轉勤ノトキハ舊任地出發ノ前日迄但シ命令到達ノ日ヨリ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

三　特別ノ命令ニ依リ又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲出發スルコト能ハサル場合ニ於テハ前號但書ノ規定ニ拘ラス仍其ノ期間內ニ限リ支給スルコトヲ得

四　事務引繼又ハ殘務整理ノ爲公務ニ從事スルトキハ其ノ事務終了ノ當日迄

第三條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユルトキ又ハ私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ超ユルトキハ月手當ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　月手當ハ歸省、轉地療養其ノ他私事ノ爲在勤地ヲ離レタル日數ニ對シテハ之ヲ支給セス

第五條　在勤中退官、退職、休職又ハ死亡シタル者ニハ當月分月手當ノ全額ヲ支給ス

第六條　兼務者ニ對シテハ月手當ヲ支給セス

第七條　月手當額ニ異動ヲ生シタルトキハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

第八條　月手當ハ毎月俸給支給定日ニ之ヲ支給ス但シ轉勤、退官、退職、休職又ハ死亡ノトキハ其ノ際之ヲ支給ス

第九條　月手當ノ日割計算ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

附　則

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

明治四十二年府令第八十五號交通至難ノ場所ニ在勤スル燈臺看守手當給與方及明治四十二年告示第百五十七號手當ヲ給與スヘキ燈臺及給與額ハ本令適用ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別表）

一 臺灣總督府交通局電信局職員月手當額

| 局名 | 月手當額 書記、技手 | 月手當額 交通主事 | 月手當額 雇員 |
|---|---|---|---|
| 鵞鑾鼻無線電信局 | 十圓 | 八圓 | 六圓 |

二 臺灣總督府交通局燈臺職員月手當

| 燈臺名 | 月手當額 看守 | 月手當額 雇員 |
|---|---|---|
| 彭佳嶼、北島 | 十五圓 | 九圓 |
| 鼻頭角、鵞鑾鼻、漁翁島 | 八圓 | 五圓 |
| 白沙岬、富貴角 | 五圓 | 三圓 |

## ●州市街庄名譽職員費用辨償支給規程

（大正九年十月一日臺灣總督府令第百四十二號）
改正 大正一〇年第六三號、一一年第一六號、一四年第七五號、第八一號、一五年第八三號

州市街庄名譽職員費用辨償支給規程左ノ通相定ム

第一條　州市街庄ニ於ケル名譽職員ニ對シ費用辨償トシテ別表ノ手當ヲ支給ス但シ街庄長及助役ニ限リ特別ノ事情アルトキハ其ノ制限額ヲ超ヘ各其ノ百分ノ七十以內ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

官公吏ノ職ニ在ル協議會員及委員ニハ前項ノ手當ヲ支給セス

第二條　州市ニ於ケル名譽職員其ノ職務ノ爲旅行ヲ爲シタルトキハ費用辨償トシテ地方職員旅費支給規程ニ依リ街庄ニ於ケル名譽職員其ノ職務ノ爲旅行ヲ爲シタルトキハ費用辨償トシテ街庄職員旅費支給規程ニ依リ旅費ヲ支給ス

前項地方職員旅費支給規程及街庄職員旅費支給規程ノ適用ニ付テハ奏任官ノ待遇ヲ受クル街長及州、市協議會員ハ各其ノ規程別表一等乙ニ、判任官ノ待遇ヲ受クル街庄長及州、市委員ハ二等甲ニ、助役、街庄委員及街庄協議會員ハ二等乙ニ依リ支給ス但シ第一條ノ手當ヲ受クル協議會員ニシテ會議所所在地ニ滯在中ハ日當ヲ給セス

第三條　費用辨償支給ニ關スル細則ハ州知事又ハ廳長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

| 職名 | 手當額 |
|---|---|
| 奏任官ノ待遇ヲ受クル街長 | 年手當千二百圓以內 |
| 判任官ノ待遇ヲ受クル街庄長 | 月手當五十圓以內 |
| 助役 | 月手當三十圓以內 |
| 州市委員 | 月手當二十圓以內 |
| 街庄委員 | 月手當十圓以內 |
| 州市協議會員 | 一日ニ付五圓以內 |
| 街庄協議會員 | 一日ニ付二圓以內 |

## ●船舶內設置ノ無線電信局在勤關東廳遞信官署職員ニ手當給與ノ件

（明治四十五年四月一日勅令第七十五號）

朕船舶內ニ設置シタル無線電信局ニ在勤スル關東都督府通信官署職員ニ手當給與ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

船舶內ニ設置シタル無線電信局ニ在勤スル【關東都督府通信官署】職員ニハ別表定ムル所ニ依リ月手當ヲ給與スルコトヲ得其ノ給與細則ハ【關東都督】之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

| 官職名 | 金額 |
|---|---|
| 【通信書記】<br>【通信技手】 | 三十圓以內 |
| 【通信書記補】 | 二十五圓以內 |
| 雇員 | 二十圓以內 |

## ●關東廳郵便所長手當金年額

（明治四十三年四月三十日關東都督府令第十五號）
改正 大正九年廳令第七一號

關東廳郵便所長手當金年額左ノ通定ム

| 等級 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 | 七級 | 八級 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年額 | 千二百圓 | 九百六十圓 | 八百四十圓 | 七百二十圓 | 六百圓 | 四百八十圓 | 三百六十圓 | 二百四十圓 |

## ●樺太廳巡査ノ在勤手當、給與品及貸與品ニ關スル件

（明治四十年四月十八日勅令第百二十四號）
改正 大正九年第四三五號

朕樺太廳巡査ノ在勤手當、給與品及貸與品ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

第一條　樺太廳巡査ニハ月俸ト同額以內ノ月額ノ在勤手當ヲ支給ス但シ月俸六十圓未滿ノ者ニハ月額六十圓迄ヲ支給スルコトヲ得

第二條　樺太廳巡査ノ給與品及貸與品ニ關シ特別ノ規定ヲ設クル必要アルトキハ內閣總理大臣ノ認可ヲ得テ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ明治四十年四月分ヨリ之ヲ適用ス

## ●樺太廳特定郵便局長年手當金額

（大正九年十月三十一日樺太廳令第四十二號）

樺太廳特定郵便局長年手當金額別表ノ通定ム

附　則

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス
明治四十二年五月廳令第十一號ハ之ヲ廢止ス
本令施行ノ際現ニ左表上欄ノ手當ヲ受クル者別ニ辭令書ヲ交附セラレサルトキハ各其ノ相當下欄ノ手當ヲ受クルモノトス

| 現行手當 | 改正手當 |
|---|---|
| 甲號表 一級 | 年額八百七十圓 |
| 同上 二級 | 同上七百五十圓 |
| 同上 三級 | 同上六百六十圓 |
| 同上 四級 | 五級 |
| 同上 五級 | 六級 |
| 乙號表 一級 | 八級 |
| 同上 二級 | 十級 |

| | |
|---|---|
| 同上 三級 | 年額百九十二圓 |
| 同上 四級 | 同上百四十四圓 |
| 同上 五級 | 同上九十六圓 |
| 同上 六級 | 同上四十八圓 |

（別表）

| 等級 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 | 五級 | 六級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 年額 | 千二百圓 | 千二十圓 | 八百四十圓 | 七百二十圓 | 六百圓 | 四百八十圓 |
| | 七級 | 八級 | 九級 | 十級 | 十一級 | 十二級 |
| | 四百二十圓 | 三百六十圓 | 三百圓 | 二百四十圓 | 百八十圓 | 百二十圓 |

## ●所得調査委員手當及旅費支給規程

（大正十一年四月二十五日樺太廳令第四十三號）

所得調査委員ニ給與スヘキ手當及旅費支給規程左ノ通定ム

第一條　所得調査委員其ノ職務ニ從事シタルトキハ一會期ニ左ノ區別ニ依リ手當ヲ支給ス

| | |
|---|---|
| 納稅者ノ數五千人以上ナルトキ | 七十圓 |
| 同　三千人以上ナルトキ | 六十圓 |
| 同　千人以上ナルトキ | 五十圓 |
| 同　五百人以上ナルトキ | 四十五圓 |
| 同　五百人未滿ナルトキ | 四十圓 |

納稅者ノ數ハ調査委員會ニ諮問シタル納稅者ノ數ニ依ル

第二條　調査委員會開會中調査委員ニ闕員ヲ生シ補闕ヲ爲シタル場合ハ前條ノ金額ヲ會期中ニ於テ前委員及補闕員カ其ノ資格ヲ有セシ日數ニ案分シテ其ノ手當金額ヲ定ム

第三條　調査委員開會ノ通知ニ應シ出席シタルトキ及閉會ニ依リ歸鄕シタルトキハ現住地ト委員會場所在地トノ路程ニ從ヒ左ノ旅費ヲ支給ス但シ所得調査ノ爲旅行シタルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ノミヲ支給ス

| | |
|---|---|
| 一 鐵道賃 | 實費 |
| 一 船賃 | 同 |
| 一 車馬賃 | 一里ニ付七十五錢 |
| 一 宿泊料 | 一夜ニ付五圓五十錢 |
| 一 日當 | 一日ニ付三圓 |
| 一 食卓料 | 一夜ニ付二圓 |

第四條　前條旅費支給ノ方法ニ關シテハ樺太廳職員內國旅費規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●南洋廳所屬船舶乘組員ノ手當給與ニ關スル件

（大正十一年三月三十一日勅令第百二十六號）

朕南洋廳所屬船舶乘組員ノ手當給與ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

南洋廳所屬船舶乘組員ニハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ航海中日額一圓以內ノ手當ヲ給ス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●貴族院及衆議院ノ議事速記ニ從事スル職員ニ特別手當ヲ給スルコトヲ得ルノ件

（大正十二年三月二十八日勅令第六十一號）

朕貴族院及衆議院ノ議事速記ニ從事スル職員ニ特別手當ヲ給スルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

貴族院及衆議院ノ議事速記ニ從事スル職員ニハ各貴族院書記官長及衆議院書記官長ノ定ムル所ニ依リ特別手當ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年十二月分ヨリ之ヲ適用ス

## ●島嶼其他在勤者手當支給細則

（大正十年三月二十九日內務省令第十號）
改正 大正一〇年第三〇號

島嶼其他在勤者手當支給細則左ノ通定ム

島嶼其他在勤者手當支給細則

第一條　大正九年勅令第四百五號ニ依リ交通至難ノ島嶼ニ在勤スル地方官廳ノ職員ニハ別表ニ依ル月手當ヲ給ス但シ別表中四等地ニ在勤スル者ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

第二條　千島諸島根室諸島禮文島利尻島及奧尻島以外ニ在勤スル北海道廳警部補及巡査ニハ土地ノ狀況ニ依リ警部補ニハ八圓以內巡査ニハ六圓以內ノ月手當ヲ給スルコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ月手當ヲ受クル者ヲ除クノ外警視廳府縣警部補及巡査ニシテ僻陬地ニ在勤スル者ニハ別表四等地ニ依ル區分ニ從ヒ月手當ヲ給スルコトヲ得

前項ニ依ル土地ノ指定ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ警視總監又ハ府縣知事之ヲ定ム

第三條　月手當ハ在勤スヘキ地ニ於テ新ニ任命セラレタル場合ハ命令到達ノ翌日ヨリ其ノ他ノ場合ニ於テハ任地ヘ到著ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

轉勤ヲ命セラレタル者ノ月手當ハ舊任地出發ノ前日迄支給スルコトヲ得但シ命令到達ノ日ヨリ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

特別ノ命令ニ依リ又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲出發スルコト能ハサル場合ニ於テハ前項但書ノ規定ニ拘ラス其ノ期間內ニ限リ支給スルコトヲ得

第四條　廢官退官退職休職又ハ死亡ノトキハ當月分手當ノ全額ヲ支給ス事務引繼殘務調理ノ爲公務ニ從事スルトキハ其ノ事務終了ノ當日迄倘之ヲ支給ス

第五條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユルトキ又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ超ユルトキハ月手當ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ依リ賜暇休養スル者ノ手當ハ此ノ限リニ在ラス

第六條　兼務者ニハ月手當ヲ支給セス歸省轉地療養其ノ他私事ノ爲在勤地ヲ離レタル日數ハ月手當ヲ支給セス

第七條　月手當ハ每月俸給支給定日ニ之ヲ支給ス但シ新任轉任轉勤廢官退官退職休職又ハ死亡ノ場合ニ於テハ支給定日ニ拘ラス之ヲ支給ス

第八條　月手當ニ異動ヲ生シタルトキハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

月手當ノ日割計算方ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第九條　本令ニ定ムルモノノ外月手當ニ關シテハ各俸給支給ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年七月三十一日以前從前ノ規定ニ依リ月手當ヲ給スル場所ニシテ本令ニ規定アル場所ニ在勤スル者ニ付テハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

（別表）

| 等級 | 場所 | 奏任官 五等以上 | 奏任官 六等以下 | 判任官 長タル者又ハ一等 | 判任官 二等以下 | 巡査 雇員 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 一等地 | 北海道千島諸島根室諸島禮文島利尻島<br>東京府下小笠原群島以南ノ諸島<br>沖繩縣下宮古列島八重山列島 | 三十圓以內 | 二十五圓以內 | 二十圓以內 | 十五圓以內 | 十一圓以內 |
| 二等地 | 北海道奧尻島<br>東京府下八丈島以南ノ諸島<br>沖繩縣下久米島慶良間島粟國島渡名喜島伊平屋島南大東島北大東島沖大東島 | 二十五圓以內 | 二十圓以內 | 十七圓以內 | 十三圓以內 | 九圓以內 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 三等地 | 東京府下大島新島神津島利島御藏島式根島三宅島<br>沖縄縣下伊江島<br>鹿兒島縣下大島喜界島沖之永良部島德之島與論島 | 二十二圓以內 | 十七圓以內 | 十四圓以內 | 十一圓以內 | 八圓以內 |
| 四等地 | 甲（最モ交通不便ナル地） | 十四圓以內 | 十二圓以內 | 十圓以內 | 八圓以內 | 六圓以內 |
| | 乙（甲ニ亞キ交通不便ナル地） | 十圓以內 | 八圓以內 | 六圓以內 | 五圓以內 | 四圓五十錢以內 |

### ●傳染病豫防救治ニ從事スル官吏准官吏及傭員月手當支給ノ件

（明治二十八年六月七日勅令第七十一號）改正　明治三三年第一四〇號

朕傳染病豫防救治ニ從事スル官吏准官吏及傭員ニ手當支給ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

傳染病豫防救治ニ從事スル官吏准官吏及傭員ニシテ專ラ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニハ各其ノ俸給又ハ給料月額三分一以內ノ月手當ヲ給スルコトヲ得

但府縣ノ收入ヨリ俸給又ハ給料ヲ受クル官吏准官吏及傭員ニシテ本官職ノ資格ヲ以テ從事スル者ニ給スル手當竝ニ傳染病豫防法第十八條ニ依リ檢疫委員ト爲ル者ニ給スル手當ハ府縣ノ負擔トス

## 第二款　諸給

### ●宿直又ハ徹夜勤務者食料給與及特別用文具使用ノ件

（明治二十四年三月三十日勅令第二十七號）

朕明治六年大藏省達第百六十一號及明治二十二年閣令第四號廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏大臣副署）

明治六年大藏省達第百六十一號及明治二十二年閣令第四號ハ本年三月三十一日限リ廢止ス

但宿直又ハ徹夜勤務使役ノ者ニハ適宜食料（現品又ハ代料）ヲ給與シ又特別用ノ文具ハ官廳ニ備ヘテ使用セシムルコトヲ得

### ●俘虜及拿捕船舶ノ乘員竝之ニ準スヘキ者ノ給與ニ關スル件

（明治三十七年二月二十九日勅令第五十號）

朕俘虜及拿捕シタル船舶ノ乘員竝之ニ準スヘキ者ノ給與ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（海軍、陸軍大臣副署）

帝國權內ニ在ル俘虜及拿捕シタル船舶ノ乘員竝之ニ準スヘキ者ニハ必要ニ應シ糧食被服消耗品等ヲ現品又ハ代金ヲ以テ給與ス

前項ニ依リ給與スルモノノ品種及數量ハ陸軍大臣海軍大臣之ヲ定ム

### ●戰役中陸軍部隊ノ賄料增加ノ件

（大正七年八月九日勅令第三百十二號）

朕戰役中陸軍部隊ノ賄料增加ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍給與令ニ依ル賄料ノ額ハ戰役中陸軍大臣ノ指定シタル部隊ニ限リ日額六錢以內ヲ增加スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル賄料ノ增加額ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●陸軍監獄看守宿料給與ノ件

（明治三十一年六月二十八日勅令第百三十號）改正　大正九年第一六七號

朕陸軍監獄看守宿料給與ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

陸軍監獄看守ニハ土地ノ狀況ニ依リ一箇月十圓以下ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十一年七月一日ヨリ施行ス

### ●戰役中諸學校校馬馬糧增加ノ件

（明治三十八年三月十日勅令第四十七號）

朕戰役中諸學校校馬馬糧增加ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（陸軍大臣副署）

陸軍給與令ニ定ムル諸學校校馬（第一種馬ヲ除ク）ノ馬糧定量ハ戰役中必要ニ應シ大麥六合以內ヲ增加スルコトヲ得

前項增加馬糧ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

### ●看守給與品及貸與品規則

（明治三十一年十一月三十日勅令第三百三十二號）改正　明治三六年第九七號、四二年第一七二號

朕看守給與品及貸與品規則ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

看守給與品及貸與品規則

第一條　看守ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

一冬服
一夏服
一甲種外套雨覆付
一乙種外套（肩掛）
一帽
一日覆
一長靴
一短靴
一下襟（白）
一手套（白）
一靴下
一襦袢袴下

前項ノ外土地ノ狀況ニ依リ司法大臣ハ防寒具、脚絆又ハ「ゲートル」ヲ給與スルコトヲ得

第二條　看守ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

一刀
一刀緒
一刀帶
一帽章
一肩章
一外套締革
一手帖
一捕繩
一呼子笛
一釦及櫻花章

前項ノ外必要アル場合ニハ拍車又ハ短袴ヲ貸與ス

第三條　給與品ハ現品ヲ以テ給ス其ノ供用期限ハ左ノ如ク之ヲ定ム但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ【內務大臣】ノ認可ヲ經テ本條ノ供用期限ヲ變更スルコトヲ得

| | | |
|---|---|---|
| 一冬服 | 二組 | 三年 |
| 但シ初年一組ヲ給シ滿一年ヲ經テ尚一組ヲ給ス | | |
| 一夏服 | 二組 | 八箇月 |
| 但シ本令施行ノ際給與スル者竝新任ノ者ニハ二組ヲ給シ次年以降ハ毎年一組ヲ給ス | | |
| 一甲種外套雨覆付 | 一箇 | 二年 |
| 一乙種外套 | 一箇（肩掛） | 二年 |
| 一帽 | 一箇 | 一年 |
| 一日覆 | 一箇 | 四箇月 |
| 一長靴 | 一組 | 一年 |
| 一短靴 | 二組 | 一年 |
| 一下襟 | 二箇 | 二箇月 |
| 一手套 | 二組 | 六箇月 |
| 一靴下 | 二組 | 一箇月 |
| 一冬襦袢袴下 | 二組 | 八箇月 |
| 一夏襦袢袴下 | 二組 | 四箇月 |

第四條　長靴、短靴、下襟、手套、靴下、襦袢、袴下ニ限リ代料ヲ以テ給與スルコトヲ得

第五條　免職、休職、轉職若ハ死亡ノ際ハ其ノ貸與品ハ速ニ之ヲ還納セシムヘシ供用期限內ニ在ル給與品亦同シ但シ給與品中代料ヲ以テ給與シタルモノハ供用殘期ニ相當スル金額ヲ返納セシムヘシ

第六條　貸與品又ハ供用期限內ノ給與品ヲ毀損紛失シタル者アルトキハ代品ヲ給與又ハ貸與ス但シ其ノ毀損紛失過失怠慢ニ出テタルモノナルトキハ其ノ代料辨償ノ責ニ任セシムヘシ

第七條　給與品ノ修補ハ總テ自辨トス

附　則

第八條　本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但シ本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ニハ之ヲ適用セス

---

### ●製鐵所所屬農林省所屬竝水產講習所所屬船舶乘組員ニ食卓料及航海日當支給ノ件

（明治四十四年四月十二日勅令第百十號）改正　大正二年第六三號、一二年第二九八號

朕製鐵所所屬船舶乘組員ニ食卓料及航海日當ヲ支給スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

第一條　材料及製品ヲ運搬スル製鐵所所屬船舶ノ乘組員、漁業ノ取締及調查ヲ行フ【農商務省】所屬船舶ノ乘組員竝水產講習所所屬船舶ノ乘組員ニハ別表ニ依リ食卓料及航海日當ヲ支給ス

第二條　削除

第三條　【農商務大臣】ニ於テ必要ト認ムルトキハ一等運轉士、一等機關士、事務員、無線電信通信從事者及醫員ニ船長、機關長ト同一ノ食卓料及航海日當ヲ支給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

| 職員 | 食卓料一日ニ付<br>內國、滿洲航海及碇繫港碇泊中 | 食卓料一日ニ付<br>外國航海（滿洲ヲ除ク） | 外國航海日當（滿洲ヲ除ク） |
|---|---|---|---|
| 船長<br>機關長 | 七十五錢以內 | 一圓二十錢以內 | 三圓五十錢以內 |
| 一等運轉士以下、一等機關士以下、事務員、無線電信通信從事者、醫員、水產講習所判任教官 | 五十錢以內 | 九十錢以內 | 二圓以內 |
| 水夫、火夫以下 | 二十六錢以內 | 三十錢以內 | 五十錢以內 |

### ●【農商務省】、製鐵所又ハ水產講習所所屬船舶ノ乘組員ニ食卓料及航海日當臨時增給ノ件

（大正七年八月三十一日勅令第三百三十三號）改正　大正九年第一七號

朕農商務省、製鐵所又ハ水產講習所所屬船舶ノ乘組員ニ食卓料及航海日當臨時增給ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、農商務大臣副署）

【農商務省】、製鐵所又ハ水產講習所所屬船舶ノ乘組員ニ對シ當分ノ內所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ食卓料及航海日當定額ノ二十割以內ヲ增給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ大正七年七月十六日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

### ●航路標識視察船及海底電線布設船乘組員食卓料及航海日當支給ノ件

（明治三十六年一月八日勅令第[illegible]號）改正　[illegible]

朕航路標識視察船及海底電線布設船乘組員食卓料及航海日當支給ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（遞信大臣副署）

第一條　航路標識視察船及海底電線布設船乘組員ニハ別表ニ依リ食卓料及航海日當ヲ支給ス

第二條　遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ一等運轉士一等機關士事務員及醫員ニ船長機關長ト同一ノ食卓料及航海日當ヲ支給スルコトヲ得

附　則

第三條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス明治二十九年勅令第二百六十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

| 職名 | 食卓料<br>定繫港碇泊中一日ニ付 | 食卓料<br>內國航海一日ニ付 | 食卓料<br>外國航海一日ニ付 | 外國航海日當 |
|---|---|---|---|---|
| 船長<br>機關長 | 六十錢以內 | 七十五錢以內 | 一圓二十錢以內 | 三圓五十錢以內 |
| 一等運轉士以下<br>一等機關士以下<br>事務員<br>醫員 | 四十錢以內 | 五十錢以內 | 九十錢以內 | 二圓以內 |
| 水夫<br>火夫<br>以下 | 二十四錢以內 | 二十六錢以內 | 三十錢以內 | 五十錢以內 |

### ●航路標識視察船及海底電線布設船乘組員ニ食卓料及航海日當臨時增給ノ件

（大正七年八月二十九日勅令第三百三十二號）改正　大正九年第一八號、一四年第二八號

朕航路標識視察船、商船學校所屬航海練習船及海底電線布設船乘組員ニ食卓料及航海日當臨時增給ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

航路標識視察船、商船學校所屬航海練習船及海底電線布設船乘組員ニ對シ當分ノ內所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ食卓料及航海日當定額ノ二十割以內ヲ增給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ大正七年七月十六日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

### ●官設鐵道職員ニ宿舍料支給ノ件

（明治二十九年十二月二十六日勅令第[illegible]號）

朕官設鐵道職員ニ宿舍料支給スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大藏、遞信大臣副署）

官設鐵道ノ運輸又ハ保線ノ業務ニ從事スル職員ニシテ官舍ニ居住セシムヘキ者ニ相當ノ官舍無キ場合ニ限リ宿舍料ヲ支給スルコトヲ得

前項宿舍料ノ額及其ノ支給方法ハ【遞信大臣】大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

### ●朝鮮總督府及所屬官署職員宿舍料ニ關スル件

（明治四十三年九月三十日勅令第三百九十二號）改正　大正一〇年第二五號

朕朝鮮總督府及所屬官署職員ノ宿舍料ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ職員ニハ宿舍料ヲ給ス但シ官舍ニ居住スル者ハ此ノ限ニ在ラス

大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ[illegible]

宿舍料ノ額及支給方法ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令ハ朝鮮人タル職員ニハ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●朝鮮總督府及所屬官署所屬ノ船舶乘組員ニ食卓料支給ノ件

（大正八年五月九日勅令第[illegible]號）改正　大正一〇年第一〇七號

朕朝鮮總督府及所屬官署所屬ノ船舶乘

組員ニ食卓料ヲ給スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

朝鮮總督府及所屬官署所屬ノ船舶定繫港外ニ航行スルトキハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外其ノ乘組員ニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ一夜ニ付四十錢以內ノ食卓料ヲ支給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府及所屬官署所屬ノ船舶ノ乘組員ニ支給スル食卓料臨時增給ニ關スル件

（大正八年五月三日　勅令第百六十九號）

朕朝鮮總督府及所屬官署所屬ノ船舶ノ乘組員ニ支給スル食卓料臨時增給ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

朝鮮總督府及所屬官署所屬ノ船舶ノ乘組員ニハ當分ノ內朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ食卓料定額ノ十分ノ五以內ヲ臨時增給スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正八年四月一日以後ノ食卓料ニ付之ヲ適用ス

## ●朝鮮總督府看守　朝鮮總督府女監取締給與品及貸與品規則

（明治四十二年十月二十九日　統監府令第五十三號）

改正　明治四四年朝鮮總督府令第五四號、大正二年第二七號、第八七號、四年第一二七號、七年第一一八號

朝鮮總督府看守、朝鮮總督府女監取締給與品及貸與品規則左ノ通定ム

朝鮮總督府看守、朝鮮總督府女監取締給與品及貸與品規則

第一條　朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締ニ給與スル品目、員數、供用期限及支給期ハ左ノ如シ

| 品目 | 朝鮮總督府看守 |  | 朝鮮總督府女監取締 |  | 支給期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
|  | 員數 | 供用期限 | 員數 | 供用期限 |  |  |
| 冬服 | 二組 | 三年 | ｜ | ｜ | 九月 | 初年ニ一組ヲ滿一年ヲ經テ尙一組ヲ給ス |
| 夏服 | 三組 | 二年 | ｜ | ｜ | 五月 | 初年ニ二組ヲ滿一年ヲ經テ尙一組ヲ給ス |
| 冬上衣 | ｜ | ｜ | 一著 | 二年 | 九月 |  |
| 夏上衣 | ｜ | ｜ | 二著 | 三年 | 五月 | 初年ニ一著ヲ滿一年ヲ經テ尙一著ヲ給ス |
| 袴 | ｜ | ｜ | 二著 | 二年 | 九月 | 初年ニ一著ヲ滿一年ヲ經テ尙一著ヲ給ス |
| 甲種外套（頭巾附） | 一著 | 三年 | ｜ | ｜ | 九月 |  |
| 乙種外套 | 一著 | 三年 | ｜ | ｜ | 九月 |  |
| 雨衣（頭巾附） | ｜ | ｜ | 一著 | 三年 | 九月 |  |
| 帽 | 一箇 | 二年 | ｜ | ｜ | 五月 |  |
| 日覆 | 一箇 | 一年 | ｜ | ｜ | 五月 |  |
| 短靴 | 二組 | 一年 | 二組 | 一年 | 五月 |  |
| ゲートル | 一組 | 一年 | ｜ | ｜ | 五月 |  |
| 下襟 | 二箇 | 四箇月 | ｜ | ｜ | 四月、八月、十二月 |  |
| 下袖 | 二組 | 六箇月 | ｜ | ｜ | 四月、十月 |  |
| 手套 | 二組 | 六箇月 | 二組 | 六箇月 | 四月、十月 |  |
| 靴下 | 二組 | 二箇月 | 二組 | 二箇月 | 二月、四月、六月、八月、十月、十二月 |  |
| 冬襯衣、袴下 | 二組 | 一年 | 二組 | 一年 | 九月 |  |
| 夏襯衣、袴下 | 二組 | 一年 | 二組 | 一年 | 五月 |  |

第二條　朝鮮總督府看守、朝鮮總督府女監取締ニ貸與スル品目左ノ如シ

朝鮮總督府看守

刀、刀緒、刀帶、徽章、肩章、領章、袖章（金屬製）、釦（金屬製）、外套締革、手帳、捕繩、呼子笛

朝鮮總督府女監取締

襟章、雨衣締革、手帳、捕繩、呼子笛

前項ノ外必要アル場合ニハ朝鮮總督府看守ニ短袴又ハ防寒外套ヲ貸與スルコトアルヘシ

第三條　給與品ハ現品ヲ以テ給ス但シ左記ノ給與品ニ限リ各相當ノ代料ヲ以テ給與スルコトヲ得

短靴

ゲートル

下襟

下袖

手套

靴下

冬襯衣袴下

夏襯衣袴下

前項ニ依リ支給スヘキ金額ハ各品ヲ通シタル年額ヲ十二分シテ翌月五日之ヲ給ス但シ休廳日ニ當ルトキハ順次之ヲ繰下クルモノトス

第四條　敎習生タル朝鮮總督府看守ニ對シテハ代料ヲ以テ支給スルモノヲ除ク外必要ニ應シ第一條ノ物品ヲ貸與ス

支給期以後ニ於テ採用シタル朝鮮總督府看守及朝鮮總督府女監取締ニ對シテハ次ノ支給期ニ至ル迄ノ間第一條ノ物品ヲ貸與ス

前項ノ朝鮮總督府看守又ハ朝鮮總督府女監取締ニハ典獄ハ次ノ支給期迄ノ供用期限ヲ附シ還納品ヲ給與スルコトヲ得

第五條　給與品ノ供用期限ハ支給シタル翌月ヨリ起算ス

第六條　削除

第七條　休職、轉職、退職又ハ死亡ノ際ハ其ノ貸與品及供用期限內ニ在ル給與品ヲ還納セシム

第八條　貸與品又ハ供用期限內ニ在ル給與品ヲ毀損又ハ紛失シタルモノアルトキハ代品ヲ貸與又ハ給與ス其ノ過失怠慢ニ出テタルモノナルトキハ代料辨償ノ責ニ任セシム

前項ニ依リ辨償セシムヘキ金額ハ典獄之ヲ定ム

第九條　給與品ノ修補ハ自辨トス

第十條　典獄必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ經テ給與品ノ供用期限ヲ延長シ又ハ支給期ヲ變更スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査給與品及貸與品規則

（明治四十四年二月四日　朝鮮總督府令第八號）

改正　大正四年第六七號、六年第五五號、九年第二〇號、一〇年第八四號、一二年第五九號、一三年第四〇號

巡査及巡査補給與品、貸與品規則左ノ通定ム

---

朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査給與品及貸與品規則

第一條　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査ニハ左ノ物品ヲ給與ス

帽、冬服、夏服、外套、日覆、下襟、冬手套、夏手套、冬肌著、夏肌著、靴下、長靴、短靴

第二條　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査ニハ左ノ物品ヲ貸與ス但シ交通取締、水上警察若ハ消防ノ勤務ノ者又ハ國境警備ニ直接從事スル者ニハ刀及刀帶ニ代ヘ短刀及短刀帶ヲ貸與ス

帽徽章、肩章、刀、刀帶、外套及被服ノ鈕釦、外套締革、手帳、捕繩、警笛、背負袋

前項ノ外交通取締、乘馬勤務又ハ水上警察ノ勤務ノ者ニハヘルメット形帽ヲ、乘馬勤務ノ者ニハ拍車ヲ貸與ス

第三條　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査ニハ雨覆、防寒具、脚絆「ゲートル」ヲ貸與スルコトアルヘシ

防寒具ノ種類及貸與區域ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　給與品ハ現品ヲ以テ支給ス但シ左ノ物品ハ代料ヲ以テ支給スルコトヲ得

下襟、冬手套、夏手套、冬肌著、夏肌著、靴下、長靴、短靴

制服ノ著用ヲ要セサル特別ノ勤務ニ服スル道巡査ニハ任命ノ際ニ限リ全部現品ヲ以テ之ヲ給シ其ノ後ハ總テ代料ヲ以テ支給スルコトヲ得

前二項ノ代料ハ給與品ノ員數ニ對スル價額ヲ一年ノ總額トシ月額ヲ以テ支給ス但シ其ノ價額ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ル

第五條　給與品ノ員數、使用期限及支給期日左ノ如シ

| 品目 | 支給員數 | 支給期日 | 使用期限 |
|---|---|---|---|
| 帽 | 一箇　新任者ニハ二箇 | 隔年五月三十日 | 四年 |
| 日覆 | 一箇　新任者ニハ二箇 | 隔年五月三十日 | 四年 |
| 冬服 | 一組　新任者ニハ二組 | 隔年九月三十日 | 四年 |
| 夏服 | 一組　新任者ニハ二組 | 毎年五月三十日 | 三年 |
| 冬短袴 | 一著　新任者ニハ二著 | 毎年九月三十日 | 二年 |
| 夏短袴 | 一著　新任者ニハ二著 | 毎年五月三十日 | 三年 |
| 外套 | 一著 | 毎三年九月三十日 | 六年 |
| 短靴 | 一足 | 毎年五月三十日 | 二年 |
| 長靴 | 一足 | 隔年五月三十日 | 四年 |
| 下襟 | 一箇　新任者ニハ二箇 | 毎年五月三十日<br>九月三十日 | 一年 |
| 冬手套 | 一組　新任者ニハ二組 | 毎年九月三十日 | 一年 |
| 夏手套 | 一組　新任者ニハ二組 | 毎年五月三十日 | 一年 |
| 冬肌著 | 一組　新任者ニハ二組 | 毎年九月三十日 | 二年 |
| 夏肌著 | 一組　新任者ニハ二組 | 毎年五月三十日 | 二年 |
| 靴下 | 一足　新任者ニハ二足 | 毎年四月三十日六月三十日八月三十日十月三十日十二月二十八日 | 六月 |

乘馬勤務者ニハ袴及短靴ヲ給セス短袴ハ乘馬勤務者ニ限リ之ヲ給ス

乘馬勤務者ニ給與スル長靴ノ使用期限ハ二年トシ支給期日ハ毎年五月三十日トス

第六條　貸與品及給與品ハ任命ノ際之ヲ交付ス退職、休職、轉職、死亡ノ場合ニ於テハ貸與品ハ之ヲ返納セシム使用期限ノ終ラサル給與品アルトキ亦同シ但シ給與品ノ代料ヲ以テ下付シタルモノハ使用殘期ニ相當スル金額ヲ返納セシム

第七條　給與品ニシテ支給期日後ニ支給シタルモノハ次期ノ支給期日ニ於テ現品ヲ返納スルモノトス但シ特ニ使用期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條　貸與品又ハ使用期限ノ終ラサル給與品ヲ毀損紛失シタルトキハ之ヲ修繕又ハ他品ヲ貸與給與シ其ノ過失怠慢ニ出テタルトキハ其ノ費用ヲ賠償セシム

第九條　給與品及貸與品ハ必要ニ因リ其ノ員數ヲ增減シ又ハ其ノ使用期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ハ舊規則ニ依リ所定ノ保存期間使用セシム

附　則（大正十三年朝鮮總督府令第四十號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ハ從前ノ規定ニ依リ所定ノ保存期間使用セシム

## ●朝鮮總督府道消防手給與品及貸與品規則

（大正十二年三月七日　朝鮮總督府令第三十一號）

朝鮮總督府道消防手給與品及貸與品規則左ノ通定ム

朝鮮總督府道消防手給與品及貸與品規則

第一條　朝鮮總督府道消防手ニハ左ノ物品ヲ給與ス

帽、冬服、夏服、外套、下襟、冬手套、夏手套、冬肌著、夏肌著、靴下、短靴、脚袢

第二條　朝鮮總督府道消防手ニハ左ノ物品ヲ貸與ス

帽前章、外套及被服ノ鈕釦、革帶、外套締皮、出火場用帽及外套、防寒外套、防寒手套、防寒靴、自動車運轉手用革手套及眼鏡

第三條　自動車運轉手用革手套及眼鏡ハ自動車ノ運轉勤務ニ服スル者ニ貸與シ防寒外套、防寒手套、防寒靴ハ之ヲ共用トシ見張勤務ニ服スル者ニ著用セシム

自動車ノ運轉勤務ニ服スル者ニハ防寒外套ヲ貸與スルコトヲ得

第四條　給與品ノ員數、支給期日及使用期間ハ左ノ如シ

| 品目 | 員數 | 支給期日 | 使用期間 |
|---|---|---|---|
| 帽 | 一箇 | 毎年五月三十日 | 二年 |
| 冬服 | 一組（新任者ニハ二組） | 隔年九月三十日 | 四年 |
| 夏服 | 一組（新任者ニハ二組） | 毎年五月三十日 | 三年 |
| 外套 | 一著 | 毎三年九月三十日 | 六年 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 短靴 | 一足 | 毎年五月三十日 | 一年 |
| 下襟 | 一枚（新任者ニハ二枚） | 毎年五月、八月、十一月、二月ノ末日 | 六月 |
| 冬手套 | 二組 | 毎年九月三十日 | 一年 |
| 夏手套 | 一組 | 毎年五月三十日 | 一年 |
| 冬肌著 | 一組（新任者ニハ二組） | 毎年九月三十日 | 二年 |
| 夏肌著 | 一組（新任者ニハ二組） | 毎年五月三十日 | 二年 |
| 靴下 | 一足（新任者ニハ二足） | 毎年四月、六月、八月、十月、十二月、二月ノ各末日 | 六月 |
| 脚袢 | 一足（新任者ニハ二足） | 毎年五月三十日 | 二年 |

第五條　支給期日以外ニ於テ支給シタル給與品ノ使用期間ノ計算ハ前後ニ拘ハラス其ノ最モ近キ支給期日ニ支給シタルモノト看做ス

第六條　貸與品及給與品ハ任命ノ際之ヲ交付ス退職、休職、轉職、死亡ノ場合ニ於テハ貸與品及使用期限ノ終ラサル給與品ハ之ヲ返納セシム

第七條　貸與品又ハ使用期間ノ終ラサル給與品ヲ毀損紛失シタルトキハ之ヲ修繕又ハ他品ト交換シ若シ其ノ原因使用者ノ過失怠慢ニ出テタルモノナルトキハ其ノ費用ヲ賠償セシム

第八條　給與品及貸與品ハ必要ニ因リ其ノ員數ヲ增減シ又ハ其ノ使用期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生被服支給規則

（明治三十一年七月二十九日臺灣總督府令第六十五號）

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生被服支給規則左ノ通相定ム

臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生被服支給規則

第一條　現官現職者ニアラサル臺灣總督府警察官及司獄官練習所練習生ニハ一定ノ被服ヲ給ス

第二條　前條支給ニ關スル細則ハ臺灣總督府警察官及司獄官練習所長之ヲ定ム

## ●臺灣總督府州、廳警部補ニ被服支給ノ件

（大正十一年五月六日臺灣總督府令第百十三號）

臺灣總督府州、廳警部補ニハ被服ヲ支給ス但シ必要アル場合ハ其ノ全部又ハ一部ヲ代料ヲ以テ支給スルコトヲ得

前項給與ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十一年度ヨリ之ヲ適用ス

## ●臺灣廳地方費吏員宿舍料支給規則

（大正十五年六月二十五日臺灣總督府令第四十七號）

臺灣廳地方費吏員宿舍料支給規則左ノ通相定ム

臺灣廳地方費吏員宿舍料支給規則

臺灣廳地方費吏員宿舍料支給ニ關シテハ大正十年府令第百八號州市有給吏員宿舍料支給規則ヲ準用ス但シ同規則中州知事トアルハ廳長トス

附　則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●州市有給吏員宿舍料支給規則

（大正十年五月二十九日臺灣總督府令第百八號）

州市有給吏員宿舍料支給規則左ノ通相定ム

州市有給吏員宿舍料支給規則

第一條　州市有給吏員ニ宿舍料ヲ支給スル場合ハ本令ノ定ムル所ニ依ル但シ本島人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第二條　宿舍料ハ左ノ範圍內ニ於テ州知事、市尹之ヲ定ム

| | |
|---|---|
| 三級下俸以上ノ年俸ヲ受クル吏員 | 月額四十圓以內 |
| 五級上俸以上ノ年俸ヲ受クル吏員 | 月額三十圓以內 |
| 五級下俸以上ノ年俸ヲ受クル吏員<br>二級上俸以上ノ月俸ヲ受クル吏員 | 月額二十五圓以內 |
| 六級下俸以上ノ年俸ヲ受クル吏員<br>三級上俸以上ノ月俸ヲ受クル吏員 | 月額二十圓以內 |
| 六級下俸未滿ノ年俸ヲ受クル吏員<br>五級上俸以上ノ月俸ヲ受クル吏員 | 月額十五圓以內 |
| 六級上俸以上ノ月俸ヲ受クル吏員 | 月額十二圓以內 |
| 六級上俸未滿ノ月俸ヲ受クル吏員 | 月額十圓以內 |

第三條　宿舍料ハ家族携帶者ニハ其ノ全額ヲ單身者ニハ其ノ十分ノ六ヲ支給ス

第四條　同居ノ家族中宿舍料ヲ受クヘキ者二人以上アル場合ハ其ノ定額ノ多キ者ヲ全額トシ其ノ他ハ其ノ家族ノ受クヘキ額ノ半額トス

第五條　宿舍料ヲ受クヘキ原因發生シ若ハ消滅シ又ハ其ノ支給額ノ變更ヲ要スルトキハ左ノ各號ニ依ル

一　新任ノ場合ハ就任ノ日ヨリ日割トス

二　退職廢職又ハ死亡ノ場合ハ其ノ月ノ全額トス但シ殘務整理ヲ命シ翌月ニ亙リタル場合ハ其ノ終了ノ當日迄日割トス

三　懲戒處分ニ依リ解職セラレタルトキハ其ノ當日迄日割トス

四　俸給ノ增減家族ノ異動其ノ他ノ事由ニ因リ支給額ノ變更ヲ要スルトキハ發令ノ翌月又ハ其ノ事實ノ發生シタル翌月ヨリ之ヲ增減ス

五　宿舍料ヲ受クル者ニ宿舍居住ヲ命シタルトキハ其ノ宿舍居住ノ當日迄日割トス

六　宿舍居住者ニ退去ヲ命シタルトキハ其ノ退去ノ日ヨリ日割トス

第六條　私事ノ爲在勤地ヲ離ルルコト六十日ヲ超ユルトキハ其ノ日ヨリ宿舍料ノ支給ヲ停止ス但シ其ノ家族引續キ居住シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　兼務ノ吏員ニハ本令ノ宿舍料ヲ給セス

第八條　本令ニ於テ家族ト稱スルハ配偶者、直系親族、兄弟姉妹ヲ謂フ但シ兄弟ハ無職ニシテ他ニ扶養者ナキ者ニ限ル

第九條　州市經濟ニ屬スル囑託員及雇員ニ宿舍料ヲ支給セムトスルトキハ本令ヲ準用ス

第十條　宿舍料支給ニ關スル細則ハ州知事又ハ市尹之ヲ定ムルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●關東廳職員宿舍料ノ件

（明治三十九年八月三十一日勅令第二百四十一號）

朕關東都督府職員宿舍料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（外務大臣副署）

【關東都督府】職員ニハ宿舍料ヲ給ス但シ官舍ニ居住セシムルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項宿舍料ノ額ハ【關東都督】之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●樺太廳及所屬官署職員ノ宿舍料ニ關スル件

（大正七年六月三日勅令第百九十三號）

朕樺太廳及所屬官署職員ノ宿舍料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

樺太廳及其ノ所屬官署ノ職員ニハ月額二十圓以下ノ宿舍料ヲ給スルコトヲ得但シ官舍ニ居住セシムル者ハ此ノ限ニ在ラス

宿舍料ノ額及支給方法ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●貴族院又ハ衆議院ノ守衞長又ハ守衞副長ニ宿舍料ヲ給スルコトヲ得ルノ件

（大正十年一月十三日勅令第三號）

朕貴族院又ハ衆議院ノ守衞長又ハ守衞副長ニ宿舍料ヲ給スルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

貴族院又ハ衆議院ノ守衞長又ハ守衞副長ヲ居住セシムヘキ官舍ナキトキハ貴族院書記官長又ハ衆議院書記官長ノ指定スル區域ニ之ヲ居住セシム此ノ場合ニ於テハ守衞長ニハ月額三十圓以內、守衞副長ニハ月額十五圓以內ノ宿舍料ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●北海道廳森林主事給與品及貸付品規則

（大正七年七月九日勅令第二百八十一號）

朕北海道廳森林主事給與品及貸付品規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

北海道廳森林主事給與品及貸付品規則

第一條　北海道廳森林主事ニ給與スヘキ品目左ノ如シ但シ第二條ニ揭クルモノヲ除ク

上衣
袴
正帽
略帽
甲種外套
乙種外套
日覆

前項品目ノ外土地ノ狀況ニ依リ北海道廳長官ハ防寒具、脚絆又ハゲートルヲ給與スルコトヲ得

第二條　北海道廳森林主事ニ貸付スヘキ品目左ノ如シ

襟章
肩章
帽徽章
上衣及外套ノ釦並袖章ノ櫻花三輪章
刀
刀帶
外套締革
手簿
捕繩

第三條　給與品ハ現品ヲ以テ之ヲ支給ス其ノ員數及使用期限左ノ如シ但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ北海道廳長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ員數ヲ增減シ又ハ使用期限ヲ伸縮スルコトヲ得

| | | |
|---|---|---|
| 上衣袴 | 一組 | 二年 |
| 夏上衣袴 | 一組（任命ノ初年ハ二組） | 四月 |
| 正帽 | 一箇 | 五年 |
| 略帽 | 一箇 | 一年六月 |
| 甲種外套 | 一著 | 三年 |
| 乙種外套 | 一著 | 三年 |
| 日覆 | 一箇 | 四月 |

防寒具、脚絆又ハゲートルノ給與員數及使用期限ハ北海道廳長官之ヲ定ム

前二項ノ使用期限ノ外北海道廳長官ハ保存期限ヲ定ムルコトヲ得

第四條　貸付品ハ轉任、休職、退官、死亡ノ際ハ之ヲ返納セシム使用期限ノ終ラサル給與品亦同シ

第五條　貸付品又ハ使用期限ノ終ラサル給與品ヲ故意又ハ過失ニ因リ毀損又ハ喪失シタル場合ニ於テハ之ヲ辨償セシム

第六條　給與品及貸付品ノ修補ハ自辨トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

當分ノ內正帽及乙種外套ハ之ヲ支給セサルコトヲ得

北海道廳森林監守給與品及貸與品規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際北海道廳森林監守ニシテ北海道廳森林主事ニ任セラレタル者ノ從前ノ規定ニ依リ受ケタル給與品及貸與品ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

## ●北海道廳河川監守給與品及貸付品規則

（大正十二年七月七日勅令第三百三十六號）

朕北海道廳河川監守給與品及貸付品規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務大臣副署）

北海道廳河川監守給與品及貸付品規則

第一條　北海道廳河川監守ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

上衣（襟章、袖章、肩章及釦ヲ除ク）
袴
帽（徽章ヲ除ク）
日覆
甲種外套（袖章及釦ヲ除ク）
乙種外套
雨覆
手套
短靴

前項品目ノ外土地ノ狀況ニ依リ北海道廳長官ハ防寒具、脚絆又ハゲートルヲ給與スルコトヲ得

第二條　北海道廳河川監守ニ貸付スヘキ品目左ノ如シ

上衣ノ襟章、袖章、肩章及釦
帽ノ徽章
甲種外套ノ袖章及釦
刀
刀帶
巡回手帖

第三條　給與品及貸付品ハ現品ヲ以テ之ヲ支給ス其ノ員數及使用期間左ノ如シ但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ北海道廳長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ員數ヲ增減シ又ハ使用期間ヲ伸縮スルコトヲ得

| | | |
|---|---|---|
| 冬上衣 | 一枚 | 二年 |
| 冬袴 | 一枚 | 一年 |
| 夏上衣及夏袴 | 一組（任命ノ初年ハ二組） | 四月 |
| 帽 | 一箇 | 一年 |
| 日覆 | 一箇 | 四月 |
| 甲種外套 | 一著 | 三年 |
| 乙種外套 | 一著 | 三年 |
| 雨覆 | 一箇 | 三年 |
| 手套 | 一組 | 六月 |
| 短靴 | 一足 | 二年 |

防寒具、脚絆及ゲートルノ給與員數及使用期間ハ北海道廳長官之ヲ定ム

前二項ノ使用期間ノ外北海道廳長官ハ給與品ノ保存期間ヲ定ムルコトヲ得

第四條　貸付品ハ轉任、休職、退官又ハ死亡ノ際ハ之ヲ返納セシム使用期間ノ終ラサル給與品亦同シ

第五條　貸付品又ハ使用期間ノ終ラサル給與品ヲ故意又ハ過失ニ因リ毀損又ハ喪失シタル場合ニ於テハ之ヲ辨償セシム

第六條　給與品及貸付品ノ修補ハ自辨トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際北海道廳河川監守ニ任セラレタル者ノ從前北海道廳長官ノ定メニ依リ受ケタル貸付品ハ本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス

## ●巡査給與品及貸與品規則

（明治三十年十月二日勅令第三百三十九號）

改正　[illegible]

朕巡査給與品及貸與品規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

巡査給與品及貸與品規則

第一條　巡査ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

一　帽
一　冬服
一　夏服
一　日覆
一　下襟
一　手套
一　乙種外套又ハ防水布製長マント
一　冬肌著

一夏肌著
一靴下
一長靴
一短靴

前項ノ外土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ得テ特種ノ制帽、防寒具、脚絆及ゲートルヲ給與スルコトヲ得

第二條　巡査ニ貸與スヘキ品目左ノ如シ

一帽徽章
一肩章
一領章
一刀又ハ短刀
一刀緒
一刀帶又ハ短刀帶
一外套及被服ノ鈕釦及鉤
一帽顋紐留
一外套締革
一手帖
一捕繩
一呼子笛

前項ノ外乘馬勤務ノ巡査ニハ拍車ヲ貸與ス

前二項ノ外土地ノ狀況又ハ勤務ノ性質ニ依リ水筒ヲ貸與スルコトヲ得

第三條　給與品ハ現品ヲ以テスヘシ但シ下襟手套冬肌著夏肌著靴下長靴短靴ハ代料ヲ以テ下付スルコトヲ得

制服ノ著用ヲ要セサル特別ノ勤務ニ服スル巡査ニハ任命ノ際前項ノ規程ニ依リ給與シ其ノ後ハ總テ代料ヲ以テ下付スルコトヲ得

第四條　給與品ノ員數及使用期限ハ左ノ如シ但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ員數ヲ增減シ及使用期限ヲ伸縮スルコトヲ得

| | |
|---|---|
| 一帽一箇 | 十二箇月 |
| 一冬服一組 | 二十四箇月 |
| 一夏服二組 | 四箇月 |
| 一甲種外套一著 | 二十四箇月 |
| 一乙種外套又ハ防水布製長マント一著 | 二十四箇月 |
| 一日覆一箇 | 四箇月 |
| 一下襟四箇 | 四箇月 |
| 一手套二箇 | 六箇月 |
| 一冬肌著二組 | 八箇月 |
| 一夏肌著二組 | 四箇月 |
| 一靴下二足 | 一箇月 |
| 一長靴一足 | 十二箇月 |
| 一短靴二足 | 十二箇月 |

乘馬勤務ノ巡査ニハ短袴及長靴ヲ給シ袴及短靴ヲ給セス短袴ハ冬服ニ在リテハ上衣一著ニ付二著ヲ以テ一組トシテ之ヲ給シ長靴ハ其ノ使用期限ヲ十二箇月トシ二足ヲ給ス

乘馬勤務ニ非サル巡査ニモ短袴ヲ給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ上衣一著ニ付袴及短袴各一著ヲ以テ一組トス但シ土地ノ狀況ニ依リ短袴ヲ貸與品ト爲スコトヲ得

特種ノ制帽、防寒具、脚絆及ゲートルノ給與員數及使用期限ハ樺太廳長官又ハ廳府縣長官之ヲ定ム

本條使用期限ノ外樺太廳長官又ハ廳府縣長官ハ保存期限ヲ定ムルコトヲ得

第五條　貸與品ハ退職休職轉職死亡ノ際之ヲ返納スヘシ使用期限ノ終ラサル給與品亦同シ但シ給與品ノ代料ヲ以テ下付シタルモノハ使用殘期ニ相當スル金額ヲ返納スヘシ

第六條　貸與品又ハ使用期限ノ終ラサル給與品ヲ毀損紛失シ代品ヲ交付スル場合ニ於テ其ノ毀損紛失過失怠慢ニ出タルモノナルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

附　則

第七條　本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス但シ本令施行ノ際既ニ給與シタル現品ニハ之ヲ適用セス

### ●巡査給與品及貸與品規則ヲ警部補ニ準用ノ件

（明治四十三年三月八日勅令第二十一號）

朕巡査給與品及貸與品規則ヲ警部補ニ準用スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（總理、內務大臣副署）

巡査給與品及貸與品規則ハ警部補ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十三年勅令第十二號、明治四十三年勅令第十三號及明治四十三年勅令第十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第三款　旅費及歳費

### ●內國旅費規則

（明治四十三年六月十八日勅令第二百七十四號）

改正　明治四三年第三九一號、四四年第一九二號、大正九年第一七六號、一三年第三〇六號

朕內國旅費規則改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

內國旅費規則

第一條　官吏公務ニ依リ本邦內ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條　旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ九種トス

鐵道賃及船賃ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬賃日當宿泊料食卓料及移轉料ハ別表ニ揭クル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第三條　鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス

鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

第四條　宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ官用ノ船舶ニ依リテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ食卓料ヲ支給ス

第五條　旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滯在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ二百哩、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第六條　赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日當五日分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給ス

家族移轉料ハ家族一人每ニ舊任地又ハ本人ノ居住地ヨリ新任地ニ至ル本人相當ノ鐵道賃船賃車馬賃日當宿泊料食卓料ノ全額及赴任手當ノ三分ノ二ニ該當スル金額トス但シ十二歲未滿ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス

家族ノ數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付支給スル家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依ル給額ノ半額トス

赴任者赴任後一年內ニ其ノ家族故ナクシテ新任地ニ移轉セサルトキハ家族移轉料ヲ支給セス

第七條　官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス

第八條　陸路六里未滿、鐵道四十八哩未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ亙ルトキハ鐵道ハ八哩、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

第九條　在勤廳所在地ノ市町村內ノ出張ニシテ遠距離ニ渉ルトキハ定額半額以內ノ日當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ必要ナル費用ヲ支給スルコトヲ得

第九條ノ二　前條第二項ノ規定ハ在勤廳所在地ノ市町村內ノ出張ニシテ遠距離ニ渉ラサル場合又ハ在勤廳所在地外ノ市町村內ヲ旅行シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十條　私事ノ爲任地又ハ居住地以外ニ滯在スル者轉任ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレ滯在地ヨリ赴任スル場合ニ於テハ滯在地ヨリ新任地ニ至ル旅費額カ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費ヲ支給ス

前項ノ規定ハ私事ノ爲任地以外ニ滯在スル者滯在地ヨリ旅行スル場合ニ之ヲ準用ス

---

第十條ノ二　前條第一項ノ規定ハ舊任地又ハ本人ノ居住地以外ヨリ新任地ニ移轉スル家族ニ付支給スル家族移轉料ニ之ヲ準用ス

第十一條　新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏赴任ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十二條　特別ノ事情ニ依リ定額ノ車馬賃ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十三條　車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス

通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

第十四條　年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シ計算ス

第十五條　旅行中退官、退職、休職又ハ非職ト爲リタル者ニハ舊任地ニ至ル前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リテ失官シ又ハ免官セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第五條ニ定メタル旅程ノ割合ヲ以テ計算シタル日數ニ依リ旅費ヲ支給ス

旅行中死亡シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十六條　事務引繼殘務調理等ノ爲退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條　所管大臣ハ測量土木工事等ノ爲現場ヲ巡廻スル官吏又ハ常時旅行ヲ要スル官吏ニ關シ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十七條ノ二　日當及宿泊料ハ同一地ニ滯在十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ一割、三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割、百日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ四割ヲ減ス

同一地ニ滯在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第十八條　武官、陸海軍文官、鐵道事務ニ從事スル官吏及警察官ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ之ヲ定ム

第十九條　雇員其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

第二十條　當分ノ內朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國內ノ旅行ニ限リ所管大臣大藏大臣ト協議シテ旅費ノ定額ヲ增加スルコトヲ得

第二十一條　當分ノ內朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國在勤二年以上ニシテ退官、退職、休職又ハ非職ト爲リ三十日以內ニ同地出發歸鄕スル者ニハ前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

在職中死亡シタルトキハ第一項ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得

第二十二條　樺太ニ赴任スル者、千島國幌建島以北ニ赴任若ハ出張スル者、朝鮮ニ赴任スル者ニシテ江原道平安南道平安北道成鏡南道成鏡北道ニ赴ク者又ハ十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間內ニ樺太ニ出張スル者ニハ當分ノ內支度料ヲ支給スルコトヲ得其ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前轉任ヲ命セラレ、新ニ任用セラレ若ハ新ニ任用スル爲召喚セラレタル場合又ハ退官、退職、休職、非職ト爲リ若ハ死亡シタル場合ニ關シテハ舊令ニ依ル

（別表）

旅費額

| 官階／區分 | | 親任官 | 勅任官 | 奏任官 五等以上 | 奏任官 六等以下 | 判任官 五級俸以上 | 判任官 六級俸以下 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 車馬賃一里ニ付 | | 一圓五十錢 | 一圓二十錢 | 九十錢 | 九十錢 | 七十五錢 | 七十五錢 |
| 日當一日ニ付 | 甲地方 | 十二圓 | 八圓 | 六圓 | 五圓 | 三圓 | 二圓五十錢 |
| | 乙地方 | 十圓 | 七圓 | 五圓 | 四圓 | 二圓五十錢 | 二圓二十錢 |
| 宿泊料一夜ニ付 | 甲地方 | 十八圓 | 十二圓 | 八圓 | 七圓 | 五圓五十錢 | 四圓五十錢 |
| | 乙地方 | 十五圓 | 十圓 | 六圓 | 五圓 | 四圓五十錢 | 三圓五十錢 |
| 食卓料一夜ニ付 | | 四圓 | 三圓 | 二圓五十錢 | 二圓 | 二圓 | 二圓 |
| 移轉料 | | 三百圓以內 | 二百二十圓以內 | 百五十圓以內 | 百三十圓以內 | 百圓以內 | 百圓以內 |

備考

一　甲地方トハ大藏大臣ノ指定スル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

二　一日中甲地方及乙地方ニ亙ル旅行ニ付テハ出發地、用務地又ハ到著地カ甲地方ノ場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依リ其ノ他ノ場合ニ於テハ乙地方ノ定額ニ依ル

三　鐵道旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ乙地方ノ定額ニ依リ水路旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ乙地方ノ定額ニ依ル

四　赴任手當ハ甲地方ノ日當及宿泊料ノ定額ニ依リ之ヲ計算ス

內國旅費規則別表ニ定ムル甲地方左ノ通指定シ大正十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十三年十二月十六日大藏省令第二十八號）

改正　大正一四年第一一號、第一二號

一　道府縣廳、師團司令部、鎭守府又ハ帝國大學所在ノ市町村

二　前號ノ外左ニ揭クル市町村

北海道　函館市
同　小樽市
同　室蘭市
同　釧路市
同　常呂郡野付牛町
京都府　紀伊郡伏見町
同　加佐郡新舞鶴町
同　同　中舞鶴町
大阪府　堺市
神奈川縣　鎌倉郡鎌倉町
同　三浦郡葉山村
兵庫縣　尼崎市
同　西宮市
群馬縣　高崎市
栃木縣　上都賀郡日光町
三重縣　宇治山田市
愛知縣　豐橋市
靜岡縣　濱松市
同　沼津市
山口縣　下關市
福岡縣　門司市
同　小倉市
同　八幡市
同　戸畑市
同　若松市
同　大牟田市

三　前二號ニ定ムルモノノ外左ノ區域內ニ在ル町村

東京府　南葛飾郡
同　南足立郡

同　北豐島郡
同　豐多摩郡
同　荏原郡
神奈川縣足柄下郡
兵庫縣武庫郡

## ●內國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃及船賃

（大正九年五月三十一日大藏省令第十六號）
改正　大正一〇年第一號

內國旅費規則第二條ニ依リ鐵道賃、船賃左ノ通相定メ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　鐵道賃ハ左ノ區別ニ從ヒ旅客運賃（通行稅ヲ含ム）及急行料金ニ依リ之ヲ計算ス

一、高等官ニ在リテハ一等ノ運賃但シ一等車ノ連結ナキ線路ニ依ル旅行ニ在リテハ二等ノ運賃

二、判任官ニ在リテハ二等ノ運賃但シ特別ノ必要ニ依リ一等車ニ乘車シタル場合ニ於テハ一等ノ運賃

三、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ高等官判任官共上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃

四、五十哩以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金但シ急行料金ヲ徵セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

五、百哩以上特別急行列車ニ乘車シタル場合ニ於テハ特別急行料金

六、特別ノ必要ニ依リ普通急行列車又ハ特別急行列車ニ乘車シタル場合ニ於テハ前二號ノ規定ニ拘ラス其ノ乘車ニ要スル急行料金

第二條　船賃ハ旅客運賃（通行稅、碇泊稅、棧橋賃、艀賃料及普通運賃ノ外別ニ食費ヲ要スル場合ニ於テハ夕食及朝食ニ對スル所定ノ料金ヲ含ム）及急行料金ニ依リ鐵道賃ノ例ニ準シ之ヲ計算ス

## ●外國旅費規則

（大正十年九月一日勅令第四百一號）
改正　大正一一年第一九一號

朕外國旅費規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏大臣副署）

### 外國旅費規則

### 第一章　總則

第一條　官吏公務ニ依リ本邦外國間ヲ旅行シ又ハ外國ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ南滿洲ノ旅費ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

勅令ノ定ムル所ニ依リ賜暇歸朝ヲ許サレタル者任地本邦間ヲ旅行スルトキハ公務ニ依リ旅行スルモノト看做ス

第二條　旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料ノ十種トス

第三條　旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第四條　年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ旅程ヲ區別シ計算ス

第五條　所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六條　本邦外國間ヲ旅行スル爲本邦又ハ南洋群島關東州南滿洲內ヲ通過スルトキハ其ノ地域ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル旅費ヲ支給ス但シ南滿洲以外ノ外國直通ノ汽車又ハ南滿洲以外ノ外國航路ノ船舶ニ依リ本邦ヲ出發シ又ハ本邦ニ歸著シタルトキハ當該鐵道賃、船賃及乘船港出發ノ日ヨリ又ハ歸著港ニ上陸ノ日迄ノ日當ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　一日中旅費ノ定額ヲ異ニスル場合ニ於テハ多キニ從ヒ之ヲ支給ス

第八條　新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏ノ赴任、轉勤又ハ歸朝ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス

第九條　私事ノ爲在勤地又ハ出張地以外ニ滯在スル者滯在地ヨリ直ニ旅行スル場合ニ於テハ滯在地ヨリ目的地ニ至ル旅費額カ在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十條　特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

特殊ノ要務ニ從事スル爲外國ニ出張ヲ命セラレタル者ニハ所管大臣大藏大臣ト協議シ旅費ヲ支給セス旅行手當ヲ支給スルコトヲ得

第十一條　雇員傭人其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

第十二條　旅費ノ支給ヲ受クル者ニ對シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ定メタルモノヲ除クノ外別ニ手當ヲ支給スルコトヲ得ス

第十三條　本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ大藏大臣ト協議ヲ要スル事項ニ關シテハ所管大臣ヲ經由スヘシ

### 第二章　鐵道賃、船賃及車馬賃

第十四條　鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、其ノ他ノ旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス

第十五條　鐵道賃及船賃ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬賃ハ實費ニ依リ之ヲ支給ス

第十六條　鐵道旅行又ハ水路旅行ノ場合ニ於テ別ニ急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ寢臺料金ノ支給ヲ受クル場合ニ於ケル宿泊料ハ勅任官以上ニ在リテハ定額ノ十分ノ六、奏任官以下ニ在リテハ定額ノ十分ノ七トス

第十七條　出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ百五十「キログラム」迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

第十八條　官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ハ之ヲ支給セス

### 第三章　日當、宿泊料及食卓料

第十九條　日當、宿泊料及食卓料ハ別表ニ揭クル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第二十條　日當ハ日數ニ應シ宿泊料ハ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ天災其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲上陸宿泊ヲ要シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

食卓料ハ船賃ノ外別ニ食料ヲ要スル場合又ハ船賃ヲ要セサルモ食料ヲ要スル場合ニ於テ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

第二十一條　陸路二十哩未滿、鐵道六十哩未滿、水路四十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ亙ルトキハ鐵道ハ三哩、水路ハ二海里ヲ以テ陸路一哩ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十二條　日當及宿泊料ハ同一地ニ滯在三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割ヲ減ス

同一地ニ滯在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

### 第四章　支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料

第二十三條　支度料ハ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル者ニ別表ニ依リ之ヲ支給ス

南洋群島關東州南滿洲又ハ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレ支度料ノ支給ヲ受ケタル者其ノ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル日ヨリ一年內ニ再ヒ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタルトキ支給スル支度料ハ定額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ金額前ニ受ケタル金額ト合シテ定額ノ十五割ニ滿タサルトキハ定額ヲ超エサル範圍內ニ於テ通シテ十五割迄ヲ支給スルコトヲ妨ケス

外國ニ在勤又ハ出張中ノ者他ノ地ニ轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ於テハ前ニ受ケタル支度料ノ額新ニ轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル地方ニ付定メラレタル支度料ノ定額ニ達セサルトキニ限リ其ノ差額ノ範圍內ニ於テ支度料ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ハ南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中又ハ出張中ノ者南滿洲以外ノ外國ニ轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

支度料定額ノ少額ナル地方ニ滯在中新ニ任用セラレタル者其ノ多額ナル地方ニ赴任、轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ於テハ滯在中ノ地方ニ付定メラレタル支度料ト赴任、轉勤又ハ出張ヲ命セラレタル地方ニ付定メラレタル支度料トノ差額ノ範圍內ニ於テ支度料ヲ支給ス

第二十四條　移轉料及著後手當ハ左ニ揭クル者ニ之ヲ支給ス

一　外國ニ赴任ヲ命セラレタル者

二　外國ニ在勤中轉勤ヲ命セラレ又ハ本邦勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者

三　賜暇歸朝ヲ許サレタル者及賜暇歸朝中歸任スル者

第二十五條　外國ニ滯在中外國在勤ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレタル者ニハ移轉料及著後手當ヲ支給スルコトヲ得

第二十六條　移轉料ハ別表ニ依ル

著後手當ハ目的地ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル日當五日分及宿泊料五夜分ニ相當スル額トス

第二十七條　家族移轉料ハ左ノ場合ニ之ヲ支給ス

一　第二十四條又ハ第二十五條ニ揭クル者許可ヲ受ケ妻子ヲ隨伴スルトキ

二　外國ニ在勤中公務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者又ハ公務歸朝中歸任スル者許可ヲ受ケ妻子ヲ隨伴スルトキ

三　外國ニ在勤中又ハ歸朝後許可ヲ受ケ妻子ヲ呼寄セ又ハ歸朝セシムルトキ但シ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外同一任地ニ付往返各一回限リトス

第二十八條　家族移轉料ハ妻ニ付テハ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃及食卓料ノ全額竝日當、宿泊料、支度料、著後手當ノ半額トシ子ニ付テハ十二歲以上ノ者ニ在リテハ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料及著後手當ノ半額トシ十二歲未滿ノ者ニ在リテハ更ニ其ノ半額トス

第二十九條　外國ニ赴任若ハ出張ヲ命セラレタル者、外國ニ在勤中轉勤若ハ歸朝ヲ命セラレタル者又ハ外國ニ滯在中外國在勤ヲ命セラレ若ハ新ニ任用セラレタル者其ノ出發前死亡シ又ハ命令ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ支度料及移轉料ノ全額以內ヲ支給スルコトヲ得

隨伴シ又ハ呼寄スルコトヲ許サレタル妻其ノ出發前死亡シ又ハ許可ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ本人ニ支給スヘキ支度料ノ半額以內ヲ支給スルコトヲ得

### 第五章　退官退職者旅費及死亡手當

第三十條　外國在勤中又ハ任所往返中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタルトキハ其ノ命令又ハ通知到達ノ日迄日當及宿泊料ヲ支給ス

第三十一條　前條ニ揭クル外國在勤中ノ者命令又ハ通知到達ノ日ヨリ三月內ニ舊任地ヲ出發シ相當ノ期間內ニ本邦ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滯在日數三十日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外賜暇ニ依ル歸朝ノ例ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス但シ著後手當ハ之ヲ支給セス

第三十二條　外國在勤中ノ者他ノ地ニ出張中又ハ公務若ハ賜暇ニ依ル歸朝中廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リ其ノ命令又ハ通知到達ノ日ヨリ一月內ニ出發シ相當ノ期間內ニ舊任地ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滯在日數十五日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外其ノ地ヨリ舊任地迄ノ旅費ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ舊任地ニ於ケル滯在中ノ日當及宿泊料ヲ支給スル日數ハ前條ノ規定ニ依リ日當及宿泊料ヲ支給スル滯在日數ト通シテ四十日以內トス

第一項ニ揭クル者其ノ出張地ヨリ直ニ歸朝スルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス

前三項ノ規定ハ公務又ハ賜暇ニ依リ任所往返中廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル者ニ之ヲ準用ス

第三十三條　天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ又ハ事務引繼殘務整理等ノ爲前二條ニ規定スル期間內ニ出發スルコト能ハサルトキハ所管大臣ハ事情ヲ斟酌シ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第三十四條　在勤俸ヲ受クル期間ニ對シテハ第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ依リ支給スル滯在中ノ日當及宿泊料ハ之ヲ支給セス但シ在勤地以外ノ地ニ於ケル出張中又ハ公務歸朝中ノ日數ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　第三十條、第三十一條及第三十三條ノ規定ハ外國出張中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　外國在勤中、任所往返中又ハ出張中ノ者在勤地ニ於テ又ハ旅行中死亡シタルトキハ外國在勤者又ハ任所往返中ノ者ニ在リテハ其ノ任地ニ付定メラレタル額ニ依リ、外國出張中ノ者ニ在リテハ其ノ出張地ニ付定メラレタル額ニ依リ別表ニ從ヒ死亡手當ヲ其ノ遺族ニ支給ス但シ出張地數地方ニ亙ルトキハ最近ノ出發地又ハ到達地ニ付定メラレタル額ニ依リ多キニ從ヒ之ヲ支給ス

妻夫ノ任地ニ於テ又ハ許可ヲ受ケテ其ノ任所往返中死亡シタルトキハ本人ニ對スル死亡手當ノ半額以內ノ金額ヲ死亡手當トシテ支給スルコトヲ得

第三十七條　第三十一條、第三十二條及前條ノ場合ニ於テハ其ノ妻子ニ付第二十八條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス

第三十八條　第三十一條乃至第三十三條、第三十五條及前條ノ規定ハ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタル者及其ノ妻子ニ付テハ之ヲ適用セス

### 第六章　雜則

第三十九條　入國稅若ハ出國稅ヲ支拂ヒ又ハ旅行券ニ外國官公署ノ査證ヲ求ムル爲手數料ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第四十條　特別ノ危險アル場合ニ於テ旅行中ニ於ケル身體ノ傷害又ハ荷物ノ損害ニ付保險ニ付シタルトキハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ保險料ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ支給スルコトヲ得

第四十一條　許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ニ在リテハ二人、勅任官ニ在リテハ一人、奏任官以下ニ在リテハ出張ノ場合ヲ除クノ外六歲未滿ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ傭人相當ノ鐵道賃、船賃及食卓料ヲ支給スルコトヲ得

外國在勤中若ハ歸朝後妻ヲ呼寄セ若ハ歸朝セシムル場合又ハ外國在勤中若ハ任所往返中死亡シタル者ノ妻歸朝スル場合ニ於テ許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ノ妻ニ在リテハ二人、勅任官又ハ奏任官ノ妻ニ在リテハ一人、判任官ノ妻ニ在リテハ六歲未滿ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ前項ノ規定ニ準シ支給スルコトヲ得

第三十一條、第三十二條、第三十五條又ハ第三十六條ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケ伴ヒタル從者アルトキハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ第三十八條ノ規定ヲ準用ス

第四十二條　事務引繼殘務整理等ノ爲廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル者ニ旅行又ハ滯在ヲ命シタルトキハ旅費ヲ支給ス

第三十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條　第二十九條乃至第三十五條及前條ノ規定ニ依リ支給スル旅費ハ前官又ハ本官相當ノ旅費額ニ依ル

第四十四條　本令ニ依リ旅費ノ支給ヲ受クヘキ者旅行ノ必要ナキニ至リタル場合ニ於テ未タ旅行ヲ爲ササル區間ノ鐵道賃、船賃、急行料金、寢臺料金又ハ車馬賃ノ支拂ヲ要スルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條　本令ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給ニ關シ必要ナル規程ハ大藏大臣之ヲ定ム

### 附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中支度料、移轉料、著後手當、妻ニ對スル支度料及著後手當ニ相當スル家族移轉料又ハ死亡手當ニ關スル規定ハ在外公館費用條例ノ適用又ハ

準用ヲ受ケタル者ニハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十年勅令第四百四十三號
遞信省部內官吏外國在勤者妻携帶旅費給與規則
大正四年勅令第百九十六號
大正七年勅令第三百八十七號
大正八年勅令第二十號
大正八年勅令第百二十九號
大正八年勅令第百七十一號

本令施行ノ際從前ノ規定ニ定額ノ定アル區間ヲ旅行中ノ者ニ支給スル鐵道賃又ハ船賃ハ其ノ區間ニ限リ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前ヨリ引續キ同一地ニ滯在スル者ニ對スル第二十二條ノ規定ノ適用ニ關シテハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

本令施行前外國ニ赴任ヲ命セラレタル者、外國在勤中轉勤ヲ命セラレ若ハ本邦勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者、賜暇歸朝ヲ許サレタル者又ハ賜暇歸朝中歸任スル者本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給ス

本令施行前外國ニ滯在中外國在勤ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレタル者本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給スルコトヲ得

前二項ニ揭クル者妻子ヲ隨伴シ、呼寄セ又ハ歸朝セシムル場合ニ於テ其ノ妻子本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ家族移轉料ヲ支給スルコトヲ得

（別表）

| 官階＼區分 | | 日當 | 宿泊料 甲地方 | 宿泊料 乙地方 | 宿泊料 丙地方 | 食卓料 | 支度料 甲地方乙地方 | 支度料 丙地方 | 移轉料 甲額 | 移轉料 乙額 | 死亡手當 甲地方乙地方 | 死亡手當 丙地方 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 親任官 | | 二十圓 | 七十圓 | 六十圓 | 三十圓 | 八圓 | 千四百圓以內 | 千圓以內 | 六百圓以內 | 四百圓以內 | 七千五百圓以內 | 五千圓以內 |
| 勅任官 | | 十五圓 | 五十圓 | 四十二圓 | 二十二圓 | 七圓 | 九百圓以內 | 七百圓以內 | 四百五十圓以內 | 三百圓以內 | 四千五百圓以內 | 三千圓以內 |
| 奏任官 | 五等以上 | 十圓 | 三十二圓 | 二十四圓 | 十七圓 | 五圓 | 七百圓以內 | 五百五十圓以內 | 三百圓以內 | 二百圓以內 | 二千五百圓以內 | 千七百圓以內 |
| 奏任官 | 六等以下 | 八圓 | 三十圓 | 二十二圓 | 十六圓 | 五圓 | 七百圓以內 | 五百五十圓以內 | 三百圓以內 | 二百圓以內 | 二千圓以內 | 千三百圓以內 |
| 判任官 | | 六圓 | 二十四圓 | 十八圓 | 十三圓 | 四圓 | 五百圓以內 | 三百圓以內 | 二百圓以內 | 百五十圓以內 | 千五百圓以內 | 千圓以內 |

備考

一　甲地方トハ南北亞米利加、乙地方トハ歐羅巴亞弗利加太洋洲竝支那及西比利亞以外ノ亞細亞、丙地方トハ支那及西比利亞ヲ謂フ

二　移轉料ノ甲額ハ甲乙地方ト本邦又ハ丙地方トノ間竝甲乙地方間及甲乙各地方內ノ移轉ニ付之ヲ支給シ移轉料ノ乙額ハ本邦丙地方間及丙地方內ノ移轉ニ付之ヲ支給ス

## ●外國旅費規則施行細則

大正十年九月一日
大藏省令第三十一號

改正　大正一四年第三號

外國旅費規則施行細則左ノ通定ム

外國旅費規則施行細則

第一條　外國旅費規則ニ於テ南洋群島ト稱スルハ南太平洋諸島ヲ謂ヒ南滿洲ト稱スルハ支那奉天省竝吉林省ノ內第二松花江以南ノ地域及琿春、汪淸、延吉、和龍ノ四縣ヲ謂フ

第二條　旅費ハ外國旅費規則第五條ノ規定ニ依リ其ノ一部ヲ支給セサル場合ト雖精算ヲ爲サシムヘシ

第三條　外國旅費規則第十二條ニ規定スル手當トハ旅費以外ニ特ニ旅行者ニ支給スル金額ニシテ其ノ精算ヲ要セサルモノヲ謂フ

第四條　鐵道賃ハ一等ノ旅客運賃（通行稅ヲ含ム）ニ依リ之ヲ計算ス但シ一等ノ座席ノ設ケナキモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃ニ依ル

勅任官以上ニシテ前項ノ運賃ヲ以テ支辨シ能ハサル特別ノ座席ヲ要シタルトキハ前項運賃ノ外其ノ座席ノ爲現ニ支拂ヒタル料金ヲ支給ス

第五條　船賃ハ最低一等旅客運賃（通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ニ依リ之ヲ計算ス但シ一等ノ設ナキモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘船ニ要スル運賃ニ依ル

一等運賃ヲ數種ニ區分スルモノ又ハ特別ノ船室ノ設アルモノニ在リテハ最低一等運賃ニ親任官ニハ其ノ十割、勅任官ニハ其ノ六割、奏任官ニハ其ノ三割、判任官ニハ其ノ一割ヲ加算シタル額ノ範圍內ニ於テ現ニ支拂ヒタル料金迄ヲ支給ス

第六條　勅任官以上ニシテ職務上ノ必要ニ依リ前條ノ支給額ヲ以テ支辨スルコト能ハサル特別ノ船室ヲ要シタルトキハ豫メ所管大臣ノ許可ヲ得タル場合ニ限リ特ニ其ノ實費額迄ヲ支給スルコトヲ得

前條第二項及前項ノ規定ハ家族移轉料中妻子ニ付支給スル船賃ニ之ヲ適用セス

第七條　車馬賃ハ鐵道又ハ船舶ノ便アル區間ノ旅行ニハ之ヲ支給セス但シ用務ノ性質上鐵道又ハ船舶ニ依リ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　賜暇歸朝ヲ許サレタル者ニ支給スル任地本邦間ノ旅費トハ任地ト本邦ニ於ケル所屬廳所在地トノ間ノ旅費、本邦ニ所屬廳ナキ場合ニ在リテハ任地ト東京トノ間ノ旅費ヲ謂フ

第九條　外國旅費規則第三十一條、第三十二條、第三十七條又ハ第四十一條ノ規定ニ依リ支給スル旅費トハ本邦ニ於ケル住所地迄ノ旅費、其ノ住所地ナキ者ニ在リテハ本邦ニ於ケル家族ノ住所地迄ノ旅費、本人又ハ家族ノ住所地共ニナキ者ニ在リテハ原籍地迄ノ旅費ヲ謂フ但シ其ノ金額ニシテ本邦ニ於ケル目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十條　外國旅費規則ニ於テ遺族トハ配偶者、直系卑屬、直系尊屬及兄弟姉妹又ハ同一戶籍內ニ在ル親族ヲ謂フ

死亡手當ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭クル順位ニ依リ同順位內ニ在リテハ民法第九百七十條及第九百八十四條ノ規定ニ準シ之ヲ定ム

第十一條　外國旅費規則第四十一條ノ規定ニ依ル從者ノ旅費ハ傭人ノ旅費ニ付階級ヲ設クル場合ニ於テハ其ノ最下級ノ額トス

第十二條　旅行者ハ旅行日記及船車馬賃ノ領收書又ハ鐵道船舶ノ賃金表等料金ノ支拂ヲ證スヘキ相當ノ書類ヲ提出スヘシ

前項ノ旅行日記ニハ毎日ノ行程、宿泊地名、旅店名、搭乘船名及汽車又ハ船舶ノ出發時刻等ヲ記載スヘシ

附　則

本令ハ外國旅費規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●南洋群島關東州南滿洲旅費規則

大正十年九月一日
勅令第四百二號

改正　大正一一年第一九〇號

朕南洋群島關東州南滿洲旅費規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、大臣副署）

南洋群島關東州南滿洲旅費規則

### 第一章　總則

第一條　官吏公務ニ依リ南洋群島關東州南滿洲內ヲ旅行シ若ハ此等ノ地域相互間ヲ旅行シ又ハ南洋群島關東州南滿洲ト其ノ他ノ地方トノ間ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

勅令ノ定ムル所ニ依リ賜暇歸朝ヲ許サレタル者任地本邦間ヲ旅行スルトキハ公務ニ依リ旅行スルモノト看做ス

本令ニ於テ南洋群島ト稱スルハ帝國ニ於テ統治ノ委任ヲ受ケタル南太平洋諸島ヲ謂ヒ南滿洲ト稱スルハ支那奉天省竝吉林省ノ內第二松花江以南ノ地域及琿春、汪淸、延吉、和龍ノ四縣ヲ謂フ

第二條　旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料ノ十種トス

第三條　旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第四條　年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ旅程ヲ區別シ計算ス

第五條　所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六條　本邦ト南洋群島關東州南滿洲トノ間ノ旅行ノ爲本邦內ヲ通過スルトキハ其ノ地域ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル旅費ヲ支給ス但シ關東州南滿洲直通ノ汽車ニ依リ若ハ南洋群島關東州南滿洲航路ノ船舶ニ依リ本邦ヲ出發シ又ハ本邦ニ歸著シタルトキハ當該鐵道賃、船賃及乘船港出發ノ日ヨリ又ハ歸著港ニ上陸ノ日迄ノ日當ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　南洋群島關東州南滿洲ト外國トノ間ノ旅行ニ付テハ外國旅費規則ニ定ムル外國相互間ノ旅行ニ準シ旅費ヲ支給ス

第八條　一日中旅費ノ定額ヲ異ニスル場合ニ於テハ多キニ從ヒ之ヲ支給ス

第九條　新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏ノ赴任、轉勤又ハ歸朝ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十條　私事ノ爲在勤地又ハ出張地以外ニ滯在スル者滯在地ヨリ直ニ旅行スル場合ニ於テハ滯在地ヨリ目的地ニ至ル旅費額カ在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ在勤地又ハ出張地ヨリ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十一條　特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第十二條　雇員傭人其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム

第十三條　旅費ノ支給ヲ受クル者ニ對シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ定メタルモノヲ除クノ外別ニ手當ヲ支給スルコトヲ得ス

第十四條　本令中所管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ行フ但シ大藏大臣ト協議ヲ要スル事項ニ關シテハ所管大臣ヲ經由スヘシ

### 第二章　鐵道賃、船賃及車馬賃

第十五條　鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、其ノ他ノ旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス

第十六條　鐵道賃及船賃ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬賃ハ南洋群島內ノ旅行ニ付テハ實費ニ依リ、關東州南滿洲內ノ旅行ニ付テハ別表ニ揭クル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第十七條　鐵道旅行又ハ水路旅行ノ場合ニ於テ別ニ急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ寢臺料金ノ支給ヲ受クル場合ニ於ケル宿泊料ハ勅任官以上ニ在リテハ定額ノ十分ノ六、奏任官以下ニ在リテハ定額ノ十分ノ七トス

第十八條　特別ノ事情ニ因リ定額ノ車馬賃ヲ以テ其實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十九條　車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス

通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

第二十條　出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ四十貫迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

第二十一條　官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ハ之ヲ支給セス

### 第三章　日當、宿泊料及食卓料

第二十二條　日當、宿泊料及食卓料ハ別表ニ揭クル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス

第二十三條　日當ハ日數ニ應シ宿泊料ハ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ天災其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲上陸宿泊ヲ要シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

食卓料ハ船賃ノ外別ニ食料ヲ要スル場合又ハ船賃ヲ要セサルモ食料ヲ要スル場合ニ於テ夜數ニ應シテ之ヲ支給ス

第二十四條　旅行日數ハ出張地ニ於ケル滯在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ二百哩、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第二十五條　陸路六里未滿、鐵道四十八哩未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ亘ルトキハ鐵道ハ八哩、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十六條　在勤廳所在地區域內ノ出張ニシテ遠距離ニ涉ルトキハ定額ノ半額以內ノ日當ヲ支給スルコトヲ得

第二十七條　日當及宿泊料ハ同一地ニ滯在三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ二割、六十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付定額ノ三割ヲ減ス

同一地ニ滯在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

### 第四章　支度料、移轉料、著後手當及家族移轉料

第二十八條　支度料ハ南洋群島關東州南滿洲ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル者ニ別表ニ依リ之ヲ支給ス

南洋群島關東州南滿洲又ハ其ノ他ノ外國ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレ支度料ノ支給ヲ受ケタル者其ノ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル日ヨリ一年內ニ再ヒ南洋群島關東州南滿洲ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレタルトキ支給スル支度料ハ定額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ金額前ニ受ケタル金額ト合シテ定額ノ十五割ニ滿タサルトキハ定額ヲ超エサル範圍內ニ於テ通シテ十五割迄ヲ支給スルコトヲ妨ケス

南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中若ハ出張中ノ者南洋群島ト關東州南滿洲トノ間ニ於テ轉勤若ハ出張ヲ命セラレ又ハ南滿洲以外ノ外國ニ在勤中若ハ出張中ノ者南洋群島關東州南滿洲ニ轉勤若ハ出張ヲ命セラレタル場合ニ於テハ前ニ受ケタル支度料ノ額新ニ轉勤若ハ出張ヲ命セラレタル地方ニ付定メラレタル支度料ノ定額ニ達セサルトキニ限リ其ノ差額ノ範圍內ニ於テ支度料ヲ支給スルコトヲ得

第二十九條　移轉料及著後手當ハ左ニ揭クル者ニ之ヲ支給ス

一　南洋群島關東州南滿洲ニ赴任ヲ命セラレタル者

二　南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中轉勤ヲ命セラレ又ハ他地方勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者

第三十條　南洋群島關東州南滿洲ニ滯在中此等ノ地域ニ在勤ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレタル者ニハ移轉料及著後手當ヲ支給スルコトヲ得

第三十一條　移轉料ハ別表ニ依ル

著後手當ハ日當五日分及宿泊料五夜分ニ相當スル額トス

第三十二條　家族移轉料ハ左ノ場合ニ之ヲ支給ス

一　第二十九條又ハ第三十條ニ揭クル者家族ヲ隨伴シ又ハ赴任、轉勤若ハ歸朝ノ後之

ヲ呼寄スルトキ

二　賜暇歸朝ヲ許サレタル者許可ヲ受ケ妻子ヲ隨伴シ又ハ呼寄スルトキ

三　南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中許可ヲ受ケ家族ヲ呼寄セ又ハ歸朝セシムルトキ

但シ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外同一任地ニ付往返各一回限リトス

第三十三條　家族移轉料ハ妻ニ付テハ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃及食卓料ノ全額竝日當、宿泊料、支度料、著後手當ノ半額トシ妻以外ノ家族ニシテ十二歳以上ノ者ニ在リテハ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料及著後手當ノ半額トシ十二歳未滿ノ者ニ在リテハ更ニ其ノ半額トス

第三十四條　南洋群島關東州南滿洲ニ赴任若ハ出張ヲ命セラレタル者、同地域ニ在勤中轉勤若ハ歸朝ヲ命セラレタル者又ハ同地域ニ滯在中其ノ地域ニ在勤ヲ命セラレ若ハ新ニ任用セラレタル者其ノ出發前死亡シ又ハ命令ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ支度料及移轉料ノ全額以內ヲ支給スルコトヲ得

隨伴シ又ハ呼寄スルコトヲ許サレタル妻其ノ出發前死亡シ又ハ許可ヲ取消サレ其ノ他旅行ノ必要ナキニ至リタルトキハ本人ニ支給スヘキ支度料ノ半額以內ヲ支給スルコトヲ得

## 第五章　退官退職者旅費及死亡手當

第三十五條　南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中又ハ任所往返中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタルトキハ其ノ命令又ハ通知到達ノ日迄日當及宿泊料ヲ支給ス

第三十六條　前條ニ揭クル南洋群島關東州南滿洲在勤中ノ者命令又ハ通知到達ノ日ヨリ三月內ニ舊任地ヲ出發シ相當ノ期間內ニ本邦ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滯在日數三十日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外賜暇ニ依ル歸朝ノ例ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス但シ著後手當ハ之ヲ支給セス

第三十七條　南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中ノ者他ノ地ニ出張中又ハ公務若ハ賜暇ニ依ル歸朝中廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リ其ノ命令又ハ通知到達ノ日ヨリ一月內ニ出發シ相當ノ期間內ニ舊任地ニ歸著スルトキハ其ノ出發ノ日迄ノ滯在日數十五日ヲ限リ日當及宿泊料ヲ支給スルノ外其ノ地ヨリ舊任地迄ノ旅費ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ舊任地ニ於ケル滯在中ノ日當及宿泊料ヲ支給スル日數ハ前條ノ規定ニ依リ日當及宿泊料ヲ支給スル滯在日數ト通シテ四十日以內トス

第一項ニ揭クル者其ノ出張地ヨリ直ニ歸朝スルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス

前三項ノ規定ハ公務又ハ賜暇ニ依リ任所往返中廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル者ニ之ヲ準用ス

第三十八條　天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ又ハ事務引繼殘務整理等ノ爲前二條ニ規定スル期間內ニ出發スルコト能ハサルトキハ所管大臣ハ事情ヲ斟酌シ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第三十九條　在勤俸ヲ受クル期間ニ對シテハ第三十五條乃至第三十七條ノ規定ニ依リ支給スル滯在中ノ日當及宿泊料ハ之ヲ支給セス但シ在勤地以外ノ地ニ於ケル出張中又ハ公務歸朝中ノ日數ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十條　第三十五條、第三十六條及第三十八條ノ規定ハ南洋群島關東州南滿洲ニ出張中ノ者廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條　南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中、任所往返中又ハ出張中ノ者在勤地ニ於テ又ハ旅行中死亡シタルトキハ別表ニ依リ死亡手當ヲ其ノ遺族ニ支給ス

妻夫ノ任地ニ於テ又ハ許可ヲ受ケテ其ノ任所往返中死亡シタルトキハ本人ニ對スル死亡手當ノ半額以內ノ金額ヲ死亡手當トシテ支給スルコトヲ得

第四十二條　第三十六條、第三十七條及前條ノ場合ニ於テハ其ノ家族ニ付第三十三條ノ規定ニ準シ其ノ地ヨリ本邦迄ノ旅費ヲ支給ス

第四十三條　第三十六條乃至第三十八條、第四十條及前條ノ規定ハ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタル者及其ノ家族ニ付テハ之ヲ適用セス

## 第六章　雜則

第四十四條　許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ニ在リテハ二人、勅任官ニ在リテハ一人、奏任官以下ニ在リテハ出張ノ場合ヲ除クノ外六歳未滿ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ傭人相當ノ鐵道賃、船賃及食卓料ヲ支給スルコトヲ得

南洋群島關東州南滿洲ニ在勤中若ハ歸朝後妻ヲ呼寄セ若ハ歸朝セシムル場合又ハ同地域ニ在勤中若ハ任所往返中死亡シタル者ノ妻歸朝スル場合ニ於テ許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ノ妻ニ在リテハ二人、勅任官又ハ奏任官ノ妻ニ在リテハ一人、判任官ノ妻ニ在リテハ六歳未滿ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ前項ノ規定ニ準シ支給スルコトヲ得

第三十六條、第三十七條、第四十條又ハ第四十一條ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケ伴ヒタル從者アルトキハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ第四十三條ノ規定ヲ準用ス

第四十五條　事務引繼殘務整理等ノ爲廢官、退官、退職、休職、非職、停職、待命又ハ轉役ト爲リタル者ニ旅行又ハ滯在ヲ命シタルトキハ旅費ヲ支給ス

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條　第三十四條乃至第四十條及前條ノ規定ニ依リ支給スル旅費ハ前官又ハ本官相當ノ旅費額ニ依ル

第四十七條　本令ニ依リ旅費ノ支給ヲ受クヘキ者旅行ノ必要ナキニ至リタル場合ニ於テ未タ旅行ヲ爲サヽル區間ノ鐵道賃、船賃、急行料金、寢臺料金又ハ車馬賃ノ支拂ヲ要スルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

第四十八條　本令ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給ニ關シ必要ナル規程ハ大藏大臣之ヲ定ム

### 附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中支度料、移轉料、著後手當、妻ニ對スル支度料及著後手當ニ相當スル家族移轉料又ハ死亡手當ニ關スル規定ハ在外公館費用條例ノ適用又ハ準用ヲ受クル者ニハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

關東都督府職員旅費規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ定額ノ定アル區間ヲ旅行中ノ者ニ支給スル船賃ハ其ノ區間ニ限リ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前ヨリ引續キ同一地ニ滯在スル者ニ對スル第二十七條ノ規定ノ適用ニ關シテハ前後ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

本令施行前南洋群島關東州南滿洲ニ赴任ヲ命セラレ若ハ本邦勤務ノ爲歸朝ヲ命セラレ又ハ同地域ニ在勤中轉勤ヲ命セラレタル者、賜暇歸朝ヲ許サレタル者又ハ賜暇歸朝中歸任スル者本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給ス

本令施行前南洋群島關東州南滿洲ニ滯在中同地域ニ在勤ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレタル者本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ移轉料ヲ支給スルコトヲ得

前二項ニ揭クル者家族ヲ隨伴シ、呼寄セ又ハ歸朝セシムル場合ニ於テ其ノ家族本令施行後目的地ニ到著シタルトキハ本令ニ依リ家族移轉料ヲ支給スルコトヲ得

本令施行前南洋群島南滿洲ニ赴任ヲ命セラレ本令施行後出發シタル者ニ支給スヘキ支度料ノ額從前ノ規定ニ依リ支給スヘキ額ヨリ少額ナルトキハ仍從前ノ例ニ依ル

（別表）

| 官階＼區分 | 車馬賃 | 日當 | 宿泊料 | 食卓料 | 支度料 | 移轉料 | 死亡手當 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 親任官 | 四圓 | 十八圓 | 二十七圓 | 六圓 | 八百圓以內 | 三百五十圓以內 | 三千圓以內 |
| 勅任官 | 三圓 | 十三圓 | 二十圓 | 五圓 | 六百圓以內 | 二百五十圓以內 | 二千圓以內 |
| 奏任官　五等以上 | 二圓 | 九圓 | 十五圓 | 四圓 | 四百五十圓以內 | 百八十圓以內 | 千二百圓以內 |
| 奏任官　六等以下 | 二圓 | 八圓 | 十四圓 | 四圓 | 四百五十圓以內 | 百八十圓以內 | 九百圓以內 |
| 判任官　五級俸以上 | 一圓五十錢 | 六圓 | 十一圓 | 三圓 | 二百五十圓以內 | 百二十圓以內 | 七百圓以內 |
| 判任官　六級俸以下 | 一圓五十錢 | 五圓 | 十圓 | 三圓 | 二百五十圓以內 | 百二十圓以內 | 五百圓以內 |

---

## ●南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則（大正十年九月一日大藏省令第三十二號）

南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則左ノ通定ム

### 南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則

第一條　旅費ハ南洋群島關東州南滿洲旅費規則第五條ノ規定ニ依リ其ノ一部ヲ支給セサル場合ト雖精算ヲ爲サシムヘシ

第二條　南洋群島關東州南滿洲旅費規則第十三條ニ規定スル手當ハ旅費以外ニ特ニ旅行者ニ支給スル金額ニシテ其ノ精算ヲ要セサルモノヲ謂フ

第三條　鐵道賃ハ奏任官以上ニ在リテハ一等ノ旅客運賃（通行稅ヲ含ム）判任官ニ在リテハ二等ノ旅客運賃ニ依リ之ヲ計算ス但シ一等ノ座席ノ設ナキモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃ニ依ル

南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ屬セサル鐵道線路ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス判任官ニ對シテモ一等ノ旅客運賃ヲ支給ス

勅任官以上ニシテ第一項ノ運賃ヲ以テ支辨シ能ハサル特別ノ座席ヲ要シタルトキハ第一項運賃ノ外其ノ座席ノ爲現ニ支拂ヒタル料金ヲ支給ス

第四條　船賃ハ奏任官以上ニ在リテハ一等ノ旅客運賃（通行稅、棧橋賃及艀賃ヲ含ム）判任官ニ在リテハ二等ノ旅客運賃ニ依リ之ヲ計算ス但シ一等ノ船室ノ設ナキモノニ在リテハ上級ノ運賃其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘船ニ要スル運賃ニ依ル

第五條　判任官ニシテ特別ノ事情ニ依リ前條ノ支給額ヲ以テ支辨スルコト能ハサル船室ヲ要シタル場合ニ於テハ其ノ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第六條　車馬賃ハ鐵道又ハ船舶ノ便アル區間ノ旅行ニハ之ヲ支給セス但シ用務ノ性質上鐵道又ハ船舶ニ依リ難キ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　陸路路程ハ郵便線路圖ノ示ス所ニ依リ之ヲ計算スヘシ

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ハ成ルヘク領事館其ノ他帝國官衙ノ證明スル所ニ依ルヘシ

第八條　賜暇歸朝ヲ許サレタル者ニ支給スル任地本邦間ノ旅費トハ任地ト本邦ニ於ケル所屬廳所在地トノ間ノ旅費、本邦ニ所屬廳ナキ場合ニ在リテハ任地ト東京トノ間ノ旅費ヲ謂フ

第九條　南洋群島關東州南滿洲旅費規則第三十六條、第三十七條、第四十二條又ハ第四十四條ノ規定ニ依リ支給スル旅費トハ本邦ニ於ケル住所地迄ノ旅費、其ノ住所地ナキ者ニ在リテハ本邦ニ於ケル家族ノ住所地迄ノ旅費、本人又ハ家族ノ住所地共ニナキ者ニ在リテハ原籍地迄ノ旅費ヲ謂フ但シ其ノ金額ニシテ本邦ニ於ケル目的地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ目的地ニ至ル旅費ヲ支給ス

第十條　家族移轉料ヲ支給スル場合ニ於ケル家族トハ妻子及同一戸籍內ニ在リテ本人ノ扶養スル親族ヲ謂フ

第十一條　南洋群島關東州南滿洲旅費規則ニ於テ遺族トハ配偶者、直系卑屬、直系尊屬及兄弟姉妹又ハ同一戸籍內ニ在ル親族ヲ謂フ

死亡手當ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭クル順位ニ依リ同順位內ニ在リテハ民法第九百七十條及第九百八十四條ノ規定ニ準シ之ヲ定ム

第十二條　南洋群島關東州南滿洲旅費規則第四十四條ノ規定ニ依ル從者ノ旅費ハ傭人ノ旅費ニ付階級ヲ設クル場合ニ於テハ其ノ最下級ノ額トス

### 附　則

本令ハ南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

---

## ●諸調査會等ノ職員旅費支給規則（大正十年一月三十一日勅令第十三號）

改正　大正一二年第三二九號、第三五三號、第三六二號、一三年第一八號、第二六〇號、一四年第二五九號

朕史蹟名勝天然紀念物調査會等ノ職員ノ旅費支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、大藏、內務、文部大臣副署）

### 諸調査會等ノ職員旅費支給規則

第一條　都市計畫中央委員會、特別都市計畫委員會、特別都市計畫法ニ依ル補償審査會、勞働保險調査會、中央衞生會、日本薬局方調査會、保健衞生調査會、古社寺保存會及中央職業紹介委員會ノ會長委員及臨時委員、都市計畫中央委員會及特別都市計畫委員會ノ委員代理竝都市計畫地方委員會及地方職業紹介委員會ノ會長其ノ資格ヲ以テ旅行スルトキハ在職官吏ニハ其ノ本官相當ノ旅費ヲ、其ノ他ノ者ニハ別表第一號ニ依ル旅費ヲ支給ス但シ會長ニシテ在職官吏ニ非サル者ニハ內國旅費規則ニ依ル勅任官ノ旅費ヲ支給ス

第二條　都市計畫地方委員會ノ委員臨時委員及委員代理、土地區劃整理委員會及地方職業紹介委員會ノ委員竝【防疫評議員】其ノ資格ヲ以テ旅行スルトキハ在職官吏ニハ其ノ本官相當ノ旅費ヲ、其ノ他ノ者ニハ別表第二號ニ依ル旅費ヲ支給ス

第三條　本令ニ依ル旅費ハ會議ノ爲召集セラレタル場合ニ在リテハ會議地又ハ會議地ヲ距ル三里以內ノ地ニ住居スル者ニハ之ヲ支給セス

第四條　本令ニ定ムルモノノ外旅費ノ支給ニ關シテハ內國旅費規則ヲ準用ス

### 附　則

本令ハ大正九年六月一日以後ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

明治四十四年勅令第百六十一號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

| 號數＼區分 | 車馬賃（一里ニ付） | 日當（一日ニ付） | 宿泊料（一夜ニ付） | 食卓料（一夜ニ付） | 鐵道賃及船賃 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第一號 | 一圓二十錢 | 六圓 | 九圓 | 三圓 | 內國旅費規則ノ定ムル所ニ從ヒ高等官ノ例ニ依ル |
| 第二號 | 九十錢 | 五圓 | 八圓 | 二圓五十錢 | 右ニ同シ |

---

## ●大喪使旅費規程（昭和二年一月二十一日大藏省令第一號）

大喪使旅費規程左ノ通定ム

### 大喪使旅費規程

第一條　大喪費ノ支辨ニ屬スル旅費ハ本規程ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　內國旅費ハ左ノ區分ニ依リ內國旅費規則別表ノ定額ヲ支給ス

一　本官アル者ニハ其ノ官相當ノ額

二　親任官又ハ勅任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ親任官又ハ勅任官ニ支給スヘキ額

三　奏任官五等以上ノ待遇ヲ受クル者又ハ奏任官ノ待遇ヲ受ケ官等ノ配當ナキ者ニシテ俸給又ハ手當年額三千六百圓以

上（月額ノモノハ十二月分ヲ以テ年額トス）ヲ受クル者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額、其ノ他奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

四　判任官ノ待遇ヲ受ケ月俸又ハ月手當八十五圓以上ヲ受クル者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額以內、其ノ八十五圓未滿ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額以內ニ於テ大喪使長官ノ定ムル額

五　宮內官ニハ內國旅費規則別表ニ照準シ各其ノ相當額

六　貴衆兩院議長ニハ親任官相當ノ額、有爵者（朝鮮貴族ヲ含ム）ニハ勅任官相當ノ額

第三條　前條ニ規定セサル者ノ內國旅費ニ關シテハ大藏省所管旅費支給規則ノ定ムル所ニ依ル

第四條　特ニ參列ヲ命セラレ旅行スル者ニハ順路ニ依リ居住地ヨリ用務地ニ至ル往復旅費ヲ支給ス但シ用務地到著ノ翌日以後ニ於ケル滯在中ノ日當及宿泊料ハ參列ノ當日ニ限リ之ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ大藏省所管旅費支給規則第十四條ノ二ノ規定ニ依ル用務地ニ於ケル起點ト葬場殿間ノ車馬賃ハ之ヲ支給ス

第五條　在京者ニシテ殯宮葬場殿間鹵簿內奉送又ハ葬場殿參集ノ場合ニ於テハ旅費ヲ支給セス

第六條　朝鮮、臺灣又ハ樺太ノ旅行ニ在リテハ大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮、臺灣及樺太內旅費支給規則ニ依リ、南洋群島、關東州又ハ南滿洲ノ旅費ニ在リテハ大藏省所管經費支辨待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則ニ依リ第二條ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

第七條　警務ニ從事スル警察官吏ノ旅費ハ警察官吏內國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

第八條　陸海軍軍人軍屬ニハ左ノ區分ニ依リ旅費ヲ支給ス

一　陸軍軍人軍屬ニシテ單獨旅行ヲ爲ス者ニハ陸軍旅費規則第一表（朝鮮、臺灣、樺太ニ在リテハ第八表、支那ニ在リテハ第九表）ノ定額、隊伍旅行ノ者ニハ同規則第五表ノ定額（旅籠料ニ限リ倍額）以內ニ於テ實費支辨トシ別ニ第六表ノ旅次手當ヲ支給ス

二　海軍軍人軍屬ニシテ單獨旅行ヲ爲ス者ニハ海軍內國旅費規則第二表ノ定額又ハ海軍南洋群島關東州南滿洲旅費規則第二表ノ定額、隊伍旅行ノ者ニハ海軍內國旅費規則第六表ノ定額又ハ海軍南洋群島關東州南滿洲旅費規則第四表ノ定額

前項ノ旅費ノ支給方ニ關シテハ陸軍ニ在リテハ陸軍旅費規則、海軍ニ在リテハ海軍內國旅費規則、大正九年海軍省令第十八號又ハ海軍南洋群島關東州南滿洲旅費規則ヲ準用ス但シ第四條及第五條ノ適用ヲ妨ケス

第九條　通信事務ニ從事スル遞信省職員ノ旅費ハ遞信省內國旅費規程ノ定ムル所ニ依ル

第十條　鐵道事務ニ從事スル鐵道省職員ノ旅費ハ鐵道省所管內國旅費規程ノ定ムル所ニ依ル

第十一條　旅費ノ支給方ニ關シ本規程ニ定メナキモノハ內國旅費規則、南洋群島關東州南滿洲旅費規則ニ依ルノ外大正九年大藏省令第十六號、大正十三年大藏省令第二十八號、大藏省所管旅費支給規則及南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則ヲ準用ス

第十二條　本規程ニ依リ難キ事由アル場合ニ於テハ其ノ都度別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和元年十二月二十五日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

## ●人違又ハ人名誤寫等ニテ呼出シタル者ニ旅費日當支給方

（明治九年五月四日太政官布告第六十三號）
改正　明治九年第一〇七號、第一三二號、第一五一號

明治七年七月第七十八號同年十一月第百貳拾七號同八年五月第七拾四號布告及同七年七月第九拾壹號同年十一月第百五拾八號達ヲ廢シ【證人竝無罪解放】ノ者等ノ旅費支給方ノ儀今般更ニ左ノ通相定當五月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事

一【罪囚ノ證人タルヘキト思量シ】裁判官又ハ警察官吏ニ於テ【呼出ス者探索上ニテ捕ニ就キ及呼出ヲ受テ無罪ニ歸スル者】人違又ハ官吏ノ其人名ヲ誤寫スル等ニテ呼出シタル者（各官廳ヨリ呼出ス者モ亦同シ）【有罪ト認メ呼出サル、者ヘ附添ヲ命スル者】往復竝滯留中左ノ通支給スヘシ

【但推糺ノ爲メ手鎖繩付等ニテ護送及檻倉入圈中等官費ヲ以仕賄ノ時日ハ別ニ給セス】

金五拾錢　旅費日當
金三拾錢　滯留日當

一該廳ヨリ片道二里以上十里迄ハ旅費日當一日分ヲ給シ爾餘一日十里詰ヲ以テ往返共之ヲ給シ滯在中ハ其日數ニ應シ滯留日當ヲ給スヘシ（十里以上ノ端里數一里ニ滿タサルハ切捨トス一里以上ハ旅費日當一日分ヲ給ス）

但片道貳里以上滿五里迄ノ地ヲ一日間ニ往來スルモ日當ハ一日分ノ外給セス尤貳里未滿ノ地ヨリ呼出セシモノハ辨當料金貳錢五厘ヲ給ス

一各裁判所及警察官吏ヨリ【呼出ヲ受テ無罪ニ歸スルモノ】人違又ハ官吏ノ其人名ヲ誤寫スル等ニテ呼出タルモノ、旅費ハ其呼出タル廳ヨリ之ヲ給ス【其他ハ總テ本管廳（寄留ノモノハ其寄留地ノ管轄廳）ヨリ給スルニ付證人及附添ヲ命スル者等ノ如キハ問糺中ノ日數竝ニ往復里程ヲ詳記シ其裁判官ノ證印ヲ請ケ旅費受取方ヲ申請スヘシ】

（明治九年十一月八日內務省達乙第百二十七號）　府縣（東京府ヲ除ク）

罪囚證人【及無罪解放之者】旅費支給方ニ付本年第六拾三號及ヒ第百三拾二號ヲ以公布之趣有之候處警察官吏ノ處分ニ依リ旅費滯留日當支給スヘキ分ハ凖テ警察費ヨリ可仕拂此旨相達候事

## ●宮內官內國旅費令

（明治四十三年七月十二日皇室令第十三號）
改正　明治四三年第二一號　大正四年第三號、六年第一號、九年第四號、第一四號

朕宮內官內國旅費令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（宮內大臣副署）

### 宮內官內國旅費令

第一條　宮內官公務ニ依リ本邦內ヲ旅行スルトキハ本令ノ定ムル所ニ從ヒ旅費ヲ賜フ

旅費トハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當、移轉料、家族移轉料及支度料ヲ謂フ

第二條　鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ賜フ鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

第三條　日當ハ日數ニ應シ宿泊料ハ夜數ニ應シテ之ヲ賜フ

水路旅行ニハ宿泊料ヲ賜ハラス但シ官用ノ船舶ニ依リテ旅行ヲ命シタル場合ニ於テ宮內省ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ食卓料ヲ賜フ

第四條　旅費ハ別表ニ從ヒ之ヲ賜フ

鐵道賃、船賃、車馬賃、日當及宿泊料ハ順路ニ依ル但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第五條　公務ノ爲滯在シタル日數及途中已ムコトヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ二百哩、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付キ一日ノ割合ヲ以テ算出シタル日數ヲ踰エテ旅費ヲ賜フコトナシ

一旅行ニシテ鐵道、水路又ハ陸路ニ亘リ通算シテ前項ノ日數ヲ算出スヘキ場合ニ於テ鐵道ニ付キ二百哩未滿、水路ニ付キ百海里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ鐵道ハ十七哩、水路ハ八海里ヲ以テ陸路一里ト看做ス

前二項ノ場合ニ於テ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第六條　赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日當五日分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ賜フ

家族移轉料ハ家族一人每ニ舊任地又ハ本人ノ居住地ヨリ新任地ニ至ル本人ノ受クヘキ鐵道賃船賃車馬賃日當宿泊料食卓料ノ全額及赴任手當ノ三分ノ二ニ該當スル金額トス但シ十二歲未滿ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス

家族ノ數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付賜與スル家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依ル賜與額ノ半額トス

赴任者赴任後一年內ニ故ナク其ノ家族ヲ新任地ニ移轉セシメサルトキハ家族移轉料ヲ返還セシム

第七條　官用ノ船車馬等ニ依リテ旅行ヲ命シタルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ賜ハラス

官費ヲ以テ寢具等ヲ設備シタル場所ニ宿泊シタルトキハ宿泊料ノ定額ヲ減スルコトヲ得

第八條　任地所在ノ市區町村內ノ旅行ト雖陸路二里ヲ踰ユルトキハ定額ノ半額以內ノ日當ヲ賜ヒ用務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ路程ニ拘ラス宿泊料ヲ賜フ

前項ノ場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ必要ナル費用ヲ賜フコトヲ得

第八條ノ二　前條第二項ノ規定ハ任地所在地外ノ市區町村內ヲ旅行シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條ノ三　第八條第一項ノ規定ハ任地ニ準スルヲ適當ト認ムル區域內ノ旅行ニ之ヲ準用ス

第九條　私事ノ爲任地以外ニ滯在スル者ニ旅行ヲ命シタルトキハ旅費ハ滯在地ヲ以テ出發地トシタル額ト任地ヲ以テ出發地トシタル額トヲ比較シ其ノ少キニ依ル

第十條　新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ赴任ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ賜フ休職中ノ者復職ヲ命セラレタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ舊任地又ハ本人ノ居住地以外ヨリ新任地ニ移轉スル家族ニ付賜與スル家族移轉料ニ之ヲ準用ス

第十一條　鐵道賃、船賃、車馬賃ハ各其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ算出ス但シ定額ヨリ多キ額ヲ賜ヒ又ハ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ合算ス

合算上一哩未滿、一海里未滿、一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第十二條　日ニ依リテ旅費ヲ區分スル必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區分ス

第十三條　旅行中退官シタル者ハ旅費ニ付テハ從前ノ任地ニ歸著スルマテ之ヲ在官者ト看做ス但シ宮內官分限令ノ規定ニ依リテ其ノ官ヲ失ヒ又ハ宮內官懲戒令ノ規定ニ依リ其ノ官ヲ免セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　旅行中休職トナリタル者ハ旅費ニ付テハ其ノ任地ニ歸著スルマテ之ヲ在職者ト看做ス

第十五條　旅行中死亡シタルトキハ第十三條ノ規定ニ依ル旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ賜フ

第十六條　事務引繼、殘務整理等ノ爲退官者ニ旅行ヲ命シタルトキハ旅費ニ付テハ之ヲ在官者ト看做ス

第十七條　兼官アル者ノ旅費ハ其ノ官ノ高キニ從フ

第十八條　特別ノ事情ニ依リ必要アルトキハ支度料ヲ賜フ

旅行前ニ於テ事務ノ都合ニ依リ旅行ヲ免セラレ又ハ旅行ノ必要止ミタルトキハ特ニ支度料ノ半額以內ヲ賜フコトアルヘシ

前項ノ規定ハ旅行前ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用シ其ノ金額ハ之ヲ遺族ニ賜フ

第十九條　特別ノ事情ニ依リ必要アルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ハ定額ニ拘ラス其ノ實費額ヲ賜フ

第二十條　職務ノ必要ニ依リ自己ノ馬匹ヲ使用セシムルトキハ其ノ馬匹使用ニ要スル實費額ヲ賜ヒ車馬賃ヲ賜ハラス

第二十一條　林野視察、檢地、測量、土木工事、漁獵等ノ爲現場ヲ巡行セシムルトキハ同一市區町村內ノ巡行ヲ除クノ外日當ノ定額六割以內ヲ增賜シ車馬賃ヲ賜ハラス漁獵ノ爲御獵場內ヲ旅行スルトキ亦同シ

第二十二條　特別ノ事情ニ依リ必要アルトキハ日當及宿泊料ノ定額ノ二倍以內ヲ增賜ス

第二十三條　常時旅行ヲ要スル者ノ旅費ハ其ノ定額ヲ減シ、定額ニ拘ラス月額若ハ日額ト爲シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ賜ハラサルコトアルヘシ

滯在ノ日數十五日ヲ踰ユルトキ其ノ他旅行ノ性質ニ依リ必要アルトキ亦前項ニ同シ

第二十四條　本令ノ規定ハ他官廳ノ官吏宮內省ノ用務ニ依リ旅行スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　他官廳ノ用務ヲ兼ネテ旅行スル宮內官其ノ他本令ニ規定ナキ者旅費ハ宮內大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條　朝鮮臺灣樺太又ハ千島國ヲ旅行スル場合ニ賜フヘキ旅費額ニ付テハ宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第二十七條　旅費ニ付テハ親任待遇職員ハ親任官、勅任待遇職員麝香間祗候及錦鷄間祗候ハ勅任官、奏任待遇職員ハ奏任官ト看做ス

判任待遇職員ノ旅費ハ宮內大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

| | 親任官 | 勅任官 | 奏任官 | 判任官 |
|---|---|---|---|---|
| 鐵道賃（一哩ニ付） | 十二錢 | 十二錢 | 十二錢 | 九錢 |
| 船賃（一海里ニ付） | 十五錢 | 十五錢 | 十五錢 | 十二錢 |
| 車馬賃（一里ニ付） | 一圓八十錢 | 一圓五十錢 | 一圓二十錢 | 一圓 |
| 日當（一日ニ付） | 十二圓 | 九圓 | 六圓 | 三圓六十錢 |
| 宿泊料（一夜ニ付） | 十八圓 | 十四圓 | 九圓 | 六圓 |
| 食卓料（一夜ニ付） | 四圓 | 三圓五十錢 | 二圓六十錢 | 一圓八十錢 |
| 移轉料 | 四百圓以內 | 三百五十圓以內 | 二百五十圓以內 | 百五十圓以內 |
| 支度料 | 二百圓以內 | 百八十圓以內 | 百五十圓以內 | 百圓以內 |

## ●宮內官內國旅費令施行規則

（明治四十三年七月十二日宮內省令第五號）
改正　明治四三年第一二號　大正四年第一〇號、六年第一號、九年第五號、第一九號

宮內官內國旅費令施行規則勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

### 宮內官內國旅費令施行規則

第一條　鐵道旅行ハ停車場、水路旅行ハ波止場、陸路旅行ハ郵便線路圖ニ定ムル基點又ハ元標ヲ以テ路程ノ基點トス但シ郵便線路圖ニ定ムル基點又ハ元標ニ依リ難キ場合ニ在リテハ官公署ノ測定シタル基點ニ依ル

第二條　路程ノ計算ハ鐵道哩程表又ハ郵便線路圖ニ依リ鐵道哩程表又ハ郵便線路圖ニ示ササルモノハ官公署ノ測定スル所ニ依リ官公署ノ測定ナキモノハ運送營業者ノ測定スル所ニ依ル

第三條　陸路旅行ノ路程ノ基點ト停車場又ハ波止場トノ間一里未滿ナルトキハ其ノ距離ハ之ヲ路程ニ算入セス

第四條　移轉料ハ路程ノ遠近ヲ參酌シテ其ノ金額ヲ定ム

第四條ノ二　宮內官內國旅費令第六條ノ規定ニ依ル家族ハ同居ノ直系尊屬、配偶者及未成年ノ直系卑屬トシ赴任又ハ之ニ準スヘキ時ノ現在ニ依ル

第五條　宮內官內國旅費令第八條第一項及第八條ノ三ノ規定ニ依リ賜フヘキ日當ハ距離ノ遠近、交通ノ便否、用務ノ緩急其ノ他地方ノ情況等ヲ參酌シテ其ノ金額ヲ定ム

第六條　支度料ハ旅行日數五日以上ニシテ左ノ場合ニ該當スルトキ之ヲ賜フ

一　廉立チタル行幸啓ニ供奉スルトキ
二　皇族ノ特殊ノ旅行ニ隨行スルトキ
三　外國貴賓接伴ノ爲旅行スルトキ

支度料ハ路程ノ遠近、日數ノ多寡及用務ノ性質ヲ參酌シテ其ノ金額ヲ定ム

第七條　宮内官内國旅費令第十九條ノ規定ニ依リ鐵道賃、船賃ノ實費額ヲ賜フハ定額ヲ以テ旅費ヲ支辨シ難キ場合ニ限ル

前項ノ場合ニ於テハ奏任官以上ハ一等賃錢ニ依リ判任官ハ二等賃錢ニ依ル但シ特別急行ヲ要スル場合及用務ノ爲上官ニ隨件ヲ要スルトキハ判任官ニ在リテモ一等賃錢ニ依ルコトヲ妨ケス

第八條　宮内官内國旅費令第十九條ノ規定ニ依リ車馬賃ノ實費額ヲ賜フハ暴風、强雨、積雪、道路險惡、交通不便ノ場合、特別急行ヲ要スル場合、用務ノ爲上官ニ隨件ヲ要シ其ノ他定額ヲ以テ旅費ヲ支辨シ難キ場合ニ限ル

前項ノ場合ニ於テハ携帶シタル荷物ノ運搬ニ要スル實費額ハ荷物ノ量積奏任官以上ハ十五貫目、判任官ハ十貫目ニ限リ之ヲ車馬賃ト看做ス

第九條　宮内官内國旅費令第二十條ノ規定ニ依ル實費ハ馬匹ノ運搬及飼養ニ要スル費用、馬匹使用ノ間ニ要シタル荷物ノ運搬費並馬數ニ應シタル馬丁ノ費用トス

馬丁ノ費用ハ宮内省小者ノ旅費ニ準ス

第十條　宮内官内國旅費令第二十二條ノ規定ニ依リ日當及宿泊料ヲ增賜スルハ左ノ場合ニ限ル

一　勅使トシテ旅行スルトキ
二　公式ノ皇后宮使トシテ旅行スルトキ
三　公式ノ東宮使東宮妃使トシテ旅行スルトキ
四　特旨ニ依リ差遣セラレ旅行スルトキ
五號乃至第七號　削除
八　第一號乃至第四號ニ掲ケタル者ニ隨行スルトキ
九　外國貴賓接伴ノ爲旅行スルトキ

第十一條　前條ノ場合ニ於ケル日當及宿泊料ノ增賜ハ第一號ハ十割、第二號及第三號ハ六割、第四號乃至第九號ハ二割トス

前條ノ場合ニ於テ同一地ニ滯在ノ日數十日ヲ踰ユルトキハ爾後日當及宿泊料ハ之ヲ增賜セス用務ノ都合ニ依リ一時其ノ滯在地ヲ離ルルコトアルモ前後ノ滯在日數ヲ通算シテ十日ヲ踰ユルトキ亦同シ

第一號乃至第四號及第八號ノ場合ニ於テハ增賜ハ出張地ノ屬スル府縣管内ニ到著ノ日ヨリ其ノ管内ヲ離ルル日マテニ限ル

第四號ノ場合ニ於テ旅行ノ目的災害地又ハ陵墓ノ視察ナルトキハ增賜ハ第一號ニ準ス

第九號ノ場合ニ於テハ增賜ハ貴賓ニ隨從スル間ニ限ル但シ隨從スヘキ地ニ到著シタルトキハ其ノ日ヨリ隨從スルモノト看做ス

第十一條ノ二　官馬ニ依リ遠乘ヲ命セラレ旅行スルトキハ陸路六里ヲ踰ユル場合ニ限リ宮内官内國旅費令第二十二條ノ規定ニ依リ日當ノ定額十五割以内ヲ增賜ス

前項ノ場合ニ於テハ路程ノ遠近地方ノ情況等ヲ參酌シテ其ノ金額ヲ定ム

第十一條ノ三　前條ノ規定ハ官用ノ馬車又ハ自動車ノ運轉ニ從事シ旅行スルトキニ之ヲ準用ス

第十二條　旅費ノ定額ヲ增加スヘキ事由重複スルトキハ其ノ間增賜額ノ多キニ從フ

第十三條　他官廳ノ用務ヲ兼ネテ旅行スル宮内官ニ賜フヘキ旅費額ハ其ノ官廳ヨリ支給スル旅費額ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第十三條ノ二　判任待遇職員ノ旅費ハ判任官ノ旅費ノ定額ノ八割ニ相當スル額トス

第十四條　官職ヲ有セサル者ニシテ有爵者及從四位勳三等以上ヲ有スル者ハ勅任官、從六位勳六等以上ヲ有スル者ハ奏任官、其ノ他ノ位勳ヲ有スル者ハ判任待遇職員ノ旅費額ニ依ル

第十五條　前條ノ規定ニ據リ難キ者及前條ノ規定ニ該當セサル者ニ付テハ其ノ身分並用務ノ性質ヲ參酌シテ其ノ旅費額ヲ定ム

## ●宮内官朝鮮臺灣樺太及千島國旅費規則

（大正九年十月三十日宮内省令第十五號）

宮内官朝鮮臺灣樺太及千島國旅費規則勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

第一條　宮内官朝鮮臺灣樺太又ハ千島國幌筵島以北ヲ旅行スルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ賜フ

第二條　旅費ノ定額ハ別表ニ依ル

第三條　本令ノ旅費ハ朝鮮臺灣樺太又ハ千島國幌筵島以北ニ最初到著ノ地ヨリ最終出發ノ地ニ至ルマテ之ヲ賜フ但シ日當ハ朝鮮臺灣樺太又ハ千島國幌筵島以北ニ最初到著ノ日ヨリ最終出發ノ日マテトス

第四條　支度料ハ別表規定ノ範圍内ニ於テ朝鮮ニ赴任スル者又ハ十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間内ニ樺太又ハ千島國幌筵島以北ニ出張スル者ニ之ヲ賜フ

第五條　朝鮮ニ在勤スル者退官又ハ休職ト爲リタルトキハ三十日以内ニ前任地ヲ出發シテ内地ニ歸鄕スル場合ニ限リ前任地ヨリ原籍地マテ之ヲ在官者又ハ在職者ト看做シ定額ノ旅費ヲ賜フ但シ刑事裁判懲戒處分又ハ自己ノ便宜ニ因リ退官又ハ休職ト爲リタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　朝鮮ニ在勤スル者死亡シタルトキハ前條ノ規定ニ依リ算出シタル旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ賜フ

第七條　本令ニ規定ナキ事項ニ付テハ宮内官内國旅費令及宮内官内國旅費令施行規則ニ依ル但シ宮内官内國旅費令第六條及第十三條乃至第十五條ノ規定ニ依ル旅費ハ本令ノ旅費トシ宮内官内國旅費令施行規則第十一條第四項ノ場合ニ於テハ朝鮮臺灣又ハ樺太内ヲ以テ之ヲ府縣管内ト看做ス

第八條　李王職長官ハ別段ノ規程ヲ定メ本令ノ旅費定額ノ範圍内ニ於テ李王職職員ノ朝鮮ヲ旅行スル場合ニ賜與スヘキ旅費ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ宮内大臣ノ認可ヲ經ヘシ

附　則

本令ハ大正九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年宮内省令第十九號ハ之ヲ廢止ス

（別表）

| | 鐵道賃（一哩ニ付） | 船賃（一海里ニ付） | 車馬賃（一里ニ付） | 日當（一日ニ付） | 宿泊料（一夜ニ付） | 食卓料（一夜ニ付） | 移轉料 | 支度料 赴任 | 支度料 出張 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 親任官 | 十五錢 | 二十五錢 | 二圓八十錢 | 十三圓 | 二十二圓 | 四圓 | 四百圓以内 | 四百五十圓以内 | 三百圓以内 |
| 勅任官 | 十五錢 | 二十五錢 | 二圓三十錢 | 十圓 | 十八圓 | 三圓五十錢 | 三百三十圓以内 | 三百五十圓以内 | 二百[illegible]十圓以内 |
| 奏任官 | 十五錢 | 二十五錢 | 一圓八十錢 | 七圓六十錢 | 十二圓 | 二圓六十錢 | 二百三十圓以内 | 二百五十圓以内 | 百八十圓以内 |
| 判任官 | 十錢 | 二十錢 | 一圓三十錢 | 四圓五十錢 | 八圓 | 二圓 | 百五十圓以内 | 百八十圓以内 | 百圓以内 |

## ●外國ニ出張ヲ命セラレタル者ノ渡切旅費ニ關スル件

（大正十二年七月九日皇室令第十二號）

朕外國ニ出張ヲ命セラレタル者ノ渡切旅費ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（宮内大臣副署）

外國ニ出張ヲ命セラレタル者ノ旅費ニ付宮内大臣必要アリト認ムルトキハ定額ニ拘ラス渡切ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ出張ヲ命セラレタル者任務ヲ果サス又ハ官ノ都合ニ依リ之ニ旅行ノ中止ヲ命シ若ハ命令ヲ取消シタルトキハ旅費ノ一部又ハ全部ヲ返還セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●宮内省外國旅費臨時增賜等ノ件

（大正九年六月一日宮内省令第六號）改正　大正九年第一七號

宮内省外國旅費臨時增賜等ノ件勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

外國旅行ニ付テハ當分ノ内旅費定額ノ五割ヲ增賜ス但シ增賜ヲ爲スモ鐵道賃又ハ船賃ノ實費ニ足ラサルトキハ更ニ其ノ不足額ヲ增賜スルコトヲ得

銀價騰貴ニ基ク特別ノ事情アル場合ニ於テハ旅費定額十割以内ヲ增賜スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## ●在外公館職員等ニ支給スル旅費ノ特例

（大正十四年三月十七日外務省令第二號）

外國旅費規則第十條及南洋群島關東州南滿洲旅費規則第十一條ニ依リ在外公館職員等ニ支給スル旅費ノ特例左ノ通之ヲ定ム

在外公館職員等ニ支給スル旅費ノ特例

第一條　勅任官以上ノ者、臨時代理大使、臨時代理公使、館長タル總領事（奏任）及領事ニ支給スル日當、宿泊料、食卓料、支度料（赴任）及移轉料ハ別表第一號ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　勅任官以上ノ者、臨時代理大使、臨時代理公使、館長タル總領事（奏任）及領事外國ニ在勤中他ノ地ニ轉勤ヲ命セラレタル場合ニ於テハ新任地ニ付定メラレタル支度料（赴任）ノ四分ノ一以内ヲ支給スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ外國旅費規則第二十三條及南洋群島關東州南滿洲旅費規則第二十八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三條　移轉料及著後手當ハ外國旅費規則第二十四條及南洋群島關東州南滿洲旅費規則第二十九條ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル者ニ之ヲ支給スルコトヲ得

一　公務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者及公務ノ爲歸朝中歸任スル者
二　南滿洲ニ在勤中賜暇歸朝ヲ許サレタル者及賜暇歸朝中歸任スル者

第四條　在外公館費用條例ニ依リ妻加俸ヲ支給シ得ヘキ在外公館職員ニシテ許可ヲ受ケ妻ヲ同伴スル場合ニ支給スル移轉料ハ各其ノ定額ニ對シ五割以内ヲ增給スルコトヲ得

外國在勤中又ハ歸朝後許可ヲ得テ妻ヲ呼寄セ又ハ歸朝セシムルトキハ移轉料ノ半額以内ヲ支給スルコトヲ得但特ニ外務大臣ノ許可アリタル場合ノ外同一任地ニ付往返各一回限リトス

第五條　在外公館職員ニ支給スル著後手當ハ勅任官以上ノ者、臨時代理大使、臨時代理公使、館長タル總領事（奏任）及領事ニ在リテハ目的地ニ於ケル旅行ニ付定メラレタル日當十日分及宿泊料十夜分トシ其ノ他ニ在リテハ同日當七日分及宿泊料七夜分ニ相當スル額トス

第六條　家族移轉料ハ外國旅費規則第二十七條及南洋群島關東州南滿洲旅費規則第三十二條ノ規定ニ依ルノ外豫メ外務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ左ノ場合ニ之ヲ支給スルコトヲ得

一　在外公館費用條例ニ依リ妻加俸ノ支給ヲ受クル在外公館職員ニシテ兼任國又ハ兼任地ニ駐在ノ爲妻子ヲ同伴シテ往返スルトキ但シ子ニ付テハ勅任官以上ノ者、臨時代理大使、臨時代理公使、館長タル總領事（奏任）及領事ノ同伴スル場合二人ヲ限ル
二　在外公館職員ニシテ勅任官以上ノ者、臨時代理大使、臨時代理公使、館長タル總領事（奏任）及領事出張ノ場合特ニ妻ノ同伴ヲ職務上必要トスルトキ
三　在外公館職員ニシテ南滿洲ニ在勤中公務ノ爲歸朝ヲ命セラレタル者又ハ公務歸朝中歸任スル者妻ヲ同伴スルトキ

前項第一號及第二號ノ場合ニ支給スル家族移轉料中日當及宿泊料ノ額ハ妻及十二歳以上ノ子ニ付テハ本人ニ支給スル定額ノ三分ノ一、十二歳未滿ノ子ニ付テハ更ニ其ノ半額トス

第七條　外國旅費規則第四十一條南洋群島關東州南滿洲旅費規則第四十四條ニ定ムル從者ノ外特命全權大使、特命全權公使、辨理公使、臨時代理大使、臨時代理公使、館長タル總領事及領事ハ別ニ一人ヲ限リ從者ヲ隨伴スルコトヲ得但シ勅任官以上ニ在リテハ外國旅費規則第二十四條南洋群島關東州南滿洲旅費規則第二十九條各號ノ場合ニ限ル

從者ニ對シテハ前項前段ノ各規定ニ準シ歸國ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第八條　在外公館職員ニ支給スル死亡手當ハ別表第二號ノ定額ノ範圍内ニ於テ在勤俸年額ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額ニシテ外國旅費規則第三十六條及南洋群島關東州南滿洲旅費規則第四十一條ノ規定ニ依リ定ムル死亡手當ノ額ヨリ少ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

夫ノ轉勤、歸朝又ハ死亡後已ムヲ得サル事故ノ爲引續キ舊任地ニ滯在シタル妻舊任地ニ於テ又ハ歸朝ノ途中死亡シタルトキハ其ノ滯在期間百八十日以内ノ者ニ限リ本人ニ對スル死亡手當ノ半額以内ノ金額ヲ死亡手當トシテ支給スルコトヲ得

附　則

本令ノ規定ハ商務職員ニ之ヲ準用シ其ノ適用ニ付テハ商務官ニシテ高等官四等以上ノ者ハ總領事ニ、高等官五等以下ノ者ハ領事ニ、副商務官ハ副領事ニ、商務書記生ハ外務書記生ニ該當スルモノト看做ス

本令ノ規定ハ大正六年勅令第六十四號ニ依ル職員及大使館附又ハ公使館附ヲ命セラレ外務部内ノ事務ニ從事スル職員ニシテ勅任官以上ノ者及館長ニ準スヘキ奏任官四等以上ノ者ニ之ヲ準用シ其ノ適用ニ付テハ親任官ハ特命全權大使ニ高等官一等ノ者ハ特命全權公使ニ高等官二等ノ者ハ總領事（勅任）ニ高等官三等及四等ノ者ハ總領事（奏任）ニ該當スルモノト看做ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中支度料、移轉料、著後手當及支度料著後手當ニ相當スル家族移轉料又ハ死亡手當ニ關スル規定ハ前項ニ掲クル者ヲ除クノ外之ヲ大正十一年四月一日以降ノ旅行ニ適用スルコトヲ得

（別表第一號）

| 官階＼區分 | 日當 甲、乙、丙地方 | 日當 丁地方 | 宿泊料 甲地方 | 宿泊料 乙地方 | 宿泊料 丙地方 | 宿泊料 丁地方 | 食卓料 甲、乙、丙地方 | 食卓料 丁地方 | 支度料（赴任） 甲、乙地方 | 支度料（赴任） 丙地方 | 支度料（赴任） 丁地方 | 移轉料 甲、乙地方 | 移轉料 丙地方 | 移轉料 乙地方 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 特命全權大使 | 二三 | 二〇 | 七七 | 六五 | 三三 | 三〇 | 九 | 七 | 二、一〇〇 | — | — | 一、二〇〇 | — | — |
| 特命全權公使<br>辨理公使 | 一八 | 一六 | 六〇 | 五〇 | 二六 | 二四 | 八 | 六 | 一、四〇〇 | 一、二〇〇 | — | 八〇〇 | 七〇〇 | — |
| 大使館參事官<br>臨時代理大使<br>臨時代理公使<br>總領事（勅任） | 一七 | 一五 | 五五 | 四五 | 二四 | 二二 | 八 | 六 | 一、一〇〇 | 九〇〇 | 八〇〇 | 六五〇 | 五〇〇 | 四〇〇 |
| 館長タル總領事（奏任） | 一一 | 一〇 | 三五 | 二六 | 一九 | 一七 | 六 | 五 | 七〇〇 | 五五〇 | 四五〇 | 四五〇 | 三五〇 | 三〇〇 |
| 館長タル領事 五等以上 | 一一 | 一〇 | 三五 | 二六 | 一九 | 一七 | 六 | 五 | 七〇〇 | 五五〇 | 四五〇 | 四五〇 | 三五〇 | 三〇〇 |
| 館長タル領事 六等以下 | 九 | 九 | 三三 | 二四 | 一八 | 一五 | 六 | 五 | 七〇〇 | 五五〇 | 四五〇 | 三〇〇 | 二五〇 | 二三〇 |

備考

甲地方トハ南北亞米利加、乙地方トハ歐羅巴、亞弗利加、大洋洲並支那及西比利亞以外ノ亞細亞、丙地方トハ支那（南滿洲ヲ除ク）及西比利亞、丁地方トハ南洋群島、關東州及南滿洲ヲ謂フ

（別表第二號）

| 官階＼區分 | 甲地方 | 乙地方 | 丙地方 | 丁地方 |
|---|---|---|---|---|

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 特命全權大使 | 一三、五〇〇圓以內 | 一二、〇〇〇圓以內 | 一〇、〇〇〇圓以內 | 七、〇〇〇圓以內 |
| 特命全權公使<br>辨理公使 | 七、五〇〇 | 六、七〇〇 | 六、〇〇〇 | 四、五〇〇 |
| 大使館參事官<br>臨時代理大使<br>臨時代理公使<br>總領事（勅任） | 五、〇〇〇 | 四、五〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、三〇〇 |
| 總領事（奏任） | 三、九〇〇 | 三、五〇〇 | 三、〇〇〇 | 二、七〇〇 |
| 領事<br>大使館一等書記官<br>公使館一等書記官 | 三、二〇〇 | 二、八〇〇 | 二、二〇〇 | 二、〇〇〇 |
| 大使館二等書記官<br>公使館二等書記官 | 二、五〇〇 | 二、五〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、七〇〇 |
| 大使館三等書記官<br>公使館三等書記官<br>大使館理事官<br>公使館理事官<br>大使館一等通譯官<br>公使館一等通譯官<br>大使館二等通譯官<br>公使館二等通譯官<br>副領事<br>外交官補<br>領事官補　五等以上 | 二、五〇〇 | 二、五〇〇 | 一、七〇〇 | 一、二〇〇 |
| 同　六等以下 | 二、〇〇〇 | 二、〇〇〇 | 一、三〇〇 | 九〇〇 |
| 外務書記生　五級俸以上 | 一、八〇〇 | 一、八〇〇 | 一、二〇〇 | 七〇〇 |
| 外務通譯生　六級俸以下 | 一、五〇〇 | 一、五〇〇 | 一、〇〇〇 | 五〇〇 |

備考

甲地方トハ南北亞米利加、乙地方トハ歐羅巴、亞弗利加、大洋洲竝支那及西比利亞以外ノ亞細亞、丙地方トハ支那（南滿洲ヲ除ク）及西比利亞、丁地方トハ南洋群島、關東州及南滿洲ヲ謂フ

## ●外務省警視、警部、警部補、巡査及巡査ニ代用スル傭員ニ支給スル旅費ノ特例

（大正十三年八月十八日外務省令第七號）

外國旅費規則第十條第十一條及南洋群島關東州南滿洲旅費規則第十一條第十二條ニ依リ外務省警視警部警部補及巡査ニ代用スル傭員ニ支給スル旅費ノ特例左ノ通定ム

外務省警視、警部、警部補、巡査及巡査ニ代用スル傭員ニ支給スル旅費ノ特例

第一條　外務省巡査ニハ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、部長タル巡査及部長ニ非サル巡査ニシテ月俸五十五圓以上ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額但シ南洋群島關東州南滿洲內ノ旅行ニ在リテハ判任官六級俸以下ニ支給スヘキ額

二、前號ニ該當セサル者ニハ別表第一號及第二號甲額

第二條　巡捕ニハ別表第一號及第二號乙額ノ旅費ヲ支給ス

第三條　南滿洲ニ在勤スル外務省警部、警部補、巡査又ハ巡捕ニシテ刑事被告人若ハ囚人ノ押送旅行者ノ警護又ハ要視察人ノ尾行ノ爲南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ屬スル鐵道ニ依リ旅行スル場合ニ於テ特ニ必要アルトキハ其ノ乘車ニ要スル運賃ヲ支給スルコトヲ得但シ一等車ニ依リ旅行スルトキハ其ノ定價ノ二分ノ一、二等車ニ依リ旅行スルトキハ其ノ定價ノ三分ノ二トス

前項但書ノ規定ハ鐵道公務證ノ交付ヲ受ケサリシ場合ハ之ヲ適用セス

第四條　支那ニ在勤スル外務省警部、警部補、巡査又ハ巡捕ニシテ特ニ危險ヲ冒シテ旅行セシムル場合外務大臣至當ト認ムルトキハ日額六圓以內ノ特別手當ヲ支給スルコトヲ得

第五條　朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國（南滿洲ヲ含ム）ニ在ル者新ニ外務省警視、警部、警部補又ハ巡査ニ任用セラレタル場合ニ支給スル著後手當ハ日當七日分及宿泊料七夜分ニ相當スル額トス

第六條　外務省警視、警部、警部補又ハ巡査ニシテ外國ニ在勤中本邦勤務ノ爲ニ非スシテ歸朝ヲ命セラレタルトキ又ハ南滿洲ニ在勤中賜暇歸朝ヲ許サレ歸朝スルトキハ著後手當ヲ支給スルコトヲ得

第七條　外務省警視、警部、警部補又ハ巡査ニシテ外國ニ在勤中本邦勤務ノ爲ニ非スシテ歸朝ヲ命セラレタルトキ同歸任スルトキ又ハ南滿洲ニ在勤中賜暇歸朝ヲ許サレ歸朝スルトキ及賜暇歸朝中歸任スルトキ竝外國（南滿洲ヲ含ム）ニ出張ヲ命セラレタルトキ携帶スル私屬ノ荷物ハ百五十「キログラム」（月俸五十五圓未滿ノ巡査ニ在リテハ七十五「キログラム」）迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

第八條　巡捕ニシテ其ノ本國內ニ於テ死亡シタルトキハ死亡手當ハ之ヲ支給セス

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表第一號

旅費額

| 區別 | 鐵道賃及船賃 | 日當 | 宿泊料 甲地方 | 宿泊料 乙地方 | 宿泊料 丙地方 | 食卓料 | 支度料 甲乙地方 | 支度料 丙地方 | 移轉料 甲額 | 移轉料 乙額 | 死亡手當 甲乙地方 | 死亡手當 丙地方 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲額 | （イ）運賃ノ等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二等ノ定價 | 四圓 | 十八圓 | 十四圓 | 十圓 | 三圓 | 三百五十圓以內 | 二百圓以內 | 百五十圓以內 | 百圓以內 | 千圓以內 | 七百圓以內 |
| 乙額 | （ロ）同上二階級ニ區分スルトキハ下級ノ定價<br>（ハ）運賃ノ等級ヲ區分セサルトキハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃 | 三圓 | 十五圓 | 十圓 | 七圓 | 二圓 | 二百五十圓以內 | 百五十圓以內 | 百二十圓以內 | 八十圓以內 | 七百圓以內 | 五百圓以內 |

一、本表ハ南滿洲以外ノ外國旅行ニ付適用ス

二、鐵道賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅ヲ含ム）ノ外急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得但シ寢臺料金ノ支給ヲ受クル場合ニ於ケル宿泊料ハ定額ノ十分ノ七トス

三、船賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ノ外別ニ急行料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

二等運賃ヲ數種ニ區分スルモノニ在リテハ最低二等運賃ニ其ノ三割ヲ加算シタル額ノ限度ヲ超エサル範圍ニ於テ現ニ支拂ヒタル料金迄ヲ支給ス

四、隨員タル巡査、巡捕ニ限リ特別ノ事情ニ因リ前二號ノ支給額ヲ以テ支辨スルコト能ハサル座席又ハ船室ヲ要シタル場合ニ於テハ最低一等運賃迄ヲ支給スルコトヲ得

五、出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ七十五「キログラム」迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

別表第二號

旅費額

| 區分 | 鐵道賃及船賃 | 車馬賃 | 日當 | 宿泊料 | 食卓料 | 支度料 | 移轉料 | 死亡手當 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲號 | （イ）南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ屬スル鐵道線路ニ付テハ三等ノ定價<br>（ロ）前號以外ノ運賃ニシテ其等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二等定價 | 一圓二十錢 | 四圓 | 八圓 | 二圓 | 百七十圓以內 | 八十五圓以內 | 五百圓以內 |
| 乙號 | （ハ）同上二階級ニ區分スルトキハ下級ノ定價<br>（ニ）運賃ノ等級ヲ區分セサルトキハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃 | 一圓 | 三圓 | 六圓 | 一圓五十錢 | 百二十圓以內 | 七十圓以內 | 三百圓以內 |

一、本表ハ南洋群島、關東州、南滿洲內ノ旅行ニ付適用ス

二、鐵道賃及船賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ノ外別ニ急行料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

三、車馬賃ハ南洋群島內ノ旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

四、出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ七十五「キログラム」迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

## ●外務省待遇官吏以下外國旅費規則

（大正十三年六月十一日外務省令第二號）

外務省待遇官吏以下外國旅費規則左ノ通定ム

外務省待遇官吏以下外國旅費規則

第一條　外務省所管經費支辨ニ屬スル待遇官吏以下ニ支給スヘキ外國旅費ハ別ニ定ムルモノノ外本規則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　親任官又ハ勅任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ親任官又ハ勅任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第三條　奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニシテ官等ノ配當アル者ニハ其ノ官等相當ノ旅費、官等ノ配當ナキ者ニハ俸給又ハ手當ノ額（月額ノモノハ十二箇月分ヲ以テ年額トス）ニ依リ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、本俸若ハ手當年額三千六百圓以上ノ者又ハ外國ニ在勤スル者ニ在リテハ其ノ手當年額ヨリ在勤俸ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額三千六百圓以上ノ者竝名譽總領事及名譽領事ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號ノ金額ニ達セサル者又ハ俸給若ハ一定ノ手當ヲ給セサル者竝名譽副領事ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

第四條　判任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ判任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第五條　囑託員ニシテ本官アル者（退職ノ者及退職ニ準スヘキ休職者ヲ除ク）ニハ本官相當ノ額、判任官以上ノ待遇ヲ受クル官職ニ在ル者ニハ第二條乃至第四條ノ區別ニ從ヒ各待遇相當ノ旅費ヲ支給ス

第六條　前條ノ規定ニ該當セサル囑託員ニハ其ノ當時一定ノ手當ヲ給スル者ニ在リテハ其ノ手當額（年額ハ十二分ノ一、日額ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス）ニ依リ、一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ニ在リテハ爵位勳功ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ後段ノ場合爵位勳功ヲ併有スルトキハ高キニ從フ

一、手當月額三百圓以上ノ者又ハ外國ニ在勤スル者ニ在リテハ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額三百圓以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、手當月額百七十圓以上ノ者又ハ外國ニ在勤スル者ニ在リテハ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額百七十圓以上ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

三、手當月額五十五圓以上ノ者又ハ外國ニ在勤スル者ニ在リテハ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額五十五圓以上ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額

四、有爵者、正六位以上、勳五等以上又ハ功四級以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

五、從六位、勳六等又ハ功五級ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

六、正七位以下、勳七等以下又ハ功六級以下ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額

七、前各號ニ該當セサル者ニハ別表甲額

第七條　雇員ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ日額ノモノハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

一、給料月額五十五圓以上ノ者又ハ外國ニ在勤スル者ニ在リテハ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額五十五圓以上ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額

二、前號以外ノ者ニハ別表甲額

第八條　傭人ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、職工長、組長及之ニ準スル者又ハ給料日額內地ニ在ル者ハ二圓五十錢以上、外國ニ在勤スル者ニ在リテハ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額二圓五十錢以上ノ者ニハ別表甲額

二、前號以外ノ者ニハ別表乙額

臨時傭人ニシテ其ノ業ニ從事シ勞銀ヲ給スル日ハ日當、宿泊料又ハ食卓料ハ之ヲ支給セス

第九條　外國貨ヲ以テ手當又ハ給料ヲ定メラレタル場合ニ於テ第三條第六條第七條及第八條ノ適用ニ付テハ純分比價又ハ大藏大臣ノ定メタル最近ノ換算率ヲ以テ之レヲ邦貨ニ換算シタル額ニ依ル

第十條　囑託員、雇員及傭人ニシテ臨時ニ採用シタル者又ハ常時一定ノ手當若ハ給料ヲ給セサル者ニハ死亡手當ハ之ヲ支給セス傭外國人ニシテ其ノ本國內ニ於テ死亡シタルトキ亦同シ

第十一條　本規則ニ定ナキ者又ハ特別ノ事情ニ依リ本規則ニ據リ難キ者ノ旅費ニ關シテハ其ノ身分竝用務ノ性質ニ依リ其ノ都度外務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十二條　本規則ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給方ニ關シテハ外國旅費規則及同施行細則ニ依ル

附　則

本規則ハ大正十三年四月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

（別表）

旅費額

| 區分 | 鐵道賃及船賃 | 日當 | 宿泊料 甲地方 | 宿泊料 乙地方 | 宿泊料 丙地方 | 食卓料 | 支度料 甲乙地方 | 支度料 丙地方 | 移轉料 甲額 | 移轉料 乙額 | 死亡手當 甲乙地方 | 死亡手當 丙地方 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲額 | （イ）運賃ノ等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二等ノ定價<br>（ロ）同上二階級ニ區分スルト | 四圓 | 十八圓 | 十四圓 | 十圓 | 三圓 | 三百五十圓以內 | 二百圓以內 | 百五十圓以內 | 百圓以內 | 千圓以內 | 七百圓以內 |

| 乙額 |
|---|
| キハ下級ノ定價<br>（ハ）運賃ノ等級ヲ區分セサルトキハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃 |
| 三圓 |
| 十五圓 |
| 十圓 |
| 七圓 |
| 二圓 |
| 二百五十圓以內 |
| 百五十圓以內 |
| 百二十圓以內 |
| 八十圓以內 |
| 七百圓以內 |
| 五百圓以內 |

一、鐵道賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅ヲ含ム）ノ外急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得但シ寢臺料金ノ支給ヲ受クル場合ニ於ケル宿泊料ハ定額ノ十分ノ七トス

二、船賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ノ外別ニ急行料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

二等運賃ヲ數種ニ區分スルモノニ在リテハ最低二等運賃ニ其ノ三割ヲ加算シタル額ノ限度ヲ超エサル範圍ニ於テ現ニ支拂ヒタル料金迄ヲ支給ス

三、隨員タル雇員、傭人又ハ從者（通辯人及途案內者ヲ含ム）ニ限リ特別ノ事情ニ因リ前二號ノ支給額ヲ以テ支辨スルコト能ハサル座席又ハ船室ヲ要シタル場合ニ於テハ最低一等運賃迄ヲ支給スルコトヲ得

四、出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ七十五「キログラム」迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

## ●外務省待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則

（大正十三年六月十一日　外務省令第三號）

外務省待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則左ノ通定ム

### 外務省待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則

第一條　外務省所管經費支辨ニ屬スル待遇官吏以下ニ支給スヘキ南洋群島關東州南滿洲旅費ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　親任官又ハ勅任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ親任官又ハ勅任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第三條　奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニシテ官等ノ配當アル者ニハ其ノ官等相當ノ旅費、官等ノ配當ナキ者ニハ俸給又ハ手當ノ額（月額ノモノハ十二箇月分ヲ以テ年額トス）ニ依リ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、本俸若ハ手當年額三千六百圓以上ノ者、南滿洲ニ在勤スル者ニ在リテハ其ノ手當年額ヨリ在勤俸ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額三千六百圓以上ノ者竝名譽總領事及名譽領事ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號ノ金額ニ達セサル者又ハ俸給若ハ一定ノ手當ヲ給セサル者竝名譽副領事ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

第四條　判任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、本俸又ハ給料若ハ手當月額百十圓以上ノ者、南滿洲ニ在勤スル者ニ在リテハ其ノ給料若ハ手當月額ヨリ在勤俸ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額百十圓以上ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號ノ金額ニ達セサル者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

第五條　囑託員ニシテ本官アル者（退職ノ者及退職ニ準スヘキ休職者ヲ除ク）ニハ本官相當ノ額、判任官以上ノ待遇ヲ受クル官職ニ在ル者ニハ第二條乃至第四條ノ區別ニ從ヒ各待遇相當ノ旅費ヲ支給ス

第六條　前條ノ規定ニ該當セサル囑託員ニハ其ノ常時一定ノ手當ヲ給スル者ニ在リテハ其ノ手當額（年額ハ十二分ノ一、日額ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス）ニ依リ、一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ニ在リテハ爵位勳功ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ後段ノ場合爵位勳功ヲ併有スルトキハ高キニ從フ

一、手當月額三百圓以上ノ者、南滿洲ニ在勤スル者ニ在リテハ其ノ手當月額ヨリ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額三百圓以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、手當月額百七十圓以上ノ者、南滿洲ニ在勤スル者ニ在リテハ其ノ手當月額ヨリ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額百七十圓以上ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

三、手當月額百十圓以上ノ者、南滿洲ニ在勤スル者ニ在リテハ其ノ手當月額ヨリ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額百十圓以上ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額

四、手當月額五十五圓以上ノ者、南滿洲ニ在勤スル者ニ在リテハ其ノ手當月額ヨリ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額五十五圓以上ノ者ニハ判任官六級以下ノ者ニ支給スヘキ額

五、有爵者、正六位以上、勳五等以上又ハ功四級以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

六、從六位、勳六等又ハ功五級ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

七、正七位、從七位、勳七等又ハ功六級ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額

八、正八位以下、勳八等又ハ功七級ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

九、前各號ニ該當セサル者ニハ別表甲額

第七條　雇員ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ日額ノ者ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

一、給料月額五十五圓以上ノ者、南滿洲ニ在勤スル者ニ在リテハ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額五十五圓以上ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號以外ノ者ニハ別表甲額

第八條　傭人ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、巡視、門衞其ノ他廳內取締ノ役務ニ服スル者竝職工長、組長及之ニ準スル者又ハ給料日額二圓五十錢以上、南滿洲ニ在勤スル者ニ在リテハ在勤手當ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額二圓五十錢以上ノ者ニハ別表甲額

二、前號以外ノ者ニハ別表乙額

臨時傭人ニシテ其ノ業ニ從事シ勞銀ヲ給スル日ハ日當、宿泊料又ハ食卓料ハ之ヲ支給セス

第九條　囑託員、雇員及傭人ニシテ臨時ニ採用シタル者又ハ常時一定ノ手當若ハ給料ヲ給セサル者ニハ死亡手當ハ之ヲ支給セス

傭外國人ニシテ其ノ本國內ニ於テ死亡シタルトキ亦同シ

第十條　本規則ニ定ナキ者又ハ特別ノ事情ニ依リ本規則ニ據リ難キ者ノ旅費ニ關シテハ其ノ身分竝用務ノ性質ニ依リ其ノ都度外務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十一條　本規則ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給方ニ關シテハ南洋群島關東州南滿洲旅費規則及南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則ニ依ル

附　則

本規則ハ大正十三年四月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

（別表）

旅費額

| 區分 | 鐵道賃及船賃 | 車馬賃 | 日當 | 宿泊料 | 食卓料 | 支度料 | 移轉料 | 死亡手當 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 甲額 | 乙額 |
|---|---|
| （イ）南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ屬スル鐵道線路ニ付テハ三等ノ定價<br>（ロ）前號以外ノ運賃ニシテ其ノ等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二等ノ定價 | （ハ）同上二階級ニ區分スルトキハ下級ノ定價<br>（ニ）運賃ノ等級ヲ區分セサルトキハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃 |
| 一圓二十錢 | 一圓 |
| 四圓 | 三圓 |
| 八圓 | 六圓 |
| 二圓 | 一圓五十錢 |
| 百七十圓以內 | 百二十圓以內 |
| 八十五圓以內 | 七十圓以內 |
| 四百圓以內 | 三百圓以內 |

一、鐵道賃及船賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ノ外別ニ急行料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

二、出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ二十貫迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

## ●大藏省所管旅費支給規則

（明治四十三年七月一日　大藏省令第三十三號）
（改正　大正九年第一七號、第四二號、一三年第三〇號、一四年第一九號）

大藏省所管旅費支給規則左ノ通相定ム

### 大藏省所管旅費支給規則

第一條　大藏省所管經費支辨ニ屬スル內國旅費ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　親任官待遇及勅任官待遇ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ支給スヘキ待遇官相當ノ額ヲ支給ス

第三條　試補其ノ他奏任官待遇ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額ヲ支給ス

第四條　見習其ノ他判任官待遇ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額ヲ支給ス

第五條　專賣局見習員及稅務監督局見習員ニハ別表甲額ヲ支給ス

第六條　雇員ハ左ノ各號ニ依ル但シ日額ノモノハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

一　給料月額百十圓以上ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官五級俸以上ノ額

二　給料月額五十五圓以上百十圓未滿ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

三　給料月額五十五圓未滿ノ者ニハ別表甲額

第七條　囑託員ハ左ノ各號ニ依ル

一　在官ノ者（退職ニアラサルモノ）ニハ其ノ官相當ノ額

二　高等官待遇及判任官待遇ノ者ニハ第二條乃至第四條ノ各相當額

三　宮內官ニハ內國旅費規則別表及大正九年大藏省令第十六號ニ照準シ各其ノ相當額

四　警察官ニハ所管大臣ノ定メタル額、地方吏員ニハ內務大臣ノ定メタル額

五　前各號ニ該當セサル者ハ其ノ常時一定ノ手當ヲ給スル者ニアリテハ其ノ手當額（年額ハ十二分ノ一、日額ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス）ニ依リ、一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ニアリテハ其ノ爵位勳功ニ依リ左ノ區別ニ從ヒテ支給ス但シ後段ノ場合爵位勳功ヲ併有スルトキハ高キニ從フ

一　手當月額三百圓以上又ハ有爵者、正六位以上、勳五等以上及功四級以上ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ奏任官五等以上ノ額

二　手當月額百七十圓以上三百圓未滿又ハ從六位、勳六等及功五級ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

三　手當月額百十圓以上百七十圓未滿又ハ從七位以上正七位以下、勳七等及功六級ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官五級俸以上ノ額

四　手當月額五十五圓以上百十圓未滿又ハ正八位以下、勳八等及功七級ノ者ニハ內國旅費規則ニ依リ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

五　手當月額五十五圓未滿又ハ位、勳、功級ヲ有セサル者ニハ別表甲額

特殊ノ事情アル者ニ付テハ其ノ身分及用務ノ性質ニ依リ其ノ都度之ヲ定ム

第八條　巡視、門衞、仕部其ノ他廳內取締ノ役務ニ服スル者竝船長、機關士、水火夫長、職工長、組長及之ニ準スル者ニハ別表甲額ヲ支給ス

第九條　延丁、給仕、小使、馭者、水夫、火夫、倉庫夫、運搬夫、車夫、馬丁、職工及其ノ他ノ傭人ニハ別表乙額ヲ支給ス但シ常傭ニアラサル職工其ノ他ノ傭人ニシテ其ノ業ニ從事シ勞銀ヲ給スル日ハ日當、宿泊料若ハ食卓料ヲ支給セス

第十條　在勤廳所在地ノ市町村內ノ出張ニシテ其ノ行程二里以上ニ涉ルトキハ定額ノ三分ノ一額ニ相當スル日當ヲ其ノ四里以上ニ涉ルトキハ定額ノ半額ニ相當スル日當ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要シタルトキハ宿泊料ヲ支給ス

第十條ノ二　在勤廳所在地又ハ在勤廳所在地外ノ市町村內ニ於テ陸路三里鐵道二十四哩水路十五海里以外ノ地ニ出張スルトキハ內國旅費規則ニ依ル鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

交通不便其ノ他ノ事由ニ因リ特ニ多額ノ船車馬賃ヲ要シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第十條ノ三　在勤廳所在地ノ市町村內ニ於テ引續キ五時間以上出張スルトキハ日當定額ノ三分ノ一ニ相當スル額ヲ引續キ八時間以上出張スルトキハ日當定額ノ半額ニ相當スル額ヲ支給スルコトヲ得

第十條ノ四　第十條又ハ第十條ノ三ノ規定スル出張ヲ爲ス官用ノ船車馬ニ依リタルトキハ之ニ支給スヘキ旅費ハ車馬賃ヲ支給セス

第十一條　旅行ノ性質ニ依リ特ニ月額又ハ日額ヲ以テ旅費ヲ支給スル必要アルトキハ認可ヲ經ヘシ

第十二條　旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサル必要アルトキハ各部長官ニ於テ適宜之ヲ定メ報告スヘシ

第十三條　移轉料ハ各部長官ニ於テ其ノ遠近、情況等ヲ斟酌シ規定ノ範圍內ニ於テ適宜相當ノ額ヲ支給スヘシ

第十三條ノ二　家族移轉料ヲ支給スル場合ニ於ケル家族ハ本人ト同一戶籍內ニ在テ同居スル親族ニ限ル

第十四條　旅費支給上路程ノ計算ニ付テハ鐵道ハ鐵道官廳調、水路ハ水路部調、陸路ハ最近刊行ノ郵便線路圖ニ據リ計算スヘシ

前項ニ據リ難キ場合ニ於テハ地方官廳又ハ市町村長ノ證明スル處ニ據ルヘシ

第十四條ノ二　路程ノ計算ニ付テハ郵便線路圖ニ示ス各市町村內ノ郵便局所在地ヲ起點トス若シ其ノ市町村ニ郵便局ナキトキハ地方官廳又ハ市町村長ノ證明スル元標又ハ之ニ準スヘキ地點ヲ以テ起點トス

鐵道旅行又ハ水路旅行ノ場合ニ於テ前項市町村ニ於ケル起點ト停車場又ハ波止場トノ間ノ里程ハ陸路旅程ニ算入ス

第十五條　一日中旅行ノ支給額ヲ異ニスル場合ハ其ノ多キ額ヲ支給ス

第十六條　旅行中一時廢止シタル場合ハ其ノ路程ハ之ヲ打切計算ス

第十七條　削除

第十八條　雇員其ノ他內國旅費規則ニ規定ナキ者ノ旅費支給ニ關シテハ同規則ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大藏省所管經費支辨ニ屬スル特定旅費規則、官船航行旅費規則及專賣局旅費支給規則ハ之ヲ廢止ス

【本令施行前雇員其ノ他ノ者轉勤ヲ命セラレ又ハ新ニ採用セラレタル者ニ支給スヘキ旅費ニ關シテハ仍特定旅費規則ニ依ル】

別表

旅費額

| 區別 | 鐵道賃 | 船賃 | 車馬賃（一里ニ付） | 日當一日ニ付 甲地方 | 日當一日ニ付 乙地方 | 宿泊料一夜ニ付 甲地方 | 宿泊料一夜ニ付 乙地方 | 食卓料（一夜ニ付） | 移轉料 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲額 | 三等定價通行稅ヲ含ム | 三等定價通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム | 六十錢 | 二圓 | 一圓八十錢 | 三圓五十錢 | 三圓十錢 | 一圓二十錢 | 五十圓以內 |
| 乙額 | | | 四十五錢 | 一圓五十錢 | 一圓三十錢 | 二圓八十錢 | 二圓六十錢 | 八十錢 | 三十五圓以內 |

備考

一、本表中甲地方トハ大正十三年大藏省令第二十八號ニ指定スル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

二、鐵道五十哩水路五十海里以上ノ旅行ニアリテハ急行料金ヲ支給ス但シ急行料金ヲ徵セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

## ●大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮臺灣及樺太內旅費支給規則

（明治四十三年七月二十五日大藏省令第三十五號）

改正　明治四三年第四六號　大正九年第三〇號、一三年第二九號

大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮、臺灣及樺太內旅費支給規則左ノ通相定ム

大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳員朝鮮、臺灣及樺太內旅費支給規則

第一條　大藏省所管經費支辨ニ屬スル各廳判任以上ノ者及待遇官吏、囑託員、雇員以下ノ者朝鮮、臺灣又ハ樺太內ヲ旅行スルトキハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ依リ別表ノ旅費額ヲ支給ス

第二條　本令ニ依ル日當ハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ最初到著ノ日ヨリ該地最終出發ノ前日マテ、日當以外ノモノハ朝鮮、臺灣又ハ樺太最初到著ノ地ヨリ該地最終出發ノ地ニ至ルマテヲ支給ス

第三條　樺太ニ赴任スル者及十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間內ニ樺太ニ出張スル者ニハ別表支度料ノ範圍內ニ於テ各廳長官適宜之ヲ定メ支給スヘシ

第四條　朝鮮、臺灣及樺太在勤二年以上ノ者刑事裁判、懲戒處分若ハ自己ノ便宜ニ依ルニアラスシテ退官、休職又ハ解職ト爲リ三十日以內ニ前任地出發歸鄕スルトキハ內國旅費規則若ハ大藏省所管旅費支給規則ニ依ル前官、前職又ハ本官相當ノ額ヲ以テ前任地ヨリ原籍地マテノ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給ス

第五條　朝鮮、臺灣及樺太ニ在勤スル者在職中死亡シタルトキハ前條ニ準シ歸鄕旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ給ス

第六條　朝鮮、臺灣及樺太在勤ノ者內地旅行中前二條ニ該當スルトキハ其ノ旅行カ公務タルト私事タルトヲ問ハス支給スヘキ金額ハ之ヲ半額トス

第七條　本令ニ規定セルモノヲ除ク外旅費支給方ニ關シテハ內國旅費規則、大正九年大藏省令第十六號及大藏省所管旅費支給規則ニ依ル

附　則

本令ハ明治四十三年七月ヨリ之ヲ施行ス

臺灣及樺太內旅費支給ニ關スル當省達ハ之ヲ廢止ス

（別表）

朝鮮、臺灣及樺太旅費額

| 區別 | 車馬賃（一里ニ付） | 日當一日ニ付 甲地方 | 日當一日ニ付 乙地方 | 宿泊料一夜ニ付 甲地方 | 宿泊料一夜ニ付 乙地方 | 食卓料（一夜ニ付） | 移轉料 | 支度料 赴任 | 支度料 出張 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 親任官及大藏省所管旅費支給規則ニ於テ同相當額ヲ受クル者 | 二圓五十錢 | 十三圓 | 十二圓 | 二十二圓 | 十八圓 | 四圓 | 三百圓以內 | | 二百五十圓以內 |
| 勅任官（及以下同上） | 二圓 | 九圓 | 八圓 | 十五圓 | 十二圓 | 三圓五十錢 | 百二十圓以內 | 三百圓以內 | 二百圓以內 |
| 奏任官 五等以上（及以下同上） | 一圓五十錢 | 七圓 | 六圓 | 十圓 | 八圓 | 二圓五十錢 | 百五十圓以內 | 二百圓以內 | 百五十圓以內 |
| 奏任官 六等以下（及以下同上） | 一圓五十錢 | 六圓 | 五圓 | 九圓 | 七圓 | 二圓五十錢 | 百五十圓以內 | 二百圓以內 | 百五十圓以內 |
| 判任官 五級俸以上（及以下同上） | 一圓二十錢 | 四圓 | 三圓 | 七圓 | 五圓五十錢 | 二圓 | 百圓以內 | 百圓以內 | 七十五圓以內 |
| 判任官 六級俸以下（及以下同上） | 一圓二十錢 | 三圓五十錢 | 二圓五十錢 | 六圓 | 四圓五十錢 | 二圓 | 百圓以內 | 百圓以內 | 七十五圓以內 |
| 大藏省所管旅費支給規則ニ於テ甲額ヲ受クル者 | 九十錢 | 二圓五十錢 | 二圓 | 四圓五十錢 | 三圓五十錢 | 一圓二十錢 | 五十圓以內 | 五十圓以內 | 三十五圓以內 |
| 同上乙額ヲ受クル者 | 七十錢 | 二圓 | 一圓五十錢 | 三圓五十錢 | 二圓八十錢 | 八十錢 | 三十五圓以內 | 三十圓以內 | 二十圓以內 |

備考

甲地方トハ左ニ揭クル地域、乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

一朝鮮ニ於ケル道廳所在ノ府又ハ面

二前號ノ外左ニ揭クル府又ハ面

京畿道仁川府
全羅北道群山府
全羅南道木浦府
慶尙南道釜山府
同　馬山府
同　昌原郡鎭海面
同　東萊郡東萊面
平安南道鎭南浦府
咸鏡南道元山府
咸鏡北道淸津府

三臺灣ニ於ケル州廳所在ノ市又ハ街

四前號ノ外左ニ揭クル街

臺北州基隆郡基隆街
同　宜蘭郡宜蘭街
臺中州南投郡南投街
臺南州嘉義郡嘉義街
高雄州澎湖郡馬公街
同　屏東郡屏東街
臺東廳臺東街
花蓮港廳花蓮港街

五樺太ニ於ケル左ノ地方

豐原郡豐原町大字豐原
大泊郡大泊町大字大泊
眞岡郡眞岡町大字眞岡

## ●大藏省所管經費支辨待遇官吏以下外國旅費規則

（大正十二年一月九日大藏省令第一號）

---

大藏省所管經費支辨待遇官吏以下外國旅費規則左ノ通相定ム

大藏省所管經費支辨待遇官吏以下外國旅費規則

第一條　大藏省所管經費支辨ニ屬スル待遇官吏以下ニ支給スヘキ外國旅費ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　親任官又ハ勅任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ親任官又ハ勅任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第三條　奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニシテ官等ノ配等アル者ニハ其ノ官等相當ノ旅費、官等ノ配等ナキ者ニハ俸給又ハ手當ノ額ニ依リ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、本俸若ハ手當年額三千六百圓以上（月額ノモノハ十二月分ヲ以テ年額トス）ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號ノ金額ニ達セサル者又ハ俸給若ハ一定ノ手當ヲ給セサル者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

第四條　判任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ判任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第五條　囑託員ニシテ本官アル者（退職ノ者及退職ニ準スヘキ休職者ヲ除ク）ニハ本官相當ノ額、判任官以上ノ待遇ヲ受クル官職ニ在ル者ニハ第二條乃至第四條ノ區別ニ從ヒ各待遇相當ノ旅費ヲ支給ス

第六條　前條ノ規定ニ該當セサル囑託員ニハ其ノ常時一定ノ手當ヲ給スル者ニ在リテハ其ノ手當額（年額ハ十二分ノ一、日額ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス）ニ依リ、一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ニ在リテハ爵位勳功ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ後段ノ場合爵位勳功ヲ併有スルトキハ高キニ從フ

一、手當月額三百圓以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、手當月額百七十圓以上ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

三、手當月額五十五圓以上ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額

四、有爵者、正六位以上、勳五等以上又ハ功四級以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

五、從六位、勳六等又ハ功五級ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

六、正七位以下、勳七等以下又ハ功六級以下ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額

七、前各號ニ該當セサル者ニハ別表甲額

第七條　雇員ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ日額ノモノハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

一、給料月額五十五圓以上ノ者ニハ判任官ニ支給スヘキ額

二、前號以外ノ者ニハ別表甲額

第八條　傭人ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、水火夫長、司厨長、職工長、組長及之ニ準スル者又ハ給料日額二圓五十錢以上ノ者ニハ別表甲額

二、前號以外ノ者ニハ別表乙額

臨時傭人ニシテ其ノ業ニ從事シ勞銀ヲ給スル日ハ日當、宿泊料又ハ食卓料ハ之ヲ支給セス

第九條　囑託員、雇員及傭人ニシテ臨時ニ採用シタル者又ハ常時一定ノ手當若ハ給料ヲ給セサル者ニハ死亡手當ハ之ヲ支給セス傭外國人ニシテ其ノ本國內ニ於テ死亡シタルトキ亦同シ

第十條　官吏ニ非サル船舶乘組員ニシテ外國ニ於テ死亡シタルトキハ死亡手當ヲ支給スルコトヲ得但シ前條ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　本規則ニ定ナキ者又ハ特別ノ事情ニ依リ本規則ニ據リ難キ者ノ旅費ニ關シテハ其ノ身分竝用務ノ性質ニ依リ其ノ都度之ヲ定ム

第十二條　本規則ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給方ニ關シテハ外國旅費規則及外國旅費規則施行細則ニ依ル

附　則

本令ハ大正十一年四月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

（別表）

旅費額

| 區別 | 鐵道賃及船賃 | 日當 | 宿泊料 甲地方 | 宿泊料 乙地方 | 宿泊料 丙地方 | 食卓料 | 支度料 甲乙地方 | 支度料 丙地方 | 移轉料 甲額 | 移轉料 乙額 | 死亡手當 甲乙地方 | 死亡手當 丙地方 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲額 | （イ）運賃ノ等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二等ノ定價<br>（ロ）同上二階級ニ區分スルトキハ下級ノ定價 | 四圓 | 十八圓 | 十四圓 | 十圓 | 三圓 | 三百五十圓以內 | 二百圓以內 | 百五十圓以內 | 百圓以內 | 千圓以內 | 七百圓以內 |
| 乙額 | （ハ）運賃ノ等級ヲ區分セサルトキハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃 | 三圓 | 十五圓 | 十圓 | 七圓 | 二圓 | 二百五十圓以內 | 百五十圓以內 | 百二十圓以內 | 八十圓以內 | 七百圓以內 | 五百圓以內 |

一、鐵道賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅ヲ含ム）ノ外急行料金又ハ寢臺料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得但シ寢臺料金ノ支給ヲ受クル場合ニ於ケル宿泊料ハ定額ノ十分ノ七トス

二、船賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ノ外別ニ急行料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得、二等運賃ヲ數種ニ區分スルモノニ在リテハ最低二等運賃ニ其ノ三割ヲ加算シタル額ノ限度ヲ超エサル範圍ニ於テ現ニ支拂ヒタル料金迄ヲ支給ス

三、隨員タル雇員、傭人又ハ從者（通辯人及途案內者ヲ含ム）ニ限リ特別ノ事情ニ因リ前二號ノ支給額ヲ以テ支辨スルコト能ハサル座席又ハ船室ヲ要シタル場合ニ於テハ最低一等運賃迄ヲ支給スルコトヲ得

四、出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ七十五「キログラム」迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

## ●大藏省所管經費支辨待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則

（大正十二年一月九日大藏省令第二號）

大藏省所管經費支辨待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則左之通相定ム

大藏省所管經費支辨待遇官吏以下南洋群島關東州南滿洲旅費規則

第一條　大藏省所管經費支辨ニ屬スル待遇官吏以下ニ支給スヘキ南洋群島關東州南滿洲旅費ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　親任官又ハ勅任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ親任官又ハ勅任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第三條　奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニシテ官等ノ配等アル者ニハ其ノ官等相當ノ旅費、官等ノ配等ナキ者ニハ俸給又ハ手當ノ額ニ依リ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、本俸若ハ手當年額三千六百圓以上（月額ノモノハ十二月分ヲ以テ年額トス）ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號ノ金額ニ達セサル者又ハ俸給若ハ一定ノ手當ヲ給セサル者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

第四條　判任官ノ待遇ヲ受クル者ニハ左ノ區分ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、本俸又ハ給料若ハ手當月額百十圓以上ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號ノ金額ニ達セサル者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

第五條　囑託員ニシテ本官アル者（現職ノ者及退職ニ準スヘキ休職者ヲ除ク）ニハ本官相當ノ額、判任官以上ノ待遇ヲ受クル官職ニ在ル者ニハ第二條乃至第四條ノ區別ニ從ヒ各待遇相當ノ旅費ヲ支給ス

第六條　前條ノ規定ニ該當セサル囑託員ニハ其ノ當時一定ノ手當ヲ給スル者ニ在リテハ其ノ手當額（年額ハ十二分ノ一、日額ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス）ニ依リ、一時手當ヲ給スル者又ハ手當ヲ給セサル者ニ在リテハ爵位、勳功ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ後段ノ場合爵位勳功ヲ併有スルトキハ高キニ從フ

一、手當月額三百圓以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

二、手當月額百七十圓以上ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

三、手當月額百十圓以上ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額

四、手當月額五十五圓以上ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

五、有爵者、正六位以上、勳五等以上又ハ功四級以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ支給スヘキ額

六、從六位、勳六等又ハ功五級ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ支給スヘキ額

七、正七位、從七位、勳七等又ハ功六級ノ者ニハ判任官五級俸以上ノ者ニ支給スヘキ額

八、正八位以下、勳八等又ハ功七級ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

九、前各號ニ該當セサル者ニハ別表甲額

第七條　雇員ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス但シ日額ノモノハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス

一、給料月額五十五圓以上ノ者ニハ判任官六級俸以下ノ者ニ支給スヘキ額

二、前號以外ノ者ニハ別表甲額

第八條　傭人ニハ左ノ區別ニ從ヒ旅費ヲ支給ス

一、巡視、門衞、其ノ他廳內取締ノ役務ニ服スル者竝運轉士、機關士、水火夫長、職工長、組長及之ニ準スル者又ハ給料日額二圓五十錢以上ノ者ニハ別表甲額

二、前號以外ノ者ニハ別表乙額

臨時傭人ニシテ其ノ業ニ從事シ勞銀ヲ給スル日ハ日當、宿泊料又ハ食卓料ハ之ヲ支給セス

第九條　囑託員、雇員及傭人ニシテ臨時ニ採用シタル者又ハ常時一定ノ手當若ハ給料ヲ支給セサル者ニハ死亡手當ハ之ヲ支給セス、傭外國人ニシテ其ノ本國內ニ於テ死亡シタルトキ亦同シ

第十條　官吏ニ非サル船舶乘組員ニシテ南洋群島關東州又ハ南滿洲ニ於テ死亡シタルトキハ死亡手當ヲ支給スルコトヲ得但シ前條ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　本規則ニ定ナキ者又ハ特別ノ事情ニ依リ本規則ニ據リ難キ者ノ旅費ニ關シテハ其ノ身分竝用務ノ性質ニ依リ其ノ都度之ヲ定ム

第十二條　本規則ニ規定スルモノヲ除クノ外旅費ノ支給方ニ關シテハ南洋群島關東州南滿洲旅費規則及南洋群島關東州南滿洲旅費規則施行細則ニ依ル

附　則

本令ハ大正十一年四月一日以降ノ旅行ヨリ之ヲ適用ス

（別表）

旅費額

| 區分 | 鐵道賃及船賃 | 車馬賃 | 日當 | 宿泊料 | 食卓料 | 支度料 | 移轉料 | 死亡手當 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 甲額 | （イ）南滿洲鐵道株式會社ノ經營ニ屬スル鐵道線路ニ付テハ三等ノ定價<br>（ロ）前號以外ノ運賃ニシテ其ノ等級ヲ三階級以上ニ區分スルトキハ二等ノ定價<br>（ハ）同上二階級ニ區分スルトキハ下級ノ定價<br>（ニ）運賃ノ等級ヲ區分セサルトキハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃 | 一圓二十錢 | 四圓 | 八圓 | 二圓 | 百七十圓以內 | 八十五圓以內 | 四百圓以內 |
| 乙額 |  | 一圓 | 三圓 | 六圓 | 一圓五十錢 | 百二十圓以內 | 七十圓以內 | 三百圓以內 |

一、鐵道賃及船賃ハ前揭ノ旅客運賃（通行稅、艀船賃及棧橋賃ヲ含ム）ノ外別ニ急行料金ヲ要シタルトキハ之ヲ支給スルコトヲ得

二、車馬賃ハ南洋群島內ノ旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

三、出張ヲ命セラレタル者ノ旅行中携帶スル私屬ノ荷物ハ二十貫迄ヲ限リ其ノ運賃ヲ支給スルコトヲ得

## ●陸軍旅費規則

（明治四十三年七月十一日陸軍省令第六號）

改正　明治四五年第二號　大正元年第一一號、二年第三號、三年第一一號、四年第六號、五年第四號、七年第四號、第一二號、八年第七號、第三六號、第五二號、第五六號、九年第二九號、一〇年第一號、第一二號、第三一號、一一年第一四號、第三二號、一四年第一號、第三四號、一五年第二三號

陸軍旅費規則左ノ通定ム

### 陸軍旅費規則

### 第一章　總則

第一條　陸軍軍人軍屬諸生徒其ノ他本規則ニ於テ特ニ定メタル者公務ニ依リ本邦內ヲ旅行スルトキ又ハ支那（關東州ヲ含ム以下同シ）ニ駐劄スル陸軍部隊ニ關スル用務ヲ以テ本邦支那間ヲ旅行シ若ハ支那內ヲ旅行スルトキハ本規則ニ依リ旅費ヲ給ス本邦支那間ノ旅行及支那國內ノ旅行ニ付本規則ニ於テ特ニ定メタルモノ亦同シ

第二條　旅費ハ左ノ十種ニ分ツ

一　赴任旅費

二　出張旅費

三　軍隊旅費

四　歸鄕旅費

五　召集旅費

六　朝鮮臺灣樺太旅費

七　支那旅費

八　凋撤旅費

九　馬匹旅費

十　待遇官吏及囑託者旅費

第三條　旅費ハ旅行ノ經路、日數及定額ニ依リ之ヲ給スルヲ例トス

第四條　旅行ノ經路ハ順路（航空機ニテ旅行ノ場合ヲ含ム）ニ依ル

順路ハ別ニ定ムル陸軍里程表ニ依リ該表ニ示ササルモノハ當該支出官ノ認ムル所ニ依ル

第五條　左ノ場合ニ在リテハ前條ニ拘ラス實際ノ經路ヲ順路ト看做ス

一　公務ノ都合上順路ニ依リ難キ場合ニ於テ所屬長官ノ證明アルトキ

二　公務旅行中川留、雪支等已ムヲ得サル事故ノ爲迂回シタル場合ニ於テ官公署ノ證明アルトキ

第六條　旅行日數ハ旅行用務ニ要シタル實際ノ日數ニ依ル但シ私事ノ爲迂回シ又ハ途中滯在シタルトキハ之カ爲特ニ要シタル日數ヲ除ク

第七條　前條ノ旅行日數ハ公務又ハ第八條ノ事故ノ爲要スル滯在日數ヲ除クノ外左ノ區分ニ依リ算定シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス

一　鐵道ハ二百哩、水路ハ百海里、陸路ハ十二里ヲ以テ各一日行程トス

二　一日行程ニ滿タサル端路程ハ鐵道ハ十六哩、水路ハ八海里、陸路ハ一里ヲ各一時間行程トシテ時間（時位ニ止ム）ニ改メ合算シ十二時間ヲ以テ一日ト定ム但シ十二時間未滿ノ端時間ハ之ヲ一日ト看做ス

第八條　公務旅行中川留、雪支、船待、傷痍疾病（官費入院中ハ除ク）等已ムヲ得サル事故ノ爲滯在シタル間ハ旅行日數中ニ算入ス

前項ノ場合ニ在リテハ官公署（傷痍疾病ノトキハ軍醫若ハ地方醫師）ノ證明ヲ要ス

第九條　旅費ノ定額ハ第一表乃至第十二表ニ依リ其ノ支給ハ左ノ區分ニ從フ但シ本規則中別ニ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　鐵道賃ハ一哩以上、船賃ハ一海里以上、車馬賃及陸路雜費ハ一里以上各其ノ路程ニ應シ之ヲ給ス但シ官用ノ舟車馬等ニテ旅行スルトキハ之ヲ給セス

二　宿泊料ハ夜數ニ應シ之ヲ給ス但シ水路旅行中ハ之ヲ給セス

三　食卓料ハ官用ノ船舶ニテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲サザルトキ夜數ニ應シ之ヲ給ス

四　旅籠料ハ食數及夜數ニ應シ之ヲ給ス

五　日當、旅次手當、滯在手當及途中茶代ハ日數ニ應シ之ヲ給ス但シ日當ハ陸路六里（官用自動車ニテ旅行スル場合ニ在リテハ十二里、官用航空機ニテ旅行スル場合ニ在リテハ八十四里（離著陸地間ノ距離））未滿（鐵道ハ八哩、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做ス）ノ旅行ノトキハ公務ノ都合ニ依リ宿泊セシメタル場合ヲ除クノ外半額ヲ給ス

六　赴任手當、移轉料、家族移轉料、支度料及演習手當ハ旅行ノ回數ニ應シ之ヲ給ス

七　死亡手當ハ死亡ノ場合ニ於テ之ヲ給ス

八　旅費ノ定額ヲ異ニスル場合同日ニ生シタルトキハ其ノ多額ニ就キ之ヲ給ス

第九條ノ二　日當及宿泊料ノ支給ヲ受クル者同一地ニ滯在（第八條ニ依ル滯在共）十日ヲ超ユルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス其ノ超過日數ニ付日當宿泊料ノ定額ノ一割ヲ減シ三十日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數ニ付第五表旅籠料ニ相當スル日當ノミヲ給ス但シ定額ノ一割ヲ減給スルハ第一表（朝鮮、臺灣、樺太內ノ旅行ニ在リテハ第八表）ニ限ル

所屬長官ニ於テ滯在三十日ヲ超ユルト豫定シ得ル場合ニ在リテハ三十日以前ト雖前項ニ依ル第五表旅籠料ニ相當スル日當ノミヲ給スルコトヲ得

滯在地ヲ離レ三十日以內ニ再ヒ其ノ地ニ復歸スル者ハ前後ノ日數ヲ通算シテ前各項ノ滯在日數ヲ定ム

第十條　旅費ノ定額中、鐵道賃、船賃、車馬賃ハ用務ノ性質又ハ地方ノ狀況ニ依リ當該定額ヲ以テ支辨シ難キ場合ニ限リ所屬長官ハ旅行ノ全部若ハ一部ニ對シ其ノ實費ヲ給スルコトヲ得

第十一條　旅費ノ定額ハ其ノ全部若ハ一部ノ支給ヲ止メ又ハ之ヲ減少シ若ハ定額ノ範圍內ニ於テ特ニ支給額ヲ定ムルコトアルヘシ

所管長官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ測量、鐵道、土木工事等ノ爲現場ヲ巡迴シ又ハ常時旅行ヲ要スル者ニ對シ其ノ業務ノ性質ニ依リ車馬賃ヲ支給セス又ハ定額ノ範圍內ニ於テ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額若ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十二條　陸路三里（官用自動車ニテ旅行スル場合ニ在リテハ六里、官用航空機ニテ旅行スル場合ニ在リテハ十二里（離著陸地間ノ距離））未滿ノ地ニ旅行スルトキハ旅費ヲ給セス出張地滯在中該地ヨリ三里（官用自動車ニテ旅行スル場合ニ在リテハ六里、官用航空機ニテ旅行スル場合ニ在リテハ十二里（離著陸地間ノ距離））未滿ノ地ニ往復スルトキ亦同シ

鐵道又ハ水路ニ在リテハ鐵道ハ二哩半、水路ハ二海里ヲ以テ陸路一里ニ改算シ前項ノ路程ヲ定ム

第十三條　同一衞戍地內ニ於ケル左ノ旅行ニ在リテハ三里以上ト雖旅費ヲ給セス

一　陸軍部內ノ軍隊、官衙（出張所、派出所、作業場共）學校間往復ノトキ

二　赴任又ハ陸軍官衙學校移轉ノトキ

第十四條　前二條ノ旅行ト雖所屬長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ左ノ旅費ニ限リ之ヲ給スルコトヲ得

一　鐵道又ハ水路旅行ヲ要スルモノノ鐵道賃若ハ船賃

二　傷痍疾病等ニ依リ步行セシメ難キ場合ニ於ケル車馬賃

三　公務ノ都合ニ依リ宿泊セシメタル場合ノ日當及宿泊料又ハ旅籠料及演習手當

但シ日當ハ宿泊シタル日ニ限ル

四　轉任、轉職ニ當リ衞戍地ヲ異ニスル場合ニ於ケル移轉料

五　交通不便其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ多額ノ車馬賃ヲ要スルトキ其ノ實費但シ出張地滯在中ニ限ル

第十五條　公務旅行中左ノ場合ニ在リテハ當該旅行地ヨリ舊任地迄旅費ヲ給ス其ノ定額ハ當該公務旅行ノ種類ニ應シ歸臨ノ爲受クヘキ額ニ依ル但シ懲戒又ハ刑罰處分ニ依リ失官、免官ノ者ニハ之ヲ給セス

一　准士官以上待命、休職、停職、豫備役、後備役、退役ト爲リ又ハ死亡シタルトキ

二　營外居住ノ下士兵卒現役滿期、免役、免官ト爲リ又ハ死亡シタルトキ

三　文官休職、退職、退官、免官ト爲リ又ハ死亡シタルトキ

第十六條　私事旅行中公務ニ服セシムルトキハ其ノ用務及旅行ノ種類ニ應シ當該旅費ヲ給ス但シ其ノ旅費額在職地（公務旅行地ヨリ私事旅行ノ者ハ該公務旅行地）ヨリ用務ノ地ニ旅行セシムル額ヨリ超過スル場合ハ該額ニ止ム

第十七條　在職者ニ非サル者ノ旅費定額ハ左ノ區分ニ依ル

一　新ニ任用スルトキハ新官等ノ額

二　待命、休職、停職、豫備役、後備役、退役、免役、退職、退官、免官ノトキハ本官アル者ハ現官等、本官ナキ者ハ前官等ノ額

三　死亡者ニ係ル旅費ハ死亡當時ニ於ケル官等ノ額

四　在職中ノ用務ニ關シ在職セサル者ヲ旅行セシムルトキハ本官アル者ハ現官等、本官ナキ者ハ前官等ノ額

第十八條　旅費ノ計算及年度所屬ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ區分ニ依ル

一　路程ノ基點ハ郵便線路圖ニ示ス各市町村內ノ郵便局（郵便局ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方官廳又ハ市町村長ノ證明スル里程元標又ハ之ニ準スルモノヲ以テ基點トス）トシ同一市町村內ニ於ケル基點及停車場又ハ波止場間ノ里程ハ陸路旅行ノ旅程ニ算入ス

二　一旅行中ノ路程ハ陸路、鐵道、水路每ニ合計シ車馬賃、鐵道賃、船賃ヲ計算ス但シ鐵道賃、船賃ニシテ定價ニ依ルモノ、哩程ノ長短其ノ他ニ依リ旅費ノ定額ヲ異ニスルモノ又ハ所屬年度ヲ異ニシ若ハ旅行ノ中間ニ於テ宿泊料、日當ノ支給ヲ止ムルモノニ在リテハ各別ニ計算ス

三　路程ノ合算上生シタル一里、一哩又ハ一海里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

四　旅行中進級轉職等ニ依リ定額ニ增減ヲ生シタルトキハ發令ノ翌日（演習手當ニ在リテハ發令ノ週）ヨリ新定額ニ依ル但シ鐵道賃、船賃ニ在リテハ最近ノ停車場又ハ寄港地ヲ以テ其ノ定額ヲ區分ス

五　旅行兩會計年度ニ跨ルトキ鐵道賃、船賃ニ在リテハ最近ノ停車場又ハ寄港地ニ著シタル日ヲ以テ旅費ノ年度所屬ヲ分チ演習手當ニ在リテハ後年度ノ所屬トス

六　前金渡ヲ爲シタル旅費ハ前號ニ拘ラス支出シタル日ヲ以テ年度所屬ヲ分ツ但シ追給ノ場合ニ於テハ追給事由ノ生シタル日ヲ以テ之ヲ分ツ

第十九條　死亡ノ者ニ係ル旅費ハ之ヲ遺族ニ給ス

遺族トハ配偶者、直系卑屬、直系尊屬及兄弟姉妹又ハ同一戶籍內ニ在ル親族ヲ謂フ

旅費ヲ受クヘキ遺族ノ順位ハ前項ニ揭クル順位ニ依リ同順位內ニ在リテハ民法第九百七十條及第九百八十四條ノ規定ニ準シ之ヲ定ム

第二十條　左ノ旅費ハ前金渡ヲ爲スコトヲ得但シ實費支辨ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　赴任旅費

二　出張旅費中ノ修學旅費入院退院轉院ニ係ル旅費及刑事旅費

三　演習手當

四　歸鄕旅費

五　召集旅費

六　朝鮮臺灣樺太旅費及支那旅費中前各號ノ旅費及歸還旅費

七　赴任ノ者ニ給スル馬匹旅費

第二十一條　旅費ノ支給區ハ別ニ之ヲ定ム

第二十二條　本規則ニ於テ營外居住ト稱スルハ營外居住ノ給料ヲ受クル者

第二十二條ノ二　大正十年勅令第二百二十三

號ニ依リ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル官吏ニハ各其ノ待遇官相當ノ旅費（勅任官旅費ニシテ高等官一、二等ノ區分アルモノハ二等ノ額）ヲ給ス

第二十二條ノ三　旅費ノ支給ヲ受クル者ニ對シテハ本規則ニ定ムルモノヲ除クノ外陸軍大臣ノ認可ヲ受クルニ在ラサレハ旅行ニ關シ別ニ手當ヲ支給スルコトヲ得ス

## 第二章　赴任旅費

第二十三條　赴任旅費ハ轉任、轉職、就職等ノ爲赴任スル軍人軍屬ニ之ヲ給ス但シ雇員傭人ニ在リテハ特ニ認可ヲ得タル者ニ限ル

陸軍部外ノ文官ヨリ部內ノ文官ニ轉シタル者ノ赴任旅費ハ部內赴任者ノ額ニ同シ

第二十四條　赴任旅費ハ並旅費、赴任手當、移轉料及家族移轉料ニ分ツ

第二十五條　並旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第一表ニ依ル

一　轉任、轉職ノトキ
二　待命、休職、停職、豫備役、後備役ノ軍人及休職、退職ノ文官就職ノトキ
三　新任又ハ新ニ採用ノ者就職ノトキ
四　官衙、學校移轉ノトキ

第二十六條　赴任手當及移轉料ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第四表ニ依ル但シ第二號及第四號ノ場合ニ在リテハ赴任手當ヲ給セス

一　准士官以上、營外居住ノ下士兵卒及軍屬轉任轉職ノトキ但シ新ニ營外居住ノ職ニ轉シタル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
二　營外居住ノ下士營內居住ノ職ニ轉スルトキ
三　准士官以上、營外居住ノ下士兵卒及軍屬陣營、官衙、學校ト共ニ移轉スルトキ
四　第十四條第四號ニ該當スルトキ
五　待命、休職、停職、豫備役、後備役ノ軍人及休職、退職ノ文官平時部隊ニ就職（下士兵卒ニ在リテハ營外居住ノ職ニ就クトキニ限ル）ノトキ
六　陸軍部內ノ雇員、陸軍文官ニ任セラレ就職ノトキ

第二十七條　家族移轉料ハ前條ノ場合ニ家族（本人兵籍內者ハ本人同一戶籍內ニ在ル祖父母父母妻子孫兄弟姉妹ヲ謂フ）ヲ携ヘ赴任スルトキ又ハ赴任後之ヲ新任地ニ移轉スルトキ左ノ區分ニ依リ之ヲ給ス但シ故ナク一年ヲ超ヘ家族ヲ移轉スル場合ハ之ヲ給セス

一　家族三人迄ハ一人每ニ新舊任地間本人ノ並旅費相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、宿泊料、日當及食卓料ノ全額竝赴任手當ノ半額但シ十二歲未滿ノ者ハ其ノ半額
二　家族三人ヲ超ユルトキハ一人ヲ增ス每ニ前號給額ノ半額

家族ノ携行又ハ移轉ニ付テハ所屬長官ノ證明ヲ要ス

第二十八條　赴任旅費ハ舊任地（在宅ノ者就職ノトキハ現住地、新ニ任用ノ者就職ノトキハ拜命地）ヨリ新任地ニ至ル順路ニ應シ之ヲ給ス但シ家族ヲ舊任地外ヨリ移轉スル場合ノ家族移轉料ハ赴任順路ニ入リタル地ヨリ之ヲ給ス

命課及配賦取扱等ノ爲甲地ヨリ乙地ニ著シ更ニ丙地ニ赴カシムルモノハ各地間ヲ通シテ一赴任旅行ト看做ス

第二十九條　旅行中轉任轉職等ニ依リ直ニ赴任セシムル者ニハ並旅費ニ限リ前條ニ拘ラス左ノ區分ニ依リ之ヲ給ス

一　公務旅行（修學ノ爲學校派遣中ヲ除ク）中ニ在リテハ該旅行地ヨリ新任地迄
二　修學ノ爲學校派遣中ニ在リテハ當該學校所在地ヨリ新任地迄但シ赴任順路中當該學校所在地ヨリ舊所管ニ至ル順路ト一致スル經路ニ付テハ第三表ノ額ニ依ル
三　私事旅行中ニ在リテハ該旅行地ヨリ新任地迄但シ其ノ旅費額新舊任地間ノ旅費額ニ比シ多キトキハ新舊任地間ノ額ニ依ル

第三十條　赴任途中公務ニ依リ迂回又ハ滯在セシムル者ニハ實際ノ經路及旅行日數ニ依リ當該公務ノ種類ニ應スル旅費ヲ給ス但シ移轉料及家族移轉料ハ第二十八條第一項ニ依ル

第三十一條　營內居住下士兵卒轉職ニ方リ退營後特ニ滯在セシムル必要アルトキハ宿泊料ノミヲ給ス其ノ定額ハ第三表ニ依ル

## 第三章　出張旅費

第三十二條　出張旅費ハ差遣、巡回、其ノ他ノ出張又ハ修學等ノ爲旅行セシムル軍人軍屬及諸生徒ニ之ヲ給ス

第三十三條　出張旅費ハ並旅費、管內旅費、修學旅費、刑事旅費及滯在手當ニ分ツ

第三十四條　並旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第一表ニ依ル

一　師管（所屬部隊所在ノ師管ヲ謂フ以下同シ）外ヘ出張ノトキ但シ本規則中別ニ定アルモノヲ除ク
二　軍狀奏上ノ爲出張ノトキ
三　特命檢閱、軍司令官又ハ師團長ノ檢閱竝之カ立會ノ爲出張ノトキ
四　皇族、貴賓、特命檢閱使等ニ陪從又ハ其ノ送迎ノトキ
五　軍司令官、師團長其ノ他軍隊ノ長タル將官ノ管內初度巡視ノトキ
六　陸軍省、參謀本部又ハ教育總監部ニ召集セラレタル諸會議ニ參列ノトキ
七　外國旅行者本邦內ヲ通過シ又ハ出發港ニ滯在スルトキ但シ本規則中別ニ定アルモノヲ除ク
八　新任又ハ新ニ採用ノ爲召喚ノトキ
九　其ノ他前各號ニ準スヘキ差遣、巡回、出張等ニシテ特ニ陸軍大臣ノ指定スルモノ

第三十五條　管內旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第二表ニ依ル但シ所管長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ該定額ヲ減少スルコトヲ得

一　師管內ニ於ケル出張ノトキ但シ本規則中別ニ定アルモノヲ除ク
二　軍隊、官衙、學校等ニ於ケル業務ノ調査、視察又ハ事務打合等ノ爲隣接師管內ヘ出張ノトキ
三　工事製造、營繕又ハ輸送等ニ係ル作業ノ實施、調査、檢查、視察等ノトキ
四　兵器材料等試驗ノ實施、調査、視察等ノトキ又ハ保護自動車檢查等ノトキ
五　學術上ノ實施、研究、調査、視察等ノトキ
六　徵兵檢查、簡閱點呼又ハ地方馬檢查ノ實施、視察等ノトキ
七　初年兵、召集兵等引率ノトキ又ハ補充馬受領等ノトキ
八　軍馬補充馬支部、兵器支（分）廠、被服本（支）廠、糧秣本（支）廠、憲兵隊ノ職員其ノ業務ニ關シ業務地域若ハ補給地域內旅行ノトキ又ハ憲兵警察勤務ノ爲旅行ノトキ
九　轉地療養所（分院共）ノ選定、視察、開閉、診療等ノトキ
十　地理實查（測圖共）、物資調査等ノトキ
十一　學校職員等教育資料蒐集、調査等ノトキ
十二　物件ノ購買、授受、納品檢查、廢品檢查等ノトキ
十三　物件ノ宰領、護衛又ハ修理、手入、消毒等實施ノトキ
十四　刑事事件ノ爲臨檢ノトキ
十五　軍法會議又ハ裁判所等ヨリ職務ニ關シ召喚セラレタルトキ
十六　在職中ノ用務ニ關シ在鄉軍人等招致ノトキ
十七　演習場、作業場等視察ノトキ
十八　其ノ他差遣、巡回、出張等ニシテ前各號ニ準スヘキモノ

第三十六條　修學旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第三表ニ依ル

一　修學、見學、事務修習、隊務研究又ハ隊附勤務等ノトキ
二　營內居住ノ下士兵卒軍隊學校等ヘ分遣ノトキ
三　學生ト爲リ學校等ニ派遣ノトキ
四　學術又ハ體格ノ檢查ヲ受クルトキ
五　士官候補生、士官學校豫科生徒、工科學校生徒、戶山學校軍樂生徒又ハ陸地測量部修技所生徒入隊、入校又ハ入所ノトキ
六　幼年學校ノ生徒ニシテ士官學校豫科ノ生徒ト爲リ入校ノトキ
七　士官候補生學校ニ分遣ノトキ
八　見習士官、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官配賦ノトキ
九　憲兵轉科志願ノ豫備役後備役下士兵卒學術修習ノ爲招致ノトキ
十　衞戍射擊會ヘ參列ノトキ
十一　前各號中召集派遣入校等ノ者ニシテ原所管等ニ復歸ノトキ

前項第一號第三號及第九號ニ依リ軍隊學校等ニ召集派遣セラレタル者ノ日當及宿泊料ハ到著ノ日限リ之ヲ止ム

第三十七條　左ノ場合ニハ前條ニ準シ第三表ノ旅費ヲ給ス但シ第二號及第四號ノ場合ニ在リテハ單獨旅行セシムル者ノ外定額內實費支辨トス

一　軍人軍屬（營內居住下士以下ヲ除クノ外公務ニ基因スル傷病者ニ限ル）入院退院ノトキ
二　病院間又ハ病院ト轉地療養所間患者轉送ノトキ
三　患者附添ノトキ
四　教化卒ト爲リ教化隊ニ編入セラレ又ハ原隊ニ復歸ノトキ
五　前號ノ場合ニ於テ監視員ト爲リ旅行ノトキ

第三十八條　刑事旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第三表（既決囚徒中官等等級ヲ有セシ者ノ旅費ハ總テ兵卒ノ額）ニ依ル但シ護送ヲ受クル者ニ在リテハ定額內實費支辨トス

一　被告事件ニ依リ審判ヲ受ケ無罪、免訴ト爲リ若ハ罰金處分ヲ受ケ又ハ刑期滿限等ノ爲原所管ニ復歸ノトキ
二　被告事件ニ關シ審判ヲ受クルトキ
三　前二號ノ場合ニ於テ護送ヲ爲ストキ
四　囚徒護送ノトキ

第三十九條　滯在手當ハ左ノ場合ニ於テ到著ノ翌日ヨリ復歸ヲ命セラレタル日迄之ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ依ル但シ士官以上ニシテ到著ノ翌日ヨリ起算シ滯在六箇月ヲ超ユルトキハ其ノ超ユル日ノ前日限リ之ヲ停ム

一　准士官以上、營外居住ノ下士兵卒第三十六條第一項第一號又ハ第三號ニ該當シ軍隊、官衙、學校ニ召集派遣ノトキ
二　營內居住ノ下士兵卒第三十六條第一項第一號第三號又ハ第九號ニ該當シ到著後外泊ヲ命セラレタルトキ

滯在地ヲ離レ六箇月以內ニ再ヒ其ノ地ニ復歸スル者ハ前後ノ日數ヲ通算シテ前項ノ滯在日數ヲ定ム

第四十條　第九條ノ二ニ依ル滯在者ノ中工事、物件ノ修理手入等ニ關シ旅行ノ者ノ日當ニ在リテハ第五表旅籠料ニ相當スル日當定額內ニ於テ所管長官之ヲ定ム

第四十一條　要塞司令部ノ小蒸汽船又ハ艀船ニテ當該要塞地帶內ヲ航行スル者（船員共）及警察勤務執行ノ爲要塞附近ヲ航行スル憲兵ニハ其ノ航行中日當ヲ給セス但シ一日內ニ往復シ難キ場合ニ在リテハ食卓料ヲ給ス

要塞司令部ノ職員ニシテ官用ノ車馬ニ依リ所屬堡壘及砲臺（附屬地共）ニ出張シ卽日歸著スル者ニハ旅費ヲ給セス自動車ニ關スル演習若ハ機能試驗ニ從事スル者ニシテ出張卽日歸著スル者ニ付亦同シ

## 第四章　軍隊旅費

第四十二條　軍隊旅費ハ軍隊旅行、演習旅行等ノ場合ニ旅行スル軍人軍屬諸生徒及乘馬本分者ニ從屬スル馬丁ニ之ヲ給ス

第四十三條　軍隊旅費ハ隊伍旅費、單獨旅費、旅次手當及演習手當ニ分ツ

第四十四條　隊伍旅費ハ左ノ場合ニ隊伍（先發後發ノ者共）ヲ爲シ若ハ引卒者ノ下ニ一團ト爲リ旅行ノトキ之ヲ給ス其ノ額ハ第五表定額內實費支辨トス但シ人員少數ニシテ所屬長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ該定額ヲ支給スルコトヲ得

一　軍隊旅行、演習旅行、陣營移轉、朝鮮、支那駐劄部隊交代等ノトキ
二　營內居住下士以下軍隊學校等ニ分遣ノトキ
三　將校演習旅行及學生生徒等野外作業ノトキ
四　學術上ノ實施、研究等ノトキ
五　兵器材料等ノ試驗實施等ノトキ
六　流行病其ノ他ノ事故ニ依リ軍隊、學生生徒等移轉ノトキ
七　第三十七條第一號乃至第三號ノトキ
八　其ノ他前各號ニ準スヘキモノ

第四十五條　前條ノ隊伍旅費中旅籠料ハ陸軍大臣特ニ認可シタル場合ノ外左ノ場合ニ限リ所屬長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ第五表ノ倍額迄之ヲ增加スルコトヲ得但シ旅籠料及途中茶代ヲ合シ第三表ノ日當及宿泊料ノ合計額ヲ超ユルヲ得ス

一　前條第三號乃至第五號ノトキ
二　前號ノ外人員少數ノ爲第五表定額ニ依リ難キトキ但シ演習旅行ニ在リテハ先發又ハ後發ノ爲旅行スル者竝統監部及高等司令部ニ屬スル者、陣營移轉及朝鮮、支那駐劄部隊交代ニ在リテハ先發又ハ後發ノ爲旅行スル者ニ限ル

第四十六條　單獨旅費ハ第四十四條ノ旅行ニ關シ左ノ場合ニ單獨旅行スルトキ之ヲ給ス其ノ定額ハ第三表ニ依ル但シ第一號ノ場合ニ在リテハ定額內實費支辨トスルコトヲ得

一　先發後發ノトキ又ハ公務若ハ傷痍疾病等ニ依リ其ノ部隊ヲ離レシムルトキ
二　將校演習旅行、學生野外作業ノ場合ニ於テ統裁官以下及專習員等集合地ニ出發又ハ解散地ヨリ歸還ノトキ
三　演習旅行、將校演習旅行、學生生徒等野外作業ノ場合ニ於テ所屬長官等之ニ關シ又ハ實視ノ爲出張ノトキ
四　前二號ノ演習又ハ野外作業見學ノトキ

豫備役後備役將校同相當官ヲ演習作業ノ爲居住地ヨリ三里以上ノ地ニ召集シ又ハ解散地ヨリ歸鄉セシムルトキハ第五表ノ旅費（旅籠料ハ倍額）ヲ給ス三里未滿ノ地ト雖官ノ都合ニ依リ宿泊セシメタル場合ニ在リテハ旅籠料倍額ヲ給スルコトヲ得

第四十七條　旅次手當ハ儀仗兵、陣營移轉、暴徒鎭定其ノ他之ニ準スヘキ場合ニ於テ隊伍旅費ヲ受ケ旅行スルトキ之ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ依ル

第四十八條　演習手當ハ准士官以上、營外居住下士以下、軍屬及乘馬本分者ニ從屬スル馬丁左ノ場合ニ隊伍旅費ヲ受ケ一週日以上旅行スルトキ之ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ依ル但シ一週日未滿ト雖四日以上旅行スル者ニハ其ノ半額ヲ給スルコトヲ得

一　演習旅行及之ニ準スヘキ旅行ノトキ
二　將校演習旅行及學生生徒等野外作業ノトキ
三　前二號ノ演習又ハ野外作業ニ關シ出張又ハ其ノ實視見學等ノトキ

演習又ハ野外作業等ニ關シ旅行ノ者中途單獨旅費ノ支給ヲ受ケ若ハ隊伍旅費ノ支給中斷シ再ヒ同一ノ演習又ハ野外作業等ニ參加シタル場合ニ於ケル演習手當ハ其ノ前後ニ於ケル隊伍旅費支給ノ日數ヲ通算シテ之ヲ定ム

第四十九條　旅次手當、演習手當ハ所管長官ニ於テ其ノ定額ヲ減少シ又ハ之ヲ給セサルコトヲ得

第五十條　旅次手當、演習手當ノ支給ニ關シテハ入院、入營倉、留置及入監中ノ日數ヲ控除ス

第五十一條　隊伍旅費ヲ受ケ旅行スル軍人軍屬ノ荷物ハ附表第三ノ定限量目以內官費ニ依リ之ヲ運搬ス

## 第五章　歸鄉旅費

第五十二條　歸鄉旅費ハ軍人諸生徒、陸軍法務官等歸鄉ノトキ之ヲ給ス但シ刑事裁判、懲戒又ハ懲罰處分ニ依リ失官、免官ト爲リ歸鄉スル者（兵卒ト爲リタルモノヲ除ク）ニハ之ヲ給セス

第五十三條　歸鄉旅費ハ營外者歸鄉旅費、營內者歸鄉旅費ニ分ツ

第五十四條　營外者歸鄉旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第一表ニ依ル

一　准士官以上在職ノ者待命、休職、停職、豫備役、後備役、退役ト爲リ歸鄉ノトキ
二　陸軍法務官休職、退職ト爲リ歸鄉ノトキ
三　營外居住ノ下士兵卒現役ヲ離レ又ハ免役、免官ト爲リ歸鄉ノトキ
四　豫備役、後備役ノ軍人ニシテ平時部隊ニ就職（下士兵卒ニ在リテハ營外居住ノ職ニ就キタル者ニ限ル）シタル者其ノ職

ヲ免セラレ歸鄕ノトキ
前項第一號、第三號及第四號ニ該當スル者ニハ前項歸鄕旅費ノ外第四表ノ移轉料ヲ給ス

第五十五條　管內者歸鄕旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第三表ノ二ニ依ル

一　管內居住ノ下士兵卒現役ヲ離レ又ハ歸休、免役、免官ト爲リ歸鄕ノトキ

二　豫備役後備役下士兵卒ニシテ平時部隊ニ於ケル管內居住ノ職ニ就キタル者其ノ職ヲ免セラレ歸鄕ノトキ

三　士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、管內居住ノ生徒及陸軍法務官試補傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ歸鄕ノトキ

第五十五條ノ二　前二條ニ揭クル者陸軍監獄ニ入監中刑期滿限ト爲リ歸鄕ノトキハ第三表（第五十五條各號ノ者ニ在リテハ第三表ノ二）ノ旅費ヲ給ス

第五十六條　歸鄕旅費（移轉料共）ハ舊任地ヨリ本籍地（一年現役兵及六週間現役兵ニ在リテハ在營地）ニ至ル順路ニ應シ之ヲ給ス
准士官以上營外居住ノ下士以下及陸軍法務官ニシテ私事旅行中該旅行地ヨリ直ニ歸鄕スル者ニ在リテモ亦前項ニ同シ
營內居住ノ下士以下ニシテ旅行中直ニ歸鄕セシムルトキノ歸鄕旅費ハ該旅行地ヨリ之ヲ給ス
營內居住ノ下士以下ニシテ入院中歸鄕ヲ命セラレ傷痍疾病ノ爲其ノ引取人ノ現住地ニ護送ヲ要スル者ニハ病院ヨリ該地迄ノ旅費及移轉料ヲ給ス

第五十七條　准士官以上營外居住ノ下士兵卒及陸軍法務官在職中死亡シタルトキハ其ノ際第五十四條及第五十六條ニ依リ歸鄕旅費（准士官以上營外居住ノ下士兵卒ニ在リテハ移轉料共）ヲ其ノ遺族ニ給ス

第五十八條　歸鄕旅費（移轉料共）ハ之ヲ支給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ九十日以內ニ請求セサル者ニハ之ヲ給セス

## 第六章　召集旅費

第五十九條　召集旅費ハ在鄕軍人、陸軍法務官及國民兵召集ノ場合ニ之ヲ給ス

第六十條　召集旅費ハ召集旅費、滯在日當ニ分ツ

第六十一條　召集旅費ハ召集又ハ歸鄕ノトキ左ノ區分ニ依リ順路ニ應シ之ヲ給ス其ノ定額ハ第七表ニ依ル

一　本籍地ニ於テ召集セラレタル者ニハ本籍地到著地間

二　寄留地ニ於テ應召ヲ許可セラレタル者ニハ寄留地到著地間

三　朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲居住者ニシテ同地所在部隊ニ召集セラレタル者ニハ居住地到著地間

四　前各號ノ外一年志願兵ニシテ甲種勤務演習ノ爲寄留地ニ於テ（朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ滿洲ニ在リテハ居住地ヨ）リ召集セラレタル者ニハ寄留地（朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ滿洲ニ在リテハ居住地）到著地間

召集令狀交付後本籍寄留又ハ住所ヲ轉シタル者ノ召集旅費ハ召集令狀交付當日ニ於ケル前項各號ノ本籍地、寄留地又ハ居住地ニ依リ之ヲ給ス
第一項ニ依リ召集ノ者集合地ヨリ部隊編入迄引卒セラレ旅行スルトキノ旅費ハ第七表定額內實費支辨トス

第六十二條　滯在日當ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ給ス

一　到著地ニ宿泊セシムル者ニハ到著ノ翌日ヨリ部隊編入前日迄第七表ノ日當甲額但シ集合宿泊セシムル場合ニハ定額內實費支辨トス

二　准士官以上陸軍法務官ニハ部隊編入當日ヨリ召集解除ノ前日迄第七表ノ日當乙額

第六十三條　召集部隊所在地外ニ於テ召集ヲ解除シ直ニ歸鄕セシムル者ニハ左ノ區分ニ依リ旅費ヲ給ス

一　准士官以上及陸軍法務官ニハ第六十一條ニ依ル旅費ノ外召集解除地ヨリ召集部隊所在地迄順路ニ應シ第七表ノ額

二　下士以下ニハ召集解除地ヨリ第六十一條ノ本籍地寄留地又ハ現住地迄順路ニ應シ第七表ノ額

第六十四條　准士官以上陸軍法務官召集中死亡シタルトキハ其ノ際第六十一條ニ準シ旅費ヲ給ス

## 第七章　朝鮮臺灣樺太旅費

第六十五條　朝鮮、臺灣及樺太旅行ニ係ル旅費ハ本章ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ各章（第八章ヲ除ク）ノ規定ニ依ル

第六十六條　朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル第二章乃至第六章ノ旅費ハ左ノ對照ニ從ヒ相當定額ニ依リ馬匹旅費ハ實費（馬丁旅費及飼料ヲ除ク）ニ依ル但シ朝鮮諸部隊附ノ朝鮮內、臺灣諸部隊附軍人軍屬等ノ臺灣內旅行ニ係ル內地旅費ノ第二表（第三十四條及第三十五條ニ於テ師管外又ハ師管內トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮外又ハ朝鮮內、臺灣ニ在リテハ臺灣外又ハ臺灣內トス）第三表、第三表ノ二及第五表ニ相當スルモノハ當該地方ノ狀況ニ應シ定額以內ニ於テ朝鮮ニ在リテハ朝鮮軍司令官、臺灣ニ在リテハ臺灣軍司令官陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ各其ノ額ヲ定メ當該地方及內地其ノ他ノ關係部隊ニ通報スヘシ之カ變更ノトキ亦同シ

| 內地定額 | 朝鮮臺灣樺太定額 |
|---|---|
| 第一表 | 第八表 |
| 第二表 | 第八表（日當及宿泊料ハ乙地方ノ額） |
| 第三表 | |
| 第三表ノ二 | |
| 第四表 | 第四表 |
| 第五表 | 第八表（日當ヲ除ク、宿泊料ハ乙地方ノ額） |
| 第六表 | 第六表（滯在手當ハ倍額） |
| 第七表 | 第七表（車馬賃、日當及陸路雜費ハ倍額） |

第六十七條　內地及支那駐劄諸部隊附ノ者朝鮮又ハ臺灣內ヲ、朝鮮諸部隊附ノ者臺灣內ヲ、臺灣諸部隊附ノ者朝鮮內ヲ旅行ノ場合ニ於ケル隊伍旅費及軍隊旅費中ノ單獨旅費ハ前條但書ニ依リ定メタル朝鮮又ハ臺灣諸部隊附ノ者ニ係ル旅費ト同一ノ額ヲ給ス

第六十八條　內地ト朝鮮、臺灣、樺太間又ハ朝鮮、臺灣、樺太相互間ノ旅行ニ付テハ左ノ區分ニ依リ旅費ヲ給ス

一　內地ヨリ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ旅行ノトキハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル最初ノ著船地（日當ハ其ノ著船ノ前日）迄內地ノ額ニ依リ朝鮮、臺灣又ハ樺太ヨリ內地ニ旅行ノトキハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル最後ノ發船地（日當ハ其ノ發船ノ翌日）ヨリ內地ノ額ニ依ル

二　朝鮮、臺灣、樺太相互間ノ旅行ノトキハ前號ニ準シ其ノ內地ヲ經由スルモノニ在リテハ前號ノ例ニ依ル

第六十九條　朝鮮又ハ臺灣諸部隊附ノ者定期交代制ニ依リ本隊ト守備隊間又ハ守備隊相互間ヲ轉勤ノトキハ赴任手當ヲ給スルノ外移轉料及家族移轉料ヲ給セス

第七十條　准士官以上營外居住下士以下及軍屬內地、朝鮮又ハ臺灣ヨリ樺太ニ旅行スルトキハ左ノ區分ニ依リ支度料ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ依ル

一　樺太ニ在ル學校ノ配屬將校ト爲リ赴任スル者ニハ全額

二　十一月ヨリ二月ニ至ル期間內ニ樺太ニ出張スル者ニハ半額

前項ノ支度料ノ支給ニ關シテハ第七十六條第二項及第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條　朝鮮又ハ臺灣諸部隊附ノ文官（陸軍法務官ヲ除ク）休職、退職、退官又ハ免官ト爲リ歸鄕スルトキ並內地ニ於テ採用セラレ赴任シタル雇員及傭人解雇又ハ解傭ト爲リ歸鄕スルトキハ該地ヨリ本籍地（雇員傭人ニ在リテハ採用地）迄歸鄕旅費ヲ給ス其ノ定額ハ朝鮮、臺灣、樺太內ニ在リテハ第八表、內地ニ在リテハ第一表ニ依ル但シ刑事裁判、懲戒若ハ懲罰處分又ハ自己ノ便宜ニ依リ退職、退官、免官、解雇又ハ解傭ト爲リ歸鄕スル者ニハ之ヲ給セス
前項ニ依リ歸鄕旅費ヲ受クヘキ者朝鮮又ハ臺灣在勤中死亡シタルトキハ其ノ際前項ノ歸鄕旅費ヲ其ノ遺族ニ給ス

## 第八章　支那旅費

第七十二條　支那旅行ニ係ル旅費ハ本章ニ定ムルモノヲ除クノ外他ノ各章（第七章ヲ除ク）ノ規定ニ依ル
本章ニ定ムルモノノ外外國旅費規則及南洋群島關東州南滿洲旅費規則ニ依ル旅費ヲ給セス

第七十三條　支那ニ於ケル第二章乃至第六章ノ旅費ハ左ノ對照ニ從ヒ相當定額ニ依リ馬匹旅費ハ實費（馬丁旅費及飼料ヲ除ク）ニ依ル但シ支那駐劄諸部隊附軍人軍屬等ノ支那內旅行ニ係ル內地旅費ノ第二表、第三表、第三表ノ二及第五表ニ相當スルモノハ當該地方ノ狀況ニ應シ定額以內ニ於テ關東軍司令官及支那駐屯軍司令官陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ各其ノ額ヲ定メ當該地方及內地其ノ他ノ關係部隊ニ通報スヘシ之カ變更ノトキ亦同シ

| 內地定額 | 支那定額 |
|---|---|
| 第一表 | 第九表 |
| 第二表 | 第九表 |
| 第三表 | 第九表 |
| 第三表ノ二 | 第九表 |
| 第四表 | 第四表 |
| 第五表 | 第九表（日當ヲ除ク） |
| 第六表 | 第六表（滯在手當ハ倍額） |
| 第七表 | 第七表（車馬賃、日當及陸路雜費ハ倍額） |

第三十四條及第三十五條ニ於テ師管內及師管外トアルハ支那ニ在リテハ左ノ各地域ノ內外トス

關東州及南滿洲駐劄諸部隊附ノ者
長春、寬城子、鄭家屯、新民府、新民府以南ニ於ケル遼河、吉長鐵道線、吉林、輝南、輯安ヲ連ネタル線（線上ノ各地ヲ含ム）內ノ地域

北支那駐劄諸部隊附ノ者
山海關北京間鐵道沿線側方各三十里以內ノ地域

第七十四條　內地、朝鮮及臺灣諸部隊附ノ者支那內ヲ旅行ノ場合ニ於ケル隊伍旅費及軍隊旅費中ノ單獨旅費ハ前條第一項但書ニ依リ定メタル支那駐劄諸部隊附ノ者ニ係ル旅費ト同一ノ額ヲ給ス
朝鮮諸部隊附ノ者朝鮮ニ接壤セル支那地方（琿春、汪淸、延吉、和龍、安圖、長白、臨江、輯安、寬甸、安東縣トス）ヲ旅行ノ場合ニ於ケル內地旅費ノ第二表、第三表及第五表ニ相當スル旅費ハ前條第一項但書ニ依リ定メタル滿洲駐劄諸部隊附ノ者ニ係ル旅費ト同一ノ額ヲ給ス

第七十五條　內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト支那トノ間ヲ旅行スル爲內地、朝鮮、臺灣、樺太ヲ通過スルトキハ其ノ地域ニ於ケル旅行ニ付定メタル旅費ヲ給ス
內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ヨリ支那ニ旅行ノトキハ支那ニ於ケル最初ノ著船地（日當ハ其ノ著船前日）迄內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ノ額ニ依リ支那ヨリ內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ旅行ノトキハ最後ノ發船地（日當ハ其ノ發船翌日）ヨリ內地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ノ額ニ依ル

第七十六條　准士官以上營外居住ノ下士以下及軍屬本邦ヨリ支那ニ旅行スルトキハ左ノ區分ニ依リ支度料ヲ給ス其ノ定額ハ第六表ニ依ル

一　支那駐劄諸部隊附ト爲リ赴任スル者ニハ全額

二　支那ニ出張スル者ニハ半額但シ旅程ノ遠近、日數ノ多少、用務ノ性質等ニ依リ所管長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ該定額ヲ減少シ又ハ之ヲ給セサルコトヲ得

支那其ノ他ノ外國及樺太ニ赴任又ハ出張ヲ命セラレ支度料ノ支給ヲ受ケタル者其ノ赴任又ハ出張ヲ命セラレタル日ヨリ一年內ニ再ヒ支那ニ赴任又ハ出張スルトキ支給スル支度料ハ前項定額ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ金額前ニ受ケタル金額ト合シテ前項定額ノ十五割ニ滿タサルトキハ該定額ヲ超エサル範圍內ニ於テ通シテ十五割迄ヲ給スルコトヲ得

第七十七條　雇員傭人給料支給規則備給表ニ揭クル者ヲ除クノ外傭人ニハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ支度料ヲ給スルコトヲ得ス

第七十八條　本邦ト支那駐劄地間、駐劄地相互間又ハ駐劄地內ニ於テ赴任スル者ニ給スル移轉料及家族移轉料ハ左ノ各號ニ依ル

一　本邦諸部隊ト家族ノ携行ヲ許サレタル駐劄諸部隊相互間赴任ノトキハ移轉料及家族移轉料ヲ給ス

二　家族ノ携行ヲ許サレサル駐劄諸部隊附ト爲リ赴任スル者ニハ移轉料ヲ給セス

三　前號ノ部隊ニ赴任シタル者家族ノ携行ヲ許サレタル他ノ駐劄部隊又ハ本邦部隊附ト爲リ赴任ノトキハ前號ノ部隊ニ赴任前ノ舊任地ト新任地間ノ移轉料及家族移轉料ヲ給ス

四　家族ノ携行ヲ許サレタル駐劄部隊附ト爲リ舊任地ニ家族ノ全部又ハ一部ヲ殘置シ赴任シタル者該家族ノ移轉前ニ再ヒ家族ノ携行ヲ許サレタル他ノ駐劄部隊附又ハ內地部隊附ト爲リ殘置セル家族ヲ新任地ニ移轉スルトキハ該家族ニ付テハ殘置セル舊任地ト新任地間ノ家族移轉料（家族一部ナルトキハ本人ノ携行セル家族ト通算シ第二十七條各號ノ支給區分ヲ定ム）ヲ給ス

五　家族ノ携行ヲ許サレタル駐劄部隊附ノ者家族ノ携行ヲ許サレサル駐劄部隊附ト爲リ赴任ノ場合ニ於テ其ノ携行セル家族ヲ內地ニ歸還セシムルトキハ其ノ地ヨリ內地ニ於ケル舊任地（內地ニ舊任地ナキ者ニ在リテハ本籍地）ニ至ル順路ニ應シ家族移轉料ヲ給ス

六　前號ノ者再ヒ家族ノ携行ヲ許サレタル駐劄部隊附又ハ本邦部隊附ト爲リ新任地ニ家族ヲ移轉セシムルトキハ前號ニ依リ家族ノ歸還シタル地ト新任地間ノ家族移轉料ヲ給ス

第七十九條　第七十六條及前條ニ依リ支度料及移轉料ノ支給ヲ受クヘキ者其ノ出發前死亡シ又ハ官ノ都合ニ依リ旅行ヲ免セラレタルトキハ其ノ受クヘキ支度料及移轉料ノ半額以內ヲ給スルコトヲ得但シ第八十五條ニ依リ死亡手當ノ支給ヲ受クル者ヲ除ク

第八十條　支那駐劄諸部隊附ノ准士官以上及營外居住ノ下士以下ニシテ第七十八條ニ依リ移轉料ノ支給ヲ受ケタルモノ待命、休職、停職、豫備役、後備役、退役、免官、免役等ト爲リ歸鄕ノトキハ左ノ區分ニ依リ歸鄕旅費、移轉料及家族移轉料ヲ給ス

一　家族ノ携行ヲ許サレタル部隊附ノ者歸鄕ノトキハ其ノ地ヨリ本籍地ニ至ル順路ニ應シ歸鄕旅費及移轉料ヲ給スルノ外其ノ携行セル家族ニ付赴任ノ例ニ準シ家族移轉料ヲ給ス

二　家族ノ携行ヲ許サレサル部隊附ノ者歸鄕ノトキハ其ノ地ヨリ本籍地ニ至ル順路ニ應シ歸鄕旅費ヲ給スルノ外該部隊ニ赴任前ノ舊任地（家族ノ携行ヲ許サレタル駐劄部隊ノ所在地ヲ謂フ以下同シ）ヨリ本籍地ニ至ル順路ニ應シ移轉料ヲ給ス

三　前項ノ者赴任前ノ舊任地ニ殘置セル家族アルトキハ該家族ニ付其ノ地ヨリ本籍地ニ至ル順路ニ應シ赴任ノ例ニ準シ家族移轉料ヲ給ス

第八十一條　支那駐劄諸部隊附ノ文官ニシテ第七十八條ニ依リ移轉料ノ支給ヲ受ケタルモノ休職、退職、退官、免官等ト爲リ歸鄕ノトキハ前條ニ準シ歸鄕旅費、移轉料及家族移轉料ヲ給ス

第八十二條　支那駐劄諸部隊附ノ准士官以上、營外居住ノ下士兵卒及文官ニシテ第七十八條ニ依ル移轉料ノ支給ヲ受ケサルモノ待命、休職、停職、豫備役、後備役、退役、免官、免役、退職、退官等ト爲リ本邦ニ歸還スルトキハ其ノ地ヨリ支那ヘ赴任當時ノ本邦ニ於ケル舊任地（舊任地ナキ者ニ在リテハ本籍地）ニ至ル順路ニ應シ歸還旅費ヲ給ス其ノ定額ハ支那內ニ在リテハ第九表、朝鮮、臺灣、樺太內ニ在リテハ第八表、內地ニ在リテハ第一表ニ依ル

第八十三條　前條ノ者（本籍地ニ至ル順路ニ應シ歸還旅費ヲ受クル者ヲ除ク）ニハ前條歸還旅費ノ外支那ヘ赴任當時ノ本邦ニ於ケル舊任地ヨリ本籍地ニ至ル順路ニ應シ歸鄕旅費（准士官以上及營外居住ノ下士兵卒ニ在リテハ移轉料共）ヲ給ス

第八十四條　本邦ニ於テ採用セラレ支那駐劄諸部隊附ニ赴任シタル雇員及傭人解雇又ハ解傭ト爲リ歸鄕スルトキハ該地ヨリ採用地ニ至ル順路ニ應シ歸鄕旅費ヲ給ス其ノ定額ハ支那內ニ在リテハ第九表、朝鮮、臺灣、樺太內ニ在リテハ第八表、內地ニ在リテハ第一表ニ依ル

第八十五條　支那ニ在勤中、任所往返中又ハ出張中ノ准士官以上、下士兵卒、文官同待遇者、囑託員、雇員及傭人（雇員傭人給料支給規則備給表ニ揭クル者ニ限ル）在勤地ニ於テ又ハ旅行中（本邦內旅行中ヲ除ク）死亡シタルトキハ死亡手當ヲ其ノ遺族ニ給ス其ノ定

額ハ第十二表ニ依ル

支那駐剳諸部隊附ノ者前項ノ場合ニ於テハ其ノ携行セル家族ニ付歸鄕ノ例ニ準シ家族移轉料ヲ給スルノ外第五十七條ニ依ル歸鄕旅費及移轉料ヲ給セス

第八十六條　家族ノ携行ヲ許サレタル支那駐剳諸部隊附ノ准士官以上營外居住ノ下士兵卒、文官、同待遇者、囑託員、雇員及傭人（雇員傭人給料支給規則傭給表ニ揭クル者ニ限ル）ノ妻夫ノ任地ニ於テ又ハ任所往返中（本邦內旅行中ヲ除ク）死亡シタルトキハ本人ニ對スル死亡手當ノ半額ヲ死亡手當トシテ給ス

第八十七條　第八十條乃至第八十四條及前條ノ規定ハ刑事、裁判、懲戒若ハ懲罰處分又ハ自己ノ便宜ニ依リ失官、退職、退官、免官、解雇又ハ解傭ト爲リタル者及其ノ家族ニ付テハ之ヲ適用セス

第八十八條　本邦ト支那相互間又ハ支那內ニ於テ出張ヲ命セラレタル者ノ旅行年携帶スル私屬ノ荷物ハ旅程ノ遠近、日數ノ多少、公務ノ性質等ニ依リ所屬長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ四十貫ヲ限リ其ノ運賃ノ實費ヲ給スルコトヲ得

第八十九條　支那內旅行ノトキ旅行券ニ支那官公署ノ查證ヲ求ムル爲手數料ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ實費ヲ給スルコトヲ得

第九十條　本邦ト支那駐剳地間、駐剳地相互間又ハ駐剳地內ニ於テ赴任ノ者所屬長官ノ許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ニ在リテハ二人、勅任官ニ在リテハ一人、奏任官ニ在リテハ六歲未滿ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ傭人相當ノ鐵道賃、船賃及食卓料ヲ給スルコトヲ得

前項ノ者赴任後新任地ニ妻ヲ移轉スル場合ニ於テ所屬長官ノ許可ヲ受ケ從者ヲ伴ヒ旅行スルトキハ親任官ノ妻ニ在リテハ二人、勅任官及奏任官ノ妻ニ在リテハ一人、判任官ノ妻ニ在リテハ六歲未滿ノ子ヲ同伴スルトキ一人ヲ限リ前項ノ規定ヲ準用シ旅費ヲ給スルコトヲ得

## 第九章　測量旅費

第九十一條　測量旅費ハ陸地測量及測量修業ノ爲出張セシムル者ニ之ヲ給ス

第九十二條　測量旅費ハ往復旅費、作業日當、滯在日當及測夫日當ニ分ツ其ノ定額ハ第十表（往復旅費ヲ除ク）ニ依ル

第九十三條　往復旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第二表（朝鮮、臺灣、樺太內ノ旅行ニ在リテハ第八表支那內ノ旅行ニ在リテハ第九表）ニ依ル

一　在職ノ地ヨリ測量班ノ地區ニ往復スルトキ

二　測量班ノ地區內ニ於ケル甲地區內ヨリ一日行程以上ノ乙地區內ニ轉スルトキ

第九十四條　作業日當ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス但シ第三號ノ場合ニ在リテハ夜數ニ依ル

一　測量地到著ノ翌日ヨリ其ノ地引揚ノ前日迄

二　測量班地區內ニ於ケル甲地區內ヨリ一日行程未滿ノ乙地區內ニ轉スルトキ

三　在職ノ地ヨリ三里未滿ノ地ニ旅行ノ場合ニ在リテ公務ノ都合上宿泊セシムルトキ

在職ノ地ヨリ三里未滿ノ地ニ旅行ノトキ宿泊セシメタル場合ニ於テモ所屬長官必要ト認ムルトキハ定額ノ半額以內ノ作業日當ヲ給スルコトヲ得

第九十五條　滯在日當ハ出張中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ作業ニ服セス滯在スルトキ其ノ間作業日當ニ代ヘ之ヲ給ス

第九十六條　測夫日當ハ左ノ場合ニ之ヲ給ス但シ第二號ノ場合ニ在リテハ夜數ニ依ル

一　陸地測量ノ爲測夫ヲ旅行セシムルトキ出發ノ當日ヨリ歸著ノ當日迄

二　在職ノ地ヨリ三里未滿ノ地ニ旅行ノ場合ニ在リテ公務ノ都合上宿泊セシムルトキ

舟車馬ニテ旅行セシムル測夫ニハ前項日當ノ外舟車馬賃ノ實費ヲ給ス

第九十七條　測量旅費ハ所屬長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ定額內ノ實費ヲ給シ、作業日當及滯在日當ニ在リテハ定額內ニ於テ支給額ヲ定ムルコトヲ得但シ作業日當、滯在日當及測夫日當ニ在リテハ定額ヲ以テ支辨シ難キトキハ所管長官ノ認可ヲ受ケ定額ノ五割以內ヲ增給スルコトヲ得

## 第十章　馬匹旅費

第九十八條　馬匹旅費ハ乘馬ヲ牽連レ旅行セシムル者ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第十一表ニ依リ運搬費ハ赴任ノ場合ヲ除クノ外定額內實費支辨トシ日當ハ滯在間及乘馬ニテ旅行セシムルトキノミ之ヲ給ス

馬匹旅費中ニハ馬丁ニ係ル旅費ヲ包含ス

第九十九條　馬匹旅費ヲ給スルハ左ノ場合ニ限ル

一　乘馬本分ノ者赴任ノ際自馬ヲ牽連レ旅行スルトキ、新ニ乘馬本分ノ職ニ就キ又ハ轉職等ニ依リ乘馬定數ヲ增シタル者亦同シ

二　公務上ノ必要ニ依リ乘馬ヲ牽連レ旅行セシムルトキ但シ隊伍旅費ヲ受クル旅行間ハ此ノ限ニ在ラス

三　朝鮮及臺灣諸部隊附竝支那駐剳諸部隊附乘馬本分ノ者內地ニ於ケル乘馬本分ニ非サル職ニ轉シ又ハ內地ニ歸還若ハ歸鄕ニ際シ乘馬（補缺等ノ爲定數ニ超過シタル乘馬共）ヲ牽連レ旅行ノトキ

## 第十一章　待遇官吏及囑託者旅費

第百條　待遇官吏及囑託者旅費ハ陸軍ノ用務ニ關シ官吏待遇者及囑託者等ニ旅行ヲ爲サシムルトキ之ヲ給ス

第百一條　官吏待遇者及囑託者旅費ノ支給ハ前各章ノ規定ニ從ヒ其ノ定額ハ左ノ區分ニ依ル

一　勅任官待遇ノ者ハ少將ノ額、奏任官待遇ノ者ノ中本俸又ハ手當月額若ハ其ノ年額月割額三百圓以上ノ者ハ少佐ノ額、同三百圓未滿ノ者ハ中少尉ノ額、判任官待遇ノ者（特ニ定メアルモノヲ除ク）ハ伍長ノ額ニ依ル

二　陸軍部外ノ在官者及公吏巡查等ニハ當該所管ノ旅費規定ニ依ル

三　聯隊區又ハ警備隊區徵兵副醫官ノ職務ヲ執ラシムル地方醫師ニハ內國旅費規則ニ依リ其ノ定額ハ奏任官六等以下ノ額ニ依ル

四　第二號及第三號以外ノ囑託者ニシテ本官アル者ハ其ノ官相當ノ額、待遇アル者ニハ第一號ノ區分ニ從ヒ其ノ待遇相當ノ額、其ノ他ノ者ノ中手當月額若ハ年額月割三百圓以上ノ者ハ少佐ノ額、同百七十圓以上ノ者ハ中少尉ノ額、同百七十圓未滿ノ者ハ伍長ノ額ニ依リ常時一定ノ手當ヲ給セサル者ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ所管長官ノ定ムル額ニ依ル

### 附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年陸軍省令第三號ハ之ヲ廢止ス

### 第一表　赴任竝旅費<br>出張竝旅費<br>營外者歸鄕旅費

| 階級＼區分 | | 鐵道賃 | 船賃 | 車馬賃（一里） | 宿泊料（一夜） | | 日當（一日） | | 食卓料（一夜） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 甲地方 | 乙地方 | 甲地方 | 乙地方 | |
| 大將 | 高等官親任 | 甲額 | 甲額 | 一圓五〇〇 | 一八圓〇〇〇 | 一五圓〇〇〇 | 一二圓〇〇〇 | 一〇圓〇〇〇 | 四圓〇〇〇 |
| 中少將同相當官 | 同一二等 | | | 一二〇〇 | 一二〇〇〇 | 一〇〇〇〇 | 八〇〇〇 | 七〇〇〇 | 三五〇〇 |
| 上長官 | 同三等以下同五等以上 | | | 〇九〇〇 | 八〇〇〇 | 七〇〇〇 | 六〇〇〇 | 五〇〇〇 | 二五〇〇 |
| 士官 | 同六等以下 | | | | 七〇〇〇 | 六〇〇〇 | 五〇〇〇 | 四〇〇〇 | |
| 准士官、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官 | 試補判任五級俸以上 | 乙額 | 乙額 | 〇七五〇 | 五五〇〇 | 五〇〇〇 | 三〇〇〇 | 二五〇〇 | 二〇〇〇 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下士、士官候補生、憲兵上等兵 | 同六級俸以下雇員月給五十圓以上 | | | | 四五〇〇 | 四〇〇〇 | 二五〇〇 | 二二〇〇 | |
| 下士兵卒諸勤務 | 雇員月給五十圓未滿傭人日給二圓以上 | 丙額 | 丙額 | 〇六〇〇 | 三七〇〇 | 三二〇〇 | 二〇〇〇 | 一八〇〇 | 一五〇〇 |
| 兵卒諸生徒 | 傭人日給二圓未滿 | | | 〇五〇〇 | 三〇〇〇 | 二七〇〇 | 一五〇〇 | 一三〇〇 | |

一　參謀總長、教育總監、軍事參議官、東京警備司令官、軍司令官又ハ師團長タル中將ハ大將ノ額ニ依ル

二　特命檢閱使（隨員共）ノ旅行ニ在リテハ宿泊料及日當ハ本表定額ノ二割增トス

三　鐵道賃、船賃ハ附表第一、第二ニ依ル

四　甲地方トハ大正十三年大藏省令第二十八號ニ依ル指定地域（該指定地ヲ衞戍地名トスル陸軍部隊所在地ヲ含ム）乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

五　一日中甲地方及乙地方ニ亙ル旅行ニ付テハ出發地、用務地又ハ到著地カ甲地方ノ場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額其ノ他ノ場合ニ於テハ乙地方ノ定額ニ依ル

六　前號ニ依ルノ外鐵道旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額宿泊料ハ乙地方ノ定額ニ依リ水路旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依ル

### 第二表　出張管內旅費

| 階級＼區分 | | 鐵道賃 | 船賃 | 車馬賃（一里） | 宿泊料（一夜） | 日當（一日） | 食卓料（一夜） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大將 | 高等官親任 | 甲額 | 甲額 | 〇圓九〇〇 | 一五圓〇〇〇 | 九圓〇〇〇 | 四圓〇〇〇 |
| 中少將同相當官 | 同一二等 | | | 〇七五〇 | 一〇〇〇〇 | 五〇〇〇 | 三五〇〇 |
| 上長官 | 同三等以下同五等以上 | | | 〇六〇〇 | 七〇〇〇 | 四〇〇〇 | 二五〇〇 |
| 士官 | 同六等以下 | | | | 六〇〇〇 | 三〇〇〇 | |
| 准士官、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官 | 試補判任官五級俸以上 | 乙額 | 乙額 | 〇五〇〇 | 四五〇〇 | 二〇〇〇 | 二〇〇〇 |
| 下士、士官候補生、憲兵上等兵 | 同六級俸以下雇員月給五十圓以上 | | | 〇四〇〇 | 三〇〇〇 | 一五〇〇 | |
| 下士兵卒諸勤務 | 雇員月給五十圓未滿傭人日給二圓以上 | 丙額 | 丙額 | 〇三〇〇 | 二五〇〇 | 一二〇〇 | 一五〇〇 |
| 兵卒諸生徒 | 傭人日給二圓未滿 | | | | 二〇〇〇 | 一〇〇〇 | |

一　參謀總長、教育總監、軍事參議官、東京警備司令官、軍司令官又ハ師團長タル中將ハ大將ノ額ニ依ル

二　北海道內ニ在リテハ車馬賃ハ十一月以降三月迄本表定額ノ五割增トス

三　鐵道賃、船賃ハ附表第一、第二ニ依ル

### 第三表　出張修學旅費<br>出張刑事旅費<br>軍隊單獨旅費

| 階級＼區分 | | 鐵道賃 | 船賃 | 車馬賃（一里） | 宿泊料（一夜） | 日當（一日） | 食卓料（一夜） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 將官同相當官 | 高等官親任同一等、二等 | 甲額 | 甲額 | 〇圓六〇〇 | 六圓五〇〇 | 三圓五〇〇 | 三圓五〇〇 |
| 上長官 | 同三等以下同五等以上 | | | 〇四〇〇 | 四五〇〇 | 二五〇〇 | 二五〇〇 |
| 士官 | 同六等以下 | | | | 四〇〇〇 | 二〇〇〇 | |
| 准士官、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官 | 試補判任官五級俸以上 | 乙額 | 乙額 | | 三〇〇〇 | 一五〇〇 | 一五〇〇 |
| 下士、士官候補生、憲兵上等兵 | 同六級俸以下雇員月給五十圓以上 | | | 〇二〇〇 | 二五〇〇 | 一〇〇〇 | |
| 下士兵卒諸勤務 | 雇員月給五十圓未滿傭人日給二圓以上 | 丙額 | 丙額 | | 二〇〇〇 | 〇八〇〇 | 一〇〇〇 |
| 兵卒諸生徒 | 傭人日給二圓未滿 | | | | 一五〇〇 | 〇六〇〇 | |

一　管內居住下士以下歸鄕ノ際傷痍疾病ノ爲步行シ難キ者ニ附添旅行スル者ノ車馬賃ハ五十錢トス

二　北海道內ニ在リテハ宿泊料及日當ハ本表定額ノ一割增車馬賃ハ十一月以降三月迄本表定額ノ五割增（前號ノ者ハ其ノ定額ニ十錢增）トス

三　鐵道賃、船賃ハ附表第一、第二ニ依ル

### 第三表ノ二　管內者歸鄕旅費

| 階級＼區分 | 鐵道賃（一哩） | 船賃（一海里） | 車馬賃（一里） | 宿泊料（一夜） | 日當（一日） | 食卓料（一夜） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官 | 〇圓〇二五 | 〇圓〇三五 | 〇圓五〇〇 | 二圓五〇〇 | 一圓〇〇〇 | 一圓五〇〇 |
| 下士<br>士官候補生 | | | | | | |
| 兵卒諸生徒 | | | | 一五〇〇 | 〇六〇〇 | 一〇〇〇 |

一　車馬賃ヲ給スルハ傷痍疾病ノ爲步行シ難キ者ニ限ル

二　北海道內ニ在リテハ車馬賃ハ十一月以降三月迄本表定額ノ十錢增トス

## 第四表　赴任手當及移轉料

| 階級 | 區分 | 赴任手當 | 移轉料 百哩未滿 | 移轉料 百哩以上三百哩未滿 | 移轉料 三百哩以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大將 | 高等官親任 | 一五〇圓〇〇〇 | 一八〇圓〇〇〇 | 二四〇圓〇〇〇 | 三〇〇圓〇〇〇 |
| 中將 少將 同相當官 | 同一等 同二等 | 一〇〇 〇〇〇 | 一三五 〇〇〇 | 一八〇 〇〇〇 | 二二〇 〇〇〇 |
| 上長官 | 同三等以下 同五等以上 | 七〇 〇〇〇 | 九〇 〇〇〇 | 一二〇 〇〇〇 | 一五〇 〇〇〇 |
| 大尉同相當官 | 同六等 | 六〇 〇〇〇 | 八五 〇〇〇 | 一一五 〇〇〇 | 一四〇 〇〇〇 |
| 中少尉同相當官 | 同七等以下 | | 八〇 〇〇〇 | 一一〇 〇〇〇 | 一三〇 〇〇〇 |
| 准士官 | 試補 判任官五級俸以上 | 四二 〇〇〇 | 六〇 〇〇〇 | 八〇 〇〇〇 | 一〇〇 〇〇〇 |
| 下士 憲兵上等兵 | 同六級俸以下 雇員月給五十圓以上 | 三五 〇〇〇 | 五五 〇〇〇 | 七五 〇〇〇 | 九〇 〇〇〇 |
| 兵卒 | 雇員月給五十圓未滿 傭人 | 二五 〇〇〇 | 四五 〇〇〇 | 六〇 〇〇〇 | 七〇 〇〇〇 |

一　參謀總長、敎育總監、軍事參議官、東京警備司令官、軍司令官又ハ師團長タル中將ハ大將ノ額ニ依ル

二　陸路一里ハ鐵道八哩、水路一海里ハ鐵道二哩トシテ路程ヲ計算ス

## 第五表　隊伍旅費

| 階級 | 區分 | 旅籠料 朝食料 | 旅籠料 晝食料 | 旅籠料 夕食料 | 旅籠料 宿舍料 | 旅籠料 計 | 途中茶代 | 鐵道賃 | 船賃 | 車馬賃（一里） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 將官 同相當官 | 高等官二等以上 | 〇圓六五〇 | 〇圓五〇〇 | 〇圓六五〇 | 〇圓五〇〇 | 二圓三〇〇 | 〇圓〇五〇 | 甲額 | 甲額 | 〇圓三〇〇 |
| 上長官 士官 | 同三等以下 | 〇 五〇〇 | 〇 四〇〇 | 〇 五〇〇 | 〇 三五〇 | 一 七五〇 | | | | |
| 准士官、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官 | 試補 | | | | | | | 乙額 | 乙額 | |
| 下士兵卒、士官候補生、諸生徒 | 判任官 雇員 傭人 | 〇 三五〇 | 〇 三〇〇 | 〇 三五〇 | 〇 二五〇 | 一 二五〇 | | 丙額 | 丙額 | |

一　滯在中ハ途中茶代ヲ給セス

二　鐵道賃、船賃ハ附表第一、第二ニ依ル

## 第六表　旅行諸手當

| 階級 | 區分 | 滯在手當（一日） | 旅次手當（一日） | 演習手當 | 支度料 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大將 | 高等官親任 | | 三圓五〇〇 | 一二圓〇〇〇 | 六五〇圓〇〇〇 |
| 中將同相當官 | 同一等 | | 三 〇〇〇 | | 四〇〇 〇〇〇 |
| 少將同相當官 | 同二等 | | 二 五〇〇 | | 三五〇 〇〇〇 |
| 大佐同相當官 | 同三等 | 〇 八〇〇 | 一 五〇〇 | 一〇 五〇〇 | 三〇〇 〇〇〇 |
| 中佐同相當官 | 同四等 | | | | 二八〇 〇〇〇 |
| 少佐同相當官 | 同五等 | | 一 二〇〇 | | 二五〇 〇〇〇 |
| 大尉同相當官 | 同六等 | 〇 六〇〇 | 〇 八〇〇 | 七 五〇〇 | 二二〇 〇〇〇 |
| 中尉同相當官 | 同七等 | | 〇 五〇〇 | | 二〇〇 〇〇〇 |
| 少尉同相當官 | 同八等以下 | | | | |
| 准士官、見習士官、見習主計、見習藥劑官、見習醫官、見習獸醫官 | 試補 判任官二級俸以上 | 〇 五〇〇 | 〇 三〇〇 | | 一八〇 〇〇〇 |
| 曹長同相當官 | 同五級俸以上 | 〇 四〇〇 | 〇 二〇〇 | 四 五〇〇 | 一五〇 〇〇〇 |
| 軍曹同相當官 | 同七級俸以上 | | 〇 一〇〇 | | 一三〇 〇〇〇 |
| 伍長同相當官、士官候補生、憲兵上等兵 | 同八級俸以下 雇員月給五十圓以上 | | | | 一〇〇 〇〇〇 |
| 上等兵卒 同級兵卒 | 同月給五十圓未滿 | 〇 三〇〇 | 〇 〇五〇 | 三 〇〇〇 | 七〇 〇〇〇 |
| 兵卒 | 同月給三十圓以下 | | 〇 〇三〇 | | 六〇 〇〇〇 |
| 傭人 | | | | | 四〇 〇〇〇 |

一　參謀總長、敎育總監、軍事參議官、東京警備司令官、軍司令官又ハ師團長タル中將ハ大將ノ額ニ依ル

二　滯在手當ハ召集又ハ派遣期間二箇月以內ノモノニハ本表定額ノ五割增トス

三　演習手當ハ隊伍旅費ヲ受クル日數二週日ヲ超ユルトキハ其ノ超過日數一週日每ニ本表定額ノ三分ノ一ヲ給ス但シ一週日未滿ノ端日數ハ一週日ト看做ス

四　關東州、南滿洲（支那奉天省及吉林省ノ內第二松花江以南ノ地域及琿春、汪淸、延吉、和龍ノ四縣トス）ヲ除ク以外ノ支那ニ旅行スル者ノ支度料ハ本表定額ノ三割增トス

## 第七表　召集旅費

| 階級 | 區分 | 車馬賃（一里） | 鐵道賃（一哩） | 船賃（一海里） | 日當（一日） 甲額 | 日當（一日） 乙額 | 陸路雜費（一里） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 將官 同相當官 | 高等官二等以上 | 〇圓七五〇 | 〇圓〇七五 | 〇圓〇九〇 | 五圓五〇〇 | 一圓〇〇〇 | 〇圓四〇〇 |
| 上長官 | 同三等以下 同五等以上 | 〇 六〇〇 | 〇 〇五〇 | 〇 〇六〇 | 四 〇〇〇 | 〇 八〇〇 | |
| 士官 | 同六等以下 | | | | 二 九〇〇 | 〇 七〇〇 | |
| 准士官 | | | | | 二 三〇〇 | 〇 五〇〇 | |
| 下士以下兵 國民兵 | | 〇 五〇〇 | 〇 〇二五 | 〇 〇三五 | 一 七〇〇 | | 〇 一〇〇 |

一　車馬賃ヲ給スルハ歸郷ノ際傷痍疾病ノ爲歩行シ難キ者ニ限ル

二　日當乙額ヲ給スルハ部隊編入後ノ滯在者ニ限ル

## 第八表　朝鮮臺灣樺太旅費

| 階級 | 區分 | 鐵道賃 | 船賃 | 車馬賃（一里） | 宿泊料（一夜） 甲地方 | 宿泊料（一夜） 乙地方 | 日當（一日） 甲地方 | 日當（一日） 乙地方 | 食卓料（一夜） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大將 | 高等官親任 | 甲額 | 甲額 | 二圓五〇〇 | 二二圓〇〇〇 | 一八圓〇〇〇 | 一三圓〇〇〇 | 一二圓〇〇〇 | 四圓〇〇〇 |
| 中將 少將 同相當官 | 同一等 同二等 | | | 二 〇〇〇 | 一五 〇〇〇 | 一二 〇〇〇 | 九 〇〇〇 | 八 〇〇〇 | 三 五〇〇 |
| 上長官 | 同三等以下 同五等以上 | | | 一 五〇〇 | 一〇 〇〇〇 | 八 〇〇〇 | 七 〇〇〇 | 六 〇〇〇 | 二 五〇〇 |
| 士官 | 同六等以下 | | | | 九 〇〇〇 | 七 〇〇〇 | 六 〇〇〇 | 五 〇〇〇 | |
| 准士官、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官 | 試補 判任官五級俸以上 | 乙額 | 乙額 | 一 二〇〇 | 七 〇〇〇 | 五 五〇〇 | 四 〇〇〇 | 三 〇〇〇 | 二 〇〇〇 |
| 下士、士官候補生、憲兵上等兵 | 同六級俸以下 雇員月給五十圓以上 | | | | 六 〇〇〇 | 四 五〇〇 | 三 五〇〇 | 二 五〇〇 | |
| 下士勤務 諸兵卒 | 雇員月給五十圓未滿 傭人日給二圓以上 | 丙額 | 丙額 | 〇 九〇〇 | 四 五〇〇 | 三 五〇〇 | 二 五〇〇 | 二 〇〇〇 | 一 五〇〇 |
| 兵卒 諸生徒 | 傭人日給二圓未滿 | | | 〇 七〇〇 | 三 五〇〇 | 二 八〇〇 | 二 〇〇〇 | 一 五〇〇 | |

一　參謀總長、敎育總監、軍事參議官、東京警備司令官、軍司令官又ハ師團長タル中將ハ大將ノ額ニ依ル

二　特命檢閱使（隨員共）ノ旅行ニ在リテハ宿泊料及日當ハ本表定價ノ二割增トス

三　鐵道賃ハ附表第一ノ二、船賃ハ附表第二ニ依ル

四　甲地方トハ大正十三年大藏省令第二十九號別表備考ニ依ル甲地方指定地域（該指定地ヲ衞戍地名トスル陸軍部隊所在地ヲ含ム）乙地方トハ其ノ他ノ地域ヲ謂フ

五　一日中甲地方及乙地方ニ亘ル旅行ニ付テハ出發地、用務地又ハ到著地カ甲地方ノ場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額其ノ他ノ場合ニ於テハ乙地方ノ定額ニ依ル

六　前號ニ依ルノ外鐵道旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額宿泊料ハ乙地方ノ定額ニ依リ水路旅行中宿泊スル場合ニ於テハ其ノ日ノ日當ハ甲地方ノ定額ニ依ル

## 第九表　支那旅費

| 階級 | 區分 | 鐵道賃 | 船賃 | 車馬賃（一里） | 宿泊料（一夜） | 日當（一日） | 食卓料（一夜） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大將 | 高等官親任 | 甲額 | 一等定價（通行稅、艀船賃、棧橋賃及寢臺料ヲ又普通運賃ノ外別ニ食費ヲ要スル場合ニ於テハ夕食及朝食ニ對スル所定ノ金ヲ含ム） | 四圓〇〇〇 | 二七圓〇〇〇 | 一八圓〇〇〇 | 六圓〇〇〇 |
| 中將 少將 同相當官 | 同一等 同二等 | | | 三 〇〇〇 | 二〇 〇〇〇 | 一三 〇〇〇 | 五 〇〇〇 |
| 上長官 | 同三等以下 同五等以上 | | | 二 〇〇〇 | 一五 〇〇〇 | 九 〇〇〇 | 四 〇〇〇 |
| 士官 | 同六等以下 | | | | 一四 〇〇〇 | 八 〇〇〇 | |
| 准士官、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官 | 試補 判任官五級俸以上 | 乙額 | 二等定價 同右 | 一 五〇〇 | 一一 〇〇〇 | 六 〇〇〇 | 三 〇〇〇 |
| 下士、士官候補生、憲兵上等兵 | 同六級俸以下 雇員月給五十圓以上 | | | | 一〇 〇〇〇 | 五 〇〇〇 | |
| 下士勤務 諸兵卒 | 同月給五十圓未滿 傭人日給二圓以上 | 丙額 | 三等定價 同右 | 一 二〇〇 | 八 〇〇〇 | 四 〇〇〇 | 二 〇〇〇 |
| 兵卒 | 同日給二圓未滿 | | | 一 〇〇〇 | 六 五〇〇 | 三 〇〇〇 | |

一　參謀總長、敎育總監、軍事參議官、東京警備司令官、軍司令官又ハ師團長タル中將ハ大將ノ額ニ依ル

二　特命檢閱使（隨員共）ノ旅行ニ在リテハ宿泊料及日當ハ本表定額ノ二割增トス

三　鐵道賃ハ附表第一ノ三ニ依ル

## 第十表　測量旅費

| 階級 | 區分 | 作業日當（一日） 班長及檢查係 | 作業日當（一日） 測量係 | 滯在日當（一日） |
|---|---|---|---|---|

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 佐官<br>同相當陸地測量師 | 內地 | 六圓五〇〇 | 圓 | 四圓〇〇〇 |
| | 朝鮮臺灣樺太 | 七五〇〇 | | 五〇〇〇 |
| | 支那 | 八五〇〇 | | 六〇〇〇 |
| 尉官<br>同相當陸地測量師 | 內地 | 五五〇〇 | 五〇〇〇 | 三五〇〇 |
| | 朝鮮臺灣樺太 | 六五〇〇 | 六〇〇〇 | 四五〇〇 |
| | 支那 | 七五〇〇 | 七〇〇〇 | 五五〇〇 |
| 准士官<br>同相當陸地測量手 | 內地 | | 四〇〇〇 | 三〇〇〇 |
| | 朝鮮臺灣樺太 | | 五〇〇〇 | 四〇〇〇 |
| | 支那 | | 六〇〇〇 | 五〇〇〇 |
| 下士<br>同相當陸地測量手<br>雇員月給五十圓以上 | 內地 | | 三五〇〇 | 二五〇〇 |
| | 朝鮮臺灣樺太 | | 四五〇〇 | 三五〇〇 |
| | 支那 | | 五五〇〇 | 四五〇〇 |
| 雇員月給五十圓未滿 | 內地 | | 三〇〇〇 | 二〇〇〇 |
| | 朝鮮臺灣樺太 | | 四〇〇〇 | 三〇〇〇 |
| | 支那 | | 五〇〇〇 | 四〇〇〇 |
| 修技所生徒 | 內地 | | 二五〇〇 | 二〇〇〇 |
| 測夫 | 內地 | | | 一〇〇〇 |
| | 朝鮮臺灣樺太 | | | 一五〇〇 |
| | 支那 | | | 二〇〇〇 |

一　准士官、下士及陸地測量手ニシテ檢査係ヲ代理スル者ニハ其ノ作業間測量係ノ作業日當ニ各五十錢ヲ加ヘタル額ヲ給ス

二　修技所教官ハ檢査係ノ額、同助教ニハ前號檢査係代理ノ額ニ依ル

三　日給雇員ニ在リテハ日給三十日ヲ月額ト看做ス

### 第十一表　馬匹旅費

| 區分／名稱 | 運搬費 鐵道 百五十哩未滿 | 運搬費 鐵道 百五十哩以上 | 運搬費 鐵道 三百哩以上（一哩） | 運搬費 水路（一里） | 運搬費 陸路（一里） | 日當（一日） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 馬匹（一頭） | 〇圓二一〇 | 〇圓一五〇 | 〇圓一二〇 | 〇圓二一〇 | 〇圓一五〇 | 一圓五〇〇 |

一　運搬費ハ鐵道ヲ含ム旅行ニシテ五圓以內ノトキハ總テ五圓ニ切上ケ支給シ、鐵道ヲ含マサル旅行ニシテ一圓以內ノトキハ總テ一圓ニ切上ケ支給ス

二　馬匹二頭以上ヲ鐵道ニ依リ運搬スル場合ハ一頭ハ本表定額ニ依リ其ノ他ハ頭數ニ應シ同半額ヲ給ス

三　鐵道旅行中百五十哩以上二百八哩迄ハ百四十九哩ノ額ニ、三百哩以上三百七十三哩迄ハ二百九十九哩ノ額ニ依ル

四　本旅費實費支辨ノ場合馬丁ノ旅籠料ハ本表日當定額以內トス但シ朝鮮、臺灣、樺太及支那ニ在リテハ第五表相當定額ヲ給スルコトヲ得

五　乘馬ニテ旅行セシムルトキハ運搬費ヲ給セス

### 第十二表　死亡手當

| 階級 | 區分 | 甲額 | 乙額 |
|---|---|---|---|
| 大將 | 高等官親任 | 四、〇〇〇圓〇〇〇 | 三、〇〇〇圓〇〇〇 |
| 中將<br>同相當官 | 同一等 | 二、五〇〇〇〇〇 | 二、〇〇〇〇〇〇 |
| 少將<br>同相當官 | 同二等 | 二、一五〇〇〇〇 | 一、七五〇〇〇〇 |
| 大佐<br>同相當官 | 同三等 | 一、五〇〇〇〇〇 | 一、二〇〇〇〇〇 |
| 中佐<br>同相當官 | 同四等 | 一、四〇〇〇〇〇 | 一、一五〇〇〇〇 |
| 少佐<br>同相當官 | 同五等<br>給料又ハ手當月額三百三十圓以上 | 一、三〇〇〇〇〇 | 一、一〇〇〇〇〇 |
| 大尉<br>同相當官 | 高等官六等<br>給料又ハ手當月額二百七十五圓以上 | 一、一〇〇〇〇〇 | 九〇〇〇〇〇 |
| 中尉<br>同相當官 | 高等官七等<br>給料又ハ手當月額二百三十圓以上 | 一、〇五〇〇〇〇 | 八五〇〇〇〇 |
| 少尉<br>同相當官 | 高等官八等<br>給料又ハ手當月額二百圓以上 | 一、〇〇〇〇〇〇 | 八〇〇〇〇〇 |
| 准士官、見習士官、見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官 | 試補判任官二級俸以上<br>給料又ハ手當月額百五十五圓以上 | 八五〇〇〇〇 | 七〇〇〇〇〇 |
| 曹長<br>同相當官 | 判任官五級俸以上<br>給料又ハ手當月額百十五圓以上 | 七五〇〇〇〇 | 六〇〇〇〇〇 |
| 軍曹<br>同相當官 | 判任官八級俸以上<br>給料又ハ手當月額八十圓以上 | 六五〇〇〇〇 | 五〇〇〇〇〇 |
| 伍長同相當官、士官候補生、憲兵上等兵 | 判任官九級俸以下<br>給料又ハ手當月額六十五圓以上 | 五五〇〇〇〇 | 四〇〇〇〇〇 |
| 上等兵<br>同級兵卒 | 給料月額五十圓以上 | 四七五〇〇〇 | 三五〇〇〇〇 |
| 兵卒<br>諸生徒 | 同　月額五十圓未滿 | 四〇〇〇〇〇 | 三〇〇〇〇〇 |

一　參謀總長、教育總監、軍事參議官、東京警備司令官、軍司令官又ハ師團長タル中將ハ大將ノ額ニ依ル

二　甲額ハ北支那駐箚地在勤者、乙額ハ南滿洲（關東州ヲ含ム）駐箚地在勤者ニ對スル額トス

但シ營內居住ノ下士兵卒及諸生徒ニ在リテハ本表ノ半額トス

三　任所往返中又ハ出張中ノ者ニ對スル死亡手當ハ乙額（營內居住ノ下士兵卒ハ乙額ノ半額）ノ半額トス

四　給料又ハ手當月額トアルハ日給者ニ在リテハ日給三十日分トス

五　囑託員ニシテ手當月額ノ定メナキモノハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ所管長官ノ定ムル所ニ依ル

### 附表第一　內地旅行鐵道賃

| 乘車哩程 | 官線賃率（一哩ニ付）甲額 | 官線賃率 乙額 | 官線賃率 丙額 | 私設線賃率（一哩ニ付）甲額・乙額 | 私設線賃率 丙額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 五十哩以下ノ哩程 | 〇圓〇三八 | 〇圓〇三二 | 〇圓〇二五 | 〇圓〇六五 | 〇圓〇四五 |
| 五十哩ヲ超ユル哩程 | 〇〇三二 | 〇〇二七 | 〇〇二一 | | |
| 百哩ヲ超ユル哩程 | 〇〇二六 | 〇〇二二 | 〇〇一七 | | |
| 二百哩ヲ超ユル哩程 | 〇〇二一 | 〇〇一八 | 〇〇一四 | | |
| 三百哩ヲ超ユル哩程 | 〇〇一八 | 〇〇一五 | 〇〇一二 | | |
| 四百哩ヲ超ユル哩程 | 〇〇一七 | 〇〇一四 | 〇〇一一 | | |
| 五百哩ヲ超ユル哩程 | 〇〇一五 | 〇〇一三 | 〇〇一〇 | | |

一　甲額ヲ給スヘキ者一等車ノ運行セサル官線ヲ旅行スル場合ニハ乙額ヲ、甲額又ハ乙額ヲ給スヘキ者一、二等車ノ運行セサル線路又ハ等級ノ區分ナキ線路ヲ旅行スル場合ニハ丙額ヲ給ス

二　鐵道賃ノ計算ハ左記ニ依リ之ニ所要ノ通行稅（官線ノ甲額ニハ通行稅一等額、同乙額及私設線ノ甲、乙額ニハ通行稅二等額、官線及私設線ノ丙額ニハ通行稅三等額）ヲ加算スルモノトス

(一)官線ハ其ノ線路ノ連續（官線間ニ其ノ聯絡航路又ハ私設線ヲ介スル前後ノ官線ハ連續スルモノト看做ス）スル限リ目的地（公務ノ爲下車スル地ヲ謂フ）ニ至ル哩程ヲ通算シ其ノ乘車哩程ヲ賃率ノ異ナル哩程毎ニ區分シテ各所定ノ賃率ヲ乘シ合算スルモノトス但シ乘車哩程二哩ニ滿タサルモノハ二哩分ノ鐵道賃ヲ給ス

(二)甲額ヲ給スヘキ者一等車ノ運行スル官線ト一等車ノ運行セサル官線ヲ通シテ旅行スル場合ニハ兩線ヲ通シテ計算セル乙額運賃ニ一等車ノ運行スル線路ノ甲乙額運賃ノ差額ヲ加ヘタル額トス甲額又ハ乙額ヲ給スヘキ者一、二等車ノ運行スル官線ト一、二等車ノ運行セサル官線トヲ通シテ旅行スル場合ニ於ケル計算モ之ニ準ス

(三)私設線ハ各線路毎ニ鐵道賃ヲ計算ス

(四)前三號ノ計算ニ於テ哩未滿ノ端數ハ之ヲ一哩ニ切上ケ、算定額ニ厘位ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ切上ク

三　第二十七條ノ家族移轉料ハ官線ニ在リテハ本人カ鐵道省所定ノ普通旅客運賃（甲額ヲ受クル者ハ一等運賃（一等車ノ運行セサル線路ハ二等運賃）、乙額ヲ受クル者ハ二等運賃（二等車ノ運行セサル線路ハ三等運賃）、丙額ヲ受クル者ハ三等運賃以上各通行稅ヲ含ム）ニ相當スル額ヲ受クルモノト看做シ計算ス

四　急行料金ヲ徵スル線路ヲ五十哩以上旅行（直行ノ場合ニ限ル）スル場合ニハ甲額ヲ受クル者ニハ一等普通急行料金、乙額ヲ受クル者ニハ二等普通急行料金、丙額ヲ受クル者ニハ三等普通急行料金ヲ給ス

五　特別急行列車ニ乘車シ又ハ五十哩未滿ノ旅行ニシテ普通急行列車ニ乘車スル必要アル場合ニハ哩程ノ長短ニ不拘所要ノ急行料金ヲ給スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ所屬長官ノ證明ヲ要ス

### 附表第一ノ二　朝鮮、臺灣、樺太旅行鐵道賃

| | 官線賃率（一哩ニ付）甲額 | 官線賃率 乙額 | 官線賃率 丙額 | 私設線 甲額、乙額 | 私設線 丙額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 朝鮮、臺灣 | 〇圓〇三五 | 〇圓〇三二 | 〇圓〇二五 | 特等定價 | 並等定價 |
| 樺太 | 特等定價 | | 並等定價 | | |

一　甲額ヲ給スヘキ者一等車ノ運行セサル官線ヲ旅行スル場合ニハ乙額ヲ、甲額又ハ乙額ヲ給スヘキ者一、二等車ノ運行セサル線路又ハ等級ノ區分ナキ線路ヲ旅行スル場合ニハ丙額ヲ給ス

二　丙額ヲ受クヘキ者ニシテ二等車又ハ上級車ニ、乙額ヲ受クヘキ者ニシテ一等車ニ乘車スル必要アルトキハ各其ノ上級定額ヲ給スルコトヲ得此ノ場合ニハ所屬長官ノ證明ヲ要ス

三　官線（樺太ヲ除ク）鐵道賃ノ計算ニ於テ哩未滿ノ端數ハ一哩ニ切上ケ（乘車哩程二哩ニ滿タサルモノハ二哩分ノ鐵道賃ヲ給ス）算定上五錢ニ滿タサルトキハ之ヲ五錢ニ、五錢ヲ超ユルモ十錢ニ滿タサルトキハ之ヲ十錢ニ切上ク（十五錢又ハ二十錢ニ滿タサルトキハ之ヲ十五錢又ハ二十錢ニ切上ク其ノ他之ニ倣フ）

四　第二十七條ノ家族移轉料ハ官線（樺太ヲ除ク）ニ在リテハ本人カ官線所定ノ普通旅客運賃（甲額ヲ受クル者ハ一等運賃（一等車ノ運行セサル線路ハ二等運賃）、乙額ヲ受クル者ハ二等運賃（二等車ノ運行セサル線路ハ三等運賃）、丙額ヲ受クル者ハ三等運賃）ニ相當スル額ヲ受クルモノト看做シ計算ス

五　急行料金ヲ徵スル線路ヲ五十哩以上旅行（直行ノ場合ニ限ル）スル場合ニハ甲額ヲ受クル者ニハ一等急行料金、乙額ヲ受クル者ニハ二等急行料金、丙額ヲ受クル者ニハ三等急行料金ヲ給ス但シ五十哩未滿ノ旅行ニシテ急行列車ニ乘車スル必要アル場合ニハ哩程ノ長短ニ拘ラス所要ノ急行料金ヲ給スルコトヲ得此ノ場合ニハ所屬長官ノ證明ヲ要ス

### 附表第一ノ三　支那旅行鐵道賃